本書の見かた

本書ではお車の各装置や装備の正しい取り扱いかたと、快適ドライブ情報やお手入れのしかた、万一のときの応急処置などを記載しています。

◎ **お車を安全･快適にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。**
◎ **「警告」「注意」は安全のために特に重要です。よく読んでお守りください。**

- 本書の中で使用しているマークと意味は次のようになっています。

安全のために守っていただきたいこと。	
⚠ 警告	守らないと生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。
⚠ 注意	守らないと傷害につながるおそれがあります。
お車のために守っていただきたいこと。	
アドバイス	守らないと装備品や車両の破損につながるおそれがあります。
お車を使ううえで知っておいていただきたいこと。	
知識	知っておくとお車の性能を十分にお使いいただけるとともに、いろいろな装備を上手に使うことができます。
	安全のためにしてはならない行為。（イラスト内に表示されています）

- コントロールパネルのスイッチは＜＊＊＊＊＞、操作画面に表示されるメニューや項目は［＊＊＊＊］と表示しています。
- 参照して読んでいただきたいページなどを、➔マークで表示しています。
- 日産販売会社で取り付けられた装備（ディーラーオプション）については、その装備に付属の取扱説明書をお読みください。
- 点検･整備、保証については別冊のメンテナンスノートをお読みください。
- 別冊のナビゲーションシステム取扱説明書も合わせてお読みください。
- その他、ご不明な点はカーライフアドバイザー（営業部員）にお申しつけください。

- 交通ルールやマナーを守って運転しましょう。
- 自然環境保護に配慮してください。
- 本書と別冊のメンテナンスノートはお車の中に保管してください。
- お車をゆずられるときは次に所有される方のために、本書をお車に付けておいてください。
- 車両の仕様変更により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

目次

■ 外観フロント.2
■ 外観リヤ.4
■ 車室内.6
■ 運転席まわり.8
■ インストルメントパネル.10

イラスト目次 P.2

■ 電気自動車の特徴.14
■ 安全にご利用いただくために.15
■ 電気自動車と上手に付き合うために.18
■ 便利なサポート機能.20
■ 充電に関する注意事項.22
■ 充電に関する装備.25
■ 充電する.36
■ 便利な充電方法.43
■ 充電で困ったときは.46

電気自動車の機能 P.13

■ 運転する前に.50
■ シートベルト.54
■ エアバッグ.57
■ お子さまの安全のために.63
■ 盗難防止機能.71

安全なドライブのために P.49

■ 計器類.74
■ 警告灯・表示灯.81
■ アドバンスドドライブアシストディスプレイ.87
■ ヘッドアップディスプレイ★.124
■ メーターの明るさの調節.129

メーターの見かた P.73

■ キー.132
■ ドアの施錠と解錠.138
■ シート・ハンドルの調節.150
■ ミラーの調節.157
■ 窓ガラスの開閉.162
■ エアコンの操作.167

各部の操作 P.131

■ 始動する.184
■ 運転する.187
■ ランプをつける、ワイパーを使う.194
■ 運転支援機能.204
■ 駐車支援システム.301

運転のしかた P.183

■ 室内灯.334
■ 収納装備.336
■ その他の室内装備.339

室内装備 P.333

■ まずはじめに.356
■ 緊急時の対処法.361

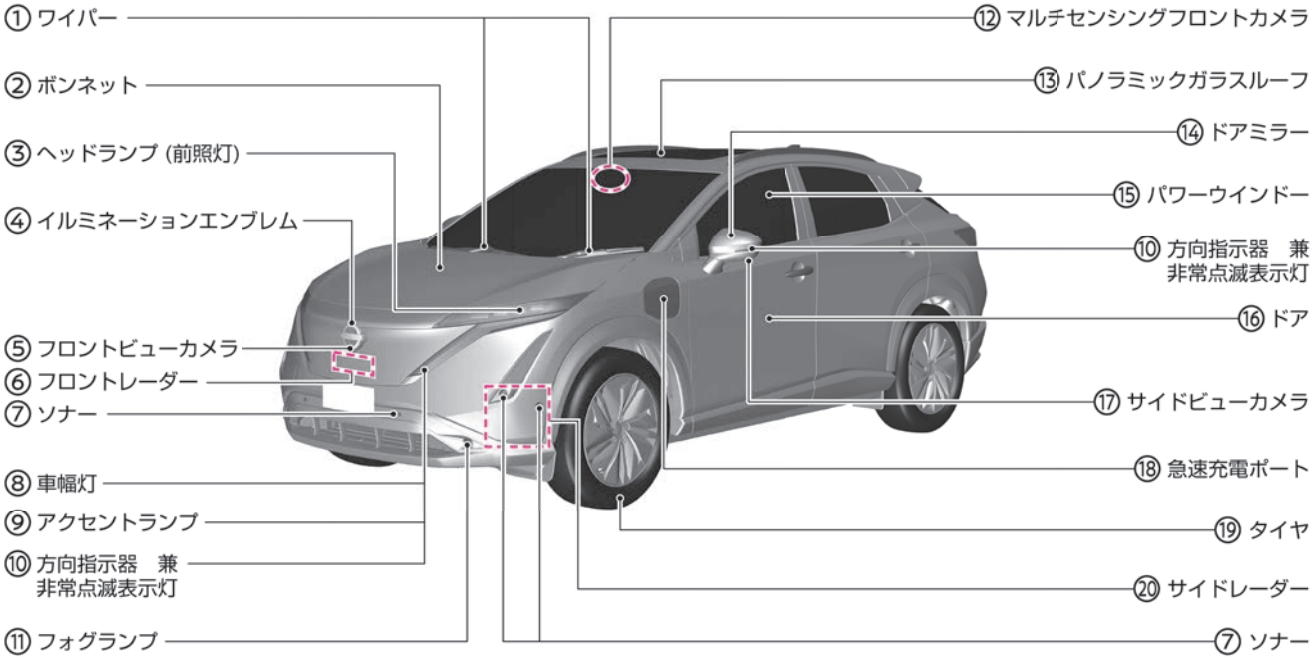
トラブルがおきたときは P.355

■ メンテナンスの前に.420
■ 工具・ジャッキ.421
■ 点検と整備.425
■ 清掃・お手入れ.438
■ サービスデータ.446

メンテナンス P.419

索引 P.451

外観フロント

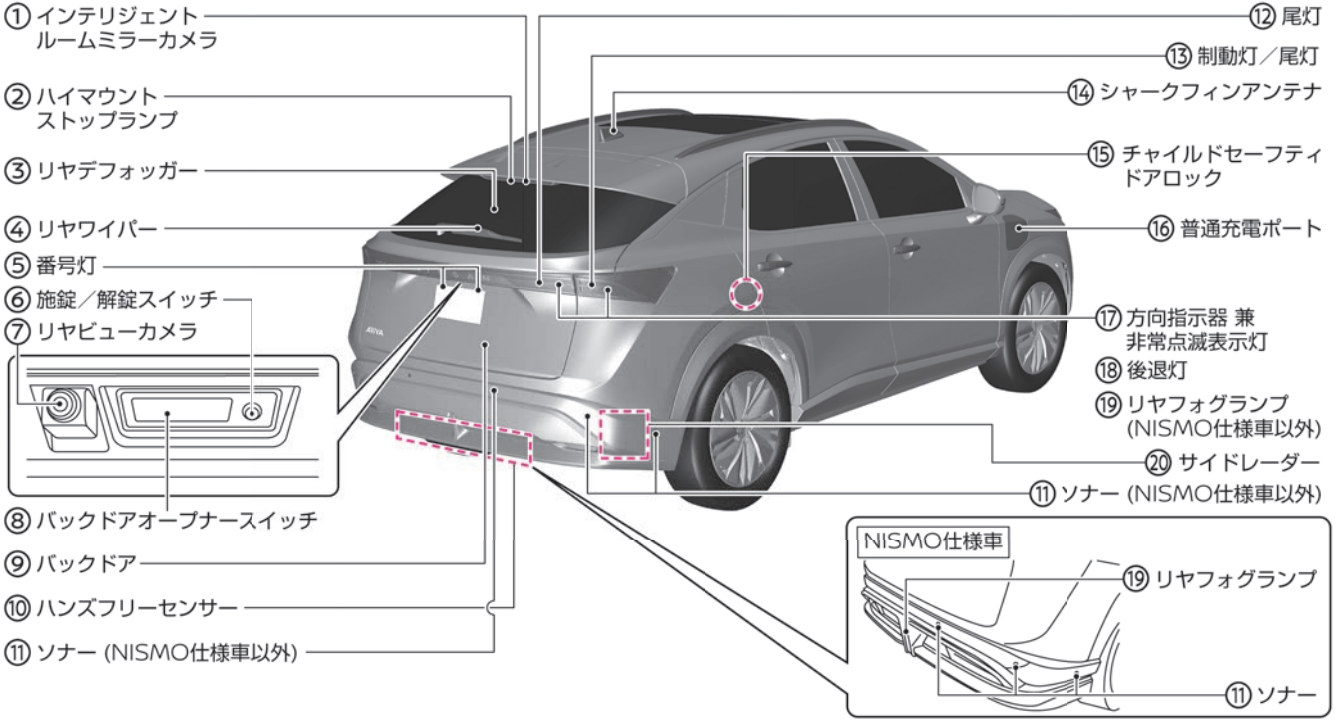

① ワイパー
② ボンネット
③ ヘッドランプ (前照灯)
④ イルミネーションエンブレム
⑤ フロントビューカメラ
⑥ フロントレーダー
⑦ ソナー
⑧ 車幅灯
⑨ アクセントランプ
⑩ 方向指示器　兼
非常点滅表示灯
⑪ フォグランプ
⑫ マルチセンシングフロントカメラ
⑬ パノラミックガラスルーフ
⑭ ドアミラー
⑮ パワーウインドー
⑩ 方向指示器　兼
非常点滅表示灯
⑯ ドア
⑰ サイドビューカメラ
⑱ 急速充電ポート
⑲ タイヤ
⑳ サイドレーダー
⑦ ソナー

外観フロント

① ワイパー（P.200）
② ボンネット（P.425）
③ ヘッドランプ（前照灯）（P.194、P.417、P.449）
④ イルミネーションエンブレム（P.417、P.449）
⑤ フロントビューカメラ（P.443）
⑥ フロントレーダー（P.442）
⑦ ソナー（P.121、P.443）
⑧ 車幅灯（P.194、P.417、P.449）
⑨ アクセントランプ（P.194、P.417、P.449）
⑩ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（P.198、P.417、P.449）
⑪ フォグランプ（P.199、P.417、P.449）
⑫ マルチセンシングフロントカメラ（P.442）
⑬ パノラミックガラスルーフ★（P.164）
⑭ ドアミラー（P.160）
⑮ パワーウインドー（P.162）
⑯ ドア（P.138）
⑰ サイドビューカメラ（P.443）
⑱ 急速充電ポート（P.30）
⑲ タイヤ（P.428）
⑳ サイドレーダー（P.442）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

外観リヤ

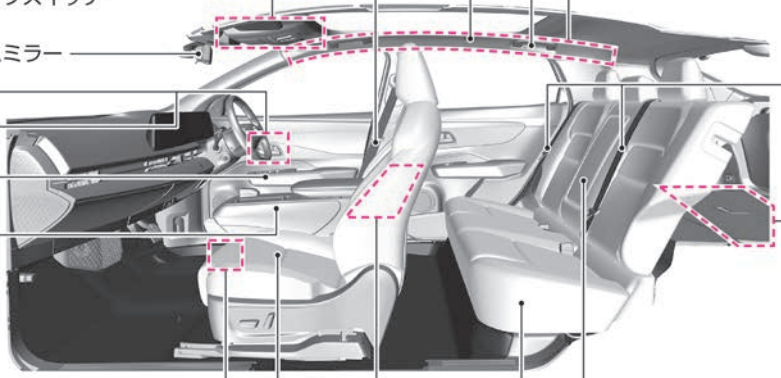

①インテリジェント ルームミラーカメラ
②ハイマウント ストップランプ
③リヤデフォッガー
④リヤワイパー
⑤番号灯
⑥施錠／解錠スイッチ
⑦リヤビューカメラ
⑧バックドアオープナースイッチ
⑨バックドア
⑩ハンズフリーセンサー
⑪ソナー (NISMO仕様車以外)
⑫尾灯
⑬制動灯／尾灯
⑭シャークフィンアンテナ
⑮チャイルドセーフティ ドアロック
⑯普通充電ポート
⑰方向指示器 兼 非常点滅表示灯
⑱後退灯
⑲リヤフォグランプ (NISMO仕様車以外)
⑳サイドレーダー
⑪ソナー (NISMO仕様車以外)
NISMO仕様車
⑲リヤフォグランプ
⑪ソナー

外観リヤ

① インテリジェント ルームミラーカメラ（➔P.445）
② ハイマウントストップランプ（➔P.417、➔P.449）
③ リヤデフォッガー（➔P.415）
④ リヤワイパー（➔P.201）
⑤ 番号灯（➔P.194、➔P.417、➔P.449）
⑥ 施錠／解錠スイッチ（➔P.138）
⑦ リヤビューカメラ（➔P.443）
⑧ バックドアオープナースイッチ（➔P.141）
⑨ バックドア（➔P.141）
⑩ ハンズフリーセンサー（➔P.143）
⑪ ソナー（➔P.121、➔P.443）
⑫ 尾灯（➔P.194、➔P.417、➔P.449）
⑬ 制動灯／尾灯（➔P.194、➔P.417、➔P.449）
⑭ シャークフィンアンテナ（➔P.221、➔P.438）
⑮ チャイルドセーフティドアロック（➔P.140）
⑯ 普通充電ポート（➔P.30）
⑰ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（➔P.198、➔P.417、➔P.449）
⑱ 後退灯（➔P.417、➔P.449）
⑲ リヤフォグランプ★（➔P.199、➔P.417、➔P.449）
⑳ サイドレーダー（➔P.442）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

車室内

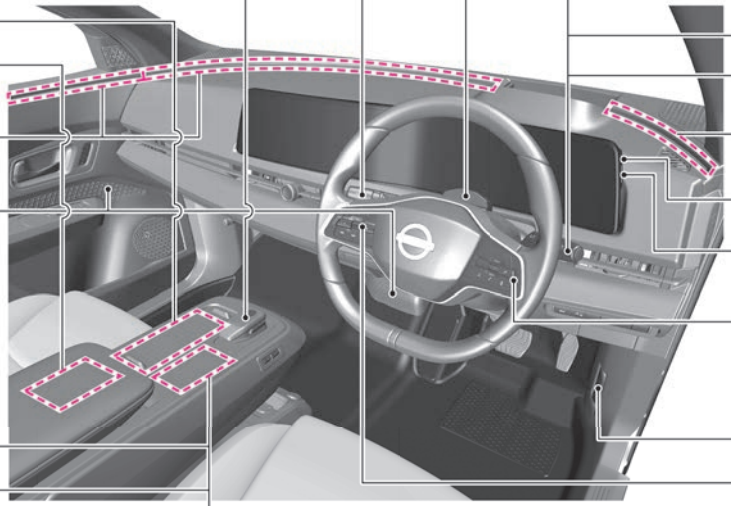


① サンバイザー
② SOSコールスイッチ
③ マップランプ
④ オーバーヘッドコンソール
⑤ パノラミックガラスルーフスイッチ
⑥ インテリジェントルームミラー
⑦ ロックノブ
⑧ ポジションメモリースイッチ
⑨ パワーウインドースイッチ
⑩ 電動センターコンソールボックス
⑪ 電源ソケット
⑫ USB電源ソケット
⑬ 前席シート
⑭ SRSサイドエアバッグ (前席)
⑮ シートベルト
⑯ リヤ読書灯
⑰ アシストグリップ
⑱ SRSカーテンエアバッグ
⑮ シートベルト
⑲ ラゲッジアンダーボックス
⑳ 充電ケーブル(コントロールボックス付)
㉑ ジャッキ
㉒ 工具
㉓ タイヤ応急処理キット
㉔ アームレスト
㉕ カップホルダー
㉖ 後席シート

車室内

① サンバイザー（➔P.349）
② SOSコールスイッチ（➔P.339）
③ マップランプ（➔P.334）
④ オーバーヘッドコンソール（➔P.338）
⑤ パノラミックガラスルーフスイッチ★（➔P.164）
⑥ インテリジェント ルームミラー（➔P.157）
⑦ ロックノブ（➔P.140）
⑧ ポジションメモリースイッチ（➔P.151）
⑨ パワーウインドースイッチ（➔P.162）
⑩ 電動センターコンソールボックス（➔P.336）
⑪ 電源ソケット（➔P.345）
⑫ USB電源ソケット（➔P.346、別冊※）
⑬ 前席シート（➔P.150）
⑭ SRSサイドエアバッグ（前席）（➔P.61）
⑮ シートベルト（➔P.54）
⑯ リヤ読書灯（➔P.334）
⑰ アシストグリップ（➔P.350）
⑱ SRSカーテンエアバッグ（➔P.62）
⑲ ラゲッジアンダーボックス（➔P.350）
⑳ 充電ケーブル（コントロールボックス付）★（➔P.26）
㉑ ジャッキ★（➔P.421）
㉒ 工具★（➔P.421）
㉓ タイヤ応急修理キット（➔P.361）
㉔ アームレスト（➔P.155）
㉕ カップホルダー（➔P.337）
㉖ 後席シート（➔P.153）
※ ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

運転席まわり



① ワイパー・ウォッシャースイッチ
② セレクトレバー
③ カップホルダー
④ ワイヤレス充電器
⑤ アドバンスド アンビエントライティング
⑥ 行燈照明
⑦ ドライブモードセレクター
⑧ プロパイロット パーキングスイッチ
⑨ e-Pedalスイッチ
⑩ ドライバーモニターカメラ
⑪ ライトスイッチ
⑫ 方向指示器スイッチ
⑬ フォグランプスイッチ
⑭ リヤフォグランプスイッチ
⑤ アドバンスド アンビエントライティング
⑮ ODO TRIPスイッチ
⑯ イルミネーションコントロールスイッチ
⑰ ステアリングスイッチ (右)
－プロパイロット
－ハンズフリーフォン
－音声操作
⑱ ボンネットオープナー
⑲ ステアリングスイッチ (左)
－アドバンスドドライブアシストディスプレイ
－オーディオ
－ボイスアシスタント

運転席まわり

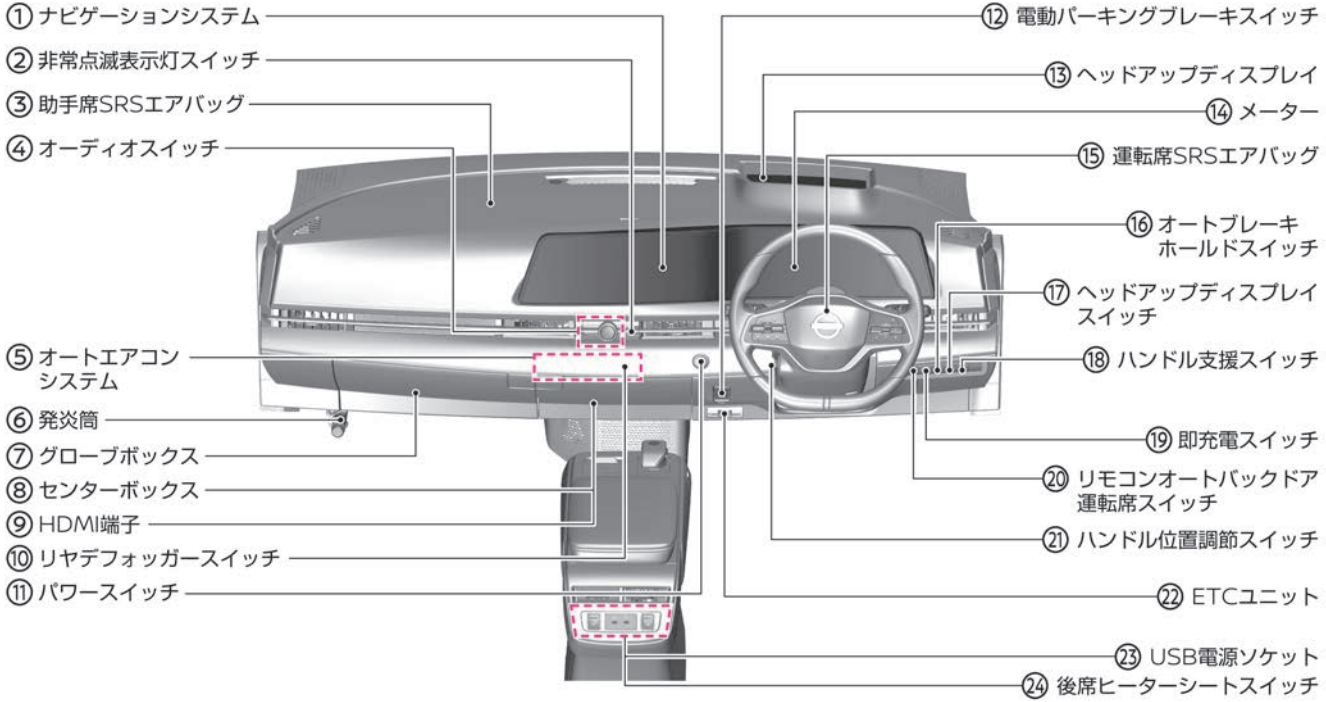
① ワイパー・ウォッシャースイッチ（P.200）
② セレクトレバー（P.187）
③ カップホルダー（P.337）
④ ワイヤレス充電器（P.347）
⑤ アドバンスド アンビエント ライティング★（P.335）
⑥ 行燈照明（P.335）
⑦ ドライブモードセレクター（P.205）
⑧ プロパイロット パーキングスイッチ（P.313）
⑨ e-Pedalスイッチ（P.204）
⑩ ドライバーモニターカメラ★（P.299）
⑪ ライトスイッチ（P.194）
⑫ 方向指示器スイッチ（P.198）
⑬ フォグランプスイッチ（P.199）
⑭ リヤフォグランプスイッチ★（P.199）
⑮ ODO TRIPスイッチ（P.76）
⑯ イルミネーションコントロールスイッチ（P.129）
⑰ ステアリングスイッチ（右）
- プロパイロット（P.217）
- ハンズフリーフォン（別冊※）
- 音声操作（別冊※）

⑱ ボンネットオープナー（P.425）
⑲ ステアリングスイッチ（左）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイ（P.87）
- オーディオ（別冊※）
- ボイスアシスタント（別冊※）

※ ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

インストルメントパネル



インストルメントパネル

① ナビゲーションシステム（別冊※）
② 非常点滅表示灯スイッチ
③ 助手席SRSエアバッグ（➔P.59）
④ オーディオスイッチ（別冊※）
⑤ オートエアコンシステム（➔P.167）
⑥ 発炎筒（➔P.357）
⑦ グローブボックス（➔P.336）
⑧ センターボックス（➔P.336）
⑨ HDMI端子（別冊※）
⑩ リヤデフォッガースイッチ（➔P.415）
⑪ パワースイッチ（➔P.184）
⑫ 電動パーキングブレーキスイッチ（➔P.188）
⑬ ヘッドアップディスプレイ★（➔P.124）
⑭ メーター（➔P.74）
⑮ 運転席SRSエアバッグ（➔P.59）
⑯ オートブレーキホールドスイッチ（➔P.189）
⑰ ヘッドアップディスプレイスイッチ★（➔P.127）
⑱ ハンドル支援スイッチ（➔P.224）
⑲ 即充電スイッチ（➔P.30）
⑳ リモコンオートバックドア運転席スイッチ（➔P.142）
㉑ ハンドル位置調節スイッチ（➔P.156）
㉒ ETCユニット（別冊※）
㉓ USB電源ソケット（➔P.346）
㉔ 後席ヒーターシートスイッチ（➔P.344）
※ ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

MEMO

電気自動車の機能

電気自動車の特徴

電気自動車（EV）ってどんな車？ P.14

安全にご利用いただくために

高電圧部品について P.15
電気自動車（EV）の取り扱いに関する注意事項 P.16
電気自動車（EV）が事故にあったときの注意事項 P.16

電気自動車と上手に付き合うために

航続距離を延ばすためのポイント P.18
バッテリーを長持ちさせるためのポイント P.18

便利なサポート機能

タイマー機能 P.20
スマートフォンで利用できる機能 P.20

充電に関する注意事項

充電に関する注意事項 P.22

充電に関する装備

充電装備と名称 P.25
充電ケーブル（コントロールボックス付）★ P.26
即充電スイッチ P.30
充電ポート P.30
充電コネクタロック P.32
充電インジケーター P.33
リチウムイオンバッテリー温調システム P.35

充電する

充電の種類 P.36
3kW普通充電のしかた P.39
急速充電のしかた P.41

便利な充電方法

タイマー充電のしかた P.43

充電で困ったときは

充電ができないときの対処方法 P.46

電気自動車（EV）ってどんな車？

リチウムイオンバッテリーに蓄えられた電力を使用して、走行用モーターにより走行する自動車です。エンジン音の代わりに走行可能表示灯［READY］の点灯・消灯で、EVシステムの始動・停止を確認します。

リチウムイオンバッテリー

電気自動車（EV）はガソリンを使用せず、リチウムイオンバッテリーに蓄えられた電力で走行します。

そのため、給油する代わりにリチウムイオンバッテリーを充電する必要があります。

- リチウムイオンバッテリーは、使用を繰り返すと徐々に容量（蓄電能力）が低下します。これはバッテリー本来の特性であり、家電製品と同様に異常ではありません。
- 気圧の急激な変化により、リチウムイオンバッテリーから音がする場合がありますが、異常ではありません。
- 急加速などで早く電力を消費すると、リチウムイオンバッテリーに負担がかかるため、緩やかに加速し、航続距離を延ばすような運転を心がけてください。

➔航続距離を延ばすためのポイント (P.18)

走行用モーター

リチウムイオンバッテリーに蓄えられた電力を使用して、エンジンの代わりにタイヤへ動力を伝えます。

回生ブレーキ

ガソリン車のエンジンブレーキの代わりにモーターを使って減速することを回生ブレーキと呼びます。減速するときに発電するため、発電した電力でリチウムイオンバッテリーを充電することができ、航続距離を延ばすことができます。

- 次の場合は回生ブレーキが作動せず、通常のブレーキのみで制動力を発生させます。
  - EVシステムまたはブレーキシステムに異常があるとき
  - ABSまたはVDCが作動しているとき
  - リチウムイオンバッテリーが満充電のとき
- 回生ブレーキは、リチウムイオンバッテリーが低温時や、滑りやすい路面ではブレーキの効きが弱くなることがあります。また、指定サイズ以外のタイヤを使用しているときやタイヤの状態によっては、回生ブレーキが正常に作動しなくなることがあります。
- 回生ブレーキが作動しているときは、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生したりすることがありますが、異常ではありません。

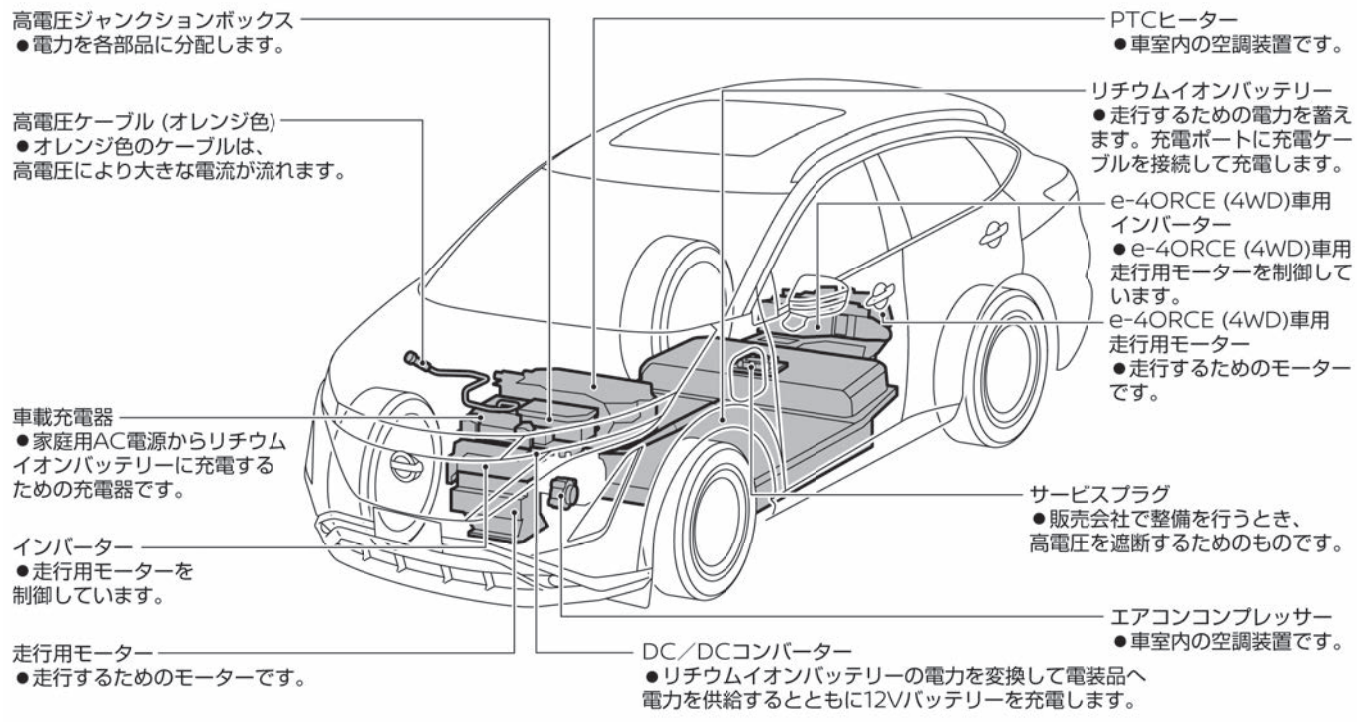
車両接近通報装置

走行時の音がとても静かで通行人が車両の接近に気づきにくいため、警報装置が付いています。交差点などの徐行中に警報音が鳴り、通行人に車両の接近を知らせます。

➔車両接近通報装置 (P.210)

高電圧部品について

電気自動車（EV）には高電圧部品が使われています。高電圧部品は高い電圧を使用しているため、分解や取り外しは絶対にしないでください。また、充電や走行した直後などに高温になることがあるため、手を触れないようにしてください。主な高電圧部品は次のとおりです。



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

電気自動車（EV）の取り扱いに関する注意事項

電気自動車（EV）を適切に取り扱うため、次のことを必ずお守りください。

⚠ 警告

- **高電圧部位には触れない。**

  最大で約400Vの直流高電圧が使用されているため、高電圧ケーブルやコネクター、高電圧部品（走行用モーターやリチウムイオンバッテリーなど）には触れないでください。感電すると生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。車両のモータールーム内に貼られているラベルの記載事項に必ず従ってください。

- **高温に注意する。**

  走行直後は走行用モーター、インバーターなど高電圧部品が高温になっている可能性があります。車両のモータールーム内に貼られているラベルの記載事項に必ず従ってください。

アドバイス

- リチウムイオンバッテリーの損傷を防止するため、次のことをお守りください。
  - ― 外気温が49℃以上の場所に24時間以上放置しない
  - ― 外気温が－25℃未満の場所に7日間以上放置しない
  - ― リチウムイオンバッテリー残量が0（ゼロ）か、ほぼ0（ゼロ）の状態で14日間以上放置しない

  ➔リチウムイオンバッテリー残量計（P.77）

- 車両を長期間使用しないときは、3か月に1回リチウムイオンバッテリーを満充電にしてください。放置するとリチウムイオンバッテリーを損傷するおそれがあります。
- リチウムイオンバッテリーは、不適切な方法で処分すると環境汚染につながります。廃車やリチウムイオンバッテリーの処分については、日産販売会社にご相談ください。

電気自動車（EV）が事故にあったときの注意事項

事故が発生したときは、次のことを必ずお守りください。

⚠ 警告

- **高電圧部品および高電圧ケーブルが露出しているときは絶対に触れない。**

  高電圧部品および高電圧ケーブルの位置は、（➔P.15）を確認してください。

- **リチウムイオンバッテリーから液漏れが見られる場合は、すみやかに日産販売会社に連絡する。**

  火災が発生するおそれがあります。

- **車室内や車外に液体が漏れているときは絶対に触れない。**

  万一、リチウムイオンバッテリーから漏れた液体が皮膚や衣服に付着したときは、水道水などのきれいな水で洗い流し、すみやかに医師の診察を受けてください。

- **走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、安全な場所に停車し、損傷が無いか点検する。**

  床下に損傷が見られる場合は、絶対に触れずすみやかに日産販売会社にご連絡ください。

- **リチウムイオンバッテリーや高電圧部品から火災が発生したときは、できるだけ早く車両から離れる。**

  火災を消火するときは、必ず電気火災用の消火器（ABC、BCまたはCタイプ）を使用してください。消火栓などから大量の放水が可能な場合のみ、水での消火も可能です。不適切な消火作業は危険なため、絶対に行わないでください。

- **けん引が必要なときは、2WD車は前輪または4輪を、e-4ORCE（4WD）車は4輪を持ち上げてけん引する。**

  けん引時に前輪（2WD車）または4輪（e-4ORCE（4WD）車）が接地していると、走行用モーターが損傷するおそれがあります。

  ➔けん引について（P.357）

⚠ 警告

- 事故などで車両が損傷した場合は、車両から離れ日産販売会社に連絡する。
- 事故などで車両が損傷し、板金・塗装による修理が必要な場合は、必ず日産販売会社に連絡する。

航続距離を延ばすためのポイント

航続距離は運転のしかた、道路状況、天候や気温、乗員数などに大きく左右されます。
次のようなことに気をつけると、1回の充電でより長い距離を走ることができます。

お出かけ前に

■ お出かけ前にエアコンを作動させ、車室内を快適な温度にする。

- 走行を始めてからのエアコンの消費電力を抑えられます。
- お出かけ前にエアコンを作動させるには、タイマーエアコン（➔P.179）または乗る前エアコン★を使います。
  - ― 乗る前エアコンの詳しい操作方法については、"https://www3.nissan.co.jp/connect/service_ariya.html" をご覧ください。

■ 消費電力が少ないルートを選択する。

- 上り坂の走行は航続距離に大きく影響するため、上り坂の少ないルートを選択すると電力を抑えられます。
  - ― ナビゲーションシステムで消費電力が少ないルートを検索することができます。詳しくはナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

■ 不要な荷物は積んだままにしない。

- 荷物を減らし、車両重量を軽くすることで、消費する電力を抑えられます。

■ 適切なタイヤ空気圧にする。

- タイヤ空気圧が低下していると、より電力が消費されます。
  ➔タイヤの点検項目 (P.428)

運転するときは

■ なめらかに発進、加速する。

- 急発進、急加速をすると、より電力を消費します。
- パワーメーター（➔P.76）で消費している電力を確認しながら加速することで、消費電力を抑えた加速ができます。

■ 車間距離に余裕を持ち、急ブレーキを極力避ける。

- 緩やかに減速すると、減速時に回生ブレーキによって発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ 高速道路などでスピードを出しすぎない。

- スピードの出しすぎは、電力を無駄に消費します。

■ エアコンの設定温度を控えめにし、必要がなければこまめにOFFにする。

- エアコンによる余分な電力の消費を抑えられます。

■ 寒いときは、エアコンの代わりにヒーターシートやステアリングヒーターを使用する。

➔ヒーターシート (P.343)
➔ステアリングヒーター (P.342)

- ヒーターシートやステアリングヒーターは、エアコンに比べ消費電力が少ないため、使用する電力を抑えられます。

■ ECOモードで走行する。

➔ドライブモードセレクター (P.205)

- ECOモードを使うと、走行用モーターに供給する電力を抑えられます。

バッテリーを長持ちさせるためのポイント

リチウムイオンバッテリーは使用していくうちに、徐々に容量（蓄電能力）が低下します。
次のようなことに気をつけるとリチウムイオンバッテリーを長持ちさせることができます。

充電するときは

■ リチウムイオンバッテリーを長持ちさせるため、充電するときは次のことに気をつける。

- 必要以上の頻繁な充電を避けることで、リチウムイオンバッテリーを長持ちさせることができます。
- できるだけ急速充電を控え、普通充電またはV2H充電で充電してください。急速充電に比べて、普通充電またはV2H充電で充電した方がリチウムイオンバッテリーへの負担が少ないため、リチウム

イオンバッテリーを長持ちさせることができます。

充電の種類 (P.36)

駐車するときは

■ リチウムイオンバッテリーを長持ちさせるため、車両を保管するときは次のことに気をつける。

- 外気温が極端に高いまたは低い場所で車両を保管しないでください。温度変化により容量（蓄電能力）の低下が早まります。真夏は炎天下ではなく、なるべく日陰に駐車することでリチウムイオンバッテリーを長持ちさせることができます。
- リチウムイオンバッテリーの残量が極端に低いまま放置しないでください。車両を長期間使用しないときは、3か月に1回程度は満充電にしてください。自然放電により充電量が徐々に低下するため、定期的な充電が必要です。

タイマー機能

充電やエアコンの作動をタイマー設定することができます。

知識

- NissanConnectサービスに加入すると、スマートフォンアプリからもタイマー設定することができます。

タイマー充電



充電の開始時刻および停止時刻をあらかじめ設定することができます。

お客さまの契約している電気料金プランに合わせてタイマー充電を行うことで、電気料金の安い時間帯に充電することができます。

タイマー充電のしかた (P.43)

タイマーエアコン



お出かけ前に冷房または暖房を作動させることができます。

お出かけ前に車室内を快適な温度にしておくことで、走行を始めてからのエアコンの消費電力を抑えることができます。

タイマーエアコンの設定のしかた (P.179)

スマートフォンで利用できる機能

車両から離れていてもリチウムイオンバッテリー残量などを確認することができます。また、充電やエアコンの操作もできます。

詳しい操作方法については、"https://www3.nissan.co.jp/connect.html" をご覧ください。

リチウムイオンバッテリー残量・充電状況の確認★

■ リチウムイオンバッテリー状態チェック



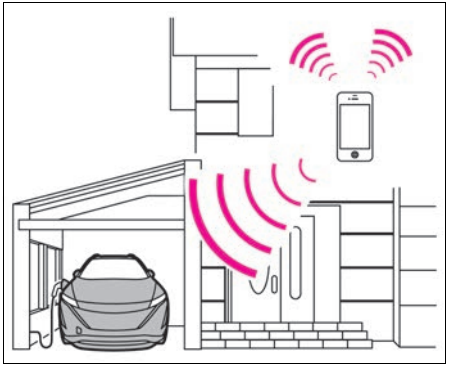
- スマートフォンからリチウムイオンバッテリーの残量などを確認することができます。

■ プラグ挿し忘れ通知

- 自宅など充電する場所を登録しておくと、登録した場所で充電ケーブルを接続し忘れたときや、充電ケーブルが根元まで確実に差し込まれていないときに通知する機能です。
  設定方法については、ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

充電・エアコンの操作★

■ リモート充電



●タイマー充電の開始時刻前であっても、離れた場所からスマートフォンを使用して、すぐに充電を開始することができます。

■ 乗る前エアコン

●離れた場所からスマートフォンを使用して、出発前にエアコンを作動させることができます。

■ リモートタイマー充電

●離れた場所からスマートフォンを使用して、タイマー充電を設定することができます。

充電に関する注意事項

充電するときは、火災や感電事故などを防ぐため、次のことを必ずお守りください。

⚠ 警告

- **植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器（ICD）などの医療電気機器を使用している方は、機器におよぼす影響について医療電気機器製造業者に確認してから充電作業を行う。**（➲心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項(P.52)）
- **異臭、煙、異音など充電中の異常、故障に気づいたときは使用を中止する。**

  火災、感電、ケガ、やけどのおそれがあります。
- **雷が鳴ったら、車両、6kW普通充電器（壁掛型）、急速充電器、充電ケーブル（コントロールボックス付）★に触れない。**

  落雷により感電するおそれがあります。
- **濡れた手でプラグを触ったり、抜き差ししたりしない。**

  感電のおそれがあります。
- **延長ケーブルや変換アダプターなどは絶対に使用しない。**

  火災ややけどのおそれがあります。
- **雨や雪の日での充電は次のことを必ず守る。**

  火災、感電、ケガ、やけどのおそれがあります。

  — 大雨などでコンセント周辺が浸水するおそれがあるときは、充電専用のブレーカーを落としてください

  — 万が一、充電ポートキャップ裏や内部が濡れた場合はふき取ってから充電を行ってください
- **6kW普通充電器（壁掛型）、または充電ケーブル（コントロールボックス付）★の分解、修理、改造は絶対に行わない。**

  火災や感電などの重大な傷害につながるおそれがあります。
- **コードやケーブルを引っぱる、ねじる、折り曲げる、踏みつける、引きずるなどの行為をしない。**

  コードやケーブルの断線によって異常発熱し、発火するおそれがあります。
- **コードやケーブルを充電コネクタやコントロールボックスなどに巻きつける行為をしない。**

  コードやケーブルの断線によって異常発熱し、発火するおそれがあります。
- **プラグの本体部分を持ってコンセントに対してまっすぐに根元まで確実に差す。**

  確実に差さないと異常発熱し、発火するおそれがあります。
- **コードを引っ張ってプラグを抜かない。**

  コードやケーブルの断線によって異常発熱し、発火するおそれがあります。
- **深い傷、割れ、破損、プラグが錆びているときなどの異常、故障時には使用しない。**

  火災や感電のおそれがあります。
- **プラグやコードを動かすと通電しなかったり、充電中に時々停止したりするときはただちに使用を中止する。**

  コードやケーブルの断線によって異常発熱し、発火するおそれがあります。
- **異臭、煙、異音など充電中の異常、故障に気づいたときはただちに使用を中止する。**

  コードやケーブルの断線によって異常発熱し、発火するおそれがあります。
- **電気工事の資格を持つ専門の業者が施工したEV専用コンセントを使用する。**

  正しく使用しないと感電のおそれがあります。
- **内線規程に準拠したアースがつながっているEV専用コンセントを使用する。**

  正しく使用しないと感電のおそれがあります。

充電に関する注意事項

⚠ 警告

- **コンセントの差し込みがゆるいとき、プラグがコンセントにロックされないとき、またはコンセント側に破損や変色などがある場合は使用しない。**

  異常発熱し、発火するおそれがあるため、電気工事の資格を持つ専門の業者へ、コンセントの確認を依頼してください。

- **充電ケーブル（コントロールボックス付）★の定格電圧/電流（充電ケーブルのラベルに記載）に対して建屋側のコンセントや配線の容量が十分であるか確認する。**

  建屋側の容量を超えて使用すると、配線が異常発熱し、発火するおそれがあります。

- **建屋配線の容量が不明な場合、電気工事士に確認する。**
- **充電ケーブル（コントロールボックス付）★は日本国内でのみ使用する。**

⚠ 注意

- **子供だけで使わせない。**

  重大な事故につながるおそれがあります。

- **充電中は、ボンネットを開けない。**

  モータールーム内の冷却用ファンが突然回転し始め、手足や衣類・アクセサリー類などが接触したり、巻き込まれたりするおそれがあります。

- **充電するときは、充電コネクタが根元まで差されていることを必ず確認する。**

  充電コネクタが根元まで差されていないと、車両が充電コネクタを認識できずEVシステムを始動できてしまうため、車両が発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **充電ケーブル（コントロールボックス付）★を落下させない、強い衝撃を与えない、または水没させない。**

  火災や感電などの重大な傷害につながるおそれがあります。

- **プラグや充電コネクタへ異物を挿入したり、定格以外のコンセントに接続したりしない。**

  火災や感電などの重大な傷害につながるおそれがあります。

- **充電ケーブル（コントロールボックス付）★を保管するときは次のことに気をつける。**
  - ― 直射日光を避けて保管してください
  - ― 雨風にさらされないように保管してください
  - ― 充電コネクタの端子部にゴミ、ホコリが入らないようキャップをして保管してください
  - ― コードやケーブルをコントロールボックスに巻き付けて保管しないでください
  - ― コードやケーブルがねじれたままで保管しないでください

アドバイス

- リチウムイオンバッテリーを充電しながら、12Vバッテリーにブースターケーブルを接続しないでください。車両または充電機器が破損するおそれがあります。
- 車両にボディーカバーを掛けたまま充電しないでください。
- 発電機を使用した充電は絶対にしないでください。
- 充電ポートが凍結したときは、ドライヤーなどで解凍してから充電コネクタの接続または取り外しを行ってください。
- 充電終了後は、充電ポートのキャップを必ず閉めてください。キャップを閉めずに充電ポートリッドを閉めると、充電ポートに水やゴミが入り故障の原因となります。

- 急速充電と普通充電のコネクタを同時に接続すると、充電できません。
- 充電コネクタ接続中はEVシステムを始動できません。
- 充電中は、電磁波によりラジオが聞こえにくくなることがあります。
- 充電にかかる時間は、次の状態によって異なります。

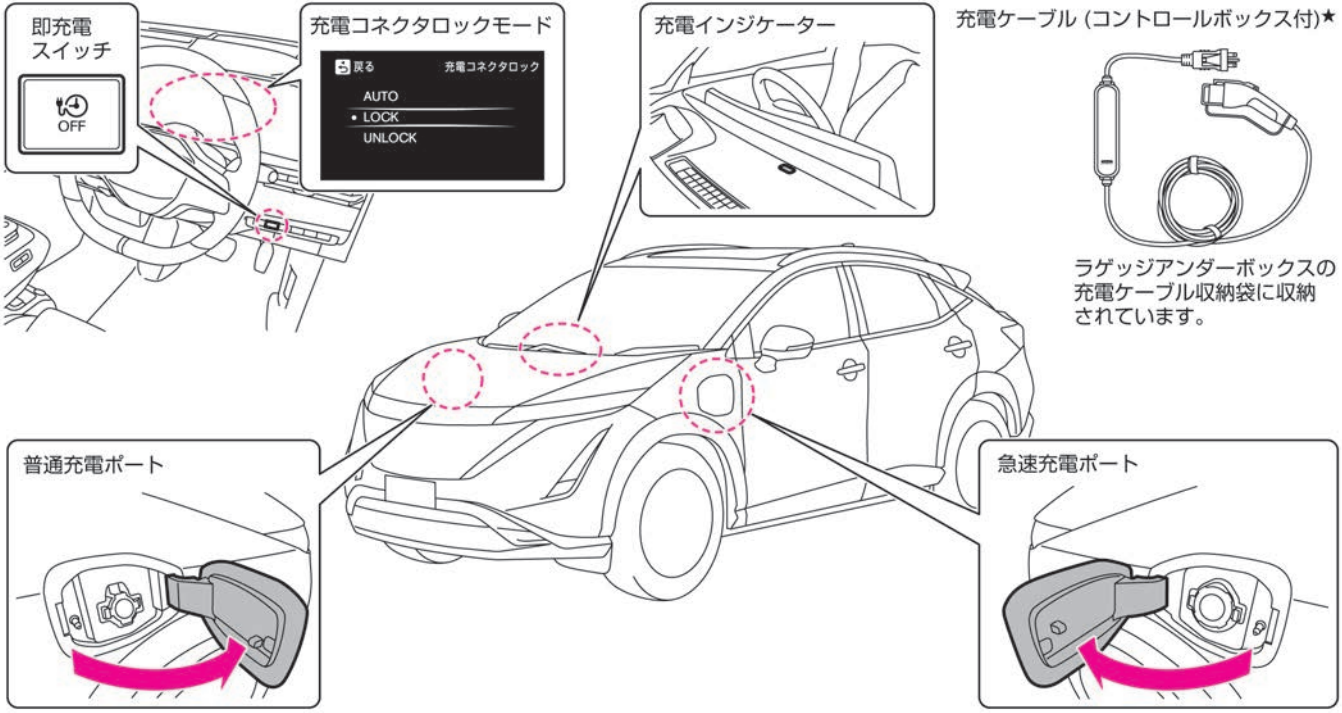
充電に関する注意事項

- ― 充電を開始したときのリチウムイオンバッテリーの残量
- ― リチウムイオンバッテリーの温度
- ― 使用する充電機器の種類または接続する電源
- ― リチウムイオンバッテリーの使用年数
- ― エアコンなど電力を消費するものの使用状況
- ― リチウムイオンバッテリー温調システムの作動状態

●充電時に冷却水ポンプおよび冷却ファンが作動することがありますが、異常ではありません。

充電装備と名称

この車両はガソリンスタンドで給油する代わりに、自宅などで各種充電器や充電ケーブルと充電ポートを使って充電します。
充電インジケーターで、充電量を確認する事ができます。それぞれの機能の説明は、次ページ以降をお読みください。



※充電ケーブル（コントロールボックス付）★の形状は車種により異なります。

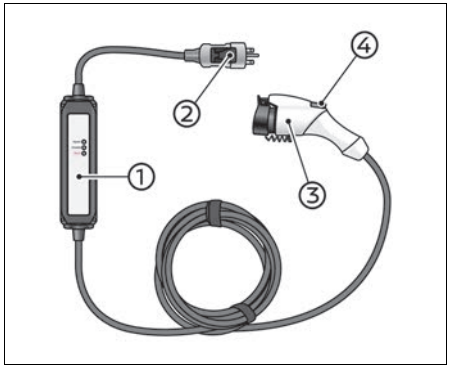
充電ケーブル（コントロールボックス付）★

ラゲッジアンダーボックスに収納できます。

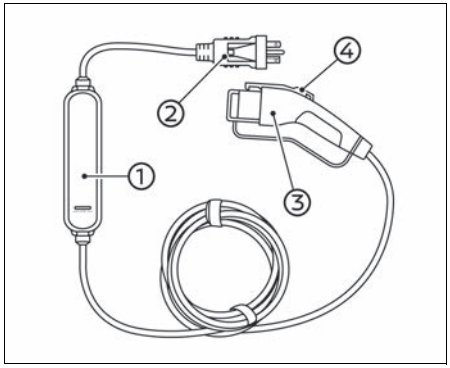
充電ケーブル（コントロールボックス付）の各部の名称

車種により、充電ケーブル（コントロールボックス付）は2タイプあります。

タイプⒶ



タイプⒷ



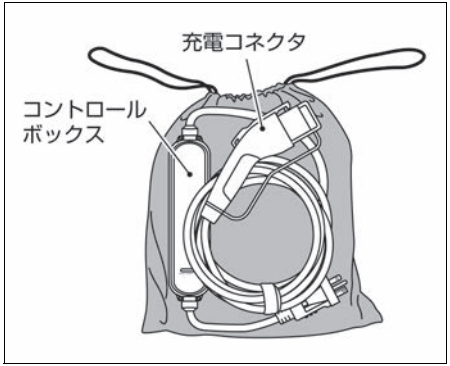
① **コントロールボックス**
表示灯で充電の状態などを知らせます。

② **プラグ**
AC200Vの電源に接続します。

③ **充電コネクタ**
車両の普通充電ポートに接続します。

④ **リリーススイッチ**
車両から充電コネクタを抜くときに押します。

充電ケーブル収納袋への収納のしかた

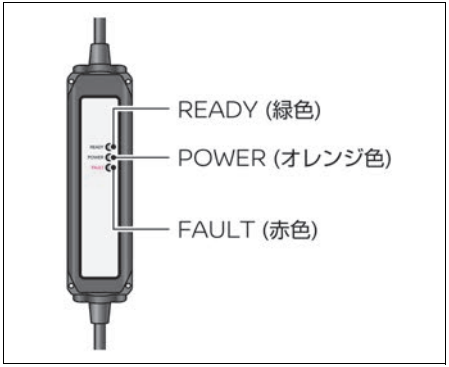


※車種により、充電ケーブル（コントロールボックス付）は2タイプあります。

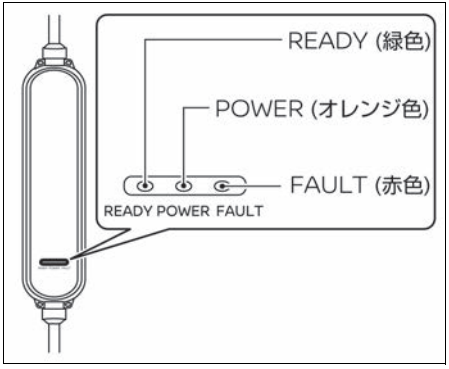
- 充電ケーブル（コントロールボックス付）を袋に収納するときは、コントロールボックスの表示部を上面にして、コントロールボックスに対して時計周りにケーブルを巻いて収納袋に収納します。時計周りに収納することで、充電ケーブルを長持ちさせることができます。

コントロールボックスの表示灯について

タイプⒶ



タイプⒷ



充電ケーブルのコントロールボックスには、充電の状態などを知らせる表示灯があります。

- 正常なときは、プラグを電源に接続すると、緑色のランプ（READY）が点灯します。（接続直後は一度すべてのランプが点灯し、すぐに消灯します。）
- 充電中は、緑色のランプ（READY）と同時にオレンジ色のランプ（POWER）が点灯します。
- 次のようなときは、すみやかに充電ケーブルの使用を中止し、日産販売会社にご連絡ください。
  - プラグを電源に接続しても、コントロールボックスの表示灯が3つとも点灯しない
  - いずれかの表示灯が点滅している
  - 赤色のランプ（FAULT）が点灯している

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

充電に関する装備

タイプⒶ

表示灯の点灯パターン			説明・対処方法
READY (緑色)	POWER (オレンジ色)	FAULT (赤色)	
●	○	◎	充電ケーブルのプラグをコンセントに接続したときに、毎回0.5秒間すべての表示灯が点灯します。
●	● (消灯)	● (消灯)	充電ケーブルが車両に未接続で、コンセントに接続されている状態です。 または、車両に接続されており、普通充電が完了・タイマー充電がセットされている状態です。
✸ (点滅)	● (消灯)	● (消灯)	充電ケーブルまたはコンセントが故障し、アースが取れていないことを示します。 お使いのコンセントの施工業者に連絡し、点検を受けてください。
●	○	● (消灯)	車両に電力が供給されていることを示します。 (充電中、タイマーエアコン作動中など)
●	● (消灯)	☼ (点滅)	漏電、または信号線に異常が発生していることを表しています。 ただちに使用を中止し、日産販売会社へご連絡ください。
●	☼ (点滅) または ● (消灯)	◎	充電ケーブルが故障しています。 すみやかに使用を中止し、日産販売会社にご連絡ください。
✸ (点滅)	☼ (点滅) または ● (消灯)	◎	プラグの温度検知ができなくなっていることを示します。安全のため充電電流を制限しています。 すみやかに使用を中止し、日産販売会社にご連絡ください。
✸ (点滅)	☼ (点滅) または ● (消灯)	☼ (点滅)	プラグの温度が高くなっていることを示します。安全のため充電電流を制限しています。 一度プラグを抜き、しばらく経ってから再度接続してください。それでも表示が続く場合は、 すみやかに使用を中止し、お使いのコンセントの施工業者に連絡して点検を受けてください。 それでも解決しない場合は、日産販売会社にご連絡ください。
● (消灯)	● (消灯)	● (消灯)	コンセントのブレーカーがOFFになっているか、充電ケーブルが故障しています。 ブレーカーがONになっているにもかかわらず、プラグをコンセントに接続しても表示灯が点灯 しないときは、すみやかに使用を中止し、日産販売会社にご連絡ください。
●	☼ (点滅)	☼ (点滅)	コンセント電圧の異常を検知しています。安全のため充電電流を制限しています。 お使いの充電ケーブルの定格電圧 (100V／200V仕様) にあったコンセントに接続してください。

充電に関する装備

タイプⒷ

表示灯の点灯パターン			説明・対処方法
READY (緑色)	POWER (オレンジ色)	FAULT (赤色)	
●	○	◎	充電ケーブルのプラグをコンセントに接続したときに、毎回0.5秒間すべての表示灯が点灯します。
●	・(消灯)	・(消灯)	充電ケーブルが車両に未接続で、コンセントに接続されている状態です。 または、車両に接続されており、普通充電が完了・タイマー充電がセットされている状態です。
✹(点滅)	・(消灯)	・(消灯)	充電ケーブルまたはコンセントが故障し、アースが取れていないことを示します。 お使いのコンセントの施工業者に連絡し、点検を受けてください。
●	☼(点滅)	・(消灯)	
●	○	・(消灯)	車両に電力が供給されていることを示します。(充電中など)
●	・(消灯)	☼(点滅)	漏電、または信号線に異常が発生していることを表しています。 ただちに使用を中止し、日産販売会社へご連絡ください。
●	☼(点滅) または ・(消灯)	◎	充電ケーブルが故障しています。 すみやかに使用を中止し、日産販売会社にご連絡ください。
✹(点滅)	☼(点滅) または ・(消灯)	◎	プラグの温度検知ができなくなっていることを示します。安全のため充電電流を制限しています。 すみやかに使用を中止し、日産販売会社にご連絡ください。
✹(点滅)	☼(点滅) または ・(消灯)	☼(点滅)	プラグの温度が高くなっていることを示します。安全のため充電電流を制限しています。 一度プラグを抜き、しばらく経ってから再度接続してください。それでも表示が続く場合は、 すみやかに使用を中止し、お使いのコンセントの施工業者に連絡して点検を受けてください。 それでも解決しない場合は、日産販売会社にご連絡ください。
・(消灯)	・(消灯)	・(消灯)	コンセントのブレーカーがOFFになっているか、充電ケーブルが故障しています。 ブレーカーがONになっているにもかかわらず、プラグをコンセントに接続しても表示灯が点灯 しないときは、すみやかに使用を中止し、日産販売会社にご連絡ください。
●	☼(点滅)	☼(点滅)	コンセント電圧の異常を検知しています。安全のため充電電流を制限しています。 お使いの充電ケーブルの定格電圧 (100V／200V仕様) にあったコンセントに接続してください。

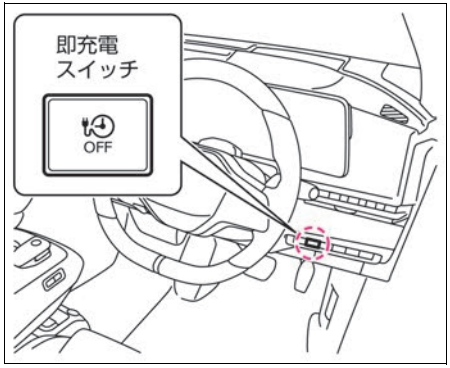
☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

即充電スイッチ

タイマー充電を設定しているとき、キャンセルしてすぐに充電を開始したいときに使用します。

タイマー充電については、（➔P.43）をお読みください。

即充電スイッチの使いかた



タイマー充電の設定を一時的にキャンセルし、すぐに充電を開始したいときは、＜即充電スイッチ＞を押します。

➔即充電のしかた (P.44)

知識

- 充電インジケーター（➔P.33）が緑色点滅になったときは、タイマー充電を設定した開始時刻まで待つ状態になります。この状態で＜即充電スイッチ＞を押すと即充電が開始されます。
- 開始した即充電をキャンセルしたい場合は、充電ケーブルを接続したまま＜即充電スイッチ＞を再度押してください。開始時刻まで待つ状態に戻ります。この状態で＜即充電スイッチ＞を押しても、即充電は開始されません。
- ＜即充電スイッチ＞を押したあとは、15分間即充電モード受付状態（タイマー充電を受け付けない状態）になります。この間に充電ケーブルを接続すると、毎回即充電が開始されます。

充電ポート

充電を行うとき充電ケーブルを接続する場所です。

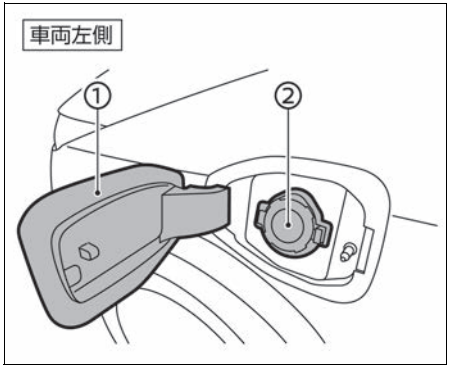
充電ポートにはいたずら防止のため普通充電をしている間、充電コネクタをロックして車両から抜けなくするロック機構があります。

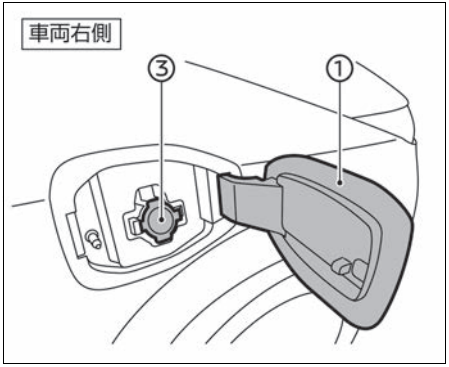
➔充電コネクタロック (P.32)

アドバイス

- 充電ポート周辺の雪や泥、水分などを除去するときは、充電ポートキャップを閉めた状態で行ってください。
- 充電ポートリッド周辺が凍結して開閉できないときは、無理に動かそうとはせず、必ず解凍してから開閉してください。
- 充電ポートには排水用の穴があります。この穴が詰まるなどして充電ポート内に水がたまったときは、充電を行わずに日産販売会社にご連絡ください。

充電ポートの各部の名称





① **充電ポートリッド**

② **急速充電ポート**
急速充電、V2H充電／V2H給電、V2L給電のときに使用します。

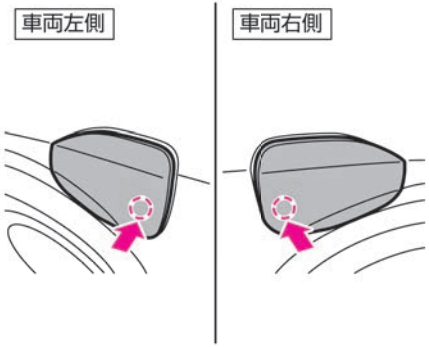
③ **普通充電ポート**

充電ポートリッドの開けかた、閉めかた

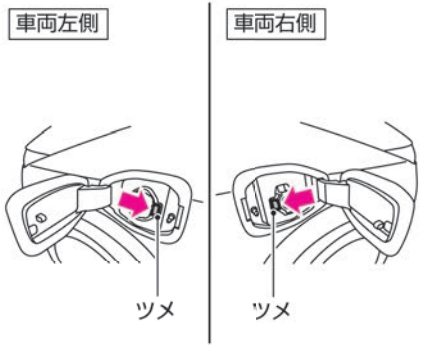
アドバイス

- 走行する前に、充電ポートリッドが完全に閉まっていることを確認してください。充電ポートリッドが閉まっていないと、走行中にリッドが突然開いて車両を破損するおそれがあります。
- 充電ポートリッドを閉めるときは、充電ポートキャップが確実に閉まっていることを確認してください。

1. ドアを解錠します。
充電ポートリッドロックはドアの施錠・解錠に連動しています。



2. リッドを開けます。リッドの車両後方側中央部あたり（イラストの点線部分）を押すとリッドが少し開きます。開いたすき間に手を入れて全開します。



3. 充電ポートキャップに付いているツメを押して、充電ポートキャップを開きます。
4. 閉めるときは、充電ポートキャップを確実に閉めてから、充電ポートリッドを押して閉めます。

- 充電ポートリッドが開いたままドアを施錠しても、充電ポートリッドはロックされません。
- ドア施錠後に充電ポートリッドを閉めると、ロックされない状態で閉まります。充電ポートリッドをロックするには、充電ポートリッドを閉めて一度ドアを解錠してから再度ドアを施錠してください。
- ドア解錠後に充電ポートリッドが施錠されているときは、ドアを一度施錠してから再度ドアを解錠してください。

充電ポート照明

- 充電ポートには照明がついています。次のようなときに点灯・消灯します。

充電を開始するとき

- ドアが施錠されている状態で、インテリジェントキーを携帯して車両に近づく、またはドアを解錠すると、しばらくの間点灯します。
- 充電ケーブルを接続後、ドアが施錠されている状態でインテリジェントキーを携帯して車両から離れると、一定時間が経過後に消灯します。
- 充電ケーブルを接続後、ドアが解錠されている状態から施錠すると、消灯します。
- 充電コネクタロックモードを［LOCK］または［AUTO］に変更した場合は、

充電ケーブルを接続して充電コネクタがロックされると、消灯します。

充電コネクタロック (P.32)

充電を終了するとき

- ドアが施錠されている状態で、インテリジェントキーを携帯して車両に近づく、またはドアを解錠すると、しばらくの間点灯します。
- 充電コネクタロックモードを［LOCK］または［AUTO］に変更した場合は、充電コネクタのロックが解除されると点灯し、ロックされると消灯します。
- 充電ケーブルを取り外すと、一定時間が経過後に消灯します。
- ドアが施錠されている状態で、インテリジェントキーを携帯して車両から離れると、しばらくの間点灯します。

充電コネクタロック

いたずら防止のため普通充電をしている間、普通充電コネクタをロックして車両から抜けなくする機能です。

充電コネクタロックについて

- 充電コネクタロックは、シフトポジションがPのときに作動します。
- 充電コネクタロックは、普通充電コネクタが正しく接続されていないと作動しません。
- 充電コネクタロックモードは、急速充電コネクタには適用されません。
- 充電コネクタロックモードがAUTOのときは、停電などで電源が遮断されると、ロックが解除されます。電源が復旧した場合は、復旧と同時に再度ロックが作動します。
- 充電コネクタロックは、ドアが施錠されているときに解錠すると解除されます。
- 充電コネクタを完全に差し込む前にコネクタロックピンが出てしまい、接続できなくなった場合は、一度ドアを施錠し再度ドアを解錠してから接続してください。
- 充電コネクタロックは盗難防止を保障するものではありません。

充電コネクタロックモードの使い分けかた

充電コネクタロックモードは、状況に応じて次のように使い分けます。

■ AUTO

- 公共の充電ステーションなど、次に順番待ちをしている車両がいるときなどに使用します。
- 充電中のみロックし、充電が終わると自動的にロックが解除されるため、ご自身が車両から離れていても、次に順番待ちをしている車両の使用者が充電ケーブルを取り外すことができます。
- 充電ケーブルのプラグをコンセントに接続していないときは、普通充電コネクタを接続すると一度ロックします。

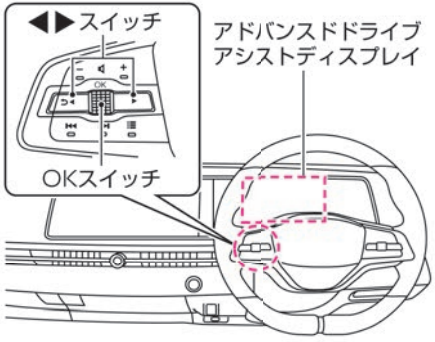
■ LOCK

- 道路に面した自宅の駐車場、外出先で車載の充電ケーブルを使用して充電する場合など、いたずら防止のため、充電中以外の時間帯でも常時ロックしたいときに使用します。
- 普通充電コネクタ接続中は、常にロックします。
- 充電ケーブルのプラグをコンセントに接続する前に、普通充電コネクタを接続すると、充電中にロックしないことがあります。ロックしないときは、一度充電コネクタを抜き差ししてください。

■ UNLOCK

- 自宅のシャッター付ガレージ、公共の充電ステーションで普通充電コネクタのロックが禁止されているエリアなど、ロック機能を使わないときに使用します。
- 普通充電コネクタを接続すると、一度ロックしてから数秒後に解除されます。

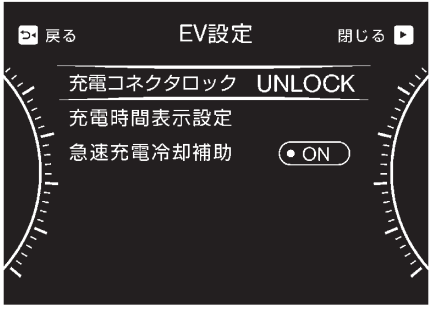
充電コネクタロックモードの設定のしかた



1. ステアリングスイッチの< ◀▶ >スイッチを数回押し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに設定

［ ⚙ ］画面を表示して＜OK＞スイッチを押します。

2. ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを回して、［EV設定］を選択し、＜OK＞スイッチを押して決定します。



3. ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを回して、［充電コネクタロック］を選択し、＜OK＞スイッチを押して決定します。
4. ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを回して設定したいモードを選択し、＜OK＞スイッチを押して決定します。

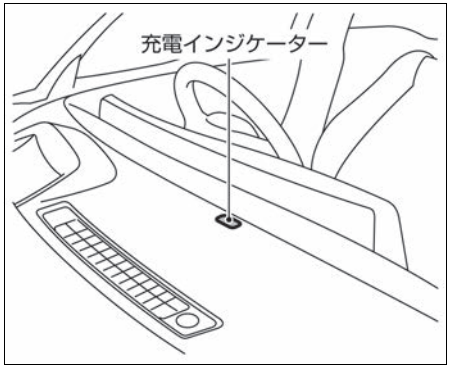
充電コネクタロックの解除のしかた

- 充電コネクタロックは、ドアが施錠されている状態から解錠すると、約30秒間解除されます。
- ロックが解除されている約30秒間に普通充電コネクタを車両から取り外さなかった場合は、再度ロックされます。
- 充電コネクタロックが解除できなくなったときは、（➔P.366）をお読みください。

充電インジケーター

充電インジケーターで、現在の充電状態などを確認できます。

充電インジケーターの見かた



- 充電中は、インストルメントパネル部の充電インジケーターが青色に点滅します。リチウムイオンバッテリーの充電が進むにつれて、インジケーターの点滅速度が遅くなります。
- リチウムイオンバッテリー残量計が100%になっても充電を継続することがあります。（充電インジケーターは点滅を継続）
- 充電中以外の作動については、次の表をお読みください。

充電に関する装備

状態	充電インジケーターの点灯パターン	説明
充電が完了した		充電が完了すると、インジケーターが約5分間点灯します。 リチウムイオンバッテリー残量計が100%になっても充電を継続することがあります。（充電インジケーターは点滅を継続）
タイマー充電を受け付けた ➔タイマー充電のしかた (P.43)		充電ケーブルを接続すると、インジケーターが緑色に点滅します。（約2秒点灯後、約2秒消灯を繰り返し、約5分後に消灯）
V2H給電中／V2L給電中 ➔V2H充電／V2H給電 (P.38) ➔V2L給電 (P.39)		V2H給電中／V2L給電中はインジケーターが緑色に点滅します。（約1秒点灯後、約1秒消灯を繰り返す）
高電圧システムが自動的にONモードに切り替わった		次のような場合、高電圧システムが自動的にONになり、インジケーターが緑色に点滅します。（約1秒点灯後、約1秒消灯を繰り返す） ● 12Vバッテリーを充電しているとき ● ソフトウェア自動更新作動時 ● タイマーエアコンまたは乗る前エアコン★が作動しているとき ● 充電中にコンセントからプラグを抜いたとき
普通充電コネクタが正しく接続されていない		普通充電コネクタが車両に正しく接続されていないときは、インジケーターが赤色に約30秒間点滅します。この状態になったときは、充電が行われません。充電コネクタを正しく接続し直してください。

リチウムイオンバッテリー温調システム

リチウムイオンバッテリークーラーについて

- リチウムイオンバッテリークーラーは、走行中や急速充電中などにバッテリー温度が高くなると自動的に作動し、出力制限や充電制限が働かない温度に保つため、途中で急速充電を行いながら長距離の走行を行うときなどに有効な機能です。
- リチウムイオンバッテリーの温度が高くなると、加速力の低下や急速充電時間が長くなる原因となります。
- リチウムイオンバッテリーの温度が高くなる原因は、主に高速道路の連続走行や急速充電、またそれらを繰り返して行う場合に起こりやすくなります。
- リチウムイオンバッテリークーラーが作動すると、通常の走行時よりも電力を消費し、通常の走行時より電費の悪化や航続距離が低下します。不必要な加減速を控え、適切な速度で走行してください。

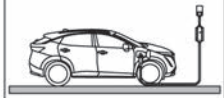
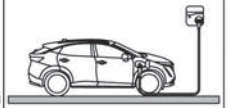
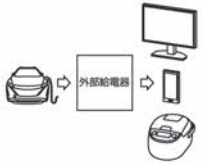
リチウムイオンバッテリーヒーターについて

- リチウムイオンバッテリーヒーターは、急速充電中にバッテリー温度が低いと自動的に作動し、急速充電時のリチウムイオンバッテリーの温度を上昇させて、急速充電時間の増加をおさえる機能です。
- リチウムイオンバッテリーの温度が低くなると、急速充電時間が長くなる原因となります。
- リチウムイオンバッテリーの温度が低くなる原因は、主に氷点下の屋外に長時間駐車をしたときなどで、リチウムイオンバッテリーの温度が外気温まで低下します。
- 急速充電中にリチウムイオンバッテリーヒーターが作動すると、急速充電器からの充電電力の一部がヒーターに使用されますが、リチウムイオンバッテリーの温度が氷点下まで冷えている場合で30分間での充電エネルギー量を約1.3から2倍※向上できます。
  ※：充電を開始したときのリチウムイオンバッテリーの温度やバッテリー残量により異なります。
- リチウムイオンバッテリーヒーターは、走行中も作動させることができます。
  メーター内の走行可能表示灯［READY］が点灯している状態で、ナビゲーションシステムの設定画面で［バッテリーヒーター］をONにします。
  （設定方法については、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。）
- ［バッテリーヒーター］をONにすると、リチウムイオンバッテリーの温度や残量により、走行中にリチウムイオンバッテリーヒーターが自動的に作動・停止します。
- 急速充電を終えた後や＜パワースイッチ＞をOFFにしてしばらくすると、ナビゲーションシステムの［バッテリーヒーター］はOFFに戻ります。
- リチウムイオンバッテリーヒーターが走行中に作動すると、通常の走行時よりも電力を消費するため、電費の悪化や航続距離の低下を招きます。リチウムイオンバッテリーヒーターを作動させる場合は十分に注意してください。
- 外気温が低く、メーター内に凍結注意アラーム表示（➔P.391）が表示されているときは、急速充電をする30分～1時間前に［バッテリーヒーター］をONにすることをおすすめします。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

充電の種類

充電の種類には普通充電（3kW普通充電／6kW普通充電）、急速充電、V2H充電などがあります。雨や雪の中でも充電できますが、感電や漏電を防止するため、注意事項（P.22）を必ずお読みください。充電インフラ工事、および6kW普通充電器（壁掛型）の詳細については、日産販売会社にお問い合わせください。V2Hの詳細については、各V2Hメーカーのカタログなどをご確認ください。

		普通充電 (200V)		急速充電 ～130kW※1※2	V2H充電／給電 3～10kW程度	V2L給電 1.5～9kW程度
		3kW普通充電	6kW普通充電			
						
充電ポートの種類		普通充電ポート (運転席側)		急速充電ポート (助手席側)		
充電器の形状	コンセント型	○	-	-	-	-
	壁掛型	○	○	-	○	-
	スタンド型・ポール型	○	○	○	○	-

4.8kW普通充電については、日産販売会社にお問い合わせください。
※1：充電設備の能力により、最大充電電力が130kWにならない場合があります。
※2：車両の最大充電電力が130kWのため、これ以上の電力の充電器を使用しても、車両の最大電力に制限されます。

普通充電

普通充電には3kW普通充電、6kW普通充電があります。

- 主に自宅の電源（コンセント）に充電ケーブル（コントロールボックス付）★を接続して充電する日常的な充電を「3kW普通充電」といいます。
- 3kW普通充電のおよそ2倍のスピードで充電する方法を「6kW普通充電」といいます。6kW普通充電を行うためには、専用の6kW普通充電器（壁掛型）が必要です。

➔ 充電の種類 (P.36)
➔ 6kW普通充電器（車載用）／急速充電 (P.448)

普通充電には、次の3種類の充電方法があります。

■ 即充電

- 充電ケーブルを接続するだけで、すぐに充電を開始できます。（➔P.39）

■ タイマー充電

- 充電を行う時間帯をあらかじめ設定しておくことができます。（➔P.20）

■ リモート充電★

- タイマー充電の開始時刻前であっても、離れた場所からスマートフォンを使用して、すぐに充電を開始することができます。
- リモート充電の詳細については、"https://www3.nissan.co.jp/connect/service_ariya.html" をご確認ください。

普通充電にかかる時間は、リチウムイオンバッテリーの温度、充電状態、経年数、接続した電源の状態、エアコンなど電力を消費するものの使用状況などにより異なります。

3kW普通充電について

- AC100V用充電ケーブル（コントロールボックス付）を使用すると、AC100V電源からでも充電することができますが、AC200V電源での充電に比べると充電時間が長くなります。AC100V用充電ケーブル（コントロールボックス付）のご購入については、日産販売会社へご相談ください。

6kW普通充電について

- 充電インフラ工事、および、6kW普通充電器（壁掛型）については、日産販売会社にお問い合わせください。
- 6kW普通充電の充電方法について、充電ケーブルなどの基本的な使いかたは3kW普通充電と同じ扱いとなります。6kW普通充電器（壁掛型）の本体の操作方法やランプ表示などについては、6kW普通充電器メーカーのカタログなどをご確認ください。
- 6kW普通充電を行う為には、現在契約中の電力容量（契約アンペア）に6kVA（100V換算で+60A相当）の契約変更が必要です。
- 契約アンペアを小さくする為には、6kW普通充電器（壁掛型）とデマンドコントロールシステムを組み合わせることが有効です。
- 契約アンペアおよび、6kW普通充電器（壁掛型）などの詳細については、日産販売会社にお問い合わせください。

急速充電

外出先などに設置された急速充電器を使用し、短時間で行うことができる充電を「急速充電」といいます。

この車両は、CHAdeMO※1（チャデモ）仕様の急速充電器を使用してください。

➔ 急速充電のしかた (P.41)

※1：CHAdeMOとは、日本発の電気自動車用急速充電規格です。

- 急速充電器は充電能力（最大充電電力：kW）の違いにより充電の速さに違いが現れます。そのため、充電時間が短い場合は、充電終了後のリチウムイオンバッテリー充電量に違いが現れる場合があります。
- この車両は最大130kWの急速充電に対応しています。
- 急速充電器の利用料金については、急速充電器が設置されている店舗または急速充電器の管理者にお問い合わせください。

急速充電の注意事項

⚠ 警告

- **必ずCHAdeMO（チャデモ）仕様の急速充電器を使用する。**

⚠ 警告

対応していない急速充電器を使用すると、火災や故障などのおそれがあります。

アドバイス

- 急速充電は、必ず急速充電器本体の取り扱い方法に従ってください。間違った操作を行うと、車両または急速充電器を破損するおそれがあります。

急速充電にかかる時間

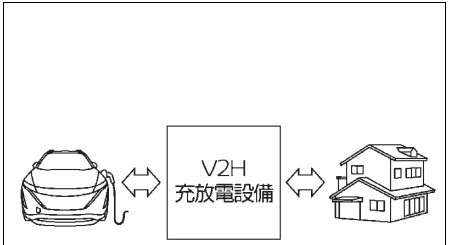
●充電にかかる時間は、次の状態によって異なります。
- ― 充電を開始したときのリチウムイオンバッテリーの残量
- ― リチウムイオンバッテリーの温度
- ― 使用する充電機器の種類または接続する電源
- ― リチウムイオンバッテリーの使用年数
- ― エアコンなど電力を消費するものの使用状況
- ― リチウムイオンバッテリー温調システムの作動状態

V2H 充電／ V2H 給電

アドバイス

- 「V2H充電」および「V2H給電」は、必ずV2H本体の取り扱い方法に従ってください。間違った操作を行うと、車両またはV2H本体を破損するおそれがあります。
- V2Hに接続した状態で、家電などへの給電がない場合でも、バッテリー保護のため、リチウムイオンバッテリー温調システムが稼働することがあります。この動作によりバッテリー充電量が低下することがあります。
- 停電時、V2Hを起動させるための制御用電源供給機能があります。急速充電コネクタを接続すると、V2H起動用電源を急速充電コネクタからV2Hへ供給することができます。ただし、充電ポート照明（➔P.31）が点灯しているときにコネクタを接続し、V2Hを開始してください。
- V2Hの種類により停電時の起動方法が異なります。詳細はV2Hの取扱説明書をご確認ください。

- プロパイロット2.0付車でV2Hを長期間連続でご使用の際は、必ず8日に1回15分以上EVシステムを始動してください。V2H使用中にバックアップ用12Vリチウムイオン電池が消耗し、マスターウォーニング［ ⚠ ］が点灯し、交換修理が必要となる場合があるため、ご注意ください。



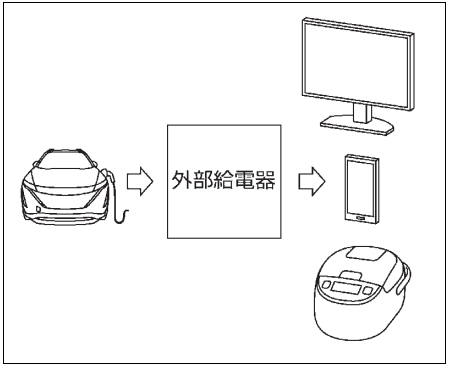
●急速充電と同じCHAdeMO仕様の急速充電コネクタを使い3～10kW程度の双方向充電を行うものを、「V2H（ヴィーツーエッチ）」といいます。V2H本体から車両へ充電を行うことを「V2H充電」、V2H本体を経由して車両から自宅へ電力供給することを「V2H給電」といいます。

●V2Hの詳細については、各V2Hメーカーのカタログなどをご確認ください。

V2L 給電

アドバイス

- 「V2L給電」は必ずV2L本体の取り扱い方法に従ってください。間違った操作を行うと、車両またはV2L本体を破損するおそれがあります。
- 急速充電コネクタを接続すると、V2L起動用電源を急速充電コネクタからV2Lへ供給することができます。ただし、充電ポート照明（P.31）が点灯しているときにコネクタを接続し、V2Lを開始してください。
- V2Lの種類により起動方法が異なります。詳細はV2Lの取扱説明書をご確認ください。
- V2L給電を行わずに長時間接続したまま放置すると、12Vバッテリーが消耗するおそれがあるため、ご注意ください。



- 急速充電と同じCHAdeMO仕様の急速充電コネクタを使い1.5～9kW程度の給電を行うものを、「V2L（ヴィーツーエル）」といいます。V2L本体を経由して車両から家電などへ電力供給することを「V2L給電」といいます。
- V2Lの詳細については、各V2Lメーカーのカタログなどをご確認ください。

3kW 普通充電のしかた

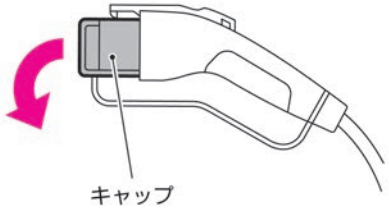
すぐに充電を開始するときは、次の手順に従ってください。充電する時間帯を設定できるタイマー充電については、（P.20）をお読みください。

6kW普通充電の充電方法について、充電ケーブルなどの基本的な使いかたは3kW普通充電と同じ扱いとなります。6kW普通充電器（壁掛型）の本体の操作方法やランプ表示などについては、6kW普通充電器メーカーのカタログなどをご確認ください。

即充電のしかた

1. ＜パワースイッチ＞がOFFになっていることを確認します。
   プロパイロット リモート パーキング付車はプロパイロット リモート パーキングが作動していないことを確認してください。
   プロパイロット リモート パーキング★ (P.326)
2. ラゲッジルームから充電ケーブル（コントロールボックス付）★を取り出し、プラグをコンセントに接続します。

- 充電ケーブル（コントロールボックス付）のコントロールボックスの穴にひもなどを通し、コントロールボックスを壁に掛けることができます。

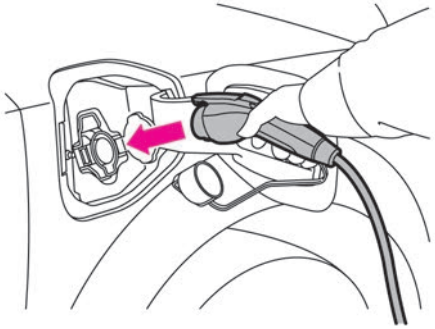


※車種により形状が異なります。

3. 充電コネクタのキャップを外します。

4. ドアが解錠されている状態で、充電ポートリッド（運転席側）を押し、充電ポートリッドを開けます。
（充電ポートの照明は、ドアが施錠されている状態から解錠する、またはドアが閉まっている状態から開けるとしばらく点灯します。）
➔充電ポートリッドの開けかた、閉めかた (P.31)

5. 普通充電ポートのキャップを開けます。
（キャップはツメを押すと開きます。）



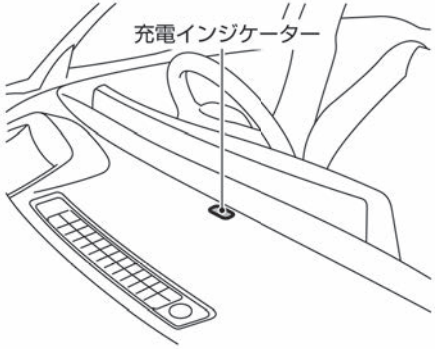
6. 充電コネクタを“カチッ”と音がするまで差し込みます。
正常に接続されると、ブザーが1回鳴ります。
また、しばらくすると充電ポートの照明が自動的に消灯します。

●車両の状態によりブザーが鳴らないときがありますが、異常ではありません。

●充電コネクタをロックするときは、充電コネクタロックモードを［LOCK］または［AUTO］にしてください。

●タイマー充電を設定しているときは、＜即充電スイッチ＞を押すかリモート充電を開始してください。これにより、タイマー充電の設定を一時的にキャンセルし、即充電が可能になります。

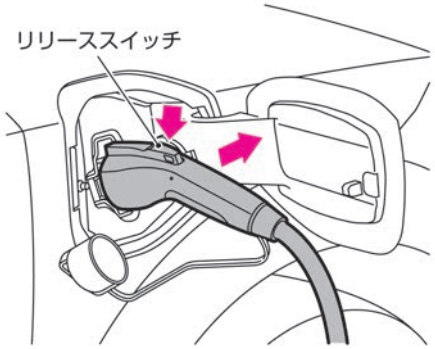
●コネクタロックピンが出たままになり、充電コネクタを接続できなくなった場合は、一度ドアを施錠し再度ドアを解錠してから接続してください。



7. 正常に充電が開始されるとブザーが2回鳴ります。インストルメントパネル部の充電インジケーターで、おおよその充電量が確認できます。
➔充電インジケーター (P.33)

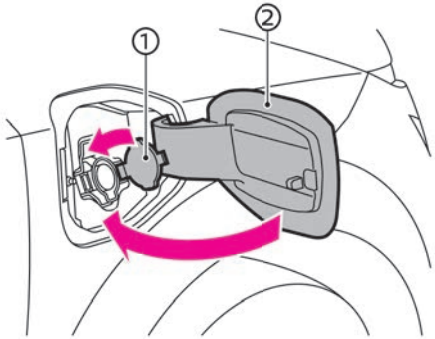
●タイマー充電待機状態になったときは、ブザーは鳴りません。

●充電インジケーターが赤色に点滅した場合は、充電コネクタが奥まで差し込まれていないため、奥まで差し込んでください。充電インジケーターの点滅が終了している場合は、一度充電コネクタを引き抜いてから接続し直してください。



8. 充電を終了するときは、充電コネクタのリリーススイッチを押しながら、充電ポートから充電コネクタを引き抜きます。なお、充電コネクタをロックしているときは、先にロックを解除してください。
➔充電コネクタロック (P.32)

●ドアが施錠されている状態から解錠すると、充電コネクタロックが解除されます。



9. 充電ポートのキャップ①を閉めてから、充電ポートリッド②を閉めます。
プラグをコンセントから抜き、充電ケーブル（コントロールボックス付）を収納袋に収納します。
➔充電ケーブル収納袋への収納のしかた (P.26)

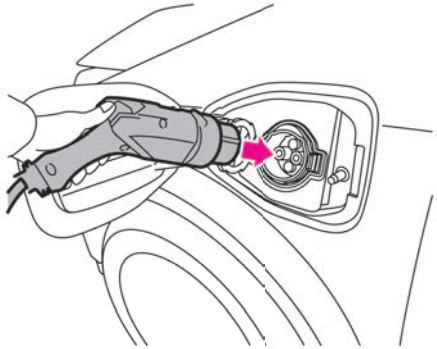
- 充電中は、＜パワースイッチ＞をONにしてエアコンなどを使用できますが、リチウムイオンバッテリーの電力が消費されるため、充電時間は通常よりも長くなります。
- 充電中に＜パワースイッチ＞をOFFにするときは、ブレーキペダルを踏まずに＜パワースイッチ＞を押してください。
- 充電中に充電コネクタを外すと充電を中断できます。
- 充電ポートの照明が消灯しているときに普通充電コネクタを引き抜くと、充電ポートの照明が約30秒間点灯後、消灯します。

急速充電のしかた

急速充電器およびV2Hを利用するときは、次の手順に従ってください。
充電器は種類によって操作方法が異なるため、充電器本体の取り扱い方法を必ずご確認ください。

急速充電のしかた

1. ＜パワースイッチ＞がOFFになっていることを確認します。
2. 充電ポートリッド（助手席側）を押し、充電ポートリッドを開けます。
➔充電ポートリッドの開けかた、閉めかた (P.31)
3. 急速充電ポートのキャップを開けます。
（キャップはツメを押すと開きます。）



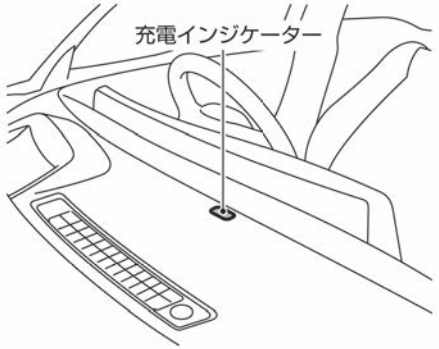
4. 充電器本体の手順に従い、急速充電コネクタを充電ポートの溝に合わせて根元まで確実に差し込み固定します。

アドバイス

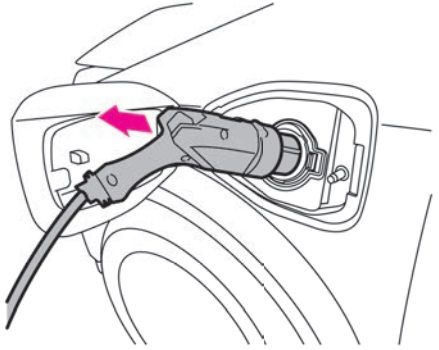
- 充電時は、必ず充電器本体の取り扱い方法に従ってください。間違った操作を行うと、車両または充電器を破損するおそれがあります。

- 充電にかかる時間は、充電器の種類により異なります。
- 急速充電器本体の手順に従い、急速充電コネクタを差し込むときは、充電ポートの溝に合わせて根元まで確実に差し込み固定します。

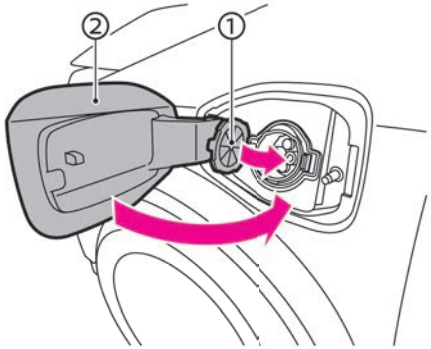
5. 充電器本体の手順に従い、充電を開始します。



6. 正常に充電が開始されるとブザーが2回鳴ります。インストルメントパネル部の充電インジケーター（➔P.33）で、おおよその充電量が確認できます。



7. 充電が停止したら、充電ポートから急速充電コネクタを引き抜きます。



8. 充電ポートのキャップ①を閉めてから、充電ポートリッド②を確実に閉めてください。

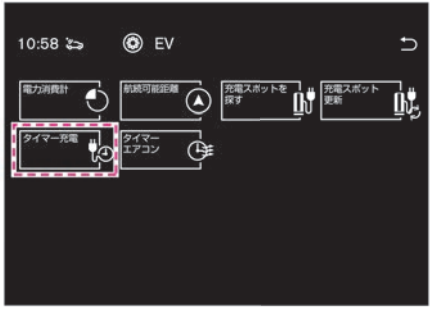
- 充電器の最大充電時間を経過したときに、満充電になる前に停止することがあります。（一定時間で充電が停止するようにタイマーが設定されていることがあります）
- 満充電になる前に充電が停止したときは、再度充電器の開始スイッチを押すと充電を再開できます。
- 急速充電にかかる時間は、外気温などの影響で変化します。
- 充電器本体に、車両のリチウムイオンバッテリー残量や容量の数値（kWh）が表示される場合、実際の値とは異なる場合があります。
- 充電ポートの照明が消灯しているときに急速充電コネクタを引き抜くと、充電ポートの照明が約30秒点灯後、消灯します。
- 充電器本体に残り時間が表示される場合、車両が計算する充電終了までの目安時間となっており、実際の値とは異なる場合があります。また、充電器の規格対応バージョンが古い場合、正しい値が表示されないことがあります。

タイマー充電のしかた

充電する時間帯を設定することができます。次の手順に従ってください。

お客さまが契約している電気料金のプランに合わせて、電気料金の安い時間帯に充電できます。

タイマー充電の設定のしかた



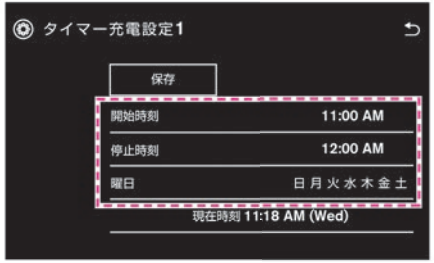
1. ナビゲーションシステムで次の操作をして、タイマー充電の設定画面を表示させます。
［ ⌂ ］⇒［アプリ］⇒［EV］⇒［タイマー充電］



2. ［ON］をタッチしてタイマーをON（インジケーター点灯）にします。 タイマーは3種類設定することができます。



3. ［ ✎ ］をタッチしてタイマー設定画面に切り替えます。



4. ［開始時刻］をタッチしてタイマー充電を開始する時刻を設定します。
5. ［停止時刻］をタッチしてタイマー充電を停止する時刻を設定します。
6. ［曜日］をタッチしてタイマー充電を行う曜日を設定します。



7. ［保存］をタッチして設定を保存します。

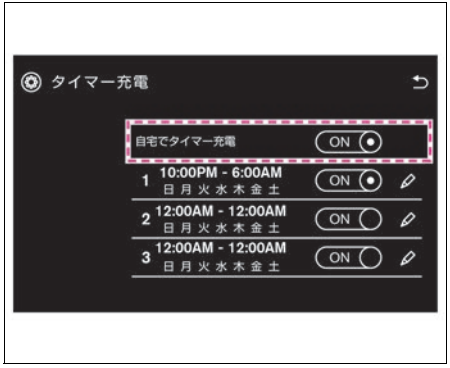
8. ＜パワースイッチ＞をOFFにし、充電ケーブルを接続します。普通充電の充電ケーブル接続方法は、➔即充電のしかた (P.39)をお読みください。
※設定した時刻に自動的に開始されます。

- ［自宅でタイマー充電］がONの場合は、自宅で普通充電をするときのみ、タイマー充電になります。➔自宅でタイマー充電モードについて (P.44)をお読みください。
- タイマーをOFFにすると予約が解除されます。予約を解除しても設定した時刻、曜日は消去されません。再度タイマーをONにすると、現在の設定条件で予約することができます。
- タイマー充電中に設定を変更すると、変更した内容に従って充電を開始または待機状態になります。
- 開始時刻から停止時刻の時間帯のみ充電を行うため、充電が完了しないことがあります。
- リチウムイオンバッテリー温調システムが作動しているときは、お客さまが予想された充電量に到達するまでの充電時間が長くなる場合があります。
- タイマー充電ONの場合、設定された開始～停止時間帯以外でエアコンなどが作動すると、リチウムイオンバッテリー電力を消費します。
- 現在契約中の電力容量（契約アンペア）を小さくするためには、6kW普通充電器（壁掛型）とデマンドコントロールシステムを組み合わせることが有効です。デマンドコントロールシステムの場合、住宅側で使用される電力量が大きいときは車両側の充電量が制限されるため、適切な契約アンペアの設定が必要です。契約アンペアが適切でない場合は、充電時間が長くなりお客さまが契約している電気料金の安い時間帯に充電が完了しない場合があります。
- 6kW普通充電およびV2H充電を行う場合、充電器本体がタイマー機能を持っている機種があるため、詳細については各充電器メーカーのカタログなどをご確認ください。
- 6kW普通充電の詳細については、6kW普通充電器メーカーのカタログなどをご確認ください。
- V2Hの詳細については、各V2Hメーカーのカタログなどをご確認ください。
- タイマー充電をONにし、タイマー充電時間外で普通充電ケーブルを接続すると、タイマー充電待機状態（インストルメントパネル部の充電インジケーターが緑色に点滅）になります。

即充電のしかた

- タイマー充電の予約がされているときは、タイマー充電開始時刻まで充電を待機します。この状態ですぐに充電を行いたい場合は、次のいずれかの方法で即充電を行います。
  - 充電ケーブルを接続した状態で、スマートフォンでリモート充電を実行する
  - ＜即充電スイッチ＞を押す（➔P.30）
- 自宅での充電のみタイマー充電がON（自宅以外での場所では即充電）になる設定ができます。➔自宅でタイマー充電モードについて (P.44)をお読みください。
- ＜即充電スイッチ＞を押しても充電が開始されない場合は、ドアを開閉する、施錠・解錠するなどの操作をしてから再度＜即充電スイッチ＞を押してください。

自宅でタイマー充電モードについて



- ナビゲーションシステムで自宅を登録し、［自宅でタイマー充電］をONにすると、自宅で普通充電をするときのみ、タイマー充電になります。
- ナビゲーションシステムで次の操作をすると、自宅でタイマー充電モードの

ON・OFFを切り替えることができます。
［ ］⇒［アプリ］⇒［EV］⇒［タイマー充電］⇒［自宅でタイマー充電］
自宅の登録方法については、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

- ［自宅でタイマー充電］がONのときは、自宅以外の場所で普通充電をすると、即充電に自動的に切り替わります。

充電ができないときの対処方法

充電の作業中に困ったときは次のことをご確認ください。
これらを確認しても問題が解決できないときは、車両または充電機器の故障のおそれがあるため、日産販売会社にご連絡ください。

症状	原因	対処方法
充電が全くできない	普通充電コネクタと急速充電コネクタが同時に接続されている	どちらかの充電コネクタを取り外してください。
	12Vバッテリーがあがっている	＜パワースイッチ＞をONにしてもメーターなどが点灯しない場合は、12Vバッテリーがあがっている可能性があります。 12Vバッテリーを充電または交換してください。
普通充電ができない	コンセントまで電気がきていない	漏電遮断器が作動していたり、停電していたりしていないか確認してください。 ● 電源にタイマー機能がついている場合は、電源に設定されている時間帯まではコンセントに電気がきていないものがあります。 ● 立体駐車場の場合、駐車パレットが完全に格納されるまでの間やエレベーターの作動中は、電気が遮断されるものがあります。
	コンセント側のアースが正しく接続されていない	日産自動車が推奨する充電インフラ工事仕様に準拠したアース設置工事が行われているか確認してください。 充電ケーブル（コントロールボックス付）★は、コンセントに接続したときにアースの接続を自動的に確認しています。このため、コンセント側のアースが正しく接続されていない場合、表示灯が点滅し充電が開始しません。
	プラグがコンセントに正しく接続されていない	プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。

充電で困ったときは

症状	原因	対処方法
普通充電ができない	充電コネクタが正しく接続されていない	充電コネクタが正しく接続されているか確認してください。
	日産自動車が推奨している配線ではない	充電設備が日産自動車の推奨している仕様（配線の太さと長さ、ブレーカーなどの設定値、EV専用コンセント、または6kW普通充電器）ではない場合、充電できない、または充電が途中で止まる場合があります。その場合は、別の充電設備で充電してください。
	コネクタロックピンが出たままになり、充電コネクタを接続できない	一度ドアを施錠し再度ドアを解錠してから接続してください。
	旧規格の充電ケーブルを使用している	新規格の充電ケーブルを使用してください。 2010年から2013年に販売の日産リーフ（ZE0）に付属の充電ケーブルまたは同じ年式のディーラーオプションの充電ケーブルは、旧規格品のため使用することができません。新規格の充電ケーブルについては、日産販売会社へお問い合わせください。 なお、旧規格品の充電ケーブルはコントロールボックスの横幅が約100㎜（新規格品は75㎜）のタイプです。
即充電ができない	タイマー充電が設定されている	＜即充電スイッチ＞を押すか、タイマー充電を解除してから充電を開始してください。
タイマー充電ができない	充電ケーブルを接続し忘れている	充電ケーブルを接続し、充電を行ってください。
	時計がずれている	時計の時刻を正しく調整してください。 自動で時刻を調整しますが、12Vバッテリーの脱着をしたあとは、GPSとの通信が行われるまでの間、時刻が設定されません。
	タイマー充電の予約が設定されていない	タイマー充電が設定されていないときは、即充電が開始されます。タイマー充電の時刻および曜日を設定してください。
	現在時刻がタイマー開始時刻より前か、タイマー停止時刻を過ぎている	タイマー充電の設定時刻と現在の時刻を確認し、状況に応じて時刻を設定し直すか即充電を行ってください。
	＜即充電スイッチ＞が押されている	開始した即充電をキャンセルしたいときは、充電ケーブルを接続したままで再度＜即充電スイッチ＞を押してください。タイマー充電待機状態に切り替わります。

充電で困ったときは

症状	原因	対処方法
リモート充電★ができない	充電ケーブルが接続されていない	あらかじめ充電ケーブルを接続してください。
	スマートフォンから車両に通信ができていない	スマートフォンが通信圏外になっていないか確認してください。
	車両が通信圏外にある	通信圏内に移動してください。
	リモート機能がOFFになっている	2週間以上＜パワースイッチ＞がOFFのままだと、リモート機能は自動的にOFFになります。一旦＜パワースイッチ＞をONにしてください。
普通充電が途中で止まってしまう	コンセントまで電気がきていない	充電中に漏電遮断器が作動したり、停電が起きたりしたおそれがあります。この場合、電力が復帰すると自動的に充電が再開されます。
	充電ケーブルが抜けている	充電ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
	充電コネクタのリリーススイッチが押されている	充電コネクタのリリーススイッチが押されていないことを確認してください。
	タイマー充電の停止時刻になった	タイマー充電は満充電まで充電できていなくても設定された停止時刻になると充電が停止します。状況に応じて、時刻を設定し直すか、即充電を行ってください。
急速充電またはV2H充電ができない	急速充電コネクタが正しく接続されていない	急速充電コネクタを一度抜き差ししてから、急速充電コネクタが正しく接続され、ロックがかかっていることを確認してください。
	充電器のセルフチェック機能でNGになった	充電器本体、または車両故障の可能性があります。ただちに充電を停止し、充電器メーカー、または日産販売会社へお問い合わせください。
	充電器の電源がOFFになっている	充電器の電源がONになっていることを確認してください。
急速充電またはV2H充電が途中で止まってしまう	充電器のタイマーにより終了した	充電器本体には、一定時間で充電が停止するようにタイマーが設定されていることがあります。その場合、一定時間経過すると充電が停止します。さらに充電したいときは、もう一度充電開始操作を行ってください。
	充電器の電源が何らかの理由でOFFになってしまった	充電器に異常がないか確認してください。

安全なドライブのために

運転する前に

運転前の準備 P.50
運転するときに注意すること P.51
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項 P.52

シートベルト

3点式シートベルト P.54
シートベルトの注意事項 P.55

エアバッグ

SRSエアバッグ P.57
SRSエアバッグ（前席） P.59
SRSサイドエアバッグ（前席） P.61
SRSカーテンエアバッグ P.62

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときに注意すること P.63
チャイルドシート P.64

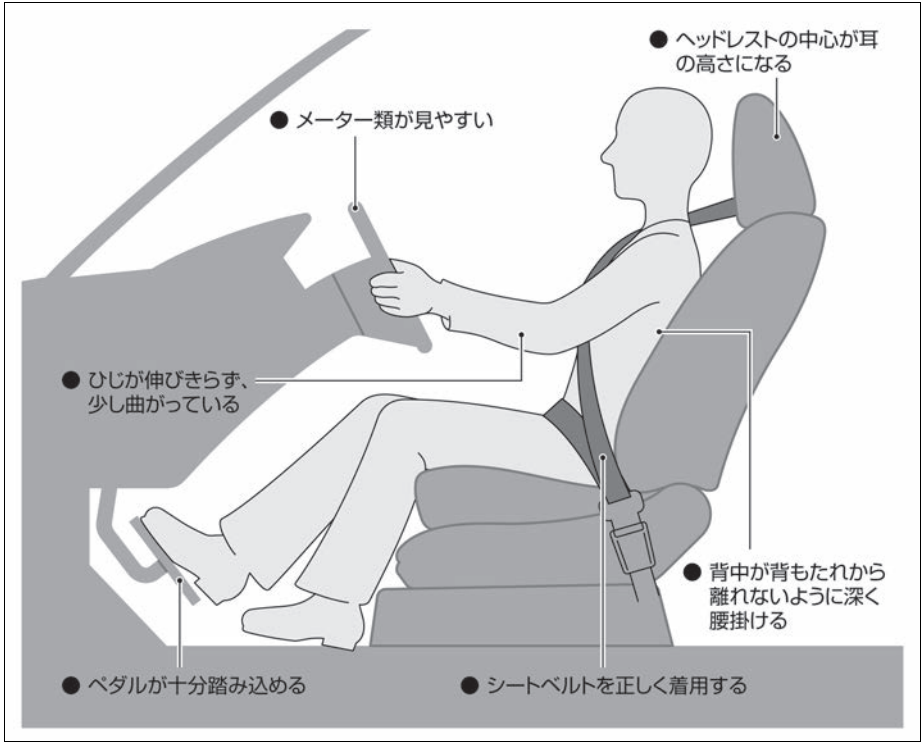
盗難防止機能

イモビライザー（盗難防止装置） P.71
カーアラーム P.71

運転前の準備

正しい運転姿勢がとれるよう、ハンドル（➔P.155）、シート（➔P.150）、ミラー（➔P.157）を調節し、シートベルトを着用してください。

正しい運転姿勢について



⚠ 警告

- **ハンドル、シート、ミラーの調節は、必ず走行前に行う。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**
  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートベルトの着用

- 走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。
  ➔シートベルト (P.54)
- 小さなお子さまを乗せるときは、お子さまの年齢や体格に合ったチャイルドシートをご使用ください。
  ➔チャイルドシート (P.64)

ミラーの調節

- ハンドル、シートを調節したあと、ミラーを調節します。確実に後方確認ができる位置に、ミラーを調節してください。
  ➔ドアミラー (P.160)
  ➔インテリジェント ルームミラー (P.157)

運転するときに注意すること

⚠ 警告

車室内に人やペットを残さない

- **お子さま、介護を必要とされる方、ペットを車室内に残さない。**

  炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

診断機接続用のコネクターにはご注意を

- **診断機接続用のコネクターには、後付け用品を取り付けないでください。12Vバッテリーがあがったり、警告灯が点灯したりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。**

燃料が入った容器やスプレー缶などを積まない

- **ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まない。**

  引火や爆発するおそれがあり危険です。

火気には十分注意する

- **操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れない。また、床やシートのすき間に落としたままにしない。**

  荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ライターの着火ボタンが押されてガスが噴出し、火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

故障や破損したまま走行しない

- **事故などでランプが破損したまま走行しない。**

  内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ウインドーにアクセサリーを取り付けない。**

  視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをしたりして火災を起こすおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

改造しない

- **日産純正部品以外の車両の性能や機能に適さない部品を使用しない。**

  正常な性能を発揮できないだけでなく、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **電装品などを取り付けるときは、必ず日産販売会社にご相談ください。不適切な取り付けや誤った配線は、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **ハンドルの取り外しや交換を不適切に行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなかったり、不意に作動したりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。**

アドバイス

改造しない

- 12Vバッテリーの端子に電装品やアース線などを直接つながないでください。12Vバッテリーあがりのおそれがあります。
- 日産自動車が国土交通省に届け出をした部品以外を装着すると、違法改造になることがあります。

無線送信機の取り付けについて

- お車に無線送信機を取り付けると、電装システムに影響をおよぼす可能性があります。悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ず日産販売会社にご相談ください。お客さまのご要望により、無線送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）を日産販売会社にてご提供します。

アドバイス

フロントバンパーと路面との干渉について（NISMO仕様車）

- NISMO仕様車は路面との間隔が狭いため、段差の大きい場所や縁石などに特に注意してください。フロントバンパーが路面と干渉して、破損するおそれがあります。

NISMO専用エアロパーツについて（NISMO仕様車）

- フロントバンパー、リヤバンパーに足をかけたり、乗ったりしないでください。フロントバンパー、リヤバンパーが破損するおそれがあります。

ルーフの荷物について

- ルーフキャリアなどを使用して、ルーフに荷物を載せるときは、なるべくアンテナの近くに荷物を載せないでください。ルーフに載せた荷物が電波を遮り、アンテナの受信感度が下がる場合があります。

心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項

心臓ペースメーカーなどをご使用の方は、次のことにご注意ください。

⚠ 警告

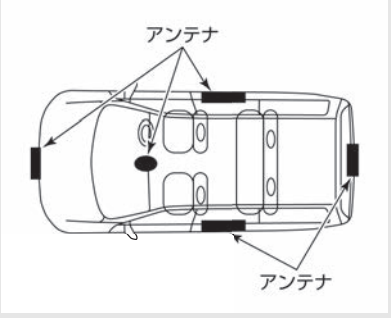
充電について

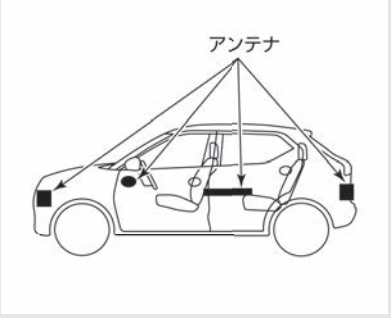
- **植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器（ICD）などの医療電気機器を使用している方は、機器におよぼす影響について医療電気機器製造業者に確認してから充電作業を行う。**
- **植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器（ICD）などの医療電気機器を使用している方は、充電ケーブル（コントロールボックス付）★から約15cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**

  充電ケーブル（コントロールボックス付）からの電波が機器の作動に影響を与える場合があります。
- **植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器（ICD）などの医療電気機器を使用している方は、急速充電器には近づかない。**

  操作する必要がある場合は他の方にお願いしてください。充電中の急速充電器からの電磁波が機器などに一時的な影響を与える場合があります。

インテリジェントキーについて





- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用している方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**

⚠ 警告

ドアおよびバックドア開閉時、ドアハンドルのセンサー操作時、電気自動車の始動時などに発生するキーの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用している方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**

  キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

SOSコールについて

- **SOSコールは無線通信機能を利用しているため、心臓ペースメーカーやその他医療用電気機器を使用する場合は、当該の各医療用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波による影響について必ず確認する。**

  SOSコールの電波が医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

  ➔先進事故自動通報システム (P.339)

3 点式シートベルト

シートベルトは、シートに身体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

走行するときは、必ずシートベルトを正しく着用してください。

⚠ 注意

- **プリテンショナーシートベルトの部品や配線を修理しない。また、電気テスターを使ってプリテンショナーのシステムの回路診断をしない。**

  誤って作動したり、正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

ELR（緊急固定）付シートベルトについて

●身体の動きに合わせて伸縮し、衝突時など強い衝撃を受けると、ベルトがロックし身体を固定します。

プリテンショナーシートベルトについて

⚠ 警告

- **SRSエアバッグ警告灯が点灯しているときは走行しない。**

  <パワースイッチ>をONにしてから約7秒間はシステムチェックを行うため、プリテンショナーが作動しません。必ずSRSエアバッグ警告灯が消灯してから走行してください。

⚠ 注意

- **廃車にするときやプリテンショナーシートベルトを廃棄するときは、必ず日産販売会社に相談する。**

アドバイス

- プリテンショナーが作動したとき作動音や白煙が出ますが、火災ではありません。
- プリテンショナーは、一度作動すると再使用できません。衝突を起こしたときは必ず日産販売会社で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。



●正面衝突などで車両前方から強い衝撃を受けたときに、装着したシートベルトを瞬時に巻き取り、乗員の拘束性能を高めます。

●SRSエアバッグシステム（前席）と同時に作動します。
SRSエアバッグ (P.57)

●前席にはダブルプリテンショナー機構が付いています。車両前方から強い衝撃を受けたとき、肩からシートベルトを巻き上げると同時に腰側からも巻き上げ、乗員の拘束性能を高めます。

シートベルトの着用のしかた

⚠ 警告

- **ベルトが肩に確実にかかる位置にアンカーの高さを調節する。また、アンカーが確実に固定されていることを確認する。**

  万一のときに肩からベルトが外れるなど、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

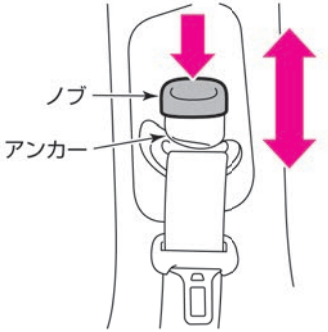
- **後席中央席のシートベルトを使用するときは、バックルに「CENTER」と表示されているものを使用する。**

  シートベルトが正しく着用できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。

1. 正しい姿勢でシートに座り、タングを持ってベルトをゆっくり引き出します。
   ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させます。



2. ベルトがねじれないようにして、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。



3. 肩ベルトのアンカー位置の高さを調節します。（前席のみ）
ノブを押しながらアンカー部を上下させ、ベルトが肩に確実に掛かる位置に調節し手を離します。手を離したあと、“カチッ”と音がするまで動かし固定させます。

4. 外すときは、バックルのボタンを押し、タングを持ってゆっくり戻します。

●ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてから緩め、再度ゆっくり引き出してください。

シートベルトガイド（後席）

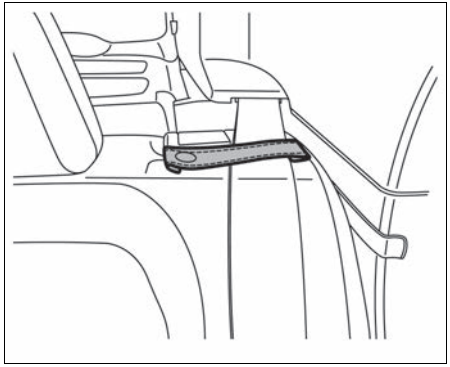
⚠ 注意

● **シートベルトガイドを使用するときは、確実に取り付けられていることを確認する。**
ベルトが滑ってケガをするおそれがあります。

アドバイス

● 背もたれを倒した状態で荷物を出し入れするときは、必ずベルトをシートベルトガイドから外してください。シートベルトガイドが破損するおそれがあります。

● 後席シートの背もたれを調節する、または折りたたんだり引き起こしたりする場合は、シートベルトガイドを持って操作をしないでください。シートベルトガイドが破損するおそれがあります。



●シートベルトガイドを使用すると、ベルトを取り出しやすくなります。なおシートベルトガイドからベルトを外した場合は、シートベルトを着用するときに再度シートベルトガイドを使用してください。

●シートベルトガイドを使用する場合は、ベルトがねじれないように注意してください。

シートベルトの注意事項

⚠ 警告

● **走行する前に全員がシートベルトを着用する。**
着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

● **シートベルトを着用するときは、次のことを必ず守る。**

⚠ 警告

シートベルトを正しく着用しないと、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。

— 運転者は正しい運転姿勢で、同乗者は正しい着座姿勢で着用してください。

— 2人以上で1本のベルトを使用しないでください。

— ベルトはねじれた状態で着用しないでください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、万一のとき衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。

— 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。ベルトが腰骨からずれていると、腰部に強い圧迫を受けることがあります。

— 肩ベルトは脇の下を通さず、確実に肩に掛けてください。肩に十分に掛かっていないと、上半身が拘束できないことがあります。

— クリップなどで故意にベルトにたるみを付け、身体から浮いた状態に調節しないでください。ベルトにたるみがあると、十分な効果が発揮できないことがあります。

● **シートの背もたれを倒したまま走行しない。**

シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。

● **バックルや巻き取り装置の中に異物を入れない。**

シートベルトが正常に機能を発揮せず、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。

● **妊娠中や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用する。**

ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避け腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは確実に肩を通し、腹部を避けて胸部に掛かるように着用してください。

● **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**

お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

● **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**

➔チャイルドシート (P.64)

● **事故などで衝撃を受けたり傷がついたりしたシートベルトは、日産販売会社に点検を依頼する。**

一度強い衝撃を受けたシートベルトやベルト部分に傷がついたり破れたりしているシートベルトは、機能を十分に発揮しないことがあります。

⚠ 注意

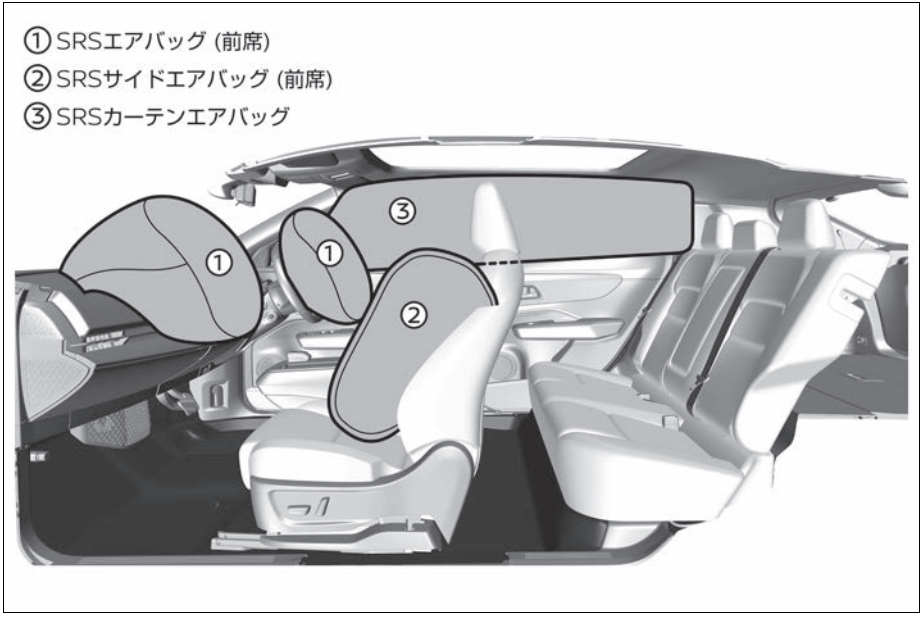
● **シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤は絶対に使用しない。**

ベルトの性能が落ち、シートベルトが機能を十分に発揮できないことがあります。シートベルトの清掃は中性洗剤かぬるま湯で行い、乾かしてからお使いください。

SRS エアバッグ

SRSエアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、乗員への衝撃を緩和します。シートベルトと併用することで安全性を高めるため、シートベルトは必ず着用してください。

SRS エアバッグの種類

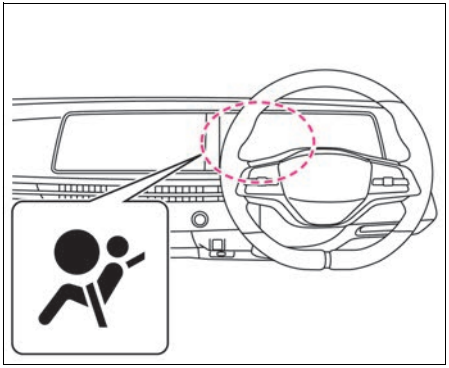


アドバイス

- 廃車にするときやSRSエアバッグを廃棄するときは必ず日産販売会社にご相談ください。
- SRSエアバッグは、一度ふくらむと再使用できません。日産販売会社で交換してください。

- SRSエアバッグは高温のガスにより高速でふくらむため、事故の状態によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- SRSエアバッグがふくらむとき、作動音や白煙が出ますが火災ではありません。また、発生するガスによりむせることがありますが毒性はありません。
- SRSとは、「Supplemental Restraint System」の略でシートベルトの補助拘束装置の意味です。

SRS エアバッグの作動



SRSエアバッグは、＜パワースイッチ＞がONのときに作動可能です。

＜パワースイッチ＞をONにしたあと、約7秒間はSRSエアバッグ警告灯が点灯します。このとき、システムチェックを行うため、SRSエアバッグは作動しません。警告灯が消灯してから走行してください。

SRSエアバッグは、正面衝突や側面衝突で衝撃を受けたときに作動します。ただし、衝撃が車体で吸収または分散され、車両の損傷は大きくても乗員への衝撃が強くならないときは、作動しないことがあります。

SRSエアバッグが作動するような衝撃を感知すると、非常点滅表示灯が自動的に点滅します。＜非常点滅表示灯スイッチ＞を押すと消灯しますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。また、衝撃の大きさによっては、点滅しないことがあります。

● 助手席SRSエアバッグ、助手席側のSRSサイドエアバッグおよびSRSカーテンエアバッグは、乗員がいなくても作動します。

SRS エアバッグの注意事項



⚠ 警告

● **SRSエアバッグ警告灯が次の状態のときは走行しない。**

— ＜パワースイッチ＞をONにした直後、SRSエアバッグ警告灯が約7秒間点灯しないとき（消灯したままのとき）

— SRSエアバッグ警告灯が点灯または点滅し続けるとき

SRSエアバッグが正常に作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。日産販売会社にご相談ください。

● **正しい姿勢でシートベルトを正しく着用する。**

SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグだけでは、身体の飛び出しなどを防止することはできません。また、SRSエアバッグの効果が発揮されないおそれがあります。

● **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

➔チャイルドシート (P.64)

● **必ず次のことを守る。**

SRSエアバッグが誤って作動したり正常に作動しなくなったりし、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

— SRSエアバッグ格納部を修理するときは、日産販売会社にご相談ください。また、SRSエアバッグ格納部に傷がついているとき、およびひび割れがあるときは、そのまま使用せず日産販売会社で交換してください。
SRSエアバッグ（前席）の格納場所は（P.59）をお読みください。
SRSサイドエアバッグ（前席）の格納場所は（P.61）をお読みください。
SRSカーテンエアバッグの格納場所は（P.62）をお読みください。

— SRSエアバッグ格納部に過度の衝撃を与えないでください。

— 電気テスターを使用したSRSエアバッグの回路診断、または回路を変更しないでください。

— エアロパーツなどの取り付けや、サスペンションを改造するときは、日産販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。

● **SRSエアバッグが作動したときは、30分経過するまでエアバッグに触らない。**

高温になるため、やけどをするおそれがあります。

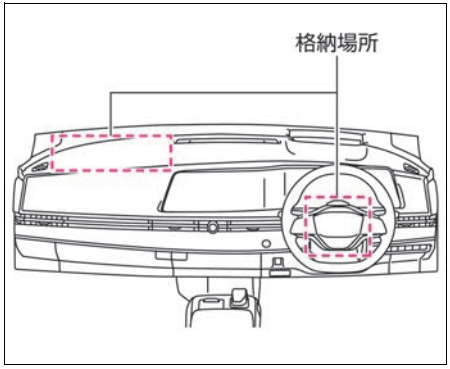
● **SRSエアバッグ作動時の残留物（カス）などが目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流す。**

皮膚の弱い方などは、まれに皮膚に刺激を感じることがあります。

SRS エアバッグ（前席）

車両前方から強い衝撃を受けたときSRSエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所



運転席SRSエアバッグは、ハンドル部に格納されています。

助手席SRSエアバッグは、助手席側インストルメントパネル部に格納されています。

SRS エアバッグが作動するとき

●次のような衝撃が強いときに作動します。
— 25km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき
— 車両前方左右、約30°以内の方向から強い衝撃（上記と同等）を受けたとき

●次のような車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくても乗員への衝撃は強いとき）
— 高速で縁石などに衝突したとき
— 深い穴や溝に落ち込んだとき
— ジャンプして地面にぶつかったとき

●助手席SRSエアバッグが作動した衝撃でフロントガラスが割れることがあります。

●運転席、助手席SRSエアバッグはふくらんだあとすぐにしぼむため、視界の妨げになることはありません。

SRS エアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

●停車している同クラスの車に約50km/h以下の速度で衝突したとき

●衝突時に折れない電柱などに約30km/h以下の速度で正面衝突したとき

●トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき

●斜め前方からガードレールなどに衝突したとき

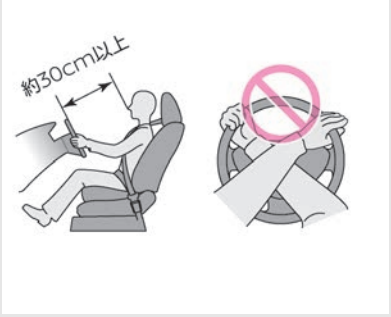
SRS エアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 横方向や後ろから衝突されたとき
- 横転、転覆したとき

SRS エアバッグ（前席）の注意事項

⚠ 警告



- **SRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、内がけでのハンドル操作はしない。**

  ハンドルから顔をできるだけ（約30cm以上）離し、ハンドルにもたれかかるなど、手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

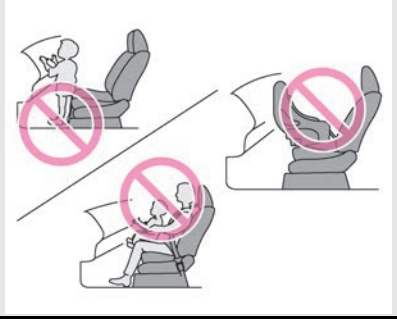


- **不適正なハンドルに交換したり、SRSエアバッグ格納部にステッカーなどを貼ったりしない。**

  SRSエアバッグ作動時に正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **フロントガラスにアクセサリーなどを付けない。**

  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。



- **SRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、お子さまを近づかせない。**

  SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

  SRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸などを不必要に近づけたりしないでください。また、お子さまをSRSエアバッグ格納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いたりせず、後席シートに乗せてください。

- **チャイルドシートは後席シートに取り付ける。**

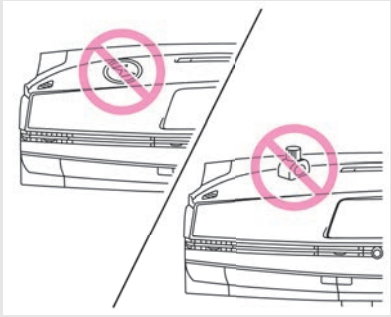
  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

  やむをえず助手席シートに取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。乳児用チャイルドシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは必ず後席シートに取り付けてください。

- **チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認する。**

  固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

⚠ 警告



- **SRSエアバッグ格納部およびその周辺にステッカーなどを貼ったり、アクセサリーや芳香剤などを置いたりしない。**

  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

SRS サイドエアバッグ（前席）

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の主に胸部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所



SRSサイドエアバッグは、運転席、助手席ともにシート背もたれ側面（外側）に格納されています。

SRS サイドエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRS サイドエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- モータールームまたはラゲッジルームに側面衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRS サイドエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

SRS サイドエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- **SRSサイドエアバッグの格納部に近づかない。**

  ドアにもたれるなど、前席の背もたれ側面（外側）に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、前席の背もたれを抱えたりしないように注意してください。万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。

- **前席のSRSサイドエアバッグ格納部付近に傘やカバンなどを置かない。**
- **シートカバーは、前席背もたれ側面を覆わないものを使用する。**

  SRSサイドエアバッグが正しく作動しないおそれがあります。

⚠ 注意

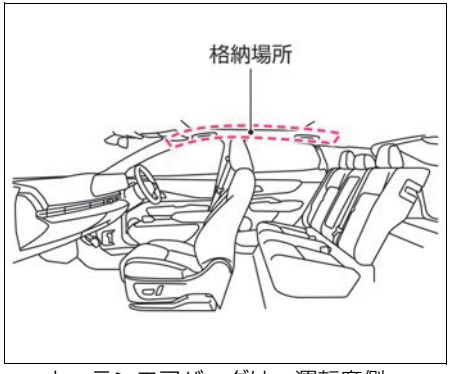
- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**

  SRSサイドエアバッグ誤作動するおそれがあります。

SRS カーテンエアバッグ

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSカーテンエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の主に頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所



SRSカーテンエアバッグは、運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。

SRS カーテンエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRS カーテンエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- モータールームまたはラゲッジルームに側面衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRS カーテンエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

SRS カーテンエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- **SRSカーテンエアバッグの格納部に近づかない。**

  万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。

- **センターピラー（ロックピラー）まわり、ルーフサイド部などのSRSカーテンエアバッグ格納部付近に、アクセサリーやハンガーなどを取り付けない。**

  SRSカーテンエアバッグが作動したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**

  SRSカーテンエアバッグ誤作動するおそれがあります。

お子さまを乗せるときに注意すること

お子さまを乗せるときは、次のことに注意してください。

⚠ 警告

お子さまにもシートベルトを着用する

- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**

  お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

  ➔シートベルトの着用のしかた (P.54)

小さなお子さまにはチャイルドシートを使用する

- **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**

  ➔チャイルドシート (P.64)

チャイルドシートは後席シートに取り付ける

- **チャイルドシートは後席シートに取り付け、走行する前に確実に固定されていることを確認する。**

  固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

- **チャイルドシートは使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、ラゲッジルーム（荷室）などに収納する。**

  車室内に放置したままにすると、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまは後席シートに乗せる

- **お子さまを助手席に乗せるのは避ける。**

  お子さまの動作が気になったり、スイッチ、レバー類のいたずらなど安全運転の妨げになったりするおそれがあります。

  また、助手席SRSエアバッグの格納部に近づいていると、万一の事故などでSRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

ドア、ウインドーなどは大人が操作する

- **ドアやウインドーなどの開閉は、お子さまには操作させない。**

  開閉時に手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **チャイルドセーフティドアロック（➔P.140）や<パワーウインドーロックスイッチ>（➔P.162）を使用し、お子さまが操作できないようにしてください。**

窓から手や顔を出さない

- **お子さまが腕や顔を出さないように注意する。**

  急ブレーキ時に窓枠などにぶつかったり、車外の障害物に当たったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

車室内にお子さまだけを残さない

- **車から離れるときは、必ずお子さまを一緒に降ろす。**

⚠ 警告

炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

- **お子さまのいたずらで車の発進、火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

チャイルドシート

お子さまの年齢や体格に合わせてチャイルドシートを選択し、車両に適切に取り付けてください。

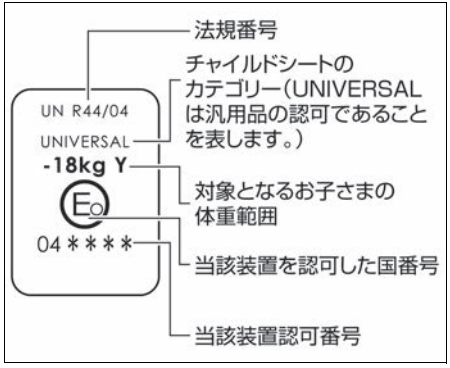
⚠ 警告

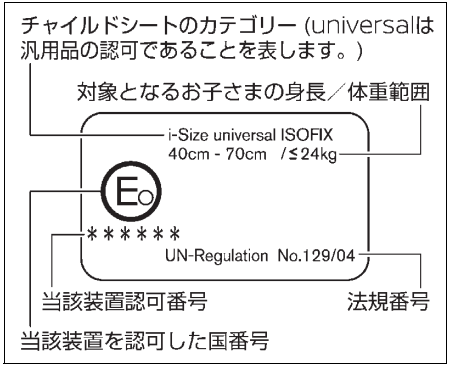


- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

チャイルドシートについて





- 乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートを総称してチャイルドシートと呼んでいます。
- UN R44またはR129はチャイルドシートに関する国際法です。UN R44またはR129の基準に適合した汎用（ユニバーサル）チャイルドシートには、認可マークが貼られています。
- チャイルドシートには、乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートの3種類があります。お子さまの年齢や体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- チャイルドシートの固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- この車はUN R44またはR129の基準に適合したi-Sizeチャイルドシート対応ISOFIX対応取付装置を標準装備しています。

チャイルドシートの選びかた

この車両には、シートベルトで取り付けるチャイルドシートと、i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートを取り付けることができます。i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートは、シートベルトを使わずに固定するため、簡単に取り付けることができます。

■ シートベルト固定タイプのチャイルドシート

シートベルトを使ってチャイルドシートを固定します。

➔シートベルト固定タイプのチャイルドシートの取り付けかた (P.69)

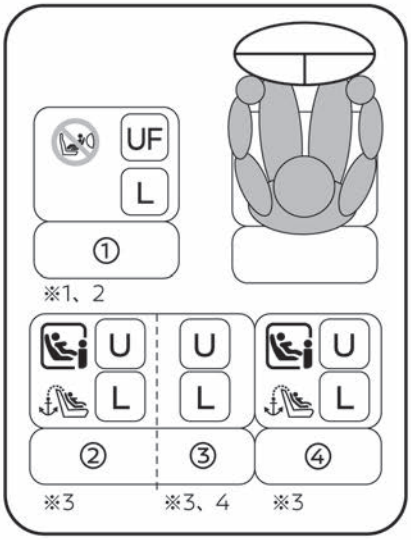
■ i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシート

後席に付属しているi-Sizeチャイルドシート対応ISO FIX対応取付装置で固定します。

➔使用できるチャイルドシートについて (P.66)

使用できるチャイルドシートについて

チャイルドシートの取り付け位置により、使用できるチャイルドシートが異なります。



マーク	説明
U	車両シートベルト固定式汎用型チャイルドシートに適している
UF	車両シートベルト固定式の前向きに取り付ける汎用型チャイルドシートに適している
	i-SizeおよびISOFIXチャイルドシートに適している
	後向きチャイルドシート取り付け禁止
	ISOFIXチャイルドシート上部取付金具（トップテザーアンカレッジ）を装備している座席
L	添付リストに記載されたチャイルドシートに適している

※1：チャイルドシートを装着する際は、座席のスライドを最も後方に調整してください。

※2：チャイルドシートを装着する際は、座席を最も高い位置に調整してください。

※3：チャイルドシートを装着する際は、前席を干渉しない位置にスライドを動かしてください。

※4：サポートレッグ付きチャイルドシートは装着しないでください。

●チャイルドシートがヘッドレストに干渉し安定して取り付けられない場合は一番上に調整してください。上げても安定しない場合には取り外してください。

幼児拘束装置メーカーに関する詳細情報

座席位置	助手席	後席		
	①	②	③	④
汎用ベルト式に適する着席位置（○/X）	○（前向きのみ）	○	○	○
i-Size着席位置（○/X）	X	○	X	○
横向き固定具に適する着席位置（L1/L2）	-	-	-	-
適する最大の後向き固定具（R1/R2X/R2/R3）	-	R3	-	R3
適する最大の前向き固定具（F2X/F2/F3）	-	F3	-	F3
適する最大のブースタ固定具（B2/B3）	-	B3	-	B3

● ISO FIX対応のチャイルドシートをすでにお持ちの場合、ご使用前にUN R44またはR129の基準に適合していることを確認してください。詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書を参照してください。

■ 推奨チャイルドシート

日産自動車が推奨するチャイルドシートです。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

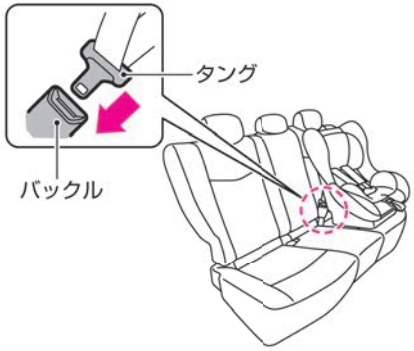
年齢（目安）	体重（目安）	身長（目安）	推奨チャイルドシート	座席位置			
				①	②	③	④
0-18か月	<13kg	<100cm	日産i-Sizeチャイルドシート（後向き）	X	○	X	○
9か月-4歳	9-18kg	76-100cm	日産i-Sizeチャイルドシート（前向き、後向き）	X	○	X	○
4-6歳	15-25kg	100-125cm	日産ジュニアシートevo（前向き）	○（ベルト取付のみ）	○	○（ベルト取付のみ）	○
6-12歳	22-36kg	125-150cm	日産ジュニアシートevo（前向き）	○（ベルト取付のみ）	○	○（ベルト取付のみ）	○

●チャイルドシートがヘッドレストに干渉し安定して取り付けられない場合は一番上に調整してください。上げても安定しない場合には取り外してください。

シートベルト固定タイプのチャイルドシートの取り付けかた

⚠ 警告

- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**
  確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。



1. ヘッドレストを外し（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）、チャイルドシートを座席に置きます。
   シートベルトをチャイルドシートに通し、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。
   ➔ヘッドレストの調節のしかた (P.152)

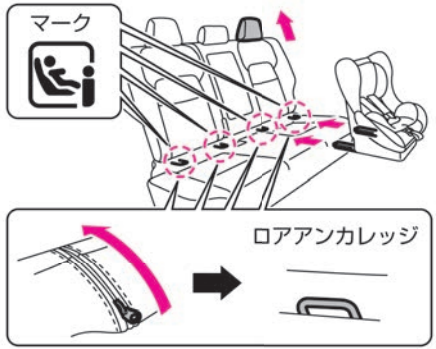


2. チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って固定します。
   チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。

i-Size および ISO FIX 対応チャイルドシートの取り付けかた

⚠ 警告

- **i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるときは、後席のヘッドレストを取り外す。（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）**
- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**
  確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。
- **チャイルドシートを取り付けるときは、アンカレッジ部周辺に異物がないことやシートベルトなどがかみ込んでいないことを確認する。**
  チャイルドシートが確実に固定されず、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

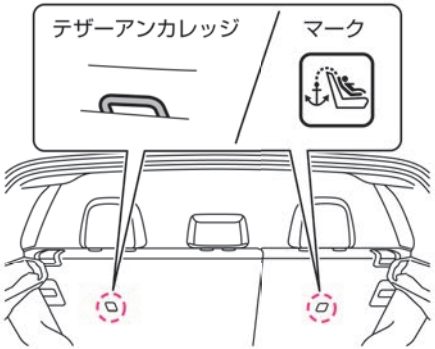


1. i-Sizeチャイルドシート対応ISO FIXロアアンカレッジは、後席左右背も

たれのマーク下側にあります。使用するときはファスナーを開きます。
ヘッドレストを外して（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）、チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってロアアンカレッジに固定します。

➔ヘッドレストの調節のしかた (P.152)

- i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートを取り付けない場合は、ファスナーのつまみを隠してご使用ください。



2. テザーアンカレッジは、後席背もたれ裏側にあります。
テザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締めます。
チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。

- シートカバーを装着するときは、スリットがあるものを使用してください。

イモビライザー（盗難防止装置）

イモビライザー（盗難防止装置）について

車両の盗難に対する防御性能を高めるために、あらかじめ登録されているインテリジェントキー以外でのEVシステムの始動（<パワースイッチ>ON）を禁止するシステムです。

- キーに登録された信号は、キーごとに異なります。

カーアラーム

カーアラームについて

- ドアが不正な方法で解錠されたり、バックドアやボンネットを開けられたりしたときに周囲に異常を知らせるシステムです。
- 車室内に人が乗っている状態や、窓ガラスが開いた状態でもシステムは作動します。
  システム本来の目的以外の作動はまわりの迷惑となるため作動させないでください。

■ セットのしかた

1. 全ての窓ガラスを閉めたあと、<パワースイッチ>をOFFにし、全ドア、バックドア、ボンネットを閉めます。
2. ドアハンドルのセンサー、またはインテリジェントキーのスイッチで施錠します。（システムが準備状態になります。）

- 約30秒経過すると、自動的にセット状態になります。
- 内蔵キー（メカニカルキー）で施錠した場合、カーアラームはセットされません。
- 準備状態またはセット状態のときに次の操作を行うと、準備状態またはセット状態を解除します。
  - いずれかのドアをドアハンドルのセンサーまたはインテリジェントキーのスイッチで解錠する
  - ハンズフリーセンサーまたはインテリジェントキーのスイッチでバックドアを開ける
  - <パワースイッチ>をONにする

■ アラームの作動

- 不正な行為が行われると、約30秒間ホーンを鳴らすと共に非常点滅表示灯を点滅させ、周囲に異常を知らせます。
- 次の不正な行為が行われると、盗難のおそれがあると判断し作動します。
  - ドアハンドルのセンサーまたはインテリジェントキーのスイッチ以外で解錠してドアを開けたとき
  - ハンズフリーセンサーまたはインテリジェントキーのスイッチ以外でバックドアを開けたとき
  - ボンネットを開けたとき
- 内蔵キー（メカニカルキー）で解錠してからドアを開けると、カーアラームが作動します。

■ アラームを停止するには

- カーアラーム作動中に次の操作を行うと、作動を停止します。
  - いずれかのドアをドアハンドルのセンサーまたはインテリジェントキーのスイッチで解錠する
  - ハンズフリーセンサーまたはインテリジェントキーのスイッチでバックドアを開ける
  - <パワースイッチ>をONにする
- 約30秒経過し、アラーム作動が終了すると、再びセット状態になります。
- インテリジェントキーの電池が切れている場合は、キーの裏面を<パワースイッチ>に接触させてから<パワースイッチ>をONにしてください。

MEMO

メーターの見かた

計器類

各部名称（クラシック表示） P.74
各部名称（エンハンス表示） P.75
メーター P.76

警告灯・表示灯

警告灯の表示位置（クラシック表示） P.81
警告灯の表示位置（エンハンス表示） P.82
表示灯の表示位置（クラシック表示） P.83
表示灯の表示位置（エンハンス表示） P.84
表示灯がついたときは P.85

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） P.87
車両情報画面 P.88
アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（ショートカットメニュー） P.100
各種設定画面 P.105
タイマー設定状態確認画面 P.120
充電情報表示画面 P.120
その他の表示機能 P.121

ヘッドアップディスプレイ★

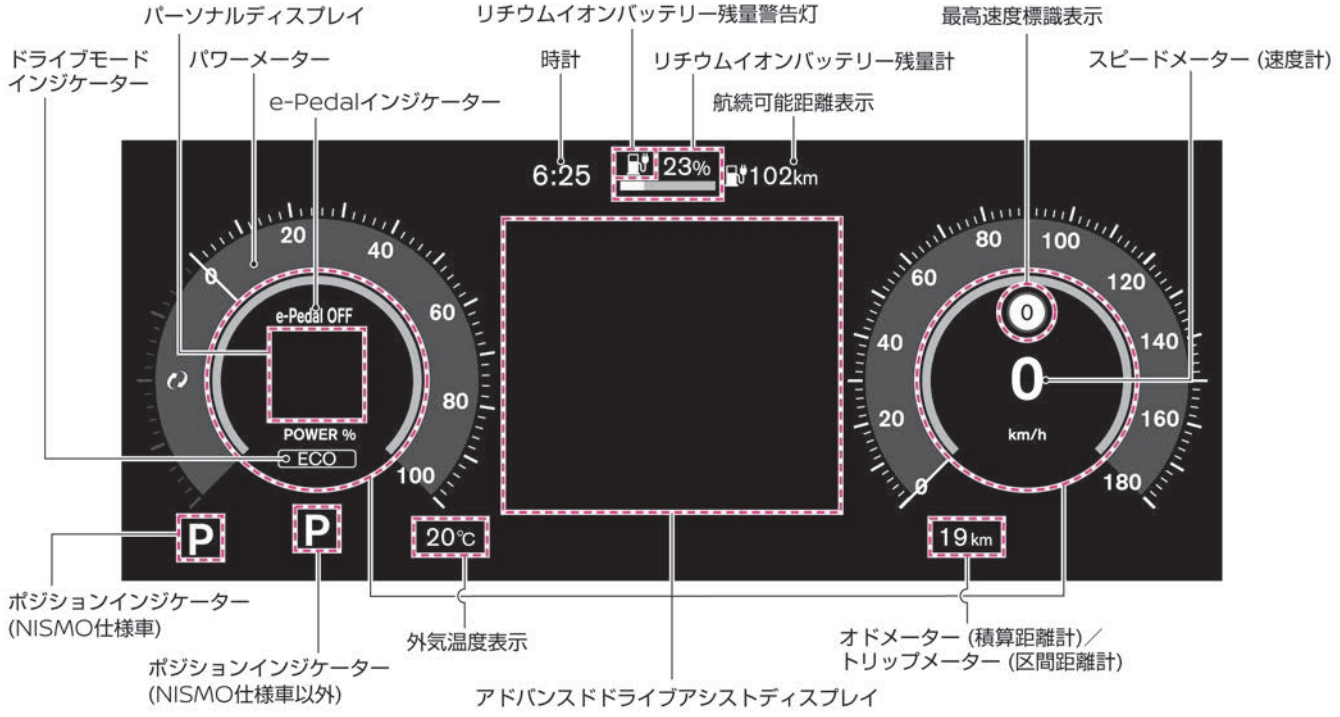
ヘッドアップディスプレイとは P.124
走行支援機能画面 P.124
各種設定画面 P.126

メーターの明るさの調節

イルミネーションコントロール P.129

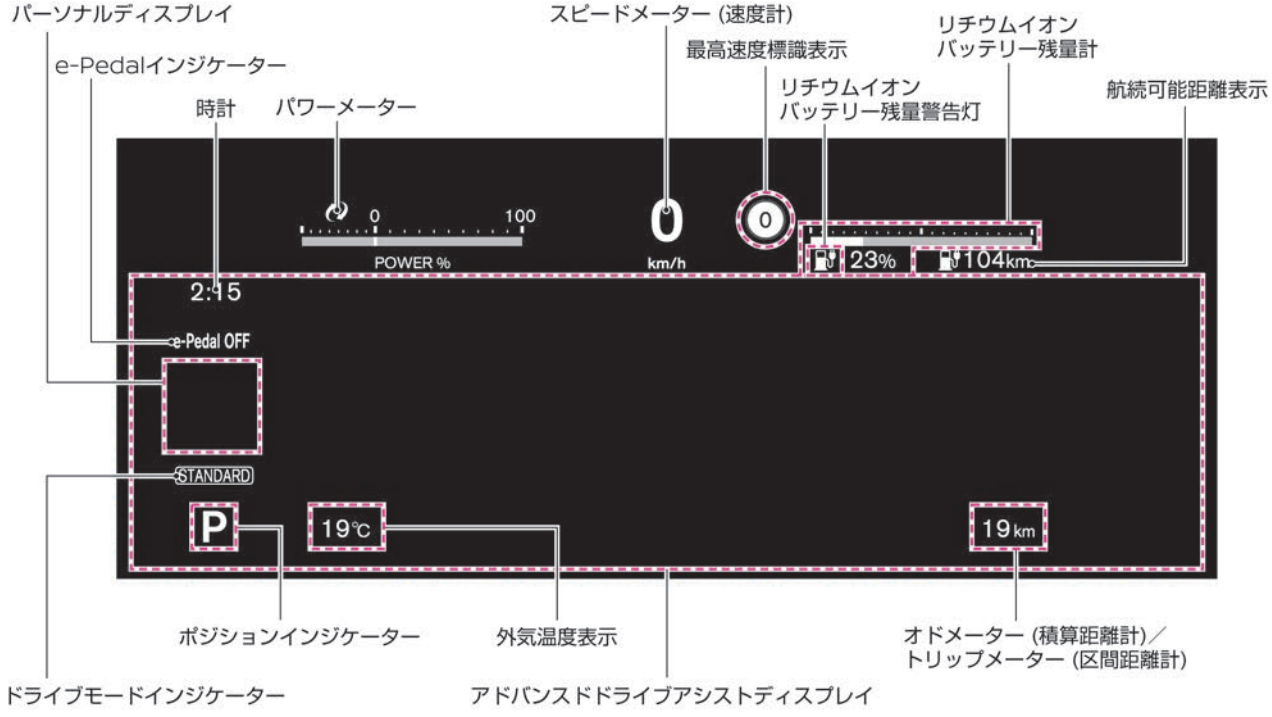
各部名称（クラシック表示）

＜パワースイッチ＞をONにすると、計器類が表示されます。＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜ ☰ ＞スイッチで［メーター画面モード変更］を選択し、＜OK＞スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。



各部名称（エンハンス表示）

＜パワースイッチ＞をONにすると、計器類が表示されます。＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜ ☰ ＞スイッチで［メーター画面モード変更］を選択し、＜OK＞スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。



メーター

メーターには、パワーメーター、リチウムイオンバッテリー残量計、航続可能距離表示などがあります。＜パワースイッチ＞をONにすると表示します。

スピードメーター（速度計）

●走行速度を表示します。

時計

●時刻を表示します。
●ナビゲーションシステムの時計と連動しており、時刻は自動的に調整されます。
●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［時計］⇒［時計設定モード］を選択すると、時刻の設定を手動に切り替えることができます。

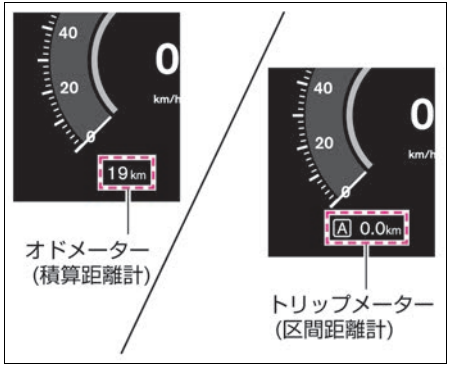
設定の詳細については時計（➔P.87）または（➔P.113）をお読みください。

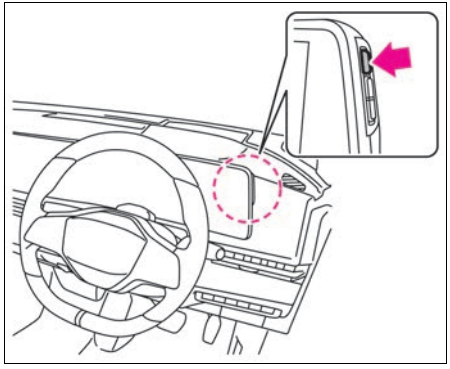
●時計は、12Vバッテリーを接続後しばらく走行すると、自動的に調整されます。
●時刻の表示は、12時間表示または24時間 表示を選択できます。

外気温度計

●外気温を表示します。
●外気温センサー取付部の温度を表示するため、実際の外気温とは異なることがあります。

オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）





●＜ODO TRIP＞スイッチを押すごとに、オドメーター⇒トリップメーター［A］⇒トリップメーター［B］⇒オドメーターの順に切り替わります。

オドメーター（積算距離計）

●総走行距離をkmで表示します。

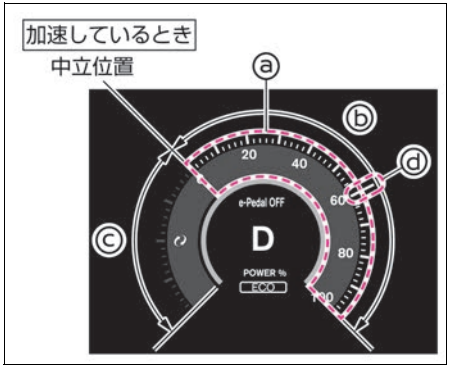
トリップメーター（区間距離計）

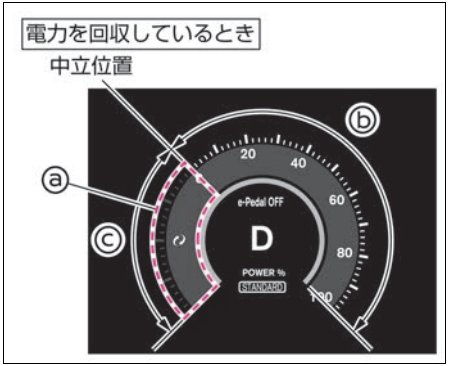
●リセットしてからの走行距離をkmで表示します。［A］と［B］でそれぞれ使い分けることができます。
●［A］または［B］のどちらかリセットしたい方を表示し、＜ODO TRIP＞スイッチを1秒以上押すとリセットされます。
●12Vバッテリーを外したときは、トリップメーターの［A］と［B］の記憶が消去され0に戻ります。

パワーメーター（クラシック表示）

走行中の出力（加速力）と回生量（電力の回収量）を表示します。

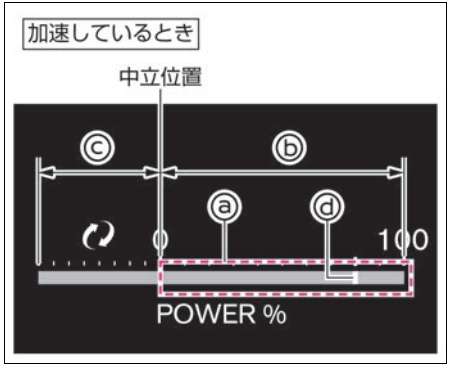
エンハンス表示に切り替えができます。

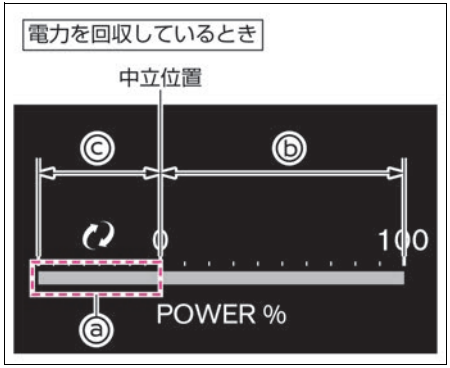




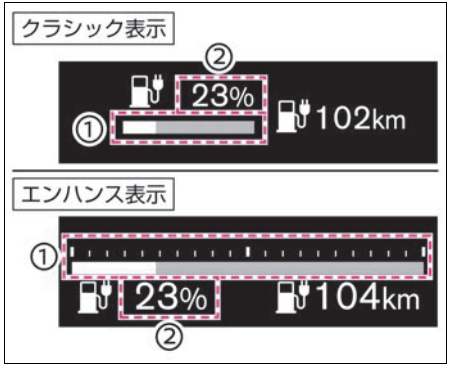
- 加速しているときは、ゲージⓐが中立位置から右側ⓑに表示されます。ゲージⓐが右側ⓑに多くなるほど、加速力が強くなっていることを表します。
- 電力を回収しているときは、ゲージⓐが中立位置から左側ⓒに表示されます。ゲージⓐが左側ⓒに多くなるほど、多くの電力を回収していることを表します。
- 出力が制限されると、ⓓのようなガイダンスが表示されます。中立位置からⓓまでの範囲内でⓐが点灯します。（中立位置から左側ⓒの方向にはガイダンスは表示されません）
- 次の場合、出力が制限され、ⓓの点灯範囲が狭くなります。
  - リチウムイオンバッテリーの温度が極端に高いまたは低いとき
  - 走行用モーターの温度が高いとき
  - リチウムイオンバッテリーの残量が低下しているとき
  - 満充電のときは、これ以上回生することができないため右側ⓑのみ点灯します

パワーメーター（エンハンス表示）



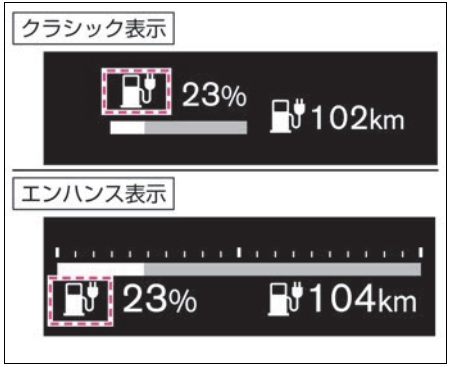


リチウムイオンバッテリー残量計



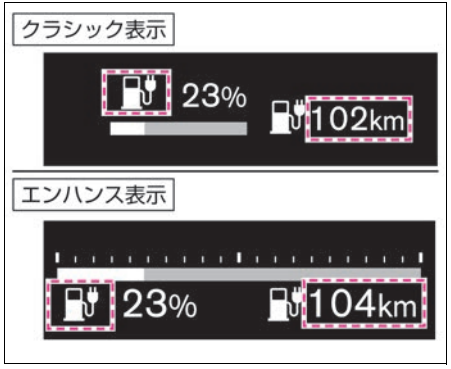
- ①は現在のリチウムイオンバッテリーの残量をゲージで表示します。
- ②は現在のリチウムイオンバッテリーの残量を%で表示します。
- リチウムイオンバッテリーの温度によって、リチウムイオンバッテリー残量が増減することがあります。

リチウムイオンバッテリー残量警告灯



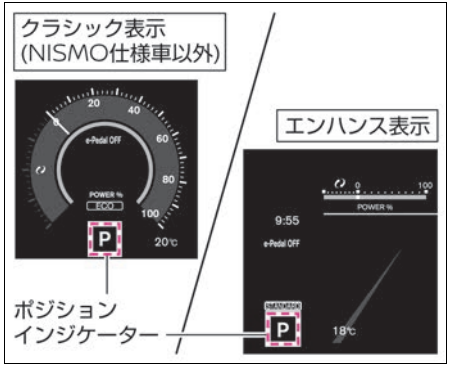
- リチウムイオンバッテリーの残量が低下すると、黄色く点灯します。

航続可能距離表示



- 現在のリチウムイオンバッテリーの残量で走行できるおおよその距離を表示します。
- 表示される距離は、直前の平均電費と現在のリチウムイオンバッテリーの残量から算出します。
- リチウムイオンバッテリー残量警告灯［ ］が黄色く点灯後も充電せずに走行を続けると、距離表示が［---］に変わります。
- 充電直後に表示される航続可能距離は、充電前の平均電費から算出されます。リチウムイオンバッテリーが満充電であっても平均電費により表示される航続可能距離が異なることがあります。
- 外気温が極端に低いときや、長い上り坂を走行した直後は、表示される距離が大幅に減少することがあります。

ポジションインジケーター



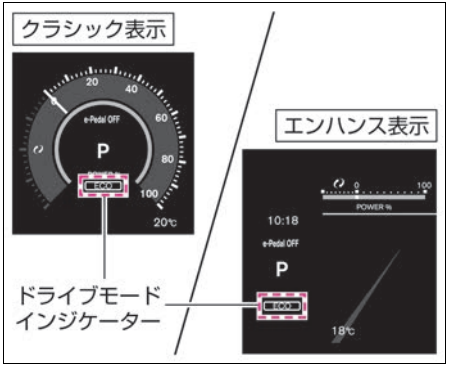


- セレクトレバーのシフトポジションを表示します。
  セレクトレバーの操作 (P.187)
  - 適正な位置からずれていると、ポジションインジケーターが点滅します。
- パーソナルディスプレイでシフトポジションを選択しているときは、パーソナルディスプレイ側にポジションインジケーターが表示されます。
  パーソナルディスプレイ (P.80)

アドバイス

- 12Vバッテリー電圧低下、および12Vバッテリーあがりにより電装品への電源供給が停止されると、ポジションインジケーターが消灯する場合があります。その場合はⓅスイッチを押してシフトポジションを**P**にしてください。

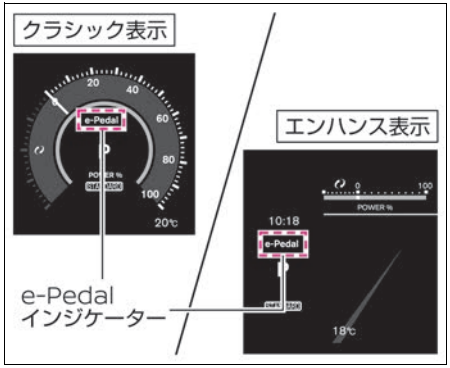
ドライブモードインジケーター



- 現在選択されているドライブモードが表示されます。 ドライブモードは次のモードがあります。
  - SPORT（NISMO仕様車以外）／NISMO（NISMO仕様車）
  - STANDARD
  - ECO
  - SNOW★

➔ ドライブモードセレクター (P.205)

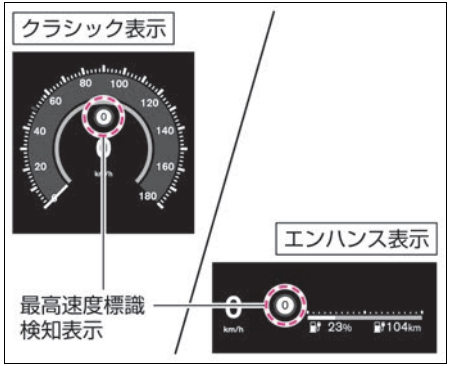
e-Pedal インジケーター



- ＜e-Pedal＞スイッチを押してe-Pedal StepをONにすると［e-Pedal］と表示し、e-Pedal StepがOFFのときは、［e-Pedal OFF］と表示します。

➔ e-Pedal Step (P.204)

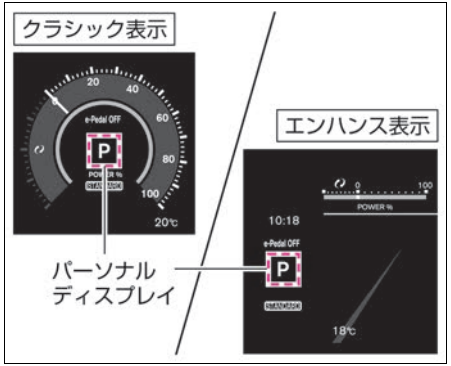
最高速度標識検知表示



- フロントガラス上部にあるマルチセンシングフロントカメラにより最高速度標識を検知し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［標識検知支援］⇒［制限速度標識］を選択すると、機能のON・OFFを切り替えることができます。

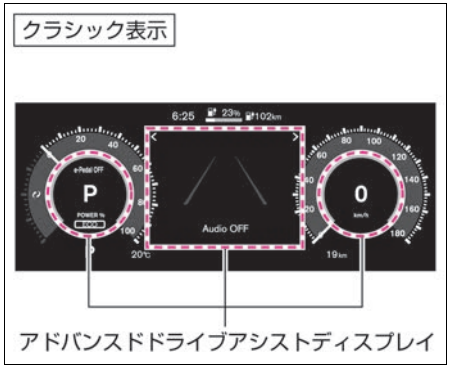
設定の詳細については、運転支援（➔P.87）または（➔P.106）をお読みください。

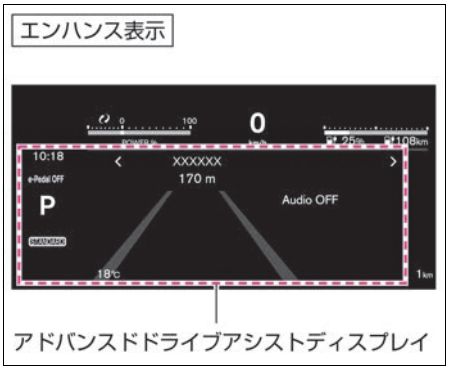
パーソナルディスプレイ



●パーソナルディスプレイで設定した項目を表示します。
➔パーソナルディスプレイ (P.110)

アドバンスドドライブアシストディスプレイ



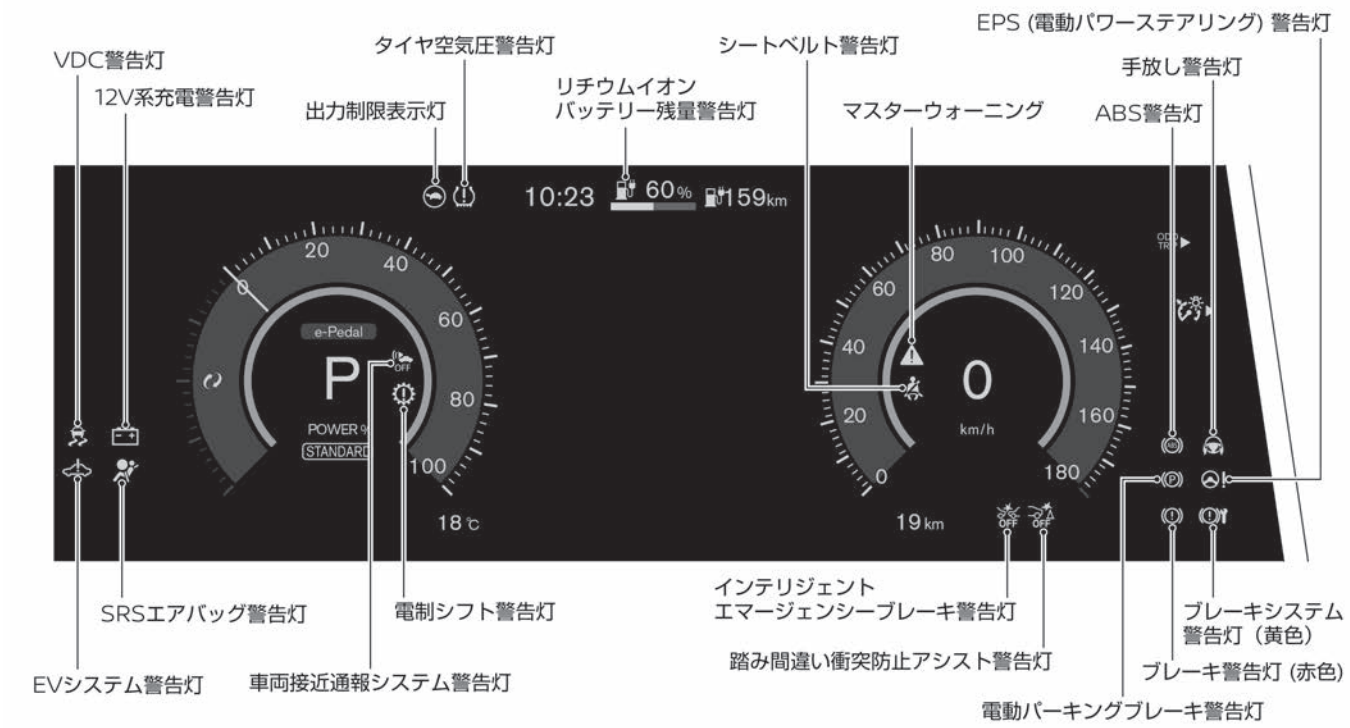


●アドバンスドドライブアシストディスプレイで、様々な機能の作動状態を表示したり、設定したりすることができます。

アドバンスドドライブアシストディスプレイについては、（➔P.87）をお読みください。

警告灯の表示位置（クラシック表示）

次のイラストは、説明のためすべての警告灯を表示しています。通常は警告すべき事象がおこったときに該当の警告灯のみ点灯または点滅します。＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜ ☰ ＞スイッチで［メーター画面モード変更］を選択し、＜OK＞スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。

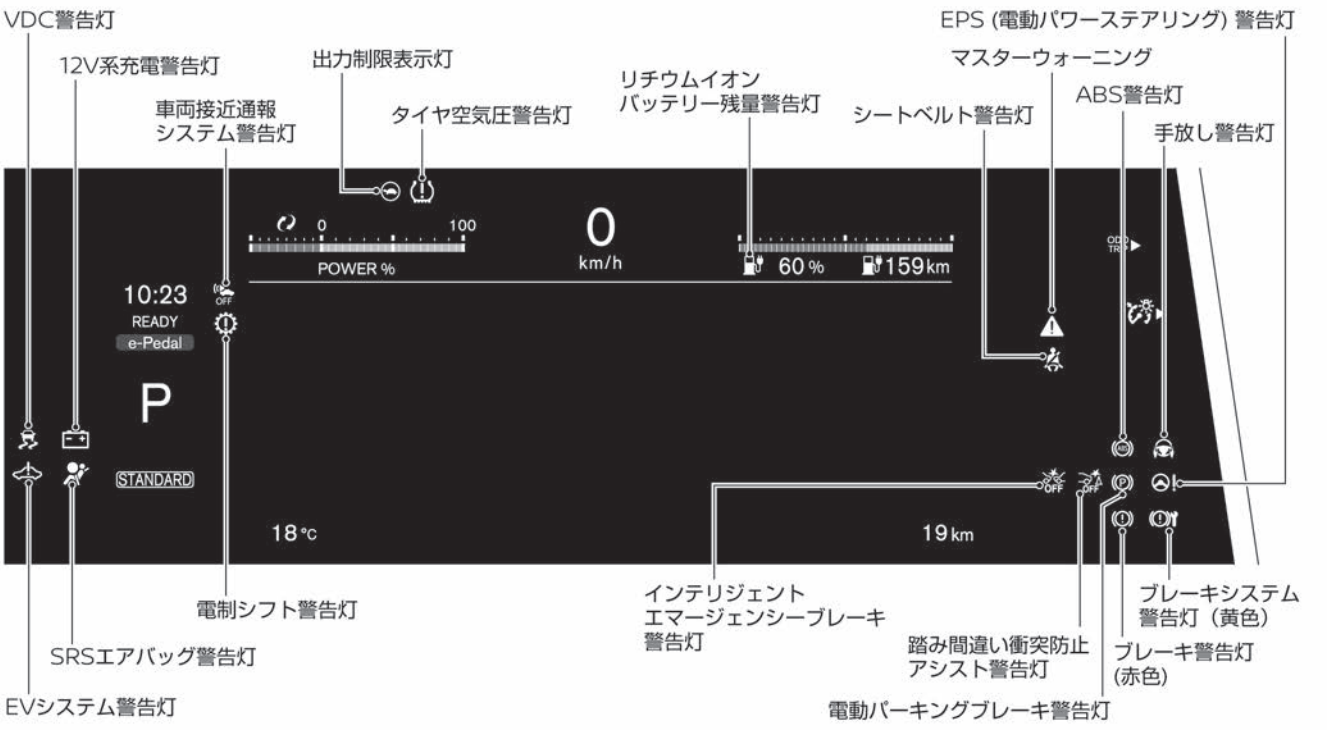


各警告灯については、（➔P.373）をお読みください。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯の表示位置（エンハンス表示）

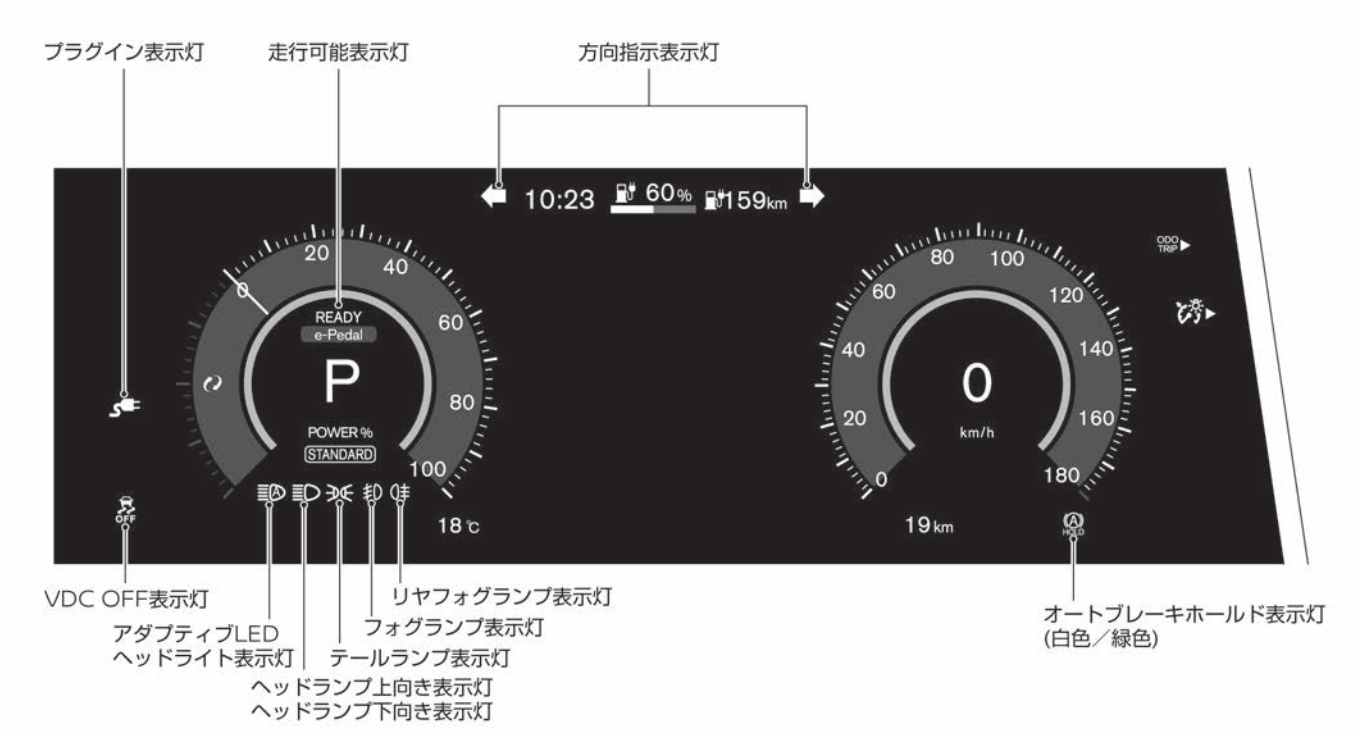
次のイラストは、説明のためすべての警告灯を表示しています。通常は警告すべき事象がおこったときに該当の警告灯のみ点灯または点滅します。<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの< ☰ >スイッチで［メーター画面モード変更］を選択し、<OK>スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。



各警告灯については、（➔P.373）をお読みください。

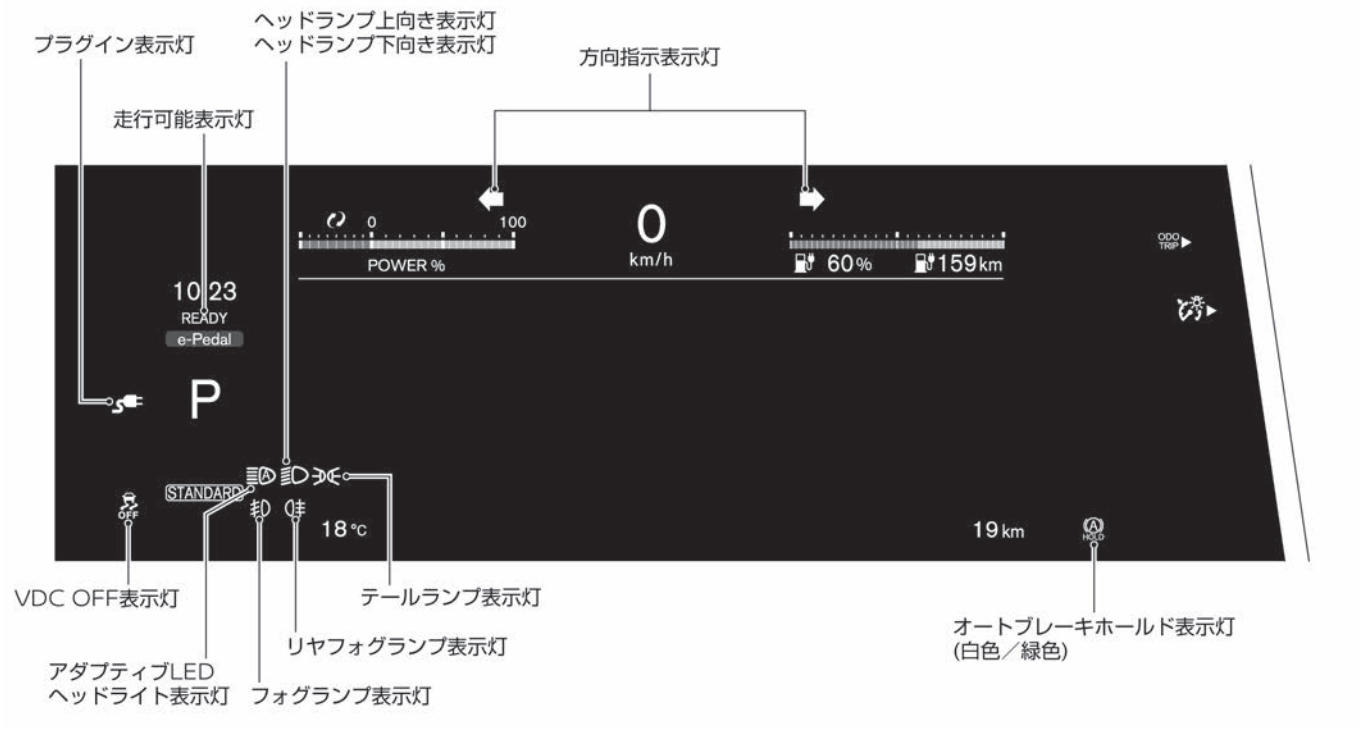
表示灯の表示位置（クラシック表示）

次のイラストは、説明のためすべての表示灯を表示しています。通常は事象がおこったときに該当の表示灯のみ点灯または点滅します。＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜ ☰ ＞スイッチで［メーター画面モード変更］を選択し、＜OK＞スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。



表示灯の表示位置（エンハンス表示）

次のイラストは、説明のためすべての表示灯を表示しています。通常は事象がおこったときに該当の表示灯のみ点灯または点滅します。＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜ ☰ ＞スイッチで［メーター画面モード変更］を選択し、＜OK＞スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。



表示灯がついたときは

表示灯は、何らかのシステムが作動していることなどをお知らせするものです。点灯または点滅している理由は、次の説明をお読みください。警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	方向指示表示灯	● <非常点滅表示灯スイッチ>を押すと左右同時に点滅します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、方向指示器を作動させると、作動させた側のみ点滅します。	● 点滅が速くなった場合は、日産販売会社で点検を受けてください。 ➔方向指示器の使いかた (P.198)
	ヘッドランプ上向き表示灯	● ヘッドランプのハイビーム（上向き）を点灯させると点灯します。	➔ハイビーム（上向き）への切り替えかた (P.197)
	ヘッドランプ下向き表示灯	● ヘッドランプのロービーム（下向き）を点灯させると点灯します。	➔ライトスイッチの使いかた (P.194)
	テールランプ表示灯	● 車幅灯、尾灯、番号灯を点灯させると点灯します。	➔ライトスイッチの使いかた (P.194)
	フォグランプ表示灯	● フォグランプを点灯させると点灯します。	➔フォグランプの使いかた (P.199)
	リヤフォグランプ表示灯★	● リヤフォグランプを点灯させると点灯します。	➔リヤフォグランプの使いかた★ (P.199)
	VDC OFF表示灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、VDCをOFFにしていると点灯します。	➔VDC（ビークルダイナミクスコントロール） (P.207)

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

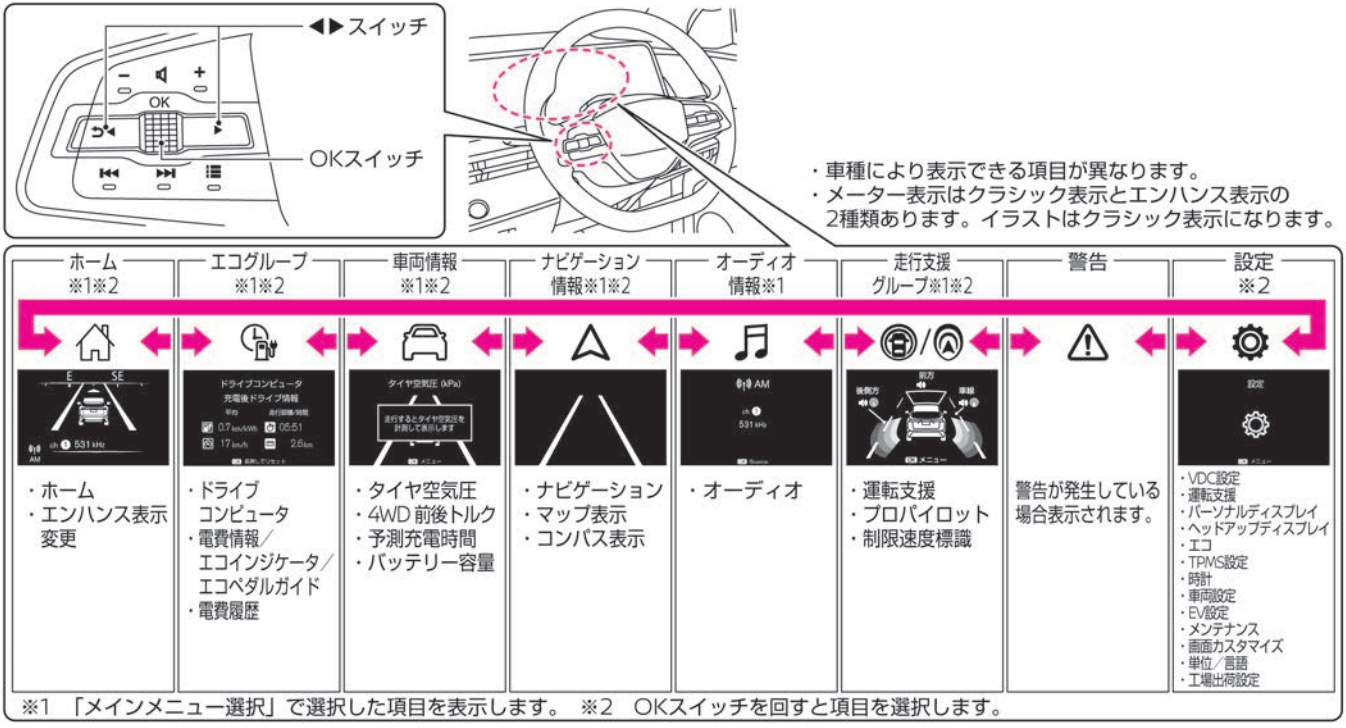
警告灯・表示灯

表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	アダプティブLEDヘッドライト表示灯	● アダプティブLEDヘッドライトシステムをONにすると点灯します。	➔アダプティブLEDヘッドライトシステム (P.196)
	オートブレーキホールド表示灯（白色）	● オートブレーキホールド機能が待機状態のとき白色に点灯します。	➔オートブレーキホールド (P.189)
	オートブレーキホールド表示灯（緑色）	● オートブレーキホールド機能が作動しているとき緑色に点灯します。	➔オートブレーキホールド (P.189)
	プラグイン表示灯	● 充電コネクタを接続すると点灯し、充電中は点滅します。 ● V2H給電中またはV2L給電中は点灯します。	● 充電コネクタを接続しても点灯しないときや、充電中に点滅しないときは、日産販売会社で点検を受けてください。
	走行可能表示灯	● 走行できる状態になると点灯します。（走行中も点灯し続けます。）	-

メーターの見かた

アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）

アドバンスドドライブアシストディスプレイで、様々な機能の作動状態を表示したり、設定したりすることができます。＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜◀▶＞スイッチを押すと、ホーム、エコグループ、車両情報、ナビゲーション情報、オーディオ情報、走行支援グループ、警告、設定の順で表示項目が切り替わります。車種またはソフトウェア自動更新などにより表示できる項目が異なる場合があります。



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

車両情報画面

様々な車両情報を表示したり、各種設定をしたりすることができます。

ホーム

<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチでホーム［ ］を選択し、<OK>スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（P.87）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	ホーム	● 次の情報を表示します。 — オーディオ情報 — ナビゲーションシステム情報	● オーディオやナビゲーションシステムの使用状況によって、表示される項目は変わります。
	エンハンス表示変更	● エンハンス表示のタイプを切り替えます。 ● ［メインメニュー選択］で［表示なし］を選択すると表示されます。	● クラシック表示のときは表示されません。

エコグループ

＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜◀▶＞スイッチでエコグループ［ ］を選択し、＜OK＞スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➲P.87）をお読みください。

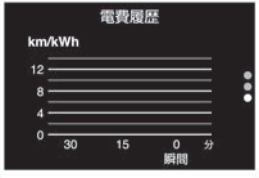
アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	ドライブコンピュータ	● ドライブコンピュータを表示します。ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すと［ドライブ情報1］、［ドライブ情報2］、［充電後ドライブ情報］の順で画面が切り替わります。 表示している情報をリセットするときは、リセットしたい画面を表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを長押しします。その後リセットメニューからリセットする項目を選択し、再度ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、［はい］を選択し、再度ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すとリセットされます。 画面の切り替えかたについては（➲P.87）をお読みください。	● ［ドライブコンピュータ］の項目 — 平均電費 — 平均車速 — 走行距離 — 走行時間 ● ドライブコンピュータの平均電費をリセットすると、電費情報の平均電費もリセットされます。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

画面表示	項目	概要	詳細説明
 	電費情報／エコインジケータ／エコペダルガイド	● ドライブモードがECO以外のときは、平均電費、瞬間電費を表示します。 ● ドライブモードがECOのときは、平均電費、エコインジケータ、エコペダルガイドを表示します。 ● ①リセットしてからの平均電費を表示します。ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すと［ドライブ情報1］、［ドライブ情報2］、［充電後ドライブ情報］の順で画面が切り替わります。 表示している情報をリセットするときは、リセットしたい画面を表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを長押しします。その後リセットメニューからリセットする項目を選択し、再度ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、［はい］を選択し、再度ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すとリセットされます。 画面の切り替えかたについては（➲P.87）をお読みください。 ● ②現在の瞬間電費を表示します。 ● ③アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［エコ］⇒［エコ情報設定］⇒［エコインジケータ］の設定をONにしているとき、アクセルペダル操作に応じてエコインジケータが3段階で点灯します。 ● ④走行しているとき、アクセルペダルの踏み加減を表示します。	● 平均電費は、12Vバッテリー交換後やリセット後は［---］と表示します。 ● 平均電費は約30秒ごとに更新されます。 ● 平均電費をリセットすると、ドライブコンピュータの平均電費も連動してリセットされます。 ● エコインジケータ、エコペダルガイドの詳細については、エコインジケータ（➲P.91）、エコペダルガイド（➲P.91）お読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

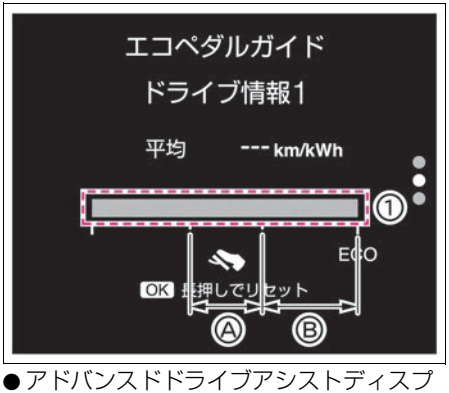
画面表示	項目	概要	詳細説明
	電費履歴	● 5分ごとの平均電費を、最大60分前まで棒グラフで表示します。 ● クラシック表示は30分、エンハンス表示は60分で表示されます。	-

■ エコインジケータ



- アドバンスドドライブアシストディスプレイでエコペダルガイドを表示して走行しているとき、アクセルペダル操作に応じてエコインジケータ①が3段階で点灯します。
- エコドライブするほど、点灯範囲が大きくなります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［エコ］⇒［エコ情報設定］⇒［エコインジケータ］を選択すると、エコインジケータのON・OFFを切り替えられます。
  設定の詳細については、（➔P.112）をお読みください。
- シフトポジションがRのときは、点灯しません。

■ エコペダルガイド

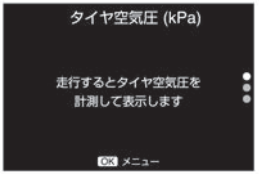
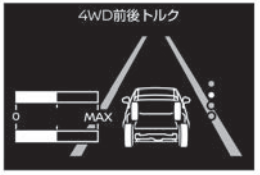
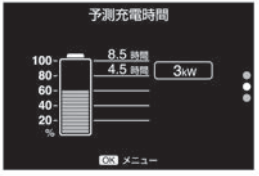


- アドバンスドドライブアシストディスプレイでエコペダルガイドを表示して走行しているとき、アクセルペダルの踏み加減を①に表示します。
- アクセルペダルの踏み加減をエコ運転領域Ⓐに入るように調整することで、電費向上につながります。
  アクセルペダルの踏み加減をⒷの範囲内に調整することでさらなる電費向上につながります。
- シフトポジションがRのときは、点灯しません。

車両情報

<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◀▶>スイッチで車両情報［🚗］を選択し、<OK>スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.87）をお読みください。

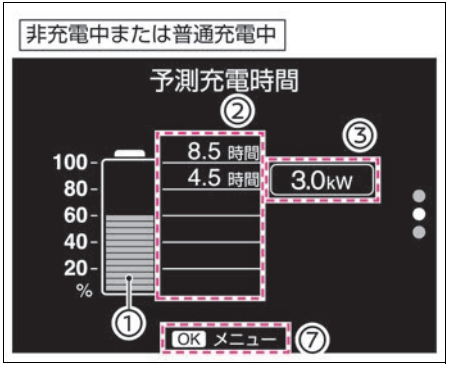
アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［⚙］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

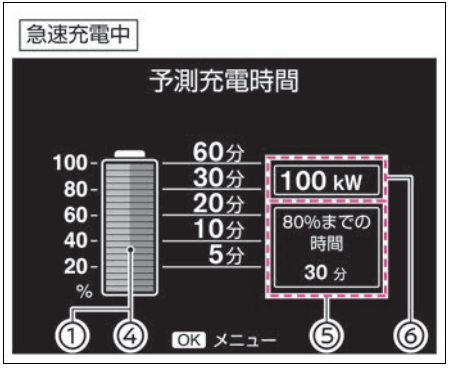
画面表示	項目	概要	詳細説明
	タイヤ空気圧	● 走行中のタイヤ空気圧を表示します。 ● この画面を表示中にステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すとTPMS（タイヤ空気圧警報システム）の設定を変更できます。 TPMS設定については（➔P.113）、タイヤ空気圧警報システムについては（➔P.430）をお読みください。	● タイヤ空気圧は走行中に計測されるため、<パワースイッチ>をONにしてから25km/h以上で走行しデータを取得するまでは、［走行するとタイヤ空気圧を計測して表示します］というメッセージが表示され、タイヤ空気圧は表示されません。
	4WD 前後トルク★	● 走行中の前後輪への伝達駆動力を表示します。	● 出力時は白色、回生時は青色で表示されます。
	予測充電時間	● 充電完了までにかかる充電時間の目安を表示します。	● <パワースイッチ>をONにした直後は、実際にかかる時間が表示されるまで約1分かかります。また、充電が開始した直後や停止した直後は、実際にかかる時間と異なることがありますが、しばらくすると正しい時間に修正されます。 詳しくは、（➔P.93）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

画面表示	項目	概要	詳細説明
	バッテリー容量	● リチウムイオンバッテリーの容量を表示します。	● リチウムイオンバッテリーの経年数などにより蓄電能力が低下すると、目盛りが右側から順に減少します。

■ 予測充電時間について





●アドバンスドドライブアシストディスプレイの［充電時間表示設定］で選択されている充電電力値の予測充電時間が表示されます。

設定の詳細については、EV設定をお読みください。

➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)

➔EV設定 (P.116)

① 現在のリチウムイオンバッテリーの残量を表示します。

② 各%までの予測充電時間を表示します。（20%、40%、60%、80%、100%）

③ 普通充電中は実際の充電設備側の充電可能電力を表示します。

④ 今回の急速充電終了時に達していると予測される充電量を表示します。

⑤ **④の充電量が80%以下のとき**
急速充電終了までの目安時間を表示します。

④の充電量が80%より多いとき
80%に達するまでの予測充電時間を表示します。

現在充電量が80%以上のとき
非表示（非表示になったあとは、現在充電量が75%より低くなると再表示します）

⑥ 急速充電中の実際の充電電力値を表示します。

⑦ 非充電中に＜OK＞スイッチを押すと、［充電時間表示設定］に移行します。表示したい充電電力値を選んでください。なお、充電中は選択できません。

設定の詳細については、EV設定をお読みください。

➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)

➔EV設定 (P.116)

- 各%の予測充電時間②は、非充電中（タイマー充電待機状態含む）はメーター設定電力で計算され、充電中は実際の電力に基づく時間になります。
- 各%の予測充電時間②は現時点の予測値であり、車両状態や充電状態により、実際の充電時間は変化します。寒冷時は、予測充電時間より実際の充電時間が長くなることがあります。
- 充電中は、現在充電中の充電電力値で予測充電時間が計算され②に表示されます。
- 充電停止時は、現在選択されている充電電力値の表示に戻ります。
- 充電中に、電源が停止（コンセント抜きなど）すると現在選択されている充電電力値の表示に戻ります。
- 現在のリチウムイオンバッテリー残量が、各%を越えた時点で、予測充電時間②がブランク表示になります。
- 満充電付近は、すべての予測充電時間がブランク表示になります。
- 予測充電時間が24時間以上の場合は、［24時間以上］と表示されます。
- 普通充電の電力値③は、接続された充電ケーブルによる充電可能電力（実際の充電設備側の充電可能電力）が表示されます。
  急速充電の電力値⑥は、充電中に実際の電力が表示されます。
- 普通充電器（壁掛型）の種類によっては、充電電力が可変に制御されるものがあり、その場合は予測充電時間が正確に見積もれないため、実際の充電時間と異なる場合があります。
- 急速充電終了までの目安時間⑤は現時点の予測時間であり、車両状態や充電状態により、実際の充電終了時間は変化します。
- リチウムイオンバッテリー残量が100%を表示していても、充電が継続される場合があります。
- 充電器本体に充電終了までの残り時間が表示される場合、車両が計算する充電終了までの目安時間となっており、実際の値と異なることがあります。また、充電器の規格対応バージョンが古い場合、正しい値が表示されないことがあります。

ナビゲーション情報

＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜◀▶＞スイッチでナビゲーション情報［ △ ］を選択し、＜OK＞スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➲P.87）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	ナビゲーション	● ナビゲーションシステムで目的地を設定していると、ナビゲーションシステムと連動し、次の右左折までの距離などを表示します。 ● 目的地を設定していないときは、表示されません。 ● エンハンス表示のときは、表示されません。	● ナビゲーションシステムの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
	マップ表示	● ナビゲーションシステムで目的地を設定していると、ナビゲーションシステムと連動し、ルートガイドを表示します。	
	コンパス表示	● コンパス（車両の進行方位）を表示します。	-

オーディオ情報

<パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの<◄►>スイッチでオーディオ情報［ ♫ ］を選択します。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.87）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	オーディオ	● 現在使用中のオーディオ情報を表示します。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチの<OK>スイッチを押すと、オーディオの種類を切り替えることができます。	● オーディオの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

走行支援グループ（表示項目）

＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜◀▶＞スイッチで走行支援グループ［🚗］/［ 🚗 ］を選択し、＜OK＞スイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.87）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［メインメニュー選択］で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	運転支援	● 運転支援システムのON･OFF状態を表示します。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すと、走行支援システムのメニュー画面を表示し、各システムのON・OFFを設定できます。詳しくは運転支援（➔P.106）の中の該当項目をお読みください。	● 詳しくは、各走行支援システムの説明をお読みください。 — ➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.264) — ➔BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム） (P.275) — ➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） (P.283) — ➔インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.287)
	プロパイロット	● プロパイロットの作動状態を表示します。ステアリングスイッチの＜プロパイロットスイッチ＞を押すと、運転支援画面を表示してから数秒後にプロパイロット画面に切り替わります。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すと、プロパイロットのメニュー画面を表示し、車線維持機能（ハンドル支援）およびルート走行支援のON･OFFを設定できます。	● プロパイロットについては、（➔P.217）をお読みください。 ● ブレーキランプが点灯しているときは、 メーター内のブレーキランプも点灯しま す。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

画面表示	項目	概要	詳細説明
	制限速度標識	● 最高速度標識／はみ出し通行禁止標識の検知状態を表示します。	● 最高速度標識検知／はみ出し通行禁止標識検知については、 （P.294）をお読みください。

警告

●**警告について**

●異常を検知するとマスターウォーニング［ ⚠ ］が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告を表示します。
警告を一時的に消すときは、＜OK＞スイッチを押します。

●警告が表示されたときは、すみやかに適切な処置をしてください。放置すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

確認のしかた

異常を検知している場合は、＜パワースイッチ＞がONのときにステアリングスイッチの＜◀▶＞スイッチで、警告［ ⚠ ］を選択すると、異常を検知している警告が確認できます。

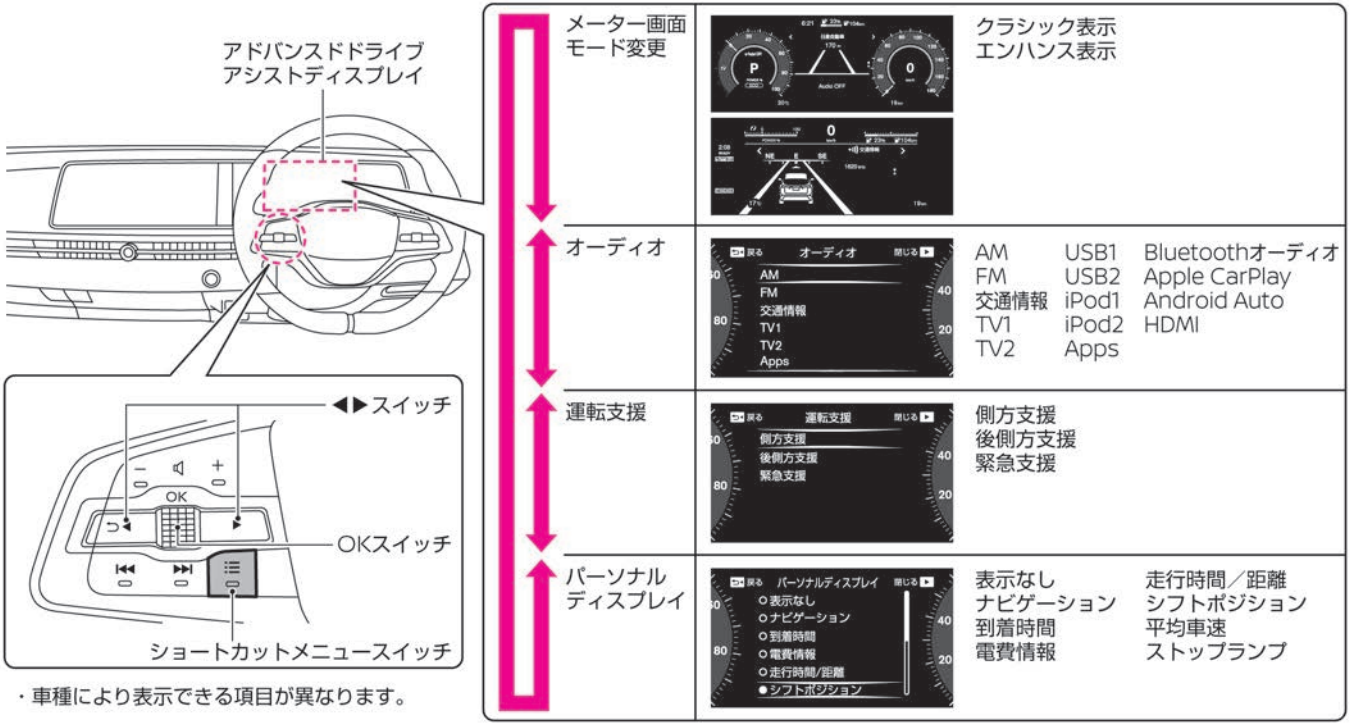
警告メッセージの表示画面については、（➔P.385）をお読みください。

ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.87）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（ショートカットメニュー）

＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜ ☰ ＞スイッチを押すと、よく使用する設定項目画面をすばやく表示することができます。メーター画面モード変更、オーディオ、運転支援、パーソナルディスプレイのいずれかの表示項目を選択できます。

画面の切り替えかた（ショートカットメニュー）

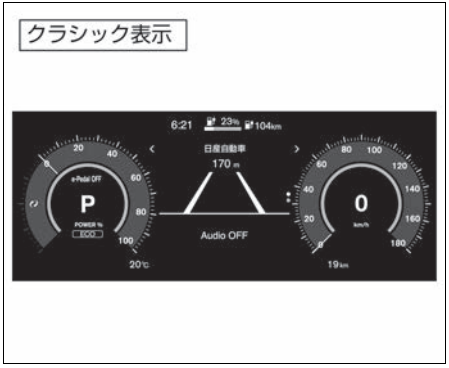


・車種により表示できる項目が異なります。

メーター画面モード変更

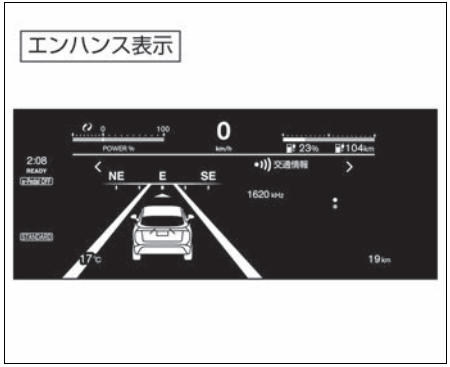
● <パワースイッチ>がONのとき、ステアリングスイッチの< ☰ >スイッチを押してから［メーター画面モード変更］を選択し、<OK>スイッチを押すと表示画面が切り替わります。なおメーター表示は、クラシック表示とエンハンス表示の2種類あります。
ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.87）をお読みください。

クラシック表示



左側にパワーメーター、右側にスピードメーター（速度計）が大きく表示される画面です。

エンハンス表示



左右のアナログメーター表示をデジタル表示化および移動して、中央のアドバンスドドライブアシストディスプレイを拡大した画面です。

オーディオ

ステアリングスイッチの< ☰ >スイッチを押してから<OK>スイッチを回して［オーディオ］を選択し、<OK>スイッチを押して決定することができます。

● 項目1	● 詳細説明
AM	オーディオの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
FM	
交通情報	
TV1	
TV2	
USB1	
USB2	
iPod1	
iPod2	
Apps	
Bluetoothオーディオ	
Apple CarPlay	
Android Auto	
HDMI	

●機器接続状況により表示は異なります。

運転支援

●ステアリングスイッチの< ☰ >スイッチを押してから<OK>スイッチを回して［運転支援］を選択し、<OK>スイッチを押して決定することができます。

項目 1	項目 2	詳細説明
側方支援	車線逸脱警報	● 設定の詳細については、設定［ ⚙ ］（各種設定画面）の運転支援をお読みください。 ➔ 運転支援 (P.103)
	車線逸脱防止支援	
	ステア振動	
後側方支援	後側方車両検知警報	
	後側方衝突防止支援	
緊急支援	前方衝突防止支援	
	踏み間違い衝突防止支援	

パーソナルディスプレイ

ステアリングスイッチの< ☰ >スイッチを押してから<OK>スイッチを回して［パーソナルディスプレイ］を選択し、<OK>スイッチを押して決定することができます。

項目 1	項目 2	詳細説明
表示なし		● 設定の詳細については、設定［ ⚙ ］（各種設定画面）のパーソナルディスプレイをお読みください。 ➔ パーソナルディスプレイ (P.110)
ナビゲーション		
到着時間		
電費情報	ドライブ情報1	
	ドライブ情報2	
	充電後ドライブ情報	
走行時間/距離	ドライブ情報1	
	ドライブ情報2	
	充電後ドライブ情報	
シフトポジション		
平均車速	ドライブ情報1	
	ドライブ情報2	
	充電後ドライブ情報	
ストップランプ		

各種設定画面

運転支援システムのON・OFF設定をはじめ、時計の調整やアラームの設定などができます。

ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.87）をお読みください。

設定（各種設定画面）

各種設定画面では、次の機能の設定ができます。ステアリングスイッチの＜◀▶＞スイッチで設定［ ⚙ ］を表示し、＜OK＞スイッチを押して設定画面を表示させ＜OK＞スイッチを回して選択します。＜OK＞スイッチを押して決定することができます。

➔設定例1（メインメニュー選択） (P.119)

➔設定例2（タイヤ） (P.120)

■ VDC設定

項目	機能
システム	● VDC機能のON･OFFを設定します。 ➔VDCのON･OFFのしかた (P.208)

■ 運転支援

項目1	項目2	機能
インテリジェントクルーズ	ルート減速支援	**プロパイロット（ナビリンク機能付）付車** ● プロパイロット（ナビリンク機能付）のルート減速支援機能のON･OFFを設定します。 ルート減速支援機能について（➔P.234） **プロパイロット2.0付車** ● プロパイロット2.0の車速・車間制御機能の、ルート減速支援機能のON･OFFを設定します。 カーブを走行するとき（➔P.234） ● ルート減速支援機能をOFFにしても、下記の設定がONの場合はカーブでの減速が作動します。 設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［車線維持支援］⇒［ハンドル支援］
	制限速度支援	**プロパイロット（ナビリンク機能付）付車** ● 標識検知機能で検出した速度をプロパイロット（ナビリンク機能付）の設定車速に反映させる機能のON（［手動］／［自動］）・OFFを設定します。 制限速度支援機能について（➔P.235） **プロパイロット2.0付車** ● 標識検知機能で検出した速度をプロパイロット2.0の設定車速に反映させる機能のON（［手動］／［自動］）・OFFを設定します。 標識検知機能により新しい速度標識を検出したとき（➔P.235）
	制限速度支援設定	● 標識検知機能で検出した速度を、プロパイロットの設定車速に反映させるときのオフセット速度を選択します。 ― -10km/h～+10km/hまでの範囲内で速度を設定できます。 制限速度支援機能について（➔P.235） 標識検知機能により新しい速度標識を検出したとき（➔P.235）

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

項目1	項目2	機能
車線維持支援	ハンドル支援	● 車線維持機能（ハンドル支援）のON･OFFを設定します。 車線維持機能（ハンドル支援）について（➔P.237）
	ハンズオフモード（プロパイロット2.0付車）	● 車線維持機能（ハンドル支援）のハンドルを離して走行する機能のON･OFFを設定します。 車線維持機能（ハンドル支援）（プロパイロット2.0付車）（➔P.238）
車線変更支援（プロパイロット2.0付車）	ルート走行支援	● ルート走行支援機能のON・OFFを設定します。 ルート走行支援機能について（➔P.252）
	ルート走行支援モード	● ルート走行支援機能の［連続］/［単一］を選択します。 連続：複数車線を連続した車線変更の提案、支援をします。 単一：1車線毎に車線変更の提案、支援をします。 ルート走行支援機能について（➔P.252）
	方向指示器スイッチ連動	● 車線変更支援機能の方向指示器との連動のON・OFFを設定します。 車線変更支援機能について（➔P.244）
	追い越し支援	● 追い越し支援機能のON・OFFを設定します。 追い越し支援機能について（➔P.247）
	追い越し支援判断	● 追い越し支援の判断を、［スポーツ］/［標準］/［コンフォート］から選択します。 追い越し支援機能について（➔P.247）
側方支援	車線逸脱警報	● LDW（車線逸脱警報）のON・OFFを設定します。 ➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）(P.283)
	車線逸脱防止支援	● インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）のON・OFFを設定します。 ➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）(P.283)
	ステア振動	● ハンドルの振動を、［大］、［中］、［小］から選択します。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

項目 1	項目 2	機能
後側方支援	後側方車両検知警報	● BSW（後側方車両検知警報）のON・OFFを設定します。 ➔BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム） (P.275)
	後側方衝突防止支援	● インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）のON･OFFを設定します。 ➔BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム） (P.275)
緊急支援	前方衝突防止支援	● インテリジェント エマージェンシーブレーキ、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）のON・OFFを設定します。 ➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.264) ➔インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.287)
	踏み間違い衝突防止支援	● 踏み間違い衝突防止アシストのON･OFFを設定します。 ➔踏み間違い衝突防止アシスト (P.269)
標識検知支援	制限速度標識	● 最高速度標識検知／はみ出し通行禁止標識検知のON・OFFを設定します。 ➔標識検知機能 (P.294)
	道路標識	● 進入禁止標識検知／一時停止標識検知のON・OFFを設定します。 ➔標識検知機能 (P.294)

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

項目1	項目2	機能
駐車支援	後退時車両検知警報	● RCTA（後退時車両検知警報）のON・OFFを設定します。 ➔RCTA（後退時車両検知警報） (P.290)
	移動物検知	● 移動物 検知のON・OFFを設定します。 移動物 検知機能について（➔P.305）
	前方ソナー	● フロントソナーのON・OFFを設定します。 ➔ソナー表示 (P.121)
	後方ソナー	● リヤソナーのON・OFFを設定します。 ➔ソナー表示 (P.121)
	ソナー検知距離	● ソナー検知距離を［遠］、［中］、［近］から選択します。障害物までの最長距離が110%（［遠］）、100%（［中］）、90%（［近］）で変更できます。 ［中］を選択したときの障害物までの最長距離は、（➔P.306）をご参照ください。 ➔ソナー表示 (P.121)
	ソナー自動表示	● 障害物に近づいたときの、割り込み表示のON·OFFを設定します。 ➔ソナー表示 (P.121)
	ソナー音量	● ボリューム（警告音（ブザー））を、［大］、［中］、［小］から選択します。 ➔ソナー表示 (P.121)
ドライバーモニター	ふらつき警報	● インテリジェント DA（ふらつき警報）のON・OFFを設定します。 ➔インテリジェント DA（ふらつき警報） (P.293)
	ドライバーモニターカメラ（プロパイロット2.0付車）	● ドライバーモニターシステムのON・OFFを設定します。 ドライバーモニターシステムについて（➔P.298）
運転支援サウンド設定	音声案内	● 運転支援の音声案内のON・OFFを設定します。
	警報音設定	● 運転支援の警報音の音量を、［大］、［中］、［小］から選択します。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

項目1	項目2	機能
走行時間	---分／---分	● 設定した時間まで連続走行したことをお知らせします。 ＜OK＞スイッチを回すと分が切り替わり、＜OK＞スイッチを押すと決定します。 — 最大360分まで設定できます — 設定時間は30分単位で切り替わります （＜◀＞スイッチを押すと設定前の画面に戻ります）
	リセット	● ［はい］を選択すると、走行した時間をリセットできます。
凍結注意		● 外気温が3℃以下になったときに表示する凍結注意表示のON･OFFを設定します。
e-Pedal	モード記憶	● e-Pedal Step機能のモード記憶のON･OFFを設定します。 ONにすると、EVシステム再始動後も、設定状態を維持できます。 ➔ e-Pedal Step（P.204）
シャシー制御	トレースコントロール	● インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）のON･OFFを設定します。 ➔ インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）について（P.209）

■ パーソナルディスプレイ

走行中は操作できません。

項目1	項目2	機能
表示なし		● パーソナルディスプレイに何も表示されません。
ナビゲーション		● パーソナルディスプレイにナビゲーションを表示します。
到着時間		● パーソナルディスプレイに到着時間を表示します。
電費情報	ドライブ情報1	● パーソナルディスプレイに電費情報を表示します。
	ドライブ情報2	
	充電後ドライブ情報	

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

項目1	項目2	機能
走行時間/距離	ドライブ情報1	● パーソナルディスプレイに走行時間/距離を表示します。
	ドライブ情報2	
	充電後ドライブ情報	
シフトポジション		● パーソナルディスプレイにシフトポジションを表示します。
平均車速	ドライブ情報1	● パーソナルディスプレイに平均車速を表示します。
	ドライブ情報2	
	充電後ドライブ情報	
ストップランプ		● パーソナルディスプレイに車両を表示します。制動灯が点灯しているときは、パーソナルディスプレイ内に表示される車両の制動灯も点灯します。

■ ヘッドアップディスプレイ★

走行中は操作できません。

項目1	項目2	機能
明るさ		● ヘッドアップディスプレイ表示の明るさを設定します。 — -10〜10までの範囲内で明るさを設定できます ヘッドアップディスプレイの調整のしかた（➔P.128）
高さ		● ヘッドアップディスプレイ表示の高さを設定します。 — -10〜10までの範囲内で高さを設定できます ヘッドアップディスプレイの調整のしかた（➔P.128）
傾き		● ヘッドアップディスプレイ表示の傾きを設定します。 — -10〜10までの範囲内で傾きを設定できます ヘッドアップディスプレイの調整のしかた（➔P.128）

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

項目1	項目2	機能
表示項目	ナビゲーション	● ナビゲーションシステム表示のON・OFFを設定できます。
	運転支援	● 運転支援表示のON・OFFを設定できます。
	制限速度標識	● 最高速度標識表示のON・OFFを設定できます。
	オーディオ	● オーディオ表示のON・OFFを設定できます。
	TEL/SMS	● ハンズフリーフォン／ショートメッセージ（SMS）表示のON・OFFを設定できます。
リセット		● ヘッドアップディスプレイの設定を初期設定に戻します。 ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すとリセット画面が表示されるので、［はい］を選択し、再度ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すとリセットされます。 ヘッドアップディスプレイの調整のしかた（➔P.128）

■ エコ

走行中は操作できません。

項目1	項目2	機能
エコ情報設定	エコインジケータ	● エコインジケータのON・OFFを設定します。 OFFにすると、エコインジケータが表示されなくなります。 エコインジケータ（➔P.91）
	エコドライブレポート	● エコドライブレポートのON・OFFを設定します。 OFFにすると、エコドライブレポートが表示されなくなります。 エコドライブレポート（➔P.122）
電費履歴リセット		● 電費履歴画面を表示します。 ● リセットするときは、この画面を表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、［はい］を選択し、再度ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すとリセットされます。
タイヤ空気圧エコアドバイス		● タイヤ空気圧エコアドバイス表示のON・OFFを設定します。

■ TPMS設定

走行中は操作できません。

項目 1	機能
目標圧力（フロント）	● フロントタイヤの目標とする空気圧の表示を設定します。 — 200kPa～340kPaの範囲内で設定できます
目標圧力（リア）	● リヤタイヤの目標とする空気圧の表示を設定します。 — 200kPa～340kPaの範囲内で設定できます
タイヤ空気圧単位	● タイヤ空気圧の単位表示を切り替えます。タイヤ空気圧の単位は、運転席ドア開口部ラベルに記載されている単位をご使用ください。
TPMSリセット	● タイヤ空気圧警報システムのリセットをします。リセットするときは、この画面を表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押します。リセット画面が表示されるので、［はい］を選択し、再度ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すとリセットされます。 タイヤ空気圧警報システムについては、（➔P.430）をお読みください。

■ 時計

走行中は操作できません。

項目 1	項目 2	機能
表示		● 時計表示のON・OFFを設定します。 時計（➔P.76）
時計設定モード	自動	● GPSからの情報を使って自動で時刻を設定します。
	手動	● ［時計設定］から手動で時刻を設定します。
時間表示		● ＜OK＞スイッチを押すと12時間表示、24時間表示を切り替えます。

項目 1	項目 2	機能
時計設定		● 時計を設定します。 ①<OK>スイッチを押すと「時」調整画面に切り替わります。 ②<OK>スイッチを回して「時」を調整します。 ③<OK>スイッチを押すと「分」調整画面に切り替わります。 ④<OK>スイッチを回して「分」を調整します。 ⑤<OK>スイッチを押すと時刻が設定されます。 （<◀>スイッチを押すと前の調整画面に戻ります）

■ 車両設定

走行中は操作できません。

項目 1	項目 2	機能
パワーバックドア		● リモコンオートバックドアのON・OFFを設定します。 リモコンオートバックドア（➔P.141）
ライト/照明	ウエルカムヘッドライト	● ウェルカムライト機能のON・OFFを設定します。 ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）（➔P.199）
	室内間接照明	● 前席ドア内側、インストルメントパネル下部にある行燈照明の明るさを5段階+OFFで設定できます。 ➔行燈照明 (P.335)
	Ambient Lighting★	● アドバンスド アンビエント ライティングの明るさを5段階+OFFで設定できます。 ● 明るさ調整は車幅灯が点灯時／消灯時のそれぞれで設定できます。 ➔アドバンスド アンビエント ライティング★ (P.335)

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

項目1	項目2	機能
ロック	keyエントリー	● ドアハンドルのセンサーでの施錠・解錠機能のON・OFFを設定します。 ➔インテリジェントキー機能による施錠・解錠のしかた (P.138)
	オートドアアンロック★	● 自動で解錠される機能のON・OFFを設定します。 ［シフト連動］：シフトポジションをPに切り替えると解錠されます。 ［パワーOFF連動］：パワースイッチをONからOFFに切り替えると解錠されます。 ［OFF］：オートドアアンロックをOFFにします。 オートドアアンロック（➔P.139）
	降車時オートロック	● 降車時オートロック機能のON･OFFを設定します。 降車時オートロック機能（➔P.134）
	接近時アンロック	● 接近時アンロック機能のON･OFFを設定します。 接近時アンロック機能（➔P.134）
ワイパー	車速連動	● 車速連動機能のON・OFFを設定します。 ➔フロントワイパーの使いかた (P.200)
	雨滴感知	● 雨滴感知機能のON・OFFを設定します。 ➔フロントワイパーの使いかた (P.200)
	リバース連動	● リバース連動機能のON・OFFを設定します。 ➔リヤワイパーの使いかた (P.201)
運転姿勢	降車時シート退避	● シートの退避・復帰機能のON・OFFを設定します。 パーソナルドライビングポジションメモリーシステムの設定のしかた（➔P.151）
	ステアリング跳ね上げ	● ハンドルの退避・復帰機能のON・OFFを設定します。 パーソナルドライビングポジションメモリーシステムの設定のしかた（➔P.151）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

項目 1	項目 2	機能
ドアミラー	自動開閉OFF	● ドアロック連動格納機能がOFFになります。 ➔ ドアロック連動格納機能について (P.161)
	パワーON連動	● ドアロック連動格納機能がONになります。また、＜パワースイッチ＞をONにしたときにドアミラーが開く設定になります。 ➔ ドアロック連動格納機能について (P.161)
	ドアアンロック連動	● ドアロック連動格納機能がONになります。また、リモコンキーまたは、ドアハンドルのセンサーで解錠すると、ドアミラーが開く設定になります。また、＜パワースイッチ＞をONにしたときもドアミラーが開きます。 ➔ ドアロック連動格納機能について (P.161)

■ EV設定

走行中は操作できません。

項目	機能
充電コネクタロック	● 充電コネクタロックモードを、［AUTO］、［LOCK］、［UNLOCK］から選択します。 ➔ 充電コネクタロック (P.32)
充電時間表示設定	● 予測充電時間に表示させる充電電力値を、［100kW（急速充電）］、［50kW（急速充電）］、［6.0kW］、［3.0kW］から選択します。 ➔ 予測充電時間について (P.93)
急速充電冷却補助	● ［ON］を選択すると、急速充電中のリチウムイオンバッテリーの冷却能力をアップします。夏場に走行と急速充電を繰り返すときなどに［ON］を選択します。 ただし、［ON］にすると急速充電中に空調システムなどの騒音が大きくなる場合があります。

■ メンテナンス

走行中は操作できません。

項目	機能
タイヤ	● ［メンテナンス］では、次回メンテナンスを行うまでの距離を設定できます。設定値を超えるとメンテナンスする距離がきたことを表示で知らせます。（定期交換部品などの交換距離については、別冊のメンテナンスノートをお読みください） — ＜OK＞スイッチを回すと距離が切り替わり、＜OK＞スイッチを押すと決定します。（＜◀＞スイッチを押すと設定前の画面に戻ります） — 500km～30,000kmまでの範囲内で距離を設定できます。 — 設定距離は500km単位で切り替わります。 — ［リセット］を選択して＜OK＞スイッチを押すとリセット画面が表示されます。［はい］を選択し、再度＜OK＞スイッチを押すと走行した距離をリセットできます。 ● 機能を停止することができます。 — 停止する場合は、距離表示を［---］に合わせ＜OK＞スイッチを押し決定します。
ユーザー	

■ 画面カスタマイズ

走行中は操作できません。

項目 1	項目 2	項目 3	機能
メインメニュー選択			● 車両情報画面で表示させたい項目を選択することができます。 ➔ 車両情報画面 (P.88)
ナビゲーション設定	自動割込み設定		● 走行中、次の右左折点に接近したとき、メーター内にポップアップでお知らせする機能のON・OFFを設定します。
クルーズ画面切替			● クルーズ画面切替のON・OFFを設定します。 ONにするとプロパイロットのシステムをONにしたとき、画面がクルーズ画面に切り替わります。 ➔ プロパイロット (P.217)

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

項目1	項目2	項目3	機能
メーター演出	アニメーション		● ディスプレイ演出のON・OFFを設定します。 OFFにすると、EVシステム始動時のアニメーションがOFFになります。
	サウンド		● ディスプレイ演出のON・OFFを設定します。 OFFにすると、EVシステム始動時および停止時のサウンドがOFFになります。
オペレーションガイダンス	ライト		● ライトスイッチを回したとき、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
	ワイパー	フロント	● ワイパースイッチを動かしてフロントワイパーを作動させたときに、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
		リア	● ワイパースイッチを動かしてリヤワイパーを作動させたときに、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
	アダプティブヘッドライト		● ライトスイッチが＜AUTO＞の位置以外でアダプティブLEDヘッドライトシステムのスイッチを押したときに、オペレーションガイダンスをメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。 アダプティブLEDヘッドライトシステム（P.196）
	シートメモリー		● パーソナルドライビングポジションメモリーシステムのスイッチを押したときに、作動状態をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。 パーソナルドライビングポジションメモリーシステム（P.151）

■ 単位／言語

走行中は操作できません。

項目	機能
距離/電費	● 距離と電費の表示単位を表示します。
タイヤ空気圧	● タイヤ空気圧の表示単位を切り替えます。タイヤ空気圧の単位は、運転席ドア開口部ラベルに記載されている単位をご使用ください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

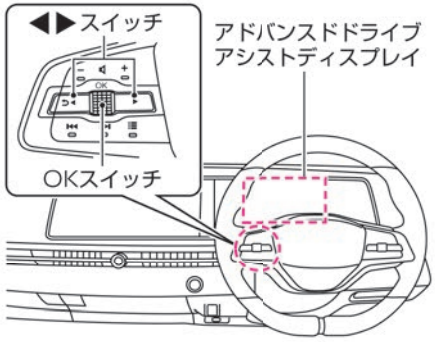
項目	機能
温度	● 温度の単位を ℃ または ℉ に切り替えます。
言語	● 表示言語を日本語またはEnglishに切り替えます。

■ 工場出荷設定

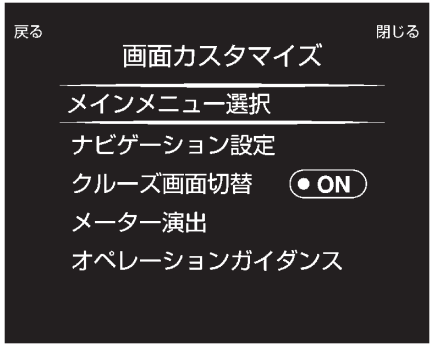
走行中は操作できません。

機能
工場出荷時の設定にリセットすることができます。 ● ［はい］を選択すると、各種設定が初期化されます。

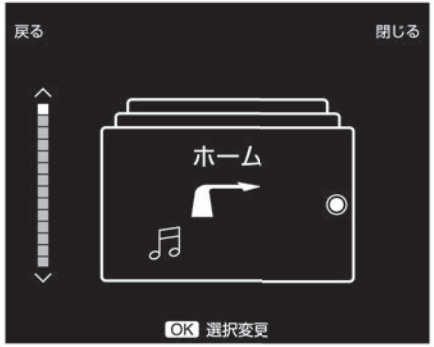
設定例 1（メインメニュー選択）



1. ステアリングスイッチの＜◀▶＞スイッチを数回押し、設定［ ⚙ ］画面を表示して＜OK＞スイッチを押します。
2. ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを回して、［画面カスタマイズ］を選択し、＜OK＞スイッチを押して決定します。



3. ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを回して、［メインメニュー選択］を選択し、＜OK＞スイッチを押して決定します。

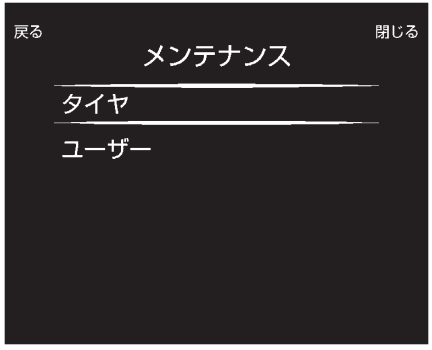


4. 表示させたい項目を、ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを回して選択し、＜OK＞スイッチを押して選択すると表示できるようになります。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

設定例 2（タイヤ）

1. ステアリングスイッチの＜◀▶＞スイッチを数回押し、設定画面を表示して＜OK＞スイッチを押します。
2. ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを回して、［メンテナンス］を選択し、＜OK＞スイッチを押して決定します。



3. ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを回して、［タイヤ］を選択し、＜OK＞スイッチを押して決定します。
4. ［タイヤ］画面でステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押して、次回メンテナンスを行う距離の設定画面に進みます。（［---km/---km］の右側の表示）
   ※左側の表示は、設定後に走行した距離を表示します。
   リセットを選択してステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すと走行した距離をリセットできます。（［---km /---km］の左側の表示）
5. 次回メンテナンスを行う距離を設定できます。（手順4［---km/---km］右側の表示）
   ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを回して距離を切り替え、＜OK＞スイッチを押して決定します。
   設定距離は500km単位で切り替わります。
   ※機能を停止する場合は、距離表示を［---］に合わせ＜OK＞スイッチを押して決定します。

タイマー設定状態確認画面

タイマー設定状態確認表示



次の場合に約30秒間表示します。

- ＜パワースイッチ＞をOFFにしたとき
- ＜パワースイッチ＞がOFFのときにドアを開けたとき
- ＜パワースイッチ＞がOFFのときに充電コネクタを接続したとき

■ ①：タイマー充電の設定状況

- タイマー充電の設定をONにしていると表示されます。

■ ②：タイマーエアコンの設定状況

- タイマーエアコンの設定をONにしていると表示されます。

充電情報表示画面

充電情報表示



次の場合に約30秒間表示します。

- ＜パワースイッチ＞をOFFにしたとき
- ＜パワースイッチ＞がOFFのときにドアを開けたとき

●＜パワースイッチ＞がOFFのときに充電コネクタを接続したとき

■ ①：予測充電時間表示

●普通充電時は、充電時のみ、現在充電中の電力で計算した満充電までの予測時間を表示します。

●急速充電時は、残り充電時間を表示します。充電器に表示される残り充電時間とは異なることがあります。

●充電情報表示画面と予測充電時間に表示される充電時間は、更新のタイミングが異なるため、表示される時間が異なる場合があります。寒冷時は、予測充電時間より実際の充電時間が長くなることがあります。

●リチウムイオンバッテリー温調システムが作動しているときは、充電時間が長く表示される場合があります。

●各電力値で充電時間を確認したい場合は、［予測充電時間］表示で確認してください。

➔ 予測充電時間について (P.93)

■ ②：充電量表示

●現在のリチウムイオンバッテリー充電量を表示します。

■ ③：コネクタロックモード表示

●現在設定されている充電コネクタロックモードを表示します。

➔ 充電コネクタロック (P.32)

その他の表示機能

ソナー表示



●車両が障害物に近づくと、アドバンスドドライブアシストディスプレイのソナー表示色が緑→黄→赤の順に切り替わり、警報音（ブザー）が鳴ります。

表示色	警報音
緑	ピッ、ピッ、ピッ・・・
黄	ピピピピピ・・・
赤	ピー

●次の場合にソナー機能が作動します。

— シフトポジションを**R**にしたとき

— シフトポジションが**D**または**B**で障害物を検知したとき（約10km/h以下）

●ソナー表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチ、＜◀▶＞スイッチを押す、または＜OK＞スイッチを回すと一時的にソナー機能を停止できます。

●ただし次の場合は、一時停止が解除されます。

— シフトポジションを**N**、**P**にしたとき

— 約12km/h以上で走行したとき

●ソナーについては、（➔P.306）をお読みください。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［駐車支援］を選択すると、ソナー機能の各種設定が行えます。
設定の詳細については、運転支援（➔P.106）をお読みください。

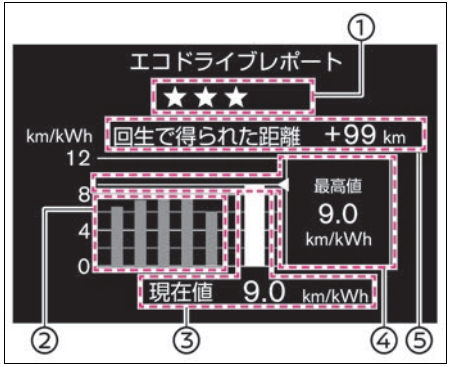
●ソナーが障害物を検知すると、ソナー画面が割り込み表示します。割り込み表示はOFFにすることができます。

➔ 運転支援 (P.103)

●ソナーのお手入れについては、（➔P.443）をお読みください。

●障害物の検知は前方4個、後方4個のソナーセンサーを使用して検知をします。

エコドライブレポートについて



<パワースイッチ>をOFFにすると、エコドライブレポート画面を表示します。
今回の評価などの結果表示は、約10分以上走行したときに表示します。

① **今回の評価**
エコドライブするほど★が増えます。

② **履歴**
過去5回分の平均電費を表示します。

③ **現在値**
今回の平均電費を表示します。

④ **最高値**
過去のベスト電費を表示します。

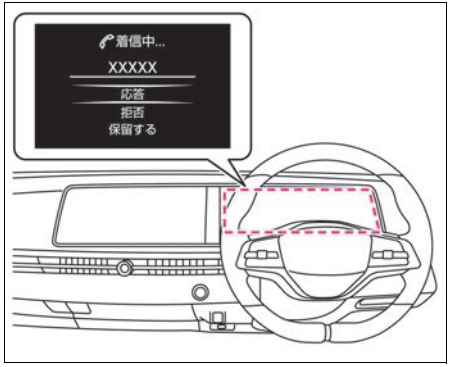
⑤ **回生で得られた距離**
今回の走行で回生した電力量を距離換算で表示します。

●走行したルートのほとんどが下り坂だった場合、回生量が大きく、回生で得られた距離⑤が走行した距離以上になること があります。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［エコ］⇒［エコ情報設定］⇒［エコドライブレポート］を選択すると、エコドライブレポートの表示・非表示を切り替えることができます。
設定の詳細については、エコをお読みください。

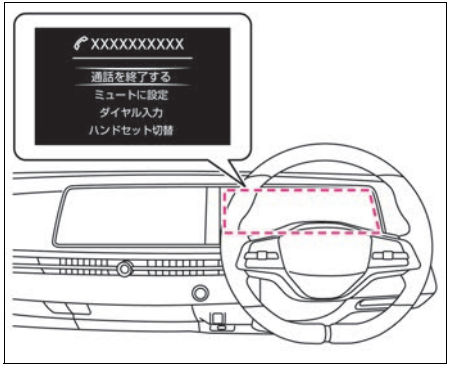
➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)
➔エコ (P.112)

着信表示



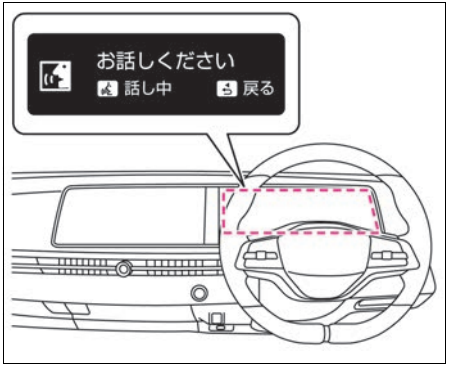
●携帯電話をハンズフリー接続しているときに、着信すると表示します。
ハンズフリーフォンについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

通話表示



●携帯電話をハンズフリー接続しているときに、通話すると表示します。
ハンズフリーフォンについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

音声操作表示

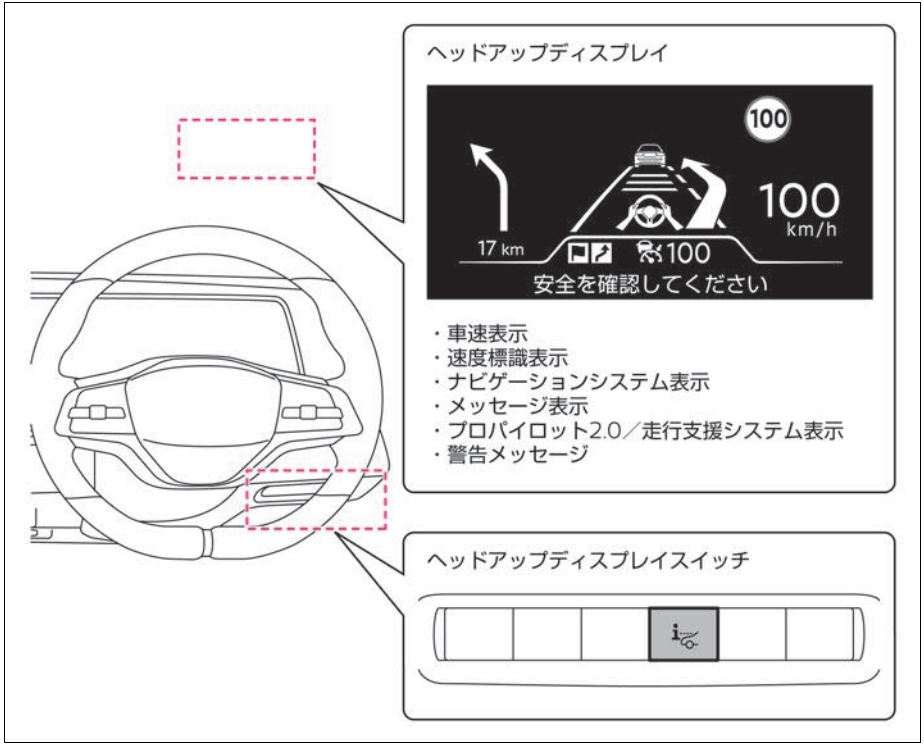


●ナビゲーションシステムで音声操作を行うと、アドバンスドドライブアシストディスプレイに音声操作表示をします。音声操作については、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

ヘッドアップディスプレイ★

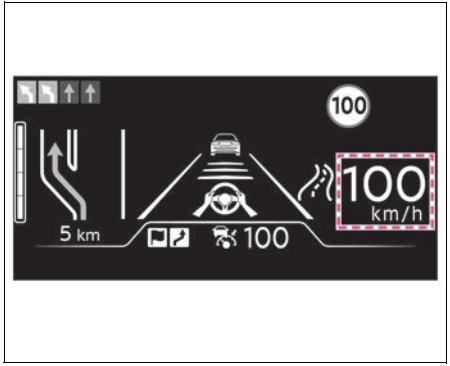
ヘッドアップディスプレイとは

ヘッドアップディスプレイは車速、走行支援システム、ナビゲーションのルートガイドなど、様々な機能の作動状態をフロントガラスに投影することができます。



走行支援機能画面

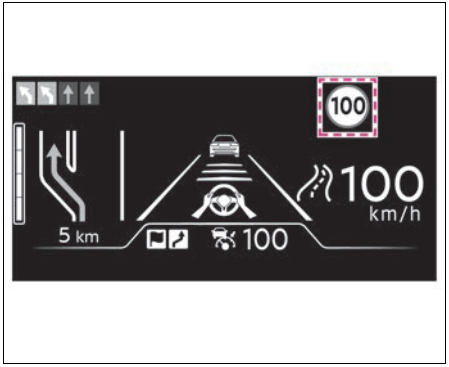
車速表示



- 走行速度を表示します。
- <パワースイッチ>をONにしたときは、車速のみが表示されます。

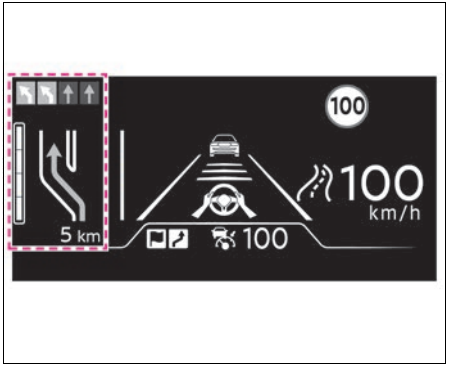
ヘッドアップディスプレイ★

速度標識表示



- 検知した速度標識を表示します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、表示・非表示の設定ができます。
  設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］⇒［表示項目］⇒［制限速度標識］
  詳しくは、（➔ヘッドアップディスプレイ★ (P.111)）をお読みください。

ナビゲーションシステム表示



- ナビゲーションシステムで目的地を設定していると、ナビゲーションシステムと連動し、次の右左折地点までの距離などを表示します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、表示・非表示の設定ができます。
  設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］⇒［表示項目］⇒［ナビゲーション］
  詳しくは、（➔ヘッドアップディスプレイ★ (P.111)）をお読みください。

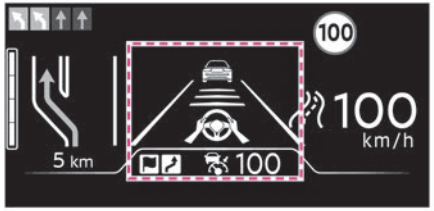
メッセージ表示



- プロパイロット操作ガイドなどが表示されます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、表示・非表示の設定ができます。
  設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］⇒［表示項目］⇒［運転支援］
  詳しくは、（➔ヘッドアップディスプレイ★ (P.111)）をお読みください。

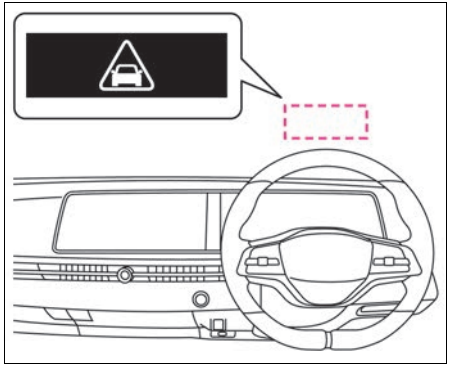
ヘッドアップディスプレイ★

プロパイロット 2.0 ／走行支援システム表示



- プロパイロット2.0の作動状態、先行車や車線の検知状態を表示します。
  詳しくは、プロパイロット2.0の説明をお読みください。
  プロパイロット2.0（➔P.217）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、表示・非表示の設定ができます。
  設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］⇒［表示項目］⇒［運転支援］
  詳しくは、（➔ヘッドアップディスプレイ★ (P.111)）をお読みください。

警告メッセージ



- 次のシステムが作動すると警告メッセージが表示されます。
  詳しくは、各走行支援機能の説明をお読みください。
  — プロパイロット2.0（➔P.217）
  — インテリジェント エマージェンシーブレーキ（➔P.264）
  — 踏み間違い衝突防止アシスト（➔P.269）
- 警告メッセージの表示画面については、（➔P.385）をお読みください。
- <ヘッドアップディスプレイスイッチ>がOFFの場合でも、警告メッセージは表示されます。

各種設定画面

ヘッドアップディスプレイの注意事項

⚠ 注意

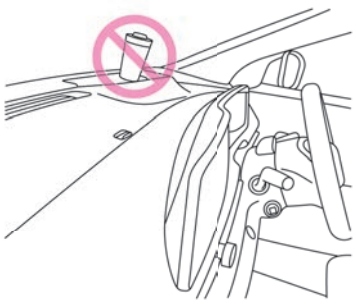
- **ヘッドアップディスプレイの明るさ、および表示位置を適正に調整する。**
  運転者の視界が妨げられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ヘッドアップディスプレイを見続けない。**
  車両、歩行者、障害物などが見えにくくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ヘッドアップディスプレイの調整は、必ず走行前に行う。**
  走行中に調整すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

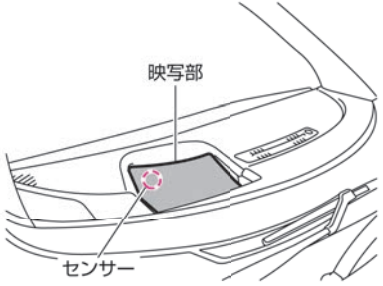
- ヘッドアップディスプレイの映写部に物を置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。ヘッドアップディスプレイの表示の妨げとなります。
- ヘッドアップディスプレイ部には手を触れないでください。故障の原因となります。

ヘッドアップディスプレイ★

アドバイス



- ヘッドアップディスプレイ周辺には飲物を置かないでください。液体が映写部にかかると故障する原因になります。

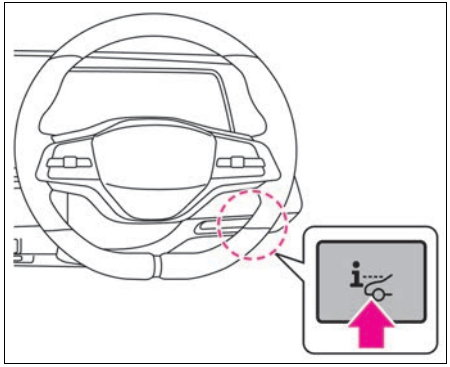


- ヘッドアップディスプレイの映写部に強く触れたり、とがったものを押し付けたりすると故障する原因になります。

- ヘッドアップディスプレイには、映像の明るさをコントロールするためのセンサーが内蔵されています。センサーを物で塞いでしまうとディスプレイが暗くなってしまい、表示が見えにくくなります。
- ヘッドアップディスプレイのセンサーに強い光を当てないでください。故障する原因になります。
- ヘッドアップディスプレイの画像がゆがんで見える場合は、日産販売会社で点検を受けてください。
- ヘッドアップディスプレイの画像を鮮明に表示するため、専用のフロントガラスを使用しています。フロントガラスの交換が必要な場合は、日産販売会社にご相談ください。

- 偏光サングラスを着用すると表示が見えにくくなることがあります。
- 気象条件（雨、雪、太陽の光、温度など）によっては、表示が見えにくくなることがあります。
- 塵、ほこりなどの堆積物はほこり取りワイパーなどで除去してください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の洗剤を使用しないでください。変色やしみができ、ヘッドアップディスプレイが正しく表示されなくなるおそれがあります。
- 飲物をこぼしたときは、クリーンクロスや眼鏡クリーナーなどの乾いた柔らかい布で軽くふいてください。ふいても除去しきれない場合は、水に浸した柔らかい布を固くしぼってからふき取り、そのあとに乾いた柔らかい布で水分をふき取ってください。
- 乾いた布やティッシュ、ウエットティッシュなどを使用しないでください。傷がつく原因になります。

ON・OFF のしかた



- ＜パワースイッチ＞がONのとき、＜ヘッドアップディスプレイスイッチ＞を押すと表示します。
- ＜ヘッドアップディスプレイスイッチ＞を押すごとに、ON・OFFを切り替えることができます。
- ＜ヘッドアップディスプレイスイッチ＞のON・OFF設定は、EVシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで［運転支援］をONにしていると、＜プロパイロットスイッチ＞と連動して、＜ヘッドアップディスプレイス

イッチ>がOFFになっていても表示されます。
設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］⇒［表示項目］⇒［運転支援］
詳しくは、（➔ヘッドアップディスプレイ★ (P.111)）をお読みください。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで［運転支援］をONにしていると、［制限速度標識］をOFFにしていても、<プロパイロットスイッチ>と連動して、ヘッドアップディスプレイに速度標識が表示されます。
設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］⇒［表示項目］⇒［制限速度標識］
詳しくは、（➔ヘッドアップディスプレイ★ (P.111)）をお読みください。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで［運転支援］をONにしていると、［ナビゲーション］をOFFにしていても、<プロパイロットスイッチ>と連動して、ヘッドアップディスプレイにナビゲーションが表示されます。
設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］⇒［表示項目］⇒［ナビゲーション］
詳しくは、（➔ヘッドアップディスプレイ★ (P.111)）をお読みください。

●本製品には、以下のソフトウェアが含まれています。
①パナソニック株式会社（「パナソニック」）により、またはパナソニックのために開発されたソフトウェア
②パナソニックにライセンスされた第三者所有のソフトウェア
③オープンソースソフトウェア
上記③に分類されるソフトウェアには、以下のライセンス情報が適用される様々なソフトウェアを含むオープンソースソフトウェア（OSS）が含まれています。
また、下記webサイトにもライセンス情報が記載されています。
http://car.panasonic.jp/oss/j03llnna

ヘッドアップディスプレイの調整のしかた

●ヘッドアップディスプレイの表示がOFFだとアドバンスドドライブアシストディスプレイの設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］が操作できません。
操作する場合は、<ヘッドアップディスプレイスイッチ>を押してヘッドアップディスプレイの表示をONにしてから行ってください。
➔ON･OFFのしかた (P.127)



●アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、ヘッドアップディスプレイの表示の明るさ、高さ、傾きを調整することができます。
設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］⇒［明るさ］／［高さ］／［傾き］
詳しくは、（➔ヘッドアップディスプレイ★ (P.111)）をお読みください。

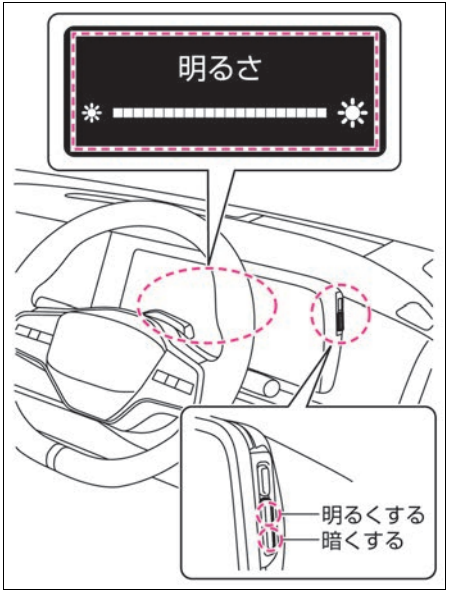
●ヘッドアップディスプレイは走行環境に合わせて、フロントガラスに投影する画像の明るさを自動で調整します。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、ヘッドアップディスプレイの設定を初期化できます。
設定［ ⚙ ］⇒［ヘッドアップディスプレイ］⇒［リセット］
詳しくは、（➔ヘッドアップディスプレイ★ (P.111)）をお読みください。

メーターの明るさの調節

イルミネーションコントロール

メーターの明るさ調節のしかた



<パワースイッチ>がONのとき、メーター照明の明るさを調節できます。

- スイッチを押して調節します。
- 明るさのレベル表示は、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示されます。
- 明るさのレベルが最大または最小に達すると、音が鳴ります。

MEMO

キー

インテリジェントキー P.132
インテリジェントキーに関する注意事項 P.135

ドアの施錠と解錠

ドア P.138
リモコンオートバックドア P.141

シート・ハンドルの調節

前席シート P.150
後席シート P.153
ハンドル P.155

ミラーの調節

インテリジェント ルームミラー P.157
ドアミラー P.160

窓ガラスの開閉

パワーウインドー P.162
パノラミックガラスルーフ★ P.164

エアコンの操作

オートエアコンシステム P.167
吹き出し口 P.173
設定［ ⚙ ］ P.175
エアコンを使うときに注意すること P.177
タイマーエアコンの設定のしかた P.179
タイマーエアコンに関する注意事項 P.180

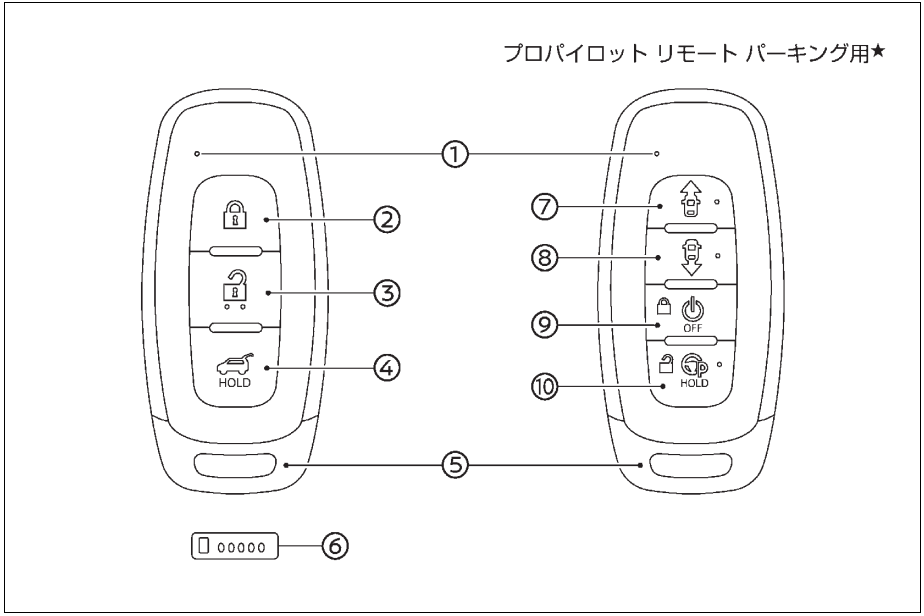
インテリジェントキー

キーを携帯するだけでドアの施錠・解錠およびEVシステムの始動操作ができます。

プロパイロット リモート パーキング付車は、プロパイロット リモート パーキングを使用できます。

ドアの施錠・解錠のしかたは（➔P.138）、始動操作は（➔P.184）、プロパイロット リモート パーキングは（➔P.326）をお読みください。

各部名称と機能



① **作動表示灯**
いずれかのスイッチを押すと、赤く点滅します。

② **ドア施錠スイッチ**
スイッチを押すと、全ドアが施錠します。

③ **ドア解錠スイッチ**
スイッチを押すと、全ドアが解錠します。

④ **リモコンオートバックドア開閉スイッチ**
スイッチを約1秒以上押すと、バックドアが自動で開閉します。

⑤ **内蔵キー（メカニカルキー）**
キーの電池が切れたときや、12Vバッテリーがあがったときなどにドアの施錠・解錠ができます。

⑥ **キー番号タグ**
キーを紛失した場合、キー番号から日産販売会社でスペアキーを作成できますので、大切に保管してください。

⑦ **プロパイロット リモート パーキング前進スイッチ**
プロパイロット リモート パーキングが作動時に、車両を前進するのに使用します。

⑧ **プロパイロット リモート パーキング後退スイッチ**
プロパイロット リモート パーキングが作動時に、車両を後退するのに使用します。

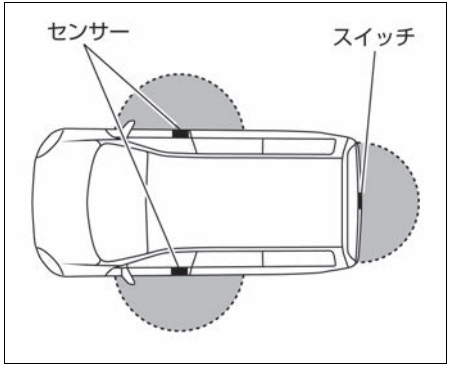
⑨ **プロパイロット リモート パーキング OFF/ドア施錠スイッチ**
プロパイロット リモート パーキングが作動時、プロパイロットリモートパーキングを終了するのに使用します。
プロパイロット リモート パーキングが非作動時は、全ドアを施錠するのに使用します。

⑩ **プロパイロット リモート パーキング ON/ドア解錠スイッチ**
プロパイロット リモート パーキングが非作動時、短押しすることで全ドアを解錠するのに使用します。また長押しすることでプロパイロット リモート パーキングを起動させるのに使用します。
プロパイロット リモート パーキングが作動時、車両を前進・後退するのに使用します。

- キーを紛失した場合、キー番号から日産販売会社でスペアキーを作成できますので、大切に保管してください。
- キーは2個または3個（プロパイロット リモート パーキング付車）ついています。
- キーは同じ車両で最大4個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、日産販売会社にご相談ください。
- キーの電池が切れても、ドアの施錠・解錠やEVシステムの始動（<パワースイッチ>ON）を行うことができます。

➔内蔵キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた (P.365)

ドアの施錠・解錠の作動範囲



作動範囲は各ドアハンドルのセンサーおよびスイッチから周囲約80cm以内です。
作動範囲は球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。
インテリジェントキーが作動範囲内にある場合は、キーを携帯している人以外でもドアハンドルのセンサーに触れるまたはスイッチを押して施錠・解錠できます。

- ドアハンドルのセンサーに触れるまたはスイッチを押してドアを施錠したあとは、作動確認のためブザーまたは非常点滅表示灯のアンサーバック機能で施錠されたことを確認してください。
- ドアハンドルのセンサーに触れるまたはスイッチを押す前にドアハンドルを引かないでください。

インテリジェントキーに関する機能について

■ アンサーバック機能

- ドアの施錠・解錠時に、作動確認のためのブザーと非常点滅表示灯が作動します。（施錠時1回、解錠時2回）

アンサーバック機能のブザーを停止することができます。日産販売会社にご相談ください。

■ ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）

- ドアの施錠・解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯、イルミネーションエンブレムが点灯します。（施錠時約10秒、解錠時約30秒）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ライト/照明］⇒［ウエルカムヘッドライト］を選択すると、ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）の設定を変更することができます。設定の詳細については、車両設定（➔P.87）または（➔P.114）をお読みください。

■ キー連動室内照明システム

- ドアを解錠すると、室内照明（ラゲッジルームランプを除く）が約20秒間点灯します。
詳しくは、室内灯（➔P.334）をお読みください。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

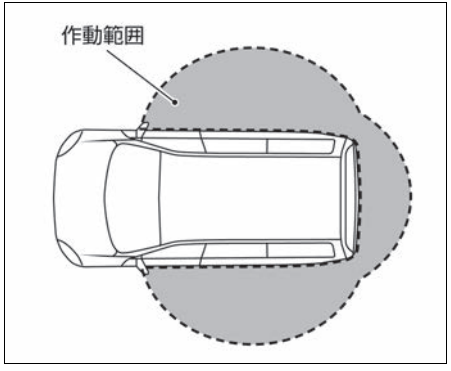
■ オートロック機能

●＜ドア解錠スイッチ＞を押してから約30秒以内にいずれかのドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に全ドアが施錠されます。
（施錠されるまでの間に、再度＜ドア解錠スイッチ＞を押すと、その時点から約30秒後に施錠されます）

■ パワーウインドーおよびパノラミックガラスルーフ★遠隔操作機能

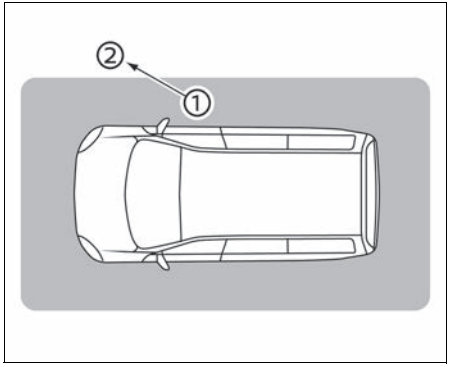
●インテリジェントキーの＜ドア施錠スイッチ＞または＜ドア解錠スイッチ＞を長押ししている間、車外からパワーウインドーおよびパノラミックガラスルーフを開閉できます。
➔パワーウインドーの開けかた、閉めかた (P.162)
➔パノラミックガラスルーフ★ (P.164)

■ 接近時アンロック機能



●インテリジェントキーを携帯して車に近づくと自動で車両が解錠されます。作動範囲はドアミラーから車両後方にかけて車両から約1mの範囲です。
●アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、接近時アンロック機能のON･OFFを切り替えることができます。
設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ロック］⇒［接近時アンロック］
詳しくは、車両設定（➔P.114）をお読みください。
●車両前方側から車に近づいた場合、ドア付近まで近づかないと解錠されない場合があります。
●以下の場合は作動しません。
— キーを車室内に置き忘れているとき
— 一定時間、キーを車両周辺に置いたままのとき（ドアを解錠後、再度ドアを施錠すると、接近時アンロック機能が再開します）
— 施錠してから8日間経過したとき
— 車室内のドアロックスイッチで施錠したとき

■ 降車時オートロック機能



●EVシステムを停止した後、ドア開閉をしてからインテリジェントキーを携帯して車から離れると自動で車両が施錠されます。車両から約2mを境界とし①の範囲から②の範囲へインテリジェントキーが移動すると作動します。
●アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、降車時オートロック機能のON･OFFを切り替えることができます。
設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ロック］⇒［降車時オートロック］
詳しくは、車両設定（➔P.114）をお読みください。
●以下の場合は作動しません。
— キーを車室内に置き忘れているとき
— いずれかのドアが開いているとき
— 一定時間、キーを車両周辺に置いたままのとき（ドアを開閉すると、降車時オートロック機能が再開します）

— 走行可能表示灯［READY］が点灯しているとき
— キーのスイッチで解錠したとき
— ドア開閉時にインテリジェントキーが車両から2m以内にないとき

■ スリープモード

ドアハンドルのセンサーまたはスイッチでの施錠・解錠、およびEVシステムの始動を一時的に停止するモードです。

- インテリジェントキーの＜ドア施錠スイッチ＞を押したまま＜ドア解錠スイッチ＞を2回押します。
- 一定時間、キーの作動表示灯が点灯します。作動表示灯が点灯中にドア施錠スイッチを押すと、作動表示灯が2回点滅しスリープモードになります。
- スリープモードを解除するときは、キーのいずれかのスイッチを押してください。

パーソナルアシスタント機能

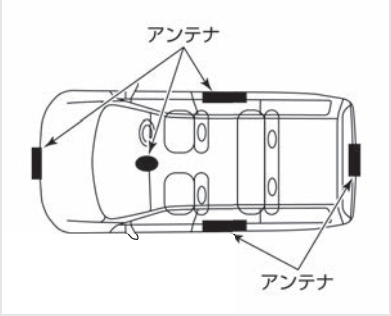
あらかじめユーザー情報を登録しておくと、インテリジェントキーを携帯して車両へ乗り込んだとき、 ユーザーを認識します。

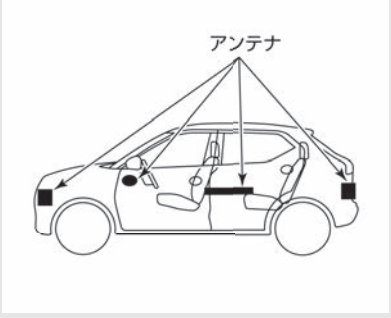
パーソナルアシスタント機能の設定方法

- ユーザー情報の登録、設定については、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

インテリジェントキーに関する注意事項

⚠ 警告





- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用している方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**

ドアおよびバックドア開閉時、ドアハンドルのセンサーおよびスイッチ操作時、EVシステム始動時などにキーの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用している方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**

  キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

- **航空機内ではキーのスイッチを押さない。**

  万一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあるため、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。

アドバイス

- キーは運転者が必ず携帯してください。
- キーは、必ず内蔵キー（メカニカルキー）を内蔵した状態で携帯してください。

アドバイス

- キーはドアポケットに入れないでください。ドアを閉めるときの衝撃により破損するおそれがあります。また、ドアポケット内に一緒に入れておいた物がドアを閉めた衝撃で当たるなどして勝手にスイッチが入り、キーを車室内に封じ込めるおそれがあります。
- インストルメントパネル上面、ドアポケット付近、グローブボックス内、フロア上では、キーが正常に作動しなかったり、車外から施錠されて、キーを車室内に封じ込めたりするおそれがあります。
- キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに日産販売会社にご相談ください。
- キーは微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では機能に障害が起こるため、ドアハンドルのセンサーおよびスイッチやキーのスイッチが正常に作動しない場合があります。
  - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備があるとき
  - インテリジェントキーをワイヤレス充電器の充電エリア内に置いたとき
  - 無線機や携帯電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき
  - キーが金属製の物に接したり、覆われていたりしているとき
  - 近くで電波式のリモコンスイッチを操作しているとき
  - キーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
  - コインパーキングに駐車したとき（車両検出用の電波の影響があるため）
  - 近くで電波式侵入警報装置を使用しているとき
  - 極端に気温が低いとき（電池の性能が低下するため）
- 手袋などを着用したままドアハンドルのセンサーに触れても反応しないことがあります。その場合は手袋を外してから再度センサーに触れてください。
- キーが施錠・解錠の作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などで多量の水がドアハンドルにかかるとドアが施錠・解錠、またはブザーが鳴ることがあります。その際は、次の操作を行ってください。
  - キーを車両から2m以上離す
  - スリープモード機能を行う

  ➔インテリジェントキーに関する機能について (P.133)
- センサーが反応し辛い場合は、手のひらでセンサーに触れてください。
- センサーに雪や泥などが付着すると反応が悪くなりますので、センサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてください。
- キーは電波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。
  - 電池を交換するとき以外は分解しない（分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています）
  - 日本国内のみで使用する
- キーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが約2年（プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーは約1年）です。
  電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。

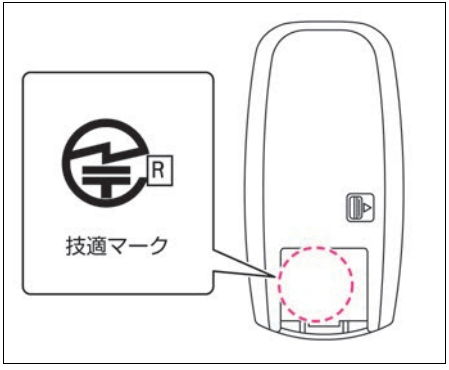
  ➔インテリジェントキーの電池交換 (P.434)
- キーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所では、作動範囲が狭くなったり、作動しなかったりすることがあります。
- キーは送信機を内蔵している精密機械です。故障を防止するため、次のことをお守りください。
  - 長時間高温になる場所に置かない
  - 分解しない
  - 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしない
  - 水に濡らさない
  - 超音波洗浄器などにかけない

アドバイス

— 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない

— テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かない

- 車両盗難防止のために、インテリジェントキーは車両から2m以上離して保管してください。
- インテリジェントキーの操作をしなくても、車両周辺にキーがあると電池の消耗が早くなります。電池の寿命を長くするためにも、車両周辺にキーを持ったまま長時間滞在しないことをおすすめします。
- 降車時オートロック機能で車両を施錠した場合、施錠されたことをアンサーバック機能（➔P.133）で確認してください。アンサーバック機能が作動しない場合、正しく施錠できていません。



- キーの認証技適マークはキーの裏面で確認できます。
- キーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。日産販売会社にご相談ください。
  ➔インテリジェントキーの電池交換 (P.434)
- キーの電池が切れ、施錠・解錠ができないときは、内蔵キー（メカニカルキー）で施錠・解錠ができます。
  ➔ドアが開かないときは (P.365)
- 次のような場合は、作動しません。
  — 走行可能表示灯［READY］が点灯している
  — ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
  — 車から離れすぎているとき
  — キーの電池が切れているとき

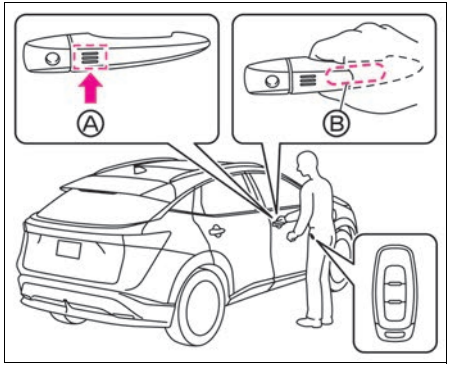
☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

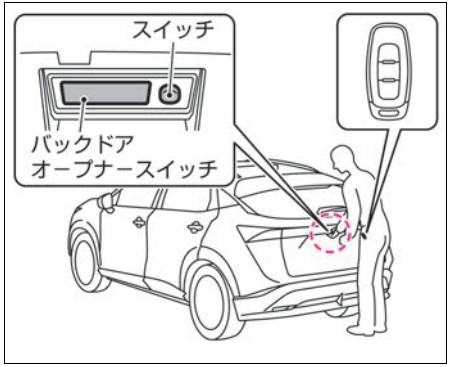
ドア

ドアハンドルのセンサーおよびスイッチやインテリジェントキーのスイッチで施錠・解錠します。

ドアを施錠したあとは、作動確認のためブザーまたは非常点滅表示灯のアンサーバック機能で施錠されたことを確認してください。

インテリジェントキー機能による施錠・解錠のしかた





- 施錠するときは、運転席または助手席ドアハンドルのセンサーⒶに触れるか、バックドアにあるスイッチを押します。
- 解錠するときは、バックドアにあるスイッチを押すか運転席または助手席ドアのドアハンドルを握ります。ドアハンドル裏側のタッチセンサーⒷに触れるようにドアハンドルを握ると解錠されます。（施錠した直後の約2秒間は解錠できません）
- ドアハンドルを握りながらドアハンドルのセンサーⒶに触れても施錠できない場合があります。
- 手袋などを着用したままドアハンドルを握ると、センサーが反応しないことがあります。
- 雨などでドアハンドルが濡れているときは、センサーの反応が遅い場合があります。施錠されるまでドアハンドルのセンサーⒶに触れ続けるか、一度ドアハンドルを握ってから再度センサーⒶに触れてください。
- キーが各センサーまたはスイッチから周囲80cm以内にあるときに作動します。
- 施錠・解錠したときは、ブザーおよび非常点滅表示灯が次のように作動します。

	ブザー音	非常点滅表示灯
施錠	ピッ	1回点滅
解錠	ピピッ	2回点滅

- 車両に近づきすぎている場合などは作動しないことがあります。
- 急にドアハンドルを操作すると、ドアハンドルが引かれていることにより、施錠できないことがあります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ロック］⇒［keyエントリー］を選択すると、ドアハンドルのセンサーでの施錠・解錠機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、車両設定（➔P.114）または（➔P.87）をお読みください。
- 次のような場合は、作動しません。
  - 走行可能表示灯［READY］が点灯しているとき
  - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
  - キーが施錠・解錠の作動範囲内にないとき
  - キーの電池が切れているとき
- センサーに触れたときまたはスイッチを押したときのブザーを停止することがで

きます。日産販売会社にご相談ください。

■ オートロック機能

●盗難防止のため、自動的に施錠する機能です。ドアハンドルのセンサーに触れるまたはスイッチを押して解錠したあと、約30秒間ドアを開けないと再び全ドアが施錠されます。

■ オートドアアンロック★

●＜パワースイッチ＞をOFFにしたとき、全ドアが解錠されます。（アドバンスドドライブアシストディスプレイで、シフトポジションを**P**にしたときに全ドアが解錠される設定に変更できます。）

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ロック］⇒［オートドアアンロック］を選択すると、オートドアアンロック機能の設定を変更することができます。
設定の詳細については、車両設定（➔P.114）または（➔P.87）をお読みください。

■ 衝撃感知式ドアロック解除システム★

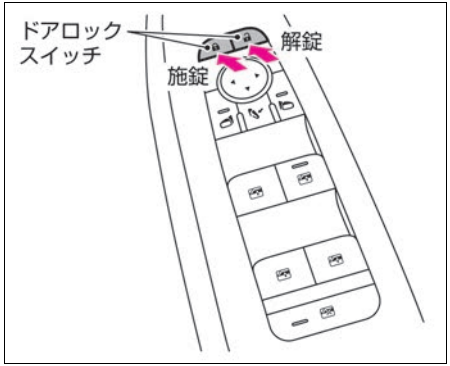
●＜パワースイッチ＞がONのとき、車両が前後方向または側面から強い衝撃を受けるとシステムが作動し、約3秒後に全ドアが自動的に解錠されます。衝撃の強さなどによっては、作動しないことがあります。システム作動後にシステムを解除させる（ドアをロックする）には、一旦＜パワースイッチ＞をOFFにしてください。

■ 車速感応式オート集中ドアロック★

●車速が約25km/h以上になると、全ドアが自動的に施錠されます。ただしそのあと解錠すると、再度施錠はされません。再度作動させるには、いずれかのドアを開けるか、＜パワースイッチ＞をOFFにします。

●車速感応式オート集中ドアロック機能の作動・非作動を切り替えることができます。（工場出荷時は「作動」に設定されています）
次の手順で設定を切り替えます。
①全ドアを閉めます。
②＜パワースイッチ＞をONにします。
③＜パワースイッチ＞をONにしたあと、20秒以内に＜ドアロックスイッチ＞の施錠側を5秒以上押し続け、作動と非作動を切り替えます。
作動：非常点滅表示灯が2回点滅
非作動：非常点滅表示灯が1回点滅

ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた



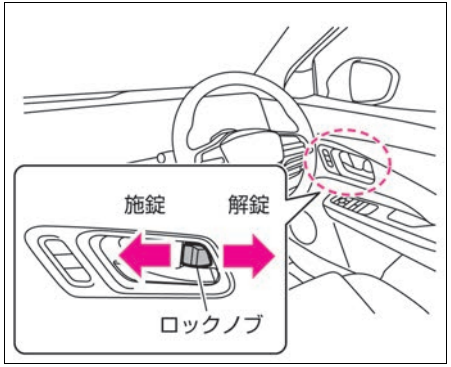
●＜ドアロックスイッチ＞を押すと、全ドアが施錠または解錠します。

●施錠するときは、施錠側 🔒 の＜ドアロックスイッチ＞を押します。

●解錠するときは、解錠側 🔓 の＜ドアロックスイッチ＞を押します。

●ドアが開いているときは、＜ドアロックスイッチ＞での施錠はできません。

ロックノブでの施錠・解錠のしかた



- 運転席のロックノブで全ドアが施錠または解錠します。
- 運転席ドアは、施錠したままでもドアハンドルを引くとドアが開けられます。そのとき、全ドアが同時に解錠します。
- 施錠するときは、施錠するドアのロックノブを施錠側に押し込みます。
- 解錠するときは、解錠するドアのロックノブを解錠側に引きます。

キーを使用しない施錠のしかた

■ 前席ドア

- ロックノブを押し込み、ドアハンドルを引きながらドアを閉めます。

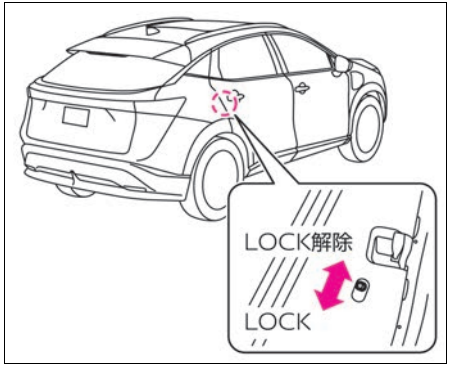
■ 後席ドア

- ロックノブを押し込み、そのままドアを閉めます。

■ キー封じ込み防止機能

- インテリジェントキーを車室内に置き忘れたまま施錠することを防ぐ機能です。ドアを閉めたときや施錠しようとしたときに、キーが車室内に残っているとブザーでお知らせし、全ドアを自動的に解錠します。

チャイルドセーフティドアロック



後席に乗せたお子さまなどが、誤って後席ドアを開けないようにロックできます。

■ ロックするには

- 後席ドアにあるロックレバーをLOCK位置にしてドアを閉めます。

■ ドアを開けるには

- チャイルドセーフティドアロックがかかっているときは、車外のドアハンドルを引いて開けます。
- 万一、車室内から開ける場合は、窓ガラスを下げ、手を外に出して車外のドアハンドルを引きます。

ドアに関する注意事項

⚠ 警告

- **ドアの開閉はお子さまにはさせない。**

  手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**

  後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。
- **走行する前にドアを確実に閉める。**

  走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

バックドアに関する注意事項

⚠ 警告

- **バックドアの開閉はお子さまにはさせない。**

  手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **バックドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**

⚠ 警告

後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。

- **走行する前にバックドアを確実に閉める。**

  走行中に突然バックドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ラゲッジルーム（荷室）に人を乗せて走行しない。**

  急ブレーキをかけたときなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **バックドアや車体側に手を触れたままバックドアを閉めない。**

  手を挟まれてケガをするおそれがあります。

- **バックドアを閉めるときは、バックドアのふちやその周辺に手をかけない。**

  手を挟まれてケガをするおそれがあります。必ず外から押して閉めてください。

- **バックドアを開ける前に、バックドアに付着した雪や氷、ゴミなどの重量物を取り除く。**

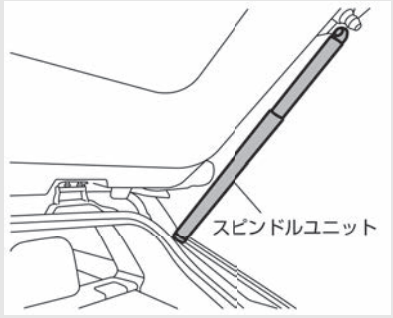
  重量物が付いたままバックドアを開けると、重みで突然閉まるおそれがあります。

- **風が強いときにバックドアを開ける場合は特に注意する。**

  風にあおられ、急に閉まることがあります。

- **バックドアを閉めるときは、手などを挟まないように注意する。**

バックドアスピンドルユニットについて



- **バックドアのスピンドルユニットは、バックドアの重量を支えるために取り付けられています。スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため、次のことを守る。**

  ― スピンドルユニットに手やひもなどをかけたり、横方向に力をかけたりしない

  ― ビニール片、ステッカー、接着剤などの異物をスピンドルユニットに付着させない

- **スピンドルユニットを持って、バックドアを閉めたり、ぶら下がったりしない。**

手や腕を挟んだりして思わぬケガをするおそれがあります。



●バックドアを閉めるときは、ストライカーに異物を挟まないようにしてください。ストライカーやバックドアのロックが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。

リモコンオートバックドア

リモコンオートバックドアは、バックドアを自動的に開閉することができます。

リモコンオートバックドアの機能について

リモコンオートバックドアは、次の方法でバックドアを開閉することができます。

運転席スイッチ：

●＜運転席スイッチ＞でバックドアの開閉ができます。（P.142）

リモコンオートバックドア開閉スイッチ：

●インテリジェントキーのスイッチでバックドアを開閉することができます。（➔P.146）

バックドアオープナースイッチ：

●＜バックドアオープナースイッチ＞でバックドアを開けることができます。（➔P.143）

ハンズフリーセンサー：

●リヤバンパー下側に足先を出し入れするだけで、スイッチなどを押さずにバックドアの開閉ができます。（➔P.143）

バックドアインナースイッチおよびバックドアインナーロックスイッチ：

●＜バックドアインナースイッチ＞および＜バックドアインナーロックスイッチ＞でバックドアを閉めることができます。（➔P.144）

また、リモコンオートバックドアには、次の機能があります。

挟み込み防止機構：

●オート作動中に手を挟むなど、挟み込みや引っかかりを検知すると、安全のため反対方向に作動します。（➔P.144）

オートクロージャー：

●バックドアを半ドア状態まで閉めると、自動的に全閉します。（➔P.144）

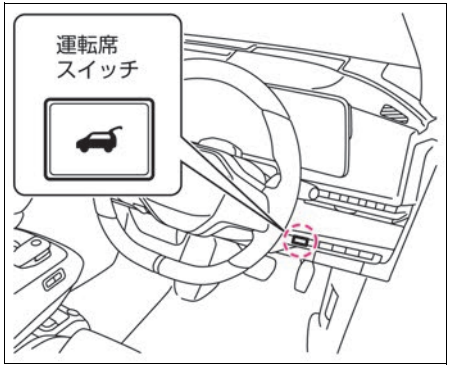
ガレージモード：

●オート作動時にバックドアを途中までしか開かなくすることができます。屋根の低い場所で開閉するときなどに、天井にバックドアがぶつからないように設定できます。（➔P.145）

オート作動でバックドアが閉まるときは、半ドア位置までバックドアが閉まると、オートクロージャー機能で全閉します。（➔P.144）

オート作動の開始時にはブザーが鳴ります。

運転席スイッチによる開けかた・閉めかた



開閉操作をするときは、バックドア周囲の安全を確認してください。

●バックドア全閉時にスイッチを約1秒間押すと、バックドアが自動的に開きます。

●バックドアが施錠されているときは、バックドアが解錠され自動的に開きます。

●バックドア全開時にスイッチを約1秒間押すと、自動的に閉まります。

●オート作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを約1秒間押すと作動していた方向と反対の方向に動き、全開または全閉して停止します。

●シフトポジションがP以外のときは＜運転席スイッチ＞による開操作は行えません。

リモコンによる開けかた・閉めかた



●車に近づき、＜リモコンオートバックドア開閉スイッチ＞を約1秒以上押します。

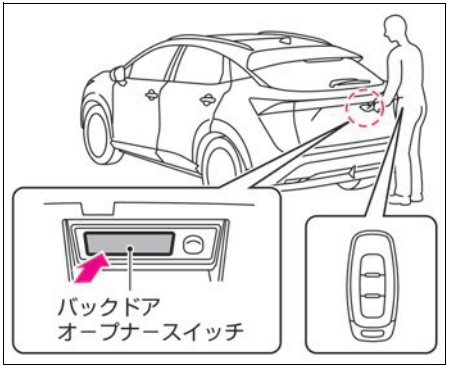
●オート作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを約1秒以上押すと作動していた方向と反対の方向に動き、全開または全閉して停止します。

●バックドアが施錠されていても作動します。

●シフトポジションがP以外のとき、または走行可能表示灯［READY］が点灯しているときは＜リモコンオートバック

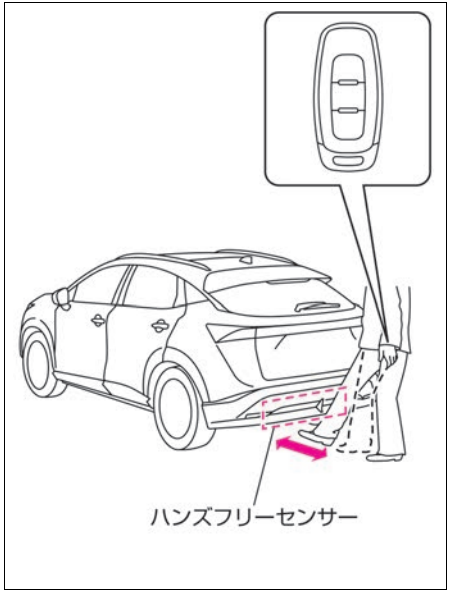
ドア開閉スイッチ>による開操作は行えません。

バックドアオープナースイッチによる開けかた

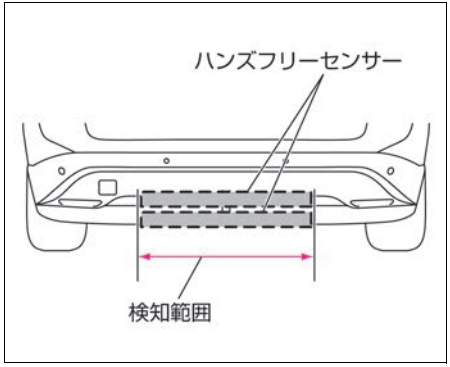


- バックドアが施錠時にインテリジェントキーを携帯し、<バックドアオープナースイッチ>を押すとバックドアが自動的に開きます。
- バックドアが施錠されていないときは、キーを携帯していなくても<バックドアオープナースイッチ>を押すとバックドアが自動的に開きます。
- オート開作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを押すと全閉して停止します。
- シフトポジションがP以外のときは<バックドアオープナースイッチ>による開操作は行えません。

ハンズフリーセンサーによる開けかた、閉めかた

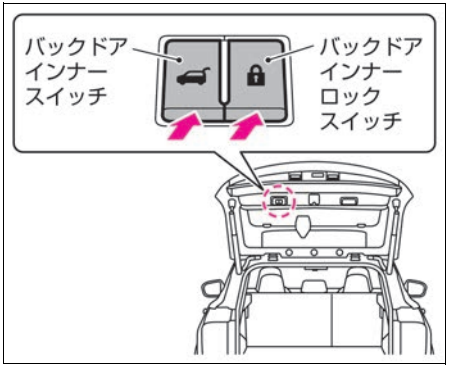


- リヤバンパー下部のセンサーによって足の動きを感知し、バックドアの開閉を自動的に行います。
- インテリジェントキーを携帯し、リヤバンパー下側に足先を入れてすぐに引くと自動的に開閉します。
（リヤバンパーの下に足を入れたままにしていると作動しません。）
- 施錠時は全ドアが同時に解錠し、バックドアが自動で全開します。
- オート作動中に、足先を入れて引く動作を行うと、その位置でオート作動を停止します。再度、足先を入れて引く動作を行うと、作動していた方向と反対の方向に動き、全開または全閉して停止します。
- ハンズフリーセンサー周辺が汚れている場合は作動しない場合があります。きれいな布で拭いてください。
➔リモコンオートバックドアに関する注意事項 (P.146)
- センサー周辺に水をかけると誤作動するおそれがあります。



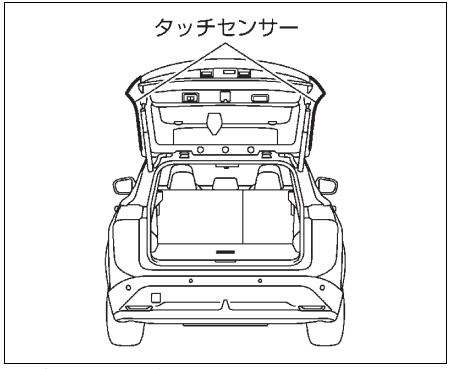
- ハンズフリーセンサーは、センサー中心から左右に約400mmずつの範囲を検知します。
- シフトポジションがP以外のときはハンズフリーセンサーによる開操作は行えません。

バックドアインナースイッチおよびバックドアインナーロックスイッチによる閉めかた



- バックドアが開いているとき、スイッチを押すと自動的に全閉します。
- オート閉作動中にスイッチを押すと、その位置でオート作動を停止します。再度、スイッチを押すと全開して停止します。
- <バックドアインナーロックスイッチ>を押すと、全ドアが施錠されバックドアが全閉します。全閉したあとブザーが1回鳴り、非常点滅表示灯が1回点滅します。
- 次の場合は<バックドアインナーロックスイッチ>を押してもオート作動が開始されません。
  - バックドア以外のいずれかのドアが開いているとき
  - 走行可能表示灯［READY］が点灯しているとき

挟み込み防止機構について



- バックドアがオート作動中に、挟み込み、引っ掛かりなどを感知すると、反対方向に動きバックドアが停止します。
- バックドアがオート閉作動中にバックドア左右端部のタッチセンサーに触れると、反対方向に動きバックドアが停止します。

⚠ 注意

- **手などを挟まないように十分注意する。**

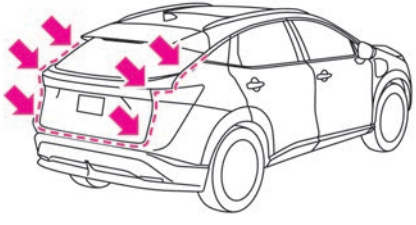
  挟まれる物や挟まれかたによっては、挟み込み防止機構が作動しない場合があります。

アドバイス

- バックドア左右端部のタッチセンサーを傷つけないでください。

  タッチセンサーが切断されると、オート（自動開閉）機能は作動しなくなります。
- タッチセンサーが切断されたときは、安全のためにすみやかに日産販売会社に連絡をしてください。
- 全開位置付近で挟み込みを感知すると、バックドアは反転せずに停止することがあります。
- 挟み込み防止機構が2回連続で作動すると、バックドアがその場で停止します。
- バックドアオート作動時に乗り降りなどで車両が揺れると、バックドアが反転することがあります。

オートクロージャーについて



オートクロージャーは、自動的にバックドアを全閉させる機能です。

閉めるとき、半ドア状態まで閉めると自動的に全閉します。

⚠ 注意

- **バックドアを閉めるときは、バックドアや車体側に手を触れていたり、ドアグリップを握ったりしない。また、バックドアのふちやその周辺に手をかけない。**

  手を挟まれてケガをするおそれがあります。バックドアを閉めるときは、必ず外から押して閉めてください。

アドバイス

- 次のような場合はオートクロージャーが作動しません。アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されているときは、バックドアを一旦開けてから閉め直してください。
  - ― バックドアを開けて0.5秒以内に閉めたとき
  - ― <バックドアオープナースイッチ>を押したあと、バックドアを開けなかったとき
- 12Vバッテリーが弱っているとオートクロージャーが作動しないことがあります。その場合は、手で強く閉めるかEVシステムを始動してから閉め直してください。
- オートクロージャーの故障によりバックドアが閉まりきらないときは、バックドアを一旦開け、再度手で閉めてください。
- 荷物の積みすぎなどによりオートクロージャーで閉めきれない状態を繰り返すと、オートクロージャーが作動しなくなります。そのときは日産販売会社で点検を受けてください。

ガレージモードについて

バックドアを自動で開くとき、お好みの高さでバックドアを止める機能です。

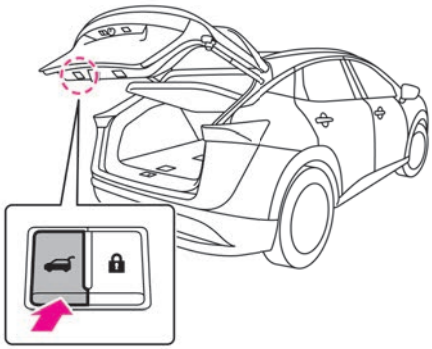
ガレージモードの設定のしかた

⚠ 注意

- **バックドアの止まる位置を1/3以下の高さに設定しない。**

  バックドアの止まる位置を1/3以下に設定しても、自動的に1/3の高さに設定されます。設定した高さよりも開くため、思わぬケガや破損につながるおそれがあります。

1. セレクトレバーにあるⓅスイッチを押し、シフトポジションを**P**に切り替えます。

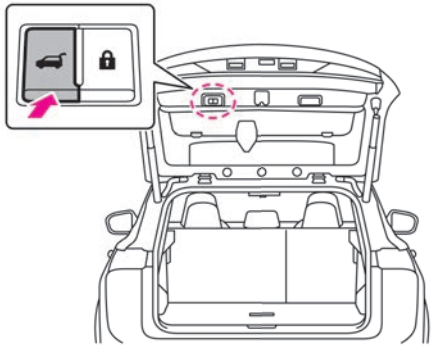


2. 設定したい高さの位置までバックドアを開け、<バックドアインナースイッチ>を約3秒押し続けます。
3. ブザーが2回鳴れば設定完了です。

   オートで開くと、バックドアが設定した高さで停止します。

ガレージモードの解除のしかた

1. セレクトレバーにあるⓅスイッチを押し、シフトポジションを**P**に切り替えます。



2. 全開位置までバックドアを手動で開けて、<バックドアインナースイッチ>を約3秒押し続けます。
3. ブザーが2回鳴れば解除完了です。

正常に作動しないとき

バックドアがオートで動かないときは、次の内容を確認してください。

- 連続作動後に動かないときは、バックドアを約5分間以上作動させずに放置した後、作動させます。
- バックドアが開いた状態のときは、一度手動で閉めてから作動させます。
- バックドアが全閉位置から約150mm開いた位置にあると、いずれのスイッチを操作してもリモコンオートバックドアは作動しません。リモコンオートバックドアを作動させるには、手動でバックドアを押して閉めてください。
- 12Vバッテリーが弱っている（電圧が11V未満）と、バックドアがオート開閉できないことがあります。その場合は、EVシステムを始動してから作動させます。
- ヒューズが切れている場合はヒューズを交換します。日産販売会社にご相談ください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で［パワーバックドア］がONになっていることを確認してください。
- ハンズフリー機能を使うときは、インテリジェントキーを携帯しているか確認してください。
- ハンズフリー機能を使うときは、センサー位置および足の動かしかたが正しいか確認してください。
  ➔ハンズフリーセンサーによる開けかた、閉めかた (P.143)
- ハンズフリー機能を使うときは、リヤバンパーに足が接触しないようにしてください。センサーが正しく機能しない場合があります。
- ハンズフリー機能は電波塔付近などの電波環境下では正常に作動しないことがあります。その場合は<バックドアオープナースイッチ>、<バックドアインナースイッチ>または<バックドアインナーロックスイッチ>を押して開閉してください。
- ハンズフリーセンサーが作動しないときは、次の操作を確認します。
  — <バックドアオープナースイッチ>が作動することを確認します。
  — 再度ハンズフリーセンサーの作動を確認します。
  — 作動しないときは、一度12Vバッテリーのマイナス端子を外してリセットし、再度確認します。

  上記操作を行っても作動しないときは、日産販売会社にご相談ください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ロック］⇒［keyエントリー］をOFFにすると、<バックドアオープナースイッチ>による解錠機能やハンズフリー機能もOFFになります。
  ➔車両設定 (P.114)
  ➔バックドアオープナースイッチによる開けかた (P.143)
  ➔ハンズフリーセンサーによる開けかた、閉めかた (P.143)

リモコンオートバックドアに関する注意事項

⚠ 注意

- **確実に停車している状態で開閉操作をする。**
- **開閉操作をするときは、バックドア周囲の安全を十分確認する。**
  バックドアに当たり、ケガをしたり物を損傷したりするおそれがあります。
- **車が大きく傾いている状態ではオート作動をしない。**
- **オート作動中にバックドアを押したり引いたりしない。**

⚠ 注意

反転して挟まれたり、バックドアに当たりケガをしたりするおそれがあります。

ハンズフリーセンサーについて

- **足以外でも、インテリジェントキーを携帯したままハンズフリーセンサーに物を近づけると、バックドアが開閉することがあるため注意する。**

  ハンズフリーセンサーが反応してバックドアが突然開閉し、思わぬケガをするおそれがあります。

- **洗車、ワックス掛け、整備を行うとき、ボディーカバーを付け外しするとき、ハンズフリーセンサー周りに水を掛けるときなどは、アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で［パワーバックドア］をOFFにする。**

  ハンズフリーセンサーが反応してバックドアが突然開閉し、思わぬケガをするおそれがあります。

- **バックドア付近にインテリジェントキーを携帯した人がいた場合、キーを携帯していない人がハンズフリーセンサーを使用して、バックドアを開閉できる場合があるため注意する。**

  思わぬケガをするおそれがあります。

- **坂道や未舗装路、凍結した路面などで足を出し入れするときは注意する。**

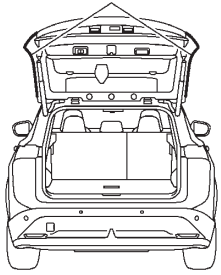
  転んで思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- EVシステム停止時に何回も作動させないでください。バッテリーがあがりEVシステムの始動ができなくなります。
- オート作動中はEVシステムを始動させないでください。正常に作動しなくなることがあります。
- 車を発進させるときは、バックドアが全閉していることを確認してください。閉作動中に発進すると、反転して開き出すおそれがあります。
- 次の場合は、アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で［パワーバックドア］をOFFにしてください。
  - ― バックドアが故障したとき
  - ― バックドアを長時間開けたままにするとき
  - ― 洗車や整備を行うとき
  - ― 手動で使用するとき

- バックドア左右端部のタッチセンサーを傷付けないようにしてください。センサーが切断されるとオートで作動しなくなります。また、オート閉作動中に切断されると、ドアが作動停止します。その後のオート閉作動もしません。

タッチセンサー



- 12Vバッテリーあがりなどでリモコンオートバックドアへの電源供給が断たれたときや、オート作動中に反転作動（挟み込み防止機構を含む）を連続して作動させたときは、正常に作動しなくなることがあります。その場合は、一旦手動でバックドアを完全に閉めてください。

ハンズフリーセンサーについて

- 次のような使用環境では、ハンズフリーセンサーが反応せず、正常に作動しない場合があります。
  - ― 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備があるとき

アドバイス

— コインパーキングに駐車したとき（車両検出用の電波の影響があるため）

— ゴム長靴など、電気を通しにくい物を履いているとき

● 次のような足の動かしかたでは、ハンズフリーセンサーが反応せず、正常に作動しない場合があります。

— 検知範囲内に足を入れたままにしているとき

— 足を左右に動かしたとき

— 足の動かしかたが早すぎたとき

● ハンズフリーセンサー付近に、メッキ部品や金属部品などを貼ったり組み付けたりしないでください。ハンズフリーセンサーが反応せず、正常に作動しなくなるおそれがあります。

● 連続で開閉動作を行うと、安全装置が働き一定時間自動開閉できなくなることがあります。その場合は、少し時間をおいてから再度開閉してください。

●閉作動時、半ドア位置までバックドアが閉まると、オートクロージャー機能で全閉します。
➔オートクロージャーについて (P.144)

●オート作動の開始時にはブザーが鳴ります。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で［パワーバックドア］がONのとき、バックドアを開けたまま車を動かすとブザーが鳴ります。（停車またはバックドアを閉めると鳴り止みます。）

リモコンオートバックドアの ON・OFF のしかた

アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［パワーバックドア］を選択すると、自動開閉機能のON・OFFを切り替えることができます。

●オート作動は、アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定がONで、車両が停止しているときに作動させることができます。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で［パワーバックドア］をOFFにしてもオートクロージャーは作動します。

●オート作動中に作動可能条件が満たされなくなると、作動が停止しオート作動しなくなることがあります。その場合、作動可能条件を再度満たすとオート作動させることができます。

●12Vバッテリーが弱っている（電圧が11V未満）ときは作動しません。

■ アドバンスドドライブアシストディスプレイ設定の作動

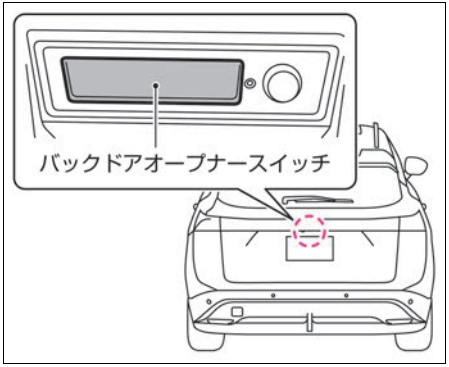
アドバンスドドライブアシストディスプレイ設定	ON	OFF
運転席スイッチによる開閉操作	**作動**※1	非作動
リモコンによる開閉操作	**作動**※1、2	非作動
バックドアオープナースイッチによる開操作	**作動**※1	非作動
ハンズフリーセンサーによる開閉操作	**作動**※1	非作動
バックドアインナースイッチおよびバックドアインナーロックスイッチによる閉操作	**作動**※3	非作動

※1：シフトポジションがPレンジ以外のときは開作動しません。

※2：走行可能表示灯が点灯しているときは作動しません。

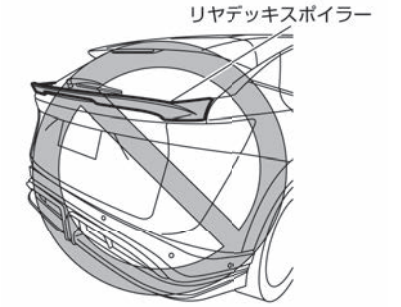
※3：＜バックドアインナーロックスイッチ＞を使用すると、全ドアが施錠されバックドアが全閉します。

手動でのバックドアの開けかた・閉めかた



- 解錠されているときは、<バックドアオープナースイッチ>を押し、バックドアを持ち上げます。
- 施錠されているときは、キー（インテリジェントキー）を携帯して<バックドアオープナースイッチ>を押し、バックドアを持ち上げます。（ドアも同時に解錠します。）
- <バックドアオープナースイッチ>を押したまま、リモコンでドアを施錠・解錠しないでください。故障の原因になります。
- バックドアを引き下げ、半ドア状態まで閉めると、自動的に全閉します。

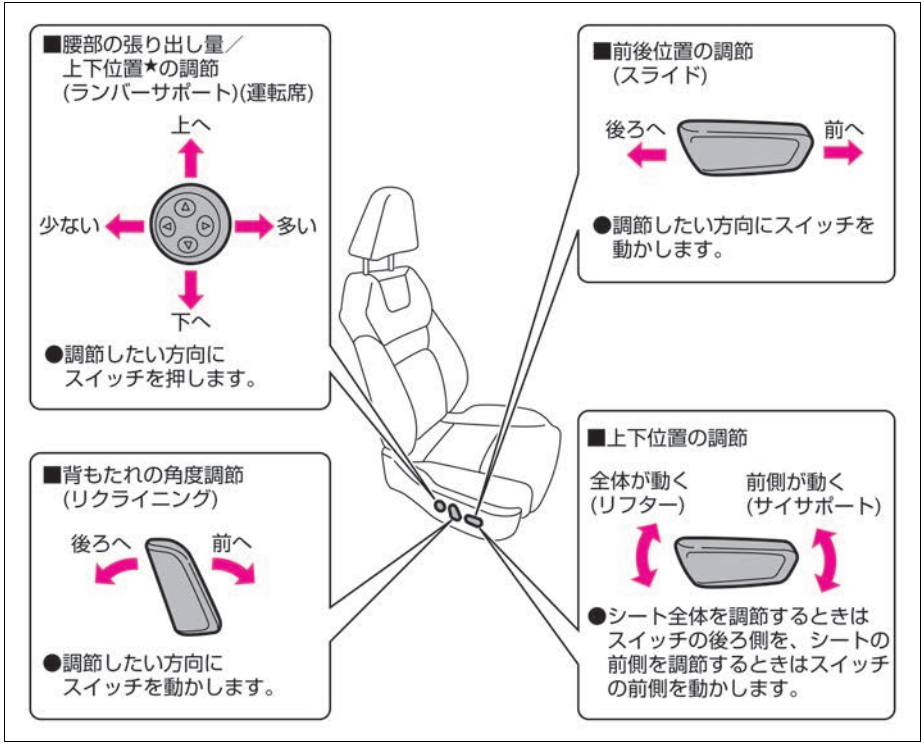
アドバイス



- NISMO仕様車は、リヤデッキスポイラーを持って開閉しないでください。リヤデッキスポイラーが破損するおそれがあります。

前席シート

シートの調節のしかた



⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**
  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **シートの下に手を入れるときは注意する。**
  車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームに当たり、ケガをするおそれがあります。

アドバイス

- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたり、クッションなどを使用すると、シートベルトリマインダーが正常に作動しないおそれがあります。

  シートベルトリマインダー（P.376）

- ＜パワースイッチ＞をON・OFFしたときに、ランバーサポートを初期化するため、作動音が発生する場合がありますが、異常ではありません。（腰部の張り出し上下位置調節付車）
- スイッチを操作するとナビゲーションシステムにガイダンスが表示されます。
- ナビゲーションシステムでガイダンス表示のON・OFFを切り替えることができます。詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

パーソナルドライビングポジションメモリーシステムの設定のしかた

- パーソナルドライビングポジションメモリーシステムは、パーソナルアシスタント機能で認識されたユーザーの運転ポジションを復帰させることができ、次のような機能があります。
  - パーソナルアシスタント機能
  - シートおよびハンドルの退避・復帰機能
  - パーソナルアシスタント連動メモリー機能
  - スイッチメモリー機能
- すべての機能は、シフトポジションがPのときに作動します。
- EVシステム始動時は作動が一時停止しますが、EVシステム始動後に再開します。
- 次のいずれかの操作を行うと作動が停止します。
  - シフトポジションをP以外にしたとき（シートの復帰機能は停止しません。）
  - シート、ハンドル、電動センターコンソールボックスの調節スイッチを操作したとき
  - ＜セットスイッチ＞、＜メモリースイッチ＞のいずれかを押したとき

■ シートおよびハンドルの退避・復帰機能

運転席シートとハンドルが動き、乗り降りを楽にします。

退避機能

＜パワースイッチ＞をOFFにして運転席ドアを開けると、運転席シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に動きます。

復帰機能

＜パワースイッチ＞をONにすると、運転席シートとハンドル が選択しているユーザーの設定した位置に戻ります。

■ パーソナルアシスタント連動メモリー機能

次の手順でパーソナルアシスタント機能に運転ポジション（シート位置、ハンドル位置など）を記憶することができます。

1. あらかじめユーザー登録の完了しているインテリジェントキーを携帯し、＜パワースイッチ＞をONにします。
2. 運転席のシート位置、ハンドル位置を調節し、＜パワースイッチ＞をOFFにします。

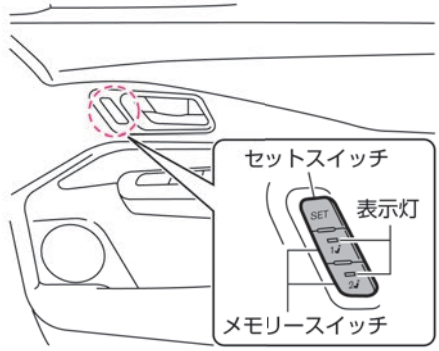
次回から、インテリジェントキーを携帯して＜パワースイッチ＞をONにすると、記憶した運転ポジション（シート位置、ハンドル位置）を呼び出します。

- パーソナルアシスタント機能には運転ポジション以外（ナビゲーションシステムなど）の設定も記憶されます。

■ スイッチメモリー機能

2名分の運転ポジション（シート位置、ハンドル位置など）をスイッチに記憶させ、呼び出すことができます。

記憶のしかた



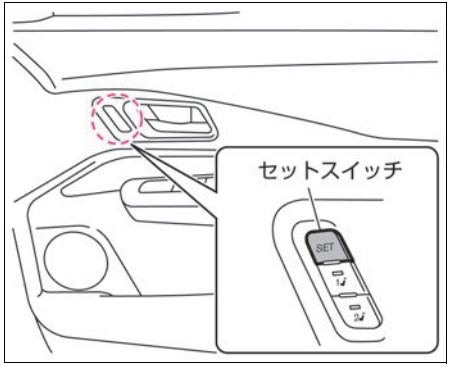
1. 運転席側：正しい運転姿勢が取れる運転ポジションに調節します。
➔ハンドル位置の調節のしかた (P.156)
➔シートの調節のしかた (P.153)
助手席側：お好みの位置にシートを調節します。
2. ＜セットスイッチ＞を押し、押してから5秒以内に記憶させたい方の＜メモリースイッチ＞を押します。
記憶が完了すると、ブザーが鳴るとともに記憶させたスイッチの表示灯が5秒間点灯します。

呼び出しかた

シフトポジションを**P**にします。
記憶を呼び出したい方の＜メモリースイッチ＞を押します。
呼び出し中はスイッチの表示灯が点滅し、完了すると約5秒間点灯します。

- パーソナルアシスタント機能で記憶した運転ポジションとは別にスイッチに記憶されます。
- 運転ポジション以外の設定はスイッチに記憶しません。
- ＜セットスイッチ＞を押したとき、記憶されていると約5秒間表示灯が点灯します。
- 状況により、＜メモリースイッチ＞を押してから呼び出しが開始するまで数秒かかることがあります。

■ 退避・復帰の設定の切り替えかた



シートおよびハンドルの退避・復帰機能の作動・非作動を切り替えることができます。

1. ＜パワースイッチ＞をOFFにします。
➔パワースイッチでのモードの切り替えかた (P.185)
2. ＜セットスイッチ＞を10秒以上押し続け、作動と非作動を切り替えます。

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、シートおよびハンドルの退避・復帰機能の設定を切り替えることができます。
設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［運転姿勢］⇒［降車時シート退避］／［ステアリング跳上げ］
詳しくは、（➔車両設定 (P.114)）をお読みください。

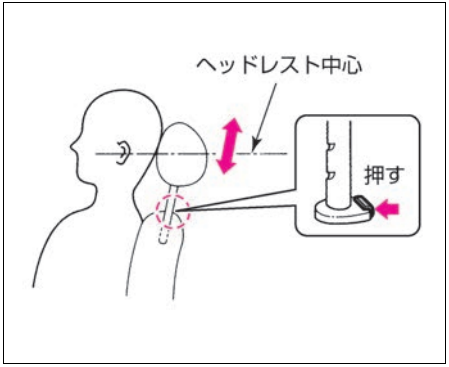
ヘッドレストの調節のしかた

⚠ 警告

- **ヘッドレストを外したまま走行しない。**
万一のとき、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。**
万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。**
万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。



ヘッドレストの中心が、耳の高さになる位置に調節します。

- 高くするときは、ヘッドレストを引き上げます。
- 低くするときは、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

- 取り外すときは、ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。
- 取り付けるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを差し込みます。

後席シート

シートの調節のしかた



⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。**
  顔や身体にあたり、思わぬケガをするおそれがあります。

シートの折りたたみかた

⚠ 警告

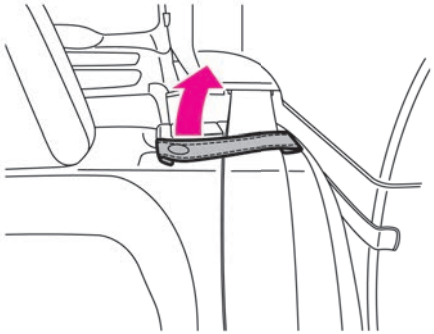
- **シートは必ず固定する位置で使用する。**

⚠ 注意

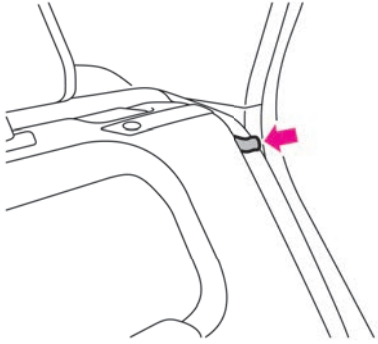
- **シートを折りたたんだとき、折りたたんだ背もたれの上に乗らない。**
  シートを損傷したり、転んだりして思わぬケガをするおそれがあります。
- **背もたれを起こすときは、背もたれを手で押さえ、ゆっくり戻す。**
  急に戻すと顔や身体などに当たり、思わぬケガをするおそれがあります。
- **背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれで挟み込んでいないことを確認する。**
  挟み込まれていると、シートベルトが正しく着用できません。

アドバイス

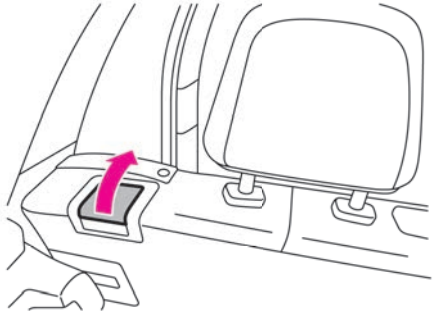
- シートベルトガイドを持ちながら、背もたれの調節をしないでください。破損するおそれがあります。



1. シートベルトガイドからシートベルトを取り外します。



2. シートベルトをクリップで留めます。



3. 折りたたみたい方のシートのレバーを引きながら、背もたれを前に倒します。



4. 元に戻すときは、背もたれを起こし、手で後方に押し付けてロックします。
5. シートベルトをシートベルトガイドに通します。

- 物や飲物などを置いたままシートを折りたたむと、物を壊したり車室内を汚すおそれがあります。シートを倒すときは十分に注意してください。
- ラゲッジルーム（荷室）に荷物を積むときは、シートベルトに傷を付けないように注意してください。
- 前席シートに当たりシートが折りたためないときは、ヘッドレストを格納するか、前席シートの前後位置を調節してください。

ヘッドレストの使いかた

⚠ 注意

- **ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。**

  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

- **ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。**

  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

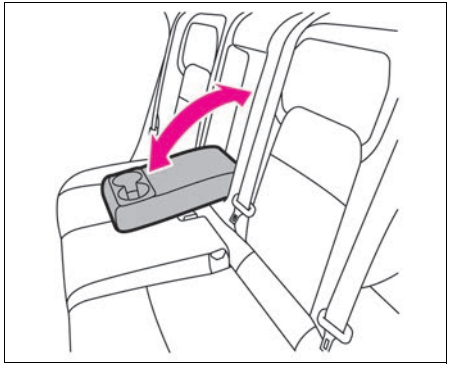
- **後席シート中央席のヘッドレストは、ロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認する。**

  格納状態では機能が十分に発揮できません。

- ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。
  - — 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げます。
  - — 下げるときは、ボタンを押しながら下げます。
- 後席シートのヘッドレストは、格納状態では機能が十分に発揮できません。ロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認してください。
- 脱着のしかたは、前席シートと同じです。

➔ ヘッドレストの調節のしかた (P.152)

リヤセンターアームレストの使いかた



- アームレストを前に倒します。
- 元に戻すときは、アームレストを起こします。

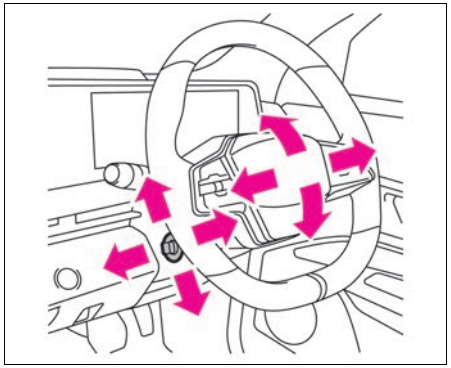
ハンドル

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドル位置を調節します。

ハンドル位置の調節のしかた

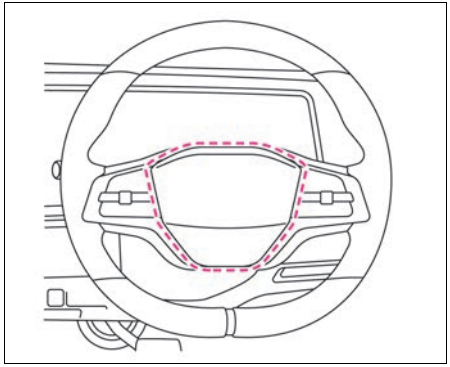
⚠ 警告

- **ハンドルの調節は、必ず走行前に行う。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。



●スイッチを前後上下に押して調節します。

ホーンの鳴らしかた

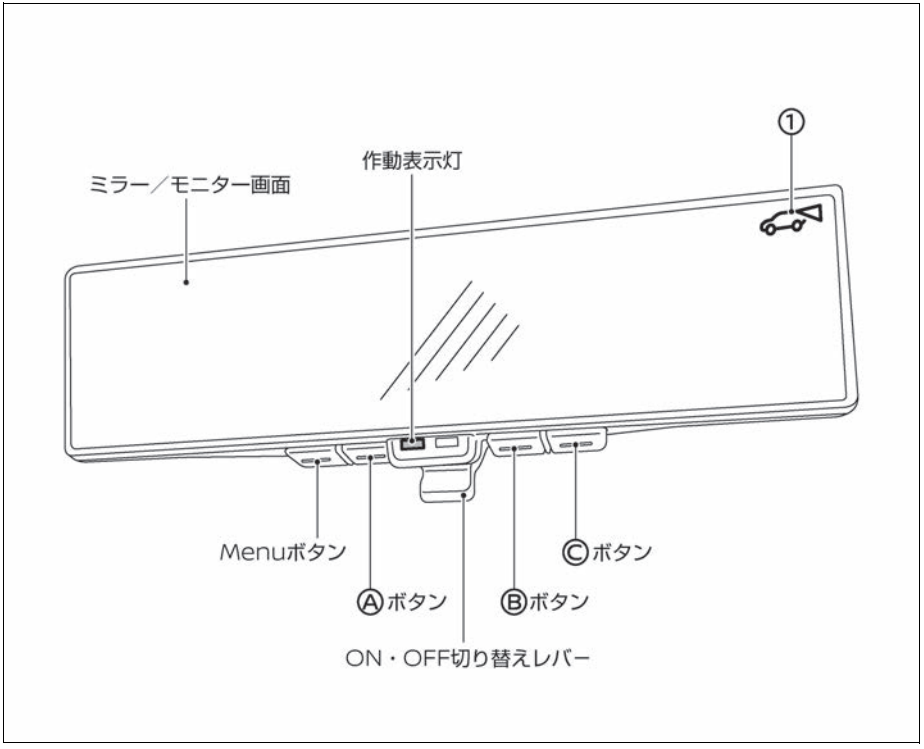


ホーンを鳴らすには、ハンドル中央のパッド面を押します。

インテリジェント ルームミラー

乗員、ヘッドレスト、積載物などでさえぎられがちなルームミラーの後方視界をクリアに保ちます。車室内の状況に関わらず、車両後方にあるカメラの画像をルームミラーに映し出します。ON・OFF切り替えレバーでミラー状態とモニター表示状態を切り替えることができます。

インテリジェント ルームミラーの使いかた



＜Menuボタン＞：調節する項目を表示

＜Ⓐボタン＞・＜Ⓑボタン＞：項目選択および調節

＜Ⓒボタン＞：決定

■ ルームミラーモード

●ミラーとして使用します。

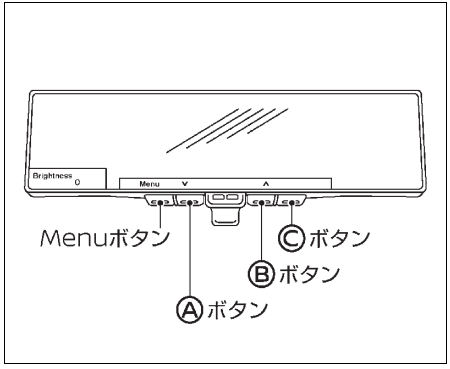
■ インテリジェント ルームミラーモード

モニターとして使用します。
（インテリジェント ルームミラーモードのときは、①が表示されます）

1. ＜パワースイッチ＞をONにします。
2. インテリジェント ルームミラーのON・OFF切り替えレバーを手前に引きます。（作動表示灯が点灯）
3. インテリジェント ルームミラーモードに切り替わり、モニターに車両後方の画像が表示されます。
   インテリジェント ルームミラーのON・OFF切り替えレバーを車両前方側へ倒すと、モニター画面がOFFになり、ルームミラーモードとして使用できます。

●周囲の明るさにより見づらかったり、眩しく感じたりしたときはインテリジェント ルームミラーモードをOFFにし、ルームミラーモードでご使用ください。

インテリジェント ルームミラーの画質調節



インテリジェント ルームミラーモードのときに、モニター画像の各種調節ができます。

<Menuボタン>を押すと調節できる項目が表示されます。<Ⓐボタン>・<Ⓑボタン>で選択し、<Ⓒボタン>で調節する項目を決定します。

■ Brightness（明るさ）

モニター画像の明るさを調節します。（周囲の明るさにより、画面の明るさが調節できなくなる場合があります。）

- <Ⓐボタン>を押すと、画面が暗くなります。
- <Ⓑボタン>を押すと、画面が明るくなります。
- 調節幅：-8（暗い）～+8（明るい）

■ Down/Up（下／上）

モニター画像の上下位置を調節します。

- <Ⓐボタン>を押すと、画像が下に移動します。
- <Ⓑボタン>を押すと、画像が上に移動します。
- 調節幅：-8（下方向）～+8（上方向）

■ Left/Right（左／右）

モニター画像の左右位置を調節します。

- <Ⓐボタン>を押すと、画像が左に移動します。
- <Ⓑボタン>を押すと、画像が右に移動します。
- 調節幅：-8（左）～+8（右）

■ Rotation（回転）

モニター画像位置の回転調節をします。

- <Ⓐボタン>を押すと、画像が左に回転します。
- <Ⓑボタン>を押すと、画像が右に回転します。
- 調節幅：-8（左回り）～+8（右回り）

■ Indication（インジケーター）

モニター文字表示の表示・非表示を設定します。

- <Ⓐボタン>を押すと、モニター文字表示が非表示になります。
- <Ⓑボタン>を押すと、モニター文字表示が表示されます。

■ Language（言語）

表示させる言語を切り替えます。

- <Ⓐボタン>・<Ⓑボタン>で選択し、<Ⓒボタン>で決定します。

■ Switch Backlight（スイッチ照明）

スイッチの照明のON・OFFを設定します。

- <Ⓐボタン>を押すと、スイッチの照明がOFFになります。
- <Ⓑボタン>を押すと、スイッチの照明がONになります。

■ License（ライセンス）

ライセンス情報が表示されます。

インテリジェント ルームミラー使用時の注意事項

⚠ 警告

- **走行前に、ルームミラーの調節を必ず行う。**

  ルームミラーモード（ミラー状態）にして正しい姿勢で運転席に座り、後方がよく見える位置に調節してください。調節をしないで運転を始めると、インテリジェント ルームミラーモード（モニター表示状態）にしたときにミラーの反射でモニターが見えにくくなる場合があります。

ミラーの調節

⚠ 警告

- **インテリジェント ルームミラーモードのときに作動表示灯が消灯したら、すみやかにルームミラーモードに切り替える。**

  再度インテリジェント ルームミラーにしても点灯しない場合、システムの異常が考えられます。日産販売会社にご相談ください。

- **あらかじめ死角範囲を確認する。**

  インテリジェント ルームミラーには死角があります。システムを過信せず、安全運転を心がけてください。

- **ミラー本体やカメラ、配線を分解したり改造したりしない。**

  異臭がする、煙が出るなどした場合は、ただちに使用を中止し日産販売会社にご相談ください。

- **走行中に操作しない。**

  走行中に操作を行うと、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ミラー本体、カメラ、配線類にはタバコなどの火気を近づけない。**

  破損や車両火災の原因となります。

⚠ 注意

- **モニターを凝視しない。**

  ― 前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

  ― 同乗者が凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

- **太陽や後方車両のヘッドランプなどの強い光源がカメラに入ると、インテリジェント ルームミラーのモニターに光のスジが入ったり、明るい光源がモニター上に広がったりする場合があります。その際には、必要に応じてルームミラーモードに戻してご使用ください。**

- 走行可能表示灯［READY］が消灯時に長時間使用すると12Vバッテリーあがりのおそれがあります。
- 無線機のアンテナをインテリジェント ルームミラー近くに取り付けないでください。無線機の電波により、インテリジェント ルームミラーの映像に乱れが出ることがあります。
- ボタンを強く押しすぎたり、レバーを強く操作したりすると故障の原因となります。また、ミラー本体が落下するおそれがあります。
- ミラーを上下20度、左右30度以上回転させないでください。配線が断線するおそれがあります。
- ミラー本体に強い衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- 車両後方についているカメラやカメラカバーに無理な力をかけないでください。カメラが外れたり、故障したりするおそれがあります。
- 外部光による影響でモニターが見えにくいときは、ルームミラーモード（ミラー状態）にして使用してください。
- LED光源を使用した照明の一部が映った場合、画面がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- 外部環境の乱反射により、画面がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- すばやい動きにはモニター表示が追従できない場合がありますが、故障ではありません。
- ルームミラーとは後方の見えかたが異なります。インテリジェント ルームミラーの機能を過信せず、直接後方を確認するなど、責任のある運転を心がけてください。
- モニターの明るさを明るく調節しすぎると、運転中に目が疲れることがあります。明るさを適切に調節してください。
- 雨天時はリヤワイパーを併用してください。リヤワイパーを併用してもカメラ映像が不鮮明の場合、リヤワイパーゴムの劣化を確認してください。
- リヤワイパー使用中は、カメラ前をリヤワイパーが通過した際に、画面がちらつくように見える場合がありますが、故障ではありません。
- カメラ映像が不鮮明な場合は、インテリジェント ルームミラーカメラ前面のバックドアガラスを清掃してください。清掃してもカメラ映像が不鮮明な場合は、ガラス面に油膜が付いているおそれがあります。油膜取りを使用して清掃してください。

➔外観リヤ (P.4)
➔インテリジェント ルームミラーのお手入れ (P.445)

●バックドアガラスがくもった場合は、リヤデフォッガーを使用し、バックドアガラスのくもりを取ってください。くもりが完全に取れるまではルームミラーモードで使用してください。
●インテリジェント ルームミラーのモニターが熱を帯び、高温になることがありますが、故障ではありません。
●遠いものや暗いときは色が認識しにくいことがありますが、故障ではありません。
●インテリジェント ルームミラーのお手入れについては（➔P.445）をお読みください。
●体調などによりインテリジェント ルームミラーモードの映像に焦点が合うまでに時間を要する場合があります。
●インテリジェント ルームミラーの前方をふさがないでください。モニターの明るさ調整やカメラ映像の切り替えができないことがあります。
●インテリジェント ルームミラーモードのとき、インテリジェント ルームミラーが高温になると明るさが低下したり、映像が表示されなかったりする場合があります。
●インテリジェント ルームミラーモードのとき、インテリジェント ルームミラーが低温になるとカメラ映像が遅れることがあります。

ドアミラー

＜パワースイッチ＞がONまたはOFFでACC状態のときに操作できます。

ACC状態については、オートACC機能（➔P.185）をお読みください。

ドアミラーの注意事項

⚠ 警告

● **ミラーの調節は、必ず走行前に行う。**

走行中にミラーを調節すると、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

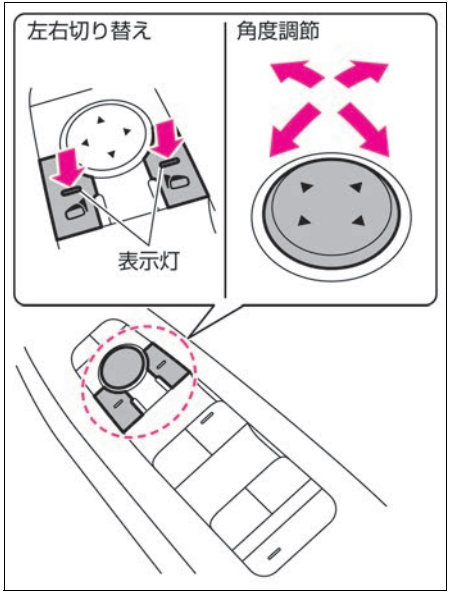
● **ミラーが動いているときは手を触れない。**

手を挟む、またはミラーが故障するおそれがあります。

● **ミラーを格納したまま走行しない。**

後方確認ができないため危険です。

ドアミラーの角度調節のしかた



●調節したいミラー側の＜左右切り替えスイッチ＞を押します。
（スイッチの表示灯が点灯）
●＜角度調節スイッチ＞を前後左右に押して、鏡面角度を調節します。

ドアミラーの格納のしかた



- ＜格納スイッチ＞を押すと、左右のミラーが格納されます。
- ＜格納スイッチ＞をもう一度押すと、元の位置に戻ります。
- スイッチ操作を連続して行うと、途中で停止することがありますが、故障ではありません。しばらくしてから作動させてください。
- 手動で開閉すると＜パワースイッチ＞をONにしたとき、＜格納スイッチ＞の位置によりミラーが動き出すことがあります。
- 手動でミラーを開閉しないでください。手動で開閉すると、走行中にミラーが規定位置より前方または後方に倒れ、後方確認ができなくなるおそれがあります。手動で開閉してしまったときは、走行前に＜格納スイッチ＞で開閉操作を行ってください。

ドアロック連動格納機能について

ドアの施錠に連動させ、ミラーを格納することができます。

- リモコンまたは、ドアハンドルのセンサーで施錠すると、左右のミラーが格納されます。
- ＜パワースイッチ＞をONにすると、左右のミラーが開きます。（アドバンスドドライブアシストディスプレイで、リモコンまたはドアハンドルのセンサーで解錠すると左右のミラーが開く設定に変更できます）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ドアミラー］を選択すると、ドアロック連動格納機能の設定を変更することができます。
  設定の詳細については、車両設定（➔P.114）または（➔P.87）をお読みください。

ドアミラーヒーターの使いかた

＜パワースイッチ＞がONのとき、＜リヤデフォッガースイッチ＞（➔P.415）を押すと、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりが取れます。

パワーウインドー

<パワースイッチ>がONのときに操作できます。

パワーウインドーの注意事項

⚠ 警告

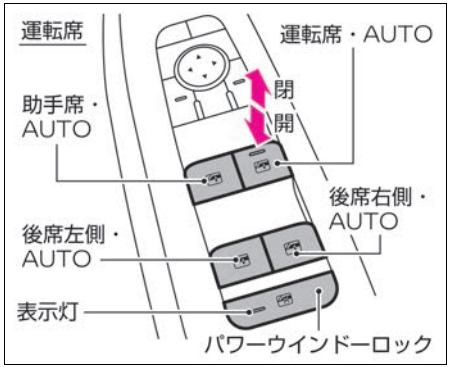
- **乗員の操作を含めすべての窓ガラス開閉操作は運転者に責任があるため、次のことを必ず守る。**
  - 走行中は顔や腕、物などを車外に出さないでください。車外の物に当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながったりするおそれがあります。
  - 窓ガラスを開閉するときは、窓から手や顔などを出したり、故意に挟み込み防止機構を働かせたりしないでください。手や顔、腕などを窓ガラスに挟まれたり巻き込まれたりすると、重大な傷害につながるおそれがあります。
  - お子さまにはパワーウインドーを操作させないでください。重大な傷害につながるおそれがあるため、<パワーウインドーロックスイッチ>を押し込んでください。
  - 窓ガラスを開閉するときはお子さまに声をかけ、手や腕などが窓ガラス付近にないことを確認してから操作を行ってください。
  - 車から離れるときは<パワースイッチ>をOFFにし、キーとお子さまを車室内に残さないでください。いたずらなどの誤った操作によって思わぬ事故につながるおそれがあります。

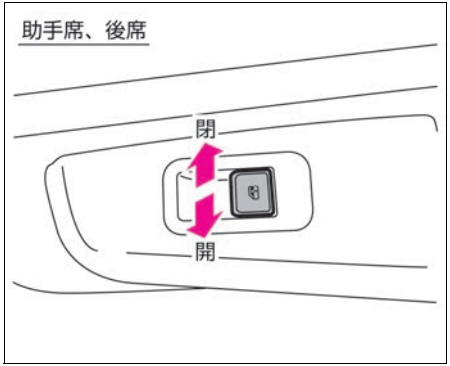
⚠ 注意

- **指などを挟まれないように注意する。**

  窓ガラスには挟み込み防止機構がありますが、窓ガラスを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。

パワーウインドーの開けかた、閉めかた





運転席のスイッチで、各席の窓ガラスの開閉ができます。助手席のスイッチおよび後席のスイッチでは自席の窓ガラスの開閉ができます。

■ 開けるには

- スイッチを軽く押すと、押している間だけ開きます。

■ 閉めるには

- スイッチを軽く引き上げると、引き上げている間だけ閉まります。

■ 自動開閉するには

窓ガラスはワンタッチで自動開閉できます。

- スイッチを強く押すと全開します。
- スイッチを強く引き上げると全閉します。
- 途中で止めたいときは、スイッチを操作した反対側に軽く押すか引き上げます。

窓ガラスの開閉

■ 開閉操作をロックするには

お子さまが誤って窓ガラスを開閉することを防止できます。

- ＜パワーウインドーロックスイッチ＞を押すと、運転席以外の窓ガラスの開閉ができなくなります。
- スイッチをもう一度押すとロックが解除されます。

■ キーOFF後作動機構

- 窓ガラスは、＜パワースイッチ＞をOFFにしたあとでも、約45秒間は開閉することができます。ただし、その約45秒間に運転席ドアまたは助手席ドアを開けると、窓ガラスの開閉はできなくなります。

■ インテリジェントキーによる遠隔操作機能

- インテリジェントキーの＜ドア施錠スイッチ＞または＜ドア解錠スイッチ＞を長押しすると、車外から全席のパワーウインドーを開閉できます。
- プロパイロット リモート パーキング専用インテリジェントキーの＜プロパイロット リモート パーキング OFF/ドア施錠スイッチ＞を長押しすると、車外から全席のパワーウインドーを閉めることができます。（プロパイロット リモート パーキング付車）

挟み込み防止機構

⚠ 警告

- **窓ガラスを閉める前に乗員の手や顔などが窓から出ていないことを確認する。**

  挟み込み防止機構を解除すると、自動開作動と挟み込み防止機構が作動しません。確認せずに窓ガラスを閉めると重大な傷害につながるおそれがあります。

- 窓ガラスを閉めているとき、車体と窓ガラスの間に異物が挟まると、窓ガラスの上昇が停止し、自動で少し開きます。
- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重が窓ガラスに加わると挟み込み防止機構が作動することがあります。
- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、窓ガラスを閉めることができないときは、次の手順で挟み込み防止機構を解除して、窓ガラスを閉めてください。

① 挟み込み防止機構が作動するまでスイッチを引き上げます。
② ①の手順を2回繰り返します。
③ スイッチを引き続けて窓ガラスを閉めます。

- 挟み込み防止機構の解除は次の場合に終了し、通常の作動に戻ります。
  - 一定時間（約10秒）経過する
  - 窓ガラスを全閉する

正常に作動しないとき

- 初期設定を行うときは、ドアを閉めて操作してください。

窓ガラスのワンタッチ開閉、挟み込み防止機構、キーOFF後作動機構が正常に作動しないときは、次の操作を行い初期設定してください。

① ＜パワースイッチ＞をONにします。
② 運転席のスイッチを引き続けて運転席窓ガラスを全閉にしたあと、スイッチから手を離します。※1
③ 運転席のスイッチを5秒以上引き続けます。※2
④ 運転席のスイッチを押し続けて運転席窓ガラスを全開にしたあと、スイッチから手を離します。
⑤ 運転席のスイッチを5秒以上押し続けます。※2
⑥ 運転席窓ガラスが全閉するまで、運転席のスイッチを引き続けます。
⑦ 運転席窓ガラスを自動開閉させて、正常に作動することを確認します。

※1：全閉になる前に窓ガラスが停止した場合は、スイッチから手を離し、再度スイッチを引き続けて全閉にしてください。

※2：約5秒以上スイッチを引き続ける、または押し続けると再度運転席窓ガラスが動きます。

- 初期設定にしても正常に作動しない場合は早めに日産販売会社で点検を受けてください。

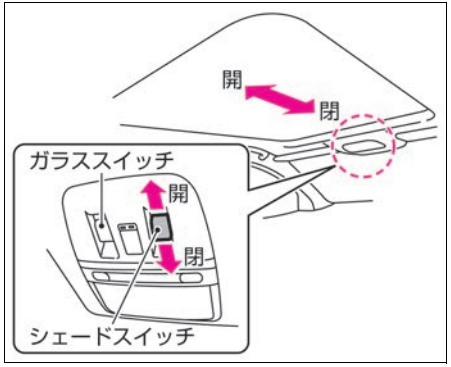
パノラミックガラスルーフ★

<パワースイッチ>がONのときに操作できます。

パノラミックガラスルーフについて

●パノラミックガラスルーフには、次の機能があります。
- サンシェードの開閉（P.164）
- ガラスルーフのチルトアップ（P.164）
- ガラスルーフの前後開閉（P.164）

サンシェードの開けかた、閉めかた



■ 開けるには

●<シェードスイッチ>を車両後方にスライドさせると、サンシェードが半分まで開きます。再度<シェードスイッチ>を車両後方にスライドさせると、全開します。

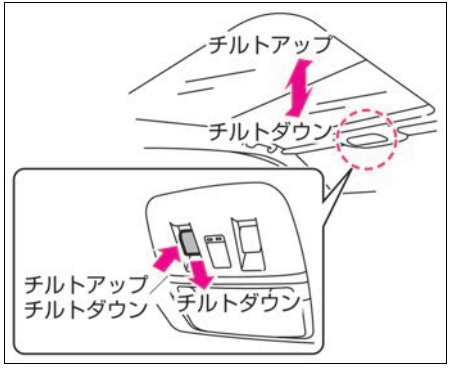
■ 閉めるには

●サンシェードが全開のときに<シェードスイッチ>を車両前方にスライドさせると、サンシェードが半分まで閉まります。再度<シェードスイッチ>を車両前方にスライドさせると、全閉します。

●ガラスルーフが開いているときに<シェードスイッチ>を車両前方にスライドさせると、サンシェードが半分まで閉まります。再度<シェードスイッチ>を車両前方にスライドさせると、ガラスルーフが全閉後にサンシェードも全閉します。

●途中で止めたいときは、<シェードスイッチ>または<ガラススイッチ>をスライドさせます。

ガラスルーフのチルトアップのしかた



■ チルトアップするには

●<ガラススイッチ>を上に押すと、チルトアップします。
（サンシェードが閉じているときは、サンシェードが開いてからチルトアップします。）

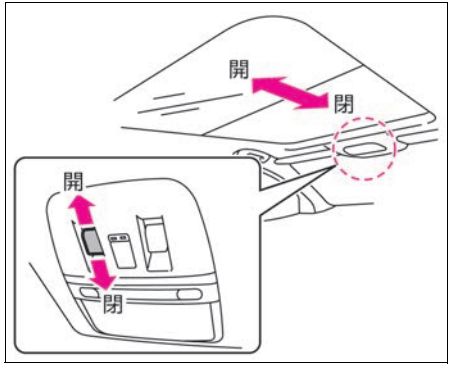
●ガラスルーフが開いているときは、ガラスルーフが閉じてからチルトアップします。

■ チルトダウンするには

●<ガラススイッチ>を上に押す、または前方にスライドさせると、チルトダウンします。

●サンシェードを閉めると、チルトダウンしたあとにサンシェードが閉まります。

ガラスルーフの開けかた、閉めかた



■ 開けるには

●＜ガラススイッチ＞を車両後方にスライドさせると、コンフォートモード位置まで開きます。（サンシェードが閉じているときはサンシェードが開いてから開きます。）

●コンフォートモード位置から、さらに＜ガラススイッチ＞を車両後方にスライドさせると全開します。

■ 閉めるには

●＜ガラススイッチ＞を車両前方にスライドさせると、全閉位置まで閉まります。

●途中で止めたいときは、＜シェードスイッチ＞または＜ガラススイッチ＞をスライドさせます。

■ コンフォートモード

●パノラミックガラスルーフを開けたまま走行するときの位置です。
パノラミックガラスルーフを全開にして走行すると、風切音が大きくなる場合があります。走行するときは、コンフォートモードの位置でご使用ください。

■ インテリジェントキーによる遠隔操作機能

●インテリジェントキーの＜ドア解錠スイッチ＞を長押ししている間、車外からサンシェードを開くことができます。サンシェードが全開したあと、ガラスルーフが開きます。（連続で7秒以上は動かないため、止まった場合は＜ドア解錠スイッチ＞を押し直してください）
インテリジェントキーの＜ドア施錠スイッチ＞を長押ししている間は、ガラスルーフを全閉したあと、サンシェードを閉じることができます。

●プロパイロット リモート パーキング専用インテリジェントキーの＜プロパイロット リモート パーキングOFF/ドア施錠スイッチ＞を長押しすると、車外からガラスルーフおよびサンシェードを閉めることができます。（プロパイロット リモート パーキング付車）

挟み込み防止機構

アドバイス

- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、ガラスルーフを自動で閉めることができないときは、＜ガラススイッチ＞を車両前方に繰り返しスライドさせて閉めてください。

●自動でガラスルーフを閉めるときに、車体とガラスルーフの間に異物の挟み込みを感知すると、ガラスルーフが停止し、自動で開き始めます。

●環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重がガラスルーフに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

パノラミックガラスルーフの注意事項

⚠ 警告

- **乗員の操作を含めすべてのガラスルーフやサンシェード開閉操作は運転者に責任があるため、次のことを必ず守る。**
  - 走行中は顔や腕、物などを車外に出さないでください。車外の物に当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。
  - 閉めるときは、ガラスルーフから手や顔などを出していないことを確認してください。手や顔などをガラスルーフやサンシェードに挟むと、重大な傷害につながるおそれがあります。
  - お子さまには操作させないでください。お子さまの誤った操作により事故につながるおそれがあります。お子さまや他の人がガラスルーフやサンシェードに挟まれ重大な傷害につながるおそれがあります。
  - 車から離れるときは＜パワースイッチ＞をOFFにし、キーとお子さまを車室内に残さないでください。いたずらなどの誤った操作によって思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

— 故意に挟み込み防止機構を働かせないでください。万一、手や顔などをガラスルーフやサンシェードに挟むと、重大な傷害につながるおそれがあります。

— インテリジェントキーでガラスルーフやサンシェードを操作する機能が有るときは、ガラスルーフから手や顔などを出していないことを確認してください。お子さまや他の人が挟まれ重大な傷害につながるおそれがあります。また、お子さまにはインテリジェントキーによる操作をさせないでください。

⚠ 注意

● **指などを挟まれないように注意する。**

ガラスルーフには挟み込み防止機構がありますが、確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。

● **運転中はパノラミックガラスルーフの開閉操作を行わない。**

前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。操作は信号待ちなどの停車中に行ってください。

● **ルーフに水や雪などがあるときは開けない。**

突然の水や雪に驚き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

● 開口部に腰を掛けたり、荷物を載せたりするなど、大きな力を掛けないでください。ルーフが変形するおそれがあります。

● 車から離れるときや洗車するときは、盗難や故障などを防ぐためパノラミックガラスルーフを必ず閉めてください。

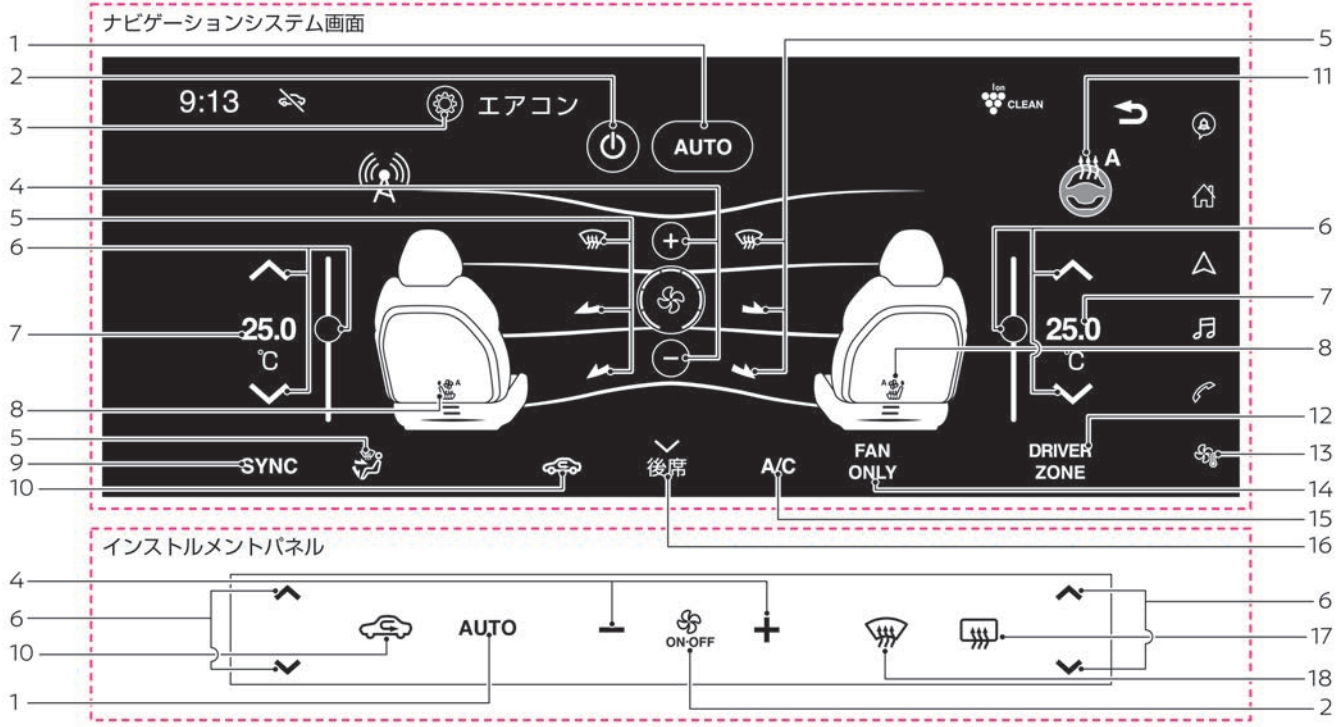
● 正常に作動しないときは、日産販売会社で点検を受けてください。

エアコンの操作

オートエアコンシステム

吹き出し温度、吹き出し口、風量、内外気切り替え、ステアリングヒーター、前席ベンチレーションシート★、前席ヒーターシートを自動で制御し、設定した温度に保ちます。

各スイッチの名称と機能



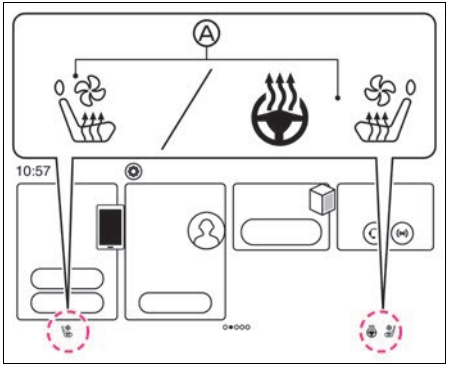
●ナビゲーションシステム画面とインストルメントパネルのスイッチで操作します。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

エアコンの操作

1. **AUTOスイッチ**
   オートエアコンに切り替えます。吹き出し温度、吹き出し口、風量、ステアリングヒーター、前席ベンチレーションシート★、前席ヒーターシートの切り替えを自動で制御して設定した温度に保ちます。
   オレンジ色：ON
   白色：OFF
2. **ON・OFFスイッチ**
   タッチしてオートエアコンシステムのON・OFFを切り替えます。
3. **設定スイッチ**
   エアコンの設定画面を表示します。（➔P.175）
4. **風量調節スイッチ**
   タッチして希望の風量に切り替えます。
5. **吹き出し口切り替えスイッチ**
   タッチして希望の吹き出し口に切り替えます。（➔P.174）
6. **温度調節スイッチ**
   タッチして希望の設定温度に切り替えます。SYNCモードがONのときは、運転席側で温度を調節すると助手席側も同時に温度調節します。（LO 18.0℃～32℃ HI）
7. **設定温度表示**
   運転席、助手席それぞれの設定温度を表示します。
8. **前席ベンチレーションシートスイッチ★（➔P.345）/前席ヒーターシートスイッチ（➔P.343）**
9. **SYNCスイッチ**
   タッチするごとにSYNCモードのON・OFFが切り替わります。
   ➔SYNCモードの使いかた (P.170)
10. **内外気切り替えスイッチ**
    タッチするごとに外気導入／内気循環／自動制御モードが切り替わります。（内気循環のとき、<♻>がオレンジ色に点灯します。
    ［♻］は外気導入／内気循環／自動制御モードに合わせて表示が切り替わります。）
11. **ステアリングヒータースイッチ（➔P.342）**
12. **ドライバーゾーンスイッチ**
    タッチするごとにON・OFFが切り替わります。ONにすると、助手席側の風量を抑制して、運転席側の風量を優先します。
    ただし、助手席側から風が出る場合があります。
    オレンジ色：ON
    白色：OFF

13. **［ ］スイッチ**
タッチしてオートエアコンシステム操作画面を表示します。
14. **送風スイッチ**
タッチするとファンのみがまわって車室内の空気を循環させます。（P.171）
15. **A/Cスイッチ**
タッチするごとに冷房・除湿機能のON・OFFが切り替わります。
オレンジ色：ON
白色：OFF
16. **後席ヒーターシート操作画面切り替えスイッチ**
後席ヒーターシートの調節ができます。（P.344）
17. **リヤデフォッガースイッチ**
バックドアガラスのくもりが取れます。また、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりを取ります。（P.415）
18. **デフロスタースイッチ**
フロントガラスのくもりが取れます。（P.415）



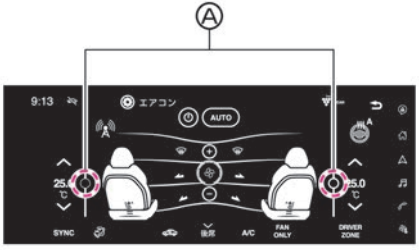
●ナビゲーションシステムがオートエアコンシステム操作画面以外を表示していても、Ⓐをタッチすると、オートエアコンの温度等を変更することができます。

オートエアコンの使いかた

1. インストルメントパネルの＜AUTO＞を押す、またはオートエアコンシステム操作画面の［AUTO］をタッチします。（インストルメントパネルの＜AUTO＞とオートエアコンシステム操作画面の［AUTO］がオレンジ色に点灯します。）

●オートエアコンシステム操作画面を表示するには［ ］をタッチします。

2. インストルメントパネルの＜ ∧ ＞/＜ ∨ ＞を押す、またはオートエアコンシステム操作画面の［ ∧ ］/［ ∨ ］をタッチして、設定温度を調節します。
［ ∧ ］/＜ ∨ ＞：設定温度を上げる
［ ∧ ］/＜ ∨ ＞：設定温度を下げる



●設定温度表示内側のバーにあるⒶを上下に移動しても設定温度を調節できます。

3. オートエアコンシステム操作画面の［A/C］が白色のときは、［A/C］をタッチしてオレンジ色にします。

●＜AUTO＞/［AUTO］がオレンジ色に点灯しているときは、消費電力を抑えた最適な状態でエアコンが作動します。

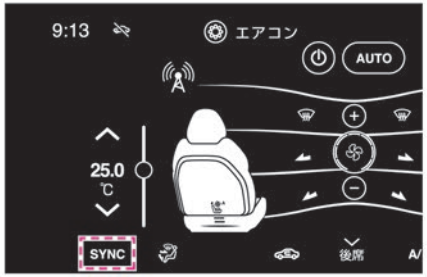
●オートで使用中に風量の調整または、吹き出し口の切り替えを行うと［AUTO］/＜AUTO＞は白色に点灯しますが、操作した機能以外については引き続き自動制御されます。

●吹き出し口の切り替えは、吹き出し口（➔P.173）をお読みください。

●＜パワースイッチ＞をOFFにし、再度＜パワースイッチ＞をONにすると、エアコンの条件によっては、内気循環／外気導入が自動制御モードになる場合があります。

●設定温度を調節したときに、風量を表す表示の色が変化しますが、設定温度に合わせた色の変化であり、実際に出てくる風の温度を表現したものではありません。

SYNC モードの使いかた



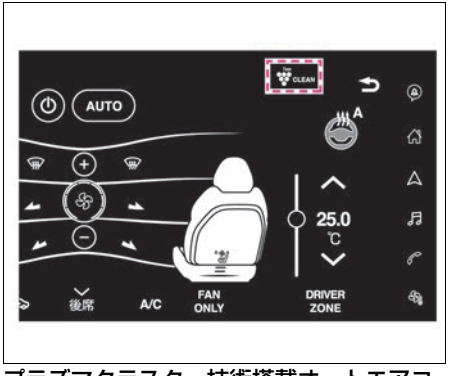
運転席および助手席の温度を同時に調節するときに使います。

●オートエアコンシステム操作画面の［SYNC］をタッチするとSYNCモードになります。（［SYNC］がオレンジ色に点灯）

●解除するときは、［SYNC］をタッチするか、助手席側の設定温度を調節します。（［SYNC］が白色に点灯）

オートエアコンシステムの機能

●オートエアコンシステムには次の機能があります。



プラズマクラスター技術搭載オートエアコン（ほこり付着制御機能付）

- 濃度を高めたプラズマクラスターをエアコンの吹き出し風に含ませ、浮遊菌の抑制とともに内装に染みついたにおいを低減します。
  風量により、CLEANモードとQUICK CLEANモードが切り替わります。
- プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよびPlasmaclusterはシャープ株式会社の商標です。

におい・排出ガス検知式内外気自動切り替え機構

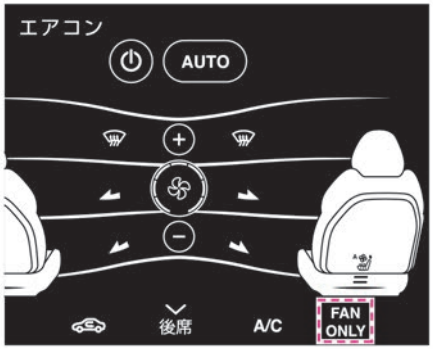
- 排気ガスや不快なにおい（家畜臭、工場の排気臭など）を車両前部のセンサーで検知し、吸い込み口を切り替えるシステムです。
- 風向きによっては排気ガスやにおいを検知できない場合がありますが異常ではありません。
- 設定［ ⚙ ］からセンサーの感度調節ができます。（➔P.175）

湿度制御機能

- 車室内の湿度、窓面の温度をフロントガラス上部のセンサーで検知し、車室内の乾燥を抑えます。また、窓ガラスのくもりはじめを検知したときは、自動的にくもり取りを行います。
  ただし、［A/C］が白色に点灯している場合は、状況によりくもりが取れないことがあるため、＜デフロスタースイッチ＞・＜AUTO＞スイッチ、もしくは［A/C］をタッチしてください。
- 外気温が0℃近くまで下がると、湿度制御機能が作動しないことがあります。

送風運転のしかた

- 送風で使用すると冷房、暖房、除湿機能が作動せず、ファンのみがまわって車室内の空気を循環させます。
- 送風で使用するとエアコンの消費電力が抑えられるため、航続可能距離を延ばすことができます。



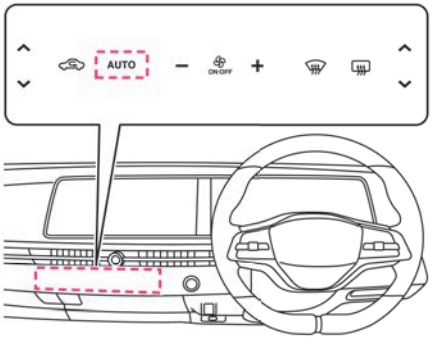
1. オートエアコンシステム操作画面の［ FAN ONLY ］をタッチします。
   （［ FAN ONLY ］がオレンジ色に点灯）
2. 風量を調節します。

送風運転時は、オートエアコンシステム操作画面に温度表示が表示されなくなります。

スイッチ感度の調整のしかた

インストルメントパネルにあるスイッチの感度を調整できます。

1. EVシステムを始動します。
   ➔始動のしかた（P.184）



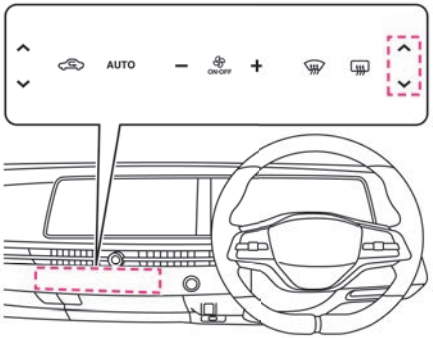
2. EVシステム始動後、15秒以内にインストルメントパネルの＜AUTO＞スイッチを約10秒間押します。インストルメントパネルの＜ ＞スイッチ、＜AUTO＞スイッチ、＜ ＞スイッチ、＜ ＞スイッチのいずれかがオレンジ色に点滅し、感度設定モードになります。

●感度設定モードになったときに点滅するスイッチは現在設定されている感度を表します。

●感度は4段階に調整できます。点滅しているスイッチが多いほど感度は高くなります。

— 4つのスイッチが点滅（4）：高い（反応しやすい）

— 1つのスイッチが点滅（1）：低い（反応しにくい）



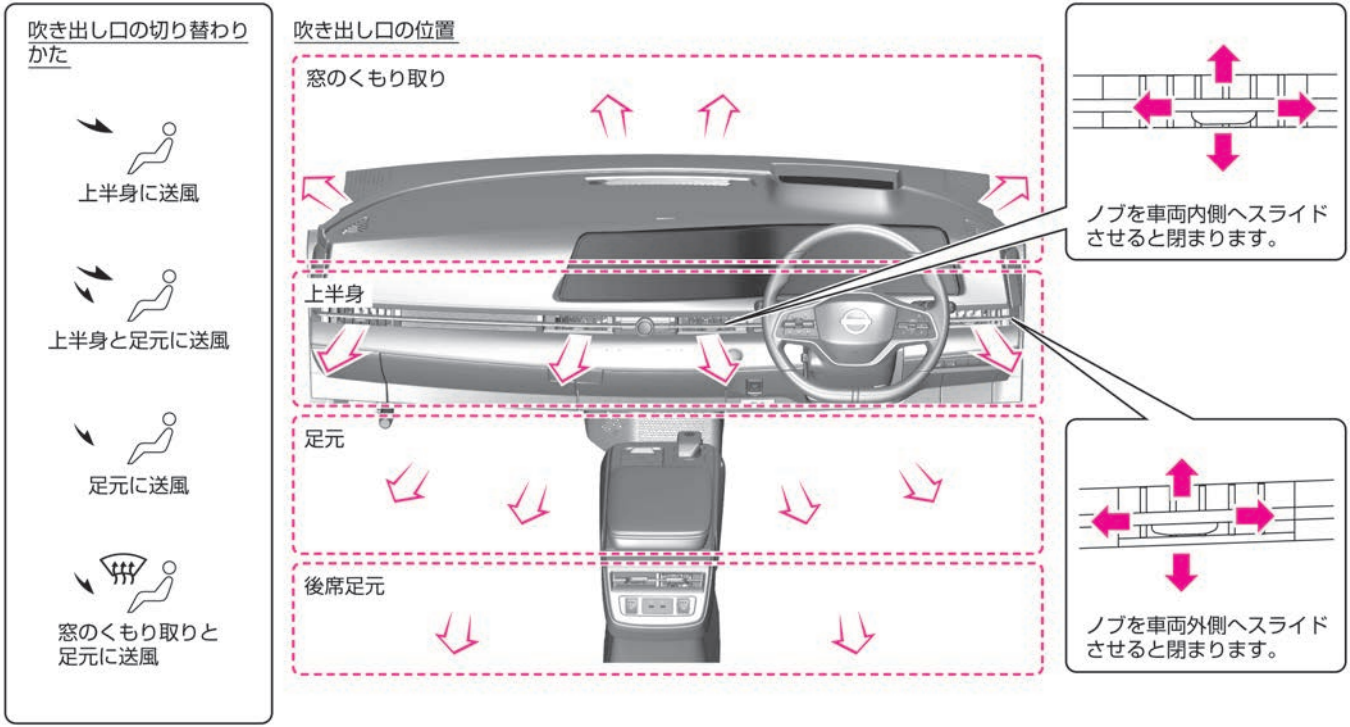
3. インストルメントパネル運転席側の＜温度調節スイッチ＞を押して感度を調整します。

4. 調整後、何も操作せず約10秒間経過すると、感度が設定され、感度設定モードが終了します。

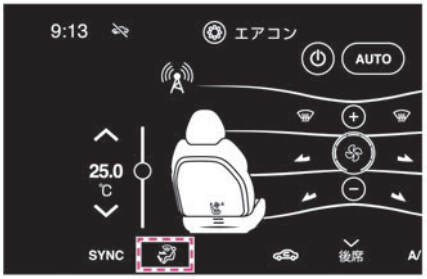
●工場出荷時の感度は「2」に設定されています。

吹き出し口

［ ］または＜デフロスタースイッチ＞をタッチして希望の吹き出し口に切り替えます。

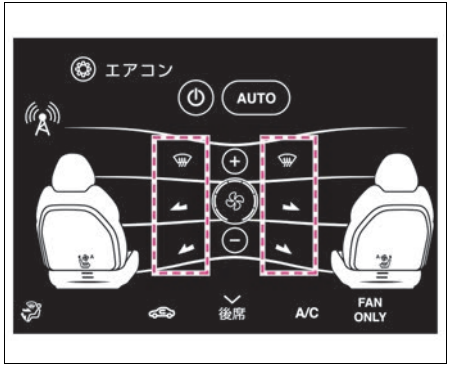


吹き出し口の切り替えかた



1. オートエアコンシステム操作画面の［ ］をタッチします。
2. 吹き出し口のアイコンをタッチすると切り替わります。

●各吹き出し口の使用目的
［ ］：上半身に送風
［ ］：上半身と足元に送風
［ ］：主に足元に送風
［ ］：窓のくもり取りと足元に送風



●オートエアコンシステム操作画面の［ ］、［ ］、［ ］をタッチすると各吹き出し口のON・OFFを切り替えることができます。
［ ］：窓のくもり取り
［ ］：上半身に送風
［ ］：主に足元に送風

設定［ ⚙ ］

オートエアコンシステム操作画面の［ ⚙ ］をタッチするとエアコンなどの設定ができます。

項目	機能
AUTO時の最大風量の調整	● オートエアコン使用時の最大風量をOFF、1～5の範囲で設定できます。初期設定はOFFです。 — 1：最大風量を大きく制限 — 5：最大風量を少し制限
AUTO時の内外気切り替え	● 設定をONにするとオートエアコン使用時に内外気切り替えも自動制御モードで制御されます。
排気センサー感度調整	● 排気センサー感度をOFF、1～5の範囲で設定できます。初期設定は3です。 — 1：感度低い — 5：感度高い
デフロスター・リアデフォッガー連動	● 設定をONにするとデフロスターに連動してリヤデフォッガーもONになります。
オートデフロスター感度調整	● オートデフロスターの感度をOFF、1～5の範囲で設定できます。初期設定は3です。 — 1：感度低い — 5：感度高い
AUTO時の温調シート調整（運転席）	● オートエアコン使用時の運転席側ベンチレーションシート★、ヒーターシートの温度をOFF、1～5の範囲で設定できます。初期設定はOFFです。 — 1：温度を低めに設定 — 5：温度を高めに設定 ● OFFにするとオートエアコン使用時には連動しません。
AUTO時の温調シート調整（助手席）	● オートエアコン使用時の助手席側ベンチレーションシート★、ヒーターシートの温度をOFF、1～5の範囲で設定できます。初期設定はOFFです。 — 1：温度を低めに設定 — 5：温度を高めに設定 ● OFFにするとオートエアコン使用時には連動しません。

項目	機能
AUTO時のステアリングヒーター調整	● オートエアコン使用時のステアリングヒーターの温度をOFF、1～5の範囲で設定できます。初期設定はOFFです。 — 1：温度を低めに設定 — 5：温度を高めに設定 ● OFFにするとオートエアコン使用時には連動しません。

エアコンを使うときに注意すること

各機能の作動条件について

●この車両のオートエアコンシステムは、送風機能、冷房／暖房機能、タイマーエアコンまたは乗る前エアコン★でそれぞれ使える条件が異なります。
それぞれの機能は次の条件のときに使用できます。

パワースイッチ	OFF	ACC 状態	ON	ON（走行可能表示灯［READY］が点灯）
送風機能	-	-	○	○
冷房／暖房機能	-	-	○	○
タイマーエアコン	○	○	-	-
乗る前エアコン	○	○	-	-

運転モードについて

運転モード	送風スイッチの状態	A/C スイッチの状態
送風運転 ● 車室内の空気を循環させたいとき	FAN ONLY オレンジ色に点灯	A/C 白色に点灯
冷房・除湿運転 ● 車室内を冷やしたいとき ● 除湿して窓のくもりを取りながら車室内を暖めたいとき	FAN ONLY 白色に点灯	A/C オレンジ色に点灯
暖房運転 ● 車室内を暖めたいとき	FAN ONLY 白色に点灯	A/C 白色に点灯

エアコンに関する注意事項

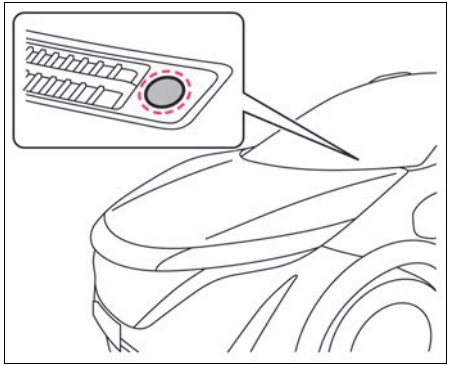
⚠ 警告

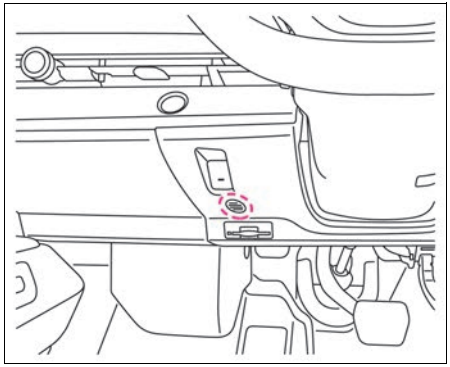
● **内気循環で長時間使用しない。**
窓ガラスがくもりやすくなり、視界が損なわれ危険なため、一時的にご使用ください。

⚠ 注意

● **吹き出し風を長時間連続して身体に当てない。**
特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方などには、吹き出し風が長時間当たらないように運転者が注意してください。低温やけどや思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

● **＜デフロスタースイッチ＞をONにしているときに、エアコンの設定温度を低くしない。**
フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。





●オートエアコンの自動温度調節は、日射センサーと温度センサーで行っています。センサーをふさいだり、クリーナーなどを吹き掛けないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。

●エアコンの消費電力は、外気温とエアコンの設定温度により変化します。特に夏に車室内を冷やしすぎたり、冬に車室内を暖めすぎたりすると、消費電力が多くなり航続可能距離が大幅に減少する原因になります。

●ほこり、花粉、粉じんなどを集じんし、タバコやペットなどのにおいをフィルター内の活性炭が吸着除去するクリーンフィルター（脱臭機能付）を装着しています。集じん・脱臭性能を維持するため、クリーンフィルター（脱臭機能付）は定期的に交換してください。
交換時期：1年ごとまたは12,000km走行ごと

●クリーンフィルター（脱臭機能付）が交換時期に満たない場合でも、吹き出し風量が極端に減少したり、窓ガラスがくもりやすくなった場合は交換してください。なお、取り付け、交換などについては、日産販売会社にご相談ください。

●外気導入に固定していると、夏場など外気温が高いときは、冷房の効きが悪くなる場合があります。その場合は、一時的に内気循環にしてください。

●エアコン装置のオイル循環を切らさないために、ときどき［A/C］をONにしてください。なお、外気温が0℃近くまで下がるとエアコン装置が作動しないことがあるため、暖かい日に行ってください。

●エアコンガスは必ず指定のものをご使用ください。エアコンガスの詳細については、ボンネットの裏にあるエアコンラベルをご確認ください。

●この車両では、エアコンのシステムに特殊なオイルを使用しています。エアコンの修理、メンテナンスは日産販売会社にご相談ください。

●地球温暖化防止のためエアコンガスを大気放出しないでください。

●冷房時、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するもので、異常ではありません。

●外気温が0℃近くまで下がると、［A/C］が点灯していてもエアコンが作動しないことがあります。

●エアコンがONのとき、 またはOFFにした直後に、 〝カチカチ〟、 〝シュー〟、 〝コツン〟などの音が聞こえることがありますが、 異常ではありません。

●エアコンをOFFにしているときでも、リチウムイオンバッテリーを冷却するためにエアコンが作動する場合があります。その場合はコンプレッサーおよび冷却ファンの音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●タイマーエアコンまたは乗る前エアコン★の作動時もコンプレッサーおよび冷却ファンの音がしますが、異常ではありません。
リチウムイオンバッテリー温調システムがリチウムイオンバッテリーの電力を使用しているときは、エアコンが自動的に作動しますが、故障ではありません。

●始動直後で吹き出し風の温度が低いときは、足元への吹き出し風量が少なくなります。

●エアコンの運転中、運転後または充電中などに車両の下に水が垂れることがあります。

●外気温が低いときは、外気温に応じてフロントデフロスターからの風量が多くなります。

エアコンのにおいについて

●エアコン装置は、空気中のいろいろなにおいが混ざり合うため、吹き出し風からにおいを感じることがあります。

●エアコン作動時のにおいを抑えるため、駐車時などは外気導入にしておくことをおすすめします。

タイマーエアコンの設定のしかた

ナビゲーションシステムでタイマーエアコンの出発予定時刻を設定しておくと、その時間に合わせてお出かけ前に車室内を快適な温度にすることができます。そのため、走行を始めてからのエアコンの電力を抑えることができます。

⚠ 警告

● **お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車室内に残さない。**

タイマーエアコンを設定していても、システムの自動停止などの理由で車室内が高温または低温になることがあり、最悪の場合は死亡につながるおそれがあります。

●タイマーエアコンは、リチウムイオンバッテリー残量が少なくなっているときは、作動しません。

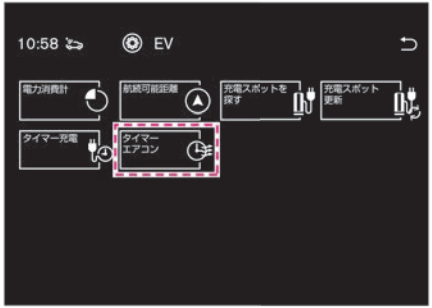
➔リチウムイオンバッテリー残量計 (P.77)

●設定した3種類の時刻は、1週間分予約できます。設定した予約は継続されるため、毎回設定する必要はありません。

●タイマーエアコンが作動すると、充電インジケーターが点滅します。

●タイマーをOFFにすると予約が解除されます。予約を解除しても設定した時刻、曜日は消去されません。再度タイマーをONにすると、現在の設定条件で予約をすることができます。

タイマーエアコンの使いかた



1. ナビゲーションシステムで次の操作をして、タイマーエアコンの設定画面を表示させます。
［ ⌂ ］⇒［アプリ］⇒［EV］⇒［タイマーエアコン］



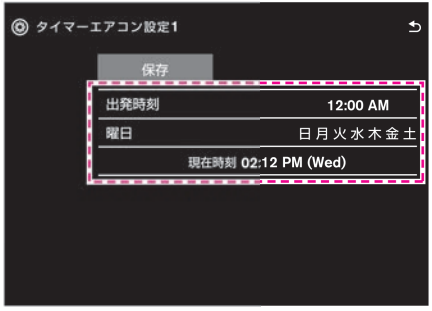
2. ［+］、［-］をタッチして設定温度を変更します。



3. ［1］、［2］、［3］のいずれかの［ON］をタッチして、タイマーをONにします。タイマーは3種類設定することができます。ここでは［1］の登録方法を説明します。



4. ［ ］をタッチしてタイマー設定画面に切り替えます。



5. ［出発時刻］をタッチして出発予定時刻を設定します。
6. ［曜日］をタッチしてタイマーエアコンを行う曜日を設定します。



7. ［保存］をタッチして設定を保存します。
8. ＜パワースイッチ＞をOFFにし、充電ケーブルを接続します。充電ケーブルを接続することをおすすめします。（充電ケーブルを接続しないと、リチウムイオンバッテリーの電力を消費します。）普通充電の充電ケーブル接続方法は、（➔即充電のしかた (P.44)）をお読みください。V2H充電の充電ケーブルの接続方法は、（➔急速充電のしかた (P.41)）をお読みください。
※出発時刻に設定した温度になるように、エアコンが自動的に作動します。

タイマーエアコンに関する注意事項

タイマーエアコンを使用するときの注意事項

- 充電中にタイマーエアコンが作動すると、充電に必要な時間が延びることがあります。
- 出発時刻になると、エアコンが自動的に停止します。設定した出発時刻よりも早く、または遅れて車に乗り込むと、車室内の温度が快適な温度になっていない場合があります。
- 外気温が低いときにタイマーエアコンを作動させると、リチウムイオンバッテリーの残量が低下することがあります。この場合、出発するときに充電が完了していないことがあります。
- 充電施設によっては、利用できない時間帯が設定されていることがあります。タイマーエアコンを使用する場合は、利用可能な時間帯を確認してください。また、タイマーエアコンを設定する場合は、充電器の電源がONになっていることを確認してください。
- タイマーエアコン作動中でも設定した時刻を変更することができます。設定変更後に＜パワースイッチ＞をOFFにすると、新しい設定が反映されます。
- タイマーエアコンは、家や充電器などから供給される電力を使用するため、外気温が極端に高い、または低いとき、AC100Vの充電ケーブル（コントロールボックス付）を使用しているとき、設定温度と外気温の差が大きいときなど

は、エアコンの性能が制限され、車室内が設定した温度にならないことがあります。

MEMO

運転のしかた

始動する

パワースイッチ P.184
オートACC機能 P.185

運転する

セレクトレバー P.187
電動パーキングブレーキ P.188
オートブレーキホールド P.189
発進・走行 P.191
停車・駐車 P.192

ランプをつける、ワイパーを使う

ライトスイッチ P.194
フォグランプスイッチ P.199
ワイパー・ウォッシャースイッチ P.200

運転支援機能

e-Pedal Step P.204
ドライブモードセレクター P.205
e-4ORCE（4WD）車★の扱いかた P.206
エマージェンシーストップシグナル P.206
ABS（アンチロックブレーキシステム） P.206
VDC（ビークルダイナミクスコントロール） P.207
シャシー制御 P.209
ヒルスタートアシスト P.209
車両接近通報装置 P.210
走行支援機能 P.211
プロパイロット P.217
インテリジェント エマージェンシーブレーキ P.264
踏み間違い衝突防止アシスト P.269
BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム） P.275
LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） P.283
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） P.287
RCTA（後退時車両検知警報） P.290
インテリジェント DA（ふらつき警報） P.293
標識検知機能 P.294
ドライバーモニターシステム★ P.298

駐車支援システム

インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付） P.301
インテリジェント アラウンドビューモニターに関する注意事項 P.308
プロパイロット パーキング P.313
プロパイロット リモート パーキング★ P.326

パワースイッチ

⚠ 警告

- **EVシステムを始動する前にペダルの位置を確認する。**

  ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。右足でアクセルペダルとブレーキペダルを交互に踏み、その位置を確実に覚えてください。
- **EVシステムを始動するときは、必ず運転席に座る。**

  運転席以外から行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **セレクトレバーの操作は必ず走行可能表示灯［READY］が始動したことを確認してから行う。**

  走行可能表示灯が点灯する前 にセレクトレバーを操作すると、目的のシフトポジションに切り替わらず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

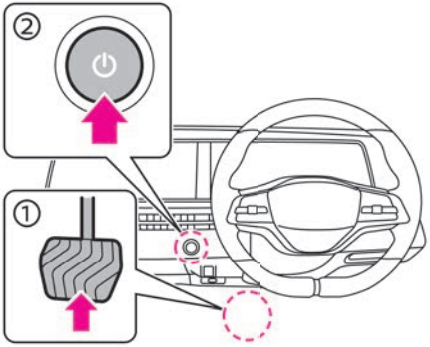
- **EVシステムを始動したあとは、e-Pedal StepのON・OFF状態を確認してから走行する。**

  e-Pedal StepがONのときとOFFのときでは、アクセルペダルの特性が大きく異なるため、走行前に確認してください。

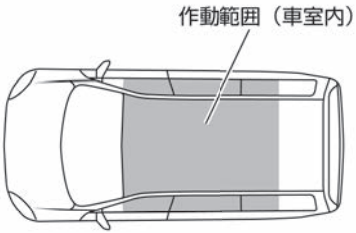
この車両にはエンジンがないため、エンジン音の代わりにメーター内の走行可能表示灯［READY］の点灯・消灯で、EVシステムの始動・停止を確認します。

始動のしかた

1. インテリジェントキーを携帯して車両に乗り込みます。
   アクセルペダルとブレーキペダルの位置を確認し、正しい運転姿勢（➔P.50）がとれるようにハンドル、シート、ミラーを調節します。



2. ブレーキペダル①をしっかりと踏み込みながら、＜パワースイッチ＞②を押します。
3. メーター内の走行可能表示灯［READY］が点灯し、走行できるようになります。



- キーが作動範囲（車室内）にあるときに、EVシステムを始動することができます。
- ブレーキペダルを踏んだり離したりしたとき、“カチッ” と音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- システム始動前のペダル操作などにより、ブレーキペダルが硬くなっている場合があります。この場合、ペダルを軽く踏んだ状態ではペダル踏み込み操作が検知されず、走行可能表示灯が点灯しませんので、ブレーキペダルを通常よりも強く踏み込んでください。

停止のしかた

1. ブレーキペダルを踏んで、車両を完全に停車させます。
2. ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキを掛けます。

➔電動パーキングブレーキのかけかた（P.188）

3. セレクトレバーにあるⓅスイッチを押し、シフトポジションを**P**に切り替えます。
4. ＜パワースイッチ＞を押します。
ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、メーター内の走行可能表示灯［READY］が消灯していることを確認します。

●インテリジェントキーの電池が切れている、または車室内にキーがない場合にEVシステムを停止するときは、＜パワースイッチ＞を長押ししてください。

パワースイッチでのモードの切り替えかた

アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、電装品（ナビゲーションシステムや電源ソケットなど）はEVシステムを始動した状態でご使用ください。電装品を長時間使用することや同時に複数使用することは避けてください。
- 次の条件がそろった状態でしばらくすると自動的に＜パワースイッチ＞がOFFになります。
  - ＜パワースイッチ＞がON（メーター内の走行可能表示灯［READY］は消灯）の状態のとき
  - 停車しているとき
- ＜パワースイッチ＞がOFFの位置でも、ACC状態のときはドアミラーなどの電装品を使うことができます。
  ACC状態については、オートACC機能（P.185）をお読みください。

●インテリジェントキーを携帯しているときに、次の作動をします。
- ブレーキペダルを踏まずに＜パワースイッチ＞を押すと、モードが切り替わります。
- ブレーキペダルを踏みながら＜パワースイッチ＞を押すと、EVシステムが始動します。
- EVシステムが始動中に＜パワースイッチ＞を押すと、EVシステムが停止します。

モード	働き
OFF	● ドアミラーなどが使える位置（ACC状態のとき） ● EVシステムを停止する位置
ON	● すべての電装品が使える位置

非常停止のしかた

⚠ 警告

● 非常停止を行うときは、可能な限り減速してから行う。

非常停止後は、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、車両のコントロールが難しくなります。

緊急時など、走行中に強制的にEVシステムを停止（＜パワースイッチ＞OFF）させるときは、次の操作を行ってください。

●＜パワースイッチ＞を2秒以上押し続ける。

オート ACC 機能

＜パワースイッチ＞がOFFのときでも、特定の条件で、ナビゲーションシステムやドアミラーなどの電装品が使える状態（ACC状態）に自動で切り替わる機能です。EVシステムの停止後や、＜パワースイッチ＞をONにする前でも、ナビゲーションシステムやドアミラーなどの電装品が使用できます。

オート ACC 機能について

アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、電装品（ナビゲーションシステムや電源ソケットなど）はEVシステムを始動した状態でご使用ください。

●次の場合、自動でACC状態に切り替わります。
- リモコン（インテリジェントキー）機能でドアを施錠または解錠したとき
- ＜パワースイッチ＞をOFFにしたとき

— ドアを開けたとき
— ドアを閉めたとき

●次の場合、ACC状態が完全に停止します。
— ACC状態のままナビゲーションの操作を行わずに約11分間経過したとき
— EVシステム停止後、リモコン（インテリジェントキー）機能で施錠してから約1分間経過したとき
— EVシステム停止後、ドアを開閉してから約1分間経過したとき

セレクトレバー

⚠ 警告

- **セレクトレバーの操作は必ず走行可能表示灯［READY］が点灯したことを確認してから行う。**

  走行可能表示灯［READY］が点灯する前にセレクトレバーを操作すると、目的のシフトポジションに切り替わらず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **セレクトレバーには物を掛けない。**

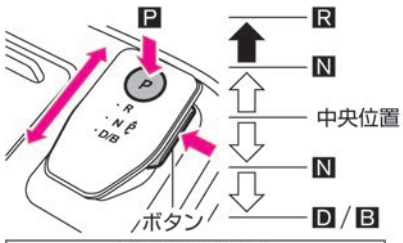
  車両が突然発進するなど、事故の原因になるおそれがあります。

アドバイス

- セレクトレバーは、操作後に手を離すと中央に戻ります。中央の位置以外で保持し続けないでください。故障の原因になります。

走行可能表示灯［READY］が点灯しているとき、すべてのシフトポジションに切り替えることができます。セレクトレバーを操作したあとは、目的のシフトポジションに切り替わっていることを必ず確認してください。

セレクトレバーの操作



P	セレクトレバーにあるⓅスイッチを押します。
R	ブレーキペダルを踏みながら、ボタンを押して車両前方へ2段階スライドさせます。
N	Pのときは、ブレーキペダルを踏みながら車両前方、または車両後方に1段階スライドさせ、しばらく保持します。 D・Bのときは、ブレーキペダルを踏みながら車両前方に1段階スライドさせ、しばらく保持します。 Rのときは、ブレーキペダルを踏みながら車両後方に1段階スライドさせ、しばらく保持します。
D	ブレーキペダルを踏みながら、車両後方に2段階スライドさせます。
B	Dのときに車両後方に2段階スライドさせるとBに切り替わります。もう一度2段階スライドさせるとDに戻ります。

- シフトポジションをPに切り替えるときは、車両が完全に停止しているときに操作してください。
- セレクトレバーが中央に無いときは、Ⓟスイッチを押してもPに切り替えられません。
- シフトポジションをPに切り替えるとブザーが鳴ります。
- シフトポジションをRに切り替えるとブザーが鳴ります。
- 次の操作は無効とみなされ、ブザーが鳴るとともにシフトポジションはNに切り替わります。
  - ― 前進中にシフトポジションをRに切り替える
  - ― 後退中にシフトポジションをDに切り替える
- ＜パワースイッチ＞がONでも走行可能表示灯［READY］が点灯していないときは、D・B・Rには切り替えられません。
- 次の条件が重なったとき、シフトポジションが自動でPに切り替わる場合があります。
  - ― 運転席のシートベルトを外したとき
  - ― 運転席ドアを開けたとき
- この車両にはオートP機能がありますが、電制シフトが故障した場合は、シフトポジションがP以外で＜パワース

イッチ>をOFFにしようとしても、ブザーが鳴り、<パワースイッチ>をOFFに切り替えられません。<パワースイッチ>をOFFにできないときは、次の操作を行ってください。

1. 停車してパーキングブレーキを掛けます。
2. ブレーキペダルを踏み込みながら<パワースイッチ>を押して、<パワースイッチ>をONに切り替えます。
3. セレクトレバーにあるⓅスイッチを押してPに切り替えます。
4. <パワースイッチ>を押して、OFFに切り替えます。

各シフトポジションの機能

シフトポジション	役割
P	駐車およびEVシステムを始動するとき
R	後退するとき
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行するとき
B	下り坂などで、強い回生ブレーキが必要なとき（満充電時や低温時などはブレーキが弱くなることがあります。）

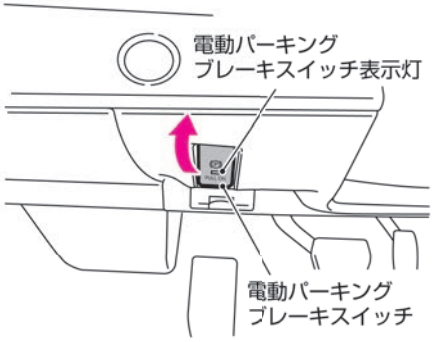
- シフトポジションをPに切り替えずに<パワースイッチ>をOFFにすると、自動的にシフトポジションがPに切り替わります。（オートP機能）
- 充電中はシフトポジションを切り替えることができません。

電動パーキングブレーキ

停車中や駐車時に使用するブレーキです。<電動パーキングブレーキスイッチ>を操作してパーキングブレーキを掛けると、後輪が固定されます。

電動パーキングブレーキのかけかた

1. ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。



2. <電動パーキングブレーキスイッチ>を引きます。
スイッチを引くと、<電動パーキングブレーキスイッチ>の表示灯が点灯し、電動パーキングブレーキ警告灯［Ⓟ］が、約2秒後に点灯します。

- オートブレーキホールド機能が作動しているときにシフトポジションをPにすると、パーキングブレーキがかかります。その他、オートブレーキホールドについては（➔P.189）をお読みください。

電動パーキングブレーキの解除のしかた

1. ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。
2. <電動パーキングブレーキスイッチ>を押します。
スイッチを押すと、スイッチの表示灯が消灯し、電動パーキングブレーキが解除されると電動パーキングブレーキ警告灯［Ⓟ］が消灯します。

- 電動パーキングブレーキは、<パワースイッチ>がONのときのみ解除できます。

自動解除のしかた

<電動パーキングブレーキスイッチ>を操作しなくても、パーキングブレーキを解除することができます。

- 電動パーキングブレーキがかかっている状態でシフトポジションをD、またはRにし、アクセルペダルをゆっくり踏んでください。
パーキングブレーキが解除され、電動パーキングブレーキ警告灯［Ⓟ］が消灯します。
- パーキングブレーキの自動解除は、次の条件を満たしている必要があります。

— 運転席ドアが閉まっている
— 走行可能表示灯［READY］が点灯している
— シフトポジションがP、N以外のとき

電動パーキングブレーキに関する注意事項

⚠ 警告

- **車両を離れるときは、電動パーキングブレーキを掛けたあと、シフトポジションをPに切り替える。**
- **非常時以外は、電動パーキングブレーキを作動させたまま走行しない。**

  ブレーキに不具合が生じ、事故につながるおそれがあります。
- **電動パーキングブレーキを掛けたり、解除したりの操作を短時間に繰り返さない。**

  システムの過熱を防ぐために電動パーキングブレーキが作動しなくなる場合があります。作動しなくなった場合は、約1分間経過してから再度操作してください。

アドバイス

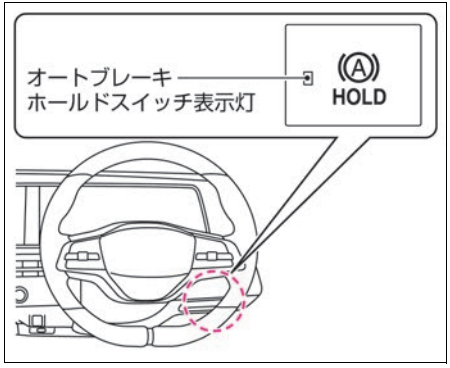
- 寒冷時に駐車するときは、電動パーキングブレーキをかけずにシフトポジションをPに入れ、電動パーキングブレーキを解除したまま車輪の前後に適切な輪留めをしてください。寒冷時に電動パーキングブレーキをかけると、パーキングブレーキが凍結し、解除できなくなるおそれがあります。
- 電動パーキングブレーキが12Vバッテリーあがりや故障などで解除できなくなったときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

●電動パーキングブレーキをかけたり解除したりすると、車両の後方部から作動音が聞こえることがありますが、これは異常ではありません。
●走行中、非常事態で電動パーキングブレーキを掛ける必要が生じたときは、＜電動パーキングブレーキスイッチ＞を引き続けてください。ブレーキが掛かるとともにブザーが鳴り、電動パーキングブレーキ警告灯［Ⓟ］が点灯し、電動パーキングブレーキ戻し忘れ警告（P.387）が表示されます。スイッチから手を離すと、電動パーキングブレーキは解除されます。
●＜パワースイッチ＞がOFFまたはACC状態のときに、＜電動パーキングブレーキスイッチ＞を引き上げると、スイッチの表示灯がしばらく点灯状態になることがあります。
ACC状態については、オートACC機能（P.185）をお読みください。

オートブレーキホールド

オートブレーキホールド機能は、信号待ちなどの停車中にブレーキペダルを踏み続けなくても、ブレーキ力を保持する機能です。

オートブレーキホールド機能について



●オートブレーキホールド機能は、運転者のブレーキ操作によって停車した際に、ブレーキ力を保持する機能です。
ブレーキ力が保持されているときにアクセルペダルを踏むと、ブレーキが解除され、発進することができます。

オートブレーキホールド機能の作動について

●オートブレーキホールド機能のON・OFF設定は、再度設定を変更するまで、<パワースイッチ>をOFFにしても、その設定が維持されます。

オートブレーキホールド機能をONにする

●<パワースイッチ>をONにし<オートブレーキホールドスイッチ>を押すと、スイッチの表示灯が点灯します。

●オートブレーキホールド機能は、次の条件が満たされたときのみ、オートブレーキホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］（白色）が点灯し、待機状態になります。（➔P.86）

— 運転席のシートベルトを着用している
— 電動パーキングブレーキが解除されている
— シフトポジションがP以外にある
— 急な坂道の途中に停車していない

オートブレーキホールド機能をOFFにする

オートブレーキホールド機能がONのとき、<オートブレーキホールドスイッチ>を押すと、オートブレーキホールドスイッチ表示灯が消灯しオートブレーキホールド機能がOFFになります。

また、ブレーキ力が保持されている状態で、オートブレーキホールド機能をOFFにするときは、必ずブレーキペダルを踏みながら<オートブレーキホールドスイッチ>を押します。

オートブレーキホールド機能の使いかた

■ ブレーキ力を保持させる

オートブレーキホールド機能が待機状態（オートブレーキホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］が白色に点灯）のとき、ブレーキペダルを踏んで車両を停止させると、オートブレーキホールド機能によってブレーキ力が保持されます。

ブレーキ力が保持されているときは、オートブレーキホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］が緑色に点灯します。（➔P.86）

■ 発進する

シフトポジションがPまたはN以外にあり、ブレーキ力が保持されている状態でアクセルペダルを踏むと、保持されているブレーキ力が解除されて発進します。

ブレーキ力の保持が解除されると、オートブレーキホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］が白色に点灯し、待機状態に戻ります。

●坂道では、オートブレーキホールド機能が作動開始するまでブレーキペダルを強く踏み込む必要があります。

オートブレーキホールド機能使用時の注意事項

⚠ 警告

● 急な坂道や滑りやすい路面で使用しない。

オートブレーキホールド機能が作動していても、車両が動き出すおそれがあります。

急な坂道などでオートブレーキホールド機能を作動させたとき、運転者にブレーキペダルを踏むよう警告メッセージが表示されることがあります。

● オートブレーキホールド機能が作動していても停止状態を維持できないときは、ブレーキを使用して車両を停車させる。

ブレーキ力保持状態のときに外的要因で車両が動くと、警告音が鳴り、警告メッセージが表示されることがあります。

警告メッセージ（➔P.387）

● 次の場合はオートブレーキホールド機能をOFFにする。

— 洗車機を使用するとき
— 車両にけん引されるとき
— 車両のけん引時
— 過積載のとき

● 次の場合はシフトポジションをPにしてパーキングブレーキを確実にかかっているか確認する。

車両が不意に動き出し重大な傷害や事故を起こすおそれがあります。

— 駐車するとき
— 人が乗降するとき
— 荷物の積み下ろしをするとき

⚠ 警告

- **VDC警告灯［ ］（➔P.376）、ブレーキシステム警告灯（黄色）［ ］（➔P.375）、電動パーキングブレーキ警告灯［ ］（➔P.374）、またはマスターウォーニング［ ⚠ ］（➔P.381）が点灯し、シャシー制御表示の警告メッセージ（➔P.388）が表示されたときは、オートブレーキホールド機能は作動しません。**
- **オートブレーキホールド機能をOFFにする際は、ブレーキペダルを踏みながら＜オートブレーキホールドスイッチ＞を押す。**

  急な坂道では、オートブレーキホールド機能での停止状態からアクセルペダルを踏んでもオートブレーキホールド機能が解除できない場合があります。

⚠ 注意

- **オートブレーキホールド機能によってブレーキ力が保持されているときに、オートブレーキホールド機能をOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。**

  ブレーキが解除され車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **車両が停止してもブレーキ保持が開始されないときは、オートブレーキホールド表示灯［ ］（緑色）が点灯するまでブレーキペダルを踏み込む。**

  ブレーキペダルが十分な力で踏まれていない、もしくは、車両停止後にブレーキペダルを離すのが早すぎると、オートブレーキホールド表示灯［ ］（緑色）は点灯しません。

アドバイス

- 次の場合は、システムに異常が発生しているおそれがあります。ただちに日産販売会社で点検を受けてください。
  - ― 警告メッセージが表示されたとき
  - ― ＜オートブレーキホールドスイッチ＞を押してもスイッチの表示灯が点灯しないとき

- オートブレーキホールド機能がONでブレーキ力が保持されているときに、次の状態になるとパーキングブレーキがかかり、ブレーキ力が解除されます。（オートブレーキホールド表示灯はOFFになります）
  - ― オートブレーキホールド機能によるブレーキ力の保持が3分以上継続されたとき
  - ― シフトポジションをPにしたとき
  - ― ＜電動パーキングブレーキスイッチ＞を引いたとき
  - ― 運転席のシートベルトを外したとき
  - ― 運転席ドアを開けたとき
  - ― ＜パワースイッチ＞をOFFにしたとき
  - ― オートブレーキホールド機能に不具合が生じたとき
- ブレーキ力を保持しているときは、車両の停止状態を維持するため、作動音が発生する場合がありますが、異常ではありません。

発進・走行

発進するときの注意事項

⚠ 警告

- **発進するときは、アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しない。**

  急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 電動パーキングブレーキを掛け、運転席ドアが開いた状態でアクセルペダルを踏むと、電動パーキングブレーキが解除されず、電動パーキングブレーキが故障するおそれがあります。

発進のしかた

1. ブレーキペダルを踏んだまま＜パワースイッチ＞を押して、走行可能表示灯［READY］が点灯していることを確認します。

2. ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、セレクトレバーを車両後方に2段階スライドさせ、シフトポジションを**D**に切り替えます。

   ➔セレクトレバーの操作 (P.187)

3. ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、パーキングブレーキを解除します。

   ➔電動パーキングブレーキの解除のしかた (P.188)

4. ブレーキペダルを徐々に緩め、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。

●急な上り坂で発進するときは、ヒルスタートアシスト（➔P.209）が作動します。

●緩やかな坂道ではヒルスタートアシストが作動しない場合がありますが、自動的に車両の後退を抑制する機能が働き、一定の車速以上では後退しないように制御します。

走行するときの注意事項

⚠ 警告

- **e-Pedal StepがOFFのときは、下り坂ではフットブレーキと回生ブレーキを併用する。**

  ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあり危険です。坂の勾配に応じて回生ブレーキを併用してください。

  ➔e-Pedal Step (P.204)

- **e-Pedal StepがOFFのときに、回生ブレーキの効きが弱くなった場合は、ブレーキペダルを踏んで減速する。**
- **e-Pedal StepをONにすると、回生ブレーキの効きが強くなり、アクセルペダルの操作のみで速度調整することができるようになります。アクセルペダルを離しても減速度が足りないときは、ブレーキペダルを踏んでください。**
- **走行中はシフトポジションを**N**に切り替えない。**

  回生ブレーキが作動しないため、事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 上り坂では、クリープを利用した停車や、アクセルペダルを踏みながら停車状態を保つような停車はしないでください。車両故障のおそれがあります。
- 上り坂でシフトポジションを**D**または**B**のまま故意に車両を後退させたり、下り坂で**R**のまま故意に車両を前進させたりしないでください。車両故障のおそれがあります。
- 浸水・冠水被害に遭われた場合は、車両故障につながるおそれがあるため、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

走行のしかた

●シフトポジションを**D**にしたまま走行します。アクセルペダルとブレーキペダルの操作で、加速、減速を行います。

●下り坂では、回生ブレーキ（➔P.14）を併用して走行します。
シフトポジションが**D**のときより**B**のほうが、回生ブレーキの効きが強くなります。速度が出すぎるときは、必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

●回生ブレーキは、満充電時や低温時などにブレーキが弱くなることがあります。回生ブレーキが弱いときは、ブレーキペダルを踏んで減速してください。

●走行中にセレクトレバーにあるⓅスイッチを押した場合は、操作が無効となります。（ブザーが鳴り、操作前のシフトポジションが維持されます）

停車・駐車

停車・駐車の注意事項

⚠ 警告

- **駐車するときは、ガスライターなどに注意する。**

⚠ 警告

操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしたりしないでください。荷物を押しこんだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- **長期間車両を駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながる可能性があるため注意する。**

アドバイス

- 炎天下で駐車するときは、車室内にライターや炭酸飲料の缶、サングラス、カメラなどを置いたままにしないでください。車室内が高温になり、爆発したり変形したりするおそれがあります。

停車・駐車のしかた

1. 停車するときは、シフトポジションは**D**または**B**のまま、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
2. そのまま駐車するときは、ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキを掛けます。
   ➔電動パーキングブレーキのかけかた (P.188)
3. ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーにあるⓅスイッチのスイッチを押し、シフトポジションを**P**に切り替えます。
4. ＜パワースイッチ＞を押します。
   メーター内の走行可能表示灯が消灯していることを確認してから、ブレーキペダルからゆっくりと足を離します。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

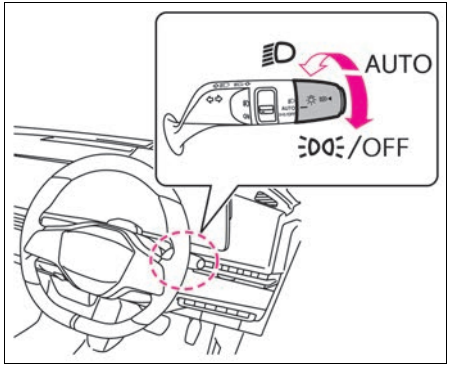
ライトスイッチ

ライトスイッチの注意事項

アドバイス

- 走行可能表示灯［READY］が点灯していないときは、長時間点灯させないでください。12Vバッテリーあがりのおそれがあります。

ライトスイッチの使いかた



スイッチを回すと、次のように点灯、消灯します。

スイッチ位置	点灯するランプ
＜ ＞	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。
＜AUTO＞	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯、アクセントランプが自動点灯・消灯します。
＜/OFF＞（＜/OFF＞の位置にしても手を離すと自動で＜AUTO＞の位置に戻ります）	停車時に＜/OFF＞の位置に回すと車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。 停車時に＜/OFF＞の位置に回して1秒以上保持すると、全ランプが消灯します。 走行を開始すると周囲の明るさに応じて、ランプが自動点灯・消灯します。

- 車幅灯、尾灯、番号灯が点灯しているときはテールランプ表示灯［］が点灯します。
- ロービームが点灯しているときはヘッドランプ下向き表示灯［］が点灯します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［オペレーションガイダンス］⇒［ライト］を選択すると、ライトスイッチを動かしたときにメーターに表示する機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、画面カスタマイズ（P.117）または（P.87）をお読みください。
- 通常時は＜AUTO＞の位置で使用してください。

バッテリーセーバー

- ランプを点灯したまま走行可能表示灯［READY］が点灯時に、＜パワースイッチ＞をOFFにすると、12Vバッテリーあがりを防止するためランプが消灯します。次回、次の操作を行うとランプが再点灯します。
  - ＜パワースイッチ＞をONにする
  - ライトスイッチを操作する（約5分後にランプは再度消灯します）

オートレベライザー

- ヘッドランプが下向き点灯時に乗車人員や荷物量の違いにより車両姿勢が変化すると、自動的に照射方向を調整するシステムです。

ヘッドランプ消し忘れ警報

- ＜パワースイッチ＞がON以外の位置で運転席ドアを開けたとき、次の場合にブザーが鳴ります。
  - ライトスイッチが＜ ＞の位置にあるとき
  - ライトスイッチを＜/OFF＞の位置に回して、テールランプ表示灯［］が点灯しているとき

アクセントランプ

- 周囲の車や歩行者などからの視認性を向上させます。
  - 走行可能表示灯［READY］が点灯時に、ライトスイッチが＜AUTO＞の位置でパーキングブレーキを解除すると車外の明るさに応じてアクセントランプが点灯します。

— スイッチ位置を<⇄/OFF>、または<≣D>の位置にすると、アクセントランプが減光し車幅灯として点灯します。

●アクセントランプ機能をOFFにしたい場合は、日産販売会社へご相談ください。

イルミネーションエンブレム

●ライトスイッチの位置に関係なく、<パワースイッチ>をONにすると点灯し、OFFにすると消灯します。

<≣D>の使いかた

ライトスイッチを<≣D>の位置に合わせるとヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。

AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた

●<パワースイッチ>がOFFのときは消灯します。

●<パワースイッチ>がONのときは次のように作動します。

周囲が明るいとき

●停車中、走行中ともにヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が消灯します。

周囲が暗いとき

●停車中、走行中ともにヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯します。

■ フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能

●歩行者事故が多く発生している夕暮れ時や雨天でのワイパー使用時にもランプを自動点灯します。

<⇄/OFF>の使いかた

●ライトスイッチは<⇄/OFF>の位置に回しても手を離すと自動で<AUTO>の位置に戻ります。

●ライトの点灯状態は次のとおりです。

ライトスイッチを<⇄/OFF>の位置に回したとき

●停車時にライトスイッチを<⇄/OFF>の位置に回すと車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。

●停車時にライトスイッチを<⇄/OFF>の位置に回しても、走行すると周囲の明るさ、ワイパー作動に応じてヘッドランプが自動点灯します。

●走行中にライトスイッチを<⇄/OFF>の位置に回すと、周囲が明るいときは車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。周囲が暗いとき、またはワイパーが作動してヘッドランプが点灯しているときは、ライトスイッチを<⇄/OFF>の位置に回しても、点灯しているヘッドランプを消灯できません。（ヘッドランプは停車時のみ消灯可能です）

ライトスイッチを<⇄/OFF>の位置に回して1秒以上保持したとき

●停車時にライトスイッチを<⇄/OFF>の位置に回して1秒以上保持すると、全ランプが消灯します。

●停車時にライトスイッチを<⇄/OFF>の位置に回して1秒以上保持しても、走行すると周囲が暗いとき、またはワイパーが作動しているときは、ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。

●走行中にライトスイッチを<⇄/OFF>の位置に回して1秒以上保持しても、点灯しているランプを消灯できません。

次の操作をすると、AUTO（自動点灯・消灯）に戻ります。

●再度ライトスイッチを<⇄/OFF>の位置に回す

●<≣D>の位置にしてから<AUTO>の位置にする

自動点灯ランプの消灯のしかた（車両停車時）

●自動点灯したヘッドランプは走行中に消灯できない仕様となっています。

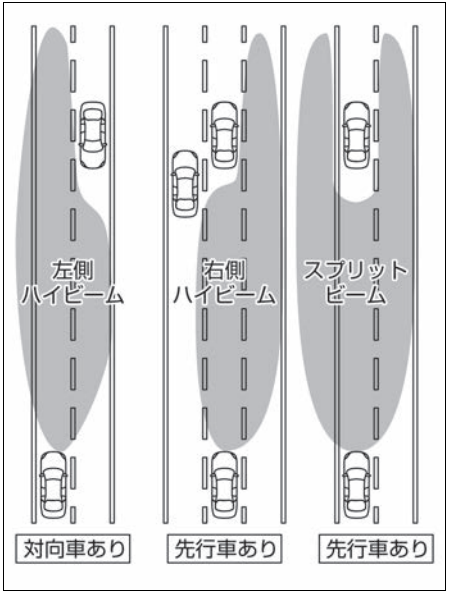
ヘッドランプの消灯方法

●ライトスイッチを<⇄/OFF>の位置に回すと、ヘッドランプが消灯します。

すべてのランプの消灯方法

●ライトスイッチを<⇄/OFF>の位置に回して1秒以上保持すると、全ランプが消灯します。

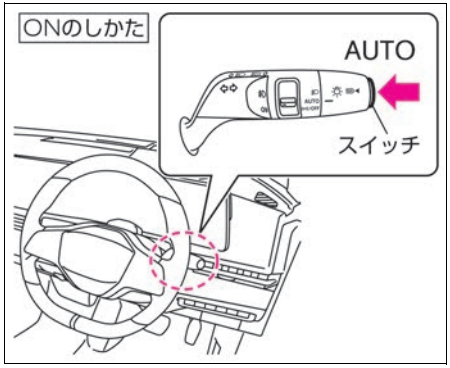
アダプティブ LED ヘッドライトシステム



先行車や対向車に照射しないよう、自動的にハイビーム（上向き）の照射範囲を切り替えます。

約25km/h以上で走行中、ヘッドランプが点灯しているときに切り替えを行い、約15km/h以下になるとロービーム（下向き）に切り替わります。

■ アダプティブLEDヘッドライトシステムの操作方法



- ライトスイッチが＜AUTO＞の位置でヘッドランプが点灯しているときにスイッチを押すと、アダプティブLEDヘッドライトシステムがONになります。（アダプティブLEDヘッドライト表示灯［ⒶD］が点灯）
- ライトスイッチが＜AUTO＞の位置でもう一度スイッチを押すと、アダプティブLEDヘッドライトシステムがOFFになります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［オペレーションガイダンス］⇒［アダプティブヘッドライト］を選択すると、ライトスイッチが＜AUTO＞の位置以外でアダプティブLEDヘッドライトシステムのスイッチを押したときに、オペレーションガイダンスをメーター内にポップアップで表示する機能のON･OFFを切り替えることができます。

設定の詳細については、画面カスタマイズ（P.117）をお読みください。

■ アダプティブLEDヘッドライトシステムをOFFにする方法

知識

- 次のいずれかの操作をしても、アダプティブLEDヘッドライトシステムがOFFになります。

アダプティブLEDヘッドライトシステムが制御中のとき

— ライトスイッチを＜ D ＞の位置にする

— ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）

— ライトスイッチを車両後方に引く（ロービームに切り替わります）

アダプティブLEDヘッドライトシステムが制御していないとき

— ライトスイッチを＜ D ＞の位置にする

— ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）

アダプティブ LED ヘッドライトシステムの注意事項

⚠ 警告

- **システムを過信しない。**

⚠ 警告

常に周囲の状況を確認し、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。

- **次のようなときは、アダプティブLEDヘッドライトシステムが正しく作動しない場合があるため、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替える。**
  - ― 悪天候のとき（雨、霧、雪など）
  - ― 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
  - ― カメラ前方のフロントガラスがくもっていたり、汚れなどが付着したりしているとき
  - ― カメラの向きがずれているとき
  - ― 周囲にヘッドランプや尾灯に似た光源があるとき
  - ― 対向車または先行車が無灯火のとき
  - ― 対向車のヘッドランプが破損または汚れていたり、光軸がずれているとき
  - ― 自転車やバイクなど、ライトの明るさや大きさが十分でないとき
  - ― 歩行者など光を発しないもののとき
  - ― 明るさの急激な変化が連続しているとき
  - ― 段差や起伏のある道路を走行しているとき
  - ― カーブが多い道路を走行しているとき
  - ― ミラーや標識など反射の強いものが前方にあるとき
  - ― トレーラーやコンテナなど先行車の後部の反射が強いとき
  - ― パンクやけん引などで車両が傾いているとき

アドバイス

- アダプティブLEDヘッドライトシステムが正しく作動しなかったり、作動中にメーター内にアダプティブLEDヘッドライト表示灯［Ⓐ］が点灯しなかったりしたときは、アダプティブLEDヘッドライトシステムが故障しているおそれがあります。日産販売会社で点検を受けてください。

  アダプティブLEDヘッドライト表示灯（➔P.86）
- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（➔P.442）をお読みください。

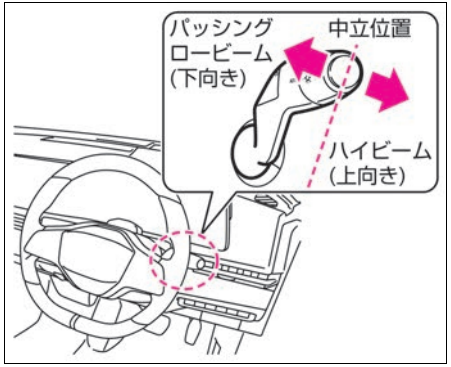
照射範囲切り替え制御

- 次のような原因で、照射範囲の切り替わるタイミングが変化することがあります。
  - ― 対向車または先行車のランプの明るさ
  - ― 対向車または先行車の向きや動き
  - ― 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯している
  - ― 対向車または先行車が二輪車
  - ― 道路状況（カーブや勾配、路面状況など）
  - ― 乗車している人数や荷物の量
- 対向車または先行車を検知し、照射範囲を切り替えているときにも、ヘッドランプ上向き表示灯が点灯することがあります。（ハイビームの一部が点灯しているため）
  ヘッドランプ上向き表示灯（➔P.85）
- アダプティブLEDヘッドライトシステムがONでロービームのとき、ライトスイッチを車両後方に引くとパッシングになります。
  （アダプティブLEDヘッドライトシステムはONを維持）
- ライトスイッチは車両前方に押しても車両後方に引いても、手を離すと自動で中立位置に戻ります。

ハイビーム（上向き）への切り替えかた

アドバイス

- 対向車があるときや市街地走行などでは下向きにしてください。



ライトスイッチが＜ ＞の位置のとき

- ライトスイッチを車両前方に押すと、ハイビームに切り替わります。ロービームに戻したいときは、ライトスイッチを車両前方、または後方に動かします。
- パッシングするときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。ハイビームの状態からパッシングしたいときは、ライトスイッチを2回車両後方に引きます。

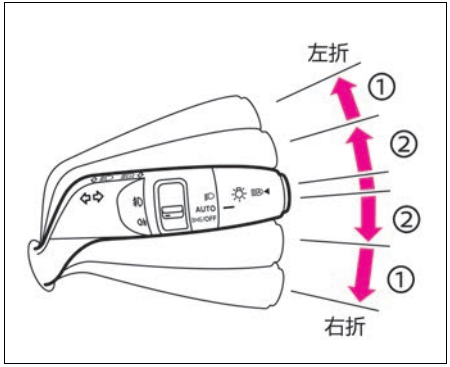
ライトスイッチが＜AUTO＞の位置のとき

- ヘッドランプが点灯しているとき、ライトスイッチを車両前方に押すとハイビームに切り替わります。
- ロービームに戻したいときは、ライトスイッチを車両前方、または後方に動かします。
- パッシングするときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。ハイビームの状態からパッシングしたいときは、ライトスイッチを2回車両後方に引きます。
- ハイビームに切り替えているときは、ヘッドランプ上向き表示灯［ ］が点灯します。
- アダプティブLEDヘッドライトシステムがONのとき、ライトスイッチを車両前方に押すと、ハイビームに切り替わります。
- ライトスイッチは車両前方に押しても車両後方に引いても、手を離すと自動で中立位置に戻ります。

方向指示器の使いかた

アドバイス

- 方向指示器のランプと方向指示表示灯の点滅が速くなったときは、日産販売会社で点検を受けてください。



＜パワースイッチ＞がONのとき使えます。

方向指示器はスイッチ操作後、手を離すと自動で中立位置に戻ります。（プロパイロット2.0付車）

- 右折または左折するときは、ライトスイッチを①の位置まで動かします。
- 車線変更などのときは、ライトスイッチを②の位置まで動かし軽く押さえます。スイッチを押さえている間、方向指示器が点滅します。
  また、スイッチ②の位置まで上または下に押さえたあと、すぐに手を離したときは3回点滅し消灯します。（コンフォートフラッシャー機能）

方向指示表示灯をOFFにする方法（プロパイロット2.0付車）

- 方向指示表示灯が点滅している方向とは逆側の②の位置に動かします。

アドバイス

- 方向指示器のランプとメーター内の方向指示表示灯の点滅が速くなったときは、日産販売会社で点検を受けてください。

その他の機能について

- 夜間など周囲が暗い場所で車から降りるときに、次の操作を行うと、ヘッドランプが周囲を照らします。
  - ＜パワースイッチ＞がOFFのときにライトスイッチを手前に引くと、ヘッドランプが約30秒間点灯します。
  - ヘッドランプが点灯してから10秒以内にライトスイッチを手前に引くと、1回あたり約30秒間延長され、最大

約2分間まで設定することができます。

■ ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）

- ドアの施錠・解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯、イルミネーションエンブレムが点灯します。（施錠時約10秒、解錠時約30秒）
- ドアが施錠された状態でキー（インテリジェントキー）を携帯して車両に近づいたり、離れたりしたときも車幅灯、尾灯、番号灯、イルミネーションエンブレムが点灯します。

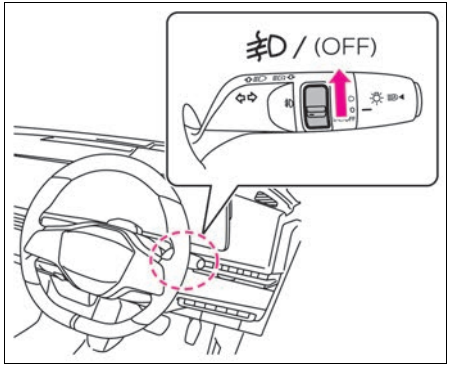
（ドアを解錠せず、複数回近づいたり離れたりした場合、誤作動防止のため点灯しない場合があります。）

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ライト/照明］⇒［ウエルカムヘッドライト］を選択すると、ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）の設定を変更することができます。
設定の詳細については、車両設定（➔P.114）または（➔P.87）をお読みください。

フォグランプスイッチ

雨、霧、雪などで視界が悪いとき、ヘッドランプや尾灯の補助として使用します。

フォグランプの使いかた

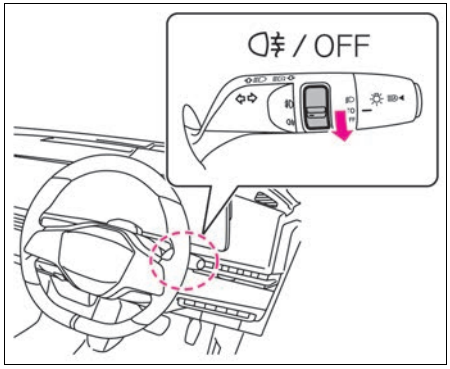


- ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
- スイッチを< >の位置に合わせます。
（リヤフォグランプ付車は、スイッチから手を離すと自動的に中立位置に戻ります）
- 消灯するときは、スイッチを元の位置に戻します。
（リヤフォグランプ付車は、再度操作します）
- フォグランプが点灯しているときは、フォグランプ表示灯［ ］が点灯します。

リヤフォグランプの使いかた★

アドバイス

- 降雪時には雪が積もる場合があるため、こまめにリヤフォグランプの雪を取り除いてください。



- ヘッドランプまたはフォグランプが点灯しているときに使用できます。
- スイッチを< >の位置に合わせます。
（スイッチから手を離すと自動的に中立位置に戻ります）
- 消灯するときは、スイッチを再度操作します。
- リヤフォグランプが点灯しているときは、リヤフォグランプ表示灯［ ］が点灯します。

リヤフォグランプの注意事項

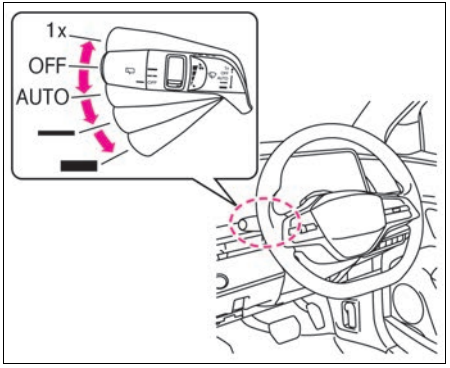
⚠ 警告

- **晴天時は使用しない。**
  後続車の視界を悪くするおそれがあります。

ワイパー・ウォッシャースイッチ

<パワースイッチ>がONのとき使用できます。

フロントワイパーの使いかた



●スイッチを動かすと、次のように作動します。

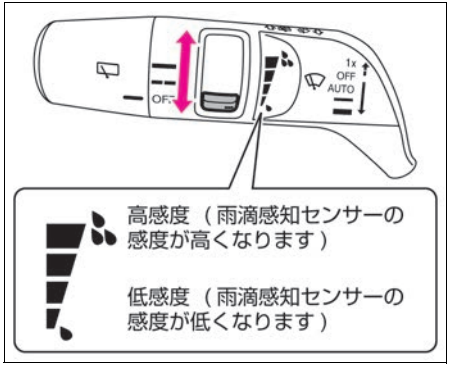
スイッチ位置	作動
＜1x＞	スイッチを上げている間作動します。手を離すと自動的にOFFに戻ります。
＜OFF＞	停止します。
＜AUTO＞	自動制御
＜▬＞	低速で連続して作動します。
＜▬＞	高速で連続して作動します。

●スイッチを操作するとメーターにスイッチ位置が表示されます。

●インテリジェント オートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）は、ライトスイッチが＜AUTO＞の位置のときにワイパーが数回作動すると、車外の明るさに関係なくヘッドランプが点灯します。
AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた (P.195)

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［⚙］⇒［画面カスタマイズ］⇒［オペレーションガイダンス］⇒［ワイパー］⇒［フロント］を選択すると、ワイパースイッチを動かしたときにメーターに表示する機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、画面カスタマイズ（P.117）または（P.87）をお読みください。

■ 雨滴感知式ワイパーの使いかた



スイッチ位置が＜AUTO＞のとき、ルームミラー部にある雨滴感知センサーによって降雨を感知し、降雨量と車速に応じて作動（低速および高速）の調節を自動で行います。

センサー感度

●センサーの感度を調節するときは、スイッチを回します。
高感度：雨滴感知センサーの感度が高くなります。
低感度：雨滴感知センサーの感度が低くなります。

アドバイス

- 降雨時でも雨滴が雨滴感知センサーにあたらないと、雨滴感知センサーが降雨を検知しないためワイパーが作動しない場合があります。

アドバイス

- 雨滴感知センサーに泥、指紋、油膜、虫などが付着したり、排気ガスをあびたりするとワイパーが作動することがあります。また、夜間などは目視しづらいわずかな水滴も検知し、ワイパーが作動することがあります。

  降雨時以外はなるべくスイッチ位置を<OFF>にしてください。

- フロントガラスに撥水処理を施している場合は、施工していないときに比べ、雨滴が流れやすくなるため、雨滴感知センサーが多いと感知してワイパーの作動回数が多くなる場合があります。
- ワイパーブレードの長さや形状が異なると、正常に作動しないことがあります。サイズにあった日産純正品をおすすめします。

●メーター内の走行可能表示灯［READY］が点灯しているとき、スイッチ位置を<AUTO>にすると、1回ワイパーが作動し、その後は雨滴量に応じてワイパーが作動します。

●スイッチ位置を<AUTO>にしているとき、<パワースイッチ>をONにすると、雨滴感知センサーが雨滴を検知した場合のみワイパーが作動します。

●自動制御のときは、降雨量と車速に応じてワイパー作動の調節を自動で行います。
アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、車速連動機能および雨滴感知機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定［⚙］⇒［車両設定］⇒［ワイパー］⇒［車速連動］/［雨滴感知］
設定の詳細については、車両設定をお読みください。

➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)

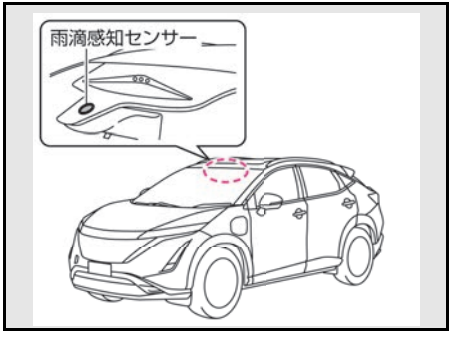
➔車両設定 (P.114)

雨滴感知式ワイパーの注意事項

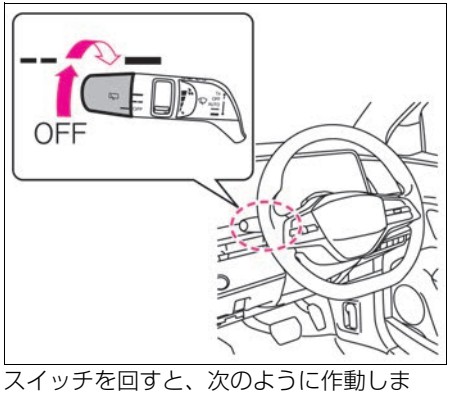
⚠ 注意

- **<パワースイッチ>がONでスイッチ位置を<AUTO>にしているとき、雨滴感知センサー上部のフロントガラスに手で触れたり、水分を含んだ布などを近づけたりしない。**

  ワイパーが作動しケガやワイパーの破損につながるおそれがあるため、注意してください。また、洗車時にはスイッチ位置を必ず<OFF>にしてください。



リヤワイパーの使いかた



スイッチを回すと、次のように作動します。

スイッチ位置	作動
<OFF>	停止します。

スイッチ位置	作動
▬ ▬	間けつで作動します。
▬▬	低速で連続して作動します。

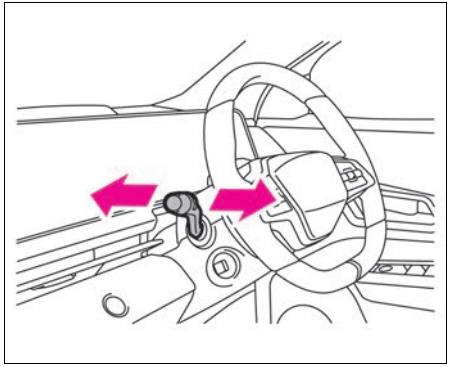
アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［オペレーションガイダンス］⇒［ワイパー］⇒［リア］を選択すると、ワイパースイッチを動かしたときにメーターに表示する機能のON·OFFを切り替えることができます。

設定の詳細については、画面カスタマイズ（➔P.117）または（➔P.87）をお読みください。

■ リバース連動機能

●フロントワイパー作動中にシフトポジションをRに切り替えると、リヤワイパーが作動します。

ウォッシャーの使いかた



■ フロントウォッシャー

●スイッチを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。

●スイッチを引いている間は作動が続き、レバーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。

■ リヤウォッシャー

●スイッチを車両前方に押すと、ウォッシャー液が噴射します。

●スイッチを押している間はウォッシャー液の噴射とワイパーの作動が続き、レバーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。

ワイパー・ウォッシャーを使うときの注意事項

⚠ 警告

● **寒冷時は、ウォッシャー液を噴射する前に、ヒーターでガラスを温める。また、ウォッシャー液は外気温に合わせた希釈割合にする。**

寒冷時は、ガラスに吹き付けられたウォッシャー液が凍結し、視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

● 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ワイパーに雪が積もり、破損するおそれがあります。

● ワイパー作動中、雪などの障害物によりワイパーが作動できなくなると、モーター保護のためにワイパーの作動が停止することがあります。その場合は、スイッチを＜OFF＞にして障害物を取り除いたあと、モーターが冷えるまで（約1分間）待ってから、再度スイッチを操作してください。ワイパーが作動を開始します。

● 凍結などでワイパーゴムがガラスに張り付いているときは、ワイパーを作動させないでください。ワイパーが損傷したり、モーターが故障したりするおそれがあります。

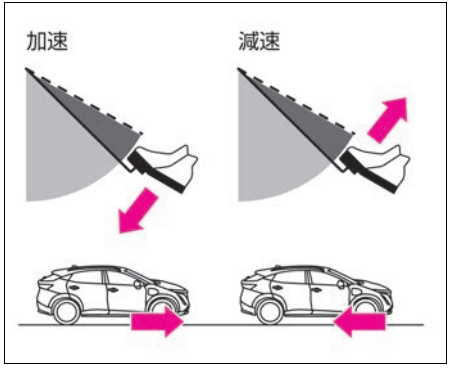
アドバイス

- 窓ガラスが乾いているときは、ウォッシャー液を噴射してからワイパーをご使用ください。ガラスが乾いた状態でワイパーを使用すると、ガラスやブレード（ゴム部）を傷付けるおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないときは、連続して30秒以上作動させないでください。モーターが故障する原因となります。
- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、日産販売会社にご相談ください。

e-Pedal Step

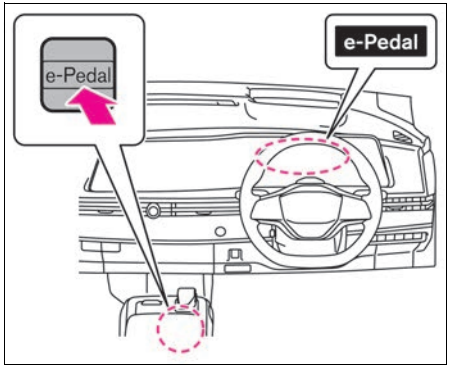
アクセルペダルの操作のみで加減速を行い、ブレーキペダルへ踏み替える頻度を大幅に減らすことができます。

e-Pedal Step について



- e-Pedal StepをONにすると、回生ブレーキの効きが強くなり、アクセルペダルの操作のみで速度調整することができるようになります。

e-Pedal Step の使いかた



- ＜パワースイッチ＞がONのとき、＜e-Pedal＞スイッチを操作するごとにON･OFFが切り替わります。（メーター内のe-Pedalインジケーターに状態を表示します。）
  e-Pedalインジケーター (P.79)
- 一度＜パワースイッチ＞をOFFにしてから＜EVシステム＞を再始動すると、e-Pedal StepはOFFになります。
- 再始動後もe-Pedal Stepの設定状態を維持したい場合は、アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［e-Pedal］⇒［モード記憶］をONに切り替えてください。

e-Pedal Step の作動について

- アクセルペダルを離したときの減速度がガソリン車より強いため、アクセルペダルを完全に離さずゆっくりと緩めることで、なめらかに減速することができます。
- アクセルペダルを離しても減速度が足りないときは、ブレーキペダルを踏んでください。
- アクセルペダルを離した際、発生する減速度、およびブレーキペダルの操作状態に応じて制動灯が点灯します。
- 車速によって最大減速度が変わります。極低速は回生ブレーキを作動させずクリープ現象が発生します。停車するときは、ブレーキペダルを踏んでください。
- e-Pedal StepがONのときも、ブレーキペダルを使用することができます。
- 後退時はe-Pedal Step OFFと同じ特性になります。

e-Pedal Step に関する注意事項

⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

  走行・道路状況に応じてブレーキペダルを踏んでください。

⚠ 警告

- **メーターに［e-Pedalシステム異常 減速、停車する際はブレーキを踏んでください］と警告メッセージ（➔P.394）が表示されたときは、e-Pedal Stepが故障しているため、ただちに日産販売会社で点検を受ける。**
- **極低速は回生ブレーキを作動させずe-Pedal Step OFF同様のクリープ現象が発生します。**

  停車するときは、ブレーキペダルを踏んでください。
- **減速中の減速度合いが足りない場合は、ただちにブレーキペダルを踏む。**

  車両が動きだしたり、止まりきらなかったりして、思わぬケガや事故につながるおそれがあります。
- **過積載、急勾配、氷結路などの制動力が低下する条件では、減速度が十分でない場合があるため、必要に応じてブレーキペダルを使用する。**
- **けん引中は、e-Pedal StepをOFFにする。**

- e-Pedal StepがONのときは、e-Pedal StepがOFFのときと比べて、アクセルペダルの特性が大きく異なります。運転する前に、e-Pedal StepのON・OFFをメーターで確認してから走行してください。
- e-Pedal StepがONのときとOFFのときでは、アクセルペダルの特性が大きく異なります。e-Pedal StepのON·OFFをメーターで確認してください。
- e-Pedal StepがONのとき、シフトポジションをDからBまたは、BからDに切り替えてもe-Pedal Stepの特性は変わりません。
- e-Pedal Stepのモード記憶設定（➔P.204）は、「工場出荷設定」の「初期化」をしてもリセットされません。
- シフトポジションがP、Nのときは、e-Pedal Stepは作動しません。
- 運転支援機能が作動しているときは、運転支援機能が優先されます。
- 減速によってブレーキペダルが動いたりe-Pedal Stepが作動しているときに作動音が発生したりする場合がありますが、異常ではありません。

ドライブモードセレクター

複数のドライブモードがあります。目的に応じて使い分けてください。

ドライブモードセレクターの注意事項

⚠ 注意

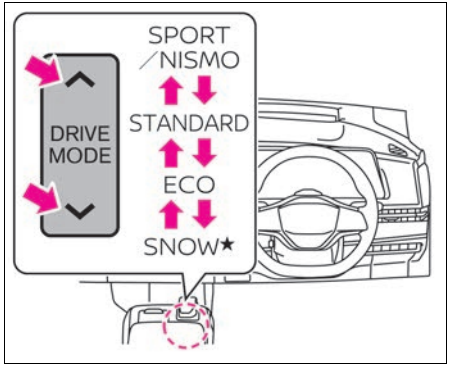
- **走行中に＜ドライブモードセレクター＞や画面を注視しない。**

  前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

モードの切り替えかた

アドバイス

- ＜ドライブモードセレクター＞を操作してもモードが切り替わらない場合は、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。



- ＜パワースイッチ＞がONのとき、＜ドライブモードセレクター＞を操作すると、選択可能なドライブモードがアドバンスドドライブアシストディスプレイに表示されます。
- モードの設定は、＜パワースイッチ＞をONにするたびに次のように変更されます。
  ECOモードで＜パワースイッチ＞をOFFにしたとき： ECOモード
  ECOモード以外で＜パワースイッチ＞をOFFにしたとき： STANDARDモード

ドライブモードについて

ドライブモード	特徴
SPORT（NISMO仕様車以外）	モーター出力のレスポンスを高めた、力強い走りができるモード。また、アクセルペダルOFF時の回生ブレーキ力を強めて、アクセルペダル操作のみでメリハリのあるスポーティな走行が可能。
NISMO（NISMO仕様車）	アクセル操作に瞬時に反応するレスポンスと、加速の伸びが感じられるNISMOらしい力強い走りができるモード。
STANDARD	通常走行に最適な標準的制御のモード。（NISMO仕様車以外）
	力強さと扱いやすさをバランスさせた、日常・長距離を余裕かつ軽快に走れるモード。（NISMO仕様車）
ECO	電費・航続可能距離を最優先とする特性のモード。また、アクセルペダルOFF時の回生ブレーキ力を最小限にし、エコドライブが可能。
SNOW★	雪道や凍結路面からの発進や走行を容易にするモード。

e-4ORCE（4WD）車★の扱いかた

e-4ORCEは、前後の2つのモーターと4輪のブレーキを瞬間的に統合制御するシステムです。

e-4ORCE（4WD）車は、滑りやすい路面などで優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。

e-4ORCE（4WD）車特有の取り扱いかたを十分理解し、正しい運転をしてください。

走行するとき

- オフロード（不整地）走行やラリー走行用ではありません。走行するときは次のことを必ずお守りください。
  - 河川などの水中走行はしない
  - 砂地、ぬかるみなど、前輪が空転しやすいところでの連続走行はしない
  - 脱輪などにより車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させない
- 運転操作は一般車と同様です。ハンドル、アクセルペダルおよびブレーキペダルなどの操作は慎重に行い、安全運転を心がけてください。
- e-4ORCE（4WD）車は、2WD車に対し、制動距離が短くなるわけではありません。

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、急ブレーキを踏んだとき、後続車に追突される可能性を低減させるため、制動灯を点滅させて後方へ急ブレーキを知らせます。

エマージェンシーストップシグナルについて

- 50km/h以上の速度で走行中、急ブレーキを踏むと作動します。
- 次の場合は作動が停止します。
  - ブレーキペダルから足を離したとき
  - ブレーキペダルを踏んでいても急ブレーキではなくなったとき
- メーター内のABS警告灯［(ABS)］（P.373）が点灯しているときは、エマージェンシーストップシグナルが作動しない場合があります。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABSとは、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時に、タイヤのロックを防止して、車両の安定性を向上させるとともにハンドル操作による障害物回避をしやすくするシステムです。

ABS に関する注意事項

⚠ 警告

- **カーブの手前では十分に減速する。**

  ABSはあくまでも運転者のブレーキ操作を補助するシステムです。ABSの付いていない車両と同様に、カーブの手前では十分な減速が必要です。早めの操作で安全運転を心がけてください。

- **でこぼこ道、砂利道、積雪路などでは、特に速度を控え、車間距離を十分にとる。**

  ABSはブレーキ時の車両の安定性、操舵性を確保しようとするための装置で、制動距離が短くなるとは限りません。でこぼこ道、砂利道、積雪路などでは、ABSの付いていない車より制動距離が長くなることがあります。このような道を走行するときは、特に速度を抑え、車間距離を十分にとって運転してください。

- **タイヤ交換時は、必ず指定サイズのタイヤを4輪に装着する。**

  ABSは各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。指定サイズ以外ではABSが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ABS について

急ブレーキを踏まなければいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけることが大切です。万一の危険な状況では次のようにしてください。

- 危険だと感じたら、ためらわず思い切りブレーキペダルを踏み込んでください。
- ABSが作動すると、ブレーキペダルに振動が伝わったり、作動音が聞こえたりします。これはABSの正常な作動によるものです。そのままブレーキペダルを踏み続けてください。
- 障害物回避の際には、ブレーキペダルを踏みながらハンドル操作をしてください。
- <パワースイッチ>をONにしたときや、EVシステム始動後最初の発進時に、モータールーム内から音が聞こえることがありますが、これはシステムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

なお、車両を確実に停車させるため、ABSは低速では作動しません。路面の状況により異なりますが約10km/h以下では作動しません。

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）

VDCは、横滑りや駆動輪の空転を抑えて走行時の車両安定性を向上させるシステムです。

VDC の機能について

- VDCのシステムには次の機能があります。
  - VDC機能：走行中の横滑り状態をセンサーで判別し、走行時の車両安定性を向上させる機能です。
  - トラクションコントロール機能（TCS）：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、モーターの出力を抑えることにより、駆動力およびハンドルの操作性を向上させる機能です。
  - ブレーキLSD機能：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、空転している駆動輪にブレーキを掛けることにより、もう一輪の駆動力を確保する機能です。
  - ABS機能：ABS（P.206）
- VDC作動時は、ブレーキの作動により音や振動を発生する場合がありますが異常ではありません。

VDC の作動について

- VDCの作動と警告灯
  - VDCが作動しているときは、VDC警告灯［ ］が点滅します。
  - トラクションコントロール機能のみが作動しているときもVDC警告灯［ ］が点滅します。VDC警告灯が点滅したときは、車両が滑りやすい状態になっているため特に慎重に運転してください。

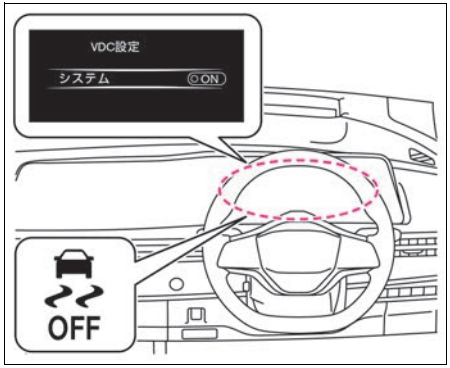
●次の場合、VDC警告灯［ ］が点灯することがあります。一度<パワースイッチ>をOFFにし、再度ONにするとVDC警告灯は消灯します。
— 駐車場の入り口などにあるターンテーブルや動く物の上に車があるとき
— 極端に傾いた特殊な路面（サーキット路に見られるバンクなど）を走行したとき

VDC に関する注意事項

⚠ 警告

- **滑りやすい路面やカーブの手前では速度を落とす。**
  この装置は車両の走行安定性を向上させるもので事故を防止するものではありません。VDCの作動にも限界があるため、滑りやすい路面やカーブの手前では、特に速度を落とし安全運転を心がけてください。
- **次の場合、VDC警告灯［ ］が点灯し正常に作動しないことがあるため注意する。**
  — サスペンション、タイヤ、ブレーキなどを純正品以外に交換したり、改造したとき
  — サスペンション、タイヤ、ブレーキなどの関係部品が著しく摩耗および劣化した状態で走行したとき
- **VDC付車でも雪道などでは冬用タイヤやタイヤチェーンを装着する。**

VDC の ON・OFF のしかた



●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ］⇒［VDC設定］⇒［システム］を選択すると、VDC機能のON·OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、VDC設定（➔P.105）または（➔P.87）をお読みください。
●VDC機能をOFFに切り替えると、VDCが停止し、VDC OFF表示灯［ ］が点灯します。
●再度、VDCを使用（ON）するときは、もう一度アドバンスドドライブアシストディスプレイでVDC機能をONに切り替えます。VDC OFF表示灯［ ］が消灯し、VDCがON になります。
●VDCが作動しているときは、ぬかるみや雪道から脱出するときに、スリップ状態を検知するため、アクセルペダルを踏み込んでもタイヤの回転数が上がらないことがあります。タイヤの回転数を上げたいときはアドバンスドドライブアシストディスプレイでVDCを停止してください。
●VDC機能をOFFにすると、VDCのすべての機能と、次の機能が停止します。（ABS機能およびブレーキLSD機能を除く）
— インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）（➔P.209）
— プロパイロット（➔P.217）
— インテリジェント エマージェンシーブレーキ（➔P.264）
— インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（➔P.283）
— インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（➔P.276）
●<パワースイッチ>をONにするたびに、VDCは自動的にONになります。
●VDCが作動すると発進時や加速時に車体およびペダルにわずかな振動と作動音が発生しますが異常ではありません。
●<パワースイッチ>をONにしたときや、EVシステム始動後最初の発進時に、モータールーム内から音が聞こえることがありますが、システムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

シャシー制御

シャシー制御には、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）があります。

⚠ 警告

- **インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）の機能を過信しない。**

  インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）は、すべての走行環境において効果があるわけではないため、機能を過信せず安全運転を心がけてください。

アドバイス

- アドバンスドドライブアシストディスプレイに［シャシー制御システム故障］と警告が表示されたときは、故障により機能が正しく作動しないことがあります。警告が表示されたときは、日産販売会社で点検を受けてください。

  警告メッセージ（➔P.388）

インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）について

運転者のハンドル、アクセル、ブレーキ操作を検知し、それらの情報から各輪のブレーキ、駆動トルク（e-4ORCE（4WD）車）、前後駆動力配分（e-4ORCE（4WD）車）を制御して、車両の挙動を滑らかにすると同時に、応答性を高めるなどして安定感のあるコーナリングを実現します。

- インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）をOFFにしていても、急ハンドル時などには作動する場合があります。
- VDCをOFFにすると、インテリジェントトレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）もOFFになります。
  ぬかるみや雪道から脱出するためにVDCをOFFにした場合でも、トラクションを確保するため前後駆動力配分制御（e-4ORCE（4WD）車）はOFFになりません。
- システムが作動すると、ブレーキペダルに振動を感じたり、音が聞こえたりする場合がありますが、システムの作動音で異常ではありません。また、減速感を感じることがありますが、異常ではありません。
- ＜ドライブモードセレクター＞のモード位置により、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）は影響を受けます。
  ➔ドライブモードセレクター (P.205)
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［シャシー制御］⇒［トレースコントロール］を選択すると、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）機能のON・OFFを切り替えることができます。（前後駆動力配分制御（e-4ORCE（4WD）車）はOFFになりません）

  設定の詳細については、運転支援をお読みください。

  ➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)

  ➔運転支援 (P.97)

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシストは、上り坂での発進を補助するシステムです。

⚠ 警告

- **ヒルスタートアシストの機能を過信しない。**

  凍結している路面や泥状の坂道では、車両がスリップして後退することがあります。特に安全運転を心がけてください。

  緩やかな坂道ではヒルスタートアシストが作動せず後退する場合があります。その際はブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキを掛けてください。

- **停車するときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ブレーキペダルを踏み続ける。**

  この装置は、ブレーキペダルから足を離すと約2秒間ブレーキ力を保持しますが、その後ブレーキ力が解除されます。駐車するときは確実にシフトポジションをPに入れ、パーキングブレーキを掛けてください。

ヒルスタートアシストについて

- 上り坂で発進するとき、ブレーキペダルからアクセルペダルへ踏み替える間に発生する車両の後退を防ぎます。
- シフトポジションがP、N以外のとき、ブレーキペダルから足を離すと、約2秒間ブレーキ力を保持します。
- セレクトレバーを操作した直後はブレーキペダルを踏んだ状態で約1秒間待ってから発進してください。シフトポジションをPからDまたはNからDに操作した直後は、ヒルスタートアシストが作動しないことがあります。
- VDC警告灯［ ］（P.376）が点灯したときは作動しません。
- ヒルスタートアシストが作動しているとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生したりすることがありますが、異常ではありません。

車両接近通報装置

車両接近通報装置は、低速走行中に車両が接近していることを音で歩行者に知らせるシステムです。

⚠ 警告

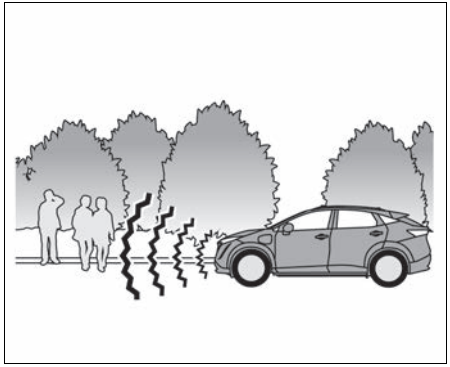
- **車両接近通報装置の音が聞こえないときは、日産販売会社で点検する。**

車両接近通報装置の音が聞こえないときは、安全で静かな場所に停車し、音が聞こえるか確認してください。ブレーキペダルを確実に踏みながら、シフトポジションをRにし、窓を開けて音が聞こえるか確認します。車両前方から音が聞こえないときは、日産販売会社で点検を受けてください。

車両接近通報装置について

車両接近通報装置は、走行可能表示灯［READY］が点灯しているとき、次の場合に作動します。

- 発進時、車速が30km/h以下のとき
- 減速時、車速が25km/h以下になったとき
- シフトポジションがRのとき

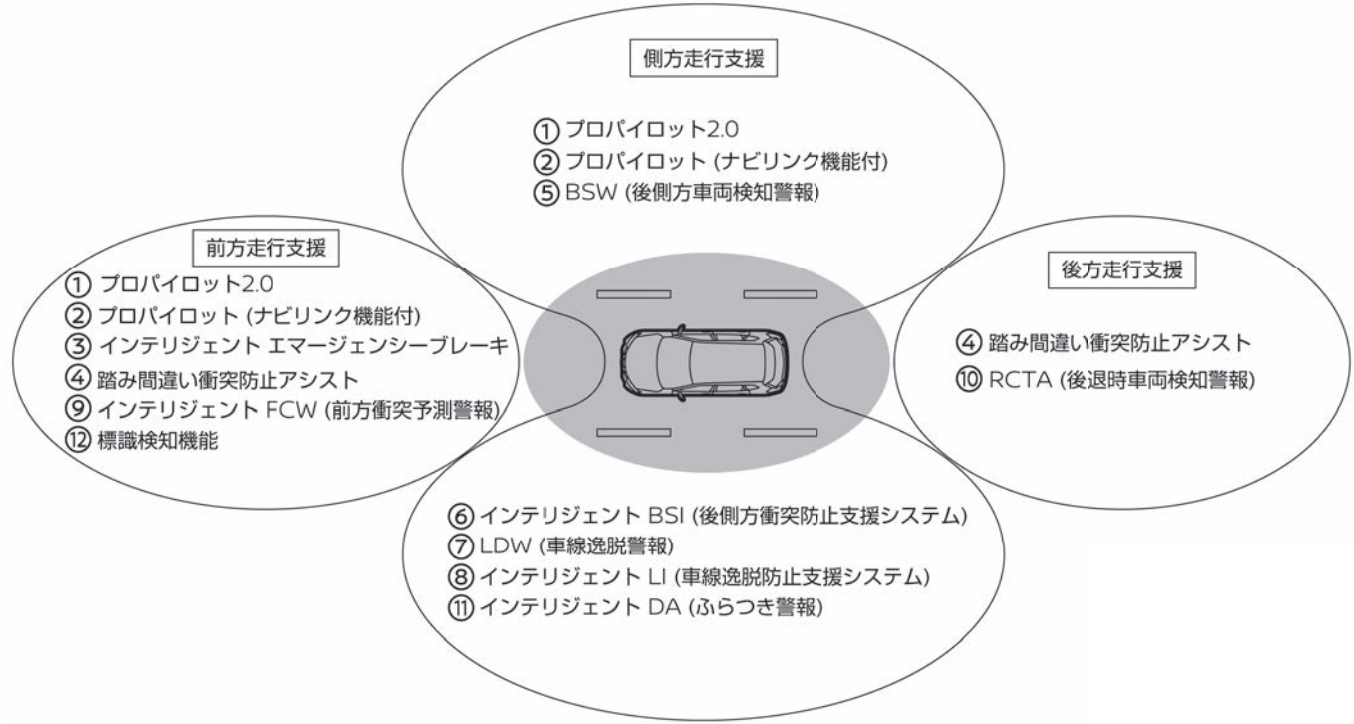


車両接近通報装置の故障について

- システムに異常があると、メーター内の車両接近通報システム警告灯［ OFF ］が点灯します。
  車両接近通報システム警告灯（P.381）
- 車両接近通報装置の音を大きくしたい場合は、日産販売会社へご相談ください。音を小さくすることはできません。

走行支援機能

走行支援機能について



運転支援機能

範囲		機能名	機能説明	支援内容	使用するセンサー※1			
					レーダー	カメラ（フロント）	ソナー	カメラ（アラウンドビューモニター）
前方側方	①	プロパイロット2.0★	前方車両との車間距離を制御し、前方車両停車時は停車してその状態を保持します。また、走行車線内を走行するようにハンドルを自動制御することで運転操作の負担を減らします。（➔P.217）	支援	○	○	○	○
	②	プロパイロット（ナビリンク機能付）★						
前方	③	インテリジェント エマージェンシーブレーキ	前方の車両や歩行者、自転車と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。（➔P.264）	支援	○	○	－	－
前方後方	④	踏み間違い衝突防止アシスト	ブレーキペダルとアクセルペダルの踏み間違えや、ブレーキ操作遅れが起きたときに警報音と表示で警告し、さらに過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。（➔P.269）	支援	－	○※2	○	○※3
前方	⑨	インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）	前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、自車の回避操作が必要と判断した場合に警報します。（➔P.287）	情報提供警報	○	－	－	－
	⑫	標識検知機能	運転者に最高速度標識／はみ出し通行禁止標識／車両進入禁止標識／一時停止標識があることを知らせます。（➔P.294）		－	○	－	－

運転支援機能

範囲		機能名	機能説明	支援内容	使用するセンサー※1			
					レーダー	カメラ（フロント）	ソナー	カメラ（アラウンドビューモニター）
側方	⑥	インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）	隣車線に車両がいる時に車線変更を開始した場合、警報とともに車両を元の車線内に戻すよう支援します。（➔P.275）	支援	○	○	−	−
	⑧	インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）	運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、車線内に戻す操作を支援します。（➔P.283）		−	○	−	−
	⑤	BSW（後側方車両検知警報）	車線変更時、隣車線に車両がいる場合に警報します。（➔P.275）	警報	○	−	−	−
	⑦	LDW（車線逸脱警報）	運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報します。（➔P.283）		−	○	−	−
	⑪	インテリジェント DA（ふらつき警報）	ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したとき、警報音と表示により運転者に休憩を促します。（➔P.293）		−	−	−	−
後方	⑩	RCTA（後退時車両検知警報）	後退時、後方を横切ろうとする車両があるとき、警報します。（➔P.290）	警報	○	−	−	−

※1：レーダーセンサー／カメラ類の取り扱い注意に従って、お手入れをお願いします。適切なお手入れを行わないと、システムが正常に作動しないおそれがあります。（➔レーダーセンサーの取り扱い (P.442)）、（➔マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.442)）、（➔ソナーの取り扱い (P.443)）、（➔フロントビュー／サイドビューカメラの取り扱い (P.443)）、（➔リヤビューカメラの取り扱い (P.443)）

※2：後方への支援には使用されません。

※3：後方への支援時にリヤビューカメラが使用されます。

走行支援機能

⚠ 警告

- **走行支援機能は、自動で運転する装置ではありません。運転者は交通法規を遵守し、常に周囲の状況に注意して運転してください。道路・交通・自車の状況に応じてハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを確実に操作し、安全な運転を行う責任があります。性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。**
- **レーダー、カメラ、ソナーの性能には限界があります。 詳細については、各検知条件と制限をお読みください。**

➔レーダーセンサーの検知条件と制限 (P.215)

➔マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限 (P.216)

➔ソナーの検知条件と制限 (P.217)

フロントガラスに装備されたマルチセンシングフロントカメラ、フロントバンパーおよびリヤバンパーに装備されたレーダーセンサーとソナーセンサーで構成された、走行を支援するシステムです。

■ 作動させるためにスイッチ操作が不要な機能（メーターでのON設定が必要）

- インテリジェント エマージェンシーブレーキ
- 踏み間違い衝突防止アシスト
- インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）
- BSW（後側方車両検知警報）
- LDW（車線逸脱警報）
- RCTA（後退時車両検知警報）
- インテリジェント DA（ふらつき警報）
- 標識検知機能

■ 作動させるために操作が必要な機能

- プロパイロット2.0★
- プロパイロット（ナビリンク機能付）★
- インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）
- インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

走行支援機能の設定

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒必要な機能を選択すると、ON・OFFを切り替えることができます。

機能名	設定できる機能
インテリジェントクルーズ	プロパイロット（ナビリンク機能付）★、プロパイロット2.0の減速機能★、標識検知した速度の反映など
車線維持支援（ハンドル支援）	ハンドル支援、ハンズオフモード
車線変更支援	ルート走行支援、追い越し支援
側方支援	車線逸脱警報、車線逸脱防止支援
後側方支援	後側方車両検知警報、後側衝突防止支援
緊急支援	インテリジェント エマージェンシーブレーキ、インテリジェント FCW、踏み間違い衝突防止支援
標識検知支援	制限速度標識、道路標識
駐車支援	後退時車両検知警報、移動物検知
ドライバーモニター	ふらつき警報、ドライバーモニター
運転支援サウンド設定	運転支援の警報の音量

レーダーセンサーの検知条件と制限

●レーダーセンサーは次のような障害物は検知できないことがあります。
- ― 歩行者、自転車、動物など
- ― 対向車
- ― 約30km/h以上の速度で通過する車両
- ― 約8km/h以下の速度で通過する車両
- ― 前方の車両がオートバイのような幅の狭い車両のとき

●次のような場合は、前方の2台前の車両を検知できないことがあります。
- ― 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
- ― 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
- ― 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- ― 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
- ― トンネル内を走行しているとき
- ― 前方の車両がけん引を行っているとき
- ― 前方の車両との距離が極端に近いとき
- ― 急なカーブや、勾配の変化があるところを走行しているとき

●次のような状況では、レーダーセンサーが接近する車両を検知できないことがあります。
- ― 隣に駐車している車両などが、レーダーセンサーの検出エリアを妨げているとき
- ― 駐車枠線が斜めに引かれた駐車場に駐車しているとき

— 回り込むようにして自車両後方へ車両が接近してきたとき
— 接近してきた車両の向きが、自車両の向きと同じまたはそれに近いとき

マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限

●マルチセンシングフロントカメラは次のような障害物を検知できないことがあります。
— 子供などの背の低い人、動物、自転車
— 対向車両
— 道路構造物（ガードレール、ポールなど車両と歩行者以外の障害物）
●マルチセンシングフロントカメラは車両の後端を認識するため、以下のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。
— バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
— 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
— 前方を横切って通過する車両
— 斜めもしくは前向きに止まっている車両
●マルチセンシングフロントカメラは次のような場合、前方の車両、歩行者を検知できないことがあります。
— 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
— 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
— カメラ前方のフロントガラスのくもりや、汚れ、油膜、虫汚れ、水滴、氷、雪、泥などが付着しているとき
— 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
— 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
— 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れている、または光軸調整が適切に行われていないとき
— 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
— トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
— カーブを走行しているとき
— 勾配の変化があるところを走行しているとき
— 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
— 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき
— 前方車両からの太陽光などを強く反射されたとき
— 対象物の位置や動きが大きく変化した場合（自車の車線変更・右左折、前方車両の右左折・急ハンドル・急加速・急減速など）
— 始動してから約15秒間
— カメラの向きがずれているとき
●マルチセンシングフロントカメラは以下の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。
— 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合
— 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいる場合
— 対象物が路面の水たまりの付近にいる場合（周りの風景が水たまりに映りこむなど）
— 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき
— 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき
— 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者
— 車高の低い車両
— 最低地上高（地面から車体までの高さ）が極端に低いもしくは極端に高い車両
— 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
— 前方の至近距離に割り込んだ車両
— 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者
— 後端面積が小さい車両（空荷のトラックなど）
— リヤタイヤから車両後端までが長い車両
— 四輪車以外の車両（二輪車など）
— 荷台から荷物や幌がはみ出している車両
●マルチセンシングフロントカメラは以下の例のような場合、衝突するおそれがあ

る対象を正しく検出できない場合があります。
- 複数の対象物同士が近接している場合
- 対象となる二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合
- 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者

ソナーの検知条件と制限

●次のような場合、ソナーは正しく検出できないことがあります。
- 人、動物などの動いているもの、特に人は衣服の種類によっても検出できない場合があります。
- 背の低い障害物
- 溝や穴など地面より低い場所
- ポールなどの幅の狭い障害物
- 針金、ロープ、チェーンなどの細い障害物
- 金網、フェンス、ショッピングカートなどのすき間が多い障害物
- 鋭角的な形の障害物
- 壁などに配置されている配管などの障害物
- 地面から高い位置に存在する障害物
- 柱などで構成されている平面ではない障害物
- スポンジ状のものや雪などの表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- バンパーに非常に近い障害物
- 急に進行方向に現れた障害物
- 急にソナーの検出範囲に飛び込んできた障害物
- 急に近づいてきた障害物
- 車両側方にある障害物
- 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき
- ソナーセンサー部が凍結したり、雨、雪、氷、汚れなどがソナーセンサーに付着したりしているとき
- 車両姿勢が大きく傾いているとき
- 炎天下や寒冷時でセンサー周辺が著しく高温または低温のとき
- 凸凹道、坂道、砂利道、草むらを走行しているとき
- 他車のホーン、オートバイの排気音や工事など、付近で大きな音がしたとき
- 車両感応センサーや他車のソナーなど、超音波を発するものが付近にあるとき

●次のような場合、ソナーは検知することがあります。
- 周囲に草が生い茂っているとき
- 車両側面の近くに壁があるとき
- 高さのあるゲート、狭いトンネル、料金所のバーなど
- マンホールやスピードバンプなど路面上に段差や突起物があるとき
- 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
- 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
- 勾配路
- 車両感応センサーや他車のソナーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- 他車のホーン、オートバイの排気音や工事など、付近で大きな音がしたとき
- 背が高く上部が張り出しているものがあるとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーセンサーに付着しているとき
- 凸形状または凹形状の構造物の近くを通過しているとき
- 車両側方の近くに構造物（壁、料金所設備、駐車場のゲート設備など）があるとき
- 高さのある縁石や車止めがあるとき

プロパイロット

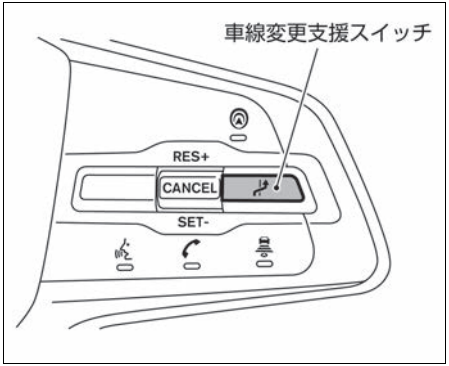
プロパイロットは、高速道路や自動車専用道路を運転者が設定した車速を上限に、先行車と車速に応じた車間距離を保ちながら、車線中央付近を走行するための運転操作を支援します。

プロパイロット2.0では上記に加え、運転者が常に前方に注意して道路・交通・自車両の状況に応じ直ちにハンドルを確実に操作できる状態にある限りにおいて、同一車線内でハンドルから手を離すことが可能となります。

また、ナビゲーションシステムで目的地を設定することで、ルート上にある高速道路の出口に向かうための運転操作を支援します。

システムの見分けかた

ステアリングスイッチの形状とシャークフィンアンテナの数でシステムを見分けることができます。



●＜車線変更支援スイッチ＞
プロパイロット（ナビリンク機能付）：無し
プロパイロット2.0：有り

●シャークフィンアンテナの数
プロパイロット（ナビリンク機能付）：1
プロパイロット2.0：2

プロパイロットに関する注意事項

●**プロパイロットは自動で運転する装置ではありません。また、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意での運転操作を補助するものではありません。**
運転者はシステムを過信せず、常に周囲に注意し、道路・交通・自車両の状況に応じて確実にハンドル、アクセル、ブレーキを操作して、安全な運転を行う責任があります。

●**プロパイロットは高速道路や自動車専用道路の直線や緩やかなカーブでの使用を想定して設計されています。**
一般道での使用は思わぬ事故につながるおそれがありますので使用しないでください。

●**プロパイロットは同一方向に走行する車両を検出し、車間距離を保つようアクセル、ブレーキを制御します。**
対向車両、前方を横切る車両、車線外（路肩など）いる車両、歩行者、自転車、工事用のパイロン、落下物などの車両以外のものに反応しません。

●**プロパイロットは車線中央付近を走行するようにステアリングを制御します。側方から車両が近づいてきても反応しません。**
交通法規を遵守する責任は運転者にあります。走行している地域や道路の交通法規を遵守し、安全な走行を行ってください。

●**プロパイロットの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がける。**
自車の前への急な割り込みや先行車が急ブレーキをかけたとき、急なカーブを走行するとき、悪天候などでは、適切な減速や操舵制御が行えず先行車に接近したり、レーンマーカーに近づいたりすることがあります。先行車との車間距離、自車の車線内の位置、周囲の状況に応じて自らアクセル、ブレーキ、ハンドルを操作し、常に安全運転を心がけてください。
レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは、左側に引かれた線のことを示します。

●**プロパイロットを解除せず降車しないでください。**
車両を停止し続ける能力をもっていません。降車する場合は＜プロパイロットスイッチ＞を押してシステムをOFFにし、セレクトレバーにあるⓅスイッチを押しシフトポジションを**P**に切り替え、電動パーキングブレーキを作動させてください。

●**次のような状況では適切な制御ができず、思わぬ事故につながるおそれがありますので使用しないでください。**
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行しているとき
- 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
- 急カーブや曲がりくねった道を走行しているとき
- 急な上り坂、下り坂を走行しているとき
- 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき
- 料金所を通るとき
- タイヤの空気圧が適正ではないとき
- 摩耗しているタイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
- 純正品以外のブレーキ部品やサスペンション部品を使用しているとき
- フロントレーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
- マルチセンシングフロントカメラおよびその前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪、泥などの付着物があるとき

— マルチセンシングフロントカメラおよび、その前方のフロントガラスにくもりや結露があるとき
— サイドレーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
— レーダー、カメラ、ソナー、GPSアンテナの視界を妨げるものを取り付けたとき
— 極端に重い荷物を積んでいるとき
— けん引しているとき

●ナビゲーションの地図が古い場合は、プロパイロットの機能が正しく作動しない場合があります。
プロパイロットを使うときは予め地図の更新をするなど常に最新の地図を使用してください。
ナビゲーションの地図更新についてはナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

プロパイロットの機能

プロパイロットには次の機能があります。

プロパイロット （ナビリンク機能付） とプロパイロット2.0の識別については、システムの見分けかた (P.217)をお読みください。

機能名	概要説明	参照先
車速・車間制御機能	● 先行車を検出していないときは、運転者が設定した車速を維持するように制御します。 ● 先行車を検出しているときは、運転者が設定した車速を上限に、車速に応じた車間距離を保つように制御します。	(P.232)
ルート減速支援機能	● 地図データを利用して、カーブ・出口などの道路形状に合わせて車速を調節します。	(P.234)
制限速度支援機能	● 標識検知機能により検出した速度を、自動または手動で設定車速に反映することができます。	(P.235)
車線維持機能（ハンドル支援）	● 車線中央付近を走行するようにステアリングを制御し、運転者のハンドル操作を支援します。 ● 運転者が常に前方に注意し、道路・交通・自車の状況に応じただちにハンドルを確実に操作できる状態にある限りにおいて、ハンドルから手を離すことが可能となります。（プロパイロット2.0付車）	(P.237) (P.238)
車線変更支援機能	● 運転者が方向指示器を作動させると、ステアリングと方向指示器を制御し、車線変更に必要なハンドル操作を支援します。（プロパイロット2.0付車）	(P.244)
追い越し支援機能	● 設定車速よりも遅い車両を前方に検出すると、運転者に追い越しを提案します。運転者が＜車線変更支援スイッチ＞を押すと、ステアリングと方向指示器を制御し、追い越し操作を支援します。（プロパイロット2.0付車）	(P.249)
ルート走行支援機能	● 運転者がナビゲーションシステムで目的地を設定している場合、ナビゲーションのルートに従って走行するために必要な車線変更地点に到達すると、運転者に車線変更を提案します。運転者が＜車線変更支援スイッチ＞を押すと、ステアリングと方向指示器を制御し、車線変更操作を支援します。（プロパイロット2.0付車）	(P.252)

プロパイロット2.0特有機能は3D高精度地図データを使用しています。機能をご利用になるには、別途契約が必要です。

アドバイス

- プロパイロット2.0特有機能は3D高精度地図データを使用しています。機能をご利用になるには、別途契約が必要です。

3D高精度地図データについて（プロパイロット2.0付車） (P.259)

システム構成

⚠ 警告

- **プロパイロットは次のような障害物に反応しません。**
  - 歩行者、動物など
  - 落下物
  - 工事などで設置されるパイロンなど
  - 特殊な形状をした車両
- **次のような状況では先行車の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に前方の状況に注意し、必要に応じてブレーキペダルやハンドルを操作してください。**
  - 前方に急な割り込みがあったとき
  - 停止車両など自車速よりも極端に遅い車両がいたとき
  - 見通しの悪いカーブを走行しているとき
  - 前方に車線の端を走行する二輪車がいるとき
  - 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
  - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
  - 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んだとき
  - 悪天候のとき（雨、霧、雪など）
- **次のような状況では正しくレーンマーカーの検出ができず車線維持機能（ハンドル支援）、車線変更支援機能が使用できないことがあります。**
  - レーンマーカーが消えかかっている、汚れているなど不明瞭なとき
  - レーンマーカーが路面の色と似ており見えにくいとき
  - レーンマーカーが多重に描かれているとき
  - 消されたレーンマーカーが、まだ薄く残っているとき
  - 工事などによる車線規制や仮設のレーンマーカーがあるとき
  - 料金所や交差点手前などでレーンマーカーが大きく変化しているとき
  - 車線幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
  - 停止禁止部分、または立ち入り禁止部分がある道を走行しているとき
  - 出口路、分岐路など車線数が増えるとき
  - 濡れているまたは水たまりのある路面を走行しているとき
  - 道路構造物、街路樹、建物などの影が差している路面を走行しているとき
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
  - トンネルの出入り口や日陰など急に明るさの変化が起こったとき
  - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
  - 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき

⚠ 警告

- **次のような状況では隣の車線の車両の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に周囲の状況に注意し、必要に応じてハンドルを操作してください。**
  - 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両が走行しているとき
  - 後方から速い速度で接近してくる車両が走行しているとき
  - 後方から近づいてくる車両が車線変更などにより隣の車線に移動したとき
  - 自車や周囲の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
  - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
  - 後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んだとき
  - 悪天候のとき（雨、霧、雪など）
- **次のような場合、ドライバーモニターシステムが運転者を適切に検出できないことがあります。**
  - 車室内へ太陽光が入り込み、ドライバーモニターカメラまたは、運転者が照らされているとき
  - 太陽光の入り込みと影になることが繰り返すとき
  - サングラス、マスク、眼帯、帽子、マフラーなどを着用している場合など目、鼻、口や顔の輪郭が隠れているとき
  - 顔とシステムとの間に遮る物があるとき
  - ドライバーモニターカメラに触れ、汚れや指紋が付着したとき
  - 助手席や後席シートの方が運転席付近に身を乗り出したときなど、運転席付近に2つ以上の顔が存在するとき
  - 前方からの太陽光の眩しさなどで目を細めたり、運転姿勢をくずしていたりしているとき
- **フロントレーダー、サイドレーダーの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。**

  状況によってはレーダーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。

  このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に周囲に注意して走行してください。またフロントレーダー、サイドレーダーおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

  ➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.442)
- **フロントカメラの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。**

  状況によってはフロントカメラが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。

  このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。またフロントカメラおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

  ➔ マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.442)
- **ドライバーモニターカメラの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。**

  状況によってはドライバーモニターカメラが汚れていても判定できない場合があります。またドライバーモニターカメラに触れ、汚れや指紋が付着したときも判定できない場合があります。このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。またドライバーモニターカメラおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

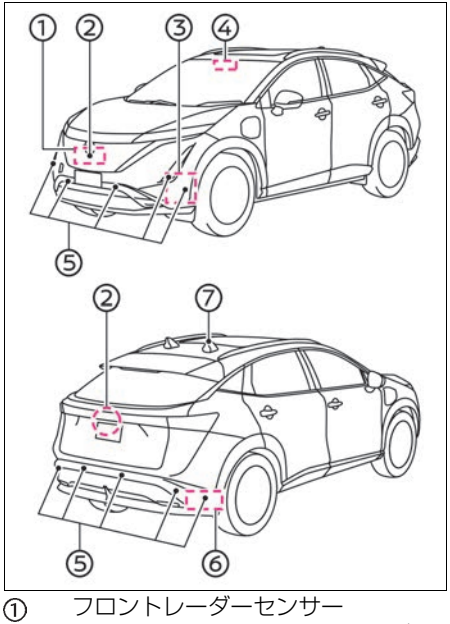
  ➔ ドライバーモニターカメラの取り扱い (P.299)

アドバイス

- プロパイロットを正しく作動させるために、カメラ前方のフロントガラス、レーダーセンサーおよびソナーセンサー周辺のお手入れを行ってください。

外装のお手入れ (P.438)

プロパイロットは次のような部品で構成されています。



① フロントレーダーセンサー
前方の車両を検知し、インテリジェント クルーズコントロールに使用

② インテリジェント アラウンドビューモニターカメラ
隣車線の自動二輪車を検知（サイドレーダーセンサーを補助）

③ サイドレーダーセンサー（フロント）（プロパイロット2.0）
隣車線の他車両の有無を検知

④ マルチセンシングフロントカメラ
隣車線の他車両の有無、および車線のレーンマーカーを検知し、ステアリングアシストに使用

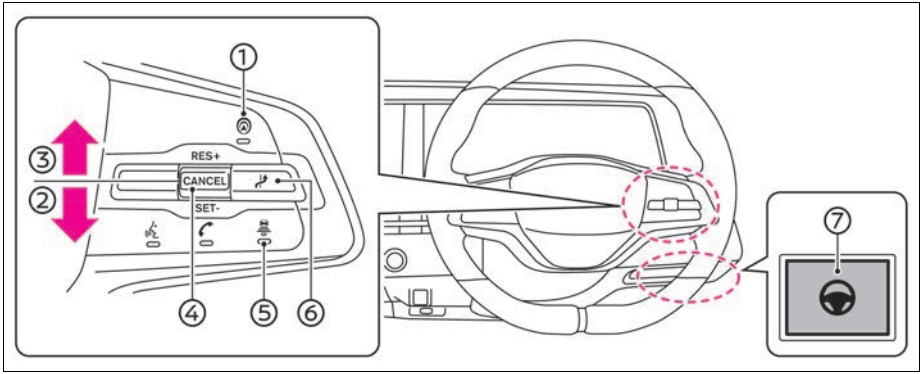
⑤ ソナーセンサー
側面と後部の車両を検知

⑥ サイドレーダーセンサー（リヤ）
隣車線の後方から接近してくる他車両を検知（例：死角）

⑦ GPSアンテナ（プロパイロット2.0）
衛星システムからの測位情報を受信

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

プロパイロットに関連するスイッチ



① **プロパイロットスイッチ**
プロパイロットのON・OFFができます。

② **SET-操作（下押し）**
＜SET-＞方向に押したときの車速でプロパイロットを開始できます。
設定車速を下げることができます。

③ **RES+操作（上押し）**
プロパイロットを解除後、解除前の設定車速で再び開始することができます。
設定車速を上げることができます。

④ **CANCELスイッチ**
プロパイロットの解除ができます。

⑤ **車間設定スイッチ**
車間距離を「長」「中」「短」の3段階に切り替えることができます。

⑥ **車線変更支援スイッチ（プロパイロット2.0のみ）**
プロパイロット2.0が車線変更を運転者に提案したとき、車線変更の支援を開始できます。

⑦ **ハンドル支援スイッチ**
車線維持機能（ハンドル支援）のON･OFFができます。

●＜プロパイロットスイッチ＞を押すと、インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）のON・OFFも連動します。

プロパイロットの使いかた

1. ＜プロパイロットスイッチ＞を押します。（1.5秒未満）

●プロパイロットがONになります。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイにプロパイロットの状態が表示されます。（➔P.227）

知識

● ＜プロパイロットスイッチ＞を1.5秒以上押し続けると定速制御機能に切り替わり、車線維持機能（ハンドル支援）を行いません。

2. ＜SET-＞方向に押したときの車速でプロパイロットを開始します。

●先行車を検出していない場合、運転者が設定した車速を維持するように制御します。または、制限速度支援機能（➔P.235）やルート減速支援機能（➔P.234）により車速が制御されます。

●システムが起動した場合、アドバンスドドライブアシストディスプレイに作動状態が表示されます。（➔P.234）

■ 車間距離設定のしかた

⚠ 警告

- **プロパイロットは脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意での運転操作を補助するものではありません。**

  先行車との車間距離、車線内の位置、周囲の状況に応じてアクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルを操作するなどして、常に安全運転を心がけてください。

<車間設定スイッチ>を押すと、車間距離を設定できます。車両アイコン下のバーの本数で設定を表示します。

アイコン下のバーの本数	車間距離
3本	長
2本	中
1本	短

- 車間設定は、EVシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。

■ 設定車速の変更のしかた

加速したいとき：

- 設定車速を上げたいときは、<RES+>方向に押します。

減速したいとき：

- 設定車速を下げたいときは<SET->方向に押します。

設定車速が5km/hきざみで変更できます。スイッチを押し続けると設定車速が5km/hずつ連続して変わります。希望の速度でスイッチを離してください。

■ 一時的に加速、減速をしたいとき

⚠ 警告

- **アクセルペダルを操作して加速しているときは、ブレーキ制御、接近警報を行いません。**

  通常、車間制御中は先行車の速度に合わせて自動的に加速、減速を行います。車線変更などで加速が必要なときや、先行車が急減速したり、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどはアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。

- ハンドルを持ってアクセルペダルを踏むと加速します。
- アクセルペダルを踏んで加速したときなど、設定車速より実際の車速が高くなった場合は、設定車速表示が点滅します。
- アクセルペダルを離すと再び車速車間制御を行います。
- ブレーキペダルを踏むと減速します。（プロパイロットは解除されます）
- 解除前の設定車速で再び開始したいときは、<RES+>方向に押します。

■ 車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFのしかた

スイッチでのON・OFFのしかた

- <ハンドル支援スイッチ>を押すごとに車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFを切り替えることができます。

メーターでのON・OFFの設定

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［車線維持支援］⇒［ハンドル支援］を選択すると、車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFを切り替えることができます。
  車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFF設定はEVシステムを停止しても再度設定が変更されるまで、その状態を維持します。

■ プロパイロットの解除のしかた

⚠ 警告

- **プロパイロットをOFFにせずに降車しないでください。**

  降車する場合は<プロパイロットスイッチ>を押してシステムをOFFにし、電動パーキングブレーキを作動させ、シフトポジションを**P**にしてください。

次のいずれかの操作でプロパイロットが解除されます。

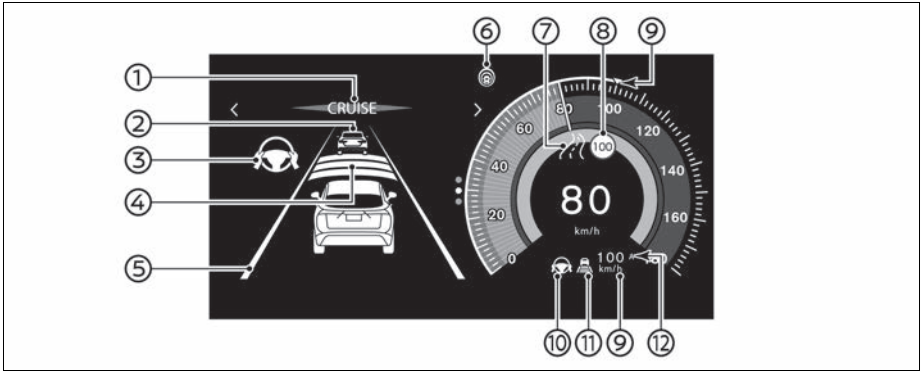
- <CANCEL>スイッチを押す

●ブレーキペダルを踏む（車速・車間制御機能により、自車が停止しているときを除く）
解除前の設定車速で再び開始したいときは、＜RES＋＞方向に押します。
車速・車間制御機能により自車が停止しているとき、システムを解除すると電動パーキングブレーキが作動します。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ表示

プロパイロットが作動すると、画面が自動的にプロパイロット画面に切り替わります。この機能を停止するには、アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をし、設定をOFFにしてください。設定［ ⚙ ］⇒［画面カスタマイズ］⇒［クルーズ画面切替］

プロパイロット（ナビリンク機能付）

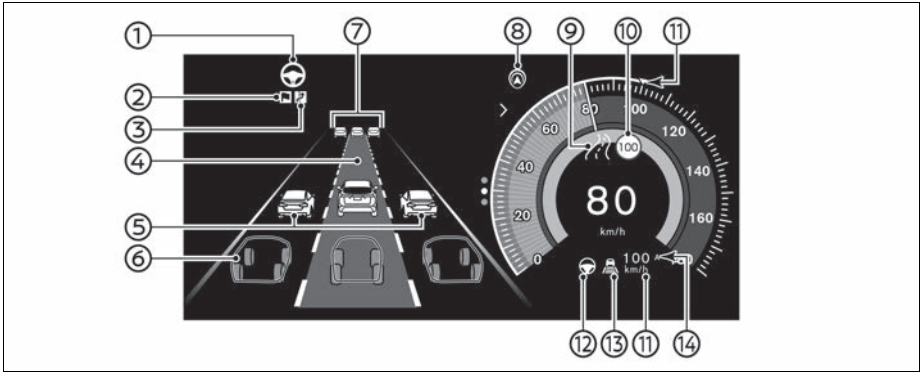


メーター表示項目		表示内容	
①	プロパイロット作動状態	プロパイロット作動中は青色に点灯	
②	先行車検出の有無	車両アイコン非表示 ⇒先行車検出無し	車両アイコン表示 ⇒先行車検出有り
③ ⑤	ハンドル支援の作動状態	灰色⇒ハンドル支援待機中	緑色⇒ハンドル支援中
④	車間設定表示	車間設定状態を表示	
⑥	プロパイロットの作動状態	白色 ⇒プロパイロットON	青色 ⇒プロパイロット作動開始
⑦	ルート減速支援表示	ルート減速作動時に表示	
⑧	標識検知表示	標識検知機能で検出した最高速度標識を表示	

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

メーター表示項目		表示内容	
⑨	設定車速表示	設定車速を表示	
⑩	ハンドル支援作動灯／警告灯	灰色⇒ハンドル支援待機中	黄色⇒車線維持機能（ハンドル支援）が故障状態
		赤色⇒ハンドルを離している状態（手放し警報のみ）	緑色⇒ハンドル支援中
⑪	車速・車間制御作動状態	車両アイコン非表示 ⇒先行車検出無し（定速制御中）	車両アイコン表示 ⇒先行車検出有り（定車間制御中）
		白色⇒プロパイロットON	緑色⇒プロパイロット作動開始
		黄色⇒プロパイロットが故障状態	
		車間距離の設定状況を表示	
⑫	制限速度支援表示	A：オートモード（自動）の作動状態 ↑：マニュアルモード時、検出した最高速度標識が設定速度より高い ↓：マニュアルモード時、検出した最高速度標識が設定速度より低い	

プロパイロット2.0



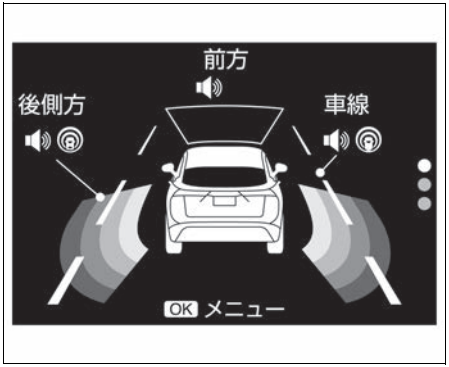
メーター表示項目		表示内容		
①⑫	ハンドル支援作動灯	白色⇒ハンドル支援待機中	緑色⇒ハンドル支援中	青色⇒ハンドル支援中（ハンズオフモード）
②	ルート走行支援作動灯	灰色⇒ルート走行支援待機中	緑色⇒ルート走行支援中	青色⇒ルート走行支援可能状態
③	車線変更支援作動灯	灰色⇒車線変更支援待機中	緑色⇒車線変更支援中	青色⇒車線変更支援可能状態
④	ルート走行支援作動表示	緑色⇒ルート走行支援中	青色⇒ルート走行支援可能状態	
⑤	側方注意表示	自車側方の車両を注意喚起		
⑥	周辺車両検出表示	検出した周辺車両を表示		
⑦	先行車検出表示	検出した先行車両を表示		
⑧	プロパイロット作動灯	プロパイロットONのときに表示 （ハンドル支援の状態に応じて、白色、緑色、青色に切り替わります）		
⑨	ルート減速支援表示	ルート減速作動時に表示		
⑩	標識検知表示	標識検知機能で検出した最高速度標識を表示		
⑪	設定車速表示	設定車速を表示		

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

メーター表示項目		表示内容	
⑬	車速・車間制御作動灯	車両アイコン非表示⇒定速制御中	車両アイコン表示⇒定車間制御中
		車間距離の設定状況を表示	
⑭	制限速度支援表示	A：オートモード（自動）の作動状態 ↑：検出した最高速度標識が現在走行している速度よりも高い場合に表示 ↓：検出した最高速度標識が現在走行している速度よりも低い場合に表示	

プロパイロット2.0表示は、ヘッドアップディスプレイにも表示されます。（プロパイロット2.0付車）（➔P.126）

運転支援ステータス画面



プロパイロットを起動したあと、車速を設定する前に運転支援ステータス画面が表示されます。画面は、後側方、前方運転支援、および側方運転支援のステータスを表示します。運転支援設定で選択されている場合、＜プロパイロットスイッチ＞を押すと、システムも作動状態になります。

- 運転支援ステータスを変更するには、アドバンスドドライブアシストディスプレイで次のようにメニューを選択し、設定を変更してください。（走行支援機能の設定 (P.215)）
  設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］

運転支援機能をONに設定している場合の表示

範囲	運転支援機能名称	機能	表示
前方	インテリジェント エマージェンシーブレーキ	支援	［🔊］
	インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）	警報	
車線	LDW（車線逸脱警報）	警報	［🔊］
	インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）	支援	［🚘］
後側方	BSW（後側方車両検知警報）	警報	［🔊］
	インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）	支援	［🚘］

［🔊］：警報機能がONになっている場合に表示

［🚘］：支援機能がONになっている場合に表示

［OFF］：どの機能もONになっていない場合に表示

プロパイロット 2.0★モード

プロパイロット2.0は作動状態を表示色とハンドル支援作動表示で表示します。
条件が満たされると、システムは自動的に利用可能なモードに移行します。
次の表に使用可能なシステムモードと必要な条件を示します。

モード	作動状態と条件
表示無し	● システムは作動していないため、起動する必要があります。 ● 運転者が車両を操作します。
灰色 – 待機状態	● システムは作動していないため、作動させる必要があります。 ● 運転者が車両を操作します。
白色	● 車速・車間制御機能が作動します。 ● 運転者がハンドルを操作します。
緑色	● 車速・車間制御機能、車線維持機能（ハンドル支援）が作動します。 ● 両側のレーンマーカーが検知されています。 ● 運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。
青色（ハンズオフモード）	● 車速・車間制御機能、車線維持機能（ハンドル支援）が作動します。 ● 運転者が常に前方に注意し、道路・交通・自車の状況に応じ、ただちにハンドルを確実に操作できる状態にある限りにおいて、ハンドルから手を離すことが可能となります。 ● 高速道路や自動車専用道路を走行していることを3D高精度地図データで確認しています。

3D高精度地図のデータ処理には、オープンソースを使用したソフトウェア（OSS）および、アルゴリズムが含まれています。下記webサイトにライセンス情報が記載されています。
http://www.embedded-carmultimedia.jp/RTOS/License/oss/HDL_0101/
http://www.embedded-carmultimedia.jp/RTOS/License/oss/HDL_0102/
http://www.embedded-carmultimedia.jp/RTOS/License/oss/HDL_0111/
3D高精度地図データのライセンス情報は下記webサイトに記載されています。
http://www.embedded-carmultimedia.jp/RTOS/License/map/HDL_0111/

● ハンドル支援作動状態に連動して、アドバンスド アンビエント ライティングの表示色（白、緑、青）が変化します。
また、＜プロパイロットスイッチ＞を押してから＜SET-＞操作（下押し）でプロパイロットを開始するまでの間は消灯します。
➔アドバンスド アンビエント ライティング★ (P.335)

車速・車間制御機能（インテリジェント クルーズコントロール）

インテリジェント クルーズコントロールは、プロパイロットの機能の一部です。このシステムを使用する前に、システムの操作方法（➔P.224）やディスプレイの理解（➔P.227）を含め、プロパイロット全体（➔P.217）をお読みください。
インテリジェント クルーズコントロールは、フロントレーダーセンサーを使用して制御します。

● 先行車を検出していない場合は運転者が設定した車速で定速走行します。
● 先行車を検出しているときは、運転者がセットした車速（約30km/h以上）を上限に、車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。一度停止すると、インテリジェント クルーズコントロールは停止した状態を保持します。
● 先行車がいなくなると設定車速まで加速します。

●設定車速は設定車速表示を確認しながら変更してください。

📖 知識

● インテリジェント クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動した場合は、自車の制動灯が点灯します。

インテリジェント クルーズコントロールは、車両ブレーキ力の最大40%しか適用しないため、車速がかなり一定に保たれる交通状況で使用してください。
アクセルペダルを操作して加速しているときは、ブレーキ制御、接近警報を行いません。

車速・車間制御の自動解除

次の場合は、警告音とともに車速・車間制御機能が自動的に解除されます。

●先行車を検出していないときに、車速が約25km/hを下回ったとき
●高速道路や自動車専用道路など限定された道路を走行しているときは、停止保持中に先行車を検出しなくなったとき
●運転席、助手席、後席のいずれかのドアを開けたとき
●運転席のシートベルトを外したとき
●車速・車間制御機能により自車が停止後、約3分が経過したとき
●シフトポジションを、**D**または**B**以外にしたとき
●ドライブモードをSNOWにしたとき（e-4ORCE（4WD）車）
●電動パーキングブレーキをかけたとき
●VDCをOFFにしたとき
●VDCが作動したとき
●タイヤが空転したとき
●周辺の電波源の影響を受けているとき
●周辺の電波源や環境による反射等により、一時的に電波を受信できなかったとき
●レーダーセンサーが汚れているとき

次の場合は、プロパイロットの制御を開始することができません。（設定車速表示が約2秒間点滅します）

●運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアが開いているとき
●運転席シートベルトを着用していないとき
●車速が約30km/hを下回っていて、先行車を検出していないとき
●シフトポジションが**D**または**B**以外のとき
●ドライブモードをSNOWにしたとき（e-4ORCE（4WD）車）
●電動パーキングブレーキが作動しているとき
●ブレーキを踏んでいるとき
●VDCをOFFにしたとき
●VDC／TCSが作動したとき
●タイヤが空転したとき

システム作動

インテリジェント クルーズコントロールは、次の2つのモードのいずれかに設定できます。

●定速制御機能（➔P.263）
●車速・車間制御機能（➔P.232）

📖 知識

● 車線維持機能（ハンドル支援）は定速制御機能では使用できません。ハンドル支援なしで車速・車間制御機能を使用するには、プロパイロットを起動してから、＜ハンドル支援スイッチ＞または設定メニューで車線維持機能（ハンドル支援）をOFFにします。 詳細については、➔車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFのしかた (P.237)を参照してください。

■ 先行車を検出していないとき

先行車がいないときは、運転者が設定した車速を維持するように制御します。
先行車がいなくなると先行車検出表示と車速制御作動灯の車両アイコンが消灯し、運転者が設定した車速まで加速します。

■ 先行車を検出しているとき

先行車検出表示と車速制御作動灯が点灯し、運転者が設定した車速を上限に、車速に応じた車間距離を保つように制御します。

➔車間距離設定のしかた (P.225)

■ 先行車が停止したとき

⚠ 警告

● **運転者は周囲の状況に注意し、必要に応じてブレーキペダルを操作してください。**

車速・車間制御機能で停止した後、前方に車両が割り込んできた場合、位置や車両の向きによっては検出することができず、先行車が発進すると自車も動きだし割り込んできた車両に接近するおそれがあります。

- 高速道路や自動車専用道路の本線を車速・車間制御機能で走行中に先行車が停止した場合、先行車に続いて自車も約30秒間まで停止し、先行車に追従走行します。
（先行車が発進すると先行車検出表示が点滅し、［前の車に続いて発進します］とメッセージが表示され、追従走行を開始します）
- 約30秒を超えて停止した場合、［RES+で発進します］とメッセージが表示され、停止した状態を保持します。
- 先行車が発進した後、＜RES+＞方向に押す、またはアクセルペダルを踏むと、再び車速・車間制御機能による追従走行を開始します。
- 車両停止保持状態のときに、＜RES+＞方向に押すと、約3秒間は発進待機状態になります。（車両停止保持状態が解除されます）

割り込み検知

自車に近い位置に他車が割り込んできたときは、"ポーン" という音とともに先行車検出表示が点滅し、運転者にお知らせします。

接近警報

- 車間制御中に先行車の減速度合いが大きい場合や他車の割り込みなどによって、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、ブザーとアドバンスドドライブアシストディスプレイの表示によって運転者に注意を促します。この場合は、ブレーキを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。
- 先行車に接近し、車間距離が十分でないと判断されるときはブザーが "ピッ、ピッ、ピッ…" と鳴り、アドバンスドドライブアシストディスプレイの先行車検出表示および接近警報表示が点滅します。
- 短い車間距離でも、次の場合には接近警報が作動しないことがあります。
  - ― 先行車との相対速度が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
  - ― 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れていくとき）
  - ― 他車が至近距離に割り込んできたとき

追い越し時加速機能

- 設定車速が70km/h以上で車速・車間制御中、先行車が設定車速以下のとき、方向指示器を右折側に操作すると、車両が加速し先行車を追い越す準備を始めます。
- 運転者がハンドルを操作し、追い越すために車線を変更したときに先行車を検出した場合は、運転者が設定した車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。先行車を検出しなかった場合は運転者が設定した車速で定速走行します。
- 方向指示器を右折側に操作し、車両が加速しているときに先行車との距離が近づきすぎると加速は停止し、設定してある車間距離に戻ります。
- 次の場合は追い越し時加速機能が解除されます。
  - ― ブレーキペダルを踏んだとき
  - ― ＜CANCEL＞スイッチを押したとき

ルート減速支援機能

ルート減速支援機能は、ナビゲーションシステム搭載車両のプロパイロットの機能です。このシステムを使用する前に、プロパイロット全体（➔P.217）と標識検知機能（➔P.294）をお読みください。

⚠ 警告

● **ルート減速支援機能の性能には限界があります。**

ルート減速支援機能は、すべての走行状況、交通環境、天候、路面状況で作動するわけではありません。運転者は周囲の状況に応じて自らアクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルを操作し、常に安全運転を心がけてください。

⚠ 警告

- **ルート減速支援機能は、車両のブレーキにより走行を止める機能ではありません。**

  減速が必要なときは必ず運転者が自ら適切なブレーキ操作を行ってください。

- **運転者は走行している道路の制限速度を確認し、設定車速を適切に設定し、安全運転を心がけてください。**

- **次のような状況では、ルート減速支援機能が適切に作動しない場合があります。**

  路面状況や交通環境に応じてアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。

  — ナビゲーションシステムの地図データが最新ではない、または利用できないとき

  — ナビゲーションシステムが推奨するルートを走行していないとき

  — ナビゲーションシステムが新しいルートを探索しているとき

  — ナビゲーションシステムの位置検出が正しく行えないとき

  — ナビゲーションシステムの地図に無い道路を走行しているとき

  — 工事中の道路や車線規制がある道路を走行しているとき

  — 車線の分岐・合流のある道路、または交差点付近を走行しているとき

  — 悪天候のとき（雨、霧、雪、強風など）や、道路状況の悪い場所を走行しているとき

📖 知識

- アクセルペダルを踏み込んでいる場合、ルート減速支援機能を行いません。

  プロパイロットの車速・車間制御機能の設定や、先行車の検出状態によっては、システムが作動しない場合があります。

- 高速道路や自動車専用道路など限定された道路を走行中にナビゲーションシステムの地図データを利用して、カーブ・出口などの道路形状に合わせて車速を調節します。
- すべてのカーブまたは出口の速度を常に低下させるとは限らないため、必要に応じて運転者はいつでも追加でブレーキをかけてください。
- 車両がカーブを通過すると、車両は再び設定速度まで加速します。高速道路出口で、運転者はブレーキをかける必要があります。
- ルート減速支援機能が作動しているとき、次のどちらかのアイコンが表示されます。

	カーブ
	出口

■ ルート減速支援機能のON・OFFのしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［インテリジェントクルーズ］⇒［ルート減速支援］を選択すると、ルート減速支援機能のON・OFFを切り替えることができます。
- ルート減速支援機能のON·OFF設定はEVシステムを停止しても再度設定が変更されるまで、その状態を維持します。

制限速度支援機能について

制限速度支援機能は、ナビゲーションシステム搭載車両のプロパイロットの機能です。このシステムを使用する前に、プロパイロット全体（➔P.217）と標識検知機能（➔P.294）をお読みください。

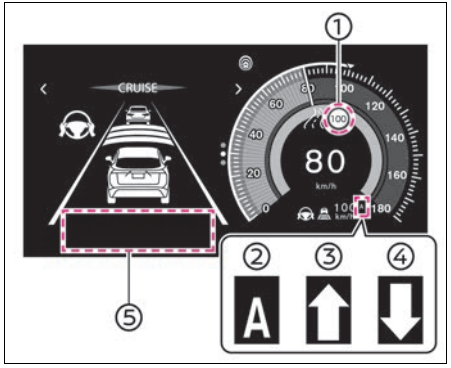
- 標識検知機能により、新しく最高速度標識を検出した場合、新しい速度を自動または、手動で設定車速に反映することができます。次の場合は作動を開始します。

  — 検出した制限速度が30km/h以上のとき

  — アドバンスドドライブアシストディスプレイで制限速度支援機能が［手動］、または［自動］に設定されているとき

- ＜RES+＞方向に押して、標識検知機能が検知している速度よりも高い速度に設定したあとは、より高い速度の速度標識を検出しても設定車速を超えない場合は反映しません。

●標識検知機能により新しい速度標識を検出すると、速度標識支援表示が点灯します。



① 検知された新しい速度標識
② オートモード選択時、検出した最高速度標識に、自動で設定車速を変更したとき表示
③ マニュアルモード選択時、検出した最高速度標識が設定速度より高い
④ マニュアルモード選択時、検出した最高速度標識が設定速度より低い
⑤ 制限速度支援ガイダンス

制限速度支援機能の作動

⚠ 警告

● **次のような場合は、標識検知機能が最高速度標識を検出しても、設定車速に反映されない場合があります。**
— 標識検知機能が適切に作動していないとき
— システムをOFFに設定しているとき
— ナビゲーションシステムの位置検出が正しく行えないとき
— ナビゲーションシステムの地図に無い道路を走行しているとき
— 高速道路、または自動車専用道路の出口に近づいたとき
— 自車の路線と並行する路線があるとき（インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなど本線から出る路線）
— 自車の路線と並行する側道の両車線に最高速度標識が表示され、それぞれが異なる制限速度を検出しているとき
— 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
— ナビゲーションシステムとフロントカメラにより、ナビゲーションの道路種別と走行している道路の種別が一致しないと判定したとき

オートモード（自動）選択時

●高速道路や自動車専用道路など限定された道路を走行しているときに、新しい速度標識を検出した場合、速度標識支援表示が点灯するとともに［設定車速を変更しました］と制限速度支援ガイダンスが表示され、新しい速度を設定車速に反映します。

マニュアルモード（手動）選択時

●新しく最高速度標識が検出されると、［RES+で設定車速を変更します］、または［SET-で設定車速を変更します］と制限速度支援ガイダンスが表示されます。

●反映させるには、＜RES+＞または＜SET-＞方向に押します。

●＜RES+＞または＜SET-＞方向に押さない場合、速度標識支援表示（［↑ ↓］）は約10秒後に消灯します。
（表示している矢印とは反対の＜RES+＞／＜SET-＞方向に押すと、速度標識支援表示（［↑ ↓］）はすぐに消灯します）

●制限速度支援機能は、速度標識が検出されていない場合は作動しません。

■ モード設定のしかた

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［インテリジェントクルーズ］⇒［制限速度支援］を選択すると、モードを設定できます。

設定	制限速度
自動	検出速度を自動的に反映
手動	検出速度の反映を選択
OFF	機能停止

●標識検知機能で検出した速度を、プロパイロットの設定車速に反映させるときのオフセット速度を選択します。
— -10km/h～+10km/hまでの範囲内で速度を設定できます。
制限速度支援機能について
（➔P.235）

●制限速度支援機能の設定はEVシステムを停止しても再度設定が変更されるまで、その状態を維持します。

車線維持機能（ハンドル支援）について

車線維持機能（ハンドル支援）は、プロパイロットの機能の一部です。このシステムを使用する前に、システムの操作方法（P.224）やディスプレイの理解（P.227）を含め、プロパイロット全体（P.217）をお読みください。

⚠ 警告

- **車線中央付近を走行するようにステアリングを制御します。側方の車両が近づいてきても反応しません**
- **手放し運転はしない。**

  プロパイロット2.0★で手を離して走行できる時を除き、必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。

●車線維持機能（ハンドル支援）は、マルチセンシングフロントカメラを使用して、左右のレーンマーカーを検出し、車線中央付近を走行するようにステアリングを制御し、運転者のハンドル操作を支援します。

●レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。車線維持機能（ハンドル支援）は、車速・車間制御機能と組み合わせた場合にのみ利用できます。

●次の条件を満たすとハンドル支援作動表示が緑色で点灯し、作動を開始します。（表示が緑色になります）
- ― 車速・車間制御機能が作動しているとき
- ― 両側のレーンマーカーを検出しているとき
- ― 車速が約50km/h以上のとき
- ― 車速が約50km/h以下では、先行車を検出しているとき
- ― 運転者がハンドルを持っているとき
- ― 車線の中央付近を走行しているとき
- ― 方向指示器が作動していないとき
- ― ワイパーが高速で作動していないとき
- ― 車線維持機能（ハンドル支援）がONのとき

●カーブまたは強い横風により、ハンドル支援中に走行車線の右側、もしくは左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、ステアリングホイール（ハンドル）の振動と警報音とともにインテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点滅します。インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（P.283）

■ 車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFのしかた

●<ハンドル支援スイッチ>を押すごとにハンドル支援のON·OFFを切り替えることができます。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［車線維持支援］⇒［ハンドル支援］を選択すると、車線維持機能（ハンドル支援）のON・OFFが切り替えられます。
車線維持機能（ハンドル支援）のON·OFF設定はEVシステムを停止しても再度設定が変更されるまで、その状態を維持します。

■ 車線維持機能（ハンドル支援）の解除

●次の場合は、音とともにハンドル支援作動灯が灰色になり、車線維持機能（ハンドル支援）が一時待機状態になります。（再び作動条件を満たすと作動を再開します）
- ― レーンマーカーを検出しなくなったとき
- ― 方向指示器を作動させたとき（プロパイロット2.0の表示が緑色のとき）（プロパイロット2.0付車）
- ― 前方から強い光を受けたとき
- ― カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき
- ― 運転者がハンドル操作をしたとき
- ― 車速が50km/h以下で、先行車を検知していないとき

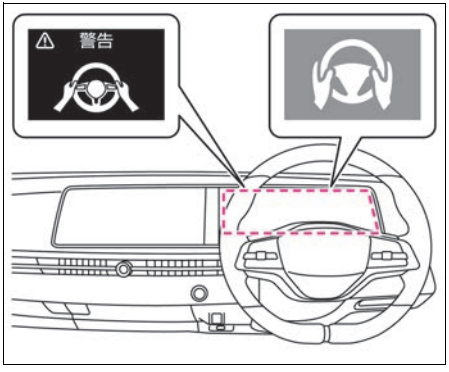
●次の場合は、音とともにハンドル支援作動表示が消灯し、車線維持機能（ハンドル支援）が解除されます。
- ― 車速・車間制御機能が解除されたとき
- ― ワイパーが高速で作動しているとき
- ― 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき

— 料金所、出口、合流、交差点、車線数が減少する地点付近になったとき（プロパイロット2.0付車で、3D高精度地図データがある道路を走行しているとき）

- ワイパーが高速で作動しているときは、高速動作を解除してください。その後、プロパイロットを再度セット、もしくは＜ハンドル支援スイッチ＞を押してください。
- 高速道路や自動車専用道路など限定された道路を走行中、車速が約50km/h以下で先行車を検出しなくなった場合、両側の白線を検出しているときはハンドル支援を継続する場合があります。

■ 手放し警告について

運転者がハンドルを持っていない、または操作していない場合、アドバンスドドライブアシストディスプレイに手放し警告が表示されます。



	概要および対処
一次警報	● ハンドルを持っていない、またはハンドルを操作していないときに表示します。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
二次警報	● 表示による警告後、運転者がハンドルを操作しないときに表示します。 — 音、表示（赤点滅）、および短時間のブレーキ制御で段階的に警告します。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
緊急停止	● 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続したときに表示します。 — 緊急警報音が鳴るとともに車両を減速、緊急停止します。 ● 緊急警報音が作動し、自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。 ● 車両を緊急停止させた後、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察・消防・医療機関）に救援要請を行います。（SOSコールのシステムを利用するにはNissanConnect サービスの契約が必要です。）

知識

- 次のような状況ではハンドルを持っていることを正しく検出できず、ハンドルを持っていても警告が表示されることがあります。
  — 運転者が手袋を着用しているとき
  — ハンドルにカバーが取り付けられているとき
  — 革の繋ぎ目やスポーク部などを握っているとき
  — ハンドルに手を軽く添えて運転をしているとき

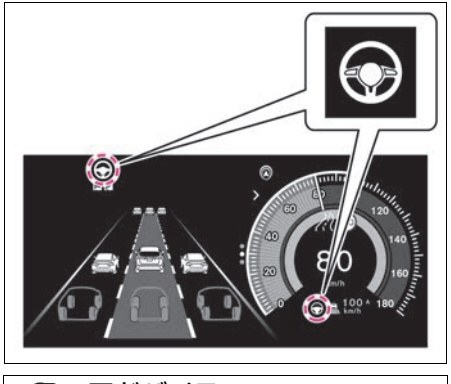
車線維持機能（ハンドル支援）（プロパイロット 2.0 付車）

3D高精度地図データのある高速道路、または自動車専用道路を走行しているとき、プロパイロット2.0の表示が青色になり、運転者が常に前方に注意し、道路・交通・自車の状況に応じ、ただちにハンドルを確実に操作できる状態にある限りにおいて、ハンドルから手を離すことが可能となります。

ただし、次の場合は青色で点灯しません。

- 標識検知機能が検出している速度を超えて走行しているとき
- GPS信号を受信していないとき
- 対向車線と分離されていない道路を走行するとき
- ワイパーが低速または高速で作動しているとき
- 運転者がハンドルを持っていない、または操作していないと判断しているとき

- 運転者が前方を向いていないとき
- アクセルペダルを踏んで加速しているとき
- 接近警報が作動しているとき
- 車線逸脱警報が作動しているとき
- カーブ減速機能が作動しているとき
- 近くに急カーブ、料金所、出口、合流、交差点、車線数が減少する地点があるとき
- トンネル内を走行しているとき
- 車線幅の狭い道路を走行しているとき
- 工事区など交通規制のある区間を検出したとき



アドバイス

- アドバンスドドライブアシストディスプレイに［一部のハンドル支援機能が作動できません］と表示された場合、ハンドル支援作動表示、プロパイロット2.0の表示は青色になりません。

プロパイロット／プロパイロット2.0警告メッセージ (P.400)

知識

- 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。

車線維持機能（ハンドル支援）の解除（プロパイロット 2.0 付車）

次の場合は、音とともにプロパイロット2.0の表示が青色から緑色になり、［ハンドルを持ってください］と表示されます。

- 走行している道路が高速道路、または自動車専用道路ではなくなったとき
- 3D高精度地図データがない区間に近づいたとき
- 標識検知機能により検出された速度を超えたとき
- 急カーブ、料金所、出口、合流、交差点、車線数が減少する地点に近づいたとき
- 料金所のない高速道路、または自動車専用道路の出口に近づいたとき
- 対面通行区間に近づいたとき
- トンネル内を走行しているとき
- GPS信号が受信できなくなったとき
- 分合流が続く区間を走行しているとき
- 車線幅の狭い道路を走行しているとき
- 工事区間など交通規制のある区間を検出したとき
- 運転者を検出できなくなったとき
- 運転者が前方を向いていない状態が継続したとき
- ワイパーが低速または高速で作動しているとき
- 接近警報が作動したとき

次の場合は、音とともにプロパイロット2.0の表示が青色から緑色になり、ハンドル操作を要求する画面（赤）が表示されます。

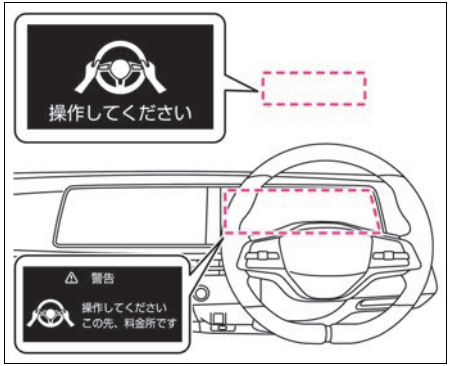
- 3D高精度地図データと実際の道路が異なっていると判断したとき
- 車線逸脱警報が作動したとき
- 左右いずれかのレーンマーカーに接近したとき
- 車線幅が通常よりも広い区間に近づいたとき

ハンドルを持ってアクセルペダルを踏むと、プロパイロット2.0の表示が青色から緑色になります。

アクセルペダルを踏んで加速するときは、ハンドルを持ってください。

料金所、合流、交差点などに近づいたとき

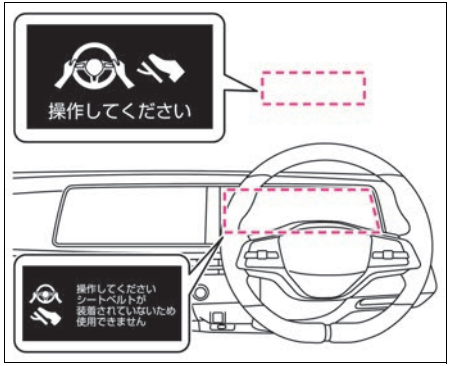
- プロパイロット2.0の表示が青色で走行しているとき、料金所、合流、交差点などに近づくとプロパイロット2.0の表示が緑色になります。
- プロパイロット2.0の表示が緑色になった後、さらに近づくと、音とともにハンドル操作を要求する画面（赤）が表示されます。
- 運転者がハンドルを操作すると、車線維持機能（ハンドル支援）は解除されます。



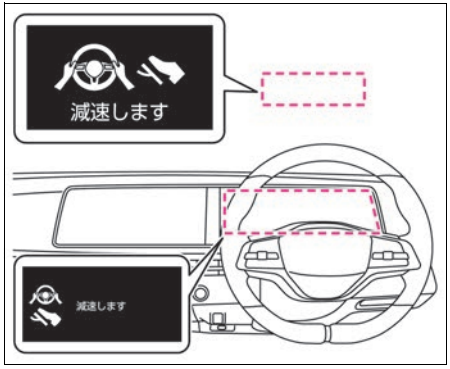
アドバイス

- 運転者のハンドル操作が検出されない場合、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに［減速します］と表示され、自車を減速、緊急停止させます。
- 車両を緊急停止させた後、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察・消防・医療機関）に救援要請を行います。
- 緊急警報音が作動し、自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

プロパイロット2.0の表示が青色の場合に、システムが解除されたとき



- プロパイロット2.0が解除されると警告音とともにハンドル操作を要求する警告画面（赤）が表示されます。
- 運転者がハンドルを操作すると、車速・車間制御機能、車線維持機能（ハンドル支援）は解除されます。



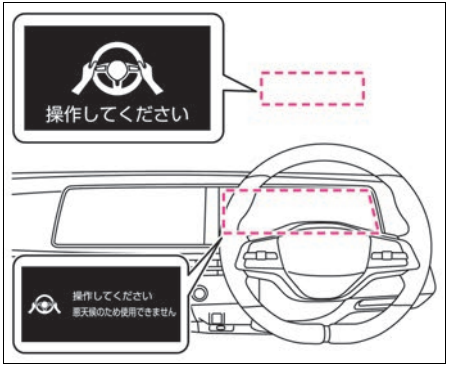
⚠ 警告

- **警告画面が表示されたときは、すみやかにハンドルを操作してください。**

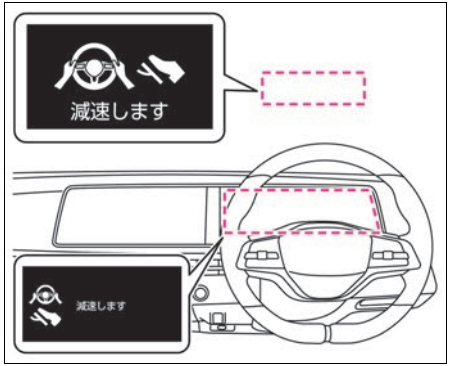
アドバイス

- 運転者のハンドル操作が検出されない場合、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに［減速します］と表示され、自車を減速、緊急停止させます。
- 車両を緊急停止させた後、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察・消防・医療機関）に救援要請を行います。
- 緊急警報音が作動し、自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

プロパイロット2.0の表示が青色の場合に、車線維持機能（ハンドル支援）が解除されたとき



- 車線維持機能（ハンドル支援）が解除されると警告音とともにハンドル操作を要求する警告画面（赤）が表示されます。
- 運転者がハンドルを操作すると、車線維持機能（ハンドル支援）は解除されます。



⚠ 警告

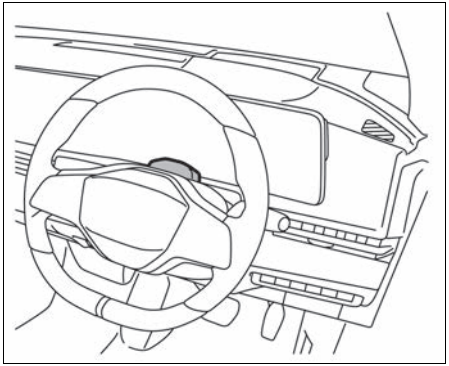
- **警告画面が表示されたときは、すみやかにハンドルを操作してください。**

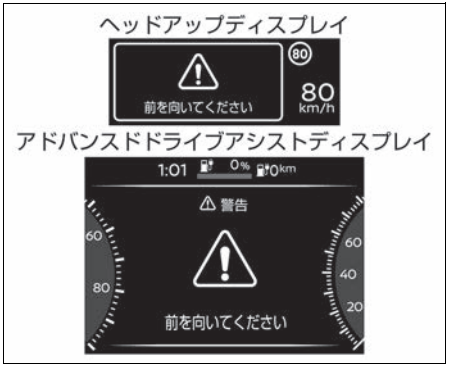
アドバイス

- 運転者のハンドル操作が検出されない場合、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに［減速します］と表示され、自車を減速、緊急停止させます。
- 車両を緊急停止させた後、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察・消防・医療機関）に救援要請を行います。
- 緊急警報音が作動し、自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

運転者が前方の状況に注意していないと判断したとき（プロパイロット2.0 付車）

- ドライバーモニターカメラで運転者の顔の向きや眼の開閉状態をモニターしています。
- プロパイロット2.0の表示が青色のとき、運転者が前方の状況に注意していないと判断した場合、前方の状況に注意するよう音、表示により警告をします。
- 前方の状況に注意していない状態が継続した場合、運転者にハンドルを操作するよう音、表示および短時間のブレーキ制御により段階的に警告します。
- 警告後、運転者のハンドル操作が検出されない場合、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに［減速します］と表示され、車両を減速、緊急停止させます。
- 車両を緊急停止させた後、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察・消防・医療機関）に救援要請を行います。
- 警告表示の内容については、プロパイロット警告メッセージ（P.400）をお読みください。





⚠ 警告

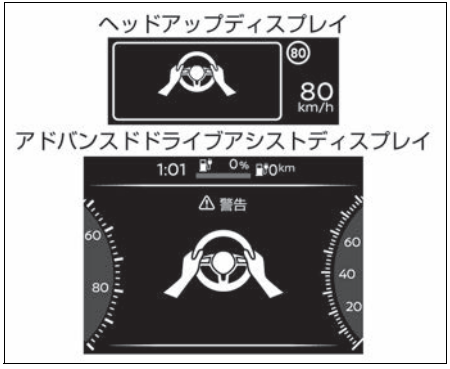
- **運転者は常に前方に注意し、運転してください。**

アドバイス

- サングラス、マスク、眼帯、帽子、マフラーなどを着用している場合など目、鼻、口や顔の輪郭が隠れている場合、ドライバーモニターカメラは運転者を検知できないことがあります。
- 緊急警報音が作動し車両が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

運転者がハンドルを持っていないと判断したとき

- 車線維持機能（ハンドル支援）が作動しているとき、運転者がハンドルを持っているまたは操作しているかをモニターしています。
- プロパイロット2.0の表示が緑色の場合に、運転者がハンドルを持っていない、または操作していないと判断すると、運転者にハンドルを操作するよう表示により警告をします。
- 運転者がハンドルを操作しない場合には音、表示および短時間のブレーキ制御により段階的に警告します。
- 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続すると、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに［減速します］と表示され、車両を減速、緊急停止させます。
- 車両を緊急停止させた後、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察・消防・医療機関）に救援要請を行います。
- 警告表示の内容については、プロパイロット警告メッセージ（➔P.400）をお読みください。



⚠ 警告

- **プロパイロット2.0の表示が緑色のときは、必ずハンドルを持って運転してください。**

知識

- 次のような状況ではハンドルを持っていることを正しく検出できず、ハンドルを持っていても警告が表示されることがあります。
  - 運転者が手袋を着用しているとき

知識

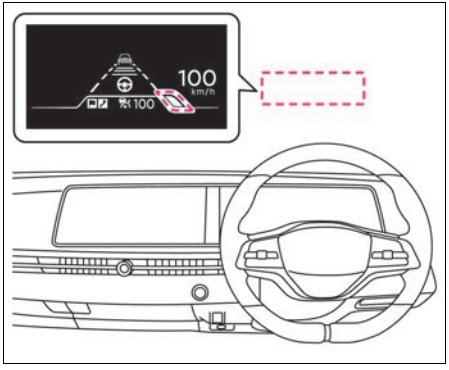
— ハンドルにカバーが取り付けられているとき

— 革の繋ぎ目やスポーク部などを握っているとき

● 緊急警報音が作動し車両が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

側方注意検知

● プロパイロット2.0の表示が青色のとき、自車の側方に車両がいる場合、表示により注意喚起します。



⚠ 警告

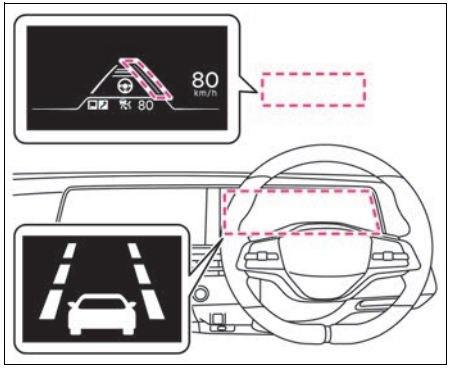
● 側方の車両が近づいてきても反応しません。

合流部、カーブを走行するとき、また大型車両が隣の車線を走行しているときは特に周辺車両に注意し、必要に応じてハンドル操作をしてください。

車線逸脱警報

● 車線維持機能（ハンドル支援）が作動しているとき、走行車線の右側もしくは左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのLDW（車線逸脱警報）／インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）表示と車線検出表示がオレンジ色に点滅し、運転者に注意を促します。

● プロパイロット2.0の表示が青色のときに、車線逸脱警報が作動した場合はさらに運転者にハンドルを操作するよう表示で警告します。



車線維持機能（ハンドル支援）に異常があるとき

● 車線維持機能（ハンドル支援）に異常があると、警告音とともにハンドル支援警告灯（オレンジ）が点灯し、車線維持機能（ハンドル支援）は自動的に停止します。

● プロパイロット2.0特有機能に異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに［一部のハンドル支援機能が作動できません（システム故障）］と表示されます。
この場合は、表示が青色にならず、ハンドルから手を離すことが可能な状態になりません。

➔ プロパイロット／プロパイロット2.0 警告メッセージ (P.400)



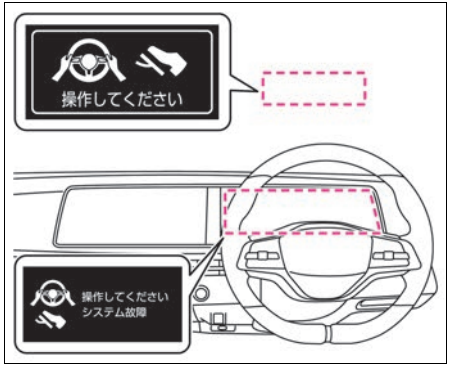
アドバイス

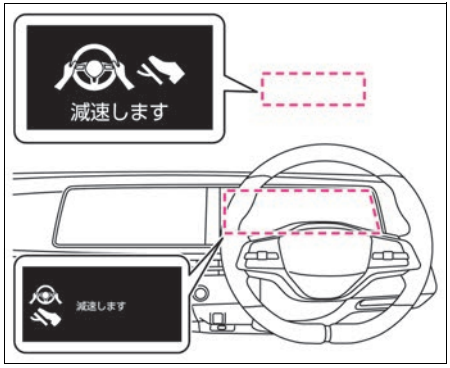
- 異常により警告灯が点灯したときや、プロパイロット2.0特有機能の異常によりメッセージが表示されたときは、安全な場所に停車し、EVシステムを一旦停止して再始動してください。

  上記の操作をしても、警告灯が点灯し続ける場合、通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

プロパイロット2.0の表示が青色の場合に、システムに異常を検出したとき

- プロパイロット2.0に異常があると緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに［操作してください］［減速します］と表示され、自車を減速、緊急停止させます。
- 車両を緊急停止させた後、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察・消防・医療機関）に救援要請を行います。





知識

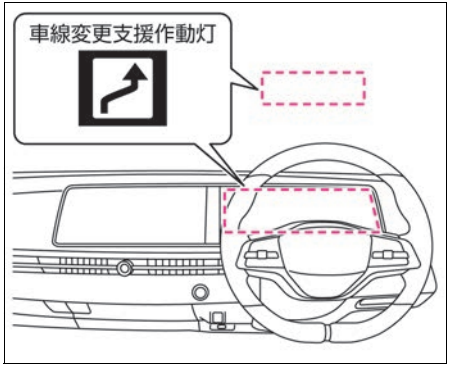
- 緊急警報音が作動し自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

車線変更支援機能について（プロパイロット 2.0 付車）

車線変更支援作動灯［ ］が青色で点灯しているとき、運転者がハンドルを持ち目的の車線の方向へ方向指示器を作動させると、車線変更の支援を開始します。

次の条件を満たすとき、車線変更支援作動灯［ ］が青色で点灯します。

- プロパイロット2.0の表示が青色のとき
- 車速が約60km/h以上で走行しているとき
- 2車線以上の道路を走行しているとき
- 左右いずれかあるいは両方のレーンマーカーが白の破線であるとき
- 直線または緩やかなカーブを走行しているとき
- 制限速度が70km/h以上の道路を走行しているとき



⚠ 警告

- **運転者は道路、交通、自車の状況に応じて、安全に車線変更を行う責任があります。**

  車線変更をするときは、必ず周囲の状況を確認し、安全に目的の車線に移動してください。
- **車線変更支援機能には、衝突を回避するためにステアリング制御する機能はありません。**

  車線変更をするときは、必ずハンドルを持ち、安全に目的の車線に移動してください。

📖 知識

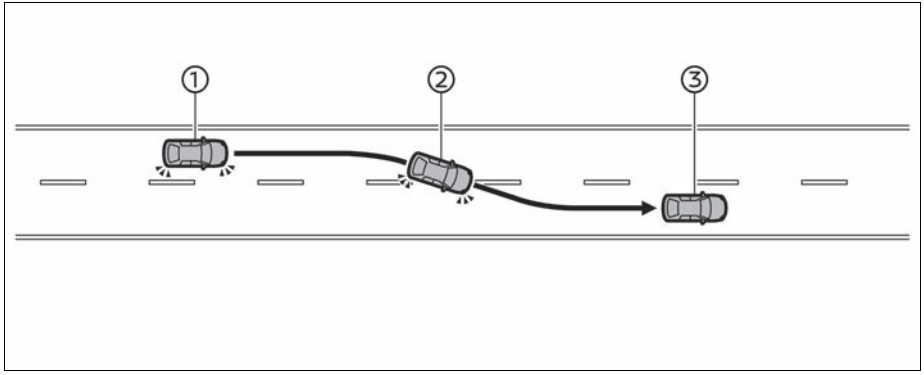
- 新しい分岐や出口などができ、3D高精度地図データがまだ整備されていない区間を走行する場合は、［車線変更支援 中止（高精度地図メンテナンス区間）］と表示され、車線変更支援機能は作動しません。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の設定がOFFの場合、車線変更支援作動灯［ ］が青色で点灯していても、方向指示器の操作による車線変更支援機能は作動しません。

  設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［車線変更支援］⇒［方向指示器スイッチ連動］
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで車線変更支援のいずれかの設定がONのとき、車線変更支援作動灯が青色で点灯します。

  設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［車線変更支援］⇒［ルート走行支援］/［方向指示器スイッチ連動］/［追い越し支援］

車線変更支援機能の作動（プロパイロット 2.0 付車）

① 目視により目的の車線の安全を確認し、ハンドルを持って方向指示器を操作し、目的の車線の方向指示器を作動させます。
② 車線変更支援作動灯が緑色で点滅し、その後ステアリング制御により目的の車線への移動を支援します。
③ 目的の車線へ移動が完了すると、方向指示表示灯は自動で消灯し、再び車線維持機能（ハンドル支援）が作動します。



知識

- 車線変更の支援を開始すると、ヘッドアップディスプレイの車線変更支援作動灯が緑色で点滅します。



- 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。

車線変更支援機能の中止（プロパイロット 2.0 付車）

次のいずれかの操作で、車線変更の支援を中止します。
（車線変更支援作動灯が消灯します）

- 方向指示器を目的の方向とは反対方向の位置に操作したとき
- ハンドル操作をしたとき

次のような状況では、音とともに車線変更支援作動灯が消灯し、車線変更の支援を中止します。

- 目的の車線に車両を検出したとき
- レーンマーカーが検出できなくなったとき
- 車速が約60km/hを下回ったとき
- 運転者がハンドルを持っていないことを検出したとき
- 車速・車間制御機能が解除されたとき（P.233）
- 両車線のレーンマーカーが白の破線でないとき
- 目的の車線の方向のレーンマーカー付近に遮蔽物を発見したとき

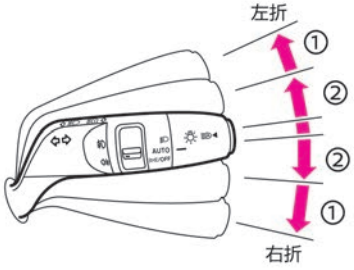
知識

- 車線変更の支援を開始した車線内で中止したときは、開始した車線の中央付近に戻る方向にステアリングを制御します。

知識

- 方向指示器の①の位置の操作で車線変更の支援を開始したときは、中止しても方向指示表示灯は消灯しません。

  ②の位置の操作で開始し、方向指示器が3回以上点灯した後で作動が中止したときは、作動の中止とともに方向指示表示灯は消灯します。



運転者がハンドルを持っていないと判断したとき（プロパイロット 2.0 付車）

- 運転者がハンドルを持っている、または操作しているかモニターしています。
- 車線変更の支援をしているとき、運転者がハンドルを持っていない、または操作していないと判断すると、運転者にハンドルを操作するよう表示により警告をします。
- 表示による警告後、運転者がハンドルを操作しない場合には音、表示および短時間のブレーキ制御により段階的に警告します。
- 運転者のハンドル操作がない状態が継続すると、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに［減速します］と表示され、自車を減速、緊急停止させます。

ヘッドアップディスプレイ



アドバンスドドライブアシストディスプレイ



警告

- **車線変更を行うときは、必ずハンドルを持って運転してください。**

アドバイス

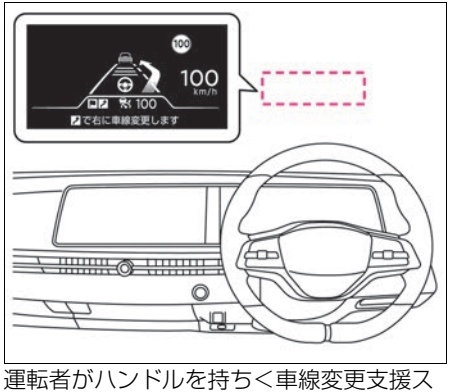
- 次のような状況ではハンドルを持っていることを正しく検出できず、ハンドルを持っていても警告が表示されることがあります。
  - ― 運転者が手袋を着用しているとき
  - ― ハンドルにカバーが取り付けられているとき
  - ― 革の繋ぎ目やスポーク部などを握っているとき

追い越し支援機能について（プロパイロット 2.0 付車）

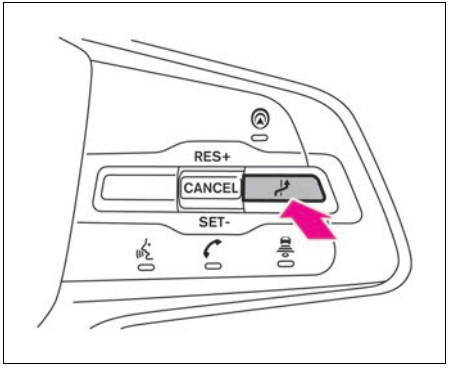
設定車速よりも遅い車両を前方に検出すると、表示により運転者に追い越しを提案します。運転者が＜車線変更支援スイッチ＞を押した場合、ステアリングを制御し追い越し操作を支援します。

次の条件を満たすと、運転者に追い越しを提案します。

- 車線変更支援作動灯［ ］が青色のとき
- 設定車速よりも遅い車両を前方に検出したとき
- 右側の車線に車両がいないとき



運転者がハンドルを持ち＜車線変更支援スイッチ＞ を押すと、ステアリングを制御し右側の車線への移動を支援します。



⚠ 警告

- **運転者は道路、交通、自車の状況に応じて、安全に車線変更を行う責任があります。**

  車線変更をするときは、必ず周囲の状況を確認し、安全に目的の車線に移動してください。

- **追い越し支援機能には、衝突を回避するためにステアリング制御する機能はありません。**

  車線変更をするときは必ずハンドルを持ち、安全に目的の車線に移動してください。

知識

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の設定がOFFの場合、追い越し支援機能は車線変更の提案をしません。

  設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［車線変更支援］⇒［追い越し支援］

次の条件を満たすと、運転者に左側の車線に移動を提案します。

- 車線変更支援作動灯［ ］が青色のとき
- 左側の車線に車両がいないとき

運転者がハンドルを持ち＜車線変更支援スイッチ＞を押すと、追い越し支援機能により左側への車線変更支援を開始します。

知識

- 追い越し支援機能は周辺に車両がいない場合、左側の車線を走行するよう提案します。

追い越し支援機能の作動（プロパイロット 2.0 付車）

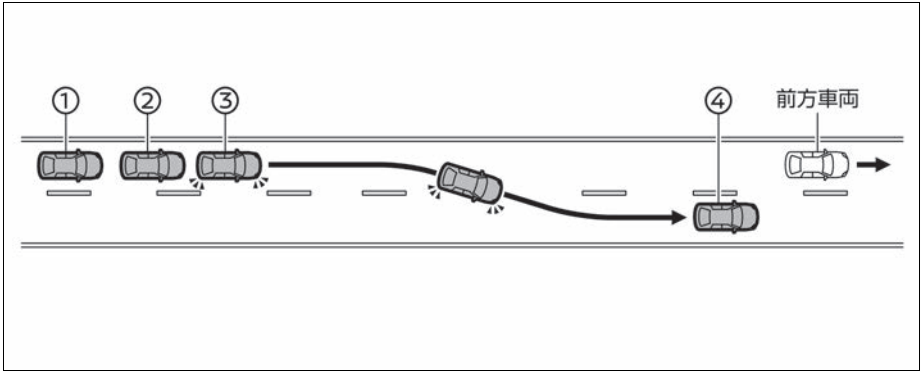
前方に遅い車両を検出したとき

① 前方に遅い車両を検出すると、ヘッドアップディスプレイに車線変更支援作動灯が白色で点灯し、［ で右に車線変更します］と表示されます。

② 目視により右側の車線の安全を確認し、ハンドルを持って＜車線変更支援スイッチ＞を押します。

③ 車線変更支援作動灯が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により右側の車線への移動を支援します。

④ 右側の車線へ移動が完了すると方向指示表示灯は消灯し、再び車線維持機能（ハンドル支援）が作動します。



📖 知識

- 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。

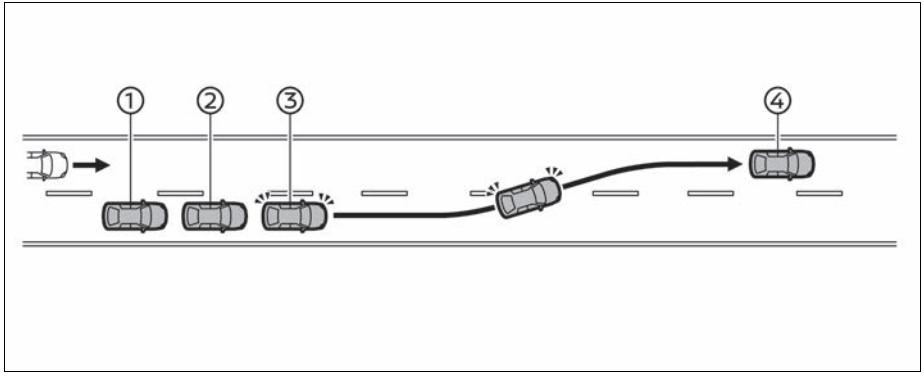
追い越し支援機能により、遅い車両を追い抜いたとき

① 左側に車両がいないことを検出すると、ヘッドアップディスプレイに車線変更支援作動灯が白色で点灯し、［ で左に車線変更します］と表示されます。

② 目視により左側の車線の安全を確認し、ハンドルを持って＜車線変更支援スイッチ＞を押します。

③ 車線変更支援作動灯が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により左側の車線への移動を支援します。

④ 左側の車線へ移動が完了すると方向指示表示灯は消灯し、再び車線維持機能（ハンドル支援）が作動します。

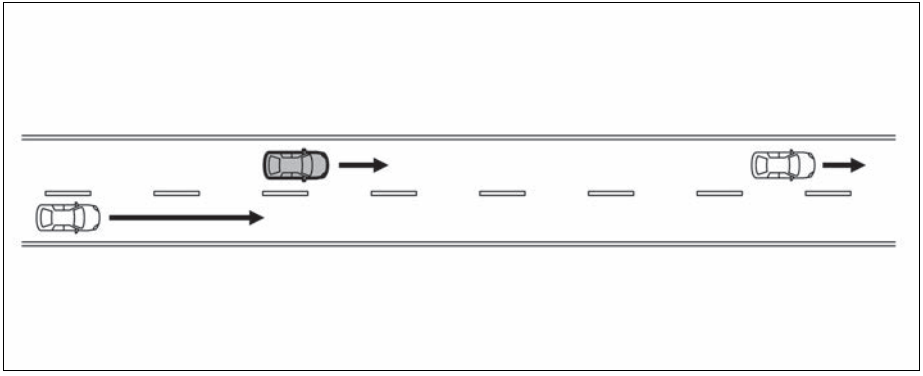


知識

- 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。

目的の車線に車両を検出している場合に、＜車線変更支援スイッチ＞を押したとき

- 目的の車線に車両を検出している場合、＜車線変更支援スイッチ＞を押すと、車線変更支援作動灯が白色でアニメーション表示され、最大約10秒間、目的の車線の車線変更スペースの検出を行います。
- 目的の車線に車線変更のスペースを検出すると、車線変更支援作動灯が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により目的の車線への移動を支援します。



知識

- 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。
- 目的の車線に車両を検出しているときに＜車線変更支援スイッチ＞を押すと、車線変更支援作動表示が白色でアニメーション表示されます。



- ＜車線変更支援スイッチ＞を押した後、約10秒以内に車線変更スペースが検出できなかった場合、車線変更の支援を中止します。

追い越し支援機能の中止（プロパイロット 2.0 付車）

次のいずれかの操作で、追い越し支援機能による車線変更の支援を中止します。

- ＜車線変更支援スイッチ＞を押したとき（長押し）
- 方向指示器を目的の方向とは反対方向の位置に操作したとき
- ハンドル操作をしたとき

追い越し支援機能が中止されると、車線変更支援作動灯が消灯します。

次のような状況では、音とともに車線変更支援作動灯が消灯し、追い越し支援機能による車線変更の支援を中止します。

- ＜車線変更支援スイッチ＞を押した後、約10秒以内に車線変更できるスペースを検出できなかったとき
- 方向指示器が作動した後、目的の車線に車両を検出したとき
- レーンマーカーが検出できなくなったとき
- 車速が約60km/hを下回ったとき
- 運転者がハンドルを持っていないことを検出したとき
- 車速・車間制御機能が解除されたとき（P.233）
- 追い越しをする対象の車が加速あるいは車線変更したとき

●ナビゲーションのルートに従って走行するために必要な車線変更地点に到達したとき

●方向指示器が作動した後、目的の車線の方向のレーンマーカー付近に遮蔽物を発見したとき

知識

- 車線変更の支援を開始した車線内で中止したときは、開始した車線の中央付近に戻る方向にステアリングを制御します。
- 追い越し支援機能による車線変更の支援が中止されたとき、方向指示表示灯は自動で消灯します。

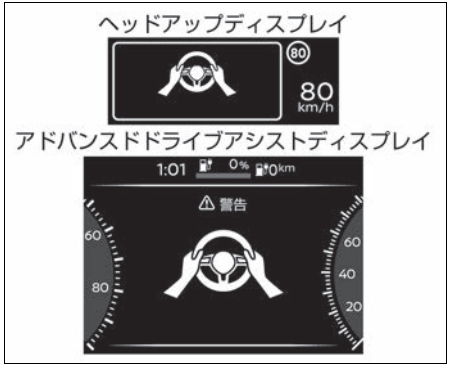
運転者がハンドルを持っていないと判断したとき

●運転者がハンドルを持っている、または操作しているかモニターしています。

●車線変更の支援をしているとき、運転者がハンドルを持っていない、または操作していないと判断すると、運転者にハンドルを操作するよう表示により警告をします。

●表示による警告後、運転者がハンドルを操作しない場合には音、表示および短時間のブレーキ制御により段階的に警告します。

●運転者のハンドル操作がない状態が継続すると、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに［減速します］と表示され、自車を減速、緊急停止させます。



警告

- **車線変更を行うときは、必ずハンドルを持って運転してください。**

アドバイス

- 次のような状況ではハンドルを持っていることを正しく検出できず、ハンドルを持っていても警告が表示されることがあります。
  - ― 運転者が手袋を着用しているとき
  - ― ハンドルにカバーが取り付けられているとき
  - ― 革の繋ぎ目やスポーク部などを握っているとき

ルート走行支援機能について（プロパイロット 2.0 付車）

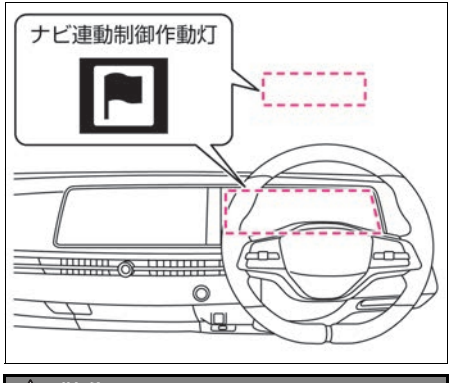
運転者がナビゲーションシステムで目的地を設定している場合、ナビゲーションのルートに従って走行するために必要な車線変更地点に到達すると、表示により運転者に車線変更を提案します。

運転者が＜車線変更支援スイッチ＞を押した場合、ステアリングを制御し車線変更の操作を支援します。

●ナビゲーションシステムで目的地を設定し、自動車専用道路本線をプロパイロット2.0で走行すると、ナビ連動制御作動灯［ ］が点灯します。

●ルート走行支援ができないときは灰色で表示します。

●ナビ連動制御作動灯［ ］が点灯しているときは、アドバンスドドライブアシストディスプレイの路面に帯が表示されます。



警告

- **運転者は道路、交通、自車の状況に応じて、安全に車線変更を行う責任があります。**

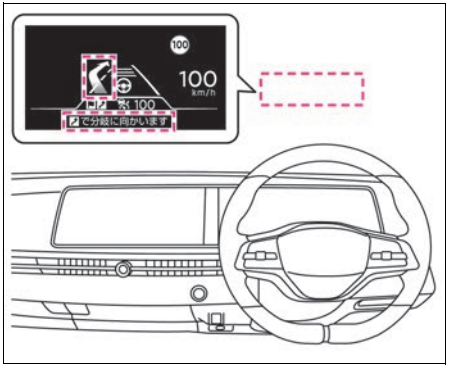
⚠ 警告

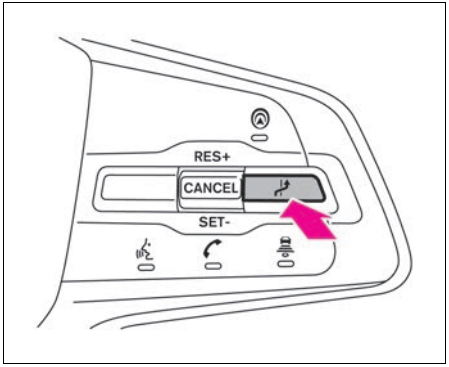
車線変更をするときは、必ず周囲の状況を確認し、安全に目的の車線に移動してください。

- **ルート走行支援機能には、衝突を回避するためにステアリング制御する機能はありません。**

  車線変更をするときは必ずハンドルを持ち、安全に目的の車線に移動してください。

- 車線変更支援作動灯［ ］が青色であるとき、出口・分岐路または、車線数が減少する地点に近づくと、表示により運転者に車線変更を提案します。
- 運転者がハンドルを持ち、＜車線変更支援スイッチ＞を押すと、ルート走行支援機能による車線変更支援を開始します。





知識

- ナビ連動制御作動灯［ ］が青色で点灯している場合でも、車線変更支援作動灯［ ］が青色で点灯していないときは、ルート走行支援機能による車線変更の提案をしません。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の設定がOFFの場合、ルート走行支援機能は車線変更の提案をしません。

  設定［ ］⇒［運転支援］⇒［車線変更支援］⇒［ルート走行支援］

ルート走行支援機能の作動（プロパイロット 2.0 付車）

第1走行車線を走行し、左側の出口・分岐路に進むとき

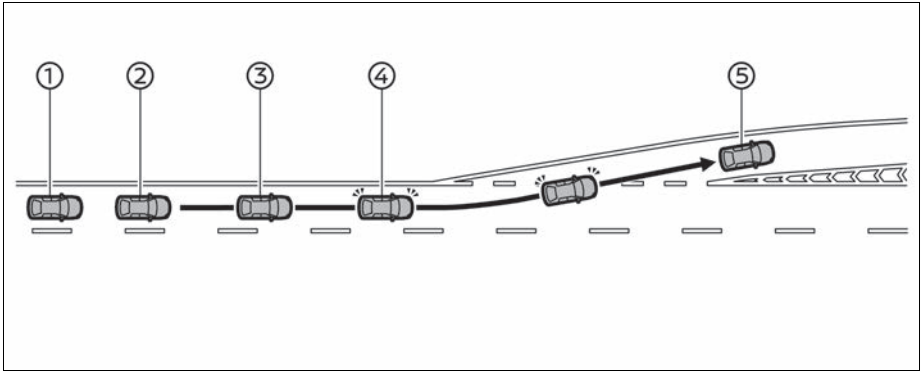
① ナビゲーションのルート上にある出口・分岐路に近づくと、音とともにヘッドアップディスプレイに車線変更支援作動灯が白色で点灯し、［まもなく、分岐を左方向です 安全を確認してください で分岐路に進みます］と表示されます。

② 目視により左側の車線の安全を確認し、ハンドルを持って＜車線変更支援スイッチ＞を押します。

③ 車線変更支援作動灯が白色のアニメーション表示になります。

④ 出口・分岐路手前で、車線変更支援作動灯が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により出口・分岐路への移動を支援します。

⑤ 出口・分岐路への移動が完了すると方向指示表示灯は自動で消灯し、再び車線維持機能（ハンドル支援）が作動します。



⚠ 警告

- **出口・分岐路に停止車両がいる場合など、ルート走行支援機能による出口・分岐路への移動を支援できないことがあります。**

運転者は常に周囲の状況を確認し、状況に応じて自らハンドルを操作し、出口・分岐路に進んでください。

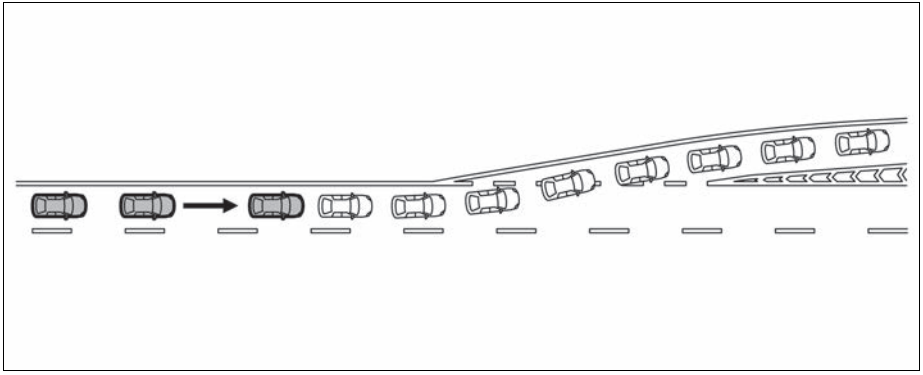
知識

- 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。
- 出口・分岐路に進まず通過する場合は、＜車線変更支援スイッチ＞を押さないでください。

  出口・分岐路手前で車線変更支援作動灯が消灯し、ルート走行支援機能が解除されます。ナビゲーションにより新しいルートが設定され、再び作動条件が成立するとルート走行支援機能の作動を再開します。

第1走行車線を走行し、 出口 ・ 分岐路に進むとき （出口 ・ 分岐路が渋滞している場合）

●＜車線変更支援スイッチ＞を押して、ルート走行支援機能の作動が開始した後、車速が約60km/hを下回ると、音とともに車線変更支援作動灯が消灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに［車線変更支援を中止しました 車速が低すぎます］と表示され、出口・分岐路への移動の支援を中止します。



知識

- 出口・分岐路への移動の支援が中止された後、再び条件が成立すると、運転者にルートに従って走行するために車線変更を提案します。

第2走行車線を走行し、左側の出口・分岐路に進むとき

① ナビゲーションのルート上にある出口・分岐路に近づくと、音とともにヘッドアップディスプレイに車線変更支援作動灯が白色で点灯し、［この先、分岐を左方向です 安全を確認してください で分岐に向かいます］と表示されます。

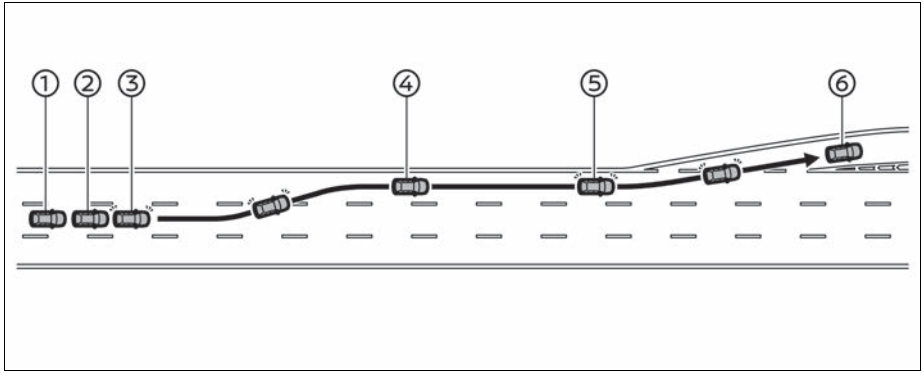
② 目視により左側の車線の安全を確認し、ハンドルを持って＜車線変更支援スイッチ＞を押します。

③ 車線変更支援作動灯が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により第1走行車線への移動を支援します。

④ 第1走行車線への移動が完了すると、自動で方向指示表示灯は消灯し、車線変更支援作動灯が白色のアニメーション表示になります。

⑤ 出口・分岐路手前で車線変更支援作動灯が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により出口・分岐路への移動を支援します。

⑥ 出口・分岐路への移動が完了すると方向指示表示灯は自動で消灯し、再び車線維持機能（ハンドル支援）が作動します。



⚠ 警告

- **出口・分岐路に停止車両がいる場合など、ルート走行支援機能による出口・分岐路への移動を支援できないことがあります。**

  運転者は常に周囲の状況を確認し、状況に応じて自らハンドルを操作し、出口・分岐路に進んでください。

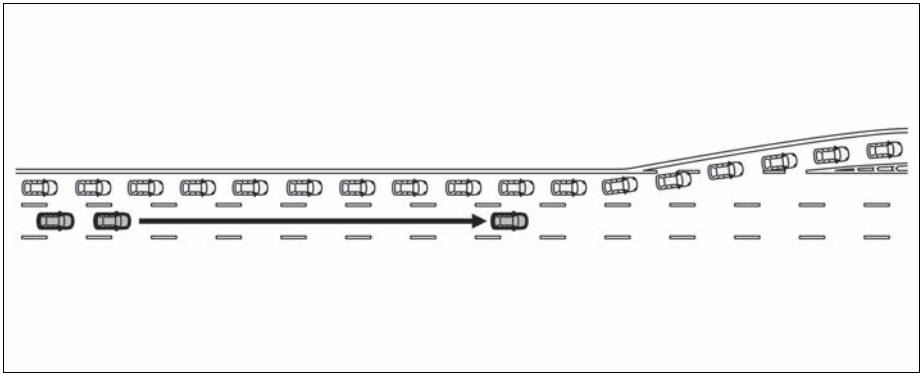
知識

- 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。
- ルート走行支援機能により第1走行車線に移動し、出口・分岐路までの距離がある場合、条件が成立するとプロパイロット2.0の表示が青色になることがあります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で連続した車線変更操作の支援をせず、1車線毎の車線変更操作の支援にすることができます。

  設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［車線変更支援］⇒［ルート走行支援モード］

第2走行車線を走行し、出口・分岐路に進むとき（第1走行車線が渋滞している場合）

●出口・分岐路の方向の車線変更に必要なスペースを検出できずに出口・分岐路に近づいてしまった場合、音とともに車線変更支援作動灯が消灯し、［車線変更支援できません 分岐まで近すぎます］と表示され、出口・分岐路への移動の支援を中止します。運転者は周囲の交通状況に応じて進路を決め、自ら方向指示器とハンドルを操作してください。



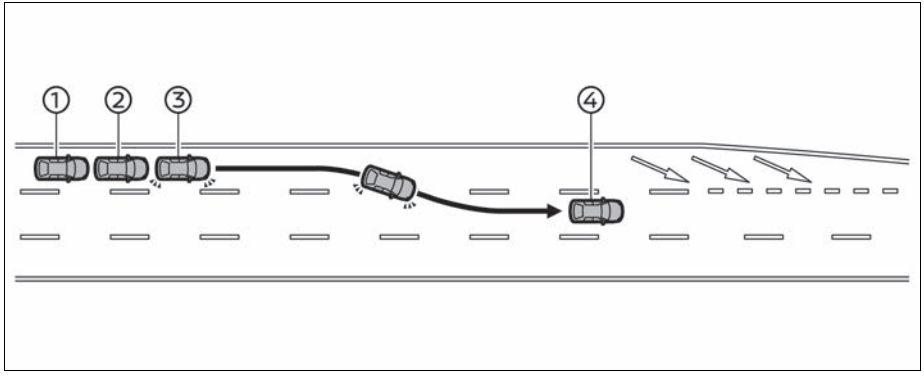
走行している車線がなくなるとき

① ナビゲーションのルート上を走行し、走行している車線がなくなるとき、音とともにヘッドアップディスプレイに車線変更支援作動灯が白色で点灯し、［この先、車線減少 安全を確認してください で右に車線変更します］と表示されます。

② 目視により右側の車線の安全を確認し、ハンドルを持って＜車線変更支援スイッチ＞を押します。

③ 車線変更支援作動灯が緑色で点滅するとともに方向指示器が作動し、その後ステアリング制御により右側の車線への移動を支援します。

④ 右側の車線への移動が完了すると方向指示表示灯は自動で消灯し、再び車線維持機能（ハンドル支援）が作動します。



知識

- 運転者のハンドル操作はいつでも優先されます。

ルート走行支援機能の中止（プロパイロット 2.0 付車）

次のいずれかの操作で、ルート走行支援機能による車線変更の支援を中止します。

- ＜車線変更支援スイッチ＞を押したとき（長押し）
- 方向指示器を目的の方向とは反対方向の位置に操作したとき
- ハンドル操作をしたとき

ルート走行支援機能が中止されると、車線変更支援作動灯が消灯します。

次のような状況では、音とともに車線変更支援灯が消灯し、ルート走行支援機能の作動を中止します。

- ＜車線変更支援スイッチ＞を押した後、車線変更できるスペースを検出できずに出口・分岐路、または車線数が減少する地点に近づいてしまったとき
- 方向指示器が作動した後、目的の車線に車両を検出したとき
- 車速が約60km/hを下回ったとき
- レーンマーカーが検出できなくなったとき
- 運転者がハンドルを持っていないことを検出したとき
- 車速・車間制御機能が解除されたとき（P.233）
- ナビゲーションが新しいルートを提示し、それによりルートに従って車線変更する必要がなくなったとき

知識

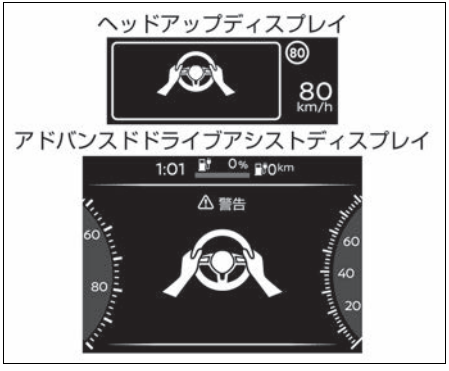
- 車線変更の支援を開始した車線内で中止したときは、開始した車線の中央付近に戻る方向にステアリングを制御します。
- ルート走行支援機能による車線変更の支援が中止されたとき、方向指示表示灯は自動で消灯します。

運転者がハンドルを持っていないと判断したとき（プロパイロット 2.0 付車）

- 運転者がハンドルを持っている、または操作しているかモニターしています。
- 車線変更の支援をしているとき、運転者がハンドルを持っていない、または操作していないと判断すると、運転者にハン

ドルを操作するよう表示により警告をします。

- 表示による警告後、運転者がハンドルを操作しない場合には音、表示および短時間のブレーキ制御により段階的に警告します。
- 運転者のハンドル操作がない状態が継続すると、緊急警報音が鳴るとともにヘッドアップディスプレイ、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイに［減速します］と表示され、自車を減速、緊急停止させます。



⚠ 警告

- **車線変更を行うときは、必ずハンドルを持って運転してください。**

アドバイス

- 次のような状況ではハンドルを持っていることを正しく検出できず、ハンドルを持っていても警告が表示されることがあります。
  - ― 運転者が手袋を着用しているとき
  - ― ハンドルにカバーが取り付けられているとき
  - ― 革の繋ぎ目やスポーク部などを握っているとき

車線変更支援機能に異常があるとき（プロパイロット 2.0 付車）

- 車線変更支援機能に異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに［一部のハンドル支援機能が作動できません（システム故障）］と表示されます。

➔プロパイロット／プロパイロット2.0 警告メッセージ (P.400)

アドバイス

- 車線維持機能（ハンドル支援）が作動していないときは、車線維持機能（ハンドル支援）の異常によるメッセージは表示されません。
- 異常によりメッセージが表示されたときは、安全な場所に停車し、EVシステムを一旦停止して再始動した後でプロパイロット2.0の作動を開始してください。

  上記の操作をしても、メッセージが表示されるときは、通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

3D 高精度地図データについて（プロパイロット 2.0 付車）

プロパイロット2.0は3D高精度地図データを使用しており、利用するためには別途ご契約が必要です。契約内容や契約のしかた、契約の解除のしかた、3D高精度地図データの整備状況については日産販売会社にお問い合わせください。

ご契約がされている場合、EVシステムをONにすると3D高精度地図データの新しいデータがあれば自動で更新が行われます。ご契約をしていない、または解除した場合、3D高精度地図データを利用している機能が制限され次の状態になります。

- 車線維持機能（ハンドル支援）が作動しているとき、プロパイロット2.0の表示が青色にならず、ハンドルから手を離すことが可能な状態になりません。
- 車線変更支援機能が作動しません。
- 追い越し支援機能が作動しません。
- ルート走行支援機能が作動しません。

知識

- 3D高精度地図データを利用するための契約がされていない場合にプロパイロット2.0のシステムを使用すると、［一部のハンドル支援機能が制限されています（高精度地図ライセンス切れ）］と表示されます。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

車両データの記録・蓄積について（プロパイロット 2.0 付車）

プロパイロット2.0は下記の車両データを車両内のコントローラー、およびデータ記録用のサーバーに記録・蓄積する機能を備えています。

- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 運転者の顔の向き、眼の開閉状態などの検知状況
- プロパイロット2.0の作動状況
- 先行車や周囲車両、レーンマーカー、道路構造の情報
- 車速、GPSなどの車両情報
- カメラの画像情報（SRSエアバッグ、インテリジェント エマージェンシーブレーキ作動時）

知識

- 会話などの音声やドライバーモニターカメラの画像情報は記録しません。

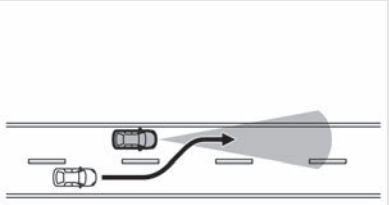
データの扱いについて

- 日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、記録・蓄積されたデータを日産自動車の車両の向上を目的として、取得・利用することがあります。
  なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。
  - 車両の使用者の同意がある場合
  - 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
  - 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

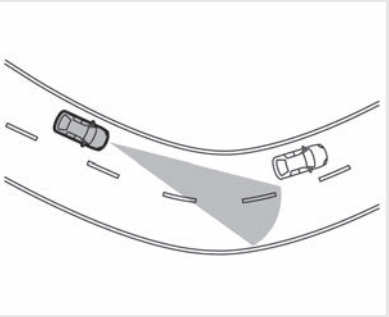
プロパイロット 2.0 に関する注意事項

⚠ 警告

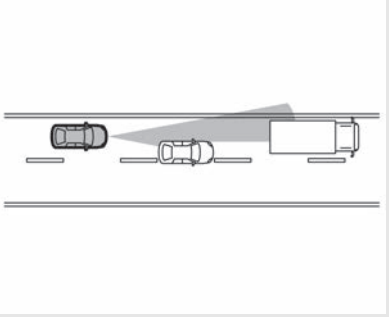
- **プロパイロット2.0は次のような障害物に反応しません。**
  - 歩行者、動物など
  - 落下物
  - 工事などで設置されるパイロンなど
- **次のような状況では先行車の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に前方の状況に注意し、必要に応じてブレーキやハンドルを操作してください。**



- 前方に急な割り込みがあったとき

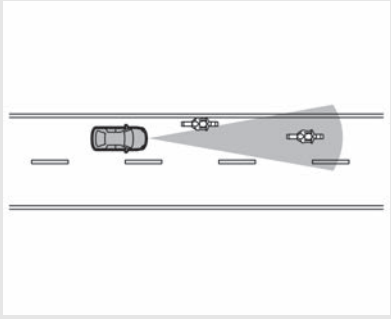


- 見通しの悪いカーブを走行しているとき



- 前方の車両が車線変更した後で、さらに前方に停止中の車両や自車速よりも極端に遅い車両がいたとき

⚠ 警告

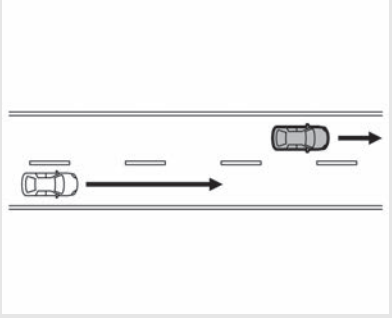


- 前方に車線の端を走行する二輪車がいるとき
- フロントレーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
- 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
- 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
- 後席シートやラゲッジルームに極端に重い荷物を積んだとき

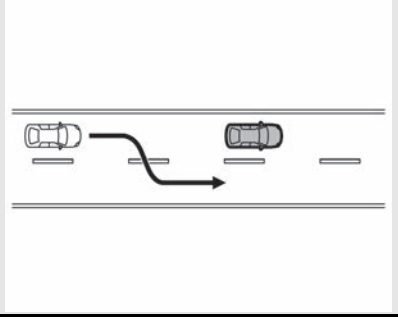
- **カーブを走行しているときや車線変更を行っているときなど、道路形状や自車の状況によっては、隣の車線の車両や周辺のものを検出して減速したり、警報が作動したりする場合があります。**
- **高速道路などで、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなどに進入する（本線から出る）とき本線上で車速・車間制御機能により設定車速よりも遅い車速で走行する先行車に追従走行している場合には、自車または先行車の車線変更などで、自車線上に先行車を検出しなくなることにより設定車速まで自動的に加速するため、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **次のような状況では正しくレーンマーカーの検出ができず車線維持機能（ハンドル支援）、車線変更支援機能が使用できないことがあります。**
  - レーンマーカーが消えかかっている、汚れているなど不明瞭なとき
  - レーンマーカーが路面の色と似ており見えにくいとき
  - レーンマーカーが多重に描かれているとき
  - 消されたレーンマーカーが、まだ薄く残っているとき
  - 工事などによる車線規制や仮設のレーンマーカーがあるとき
  - 料金所や交差点手前などでレーンマーカーが大きく変化しているとき
  - 車線幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
  - 停止禁止部分、または立ち入り禁止部分がある道を走行しているとき
  - 出口路、分岐路など車線数が増えるとき
  - 濡れているまたは水たまりのある路面を走行しているとき
  - 道路構造物、街路樹、建物などの影が差している路面を走行しているとき
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 先行車や他車線の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などが付着しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
  - トンネルの出入り口や日陰など急に明るさの変化が起こったとき
  - 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
  - 後席シートやラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき

⚠ 警告

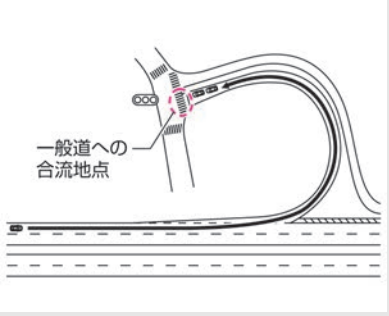
- **次のような状況では隣の車線の車両の検出が遅れる、または検出ができないことがあります。運転者は常に周囲の状況に注意し、必要に応じてハンドルを操作してください。**
  - ― 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両が走行しているとき



  - ― 後方から速い速度で接近してくる車両が走行しているとき



  - ― 後方から近づいてくる車両が車線変更などにより隣の車線に移動したとき
  - ― サイドレーダー部に雪、氷、泥などの付着物があるとき
  - ― 自車や周囲の車両が路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
  - ― 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
  - ― 後席シートやラゲッジルームに極端に重い荷物を積んだとき
- **次のような場合はルート走行支援機能は適切に作動できません。**
  - ― 出口・分岐路の距離が極端に短いとき



  - ― 出口・分岐路付近で複数回、車線変更が必要な道路を走行するとき
  - ― ナビゲーションの地図データが最新ではない、または利用できないとき

⚠ 注意

- **次のような場合、ドライバーモニターシステムが運転者を適切に検出できないことがあります。**
  - ― 車室内へ太陽光が入り込み、ドライバーモニターカメラまたは、運転者が照らされているとき
  - ― 太陽光の入り込みと影になることが繰り返すとき
  - ― サングラス、マスク、眼帯、帽子、マフラーなどを着用している場合など目、鼻、口や顔の輪郭が隠れているとき
  - ― 顔とシステムとの間に遮る物があるとき
  - ― ドライバーモニターカメラに触れ、汚れや指紋が付着したとき
  - ― 助手席や後席シートの方が運転席付近に身を乗り出したときなど、運転席付近に2つ以上の顔が存在するとき
  - ― 前方からの太陽光の眩しさなどで目を細めたり、運転姿勢をくずしていたりしているとき
- **フロントレーダー、サイドレーダーの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。**

⚠ 注意

状況によってはレーダーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。

このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に周囲に注意して走行してください。またフロントレーダー、サイドレーダーおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

➔レーダーセンサーの取り扱い (P.442)

- **フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺の塗装修理はできません。誤った塗装修理を行うと、本来の機能を発揮できなくなる可能性があります。**

  適切な修理をおこなうため、日産販売会社にご相談ください。

  ➔レーダーセンサーの取り扱い (P.442)

- **フロントカメラの汚れを自動的に判定する機能を備えておりますが万全ではありません。**

  状況によってはフロントカメラが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。

  このような状況では適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。またフロントカメラおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

  ➔マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.442)

- **状況によっては外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

プロパイロット警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、プロパイロット警告メッセージ（➔P.400）「説明・対処方法」に従ってください。メーター内の表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

定速制御機能について

⚠ 警告

- **定速制御中は車間制御を行わないため、ブレーキ操作も警報も行いません。**

  先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

＜プロパイロットスイッチ＞をONにすると点灯し、システムの作動状態を色で表示します。セットすると設定した速度を表示します。

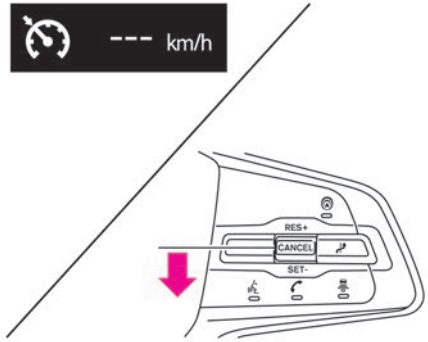
1. ＜プロパイロットスイッチ＞を1.5秒以上押し、システムがONになると表示します。

プロパイロット

- 白色：システムがONになると表示
- 緑色：車速を設定すると表示
- オレンジ色（警告灯）：システム故障

プロパイロット2.0

- 灰色：システムがONになると表示
- 白色：車速を設定すると表示
- オレンジ色（警告灯）：システム故障



2. ＜SET-＞方向に押したときの車速で定速制御機能をセットします。

- 定速走行中、一時的に加速したいときはアクセルペダルを踏みます。加速後にアクセルペダルを離すと、徐々に設定車速に戻ります。

■ 設定車速の変更のしかた

速度を上げる

●定速走行中に＜RES+＞方向に押し続けると加速します。設定したい速度で手を離します。

速度を下げる

●定速走行中に＜SET-＞方向に押し続けると減速します。設定したい速度で手を離します。

■ 定速走行の解除のしかた

次の操作をすると、定速走行が解除されます。

●＜CANCEL＞スイッチを押す
●＜プロパイロットスイッチ＞を押す
●ブレーキペダルを踏む
●次の場合は、“ピー”という音とともに制御が解除されます。
— 速度が約25km/h以下になったとき
— VDCをOFFにしたとき
— VDC／TCSが作動したとき
— タイヤが空転したとき
— シフトポジションを、DまたはB以外にしたとき
— システムに異常があるとき

インテリジェント エマージェンシーブレーキ

インテリジェントエマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。

システムに関連する表示

⚠ 警告

● **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

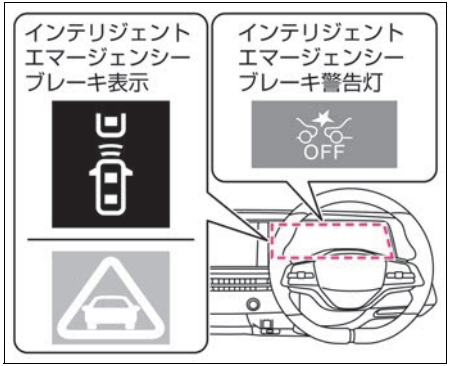
インテリジェント エマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突回避操作を支援、または衝突時の被害や傷害の軽減を目的としています。あらゆる状況で効果があるわけではありません。

必ず周囲の安全確認を行い、前方車両との車間距離を十分に維持して安全運転を心がけて走行してください。

● **レーダーやマルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。**

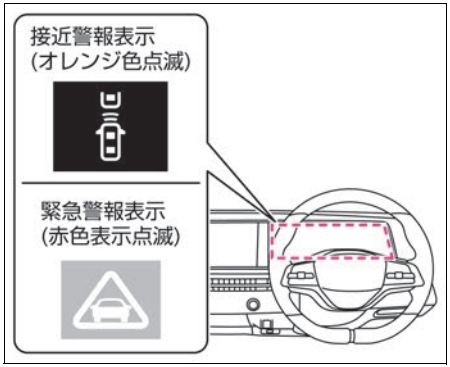
➔ レーダーセンサーの検知条件と制限 (P.215)

➔ マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限 (P.216)



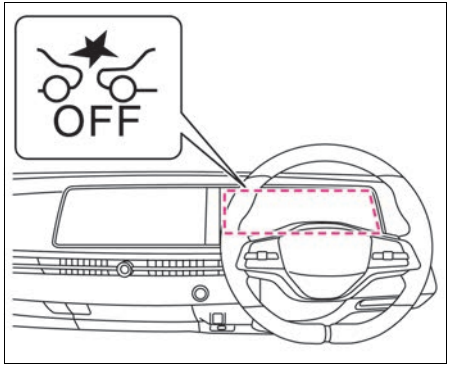
●プロパイロット2.0付車はインテリジェント エマージェンシーブレーキが作動すると、ヘッドアップディスプレイにも警告表示が表示されます。

インテリジェント エマージェンシーブレーキについて



- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラおよび車両前部のレーダーセンサーにより前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車を検知します。
- 車速約5km/hから作動します。
  歩行者・人が乗車している自転車には約10km/h~80km/hの範囲で作動します。
  （車速約100km/h以上では停止車両に対しては作動しません。）
- 衝突するおそれがあると判断すると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェント エマージェンシーブレーキ表示（接近警報表示）がオレンジ色に点滅します。
- 運転者の衝突回避操作が不十分で、衝突危険性が高まったときには、アドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェント エマージェンシーブレーキ表示が赤色の緊急警報表示になり、警報音（ブザー）とともに軽いブレーキがかかります。
- さらに衝突の危険性が高まったときには、衝突の直前に強いブレーキがかかります。
- 次の場合、システムによるブレーキの作動が解除されます。
  - アクセルペダルを強く踏み込んだとき
  - ハンドルを大きく、または素早く切ったとき
  - 前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突の危険がなくなったと判断したとき
- システムによるブレーキで車両が停止したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが解除されます。
- 運転者がハンドルやアクセル、ブレーキを操作している場合は、インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が遅れたり、作動したりしない場合があります。
- 前方車両と自車の速度の差が小さいときは作動しません。
- システムによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。
- システムによるブレーキ作動中にブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。また踏力を加えることで、ブレーキ力を増すことができます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを［運転支援］および［プロパイロット］に切り替えると、インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
  詳しくは、➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)をお読みください。

インテリジェント エマージェンシーブレーキの停止のしかた



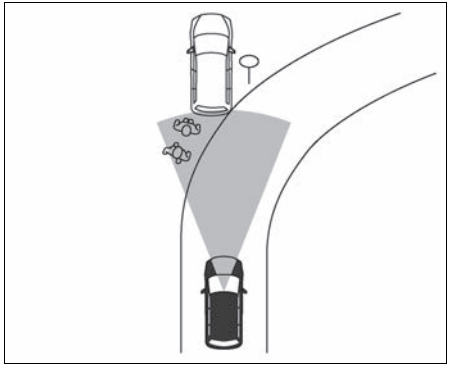
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［緊急支援］⇒［前方衝突防止支援］を選択すると、インテリジェント エマージェンシーブレーキのON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、運転支援をお読みください。
  ➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)
  ➔運転支援 (P.106)
  - 走行中はインテリジェント エマージェンシーブレーキのON·OFFを切り替えることができません。
- 機能をOFFにすると、システムが停止します。（インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯）

●EVシステムを再始動するとONになります。
●インテリジェント エマージェンシーブレーキをOFFにすると、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）も連動してOFFになります。
➔インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（P.287）

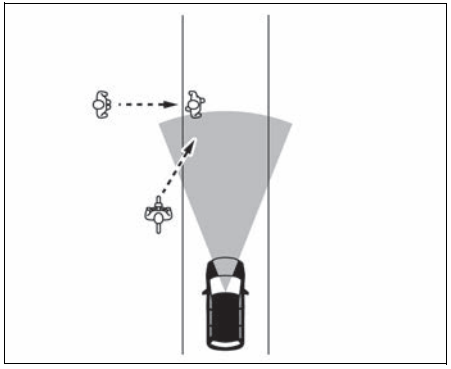
インテリジェント エマージェンシーブレーキに関する注意事項

●次のような障害物は検知しません。
— 子供などの背の低い人、動物
— 対向車両
— 道路構造物（ガードレール、ポールなど車両と歩行者、人が乗車している自転車以外の障害物）
●システムは車両の後端を認識するため、以下の例のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。
— バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
— 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
— 前方を横切って通過する車両
— 斜めもしくは前向きに止まっている車両
●次のような場合は、前方の車両、歩行者、人が乗車している自転車を検知できないことがあります。
— 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
— 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
— カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などの付着やワイパーの拭き残しがあるとき
— カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
— 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
— 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
— 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
— 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
— トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
— カーブを走行しているとき
— 勾配の変化があるところを走行しているとき
— 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
— 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき
— 前方車両からの太陽光などを強く反射されたとき
— 対象物の位置や動きが大きく変化した場合（自車の車線変更・右左折、前方車両の右左折・急ハンドル・急加速・急減速など）
— 始動してから約15秒間
— EVシステム始動後、走行してからインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが1回も障害物を検知していないとき
— カメラの視界がさえぎられているとき（フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード）
— カメラの向きがずれているとき
— 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
— 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
— オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行しているとき
— 子供用の自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
●以下の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。
— 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合
— 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいる場合
— 対象物が路面の水たまりの付近にいる場合（周りの風景が水たまりに映りこむなど）
— 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき
— 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき

- 以下の対象物にはシステムが作動しない場合があります。
  - 歩行者、人が乗車している自転車の移動速度が速いとき
  - 対向して接近する歩行者、自転車
  - 歩行者の姿勢や手足の状態（手を上げているなど）により、歩行していると特定できないとき
  - 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者
  - 車高の低い車両
  - 最低地上高（地面から車体までの高さ）が極端に低いもしくは極端に高い車両
  - 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
  - 前方の至近距離に割り込んだ車両
  - 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者、自転車
  - 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者、人が乗車している自転車
  - 後端面積が小さい車両（空荷のトラックなど）
  - リヤタイヤから車両後端までが長い車両
  - 四輪車以外の車両（二輪車など）
  - 荷台から荷物や幌がはみ出している車両
  - ショッピングカート、ベビーカー、自転車などを押しているとき
- 以下の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。
  - 複数の対象物同士が近接している場合
  - 対象となる二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合
- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。
- 次のような場合は、システムが機能を十分に発揮できないことがあります。
  - 滑りやすい路面を走行しているとき
  - 勾配のある路面を走行しているとき
  - 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
  - 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき
  - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
  - 純正品以外のブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
  - 車両が傾いているとき（後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）
- 路面または壁面の影や模様・ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示、濡れた路面に映り込んだ模様、わだちなどや光の反射を含む）、前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール、カーブミラー、電柱や電線、看板）などで構成される形状が、車両や歩行者、自転車の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ・位置などと似通っている場合、システムが作動する場合があります。
- 右左折中の前の車両にシステムが作動を継続する場合があります。
- 前の車両に接近し追い越す場合、システムが作動する場合があります。
- 道路形状（カーブ路、カーブの出入り口、ワインディング道、車線規制や工事中など）によっては、一時的に自車正面の対向車にシステムが作動する場合があります。
- 以下のような物に反応し、システムが作動する場合があります。
  - 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、自転車、人が乗車している自転車、車両など）



— 道幅が狭い路地などを走行する際の歩行者・人が乗車している自転車
— 路肩の障害物を避けるため、一時的に自車前方の走行レーンにはみ出したり、近づく歩行者や人が乗車したりしている自転車



— 路面上にある物（線路、格子、鉄板など）
— 駐車場内にある物（梁など）
— 走行車線または隣接する車線にある物（歩行者、車両など）
— 走行車線または隣接する車線に近づいてくる物（歩行者、車両など）
— 対向して接近する歩行者
— 走行路にある物（近接する樹木など）

インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が停止するとき

●次の場合、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯し、作動が停止します。
— インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき

●次の場合、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯するとともに、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告を表示し、システムが一時的に作動しなくなります。
— フロントガラスの汚れなどにより、カメラの前方視界が遮蔽されていると判断したとき
— 前方からの強い光により、 カメラが前方を認識できなくなったとき
— 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき
（室内の温度が下がると、作動を復帰します。）
— 周辺の電波源の影響を受けているとき
停止したときの状態が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。
— 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき
上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度EVシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れを取り除き、EVシステムを再始動してください。
— 道路形状や周辺の建造物により、レーダーセンサーが先行車を正確に検知できないとき
（例：長い橋、雪原、長い壁の横など）
上記の状況から離れるとシステムは自動的に作動を再開します。
— 悪天候で視界が悪いとき
— VDCをOFFにしたとき
— インテリジェントエマージェンシーブレーキのシステムチェックが正常に終了しなかったとき

●システムに異常があると、警告音が鳴るとともにメーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。
警告灯（P.379）
警告メッセージ（P.389）

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（P.442）をお読みください。
- 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度EVシステムを停止してから再始動してください。

アドバイス

上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

警告灯（➔P.379）

- VDCをOFFにしたときは、接近警報のみ作動します。
- 夜間、ライトを点けずに走行するなどで、カメラの視界が真っ暗な状態になった場合は、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯する場合があります。

踏み間違い衝突防止アシスト

踏み間違い衝突防止アシストは、マルチセンシングフロントカメラ、インテリジェントアラウンドビューモニターカメラ（リヤビューカメラ）とソナーで進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者を検知し、駐車操作時など低速のときにブレーキペダルと間違えてアクセルペダルを踏み込む、あるいはブレーキ操作が遅れたときに運転者に音と表示で警告します。

さらにモーター出力やブレーキを制御することで、過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。

システムに関連する表示

⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

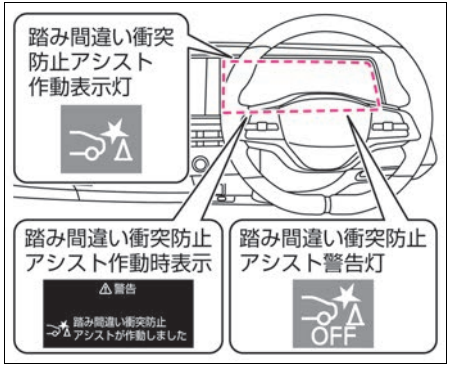
  踏み間違い衝突防止アシストは、アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違えにより引き起こされる暴走や衝突事故の軽減を目的とした補助機能です。あらゆる状況で効果があるわけではありません。運転者は周囲の安全確認を行い、常に注意深い運転操作を心がけて走行してください。

- **ソナーやマルチセンシングフロントカメラ、インテリジェント アラウンドビューモニターカメラ（リヤビューカメラ）の性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。**

  ➔マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限 (P.216)

  ➔ソナーの検知条件と制限 (P.217)

  ➔インテリジェント アラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限 (P.312)



- 踏み間違い衝突防止アシストが作動すると、作動時表示と作動表示灯が表示されるとともに、後退時はインテリジェントアラウンドビューモニター画面に赤枠も表示されます。プロパイロット2.0付車はヘッドアップディスプレイにも警告表示が表示されます。

踏み間違い衝突防止アシストの作動

前進時

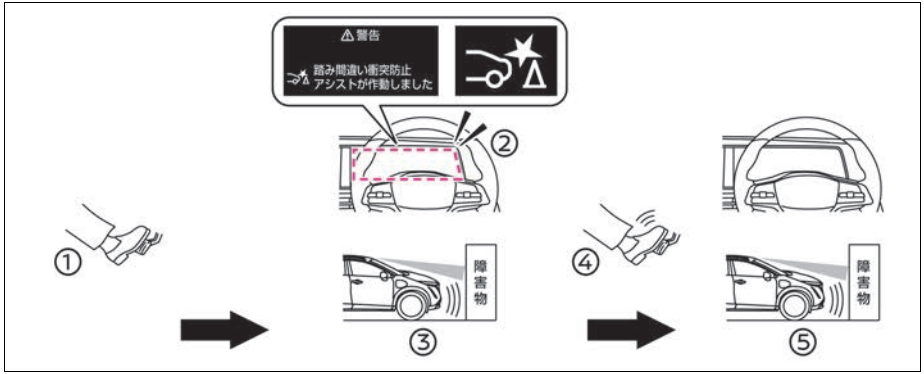
- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより前方の車両や歩行者を検知し、フロントバンパーに取り付けられたソナーにより、前方の障害物を検知します。

後退時

- リヤナンバープレート上部のインテリジェント アラウンドビューモニターカメラ（リヤビューカメラ）とリヤバンパーに取り付けられたソナーにより、後方の障害物を検知します。

踏み間違い衝突防止アシストには、2つの機能があります。

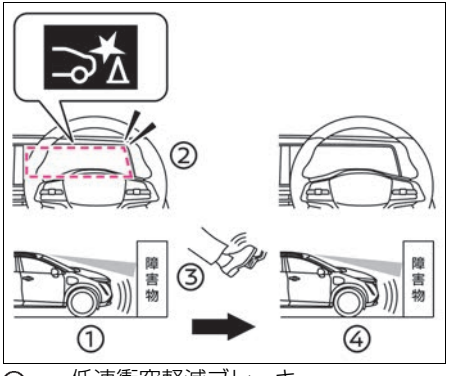
低速加速抑制機能



① アクセルペダル誤踏み込み
② 警報音と作動表示
③ 低速加速抑制
④ ブレーキ
⑤ 停車、作動停止

- 前進または後退時（停車時含む）、進行方向に車両や歩行者（前進時）、壁などの障害物を検出している場合に、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断すると、約6秒間加速を抑制したり、弱いブレーキをかけたりすることで車速が上がることを抑えます。
- 次の車速範囲で作動します。
  - ― 車両、歩行者に対しては、車速約0～25km/h
  - ― 壁などの障害物に対しては、車速約0～15km/h
- 低速加速抑制機能が作動しているときは、警報音（ブザー）と踏み間違い衝突防止アシスト作動表示灯が表示します。また、アドバンスドドライブアシストディスプレイの表示によって運転者に警告します。
  警告メッセージ（➔P.388）

低速衝突軽減ブレーキ機能



① 低速衝突軽減ブレーキ
② 警報音と作動表示
③ ブレーキ
④ 停車、作動停止

- 前進、または後退時、進行方向に車両や歩行者（後退時）、壁などの障害物を検知し、衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、モーター出力の制御、およびブレーキをかけて衝突を回避、または被害の軽減をします。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能は、車速約15km/h以下のとき作動します。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動すると、警報音（ブザー）と踏み間違い衝突防止アシスト作動表示灯の表示によって運転者に警告します。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは制動灯が点灯します。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動しているときは、作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

低速衝突軽減ブレーキが作動するとき・しないとき

クルマ止めのない駐車場などで、壁などに衝突しそうになったとき

万一、運転者のブレーキ操作が遅れ、壁などに衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、警報音（ブザー）と踏み間違い衝突防止アシスト作動表示灯が表示し、ブレーキをかけて衝突を回避または被害を軽減します。

- ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいたときは作動しません。
- アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで前進・後退する状況などでは作動が遅れ十分に機能しない場合があります。

縦列駐車をするとき

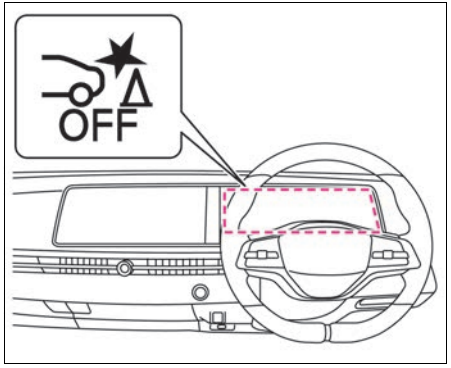
シフトポジションを**D**から**R**、または**R**から**D**に切り替えたときは、セレクトレバーの操作を繰り返すたびに進行方向の障害物を検知してブレーキ制御が作動します。

- ブレーキ制御が作動したあと、シフトポジションを切り替えずにさらに同じ障害物に向かって前進、または後退をした場合は、ブレーキ制御は作動しません。
- アクセルペダルを踏んでいるときは作動が遅れることがあります。
- シフトポジションが**R**のときは、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、シフトポジションが**D**または**B**のときは後方の障害物に対して作動しません。
- 障害物に対し斜めに接近すると作動しないことがあります。
- 幅の狭い障害物に対しては作動しないことがあります。
- 他の車両が自車両に対して横にずれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。

並列駐車をするとき

- 狭いスペースに進入するときに作動することがあります。
- 他の車両の角部に向かって接近したときは作動しません。
- 他の車両が自車両に対して横にずれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。
- シフトポジションが**R**のときは、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、シフトポジションが**D**または**B**のときは後方の障害物に対して作動しません。
- 壁から突き出している柱や配管などの障害物に対しては作動しません。
- 低い障害物に対しては作動しません

踏み間違い衝突防止アシストの停止のしかた



●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［緊急支援］⇒［踏み間違い衝突防止支援］を選択すると、踏み間違い衝突防止アシストのON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)

➔運転支援 (P.106)

●機能をOFFにすると、システムが停止します。（踏み間違い衝突防止アシスト警告灯が点灯）

●シフトポジションを**R**にしてソナー表示中に＜OK＞スイッチを押すと、一時的に後方の低速加速抑制機能、低速衝突軽減ブレーキ機能を停止できます。

●EVシステムを再始動するとONになります。

踏み間違い衝突防止アシストに関する注意事項

⚠ 警告

- **故意にアクセルペダルを踏み込まない。**

  車両が急に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。また、低速加速抑制機能は、アクセルペダルをゆっくりと深く踏み込んだときには作動しません。

- **次の場合は、予期せずシステムが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあるため、踏み間違い衝突防止アシストを**OFF**にする。**

  — けん引するとき

  — トレーラーなどに積載するとき

  — 点検などでシャシーダイナモを使用するとき

  — 純正品以外のサスペンション部品を使用しているとき（車高や車両の傾きが変わると正しく障害物を検知できないことがあります）

  — センサーを妨げるようなバイクラックなどを装着しているとき

- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- **ブレーキ制御は短時間しか作動しません。必ず運転者がブレーキペダルを踏んでください。**

  低速加速抑制機能が作動したあとに低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが解除され、車両が動き出します。

⚠ 注意

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- **システムの作動を待たず、すみやかにブレーキ操作を行う。**

  車両の状態、走行状況、交通環境、天候、路面状況などにより作動しない場合や、本来の性能を発揮できないことがあります。

- **アクセルペダルを踏んだ状態で障害物に接近したときは、作動が遅れることがあります。**

アドバイス

- 次の場合は、システムが正常に作動しなかったり、機能を十分に発揮できなかったりすることがあります。

  — 悪天候（雨、霧、雪など）のとき

  — 勾配が急な坂道を走行しているとき

  — 段差などをまたいでいるときなど車両姿勢が変化しているとき

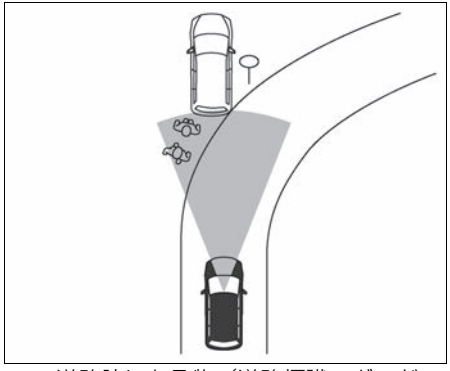
アドバイス

— 滑りやすい路面を走行しているとき
— ハンドルを大きく切って旋回しているとき
— 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
— 下り坂などでブレーキが過熱、または水たまり走行後や洗車後などでブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
— 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき
— 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
— 車両が傾いているとき（後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）

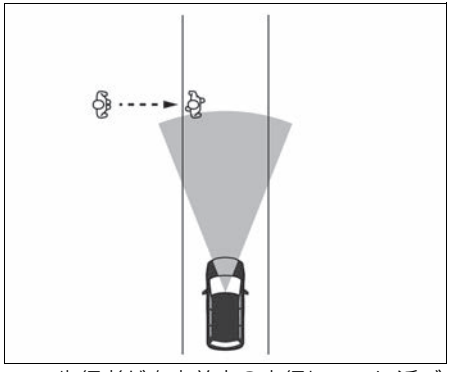
● 動いている物体に対しては踏み間違い衝突防止アシストは作動しません。（前方の車両、歩行者を除く）

低速加速抑制機能について

●ソナーで検出した壁や車両などの大きな障害物に対して作動します。車両の幅以下の障害物は検知しません。
●マルチセンシングフロントカメラで検出した衝突のおそれのある前方の車両や歩行者に対して作動します。
●低速加速抑制機能は、運転者がアクセルペダルを戻すと解除されます。
●渋滞中などで前方にいる車両を追い越すときなどに低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。
●信号待ちや右折待ちなどで、車間距離の短い状態から前の車に続いて発進する際、アクセルペダルを素早く深く踏み込むと低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。
●次の場合は作動しません。
— アクセルペダルをゆっくりと踏み込んだとき
— ブレーキペダルを踏んでいるとき
— シフトポジションが **D**、**B**、**R** 以外のとき
— トラクションコントロール機能（TCS）が作動しているとき
— タイヤが空転しているとき
●路面または壁面の模様・ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示を含む）、前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール）などで構成される形状が、車両や歩行者の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ・位置などと似通っている場合、マルチセンシングフロントカメラが対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動する場合があります。
●自転車で走行している人を歩行者と検知し、システムが作動する場合があります。
●以下のような物に反応し、システムが作動する場合があります。



— 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、車両など）



— 歩行者が自車前方の走行レーンに近づいた場合
— 道路上方にある物（低い橋、道路標識など）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

— 路面上にある物（線路、格子、鉄板など）
— 駐車場内にある物（梁など）
— 走行車線または隣接する車線にある物（歩行者、車両など）
— 走行車線または隣接する車線に近づいてくる物（歩行者、車両など）
— 対向して接近する歩行者
— 走行路にある物（近接する樹木など）

低速衝突軽減ブレーキ機能について

●ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいても作動しません。
●次の場合は作動しません。
— シフトポジションがD、B、R以外のとき
●シフトポジションがRのときは、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、シフトポジションがDまたはBのときは後方の障害物に対して作動しません。

踏み間違い衝突防止アシストの作動が停止するとき

●次の場合、メーター内の踏み間違い衝突防止アシスト警告灯［ ］が点灯し、作動が停止します。
— 踏み間違い衝突防止アシストの設定をOFFにしたとき
— VDCをOFFにしたとき
●踏み間違い衝突防止アシストが一時的に作動できなくなったときは、メーター内の踏み間違い衝突防止アシスト警告灯［ ］がゆっくり点滅します。
●システムに異常があると、警告音が鳴るとともにメーター内の踏み間違い衝突防止アシスト警告灯［ ］が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。
警告灯（P.381）
警告メッセージ（P.389）

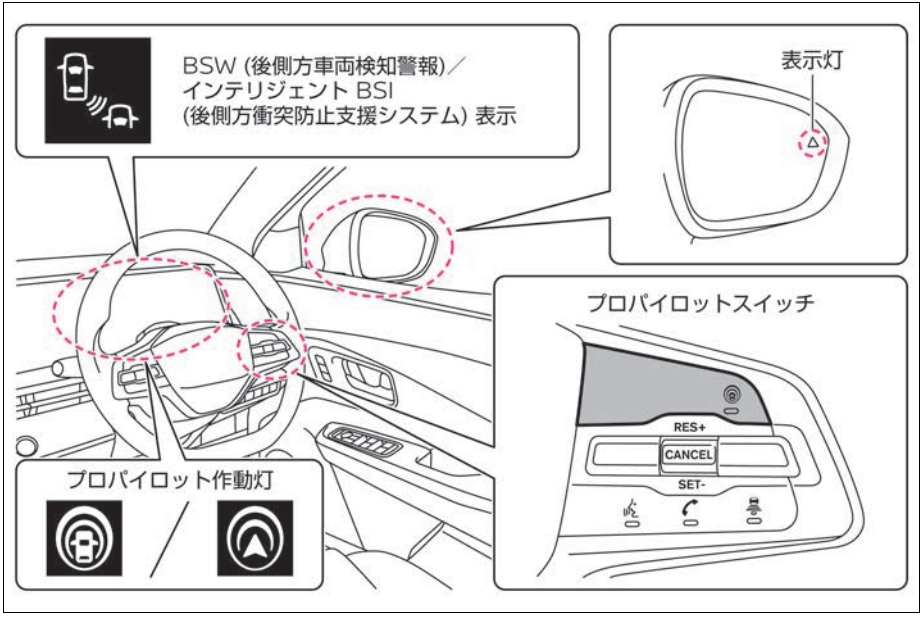
アドバイス

● システムを正しく作動させるためにソナー、マルチセンシングフロントカメラ、インテリジェント アラウンドビューモニターカメラはいつもきれいにしておいてください。各センサー、カメラ類の取り扱いについては（P.442）、（P.443）をお読みください。
● 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度EVシステムを停止してから再始動してください。
上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
警告灯（P.381）

BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）

BSW（後側方車両検知警報）は、車線変更をするとき、隣車線に車両がいる場合に警報によって運転者に注意を促します。
インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）は、隣車線に車両がいるときに運転者が車線変更を開始した場合、警報とともに車両をもとの車線内に戻す方向に力を発生させ、隣接車両との接触を回避するよう支援します。

システムに関連する表示とスイッチ



⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

  BSW（後側方車両検知警報）およびインテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）は、ドアミラーによる周囲の検知を代わりに行ったり、車両や障害物との接触を防いだりする機能ではありません。車線変更を行うときは、機能に頼った確認をせず、必ずドアミラーおよびルームミラーで側方および後方の安全を確認してください。

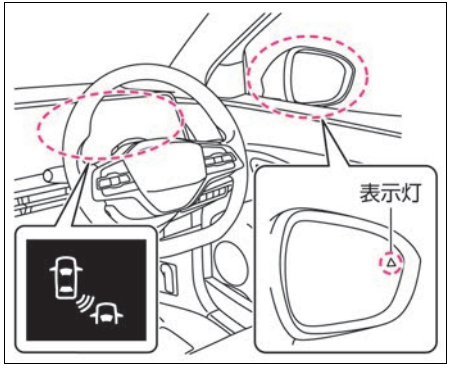
- **レーダーやマルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、各検知条件と制限をお読みください。**

  ➔ レーダーセンサーの検知条件と制限（P.215）

  ➔ マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限（P.216）

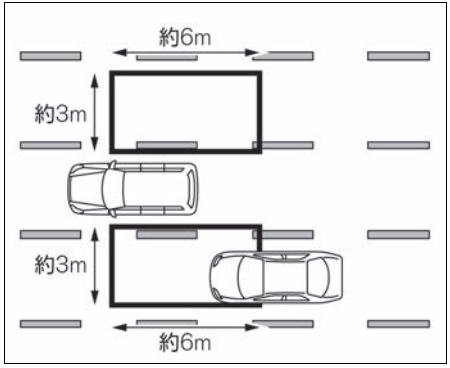
※＜プロパイロットスイッチ＞は車種により異なります。

BSW（後側方車両検知警報）について



- 車両後部のレーダーセンサーにより隣車線の車両を検知します。
- 車速約30km/h以上で作動します。
- レーダーセンサーにより隣車線の車両を検知すると、検知した側のドアミラー鏡面にある表示灯が点灯します。
- 隣車線の車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのBSW（後側方車両検知警報）表示と、ドアミラー鏡面にある表示灯が点滅します。

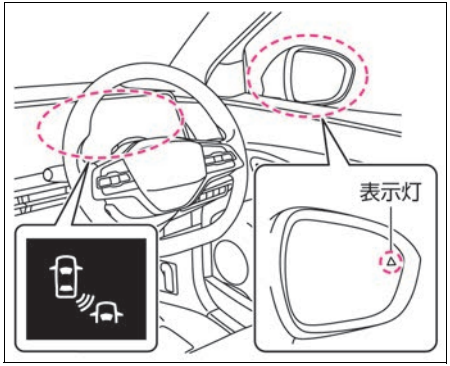
検知範囲について



- レーダーセンサーは、自車両の左右にある検知範囲内にいる車両を検知します。
- 検知範囲は、自車両のドアミラーから後方に約6m、車両の側面から横方向に約3mです。
- ドアミラー鏡面の表示灯は＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ドアミラー鏡面の表示灯の明るさは車両周囲の明るさによって切り替わります。
- 方向指示器が作動しているときに、レーダーセンサーにより隣車線の車両を検知した場合には、表示灯は点滅しますが音は鳴りません。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを［運転支援］に切り替えると、BSW（後側方車両検知警報）の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。

➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)

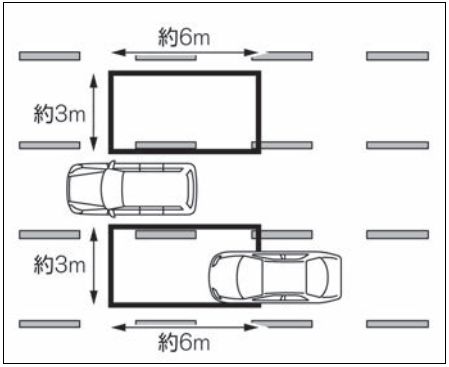
インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）について



- 車両後部のレーダーセンサーにより隣車線の車両を検知します。また、ルームミラー上方に取り付けられたカメラを使用し、走行している車線のレーンマーカーを検知します。
- 約60km/h以上で走行中に隣車線の車両を検知しているとき、検知している側のレーンマーカーに自車両が接近すると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示と、ドアミラー鏡面にある表示灯が点滅します。同時にブレーキを制御し、車両をもとの車線に戻す方向に制御力を短時間発生させ、自車両をもとの車線に戻す操作を促します。

レーンマーカーとは、車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。

検知範囲について

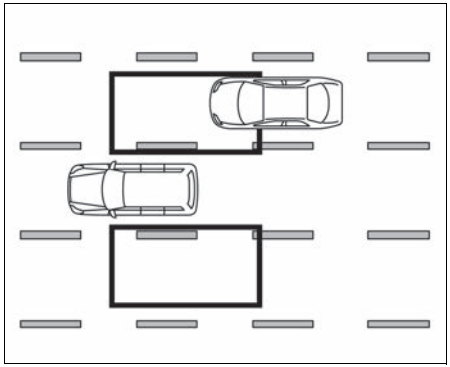


- レーダーセンサーは、自車両の左右にある検知範囲内にいる車両を検知します。
- 検知範囲は、自車両のドアミラーから後方に約6m、車両の側面から横方向に約3mです。
- あらかじめ表示灯が点灯した状態で自車両がレーンマーカーに接近すると、警報とブレーキ制御の両方が作動します。ただし、自車両がレーンマーカーと交差してから検知範囲に車両が入ってきたときは、警報とブレーキ制御は作動しません。
- インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）は、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）よりも先に作動します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを［運転支援］に切り替えると、インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。

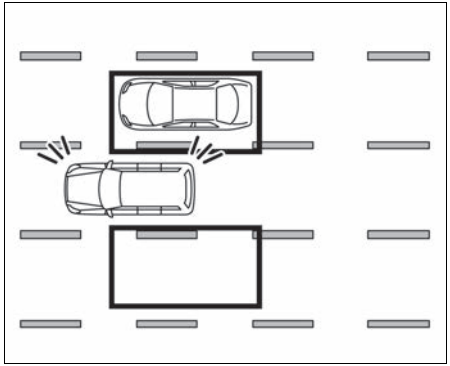
詳しくは、➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー）(P.87)をお読みください。

作動するとき・しないとき

後方から車両が接近してくるとき



- 後方から車両が接近してくる場合、その車両が検知範囲内に入るとドアミラー鏡面にある表示灯が点灯します。



- 車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音（ブザー）が鳴るとともに、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面にある表示灯が点滅します。

⚠ 注意

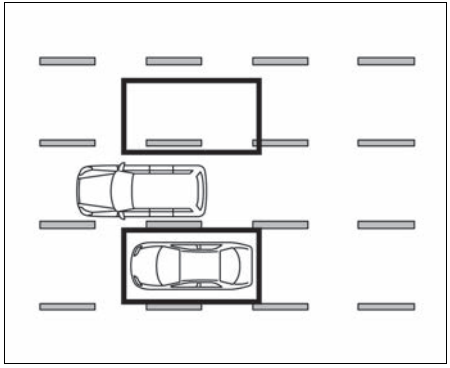
- **車線変更を行うときは、必ずドアミラーおよびルームミラーを使用して周囲の安全を確認する。**

  自車両より極端に速い速度で接近してくる車両は検知できないことがあります。

- 方向指示器を作動したあとに、検知範囲に車両が入ってきたときは、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面にある表示灯は点

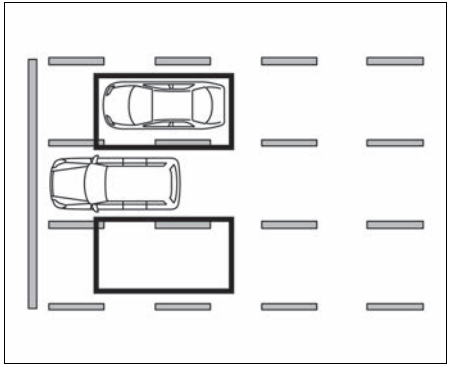
滅しますが警報音（ブザー）は鳴りません。

●自車両がレーンマーカーと交差してから検知範囲に車両が入ってきたときは、警報とブレーキ制御は作動しません。



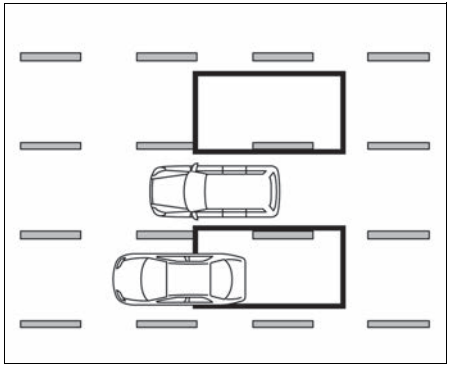
●車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音（ブザー）が鳴るとともにBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。 同時にブレーキを短時間制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。

発進するとき

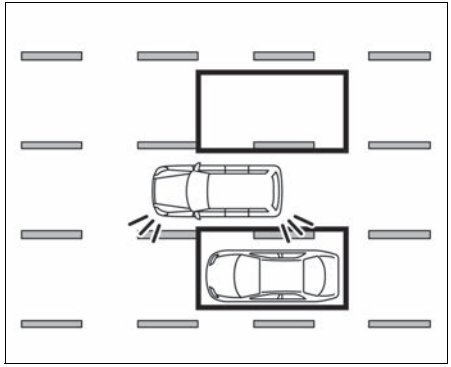


●停車状態から検知範囲に居続ける車両は検知できないことがあります。

他の車両を追い越すとき

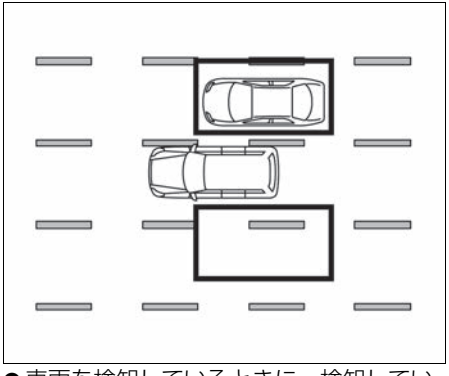


●他の車両を追い越すとき、追い越される車両が検知範囲内に2秒以上とどまるとドアミラー鏡面の表示灯が点灯します。



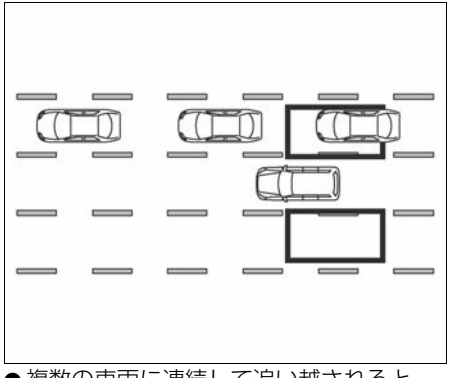
●車両を検知し表示灯が点灯しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音（ブザー）が鳴るとともに、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面にある表示灯が点滅します。

●速度の遅い車両を素早く追い越したときはシステムが検知しません。



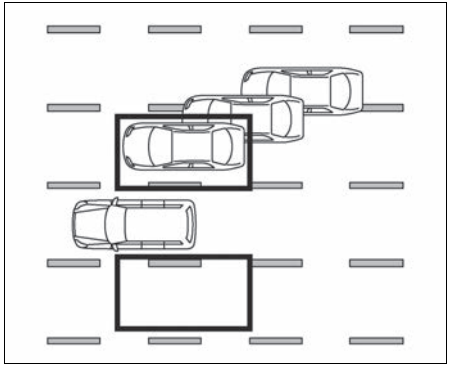
●車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音（ブザー）が鳴るとともにBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。
同時にブレーキを短時間制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。

他の車両に追い越されるとき

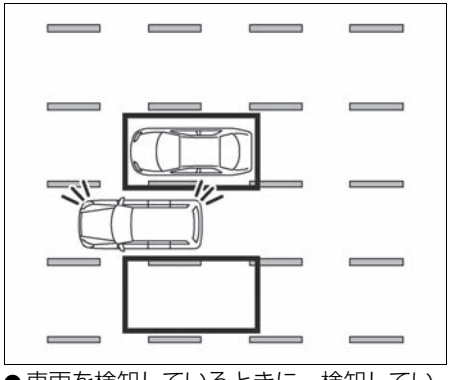


●複数の車両に連続して追い越されるとき、追い越す車両の車間距離が短い場合は、1台目の車両以外が検出されないことがあります。

他の車線から車両が接近してきたとき



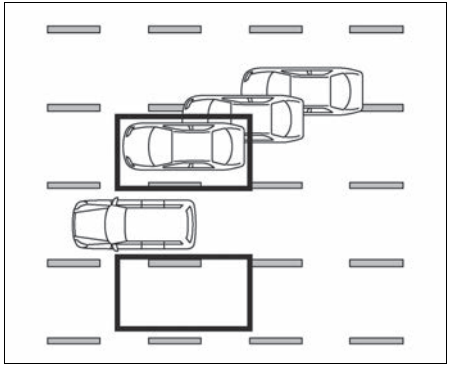
●車線変更などで車両が接近してきたときは、検知範囲内に入るとドアミラー鏡面の表示灯が点灯します。



●車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音（ブザー）が鳴るとともに、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。

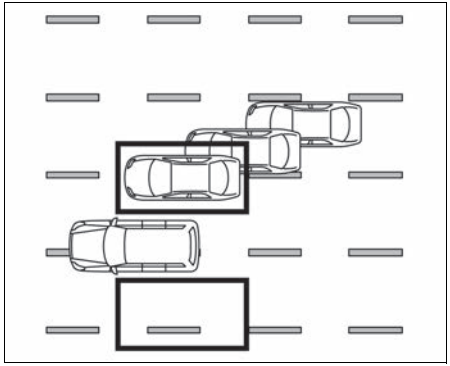
●自車両とほぼ同じ速度で走行する車両が車線変更してきた場合、検出できないことがあります。

●方向指示器を作動させたあとに、検知範囲に車両が入ってきたときは、BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面にある表示灯は点滅しますが警報音（ブザー）は鳴りません。



●車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音（ブザー）が鳴るとともにBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示とドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。
同時にブレーキを短時間制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。

自車両がレーンマーカーの上を走行しているとき



●検知範囲に車両が入ってもインテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）は作動しません。
この場合、BSW（後側方車両検知警報）のみが作動します。

BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）の使いかた

BSW（後側方車両検知警報）

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［後側方支援］⇒［後側方車両検知警報］を選択すると、BSW（後側方車両検知警報）機能のON･OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援をお読みください。
➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)
➔運転支援 (P.106)

インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［後側方支援］⇒［後側方衝突防止支援］をONにしているとき、＜プロパイロットスイッチ＞を押すとシステムがONになります。（プロパイロット作動灯［🚗］／［ 🚗 ］が点灯）
設定の詳細については、運転支援をお読みください。
➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)
➔運転支援 (P.106)

●＜プロパイロットスイッチ＞を押すと、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）のON･OFFを同時に切り替えることができます。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［後側方支援］⇒［後側方衝突防止支援］でOFFにすると、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）だけをOFFにできます。

- EVシステムを停止するとインテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）はOFFになります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイのON·OFF設定は、EVシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。

BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）に関する注意事項

⚠ 警告

- **次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるためインテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）を使用しないでください。**
  - 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
  - 急なカーブ、急な上り坂・下り坂が繰り返されるとき
  - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
  - 車線の幅が狭い道路を走行するとき
  - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外のタイヤを使用しているとき
  - 純正部品以外のステアリング部品、ブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- **次のような車両は、正確に検知できず、システムが正しく作動しないおそれがあります。**
  - 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両
  - 停車状態から検知範囲に居続ける車両
  - 後方から速い速度で接近してくる車両
  - 自車両が速い速度で追い越した車両
  - 合流や車線変更で自車両の横にほぼ同じ速度で移動してきた車両
- **次のような状況では、隣の車線の車両を検知できないことがあります。**
  - 車線の幅が極端に広い道路を運転しているとき
  - 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
  - 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- **次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。**
  - 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
  - 急なカーブのある道路を走行するとき
  - 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
  - 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報したり、制御したりする場合があります）
  - 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき
  - 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
  - 先行車との車間距離が短く、マルチセンシングフロントカメラの検出範囲が遮られるとき
  - 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
  - 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき

⚠ 警告

— 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき

— 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）

● **レーダーセンサー周辺へのステッカー（透明なものを含む）の貼り付け、アクセサリー類の取り付け、追加の塗装をしないでください。**

車両を検知する性能が低下するおそれがあります。

⚠ 注意

● **レーダーセンサーは次のような障害物は検知しません。**

— 歩行者、自転車、動物など

— 対向車

アドバイス

● 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

●車線の幅が極端に広い道路を運転する場合、隣の車線にいる車両を検知できないことがあります。また、車線の幅が極端に狭い道路を運転する場合、2つ隣の車線にいる車両を検知することがあります。

●レーダーセンサーは静止している障害物を検知しないよう設計されていますが状況によっては、ガードレール、壁、植物、駐車された車両などを検知してしまうことがあります。

●次の場合はブレーキ制御を行いません。

— ブレーキペダルを踏んでいるとき

— 素早いハンドル操作を行ったとき

— インテリジェント クルーズコントロールの接近警報が鳴っているとき

— インテリジェント エマージェンシーブレーキが作動しているとき

— 非常点滅表示灯を作動させているとき

— カーブ路でスピードを出して走行しているとき

●ブレーキ制御しているとき、運転者がアクセルペダルを踏み増すとブレーキ制御を中止します。

BSW（後側方車両検知警報）の作動が停止するとき

●次の場合はアドバンスドドライブアシストディスプレイに［［サイドレーダー及び その周辺が汚れています 拭いてください］と警告が表示され、一時的にシステムが停止します。

— レーダーセンサーが汚れているとき

— レーダーセンサーに雨、雪、氷などが付着しているとき

●システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
警告メッセージ（P.389）

アドバイス

● レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからEVシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（レーダーセンサーの取り扱い (P.442)）をお読みください。

● アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度EVシステムを停止してから再始動してください。

EVシステム再始動後も表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）の作動が停止するとき

●次の場合は “ポー” というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［作動範囲外のため 現在使用できません］と警告が表示され、作動を解除します。

— VDCをOFFにしたとき

— ドライブモードをSNOWにしたとき（e-4ORCE（4WD）車）

●次の場合は “ポー” というブザー音とともにアドバンスドドライブアシスト

ディスプレイに［滑りやすい路面のため現在使用できません］と警告が表示され、作動を解除します。
— ABSまたはVDC（トラクションコントロール機能（TCS）は含まない）が作動したとき

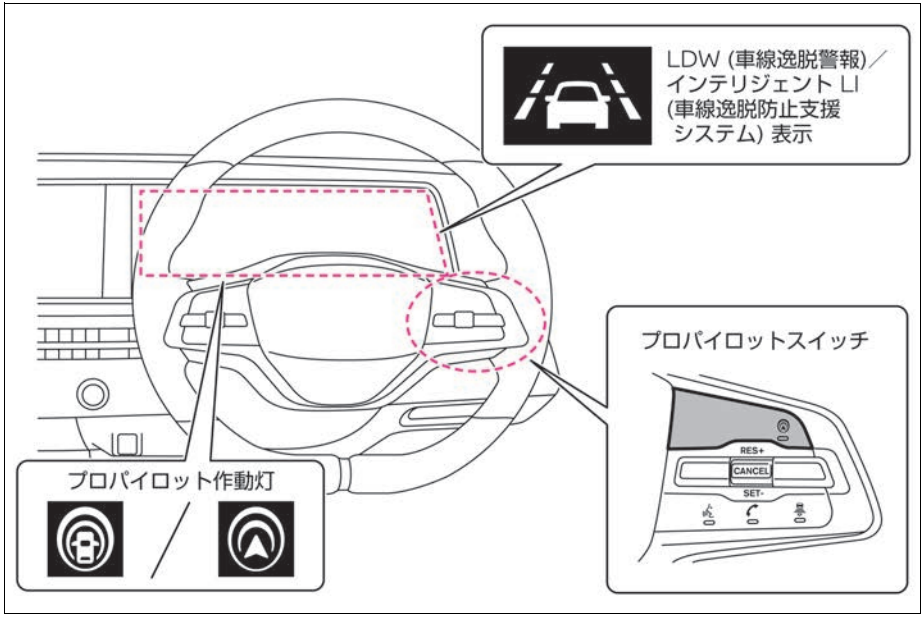
システムを再び作動させる場合は、解除されたときの状態が改善されてから一度＜プロパイロットスイッチ＞をOFFにし、再度インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）をONにしてください。

- 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になったときは、“ポー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、作動を解除します。システムを再び作動させる場合は、室内の温度が下がってから再びシステムをONにしてください。
- 次の場合は“ポー”というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［サイドレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください］と警告が表示され、システムが停止します。
  — サイドレーダー周辺が汚れているとき
  — サイドレーダー周辺に雨、雪、氷などが付着しているとき
- システムに異常があると、警告音が鳴るとともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［システム故障 取扱説明書を見てください］および、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示がオレンジ色に点灯し、作動が停止します。

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

LDW（車線逸脱警報）は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報によって注意を促します。
インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、運転者が車線内に戻す操作を支援します。

システムに関連する表示とスイッチ



※＜プロパイロットスイッチ＞は車種により異なります。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 警告

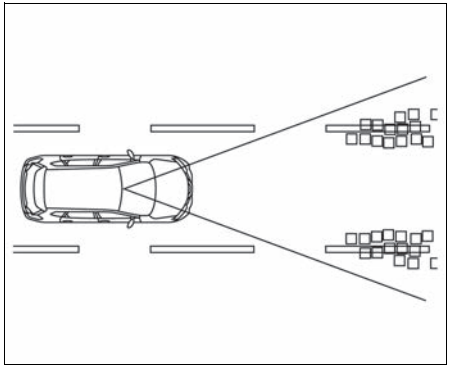
- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

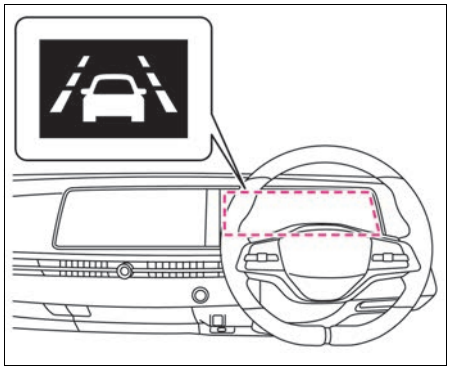
  LDW（車線逸脱警報）／インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）は、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転を心がけてください。

- **マルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。**

  ➔マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限 (P.216)

LDW（車線逸脱警報）について





- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。
- 車速約60km/h以上で作動します。
- 走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、ステアリングホイール（ハンドル）の振動とともにメーター内のLDW（車線逸脱警報）表示がオレンジ色に点滅します。レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［側方支援］⇒［ステア振動］を選択すると、LDW（車線逸脱警報）作動時のステアリングホイール（ハンドル）振動を調節することができます。設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)

📖 知識

- 車両の移動する方向に方向指示器を作動させている場合は警報を行いません。（方向指示器を解除したあと、約2秒間は警報を行いません。）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを［運転支援］に切り替えると、LDW（車線逸脱警報）の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。

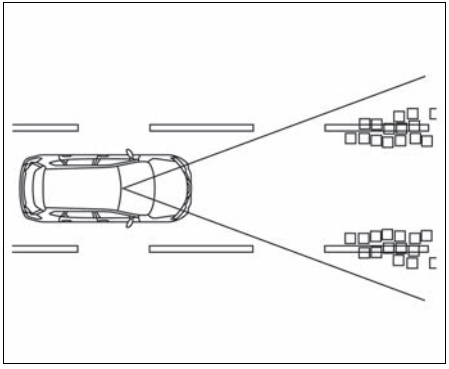
  詳しくは、運転支援をお読みください。

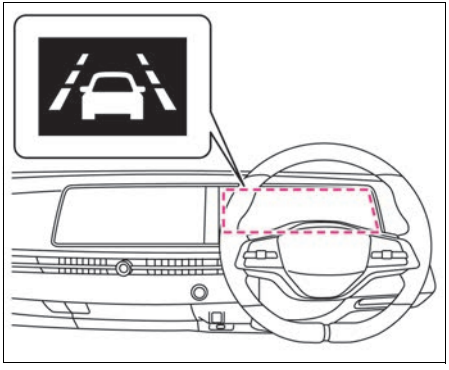
  ➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)

知識

運転支援 (P.106)

インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）について





- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。
- 車速が約60km/h以上で作動します。
- 走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、ステアリングホイール（ハンドル）の振動とともにメーター内のインテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点滅します。
  同時にブレーキを短時間制御し、車両を車線内に戻す方向に制御力を短時間発生させて車両を車線内に戻す操作を促します。
  レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは、左側に引かれた線のことを示します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［側方支援］⇒［ステア振動］を選択すると、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）作動時のステアリングホイール（ハンドル）振動を調節することができます。
  設定の詳細については、運転支援をお読みください。
  アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)
- 車両の移動する方向に方向指示器を使用している場合は、警報もブレーキ制御も行いません。（方向指示器を解除したあと、約2秒間は作動しません。）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを［運転支援］に切り替えると、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。
  詳しくは運転支援をお読みください。
  アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)
  運転支援 (P.106)

ON・OFF のしかた

LDW（車線逸脱警報）

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［側方支援］⇒［車線逸脱警報］を選択すると、LDW（車線逸脱警報）機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援をお読みください。
  アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)
  運転支援 (P.106)

インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［側方支援］⇒［車線逸脱防止支援］をONにしているとき、＜プロパイロットスイッチ＞を押すとシステムがONになります。（プロパイロット作動灯［🚘］／［ 🚘 ］が点灯）

設定の詳細については、運転支援をお読みください。
➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)
➔運転支援 (P.106)

- ＜プロパイロットスイッチ＞を押すとインテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）のON・OFFを同時に切り替えることができます。
- 設定は、EVシステムを再始動しても維持されます。
- EVシステムを停止するとインテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）はOFFになります。

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）に関する注意事項

⚠ 警告

- **次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるため、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）を使用しないでください。**
  - 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
  - 急なカーブ、急な上り坂・下り坂が繰り返されるとき
  - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
  - 車線の幅が狭い道路を走行するとき
  - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外のタイヤを使用しているとき
  - 純正品以外のステアリング部品、ブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- **次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。**
  - 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
  - 急なカーブのある道路を走行するとき
  - 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
  - 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報する場合があります。）
  - 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき
  - 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
  - 先行車との車間距離が短く、カメラの検出範囲が遮られるとき
  - 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
  - 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき
  - 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
  - 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）

アドバイス

- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

作動が停止するとき

LDW（車線逸脱警報）

- 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったときは、アドバンスドドライブアシストディスプレイに［カメラが高温のため現在使用できません］と警告が表示され、一時的にシステムが停止します。（室内の温度が下がると、作動を復帰します。）
- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
警告（➔P.389）

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（P.442）をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度EVシステムを停止してから再始動してください。

  EVシステム再始動後も警告が表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

- 次の場合は、“ポー” というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［作動範囲外のため 現在使用できません］と警告が表示され、作動を解除します。
  - VDCをOFFにしたとき
  - ドライブモードをSNOWにしたとき（e-4ORCE（4WD）車）
- 次の場合は、“ポー” というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［滑りやすい路面のため現在使用できません］と警告が表示され、作動を解除します。
  - ABSまたはVDC（トラクションコントロール機能（TCS）は含まない）が作動したとき

システムを再び作動させる場合は、解除されたときの状態が改善されてから一度<プロパイロットスイッチ>をOFFにし、再度インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）をONにしてください。

- 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になったときは、“ポー” というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、作動を解除します。 システムを再び作動させる場合は、室内の温度が下がってから再びシステムをONにしてください。
- システムに異常があると、警告音が鳴るとともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［システム故障 取扱説明書を見てください］および、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点灯し、作動が停止します。

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（P.442）をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停止し一度EVシステムを停止してから再始動してください。EVシステム再始動後も警告が表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）

前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、自車の回避操作が必要と判断した場合には、警報によって運転者に注意を促します。

システムに関連する表示

⚠ 警告

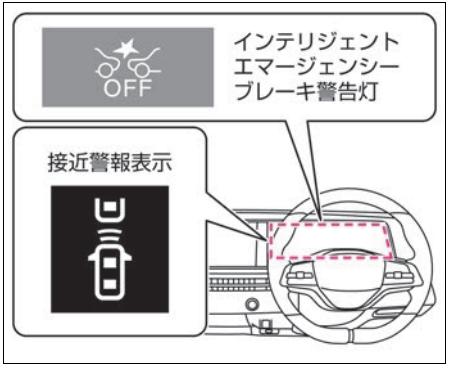
- **インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は前方を走行する2台前の車両の急な減速などを検知したとき運転者に警報を行いますが、衝突を回避する機能はありません。**
- **インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。**

  前方の車両との車間距離、周囲の状態に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

⚠ 警告

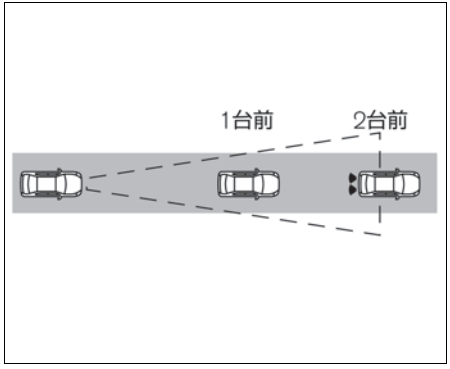
- **レーダーの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。**

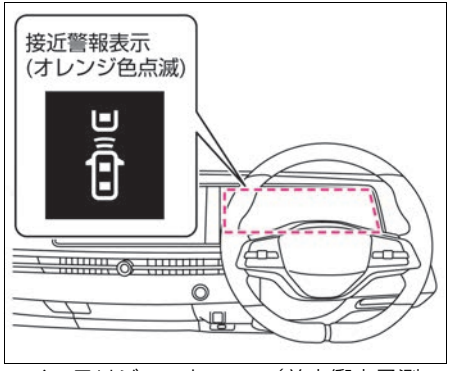
➔レーダーセンサーの検知条件と制限 (P.215)



●プロパイロット2.0付車はインテリジェント FCW（前方衝突予測警報）が作動すると、ヘッドアップディスプレイにも警告表示が表示されます。

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）について





●インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は車速が約5km/h以上で作動します。

●車両前部に取り付けられたレーダーセンサーにより前方の2台前の車両との距離を計測します。

●自車の回避操作が必要と判断すると、アドバンスドドライブアシストディスプレイの接近警報表示がオレンジ色に点滅するとともに警報音（ブザー）を鳴らして、運転者に注意を促します。

●インテリジェント エマージェンシーブレーキのON・OFFを切り替えると、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）も連動してON・OFFされます。

➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.264)

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）に関する注意事項

⚠ 警告

- **次のような障害物は検知しません。**
  - ― 歩行者、自転車、動物、道路上に落ちている障害物
  - ― 対向車両
  - ― 前方を横切って通過する車両
- **次のような場合は、前方の2台前の車両を検知できないことがあります。**
  - ― 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
  - ― 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき

⚠ 警告

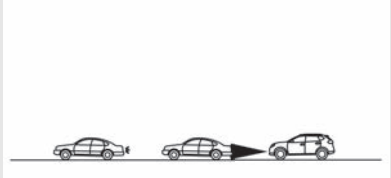
― 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき

― 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき

― トンネル内を走行しているとき



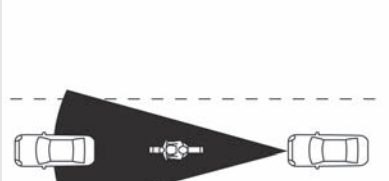
― 前方の車両がけん引を行っているとき



― 前方の車両との距離が極端に近いとき



― 急なカーブや、勾配の変化があるところを走行しているとき



- **前方の車両がオートバイのような幅の狭い車両のときは、前方の車両を検知できず、インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）は警報を行わないことがあります。**
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

インテリジェントFCW（前方衝突予測警報）の作動が停止するとき

- 次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯し、作動が停止します。
  ― インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき
  ― インテリジェント エマージェンシーブレーキが異常により作動を停止したとき
- 次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯するとともに、警告を表示し、システムが一時的に作動しなくなります。
  ― 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき
  ― 周辺の電波源の影響を受けているとき
  停止したときの状態が改善されるとシステムは作動を再開します。
  上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度EVシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、EVシステムを再始動してください。
- システムに異常があると、警告音が鳴るとともにメーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯［ ］が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。

上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度EVシステムを停止してから再始動してください。

アドバイス

- インテリジェント エマージェンシーブレーキをONにできない、または警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度EVシステムを停止してから再始動してください。上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

  警告灯（➔P.379）

- レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからEVシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（➔P.442）をお読みください。

RCTA（後退時車両検知警報）

RCTA（後退時車両検知警報）は、後退時に後方を横切ろうとする車両に衝突するおそれがあるとき、警報によって注意を促します。

システムに関連する表示

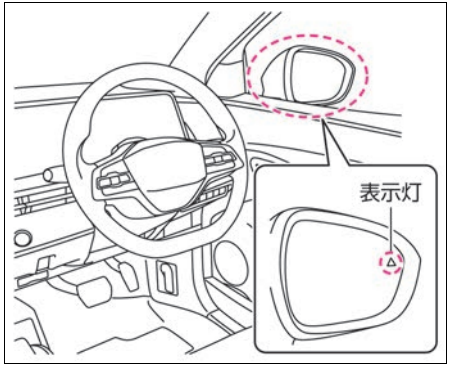
警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

RCTA（後退時車両検知警報）は、運転者の代わりに周囲を確認したり、車両と障害物との接触を防いだりする機能ではありません。駐車スペースから後退するときは、機能に頼らず、必ず運転者自身で周囲の安全を確認してください。

- **レーダーの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。**

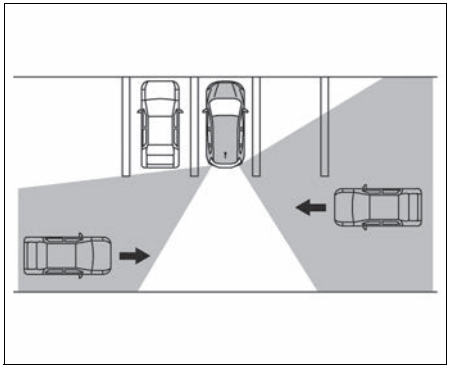
➔レーダーセンサーの検知条件と制限（P.215）



RCTA（後退時車両検知警報）について

- 車両後部のレーダーセンサーにより後方を横切ろうとする車両を検知します。
- シフトポジションがRで、車速約8km/h以下のとき作動します。
- レーダーセンサーにより後方を横切ろうとする車両を検知すると、警報音（ブザー）とともに検知した側のドアミラー鏡面にある表示灯が点滅します。
- RCTA（後退時車両検知警報）の設定をOFFにしているときにシフトポジションをRにすると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに［システムOFF］と表示されます。
- RCTA（後退時車両検知警報）が作動しているときは、インテリジェント アラウンドビューモニター画面に黄色枠が表示されます。

検知範囲について



- レーダーセンサーは、約20m先から近づいてくる車両を検知します。
- ドアミラー鏡面の表示灯は＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。

● ドアミラー鏡面の表示灯の明るさは車両周囲の明るさによって切り替わります。

RCTA（後退時車両検知警報）の使いかた

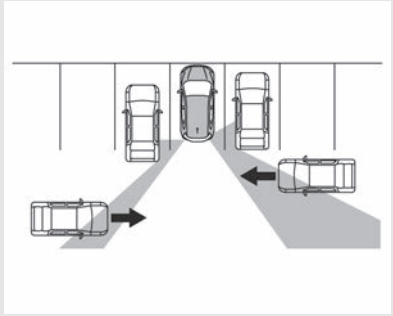
● アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［駐車支援］⇒［後退時車両検知警報］を選択すると、RCTA（後退時車両検知警報）機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援をお読みください。
➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)
➔運転支援 (P.106)

● 設定は、EVシステムを再始動しても維持されます。

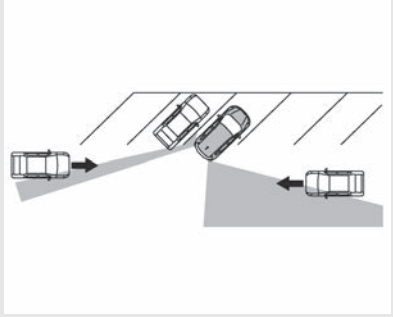
RCTA（後退時車両検知警報）に関する注意事項

⚠ 警告

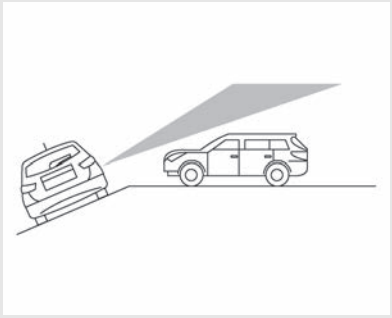
- **後退する前に、必ず目視で周囲の状況を確認してください。レーダーセンサーは接近している（動いている）車両を検知します。次のようなものは検知できないことがあります。**
  - ― 歩行者、自転車、動物など
  - ― 約30km/h以上の速度で通過する車両
  - ― 約8km/h以下の速度で通過する車両
- **次のような状況では、レーダーセンサーが接近する車両を検知できないことがあります。**



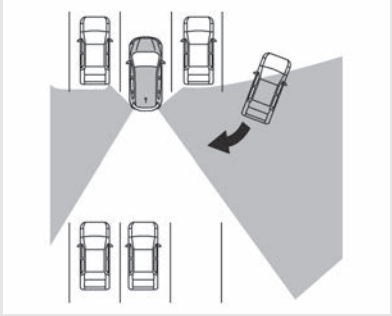
― 隣に駐車している車両などが、レーダーセンサーの検出エリアを妨げているとき



― 駐車枠線が斜めに引かれた駐車場に駐車しているとき

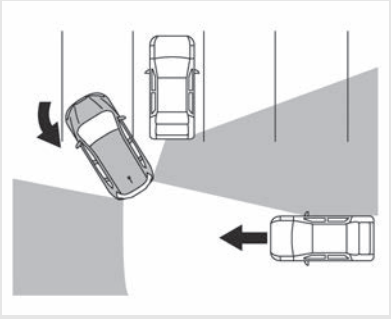


― 傾斜した地面に駐車しているとき



― 回り込むようにして自車両後方へ車両が接近してきたとき

⚠ 警告



― 接近してきた車両の向きが、自車両の向きと同じまたはそれに近いとき

● **次のような場合は、思わぬ事故につながるおそれがあるため、システムを使用しないでください。**

― 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき

― 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき

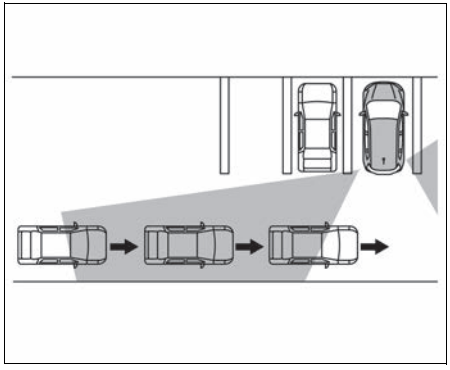
― 雪や氷、泥などがレーダーセンサー付近に付着しているとき

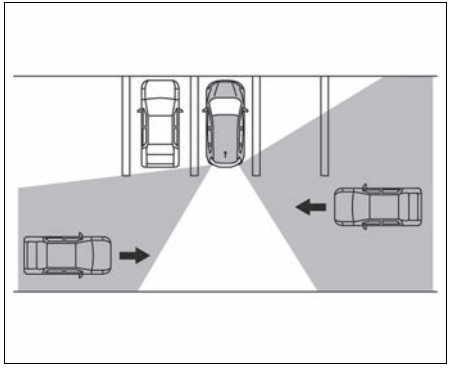
● **レーダーセンサーは静止している障害物を検知しないように設計されていますが状況によっては、ガードレール、壁、駐車された車両などを検知してしまうことがあります。**

● **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

● **レーダーセンサー周辺へのステッカー（透明なものを含む）の貼り付け、アクセサリー類の取り付け、追加の塗装をしないでください。**

車両を検知する性能が低下するおそれがあります。





● 複数の車両が連続して後方を通過する場合や、最初に検知した車両と逆方向から車両が接近してきた場合、2台目以降に対して警報が作動しない場合があります。

RCTA（後退時車両検知警報）の作動が停止するとき

● 次の場合はアドバンスドドライブアシストディスプレイに［サイドレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください］と警告が表示され、一時的にシステムが停止します。

― レーダーセンサーが汚れているとき

― レーダーセンサーに雨、雪、氷などが付着しているとき

● システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
警告メッセージ（➔P.389）

アドバイス

● レーダーセンサー周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからEVシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（➔P.442）をお読みください。

● アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度EVシステムを停止してから再始動してください。

アドバイス

EVシステム再始動後も表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェント DA（ふらつき警報）

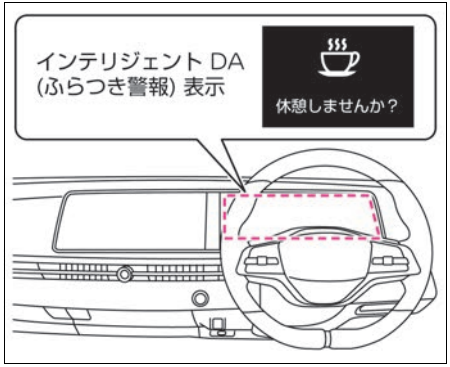
インテリジェントDA（ふらつき警報）は、ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したときに、アドバンスドドライブアシストディスプレイの表示と音により運転者に休憩を促します。

システムに関連する表示

⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

  このシステムは疲労時の運転を補助するものではありません。疲労時の運転は重大な事故にいたる危険があるため、運転前に十分に休憩をとり、安全運転を心がけてください。



インテリジェント DA（ふらつき警報）について

- 車速約60km/h以上で走行中、運転者のハンドル操作から注意力が低下していると判断したときに、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに［休憩しませんか？］と警告メッセージを表示します。
  警告メッセージ（➔P.389）

インテリジェント DA（ふらつき警報）の停止のしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［ドライバーモニター］⇒［ふらつき警報］を選択すると、インテリジェント DA（ふらつき警報）機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援をお読みください。
  ➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)
  ➔運転支援 (P.106)
- 設定は、EVシステムを再始動するとONになります。
- プロパイロットのハンドル支援中は、インテリジェント DA（ふらつき警報）のシステムはOFFになります。
  ➔プロパイロット (P.217)

インテリジェント DA（ふらつき警報）の作動が停止するとき

- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、作動が停止します。
  警告メッセージ（➔P.389）

アドバイス

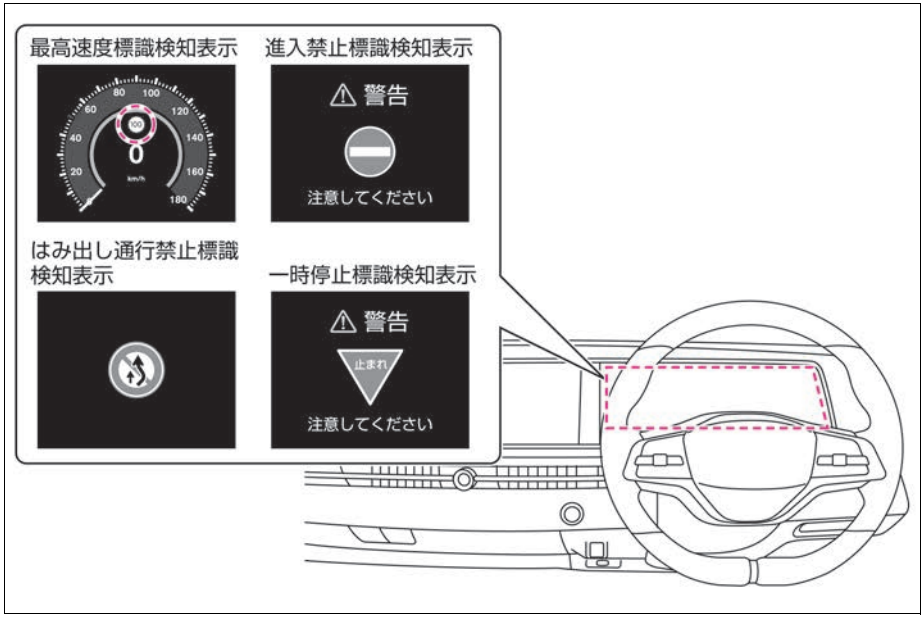
- 安全な場所に停車し、一度EVシステムを停止してから再始動してください。
- 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。

  通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

標識検知機能

フロントガラス上部にあるマルチセンシングフロントカメラにより標識を検知し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。

システムに関連する表示



⚠ 警告

- **走行中は運転者の責任で実際の標識を確認する。**

  標識検知機能は、運転者の安全運転をサポートする機能です。

  標識検知機能には限界があり、状況によっては標識を検知できなかったり、実際とは異なる標識を表示したりする場合があります。

  運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。

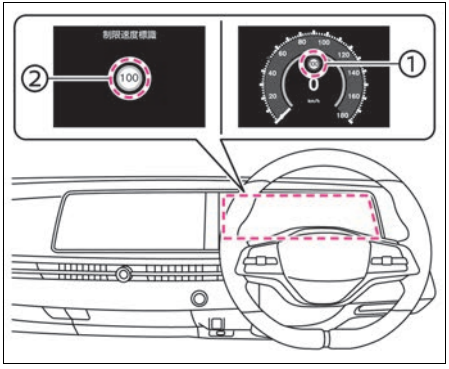
- **マルチセンシングフロントカメラの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。**

  ➔マルチセンシングフロントカメラの検知条件と制限 (P.216)

標識検知機能について

●標識検知機能には次の機能があります。

最高速度標識検知



●前方の最高速度標識を検知した場合には、アドバンスドドライブアシストディスプレイ①、および走行支援グループ［ ］/［ ］②に表示されます。

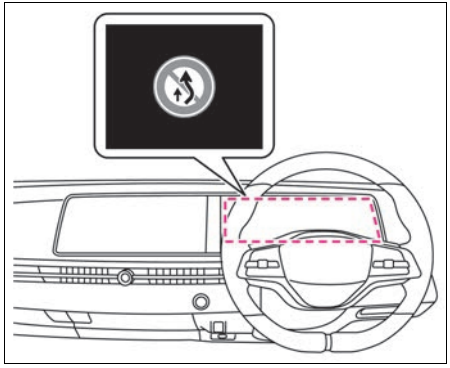
走行支援グループ（表示項目）(P.97)

●次の場合は、最高速度標識の表示を終了します。

― 最高速度標識を検知し、車両がその標識を通過してから一定の距離を走行したとき

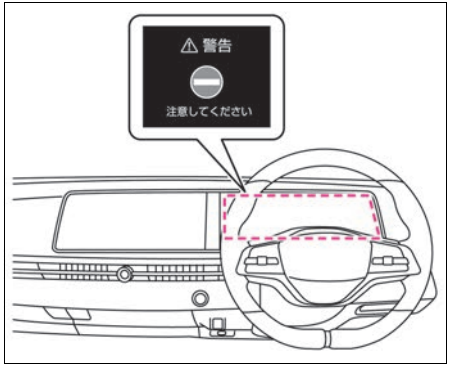
― 右左折などで走行している路線が変わったとシステムが判断したとき

はみ出し通行禁止標識検知



●前方のはみ出し通行禁止標識を検知した場合には、走行支援グループ［ ］／［ ］に表示します。

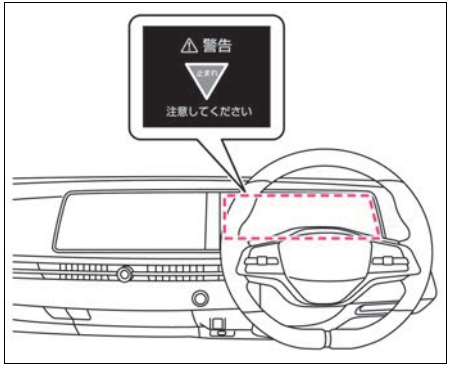
進入禁止標識検知



●前方の車両進入禁止標識を検知し、一方通行路へ進入する可能性がある場合にはアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告表示します。

●万一、車両進入禁止標識を通過した場合には警告音が鳴ります。

一時停止標識検知



●前方の一時停止標識を検知した場合には、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。

進入禁止標識／一時停止標識検知の停止のしかた

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ］⇒［運転支援］⇒［標識検知支援］⇒［道路標識］を選択すると、進入禁止標識／一時停止標識検知機能のON・OFFを切り替えることができます。

設定の詳細については、運転支援をお読みください。
➲アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)
➲運転支援 (P.106)

●いずれの設定も、EVシステムを再始動しても維持されます。

最高速度標識検知／はみ出し通行禁止標識検知の停止のしかた

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［標識検知支援］⇒［制限速度標識］を選択すると、最高速度標識検知機能／はみ出し通行禁止標識検知機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援をお読みください。
➲アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)
➲運転支援 (P.106)

●いずれの設定も、EVシステムを再始動しても維持されます。

標識検知機能に関する注意事項

⚠ 警告

● 次のような場合は、標識の検知が遅れたり、検知できなかったりすることがあります。

- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
- カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪、虫汚れなどが付着しカメラの視界がさえぎられているとき
- カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
- 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
- 前方車両から反射した強い光（太陽光など）を受けているとき
- トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
- 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
- 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
- 勾配の変化があるところを走行しているとき
- 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
- 隣車線の車両で視界が遮られているとき
- 標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
- 標識の周辺が煩雑で標識を認識しにくいとき
- 標識が自車から遠く離れた位置にあるとき
- 夜間で標識に自車のヘッドランプの光が届きにくい位置にあるとき
- 標識が色あせたり、折れ曲がったりしているとき
- 標識が破損しているなど形状が変わってしまっているとき
- 標識が泥、雪、または霜などで覆われているとき
- 標識の一部が樹木や汚れなどによって隠れて不明瞭なとき
- 標識に光（街灯など）や影が映り込んでいるとき
- 標識が大きすぎたり、小さすぎたりするとき
- 標識が低すぎたり、高すぎたりするとき
- 標識が明るすぎたり、暗すぎたりしたとき
- カメラの向きがずれているとき
- 始動してから約15秒間は標識を検知しません

⚠ 警告

- **次のような場合は、標識の検知が適正に行えず、実際の規制内容とは異なるものを表示したり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。（最高速度標識においては、実際の最高速度よりも高い数字や、低い数字を表示したりすることがあります）**
  - ― 数字が認識しにくい標識（数字が消えかかっているなど）
  - ― 検知対象となる標識の色、形に似たものが周辺にある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物、案内標識上の数字など）



  - ― 自車の路線に対しての標識ではないが、自車の路線付近にあり、その標識が自車の路線に向いている場合（本線から分岐する側道の一時停止標識や最高速度標識など）
  - ― コントラストが低い電光標識
  - ― 数字が認識しにくい電光標識（遠く離れた位置にある標識、3桁の標識など）
  - ― 標識の近傍に補助標識（区間の始まり、終わり、曜日、時間など）があるとき
  - ― 工事などの通行規制区間に標識があるとき
  - ― ナビゲーションシステムの地図データが最新ではない、または利用できないとき
  - ― ナビゲーションシステムが推奨するルートを走行していないとき
  - ― ナビゲーションシステムが新しいルートを検索しているとき
  - ― ナビゲーションシステムの位置検出が正しく行えないとき
  - ― ナビゲーションシステムの地図に無い道路を走行しているとき

⚠ 注意

- **標識検知機能は、運転者の安全運転をサポートする機能です。**

  標識検知機能には限界があり、状況によっては標識を検知できなかったり、実際とは異なる表示をしたりする場合があります。

  運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。



- **標識の近傍にある補助標識は検知しないため、実際の規制内容と異なる表示をする場合があります。必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。**

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（➔マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.442)）をお読みください。

- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

ドライバーモニターシステム★

ドライバーモニターシステムは、カメラにより運転者の状態を認識して安全運転を支援する機能です。

ドライバーモニターシステムについて

⚠ 注意

- **ドライバーモニターシステムの機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がけてください。**
- **ドライバーモニターシステムは疲労時の運転を補助するものではありません。**

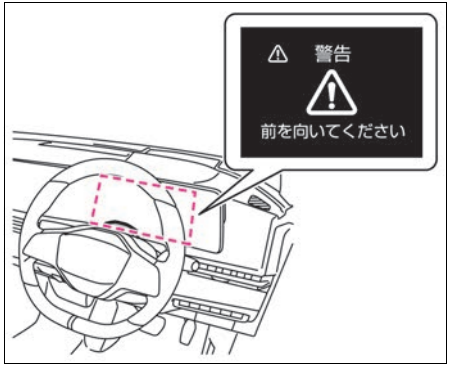
  疲労時の運転は重大な事故にいたる危険がありますので、運転前に十分に休憩をとり、安全運転に努めてください。
- **ドライバーモニターシステムは、脇見運転などの前方不注意での運転を補助するものではありません。**

  脇見運転は重大な事故にいたる危険がありますので、常に進行方向の交通状況、道路状況を確認し、安全運転に努めてください。

アドバイス

- ドライバーモニターシステムはメーター手前にあるカメラにより運転者の目、鼻、口、顔や頭の形などの特徴を認識しています。目、鼻、口、顔や頭の形などの特徴が認識できないときは正しく機能しない場合があります。正しい運転姿勢をとれるよう、シート、ハンドルの位置を調節してください。

  ➔正しい運転姿勢について (P.50)



- 走行中に運転者が一定時間以上、眼を閉じたり顔の向きを前方から大きく外したりするなどして、居眠りや脇見などをしているとシステムが判断した場合、音と表示で警告します。

ドライバーモニターシステムの停止のしかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、ドライバーモニターシステムのON・OFFを切り替えることができます。
  設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［ドライバーモニター］⇒［ドライバーモニターカメラ］
  設定の詳細については、運転支援をお読みください。
  ➔アドバンスドドライブアシストディスプレイとは（メインメニュー） (P.87)
  ➔運転支援 (P.106)
- ドライバーモニターの設定は、EVシステムを再始動しても維持されます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイでOFFにしている場合でも、プロパイロット2.0が作動しているときは警告をすることがあります。

ドライバーモニターシステムに異常があるとき

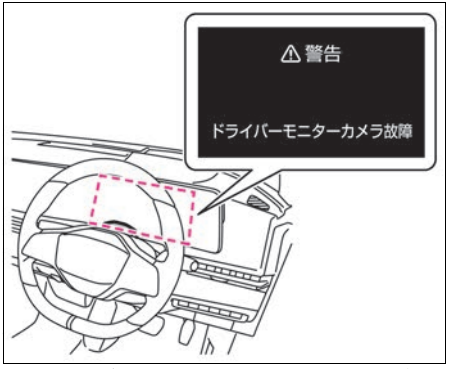
アドバイス

- ドライバーモニターカメラ部の汚れにより警告が表示されたときは安全な場所に停車し、カメラ部の汚れを取り除いてからEVシステムを一旦停止して再始動してください。

アドバイス

上記の操作をしても、警告が表示されるときは通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

➲ドライバーモニターカメラの取り扱い (P.299)



● ドライバーモニターシステムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに［ドライバーモニターカメラ故障］と警告が表示され、システムが自動的に停止します。

ドライバーモニターシステムに関する注意事項

⚠ 注意

● **次のような場合、ドライバーモニターシステムが運転者を適切に検出できないことがあります。**

— 車室内へ太陽光が入り込み、ドライバーモニターカメラまたは、運転者が照らされているとき

— 太陽光の入り込みと影になることが繰り返すとき

— 眼鏡やサングラス、帽子、マスク、眼帯などを着用している場合など目、鼻、口のいずれかが隠れていたり、顔や頭の形を変える衣服を着用したりしているとき

— ハンドルや運転者の手、その他の障害物などで目、鼻、口、顔や頭の形が隠れているとき

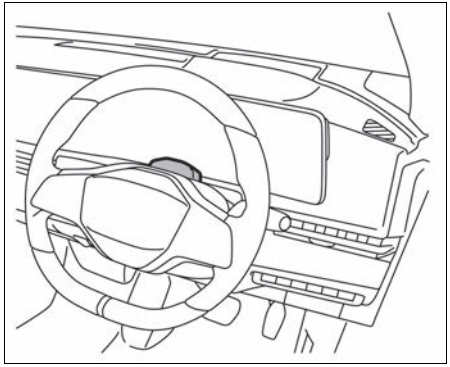
— ドライバーモニターカメラに触れ、汚れや指紋が付着したとき

— 助手席や後席シートの方が運転席付近に身を乗り出したときなど、運転席付近に2つ以上の顔が存在するとき

— 前方からの太陽光の眩しさなどで目を細めたり、運転姿勢をくずしたりしているとき

● **状況によっては外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

ドライバーモニターカメラの取り扱い



システムを正しく作動させるために次のことを守りください。

● ドライバーモニターカメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。塵、ほこりを取り除き、柔らかい布を真水に浸して、固くしぼってから軽くふき取ります。

● 硬いブラシや布、ティッシュでこすると、傷がつくことがあります。

● ドライバーモニターカメラ周辺にものをおいたり、ステッカー（透明な物を含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けたりしないでください。誤作動の原因になります。

● ドライバーモニターカメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。またカメラを取り外さないでください。故障、誤作動の原因になります。

●事故などでドライバーモニターカメラ周辺部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。

ライセンスについて

●ドライバーモニターシステムには、オープンソースを使用したソフトウェア（OSS）が含まれています。下記webサイトにライセンス情報が記載されています。
http://www.embedded-carmultimedia.jp/RTOS/License/oss/DMS_0401/

インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）

インテリジェントアラウンドビューモニターは、自車位置を映し出すことにより、駐車スペースへの駐車時や縦列駐車時に運転者を補助します。

インテリジェント アラウンドビューモニターについて

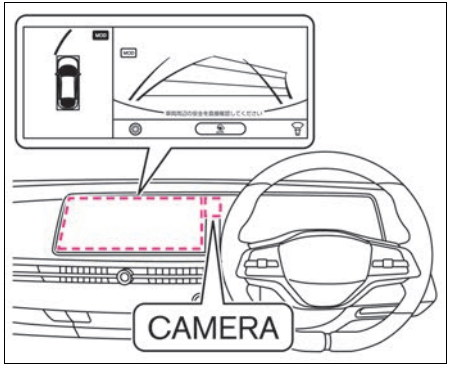
⚠ 警告

- **インテリジェント アラウンドビューモニターの機能を過信しない。**

  インテリジェント アラウンドビューモニターは障害物などの確認を補助するシステムです。車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。特に車両の四隅は、トップビュー、フロントビュー、リヤビューに障害物が映らない死角になります。必ず窓から目視し、安全を確認してから車両を操作してください。常に低速で車両を移動させてください。

- **実際の距離感を間違えないように注意する。**

  インテリジェント アラウンドビューモニターに映し出される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。



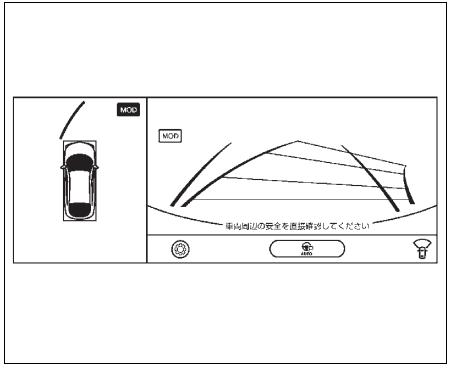
●＜パワースイッチ＞がONのときに、ナビゲーションシステムの＜CAMERA＞を押すか、シフトポジションを**R**にするとナビゲーションシステムに表示します。

インテリジェント アラウンドビューモニターの使いかた

⚠ 警告

- **ドアミラーを格納した状態で使用しない。**

  適切な範囲を映すことができません。また使用するときは、バックドアが確実に閉まっているか確認してください。



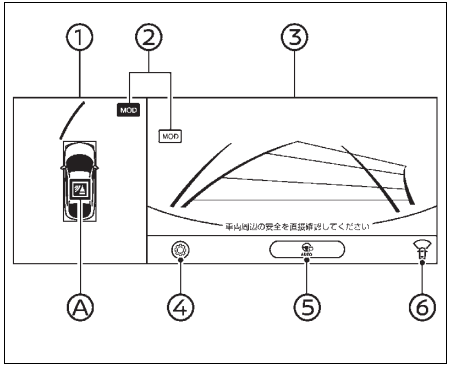
●シフトポジションを**R**にするとインテリジェント アラウンドビューモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／リヤビュー（右側画面）を表示します。シフトポジションを**R**から他の位置にすると、インテリジェント アラウンドビューモニターがOFFになります。

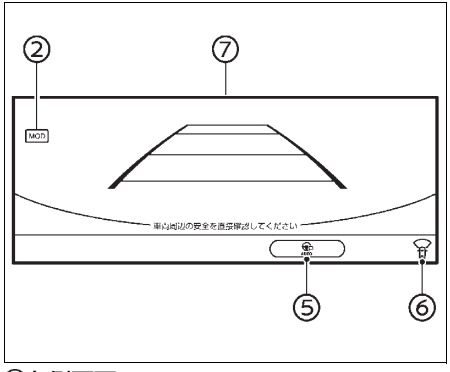
●シフトポジションが**D**または**B**のときに、ソナーが障害物を検知したときはインテリジェント アラウンドビューモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／フロントビュー（右側画面）を表示します。障害物の検知がなくなると、インテリジェント アラウンドビューモニターはOFFになります。

●＜CAMERA＞を押すとインテリジェント アラウンドビューモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／フロントビュー（右側画面）を表示します。

- インテリジェント アラウンドビューモニター表示中に＜CAMERA＞を押すと、画面を切り替えることができます。
  - ― シフトポジションがRのとき
    トップビュー（左側画面）/リヤビュー（右側画面）
    →サイドブラインドビュー（左側画面）/リヤビュー（右側画面）
    →リヤワイドビュー（全画面）
  - ― シフトポジションがR以外のとき
    トップビュー（左側画面）/フロントビュー（右側画面）
    →サイドブラインドビュー（左側画面）/フロントビュー（右側画面）
    →フロントワイドビュー（全画面）
    →インテリジェント アラウンドビューモニターOFF
- 右側画面にフロントビューが表示されているときにシフトポジションをRにすると、リヤビューに切り替わります。シフトポジションをRから他の位置にすると、再度、フロントビューに切り替わります。
- **3分タイマー機能**
  ＜CAMERA＞を押してから約3分後にインテリジェント アラウンドビューモニター表示が消える機能です。シフトポジションがR以外のときに作動します。（ただし、タイマー作動中に＜CAMERA＞を押したり、ソナーまたは移動物 検知機能が作動したりするとタイマーがリセットされます。）

画面の見かた





①左側画面

- トップビューまたはサイドブラインドビューを表示します。
- ＜パワースイッチ＞をONにしてから初めてインテリジェント アラウンドビューモニターを表示したときに、アイコンⒶの色と点滅（約3秒間）で、ソナーの作動状況を表します。
  - ― 赤色に点滅：ソナーON
  - ― 灰色に点滅：ソナーOFF（ソナーをOFFにした直後も点滅します。）

②移動物 検知機能作動状態アイコン

- どちらのビューで移動物 検知機能が作動するかを表します。
  - ― MOD（緑色）：移動物 検知機能が作動します
  - ― MOD（灰色）：移動物 検知機能が作動しません
- 表示しているビューで映している範囲でのみ移動物 検知機能が作動します。例えば、リヤビューで移動物 検知機能を作動させている場合には、車両前方の移動物は検知しません。

③右側画面

- シフトポジションがRのときはリヤビューを、R以外のときはフロントビューを表示します。

④プロパイロット パーキング設定アイコン

- プロパイロット パーキングの設定ができます。
  ➔プロパイロット パーキングの設定 (P.324)

⑤プロパイロット パーキング開始アイコン

- タッチするとプロパイロット パーキングを開始します。

⑥方向指示アイコン

- 画面の映している方向を表します。
  - ― ：リヤビュー表示

— : フロントビュー表示
— : ワイドリヤビュー表示
— : ワイドフロントビュー表示

⑦全画面ワイドビュー画面

●フロントまたはリヤワイドビューを表示します。

画面表示に関する注意事項

⚠ 警告

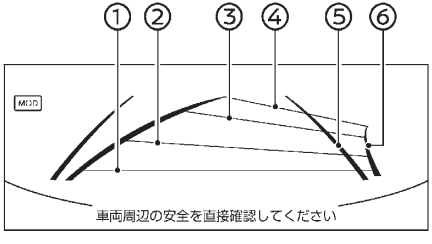
- **リヤビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。**
- **ドアミラー、車両前方、車両後方に装着されているカメラからの映像を組み合わせて処理した疑似的な映像のため、トップビューは、障害物を実際より遠く映します。**
- **囲いや車両といった高さのある障害物は、映像の継ぎ目で位置がずれたり、表示されなかったりすることがあります。**
- **カメラの高さよりも上にある障害物は表示されません。**
- **トップビューの映像は、カメラの位置が変化するとずれることがあります。**
- **路上の線は映像の継ぎ目でずれたり、曲がって見えたりすることがあります。ずれは、車両から遠ざかるにつれて大きくなります。**

画面表示の種類について

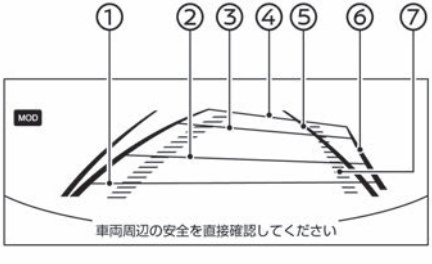
■ フロントビュー／リヤビュー

●車両の前方／後方の映像をインテリジェント アラウンドビューモニター右側画面に表示します。

<フロントビュー>



<リヤビュー>



距離目安ライン

●車体からの距離の目安を表示します。
— ①赤色：約0.5m
— ②水色：約1m
— ③水色：約2m
— ④水色：約3m

⑤車幅目安ライン

●車幅の目安を表示します。

⑥予想進路線

●運転操作時に予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。
●フロントビューは、車速が約10km/hを超えると表示されなくなります。

⑦タイヤ予想進路線

●タイヤの予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

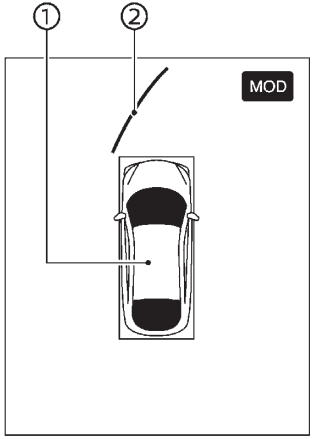
アドバイス

- フロントビューが表示されているときに、中立位置から約90度の範囲内でハンドルを切ると、予想進路線が左右に表示されます。約90度以上ハンドルを切ると、予想進路線はハンドルを切った方向とは逆方向にのみ表示されます。
- リヤビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた映像です。
- 雪道や滑りやすい路面では、予想進路線と実際の進路が異なることがあります。

アドバイス

- リヤビューカメラは車幅の中心よりずれた位置に取り付けられているため、リヤビューの表示は多少右にずれて見えます。

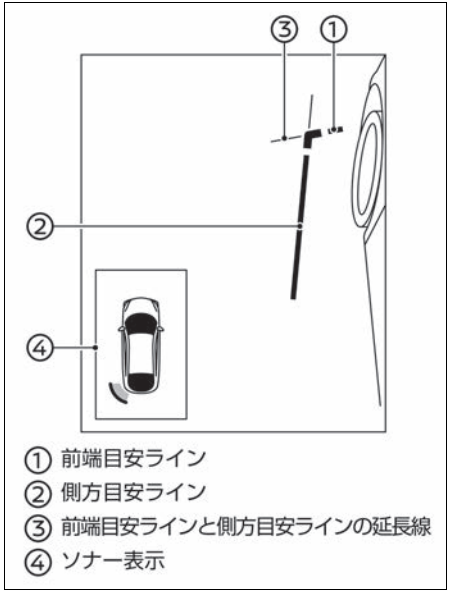
■ トップビュー



① 自車
② 予想進路線

- 自車位置や駐車スペースへの進入コースが分かりやすい、車両を上から見たような映像をインテリジェント アラウンドビューモニター左側画面に表示します。
- 車両アイコン①は、自車位置を示しています。トップビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。
- 予想進路線②はハンドルを切った角度のまま進んだときの予想進路を表示します。

■ サイドブラインドビュー



① 前端目安ライン
② 側方目安ライン
③ 前端目安ラインと側方目安ラインの延長線
④ ソナー表示

- 車両の左側前輪付近から前方を、インテリジェント アラウンドビューモニター左側画面に表示します。道路端への幅寄せ駐車などに便利です。

目安ライン

- モニターには車幅と車両の前端を示す目安ラインが表示されます。
  - ①前端目安ラインは、車両前部の位置の目安を示します。
  - ②側方目安ラインは、ドアミラーを含めた車幅の目安を示します。
  - ③前端目安ラインと側方目安ラインの延長線は、水色で表示します。

ソナー表示

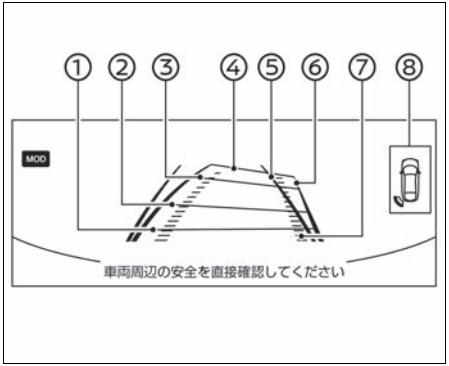
- ④ソナー表示は、ソナーが障害物を検知すると、表示されます。

アドバイス

- 方向指示器の光が側方目安ラインと重なる場合がありますが、異常ではありません。
- サイドブラインドビュー表示中に、約10km/h以上になると画面の一部が灰色となりますが、異常ではありません。

■ 全画面フロントワイドビュー／全画面リヤワイドビュー

- 車両の前方／後方の映像を、画面いっぱいに表示します。



距離目安ライン

●車体からの距離の目安を表示します。

— ①赤色：約0.5m

— ②水色：約1m

— ③水色：約2m

— ④水色：約3m

⑤車幅目安ライン

●車幅の目安を示します。

⑥予想進路線

●運転操作時に予想進路を示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

⑦タイヤ予想進路線（全画面リヤワイドビューのみ）

●タイヤの予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

⑧ソナー表示

●ソナーが障害物を検知すると表示します。

アドバイス

- リヤビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた映像です。
- 雪道や滑りやすい路面では、予想進路線と実際の進路が異なることがあります。
- リヤビューカメラは車幅の中心よりずれた位置に取り付けられているため、リヤビューの表示は多少右にずれて見えます。

画質調整のしかた

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、インテリジェント アラウンドビューモニター画面の画質を調整することができます。

［ ⌂ ］⇒［ ⚙ ］⇒［カメラ］

ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

項目 1	項目 2	機能
画質調整	明るさ	●［+］、［−］をタッチして明るさを調整します。
	コントラスト	●［+］、［−］をタッチしてコントラストを調整します。
	色合い	●［+］、［−］をタッチして色合いを調整します。
	色の濃さ	●［+］、［−］をタッチして色の濃さを調整します。
	黒レベル	●［+］、［−］をタッチして黒レベルを調整します。

移動物 検知機能について

●車庫入れや駐車場からの発進時などに自車周辺の移動物を運転者にお知らせすることで、安全確認をサポートする機能です。

●車両周辺に移動物があるときに、音と黄枠を表示してお知らせします。

●トップビューに MOD （緑色）表示がある場合には移動物を検知したエリア（前後左右）に黄枠を表示します。

●移動物 検知機能は以下の条件のとき、MOD （緑色）が表示されている画面で作動します。

— シフトポジションがPまたはNで停車しているときに、トップビュー側で作動します。

— シフトポジションが**D**で車速約8km/h以下のときに、フロントビューで作動します。
— シフトポジションが**R**で車速約8km/h以下のときに、リヤビューで表示します。

⚠ 注意

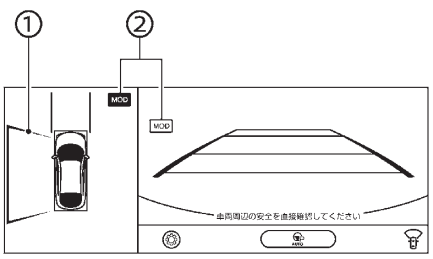
● **車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。**

📖 知識

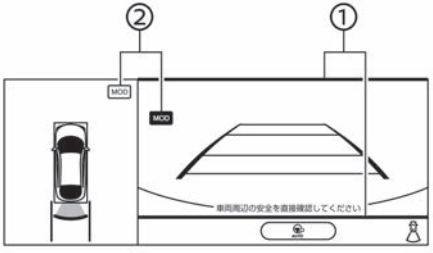
● ソナーブザーが鳴っている場合は移動物 検知機能ブザーは鳴りません。
● サイドブラインドビューには移動物検知機能がないため、移動物 検知機能作動状態アイコンを表示しません。

画面の見かた

<トップビュー>



<リヤビュー>



①移動物 検知表示

●移動物 検知機能で移動物を検知したときに、黄枠でお知らせします。

②移動物 検知機能作動状態アイコン

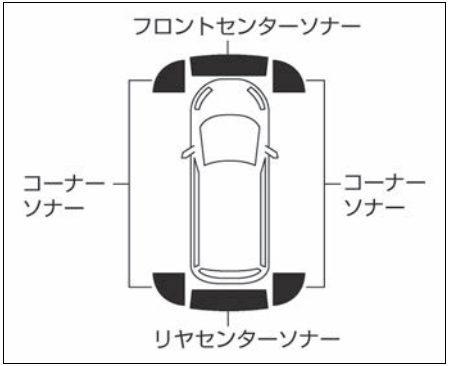
●移動物 検知機能を作動させる側の画面のアイコンを緑色で表示します。
— MOD（緑色）：移動物 検知機能が作動します
— MOD（灰色）：移動物 検知機能が作動しません

●以下の場合には移動物 検知機能は作動しません。
— 車速やシフトポジションが移動物 検知機能の作動条件から外れている場合
— トップビューによる移動物 検知機能作動中でいずれかのドアが開いている場合
— リヤビューによる移動物 検知機能作動中でバックドアが開いている場合

●トップビューによる移動物 検知機能作動中で電動格納式ミラーが作動していると、誤検知する場合があります。

ソナー機能について

●インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）を表示させて、走行中にソナーが静止した障害物を検知した場合は、ソナー表示とブザーでお知らせします。
●ソナー表示はトップビュー、サイドブラインドビューまたは全画面ワイドビュー画面に表示されます。
●障害物を検知してから、ソナー表示とブザーが出るまでに多少時間がかかります。



⚠ 警告

- **バンパーにへこみなどがあると正確な距離が測定できず、正常に作動できない場合があります。**
- **適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤作動の原因になります。**
- **純正以外のバンパーを取り付けたとき、正常に作動できない場合があります。**
- **ソナーの性能には限界があるため、システムだけに頼らず、常に安全を心がけてください。詳細については、検知条件と制限をお読みください。**

➔ソナーの検知条件と制限 (P.217)

⚠ 注意

- **気温や天候、路面状態などの周囲の状況や、障害物の大きさ、形状によってはソナーが検知できないことがあります。また、音波を吸収しやすいものにも、ソナーが検知できないことがあります。必ず周囲を確認して運転をしてください。**
- **次のような障害物には作動しません。**
  - ― 背の低い障害物
  - ― 幅の狭い障害物
  - ― 針金、金網、ロープなどの細い障害物
  - ― ソナーに非常に近い障害物
  - ― 急に進行方向に現れた障害物
- **次のような障害物は検知しないことや作動が遅れることがあります。**
  - ― 地面から高い位置に存在する障害物
  - ― スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- **ソナーは次のような場合は検知しない、もしくは正しく検知できない場合があります。**
  - ― 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
  - ― 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき
  - ― 周囲に草が生い茂っているとき
  - ― 車両側面の近くに壁があるとき
  - ― 路面上に段差や突起物があるとき
  - ― 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
  - ― 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
  - ― 周囲で大きな音が鳴っているとき
  - ― 車両感応センサーやホーン、他車のソナー、オートバイの排気音など超音波を発生するものが付近に存在するとき
  - ― 炎天下や寒冷時
  - ― 表面が一様でない障害物（複数の障害物が積載されて凹凸に形状を成している場合）
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**
- **ソナー部が凍結したときは異常表示が出たり、壁などの障害物があったりしてもソナーが検知しないことがあります。**

  （氷が解ければ、正常に復帰します）
- **ソナーは前後バンパーについています。バンパーには、ステッカーを貼ったりアクセサリーなどを取り付けたりしないでください。**
- **適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤警報や誤操作の原因になります。**

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにソナーはいつもきれいにしておいてください。ソナーの取り扱いについては、（P.443）をお読みください。

■ コーナーソナー

障害物までの距離（目安）	60～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄	赤
表示点滅速度	遅い	早い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ フロントセンターソナー

障害物までの距離（目安）	100～70cm	70～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	緑	黄	赤
表示点滅速度	遅い	遅い	早い	点灯
ブザー音	無し	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ リヤセンターソナー

障害物までの距離（目安）	150～70cm	70～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄	赤
表示点滅速度	遅い	早い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ ソナー表示色

- ソナー表示の色は、障害物に近づくにしたがって、緑、黄、赤と変化します。ソナーの表示の色と距離目安線とでは障害物までの距離は異なります。

■ ブザー音

- 障害物との距離が近づくにしたがって、断続音の間隔が短くなります。表示が赤の場合は連続音になります。
- 障害物との距離が広がった場合は断続音が消え、ソナー表示のみとなります。
- フロントソナーが検知したときは低音、リヤソナーが検知したときは高音でお知らせします。

■ ソナー機能OFF

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［運転支援］⇒［駐車支援］を選択すると、各ソナー機能のON･OFFを設定できます。

■ ソナーシステムの作動が停止するとき

- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。ソナーシステム異常警告（P.390）

インテリジェント アラウンドビューモニターに関する注意事項

⚠ 警告

- **カメラはフロントグリル中央部、ドアミラー、リヤナンバープレート上部に装着されています。作動を妨げるような物をカメラ部分に取り付けないでください。字光式ナンバープレートやナンバープレートリムを装着すると、フロントビューおよびリヤビューモニターの映像が一部映らなくなることがあります。**
- **距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離は目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。**
- **目安ラインや予想進路線は、乗車人数などの影響により実際の距離と異なることがあります。目安としてお使いください。**
- **サイズが異なるタイヤと交換すると、予想進路線とトップビューが不適切に表示されることがあります。**

⚠ 警告

- **上り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。下り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも近くにあるように見えます。ミラーを併用するか、目視によって正確な距離を判断してください。**
- **フロントビューおよびリヤビューの表示線は、路面の状況により障害物への距離が実際と異なって見えることがあります。特徴をよく理解してください。**

アドバイス

- カメラに汚れ、雨、雪が付着すると、映像の映りが悪くなることがあります。カメラを清掃してください。

  ➔フロントビュー／サイドビューカメラの取り扱い (P.443)

  ➔リヤビューカメラの取り扱い (P.443)
- アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて含ませた布でふき取ったあと、乾いた布でふいてください。
- モニター映像に悪影響が生じるため、カメラに傷をつけないよう注意してください。
- カメラにはワックスを使用しないでください。中性洗剤を薄めて含ませた清潔な布でワックスをふき取ってください。

●カメラレンズの特性により、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して見えたりすることがあります。車幅目安ラインと予想進路線は、実際の車幅と進路よりも広くなっています。

●シフトポジションがR以外のとき、<CAMERA>を押してインテリジェント アラウンドビューモニターを表示させたあと、ソナーまたは移動物 検知機能が作動しない状態で約3分間操作を行わないでいると、インテリジェント アラウンドビューモニター表示が消えます。（3分タイマー機能）

●画面の切り替わり後は、映像の表示が遅れることがあります。インテリジェント アラウンドビューモニターが完全に表示されるまでは、映像が一時的にゆがむことがあります。

●外気温が極端に高いか、低いときは、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。

●カメラに直接強い光を当てると、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。

●蛍光灯照明が当たると、映像にちらつきが出ることがありますが、異常ではありません。

●インテリジェント アラウンドビューモニター映像の色味は、実際とはわずかに異なって見えることがあります。

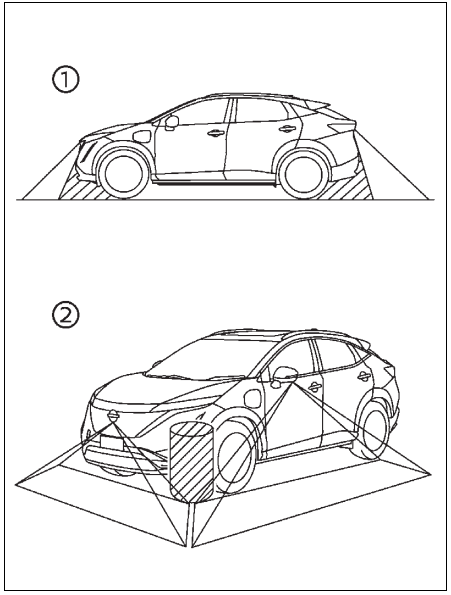
●暗い所や夜間時には映りが悪くなり、色味が異なって見えることがありますが、異常ではありません。

●トップビューの各カメラの映像に鮮明さの違いが生じることがあります。

●トップビューの画像は、4つのカメラからの映像を加工処理して表示するため、次のように表示される場合があります。

- 立体物が倒れこんで見える
- 路面よりも高い位置にある車両などが実際より遠くに見える
- 高さのあるものが画像の継ぎ目でずれて表示される
- 各カメラ画像の明るさが違う

映し出す範囲

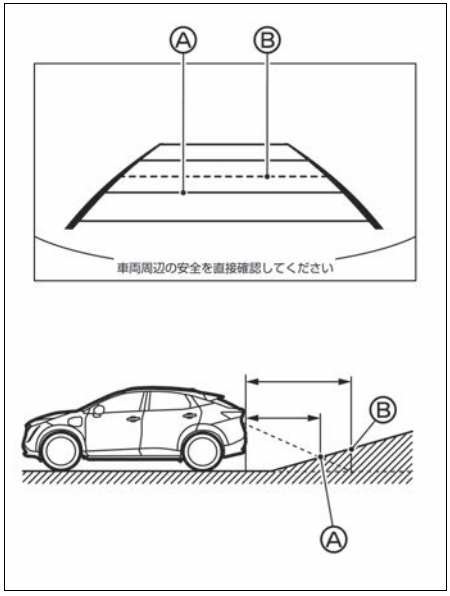


●特定の領域は、カメラに映し出されません。フロントビューまたはリヤビューでは、バンパー下側または地上面の部分は表示されないことがあります①。トップビューではカメラの映し出す範囲の境目付近にあるもの、路面より高さのあるものは表示されないことがあります②。

映像と実際の路面との誤差

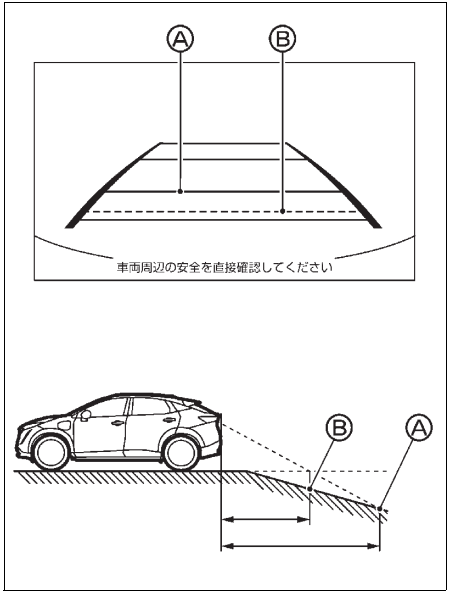
●フロントビューとリヤビューに表示される距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離はあくまでも目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

急な上り坂が後方にあるとき



●距離目安ライン、車幅目安ラインは実際の距離よりも手前に表示されます。例えば、位置Ⓐまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Ⓑです。上り坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。

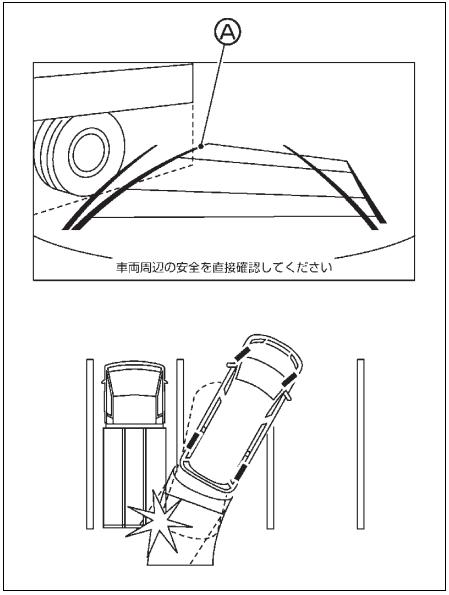
急な下り坂が後方にあるとき



●距離目安ラインと車幅目安ラインは実際の距離よりも後ろに表示されます。 例えば、位置Ⓐまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Ⓑです。下り坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも近くにあるように見えます。

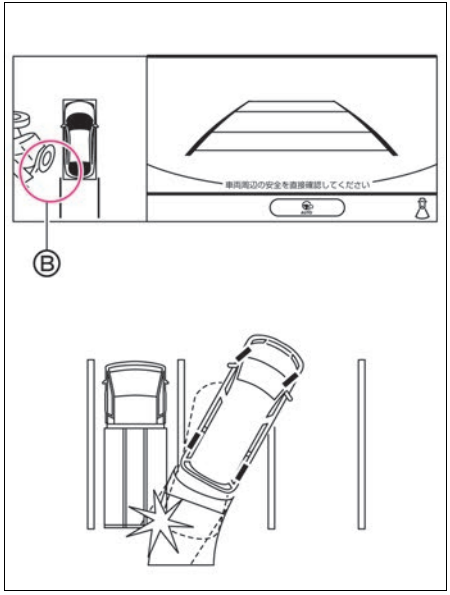
立体物が近くにあるとき

●立体物が近くにある場合には実際の距離と異なって表示される場合があります。



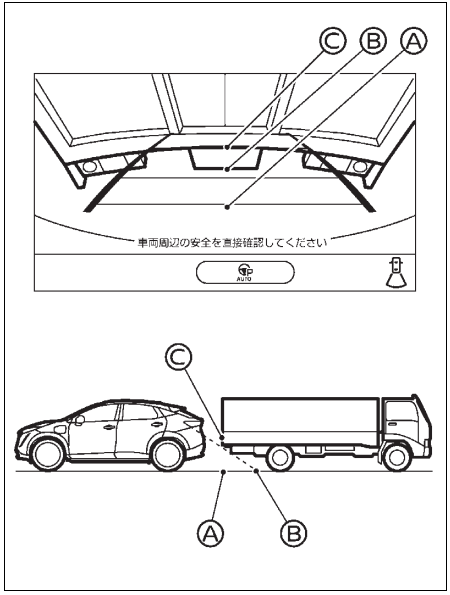
●例1：予想進路線Ⓐは表示されているトラックの車体に触れていません。しかし、トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合は、ぶつかることがあります。

●例2：表示されているトップビューⒷでは、自車とトラックの車体間にはわずかな距離があるように見えます。しかし、実際の距離は表示されているよりも短く、トラックの車体にぶつかることがあります。

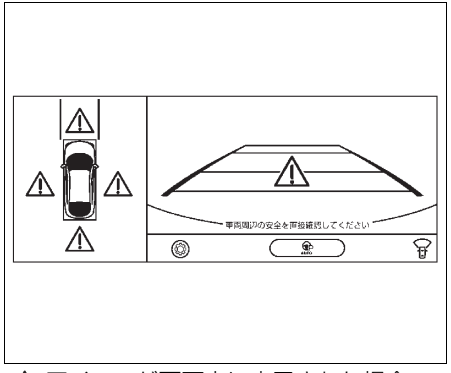


立体物に接近するとき

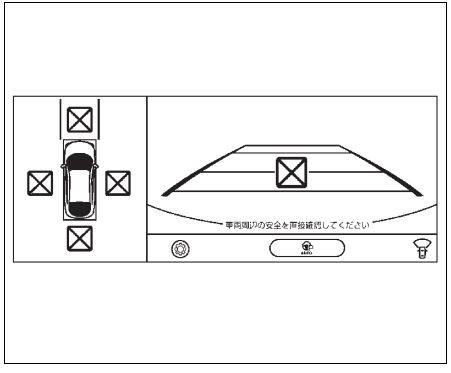
●Ⓒの位置はⒷの位置よりも遠くにあるように見えますが、実際はⒶの位置と同じ距離です。トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合は、Ⓐの位置まで下がるとぶつかることがあります。



画面のエラー表示について



⚠ アイコンが画面内に表示された場合は、インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）の異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。



☒ アイコンが画面内に表示された場合は、カメラ映像が一時的に周囲の電子機器の影響を受けている可能性があります。頻繁に表示される場合は日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェント アラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限

- インテリジェント アラウンドビューモニターカメラは次のような場合、障害物や区画線などを検知できないことがあります。
  - 雨や水しぶきがかかったとき
  - 夜間、地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
  - 悪天候（雨、雪、霧、粉じん、砂じん、吹雪など）などで視界が悪いとき
  - カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズがくもっているとき
  - 太陽や電灯の光が路面に映っているとき
  - 太陽や電灯の強い光が路面にあたっているとき
  - 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあったりするとき
  - 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
  - カメラのレンズの曇りや、汚れ、油膜、虫汚れ、水滴、氷、雪、泥などが付着しているとき
  - カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき
  - カメラのレンズに強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 急ブレーキや積載によって車両姿勢が大きく傾いたとき
  - トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
  - 勾配の変化があるところを走行しているとき
  - バックドアが開いているとき
  - シフトポジションがR以外のとき
  - 至近距離に歩行者が飛び出してきたとき
  - 子供などの背の低い人や動物、自転車
  - 前屈や後屈など直立・歩行以外の姿勢の人
  - 乗り物に乗っている人
  - ショッピングカートやベビーカーなどを押している人
  - 合羽やワンピースなど輪郭が曖昧になる服装の人
  - 傘や大きなカバンを所持していて体の一部が隠れている人
  - 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき

カメラ映像が正常に表示されない場合

シフトポジションをRに入れ、インテリジェント アラウンドビューモニターを作動させた状態でも次のような画面表示が続く場合は、カメラシステムの異常が考えられ

ます。通常走行には支障ありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

カメラECUが作動しない場合

- インテリジェント アラウンドビューモニター画面がカメラ画面に切り替わらず、前の画面（ナビゲーションシステムなど）を表示し続けているとき

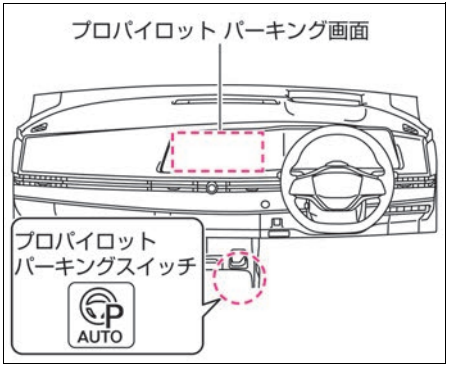
カメラが作動しない／カメラの故障／カメラECUの故障などにより映像に異常がある場合

- インテリジェント アラウンドビューモニター画面が黒色／青色／灰色など、異常なカメラ映像が表示されるとき

プロパイロット パーキング

プロパイロットパーキングは、車庫入れ、縦列駐車、前向き駐車を支援する機能です。

プロパイロット パーキングについて



- ナビゲーションシステムの画面に表示されます。
- カメラとソナーにより駐車位置を検出し、アクセル、ブレーキ、ステアリング、シフトポジション操作を制御することにより駐車操作を支援します。
- スイッチを押すとプロパイロット パーキングが起動します。

⚠ 警告

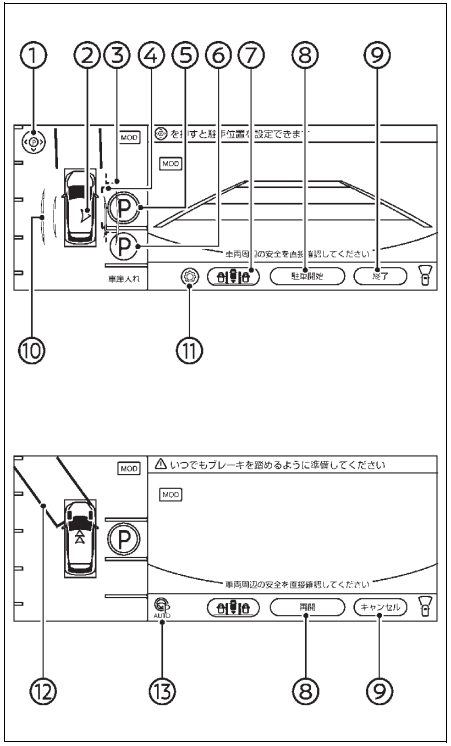
- **プロパイロット パーキングの性能には限界があります。**

  安全運転を行う責任は運転者にありますので、通常の運転操作と同様に、周りの状況をミラーや目視で直接確認し、周囲の車両や障害物、人などに接触しそうな場合はブレーキペダルを踏んで車両を停止してください。
- **ソナーやカメラの性能には限界があるため、障害物を検出できず、駐車位置や切り返し位置が適切に調整されない場合があります。**

  詳細については、ソナー/インテリジェント アラウンドビューモニター カメラの検知条件と制限をお読みください。（➔P.217、➔P.324）
- **ステアリング制御中に、ハンドルのスポーク部に触れない。**

  手や指がスポーク部に巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。また、ネクタイ、スカーフなども巻き込まれないように十分注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

プロパイロット パーキング画面



① **駐車目安枠調整アイコン（［ ］）**
駐車目安枠の位置を調整できます。

② **駐車位置検出アイコン**
駐車位置検出中に、左右どちらの駐車位置が検出されているか表示します。
［▶］：右側の駐車位置が検出されているとき
［◀］：左側の駐車位置が検出されているとき

③ **障害物目安線（赤色）**
駐車制御中に車両が通過する目安範囲を表示します。

④ **駐車目安枠（緑色）**
駐車しようとする目安位置を表示します。駐車制御中に水色に変わります。

⑤ **Ⓟ（青色）**
これから駐車する位置を表示します。

⑥ **Ⓟ（無色）**
選択された駐車位置以外に、選択可能な駐車位置を表示します。タッチするとⓅ（青色）に切り替わります。

⑦ **駐車方法切り替えアイコン**
現在選択されている駐車方法を表示します。
タッチすると駐車方法を切り替えることができます。

⑧ **［駐車開始］/［再開］**
駐車制御を開始します。

⑨ **［終了］/［キャンセル］**
プロパイロット パーキングを終了します。

⑩ **駐車位置検出目安線（水色）**
駐車位置を検出する目安範囲を表示します。

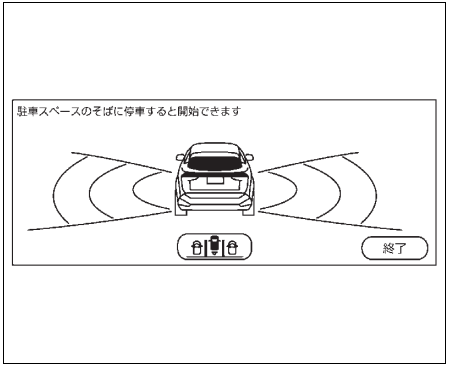
⑪ **設定アイコン（［ ］）**
プロパイロット パーキングの設定を変更できます。

⑫ **切り返し目安枠（緑色）**
切り返しを開始する目安位置を表示します。

⑬ **プロパイロット パーキング制御アイコン（［ ］）**
プロパイロット パーキングの制御状態を色で表示します。
緑色：制御中
灰色：非制御中

●ワイパー作動中やカメラレンズに付着した水滴などを検出すると［ ］が表示されます。［ ］表示中は、検出できる駐車位置が制限されます。

■ 車速が約10km/h以上になった場合



駐車位置検出中に車速が約10km/h以上になると、上の画面へ切り替わります。
車速が約10km/h以下になると、通常のプロパイロット パーキング画面に戻ります。

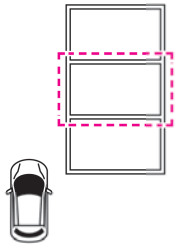
駐車方法の選択

● ［駐車開始］をタッチする前に、駐車方法切り替えアイコンで駐車方法を変更できます。アイコンをタッチするごとに駐車方法が切り替わります。

表示	駐車方法
車庫入れ 	並列駐車場所に後退して駐車
縦列駐車 	縦列駐車場所に後退して駐車
前向き駐車 	並列駐車場所に前進して駐車

プロパイロット パーキングを使って駐車する

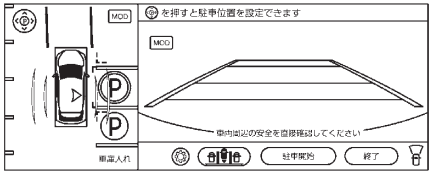
■ 操作例：車庫入れ（右側）



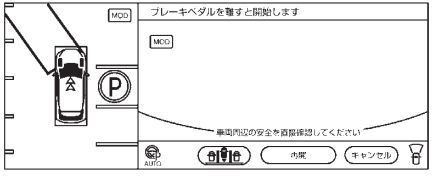
1. 駐車したい場所の手前で停車します。
2. ＜プロパイロット パーキングスイッチ＞を押すと、プロパイロット パーキングが起動します。



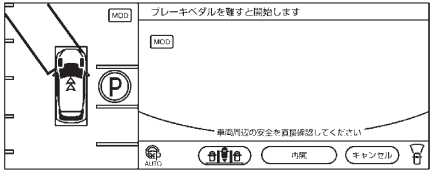
3. ゆっくりと前進し、駐車したい場所の真横（約1m）でブレーキペダルを踏んで停車する。
駐車位置検出アイコン（［▶］）が駐車したい場所の中央付近を示すように車両を停止します。
2本の駐車位置検出目安線（水色）の範囲内に駐車区画線が入るように車を移動すると、駐車位置を検出しやすくなります。



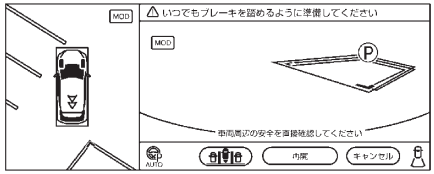
4. 停車状態で、駐車したい場所にⓅが表示されていることを確認してください。
ⓅⓅが表示されている駐車場所内や周辺に近接した障害物がないこと、車両が駐車できる十分な広さがあり、駐車可能な場所であることを確認してください。



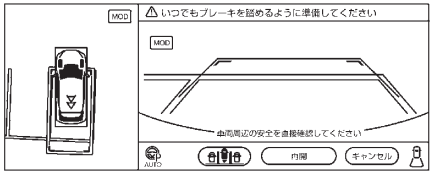
5. ブレーキペダルを踏んだまま画面上の［駐車開始］をタッチするとプロパイロット パーキング制御アイコン（［ ］）が緑色になり、自動でブレーキをかけて停車状態を保持します。
ソナー、カメラで検出した障害物により駐車位置まで移動できないと判断した場合は、駐車制御が開始されません。その場合は通常走行で駐車を行ってください。



6. ブレーキペダルを離すと切り返し目安枠の方向（矢印の向き）に車両が移動します。周辺状況に応じてブレーキペダルを踏んで車速を調整してください。



7. 切り返し目安枠（緑色）に到達するとシフトポジションが自動で切り替わり、車両が後退します。
障害物などがあり切り返し目安枠に到達できない場合は、ブレーキペダルを踏んで障害物の手前で車両を停止させ、セレクトレバーで進行方向を切り替えてください。
➔駐車制御の進行方向を切り替える (P.321)



8. 駐車目安枠（水色）に到達すると車両が停止し、駐車制御が終了します。
駐車制御が終了すると、音と表示でお知らせします。
そのとき、シフトポジションがPに切り替わり、電動パーキングブレーキが作動します。
駐車目安枠（水色）に到達する前に駐車制御が自動で終了することがあります。
➔駐車制御中（車両移動時）の自動終了について (P.318)
障害物などがあり駐車目安枠に到達できない場合は、ブレーキペダルを踏んで車両を停止させ、画面上の［キャンセル］をタッチしてプロパイロット パーキングを終了させてください。

知識

- ナビゲーションシステムの＜CAMERA＞を押し、インテリジェント アラウンドビューモニター画面上の［ AUTO ］をタッチしても、プロパイロット パーキングを起動できます。
➔インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付） (P.301)
- プロパイロット パーキング作動中はオーディオなどの音量が小さくなります。
- 駐車目安枠が実際の駐車可能な位置に表示されない場合（障害物や側溝にかかるなど）、適切な駐車位置に手動で設定してください。
➔駐車目安枠の調整 (P.320)
- 駐車制御を開始するとソナー機能が自動でONになります。プロパイロット パーキングが終了すると、アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定されたソナーの設定状態に戻ります。
- 駐車制御中は［ ］、［ ］などのランチャーメニューのアイコンをタッチしても画面は切り替わりません。＜CAMERA＞を押すと、プロパイロット パーキングは終了します。
➔プロパイロット パーキングの終了のしかた (P.318)

- 以下の場合には駐車制御を開始できません。状況が改善すると駐車制御を開始できます。
  - 運転席のシートベルトを締めていないとき
  - 電動パーキングブレーキが作動しているとき
  - VDCがOFFのとき
- 駐車車両などの障害物が障害物目安線にかかっている場合、ソナーが障害物を検知して車両が停止し、駐車を完了できないことがあります。

プロパイロット パーキングの一時停止について

駐車制御の自動停止

以下の場合は自動的にブレーキがかかり車両が停止します。

●進行方向に障害物を検出したとき
●運転席のシートベルトを外したとき

状況が改善されたことを確認し、ブレーキペダルを踏みながら画面上の［再開］をタッチすると駐車制御を再開できます。

知識

- 駐車制御を再開すると、自動でシフトポジションがDまたはRに切り替わります。
- 障害物を検出して停止した場合、駐車制御を再開すると進行方向を変えて、切り返しにより駐車制御を継続します。

知識

- ソナー、カメラで検出した障害物により駐車位置まで移動ができないと判断した場合、駐車制御を再開できません。
- シートベルトを着用しないと駐車制御を再開できません。

プロパイロット パーキングの終了のしかた

画面上の［終了］または［キャンセル］をタッチすると、プロパイロット パーキングが終了します。

駐車制御中にプロパイロット パーキングを終了すると、自動的にブレーキがかかり車両が停止し、電動パーキングブレーキが作動します。このとき、シフトポジションはPに切り替わります。

■ 駐車位置検出中の自動終了について

警告

- **駐車位置検出中の自動終了時はブレーキペダルを踏む。**

  自動でブレーキがかからないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

以下の場合は、プロパイロット パーキングが自動的に終了します。

- 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアを開けたとき
- プロパイロット パーキング起動後約500m以上走行したとき
- 車速が約30km/hを超えたとき
- ドアミラーを閉じたとき
- ［△］や<CAMERA>などで画面を切り替えたとき
- システムに異常が検出されたとき

■ 駐車制御中（車両移動時）の自動終了について

以下の場合は、プロパイロット パーキングが自動的に終了します。

駐車制御中に自動終了すると、自動的にブレーキがかかり車両が停止し、電動パーキングブレーキが作動します。このとき、シフトポジションはPに切り替わります。

- ハンドルを操作したとき
- アクセルペダルを操作したとき
- 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアを開けたとき
- 電動パーキングブレーキを作動させたとき
- シフトポジションを切り替えたとき
- <CAMERA>を押したとき
- ドアミラーを閉じたとき
- <プロパイロット パーキングスイッチ>を押したとき
- 障害物などにより駐車位置まで移動ができないと判断したとき
- 駐車制御による駐車位置が大きくずれたと判断したとき
- VDCをOFFにしたとき
- VDC/TCS/ABSが作動したとき
- 車速が約8km/hを超えたとき
- システムに異常が検出されたとき
- 駐車位置に近い場所で以下の状況になったとき
  - 駐車経路上に障害物を検出したとき
  - 運転席のシートベルトを外したとき

■ 駐車制御中（一時停止時）の自動終了について

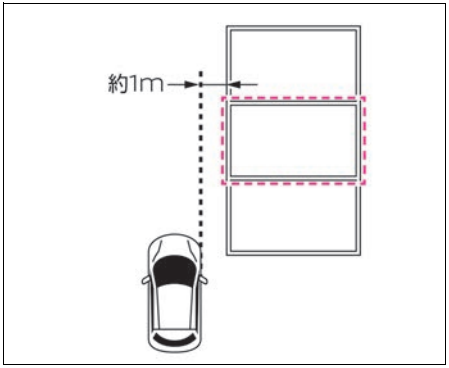
以下の場合は音と表示でお知らせし、プロパイロット パーキングが自動的に終了します。

このとき、電動パーキングブレーキが作動し、シフトポジションがPに切り替わります。

- 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアを開けたとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- 電動パーキングブレーキを作動させたとき
- シフトポジションをPまたはNに切り替えたとき
- 一時停止状態が約1分以上経過したとき
- <CAMERA>を押したとき
- ドアミラーを閉じたとき
- VDCをOFFにしたとき
- VDC/TCS/ABSが作動したとき
- システムに異常が検出されたとき
- <プロパイロット パーキングスイッチ>を押したとき

プロパイロット パーキングの駐車方法について

■ 車庫入れ



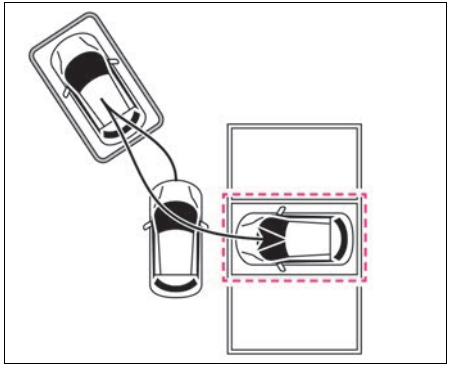
駐車したい場所の横、約1mの間隔で駐車位置に近づいてください。

駐車位置との間隔が広すぎると、障害物が検出できない場合や、区画線を検出できない場合があります。

➔駐車位置検出機能について (P.321)

ゆっくりと前進し、駐車位置に垂直になるようにブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

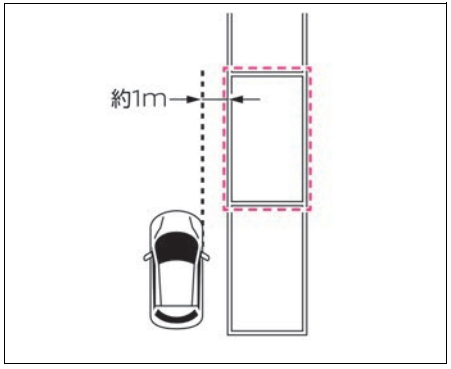
自車の運転席ドア付近が駐車したい場所の中央付近になるように車両を停止させてください。



図のような経路で駐車制御を行います。

駐車経路、切り返し回数は駐車位置、周辺の障害物の位置により異なります。

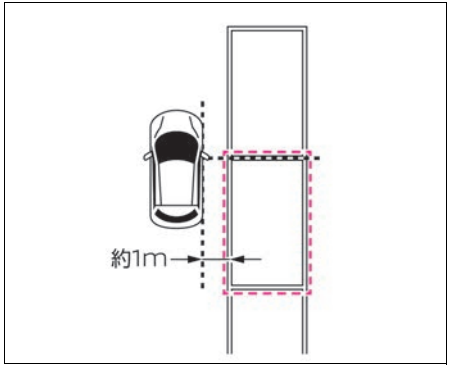
■ 縦列駐車



駐車したい場所の横、約1mの間隔で駐車位置に近づいてください。

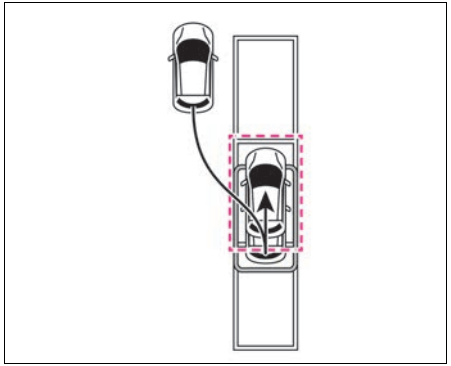
駐車位置との間隔が広すぎると、障害物が検出できない場合や、区画線を検出できない場合があります。

➔駐車位置検出機能について (P.321)



ゆっくりと前進し、駐車位置に平行になるようにブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

自車の運転席ドア付近が駐車したい場所の先端になるように車両を停止させてください。



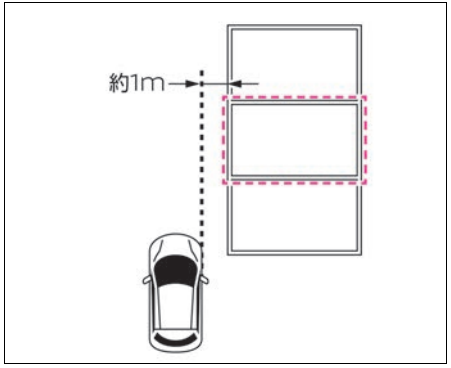
図のような経路で駐車制御を行います。

障害物や駐車位置によっては後退から開始する場合があります。

駐車経路、切り返し回数は駐車位置、周辺の障害物の位置により異なります。

（例）後退から開始する場合の経路

■ 前向き駐車



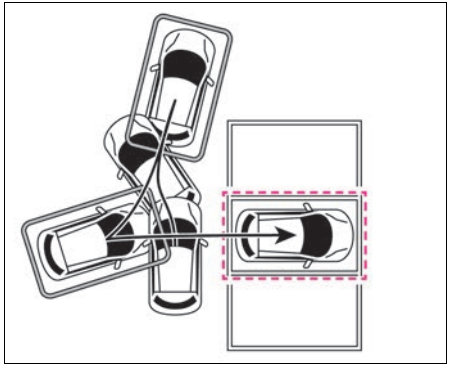
駐車したい場所の横、約1mの間隔で駐車位置に近づいてください。

駐車位置との間隔が広すぎると、障害物が検出できない場合や、区画線を検出できない場合があります。

➔駐車位置検出機能について (P.321)

ゆっくりと前進し、駐車位置に垂直になるようにブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

自車の運転席ドア付近が駐車したい場所の中央付近になるように車両を停止させてください。

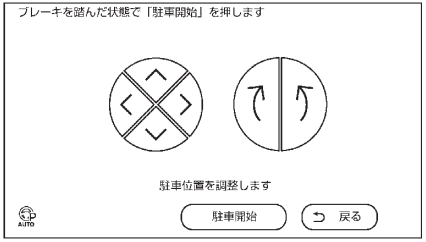


図のような経路で駐車制御を行います。

駐車経路、切り返し回数は駐車位置、周辺の障害物の位置により異なります。

駐車目安枠の調整

駐車目安枠を手動で調整することができます。



1. ブレーキを踏んで車両を停止し、画面上の駐車目安枠調整アイコン（［ ］）をタッチします。
   Ⓟが表示されているときは、Ⓟのあった位置に駐車目安枠が表示されます。
   駐車位置が検出されていないときは、デフォルトの位置に駐車目安枠が表示されます。
2. 矢印をタッチして微調整します。

知識

- 表示される障害物目安線は駐車位置に移動する際に車両の一部がはみ出す可能性がある範囲の目安を示します。車両やポールなどの障害物が障害物目安線より外側にあるときに円滑な駐車を行うことができます。
- 左側画面を直接タッチすることで、駐車目安枠を移動することができます。

知識

- 方向指示器を使って駐車目安枠の方向を切り替えることができます。

駐車制御の進行方向を切り替える

車両の進行方向に障害物（ポールなど）がある、または溝や崖など地面より低い場所があるときには、ブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

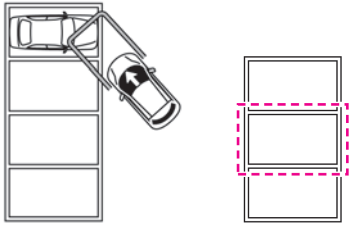
プロパイロット パーキングの注意事項 (P.323)

その後、セレクトレバーで進行方向を切り替え、駐車制御を再開します。

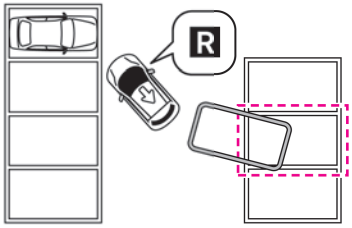
知識

- ソナー、カメラで検出した障害物により駐車位置まで移動ができないと判断した場合、駐車制御を再開できません。

（例）駐車車両がある場合



1. ブレーキペダルを踏んで車両を停止させます。



2. セレクトレバーで進行方向を切り替えます。
［再開］をタッチすると駐車制御を再開します。

駐車位置検出機能について

カメラとソナーを使って駐車位置を検出します。複数の駐車位置を検出できます。

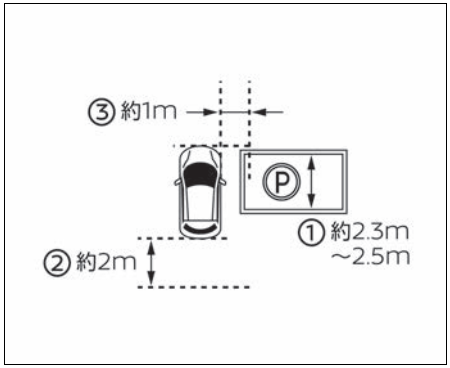
カメラを使い、駐車区画線を認識して駐車位置を表示します。

ソナーにより、検出した駐車区画内に障害物を検知した場合は駐車位置を表示しません。

知識

- フロントビュー、サイドビュー、リヤビューカメラのいずれかのカメラのレンズに汚れ、水滴などが付着しているときは検出できる駐車位置に制限がかかる場合があります。

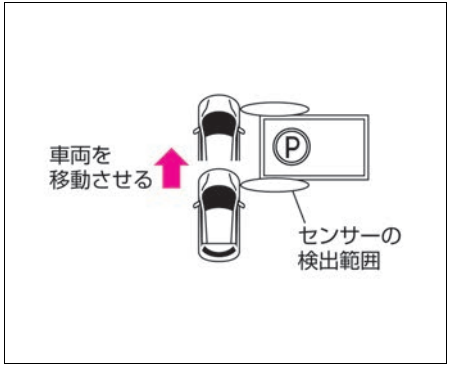
■ 車庫入れ、前向き駐車が選択されている場合



以下の条件で駐車位置を検出します。

- 幅約2.3m～2.5m①の駐車区画を基本として認識します。
- 単線またはU字の区画線を基本として認識します。
- 区画線の太さは約15㎝を基本として認識します。
- 自車の前端から自車の後端約2m②以内に区画線があるときに認識します。
- 駐車区画が自車から約1m③にあるときに認識します。
- ＜左右の自動選択＞がONの場合は車両の両側の駐車位置が検出されます。

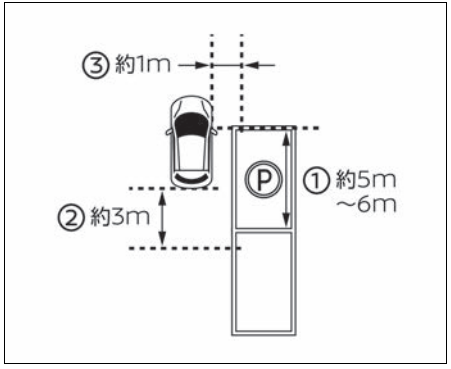
プロパイロット パーキングの設定 (P.324)



フロントのソナーセンサーの検出範囲がカメラにより検出された駐車区画上を通過し、障害物を検知した場合は駐車位置を表示しません。

ソナーセンサーの検出範囲より遠くにある駐車区画内の障害物は検出できません。

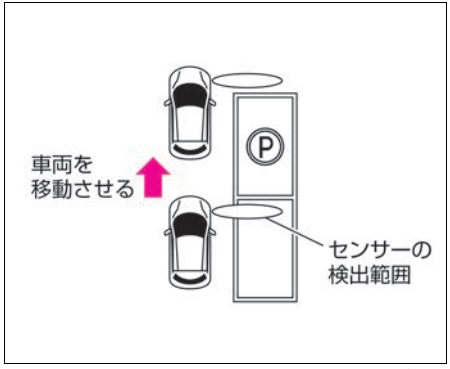
■ 縦列駐車が選択されている場合



以下の条件で駐車位置を検出します。

- 長さ約5m～6m①の駐車区画を基本として認識します。
- 区画線は単線を基本として認識します。
- 区画線の太さは約15㎝を基本として認識します。
- 自車の運転席ドア付近から自車の後端約3m②以内に区画線があるときに認識します。
- 駐車区画が自車から約1m③にあるときに認識します。
- ＜左右の自動選択＞がONの場合は車両の両側の駐車区画が検出されます。

➔ プロパイロット パーキングの設定 (P.324)



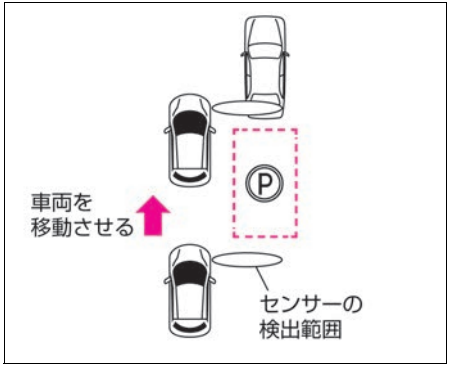
フロントのソナーセンサーの検出範囲がカメラにより検出された駐車区画上を通過し、障害物を検知した場合は駐車位置を表示しません。

ソナーセンサーの検出範囲より遠くにある駐車区画内の障害物は検出できません。

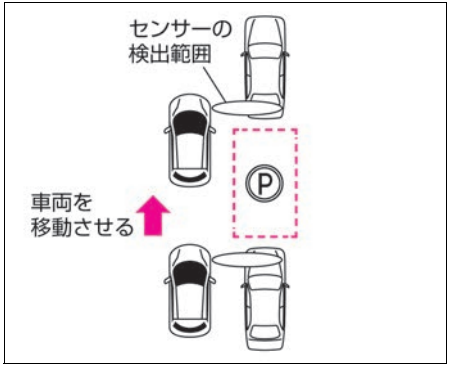
駐車区画線が認識されない場合は、ソナーセンサーを使って周囲の障害物から駐車場所を検出します。

周囲の障害物の位置や角度によっては駐車目安枠は大きくずれる場合があります。

● 障害物の手前にスペースがある場合



● 障害物間に駐車可能なスペースがある場合



プロパイロット パーキングに使用するカメラ、ソナーセンサーについて

インテリジェント アラウンドビューモニターのカメラと前後左右12個のソナーセンサーを使用しています。

取り扱いについては、フロントビュー／サイドビューカメラ（P.443）、リヤビューカメラ（P.443）、ソナー（P.443）をお読みください。

プロパイロット パーキングの注意事項

⚠ 警告

- **画面だけを見ながら走行することは絶対にしないでください。**

  障害物に接触したり、思わぬ事故につながったりするおそれがあります。

- **周囲の車両や人の動きに十分注意してください。**

  検出された通路幅を有効に使って駐車支援を行っています。対向車や後続車、歩行者の動きに十分注意して駐車制御の操作を行ってください。

- **プロパイロット パーキングによる駐車支援が必要なくなったときは、プロパイロット パーキングを終了してください。**

  プロパイロット パーキングが作動状態のままだと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **車を降りる前に、電動パーキングブレーキが作動していること、およびシフトポジションがPであることを確認してください。**
- **プロパイロット パーキングを使用する前に、車両周辺に切り返しなどの駐車操作ができるスペースが十分あることを直接確認してください。**
- **状況によっては車両内外の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があります。**
- **駐車制御中は周囲へ車両の進む方向を知らせるために方向指示器を作動させてください。**
- **次のような状況ではプロパイロット パーキングを使用しないでください。**
  - — 人や車両などの通行量が多い場所
  - — 停車および駐車が禁止されている場所
  - — 車両が入らないほど狭い場所
  - — 穴や溝などがあるような駐車できない場所
  - — 通路幅が狭い場所
  - — 急な勾配のある場所
  - — 砂地や砂利地などの整備されていない路面
  - — 雪や凍結などでスリップしやすい路面
  - — 傾斜地や段差、縁石、わだちなどのある平坦ではない路面
  - — 道幅と駐車位置に十分なスペースがないとき
  - — 真夏の炎天下でアスファルトが溶けているような路面
  - — 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されている場所
  - — 機械式駐車場や自動ロック装置のある駐車場、駐車場所に障害物などがある場所
  - — 過積載のとき
  - — 摩耗しているタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、タイヤチェーンを装着しているとき
  - — タイヤの空気圧が適正ではないとき
  - — けん引フックなどを取り付けているとき
  - — カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき
  - — カメラが汚れや西日、影などで見にくいとき
  - — ドアミラーが開き切っていないとき
  - — カメラが正常に取り付けられていないとき
  - — バンパーにソナーセンサーの性能を妨げるようなものを取り付けたとき
  - — バンパーにへこみなどがあるとき
  - — ソナーセンサー周辺に雨や雪、泥などが付着しているとき

⚠ 警告

― 極端に重い荷物を積んだり、車両の片側にだけ荷物などを積んでいたりして車両が傾いているとき

アドバイス

- 縁石や車止めは検出できません。

  縁石にホイールが接触しそうな場合や車両が車止めを越えそうな場合にはブレーキペダルを踏み車両を停止させてください。車両が損傷することがあります。

プロパイロット パーキングの故障について

システムに異常があると、ナビゲーション画面に警告メッセージが表示され、プロパイロット パーキング制御アイコン（［ AUTO ］）の色が橙色に変わり、プロパイロット パーキングが自動的に解除されます。使用中に警告が表示されたときは、安全な場所に停車して<パワースイッチ>をOFFにしてから再度ONにしてください。

上記の操作を行ってもプロパイロット パーキングが起動できないときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

プロパイロット パーキングの設定

1. ナビゲーションシステム画面の［ ⌂ ］⇒［ ⚙ ］をタッチします。
2. ［プロパイロット パーキング］をタッチし、設定項目を選びます。

表示	駐車方法
［前回駐車方法を選択］	ONにすると前回の駐車方法が選択されます。 OFFにすると車庫入れが選択されます。
［左右の自動選択］	ONにすると車両の両側の駐車位置が検出されます。 OFFにすると前回プロパイロット パーキングを使用した側の駐車位置のみ検出されます。 そのとき、方向指示器を作動させると作動方向の駐車位置を検出します。
［駐車方法の設定］	プロパイロット パーキング画面で選択できる駐車方法を設定できます。 ONになっている駐車方法が駐車方法変更アイコンをタッチするごとに選択されます。 OFFになっている駐車方法は駐車方法変更アイコンをタッチしても選択されません。 ➔駐車方法の選択 (P.315)

ソナーの検知条件と制限

⚠ 警告

- **ソナーの性能には限界があります。**
  詳細についてはソナーの検知条件と制限をお読みください。

  ➔ソナーの検知条件と制限 (P.217)

インテリジェント アラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限

⚠ 警告

- **インテリジェント アラウンドビューモニターカメラの性能には限界があります。**

  詳細についてはインテリジェント アラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限をお読みください。

  ➔インテリジェント アラウンドビューモニターカメラの検知条件と制限 (P.312)

プロパイロット パーキングの条件と制限

次のような場合、正常に作動しないことがあります。

- 以下のような状況ではブレーキがかかるなど、適切に駐車制御できない場合があります。
  ― 雨、雪、氷、汚れなどがソナーセンサーに付着しているとき

— 周囲で大きな音が鳴っているとき
— 周囲に超音波（ソナーを搭載した車両を含む）を発するものがあるとき
— 周囲に草が生い茂っているとき
— 凸形状または凹形状の構造物の近くを通過しているとき
— 車両側方の近くに構造物（壁、料金所設備、駐車場のゲート設備など）があるとき
— 路面上に段差や突起物、排水溝のふたがあるとき
— 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって通過するとき
— 車両周辺に雪の固まりがあるとき

●以下のような状況ではシステムが機能を十分に発揮できない場合があります。
— 純正品以外のタイヤを使用しているとき

●以下のような状況では設定した位置に正しく駐車制御できない場合があります。必要に応じて適切な位置に車両を移動してください。
— 路面が平坦ではないとき
— 極端に重い荷物を積んだり、車両の片側にだけ荷物などを積んでいたりして車両が傾いているとき

●以下のような状況では駐車位置を検出できない、または検出しにくい場合があります。
— 自車が駐車区画に近すぎるとき
— 駐車区画がロープ、ブロックなどで作られている区画線のない駐車場
— 区画線がかすれや汚れによってはっきり見えないとき
— 路面と区画線のコントラストが低いとき
— 路面の区画線が黄色などの白線以外の色のとき
— 駐車区画が極端に狭いもしくは広いとき
— 区画線が極端に短いとき
— 区画線が極端に細いもしくは太いとき
— 駐車エリアが傾斜しているなどカメラ映像上で平行な区画線に見えないとき
— 区画線が斜め線などと接続されているとき
— 区画線に車両の影や木陰などがかかっているとき
— 隣の車両や障害物などが区画線上にあるとき
— 駐車区画内に障害物があるとき
— 夜間、地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
— 悪天候（雨、雪、霧、粉じん、砂じん、吹雪など）などで区画線がはっきりと映っていないとき
— カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズがくもっているとき
— 太陽や電灯の光が路面に映っているとき
— 太陽や電灯の強い光が路面にあたっているとき
— 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあったりするとき
— 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
— カメラのレンズが汚れていたり、水滴が付着していたりしているとき
— カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき
— 段差、側溝、路面ペイント、引き直し線などがあるとき
— 積雪や融雪剤があるとき
— 石畳や緑化駐車場のとき
— 画面上で駐車区画内にノイズ状の模様があるように表示されているとき
— 駐車区画内に文字などが描かれているとき
— 路面の色や明るさが一様でないとき
— 駐車区画と自車が傾いて止まっているとき
— 通路幅が狭いとき
— 前方に障害物があるとき
— 雨、雪、氷、汚れなどがソナーセンサーに付着しているとき
— 周囲で大きな音が鳴っているとき
— 周囲に超音波（ソナーを搭載した車両を含む）を発するものがあるとき
— 周囲に草が生い茂っているとき
— 路面上に段差や突起物、排水溝のふたがあるとき
— 車両周辺に雪の固まりがあるとき

●以下のような状況では適切な位置に駐車位置が検出されない場合があります。
— 区画線に見えるような光、建物などの映り込み、段差、側溝、路面ペイント、引き直し線などがあるとき
— 路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき

— 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあったりするとき
— 路面の色や明るさが一様でないとき
— 勾配がついている駐車場
— 区画線に駐車車両のサイドステップや、影が差しかかっているとき
— 区画線がかすれや汚れによってはっきり見えないとき
— 自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき

●純正品以外のタイヤを使用しているときには、設定した位置に正しく駐車制御できない場合があります。冬用タイヤなどへ交換をした際は、日産販売会社にご相談ください。

プロパイロット リモート パーキング★

車外からプロパイロットリモートパーキング用インテリジェントキーを用いて、車両の前進および後退を行い、駐車操作を支援します。

プロパイロット リモート パーキングについて

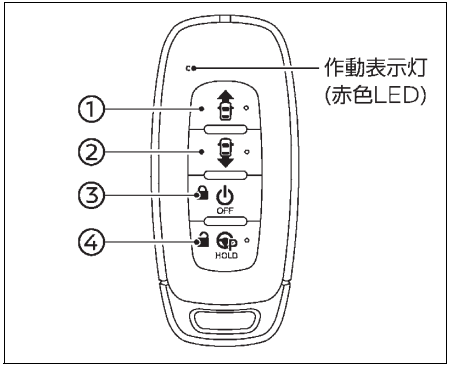
●車両のアクセル、ブレーキ、ステアリング、シフト、電動パーキングブレーキを制御します。

⚠ 警告

- **プロパイロット リモート パーキングの操作は運転行為の一部です。必ず有効な運転免許証を保持した運転者が操作してください。特に小さなお子さまが誤って操作することがないようにしてください。**
- **プロパイロット リモート パーキングの性能には限界があります。**

  周囲の安全を確認し、事故を防ぐために必要な操作を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、通常の運転操作と同様に、周りの状況を目視で直接確認し、周囲の車両や障害物、人などに接触しそうな場合はプロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーのスイッチを離して車両を停止させてください。

プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキー



作動表示灯

- 消灯：プロパイロット リモート パーキング非作動
- 点灯：プロパイロット リモート パーキング作動準備完了
- 点滅（早）：プロパイロット リモート パーキングが作動し前進または後退を行っている
- 点滅（遅）：プロパイロット リモート パーキング作動準備中、または終了中

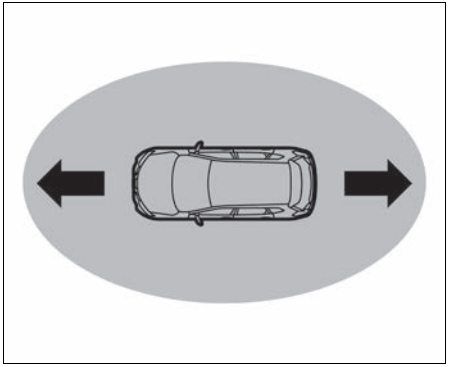
① **プロパイロット リモート パーキング前進スイッチ**
プロパイロット リモート パーキングが作動時に、車両を前進するのに使用します。

② **プロパイロット リモート パーキング後退スイッチ**
プロパイロット リモート パーキングが作動時に、車両を後退するのに使用します。

③ **プロパイロット リモート パーキングOFF/ドア施錠スイッチ**
プロパイロット リモート パーキングが作動時、プロパイロット リモート パーキングを終了するのに使用します。
プロパイロット リモート パーキングが非作動時は、全ドアを施錠するのに使用します。

④ **プロパイロット リモート パーキングON/ドア解錠スイッチ**
プロパイロット リモート パーキングが非作動時、短押しすることで全ドアを解錠するのに使用します。また長押しすることでプロパイロット リモート パーキングを起動させるのに使用します。そのあとEVシステムが立ち上がると、プロパイロット リモート パーキングは作動中になります。
プロパイロット リモート パーキングが作動時、車両を前進・後退するのに使用します。

プロパイロット リモート パーキングの作動範囲



作動範囲は車両端から約3.5m以内です。

プロパイロット リモート パーキングに使用するソナーセンサーについて

⚠ 警告

- **車両のソナーセンサーが進行方向に障害物を検知し衝突のおそれがあると判断したときは、自動的にブレーキをかけますが機能には限界があります。**
  障害物を検知できない場合には衝突するおそれがあります。過信せず周囲の安全確認を心がけてください。自動ブレーキをかけたあと、プロパイロット リモート パーキングは終了します。再開は状況が改善されたことを確認してから行ってください。

ソナーセンサー
前後左右の12個のソナーセンサーを使用しています。
取り扱いについては、（➔P.443）をお読みください。

プロパイロット リモート パーキングを使って駐車する

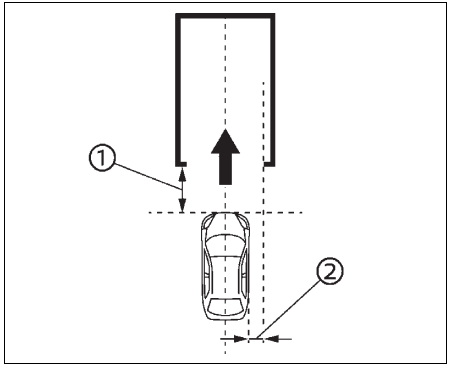
⚠ 警告

- **プロパイロット リモート パーキングを使用する際は、車室内に人やペットが残らないようにしてください。**
  ハンドルやアクセルペダル、ブレーキペダルなどの操作が行われると、車両は停止しプロパイロット リモート パーキングは自動的に終了します。
- **安全な場所でプロパイロット リモート パーキングの操作を行ってください。**
  プロパイロット リモート パーキングの操作をするときは、周囲の車両や人の動きに注意し安全を確保してください。
- **プロパイロット リモート パーキングの操作をするときは自車の進路上にいないでください。**
- **プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーだけを見ながら操作することは絶対にしないでください。**

⚠ 警告

- **運転者が停車位置を定め、停車位置でプロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーのスイッチを離して車両を停止させてください。**

  停車する場所や周囲の障害物などの位置を考慮して自動で停車するシステムではありません。

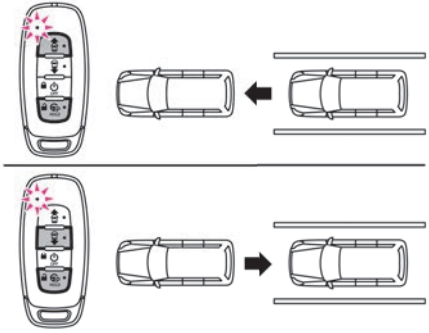


車両を駐車したい位置に合わせて停車します。EVシステムを停止させてから降車してください。

①推奨位置：間口から約1.5m

②進行可能なスペース：左右の車両側面からそれぞれ約40cm以上

1. プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーの<プロパイロット リモート パーキング ON/ドア解錠スイッチ>④でドアを解錠します。
2. <プロパイロット リモート パーキング ON/ドア解錠スイッチ>④を長押しします。EVシステムが始動し、プロパイロット リモート パーキングが起動します。



3. <プロパイロット リモート パーキング ON/ドア解錠スイッチ>④を押しながら、<プロパイロット リモート パーキング前進スイッチ>①を押すと前進します。
   <プロパイロット リモート パーキング ON/ドア解錠スイッチ>④を押しながら、<プロパイロット リモート パーキング後退スイッチ>②を押すと後退します。
4. 目標位置到着後、各スイッチを離し、<プロパイロット リモート パーキング OFF/ドア施錠スイッチ>③を押します。プロパイロット リモート パーキングが終了し、そのあとにEVシステムが停止します。
   EVシステム停止後にドアを施錠する場合は、再度<プロパイロット リモート パーキング OFF/ドア施錠スイッチ>③を押してください。

- プロパイロット リモート パーキングが終了するとき電動パーキングブレーキがかかり、シフトポジションはPに切り替わります。その後EVシステムが停止します。
- 直進で駐車できる位置からプロパイロット リモート パーキングの操作を開始してください。側方の壁などとの距離に応じてステアリングの制御を行い、車両の向きを修正する場合があります。

プロパイロット リモート パーキングの一時停止について

次の場合は一時停止します。

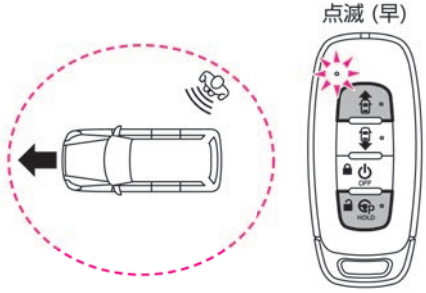
- プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーのスイッチを離したとき
- 作動範囲から外れたとき

このとき車両は自動的にブレーキがかかり停止します。シフトポジションはNに切り替わります。

プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーの作動表示灯は点滅（遅）に切り替わります。

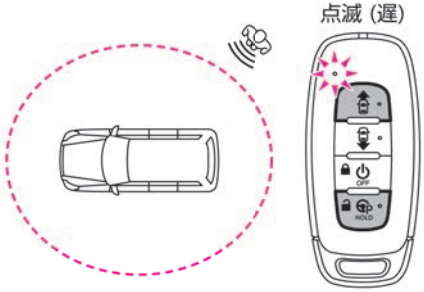
■ 一時停止（作動範囲から外れたとき）からの再開例

1. 前進中



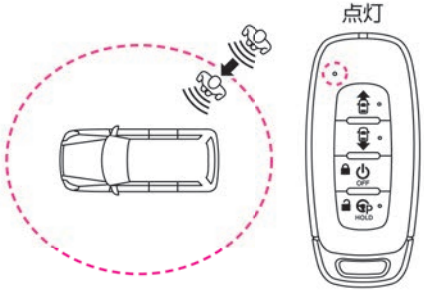
＜プロパイロット リモート パーキング前進スイッチ＞①と＜プロパイロット リモート パーキング ON/ドア解錠スイッチ＞④を同時に押し続けることで前進します。

2. 作動範囲から外れたとき



作動範囲から外れたとき、車両は停止します。プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーの作動表示灯は点滅（遅）に切り替わります。

3. 再開したいとき



プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーのスイッチを離してください。作動表示灯が点灯に切り替わるまで車両へ近づいてください。作動表示灯が点灯に切り替わったことを確認し、1の操作を行うと再開します。

プロパイロット リモート パーキングの自動終了について

次の場合は自動終了します。

運転者の操作検出

- ハンドル、アクセルペダル、ブレーキペダル、シフトポジション、電動パーキングブレーキを操作したとき
- 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアを開けたとき
- VDCをOFFにしたとき
- EVシステムを始動したあとに約1分以上操作がなかったとき
- EVシステム始動に使用したプロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーとは別のキーによる操作が検出されたとき

センサーまたは車両状態

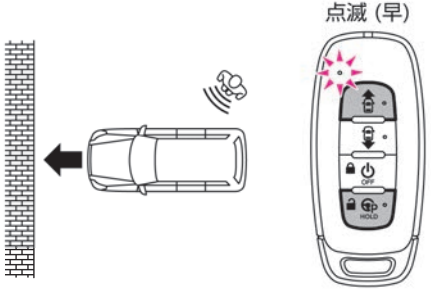
- 進行方向の障害物を検出したとき
- VDC/TCS/ABSが作動したとき
- 車速が約8km/hを超えたとき
- システムに異常が検出されたとき
- 移動先の駐車場所が自車の側方の物体との距離が狭い、または空いていないとシステムが判断したとき

このとき自動的にブレーキがかかり車両が停止し、電動パーキングブレーキがかかります。シフトポジションはPに切り替わります。その後EVシステムが停止します。

プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーの作動表示灯は消灯に切り替わります。

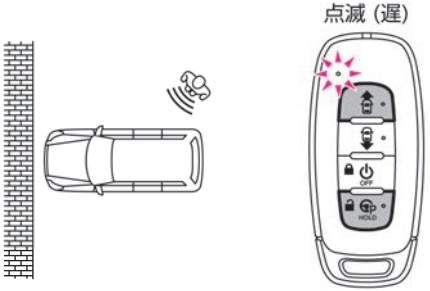
■ 自動終了（進行方向に障害物を検出）の例

1. 前進中



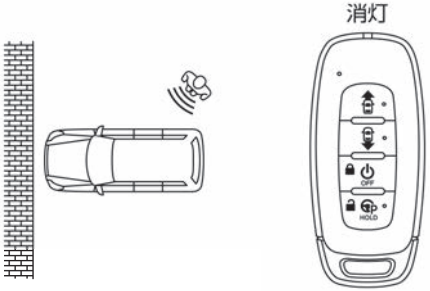
＜プロパイロット リモート パーキング前進スイッチ＞①と＜プロパイロット リモート パーキング ON/ドア解錠スイッチ＞④を同時に押し続けることで前進します。

2. 進行方向の障害物を検出したとき



進行方向の障害物を検出したとき、車両は停止し電動パーキングブレーキとシフトポジションがPに切り替わります。プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーの作動表示灯は点滅（遅）に切り替わります。

3. システムの停止



EVシステムが停止します。プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーの作動表示灯は消灯に切り替わります。

プロパイロット リモート パーキングの注意事項

⚠ 警告

- **周囲の車両や人の動きに十分注意してください。**

  対向車や後続車、歩行者の動きに十分注意してプロパイロット リモート パーキングの操作を行ってください。
- **プロパイロット リモート パーキングによる駐車支援が必要なくなったときは、プロパイロット リモート パーキングを終了してください。**

⚠ 警告

プロパイロット リモート パーキングが作動状態のままだと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **以下のような状況ではプロパイロット リモート パーキングを使用しないでください。**
  - ― 人や車両などの通行量が多い場所
  - ― 停車および駐車が禁止されている場所
  - ― 車両が入らないほど狭い場所
  - ― 穴や溝などがあるような駐車できない場所
  - ― 急な勾配のある場所
  - ― 砂地や砂利地などの整備されていない路面
  - ― 雪や凍結などでスリップしやすい路面
  - ― 傾斜地や段差、縁石、わだちなどのある平坦ではない路面
  - ― 真夏の炎天下でアスファルトが溶けているような路面
  - ― 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されている場所
  - ― 機械式駐車場や自動ロック装置のある駐車場、駐車場所に障害物などがある場所
  - ― 過積載のとき
  - ― 摩耗しているタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、タイヤチェーンを装着しているとき
  - ― タイヤの空気圧が適正ではないとき
  - ― けん引フックなどを取り付けているとき
  - ― バンパーにソナーセンサーの性能を妨げるようなものを取り付けたとき
  - ― バンパーにへこみなどがあるとき
  - ― ソナーセンサー周辺に雨や雪、泥などが付着しているとき
  - ― 極端に重い荷物を積んだり、車両の片側にだけ荷物などを積んでいたりして車両が傾いているとき
  - ― 充電コネクタを充電ポートに接続しているとき

アドバイス

- 縁石や車止め、区画線は検出できません。

  縁石にホイールが接触しそうな場合や車両が車止めや区画線を越えそうな場合にはプロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーのスイッチを離し車両を停止させてください。車両が損傷することがあります。
- インテリジェントキーが車室内にある場合、プロパイロット リモート パーキングは作動できません。
- プロパイロット リモート パーキング作動中のドアは解錠状態となります。
- 車から離れる前に、車室内の状態や窓ガラスの開閉状態を確認して下さい。ドアの施錠が必要かご確認ください。
- プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーは微弱な電波を使用しています。周囲の環境によっては通信が行えず、車両が停止することがあります。詳しい取り扱いについては（➔P.135）をお読みください。
- プロパイロット リモート パーキング用インテリジェントキーの電池の寿命は使用状況によりますが約1年です。電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。

MEMO

室内装備

室内灯

マップランプ／リヤ読書灯 P.334
アドバンスド アンビエント ライティング★ P.335
行燈照明 P.335

収納装備

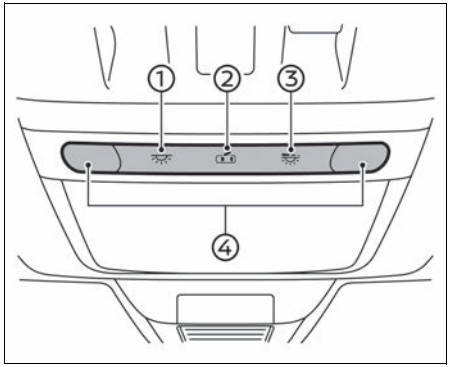
グローブボックス P.336
センターボックス P.336
電動センターコンソールボックス P.336
カップホルダー/ボトルホルダー P.337
オーバーヘッドコンソール P.338

その他の室内装備

先進事故自動通報システム P.339
ステアリングヒーター P.342
ヒーターシート P.343
前席ベンチレーションシート★ P.345
電源ソケット P.345
USB電源ソケット P.346
ワイヤレス充電器 P.347
フロアカーペット P.348
サンバイザー/バニティミラー（照明付き） P.349
チケットホルダー P.350
ラゲッジアンダーボックス P.350
アシストグリップ/コートハンガー P.350
フレキシブルラゲッジ★ P.351
ラゲッジフック P.352
トノカバー P.352
アクティブ・サウンド・コントロール★ P.353

マップランプ／リヤ読書灯

マップランプの使いかた



●マップランプは、前席シート天井部の中央にあります。

●次のように点灯・消灯します。

スイッチ	点灯・消灯のしかた
①< >	スイッチを押すと、マップランプおよびリヤ読書灯が点灯します。もう一度押すと消灯します。
②< >	スイッチの表示灯が点灯しているとき、ドア（バックドアを除く）を開けるとマップランプおよびリヤ読書灯が点灯し、閉めると消灯します。
③< >	マップランプが点灯しているときに、マップランプの明るさを4段階で切り替えることができます。
④	ランプを押すごとに点灯・消灯します。

●＜パワースイッチ＞がOFFのときは、マップランプを長時間点灯させないでください。12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

バッテリーセーバー

●12Vバッテリーあがりを防止するため、マップランプは10分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

キー連動室内照明システム（ラゲッジランプを除く）

●＜ ＞スイッチの表示灯が点灯しているとき、次の条件で点灯します。

— ＜パワースイッチ＞をOFFにしてから約20秒間

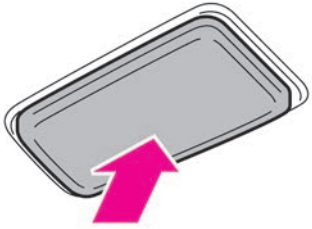
— ＜パワースイッチ＞がOFFのとき、ドアを解錠してから約20秒間

— ＜パワースイッチ＞がOFFのとき、ドア（バックドアを除く）を閉めてから約20秒間

— ドア（バックドアを除く）が開いているとき

リヤ読書灯の使いかた / ラゲッジランプについて

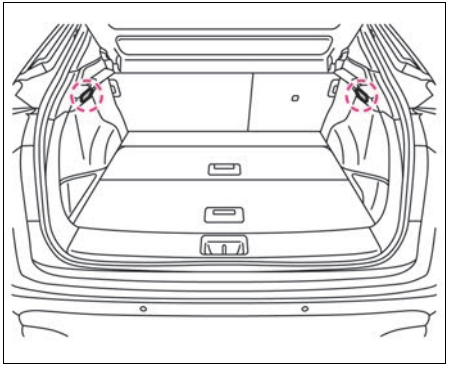
リヤ読書灯の使いかた



●リヤ読書灯は、後席天井部の左右にあります。

●ランプを押すごとに次の順で切り替わります。
点灯→減光→消灯→点灯

ラゲッジランプについて



●ラゲッジランプはラゲッジルームの左右にあります。
●バックドアを開けると自動で点灯し、バックドアを閉めると消灯します。

アドバイス

<パワースイッチ>がOFFのときは、リヤ読書灯およびラゲッジランプを長時間点灯させないでください。12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

キー連動室内照明システム（ラゲッジランプを除く）

●マップランプの<>スイッチの表示灯 が点灯しているとき、次の条件で点灯します。
　— <パワースイッチ>をOFFにしてから約20秒間
　— <パワースイッチ>がOFFのとき、ドアを解錠してから約20秒間
　— <パワースイッチ>がOFFのとき、ドア（バックドアを除く）を閉めてから約20秒間
　— ドア（バックドアを除く）が開いているとき

バッテリーセーバー

●12Vバッテリーあがりを防止するため、リヤ読書灯およびラゲッジランプは10分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

アドバンスド アンビエント ライティング★

●アドバンスド アンビエント ライティングはヘッドランプのON・OFFと連動して明るさが変更します。
●照明がOFFになっている場合は、アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作で設定をONにし、明るさを調整できます。
設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ライト/照明］⇒［Ambient Lighting］
●明るさ調整は車幅灯が点灯時／消灯時それぞれで設定できます。
●プロパイロット2.0付車はハンドル支援作動状態に連動して表示色が変化します。
詳しくは（➔P.232）をお読みください。

行燈照明

●行燈照明はアドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、明るさ調整およびOFFができます。
設定［ ⚙ ］⇒［車両設定］⇒［ライト/照明］⇒［室内間接照明］

グローブボックス

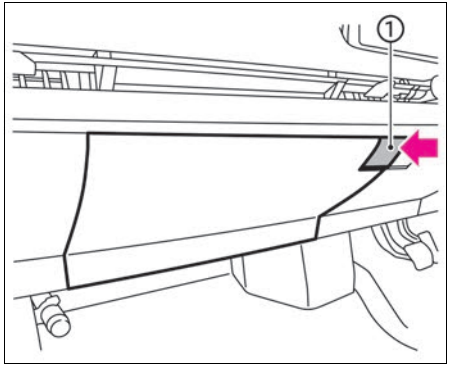
グローブボックスの使いかた

⚠ 注意

- **グローブボックスを開けたまま走行しない。**

  ブレーキを掛けたとき収納した物が飛び出したり、ふたに当たったりするなどして、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ふたを開けるときは、ゆっくり開ける。**

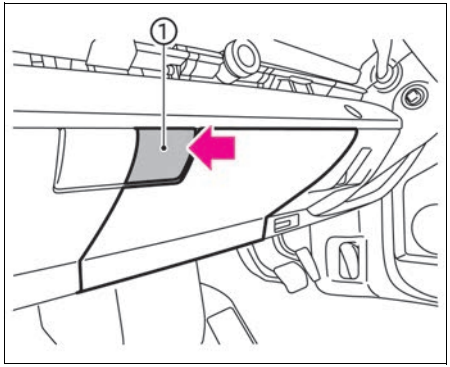
  ふたを全開にしたとき身体に当たるおそれがあります。



●開けるときは、ボタン①を押します。
●閉めるときは、ロックするまでふたを押します。

センターボックス

センターボックスの使いかた



●開けるときは、ボタン①を押します。
●閉めるときは、ロックするまでふたを押します。

電動センターコンソールボックス

電動センターコンソールボックスは、運転ポジションに合わせて前後にスライドすることができます。

電動センターコンソールボックスの使いかた

⚠ 警告

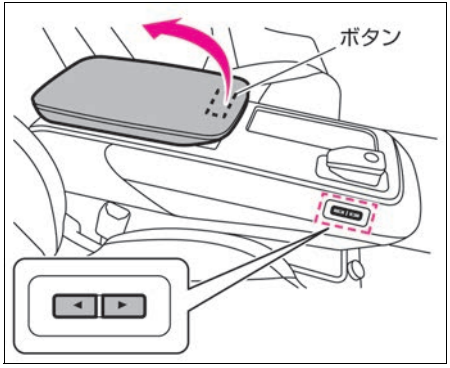
- **電動コンソールボックスは必ず走行前に調節する。**

  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **センターコンソールボックスを開けたままにしない。**

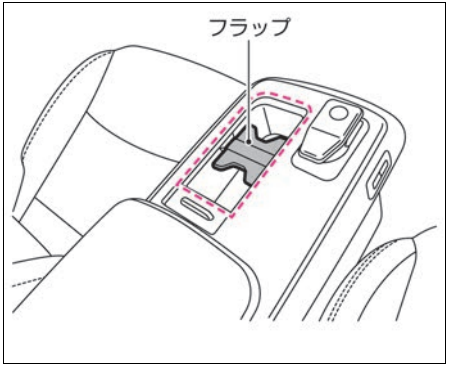
  開けたふたで思わぬケガをするおそれがあります。



●ボックス横にある＜►スイッチ＞を押し続けると、車両前方に動きます。＜◄スイッチ＞を押し続けると、車両後方に動きます。スイッチから手を離すと、停止します。
●開けるときは、ふたの裏のボタンを押しながら引き上げます。
●閉めるときは、ふたを押します。

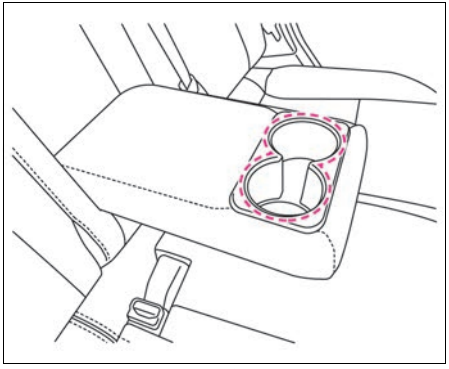
カップホルダー / ボトルホルダー

前席用カップホルダーについて



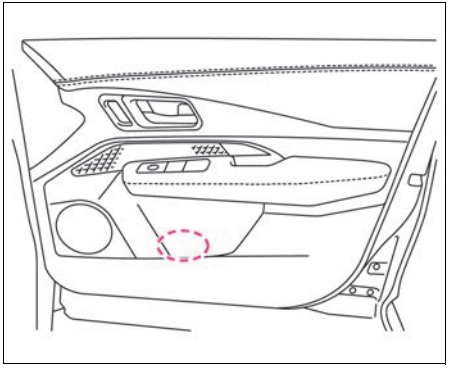
- 前席用カップホルダーは、センターコンソールにあります。
- フラップを取り外してスペースを大きくすることができます。
  フラップを取り外す場合は、開いた状態で取り外してください。

後席用カップホルダーについて



- アームレストを前に倒して使います。
- 元に戻すときは、アームレストを起こします。

ボトルホルダーについて



- ボトルホルダーは、前席シートおよび後席シートのドアポケットにあります。

カップホルダー／ボトルホルダーに関する注意事項

⚠ 警告

- **運転中に飲物を出し入れしない。**
  運転中に飲物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転中は信号待ちなどの停車中に飲物を出し入れしてください。
- **ビンなどの硬いものは入れない。**
  側面衝突などの事故のとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **熱い飲物を置かない。**
  熱い飲物をカップホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、飛び散ったりして、乗員がやけどを負うおそれがあります。
- **飲物をこぼさないように注意する。**
  飲物の容器の形によっては、確実に固定されないおそれがあります。
- **車室内のスイッチや画面などに飲物をこぼさないようにする。**
  故障や火災のおそれがあります。

アドバイス

- 飲物や液体がいっぱいに満たされた容器をカップホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、漏れ出したりして、車両の電子機器などに損傷を与えるおそれがあります。

オーバーヘッドコンソール

サングラスなどを収納できます。

オーバーヘッドコンソールの使いかた

⚠ 警告

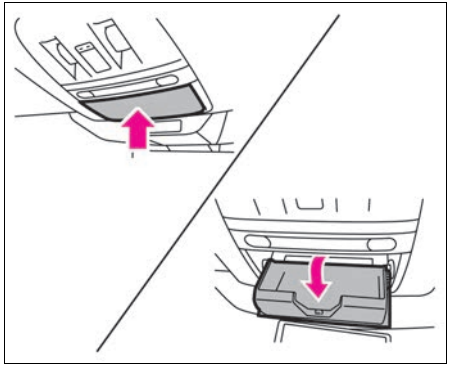
- **炎天下で駐車するときは、サングラス、メガネ、ライターなどを入れたままにしない。**

  炎天下での駐車は大変高温になるため、サングラスやメガネが変形したり、ライターが爆発したりするおそれがあります。

⚠ 注意

- **オーバーヘッドコンソールを開けたまま走行しない。また、重いものを入れない。**

  収納物が落下して思わぬケガをするおそれがあります。開閉は停車中に行い、重いものを入れないでください。

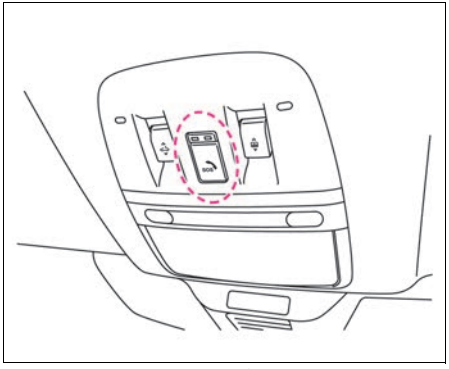


●開けるときは、ふたを押します。
●閉めるときは、ロックするまで押し戻します。

先進事故自動通報システム

＜SOSコールスイッチ＞を押すことでSOSコールを開始できます。また、エアバッグが作動するレベルの事故では、自動でSOSコールを開始します。

先進事故自動通報システムについて



- ＜パワースイッチ＞がONのとき、＜SOSコールスイッチ＞を押すと、SOSコールを開始できます。
- ＜SOSコールスイッチ＞は、マップランプ周辺にあります。
- プロパイロット緊急停止支援システム（SOSコール機能付）により緊急停止したときには自動でSOSコールを開始します。
- SOSコールとは、急病・犯罪・事故などの緊急時に警察・消防・医療機関への連絡を補助するサービスです。
- SOSコールのサービス提供は、（株）日本緊急通報サービスからのものです。
- 日産販売会社でサービスのお申し込みと、車両側での初期設定が完了していないと、SOSコールを利用することができません。
- エアバッグ展開を伴う自動通報（SOSコール）後は、自動通報機能が使用できなくなります。リセット作業が必要ですので、日産販売会社へお問い合わせください。

先進事故自動通報システムの使いかた

⚠ 警告

- **＜SOSコールスイッチ＞を押すときは、安全な場所に停車してから行う。**

  走行中に運転者がスイッチを押そうとすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **SOSコールは無線通信機能を利用しています。心臓ペースメーカーなどの医療用電気機器を使用している場合は、当該の医療用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波の影響について必ず確認してください。**

アドバイス

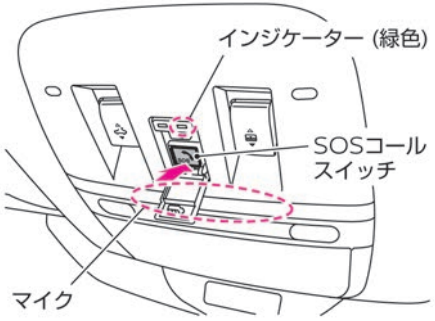
- 次の場合は、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
  - ＜パワースイッチ＞をONにしても、インジケーターが赤色・緑色ともに点灯状態にならないとき
  - インジケーターが赤色・緑色ともに点灯してから約5秒後、赤色のインジケーターのみ点灯しているとき
- インジケーターが赤色・緑色ともに消灯している場合は、電波環境のよい場所まで車を移動させてください。



1. ＜パワースイッチ＞をONにします。
   ＜SOSコールスイッチ＞のインジケーターが赤色・緑色ともに点灯し、約5秒後に緑色のみ点灯を続けます。



2. ＜SOSコールスイッチ＞のカバーを押して開きます。



3. ＜SOSコールスイッチ＞を約1秒間押します。
緑色のインジケーターが点滅し、オペレーターに繋がります。

4. SOSコールサービスのオペレーターと通話します。
状況に応じてオペレーターからの折り返し、もしくは公共機関（警察・消防・医療機関）からの通話着信があります。着信時は自動で音声接続します。
通話が終了したら、カバーを戻し、ロックするまで押します。

● SOSコールサービスのオペレーターや公共機関との通話中は、車両側から通話を終了させることはできません。

SOS コールスイッチのインジケーターについて

＜SOSコールスイッチ＞には、システムの状態を表すインジケーターがあります。

インジケーターの点灯パターン		システム状態	説明・対処方法
赤色	緑色		
 (消灯)	 (消灯)	システムOFF サービスエリア外	● システムがOFFの状態です。 ● ＜パワースイッチ＞をONにすると電源が入ります。＜パワースイッチ＞をONにしても、インジケーターが赤色・緑色ともに点灯状態にならないときは日産販売会社で点検を受けてください。 ● 電波環境が悪く、SOSコールを開始できない状態です。車を電波環境の良い場所へ移動させてください。
 (点灯)	 (点灯)	システムON通知	● システムがONになったことを知らせます。 ● システムがONになると、約5秒間点灯します。 ● 初期設定が完了していないと点灯を続けます。
 (消灯)	 (点灯)	SOSコール開始可能	● SOSコールを開始できる状態です。
 (消灯)	 (点滅)	SOSコール利用中	● オペレーターセンターと通信中、またはオペレーターと通話中の状態です。
 (点灯)	 (消灯)	システム異常 SOSコールサービス契約なし 先進事故自動通報システム使用不可	● システム異常またはSOSコールサービス契約がなく、サービスを正常に提供できない状態です。すみやかにサービスの利用契約期限をご確認いただき、日産販売会社で点検を受けてください。

先進事故自動通報システムに関する注意事項

アドバイス

- ＜SOSコールスイッチ＞の赤色のインジケーターのみ点灯する場合は、システムに異常があるか、サービスの契約期限が切れています。契約期限をご確認いただき、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- 12Vバッテリーあがりにつながるため、SOSコール利用中は安全を確認したうえでEVシステムを停止せずにご使用ください。
- 通話中は、マップランプにあるマイクに向かって話してください。
- 先進事故自動通報システムは、携帯電話と同様のデータ網を使用しています。圏外エリア（トンネル内、地下駐車場など）や電波の届きにくい場所（山間部）では利用できない場合があります。
- 救急車両は車両位置／車種／車体色／登録ナンバーをもとに現場の通報車両を特定します。元の車体色がわからなくなるほど塗り替えをしてしまっていると、救急車両の到着が遅れる場合があります。
- システムを利用する前に車側で初期設定が必要です。サービス契約後は日産販売会社で初期設定を完了してください。
- 車の登録ナンバーを変更したときは、NissanConnect お客さまセンターへ必ずご連絡ください。SOSコール利用時、会員登録上の車のナンバーと実際の車のナンバーが一致しない場合、救急隊員の到着が遅れることがあります。
- SOSコールサービス契約中に車を手放す場合は、NissanConnect お客さまセンターに必ずご連絡いただき、解約を行ってください。

NissanConnect お客さまセンター：

0120-981-523

受付時間 9:00～17:00（年末年始を除く）

- 先進事故自動通報システムは、国内でのみ利用できます。
- 先進事故自動通報システムは、NissanConnect サービスを申し込みいただくことで利用できます。
- ＜SOSコールスイッチ＞の赤色のインジケーターが点灯していても、SOSコールを開始することができます。ただし、発生している異常によっては、音声通話や救急車両の案内を正常に行えないことがあります。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- SOSコール開始後は通話のキャンセルはできません。いたずらや機能確認など、緊急の場合以外で＜SOSコールスイッチ＞を押さないでください。
- SOSコールは車載された通信機を使用するため、お客さまの携帯電話がなくても利用できます。
- 通話中の音声は、ボリュームを変更することができません。
- SOSコールサービスの契約期限後、継続利用を希望しない場合、日産販売会社にて退会手続きを行ってください。
- 本システムは、オープンソースを使用したソフトウェアを実装しています。ライセンスについて、次のwebサイトを参照してください。
  https://www.oss-valeo.com/nissan/default.html

ステアリングヒーター

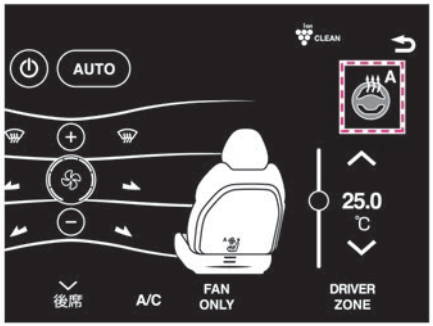
ハンドルを温めます。

ステアリングヒーターの使いかた

アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、メーター内の走行可能表示灯［READY］が点灯しているときに使ってください。

1. ナビゲーションシステム画面の＜ ♨ ＞をタッチしてオートエアコンシステム操作画面を表示させます。



2. ＜ステアリングヒータースイッチ＞をタッチします。
スイッチをタッチするごとにAUTO⇒ON⇒OFF⇒AUTOの順に切り替わります。

- AUTOのときはオートエアコンの設定温度に合わせて自動でON・OFFが切り替わります。
- スイッチをタッチすると約30分間作動します。（スイッチがオレンジ色に点灯）
- 作動中にスイッチをタッチすると作動が停止します。（スイッチが白色に点灯）
- ハンドルの表面温度が一定温度以上のときは、スイッチをタッチしてもステアリングヒーターは作動しません。

ヒーターシート

前席シートまたは後席シートを温めます。

⚠ 注意

- **長時間の連続使用はしない。**
低温やけどの原因になります。特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方、眠気をもよおす薬を服用された方、深酒や疲労の激しい方は注意してください。
- **硬くて重い物や突起がある物をシートに載せたり、ピンや針などの鋭い物でシートを突き刺したりしない。**

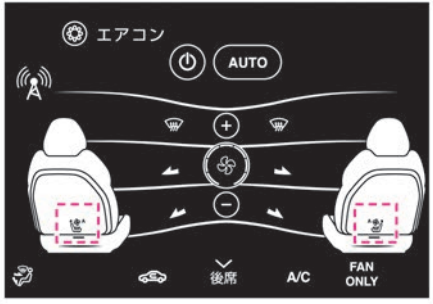
アドバイス

- 過熱するおそれがあるため、シートに毛皮や座布団を載せたり、シートカバーを使用したりしないでください。
- シートを清掃するときは、シンナー、ベンジン、アルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。
- 水などをこぼしたときは、乾いた布ですぐにふき取ってください。
- 12Vバッテリーあがりを防止するため、メーター内の走行可能表示灯［READY］が点灯しているときに使用してください。

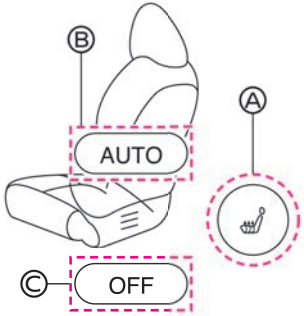
モード	表示灯	働き
HI	3つ点灯	強
MID	2つ点灯	中
LO	1つ点灯	弱
OFF	消灯	停止

前席ヒーターシートの使いかた

1. ナビゲーションシステム画面の＜ ＞をタッチしてエアコン操作画面を表示させます。



2. ＜前席ヒーターシートスイッチ＞をタッチすると、前席ヒーターシート調整画面が表示されます。



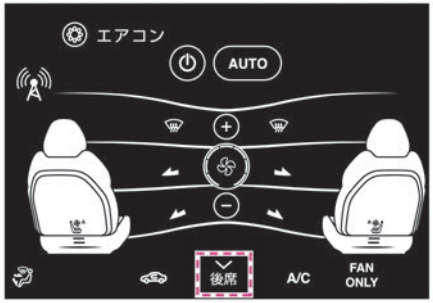
3. Ⓐをタッチするごとに HI⇒MID⇒LO⇒OFF⇒HIの順に切り替わります。

● Ⓑをタッチするとオートエアコンの設定温度に合わせて自動制御で作動します。

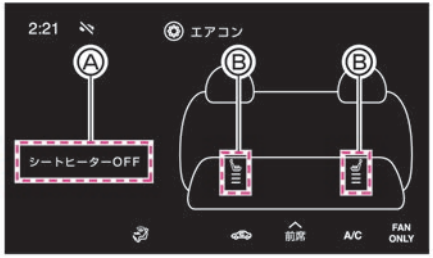
● 止めるときはⒸをタッチします。

後席ヒーターシートの使いかた

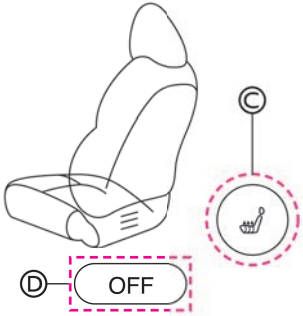
1. ナビゲーションシステム画面の＜ ＞をタッチしてエアコン操作画面を表示させます。



2. ＜後席ヒーターシート操作画面切り替えスイッチ＞をタッチします。

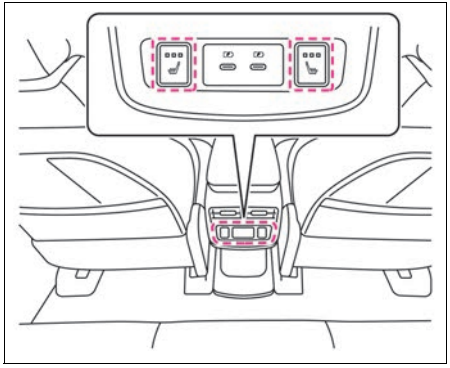


3. Ⓑをタッチすると、後席ヒーターシート調整画面が表示されます。



4. Ⓒをタッチするごとに HI⇒MID⇒LO⇒OFF⇒HIの順に切り替わります。

● Ⓓをタッチすると後席ヒーターシートの作動が停止します。Ⓐをタッチすると左右同時に停止できます。



● センターコンソールにある＜後席ヒーターシートスイッチ＞を押しても、後席

ヒーターシートの作動を切り替えることができます。

前席ベンチレーションシート★

前席シート内部のファンを使用してシート表面から空気を吸い込み、シート表面の通気をよくすることができます。

モード	表示灯	働き
HI	3つ点灯	強
MID	2つ点灯	中
LO	1つ点灯	弱
OFF	消灯	停止

⚠ 注意

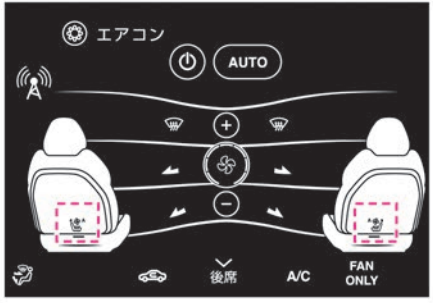
- **長時間の連続使用はしない。**
  長時間の連続使用は冷やしすぎの原因となります。特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方、眠気をもよおす薬を服用された方、深酒や疲労の激しい方は注意して使ってください。
- **硬くて重い物や突起がある物をシートに載せたり、ピンや針などの鋭い物でシートを突き刺したりしない。**

アドバイス

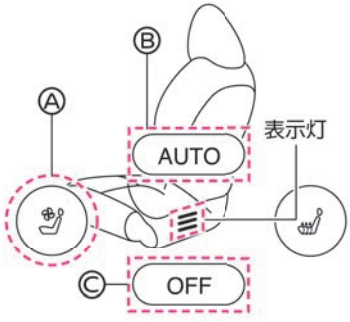
- シートに毛皮や座布団を載せたり、シートカバーを使用したりしないでください。
- シートを清掃するときは、シンナー、ベンジン、アルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。
- 水などをこぼしたときは、乾いた布ですぐにふき取ってください。
- 12Vバッテリーあがりを防止するため、メーター内の走行可能表示灯［READY］が点灯しているときに使用してください。
- ほこりなどを集じんするためのフィルターを装着しています。 性能の低下を感じたときは、フィルターの目詰まりが考えられます。日産販売会社にご相談ください。

前席ベンチレーションシートの使いかた

1. ナビゲーションシステム画面の＜ ＞をタッチしてエアコン操作画面を表示させます。



2. ＜ベンチレーションシートスイッチ＞をタッチすると、ベンチレーションシート調整画面が表示されます。



3. Ⓐをタッチするごとに HI⇒MID⇒LO⇒OFF⇒HIの順に切り替わります。（表示灯が青色に点灯）

- Ⓑをタッチするとオートエアコンの設定温度に合わせて自動制御で作動します。
- 止めるときはⒸをタッチします。

電源ソケット

カーアクセサリーの電源をとるときに使います。

電源ソケットの使いかた

⚠ 警告

- **電源ソケットを使うときは、次のことを守る。**

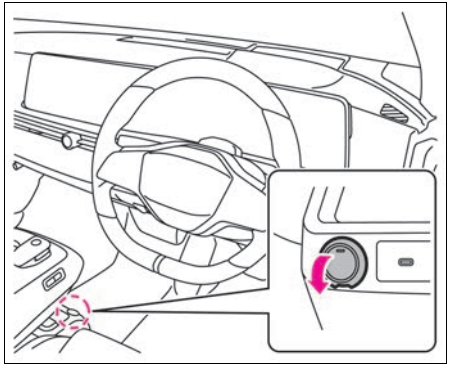
⚠ 警告

電源ソケットの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどのおそれがあります。

- 複数の電源ソケットを持つアダプターを使用して、一度にたくさんの機器を接続しないでください。
- 消費電力120W以下のものを使ってください。
- 相手プラグをソケットの奥まできちんと挿入してください。
- 使用中や使用後はソケットやプラグの取り扱いに十分注意してください。
- シガーライターをソケットに差し込まないでください。
- ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしないでください。

アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、走行可能表示灯［READY］が点灯しているときに使用してください。



- ふたを開けて使います。
- 使用しないときは、ふたを閉めます。
- 容量は、12V（ボルト）、10A（アンペア）、120W（ワット）です。
- プラグを挿入したり抜いたりするときは、使用機器側の電源をOFFにするか、＜パワースイッチ＞をOFFにしてください。

USB 電源ソケット

USB電源ソケットでモバイル機器などを充電できます。
USB電源ソケットはセンターコンソール前方および後方にあります。
センターコンソール前方のUSB電源ソケットは通信も可能です。
センターコンソール前方のUSB電源ソケットについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

USB 電源ソケット（センターコンソール後方）の使いかた

⚠ 警告

- **SRSエアバッグの作動を妨げるような場所に、モバイル機器や接続用のケーブルを設置しない。**

  SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、SRSエアバッグの作動時にモバイル機器が飛ばされたりして、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

- **USB電源ソケットを使用するときは、次のことを守る。**

  USB電源ソケットの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどにつながるおそれがあります。

  - 複数のUSB電源ソケットを持つアダプターを使用して、一度にたくさんのモバイル機器を充電しない
  - 消費電力15W以下のものを使用する
  - ケーブルはしっかり奥まで挿入する
  - ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしない
  - ソケットの向きに注意し、無理な接続や取り外しをしない

⚠ 注意

- **モバイル機器または接続用のケーブルは、運転の邪魔にならない場所に固定する。**

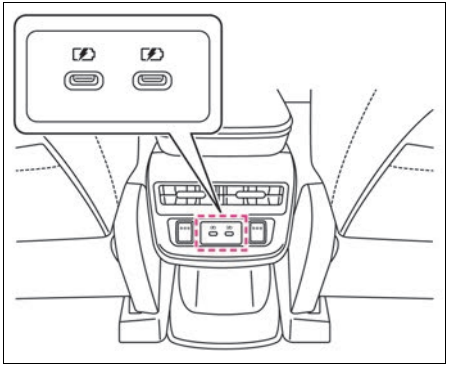
  運転に支障をきたし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、走行可能表示灯［READY］が点灯しているときに使用してください。

モバイル機器を充電するのに便利なUSB電源ソケットが用意されています。

●容量は、5V（ボルト）、3A（アンペア）、15W（ワット）です。



ワイヤレス充電器

ワイヤレス充電器はQi対応スマートフォンの充電専用です。

ワイヤレス充電器の使いかた

⚠ 警告

- **充電エリアとスマートフォンの間にコインなどの金属物を置かない。**

  車両火災ややけどにつながるおそれがあります。

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）、またはそれ以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**

  ワイヤレス充電器の電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

- **充電中はスマートフォンに布などをかぶせない。**

  車両火災ややけどにつながるおそれがあります。

- **スマートフォンが濡れた状態で充電しない。**

  故障、火災または感電のおそれがあります。

- **充電中は金属物やインテリジェントキー、メモリードライブなどを充電エリア内に置かない。**

- **充電エリアに水や飲物などの液体をこぼさないように注意する。**

  故障、火災または感電のおそれがあります。

⚠ 注意

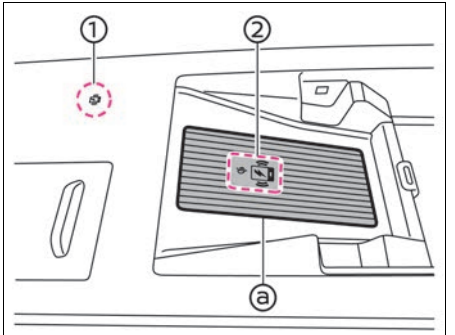
- **充電エリアにほこりや汚れが付着した状態で使用しない。**
- **充電エリアの表面を叩かない。**
- **充電エリアの清掃にはグリース、オイル、アルコールを使用しない。**

アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、メーター内の走行可能表示灯［READY］が点灯しているときに使用してください。
- トレイに置くことができないサイズのスマートフォンは、充電することはできません。
- 132×65mm以下のサイズのスマートフォンは、充電できない場合があります。
- 充電エリアとスマートフォンの間に磁気カード、および充電エリアの近くにクレジットカード・ETCカードや磁気記録メディアなどを置かないでください。データが破損する可能性があります。

アドバイス

- スマートフォンのケースやアクセサリーによっては充電に影響をおよぼす可能性があるため、充電を行う前に取り外してください。
- 充電する前にスマートフォンのバイブレーション機能をOFFにしてください。
- アプリ起動中、またはアプリ使用直後に充電を行うとスマートフォンやワイヤレス充電器の温度が上がり、スマートフォンやワイヤレス充電器の保護機能により充電が停止する場合がありますが、故障ではありません。スマートフォンやワイヤレス充電器が冷えてから充電を再開してください。
- Qi対応スマートフォンを置かなければ充電は開始しませんので、トレイを小物置きとしてご使用できます。
- 走行時の振動や急旋回などにより、スマートフォンが充電エリアからずれた場合は、Qiロゴ②の上に置き直してください。



●ワイヤレス充電器はセンターコンソールにあります。

●スマートフォンを充電エリアⓐ内に置くと充電が始まります。

（インジケーター①がオレンジ色に点灯）

●スマートフォンを置くときは、スマートフォンの受電部分がQiロゴ②の上にくるように置いてください。

●充電が完了するとインジケーター①が緑色に点灯します。（すべての機種について作動の保証はいたしません）

知識

- 誤作動が発生したり、充電が停止したりすると、インジケーター①がオレンジ色で8秒間点滅後消灯します。
- 充電が完了するとインジケーター①が緑色に点灯します。（すべての機種について作動の保証はいたしません）

- 充電位置はスマートフォンによって異なる場合があります。
- 充電中に電波障害が発生した場合は充電が停止します。充電が停止したときは、スマートフォンの受電部分がQiロゴ②の上にくるように置き直してください。
- インテリジェントキーと車両が通信をしているときは充電を停止することがあります。
- スマートフォンにUSBケーブルが接続されていると、インジケーターがオレンジ色に点灯、または点滅する場合がありますが、充電は開始されません。
- スマートフォンの種類によっては、充電が完了してもインジケーターがオレンジ色に点灯したままになる場合があります。
- スマートフォンの機種によっては、うまく動作しない場合があります。スマートフォンに付属の取扱説明書をお読みください。
- 金属物やキー（インテリジェントキー／リモートコントロールエントリーシステム）だけをトレイに置いたとき、数秒間インジケーターが点滅することがありますが、充電は開始しておりません。

フロアカーペット

この車（年式）専用のフロアカーペットが設定されています。

固定のしかた

⚠ 警告

- **この車（年式）専用のフロアカーペットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用する。**

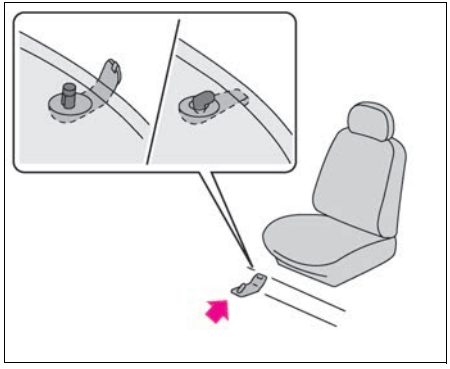
  フロアカーペットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりブレーキが効きづらくなったりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **運転席にフロアカーペットを敷くときは、次のことを守る。**
  - ― 日産純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアカーペットは使用しない。
  - ― フロアカーペットでペダルを覆わない。
  - ― フロアカーペットを重ねて敷かない。
  - ― 運転席専用のフロアカーペットを使用する。
  - ― フロアカーペットを前後さかさまにしたり、裏返しにしたりして使用しない。
- **運転する前にフロアカーペットが正しく固定されていることを定期的に確認し、洗車後は必ず確認する。**
- **運転に支障がないことを確認する。**

  運転する前、＜パワースイッチ＞がOFFの状態で各ペダルをいっぱいに踏み込み、フロアカーペットと干渉しないことを確認してください。

- **タバコの火種をフロアカーペットなどに落とさない。**

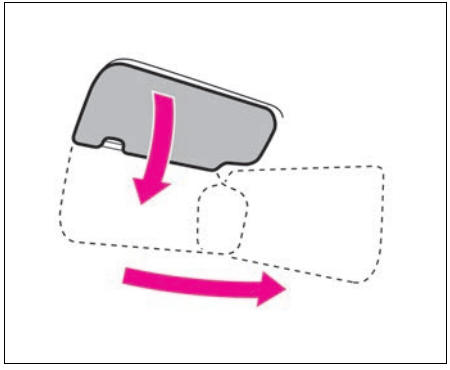
  火災につながるおそれがあります。



- 床面には日産純正フロアカーペット用の固定クリップが付いています。
- フロアカーペットを床の形状に合わせて敷き、取り付け穴に固定クリップのピンを通して確実に固定します。
- 車種により、固定クリップ・ピンの形状や、各シートごとに設定されている数量は異なります。詳しい固定方法は、日産販売会社にお問い合わせください。

サンバイザー / バニティミラー（照明付き）

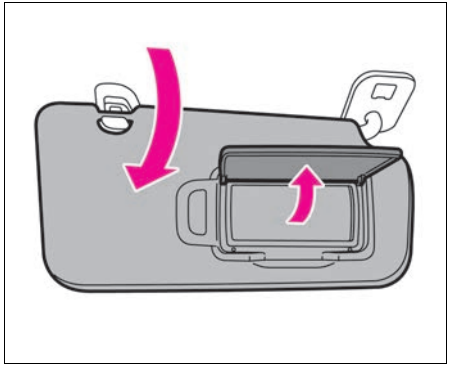
サンバイザー



- 前方からの日差しを防ぐときは、下に下げて使います。
- 横からの日差しを防ぐときは、下に下げてフックから外し、横にして使います。

バニティミラーの使いかた

- サンバイザー裏側にバニティミラー（鏡）が付いています。
- サンバイザーを下に下げて、カバーを開けて使います。カバーを開けると、天井のランプが点灯します。



チケットホルダー

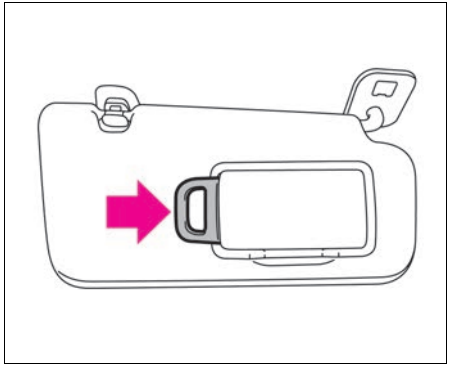
チケットホルダーの使いかた

アドバイス

- 炎天下での駐車は車室内が大変高温になるため、カードを入れたままにしないでください。カードが変形するおそれがあります。

●サンバイザーにチケットホルダーが付いています。

●カードをスライドさせ、差し込みます。

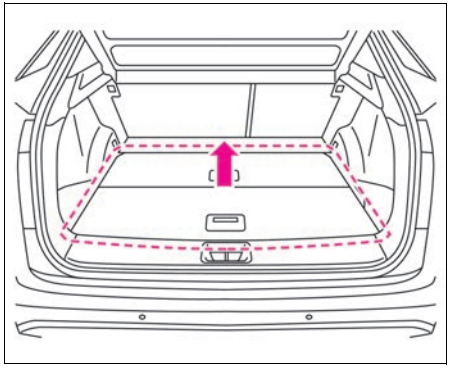


ラゲッジアンダーボックス

収納スペースとしてお使いください。

ラゲッジアンダーボックスについて

●手前のボードを開けて使います。



アシストグリップ / コートハンガー

アシストグリップ / コートハンガーの注意事項

⚠ 注意

- **アシストグリップに手をかけて乗り降りしない。**

  アシストグリップは、走行中などシートに座った状態で身体を支えるために使用してください。乗降用ではないため、手をかけて乗り降りしないでください。万一、アシストグリップが外れた場合は、思わぬケガをするおそれがあります。

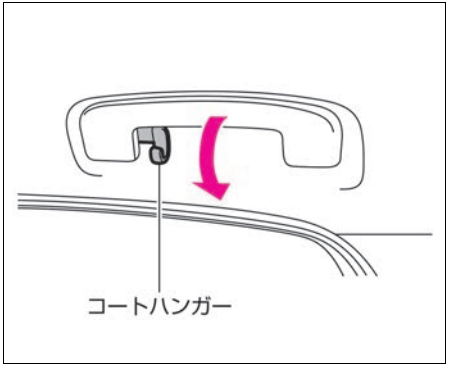
- **コートハンガーにハンガーなど先のとがった物を掛けない。**

  SRSエアバッグが作動したときに飛ばされて、思わぬ傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

- 後席左右のコートハンガーには1kg以上の物を掛けないでください。

アシストグリップ / コートハンガーの使いかた



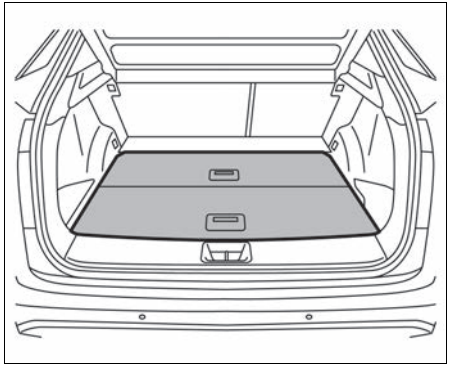
- アシストグリップは、前席および後席シート左右にあります。
- 後席左右にはコートハンガーが付いています。

フレキシブルラゲッジ★

2枚のラゲッジボードを開閉、脱着して使用できます。

ラゲッジボードについて

- ラゲッジボードは、状況に応じて次のように使い分けできます。
  - ― ラゲッジを前後に仕切り、後方に高さのあるものを収納するとき
    バーチカルモード (P.351)
- ボードの位置を変えるときは、グリップに手を掛けて持ち上げます。



ラゲッジボードの注意事項

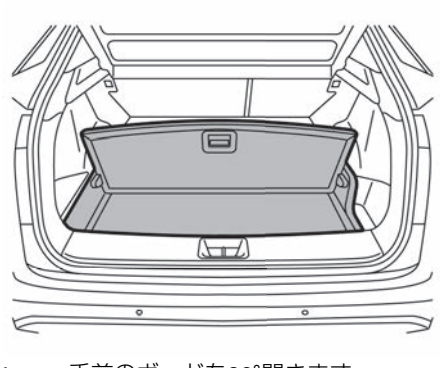
アドバイス

- 部品が破損・変形するおそれがあります。操作中に挟まっても無理に押し込まないでください。

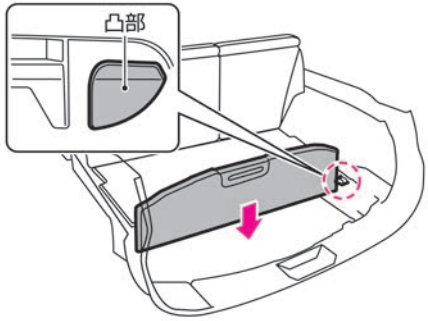
バーチカルモード

アドバイス

- ボードを立てるときは、サイドの凸部に当たらないように入れてください。



1. 手前のボードを90°開きます。



2. そのまま下に差し込みます。

フレキシブルラゲッジに関する注意事項

⚠ 注意

- **ラゲッジボードの前端部に強い力を掛けない。**

  ボードが開き、手を挟むなど思わぬケガをするおそれがあります。

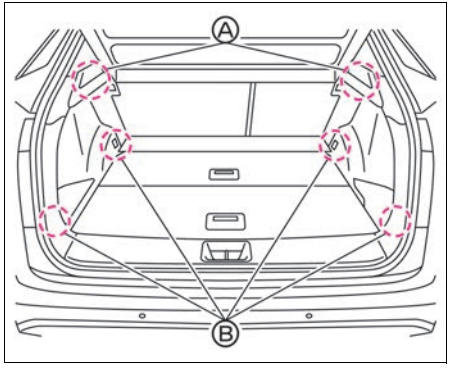
- **背もたれを前方に倒して走行するときは、ラゲッジボードを通常位置に置いた状態で使用する。**

  急ブレーキや衝突時などにボードの上に置いたものが飛び出し、ケガをするおそれがあります。

ラゲッジフック

ラゲッジフックの使いかた

荷物の固定用としてロープなどを掛けるときに使います。



アドバイス

- フックには大きな力がかからないようにしてください。フックが破損するおそれがあります。
- Ⓐのフックに5kg以上、Ⓑのフックに3kg以上の物を掛けないでください。フックが破損するおそれがあります。

トノカバー

トノカバーは、ラゲッジルームの荷物を車外から見えないようにするために使います。

⚠ 警告

- **i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるときは、トノカバーとテザーベルトが干渉していないことを必ず確認する。**

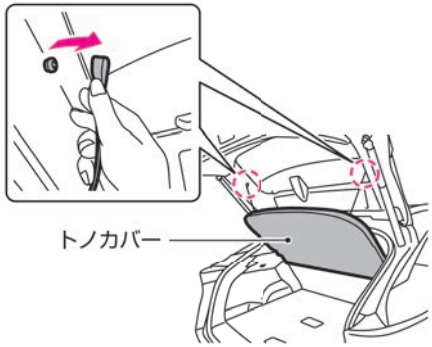
  干渉するときは、トノカバーを取り外してください。衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- **トノカバーの上に重い物を載せない。**

  急ブレーキ時に思わぬケガをしたり、トノカバーが破損するおそれがあります。

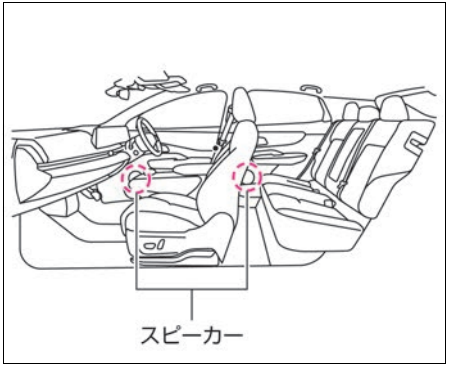
トノカバーの取り外しかた



1. ストラップをバックドアのフックから取り外します。
2. トノカバーを後方へ引いて取り外します。

アクティブ・サウンド・コントロール★

アクティブ・サウンド・コントロールについて



ドライブモード（P.206）がSPORTモード（NISMO仕様車以外）またはNISMOモード（NISMO仕様車）のときにモーター回転数に応じた音をスピーカーから出すことで、車室内で聞こえるモーターサウンドの音質を高めます。

●スピーカーは全ドアにあります。

アドバイス

- アクティブ・サウンド・コントロールを正常に作動させるために次のことをお守りください。
  - ― スピーカーの周辺に物を置かない
  - ― スピーカー、パワーアンプなどのオーディオ機器を交換または改造しない
  - ― スピーカー取り付け部周辺を改造（デッドニングなど）しない
- アクティブ・サウンド・コントロールの音をOFFにすることができます。日産販売会社にご相談ください。

MEMO

トラブルがおきたときは

まずはじめに

故障したときは	P.356
発炎筒	P.357
けん引について	P.357

緊急時の対処法

パンクしたときは	P.361
ドアが開かないときは	P.365
充電コネクタロックが解除できないときは	P.366
EVシステムを始動できないときは	P.366
12Vバッテリーがあがったときは	P.367
出力制限表示灯が点灯したときは	P.371
リチウムイオンバッテリーの残量がなくなったときは	P.372
警告灯がついたときは	P.373
警告メッセージが表示されたときは	P.385
ブザー（警報音）が鳴ったときは	P.414
窓ガラスがくもったときは	P.415
雪道やぬかるみにはまったときは	P.416
水没したときは	P.416
外装ランプが点灯しないときは	P.417
ヒューズが切れたときは	P.417

故障したときは

車両が故障したときは、次の手順で対処してください。

故障したときの対処のしかた

⚠ 警告

- **発炎筒はトンネル内では使用しない。**

  煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり、事故につながるおそれがあります。非常点滅表示灯を使ってください。

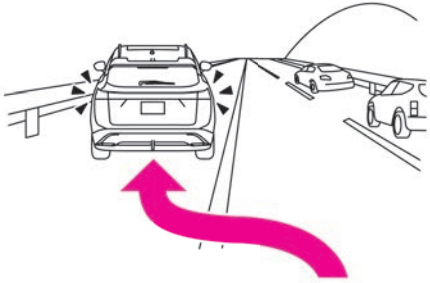
⚠ 注意

- **走行中にメーター内の走行可能表示灯［READY］が消灯したときは、慎重に運転する。**

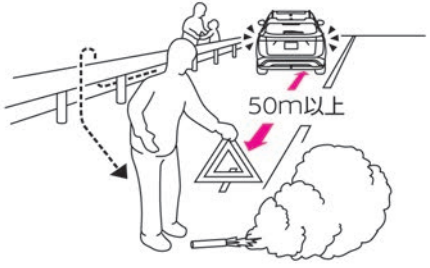
  故障により走行可能表示灯が消灯すると、ブレーキやパワーステアリングが正しく機能せず、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルの操作力が重くなったりすることがあります。すみやかに安全な場所に停車してください。

アドバイス

- 高速道路や自動車専用道路では、停止表示板（停止表示灯）の表示が法律で義務付けられています。
- 高速道路上では1kmごとに非常電話が設置されています。



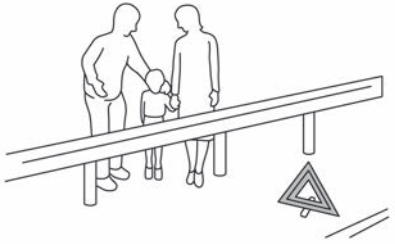
1. 非常点滅表示灯で後続車に危険を知らせながら、できるだけ路肩に寄せて停車します。
   路肩がない場所では、可能な限り広いところまで自走します。



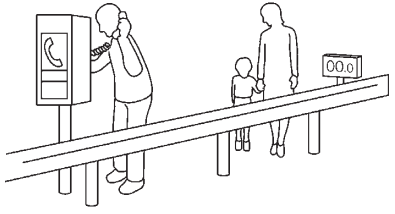
2. 同乗者をガードレールの外側などに避難させ、車両の50m以上後方に発炎筒と停止表示板（停止表示灯）を置きます。

発炎筒 (P.357)

避難するときは、停止車両への追突事故が発生したときに巻き込まれないよう注意してください。



3. 運転者もガードレールの外側などに避難します。



4. 非常電話や携帯電話などで救援依頼をします。

発炎筒

高速道路や踏み切りなどで故障・事故により緊急停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。

発炎時間は約5分です。非常点滅表示灯と併用してください。

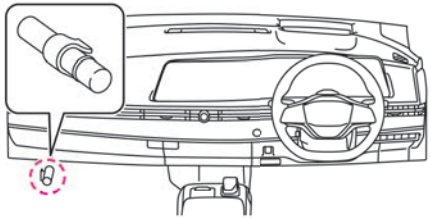
発炎筒の使いかた

⚠ 警告

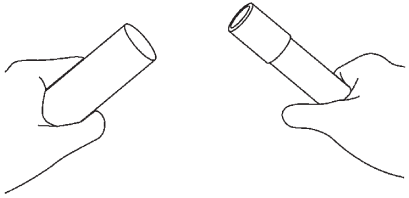
- **お子さまには触らせない。**
  いたずらなどで発火するおそれがあり危険です。
- **可燃物の近くで使用しない。**
  引火するおそれがあります。
- **点火は必ず車外で行い、点火後は顔や身体に近づけない。**
  やけどをするおそれがあります。

アドバイス

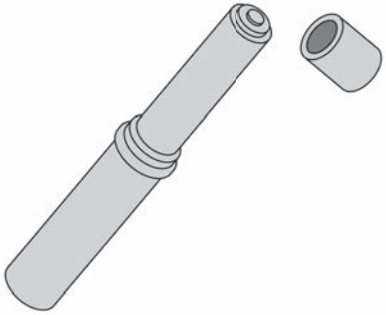
- 発炎筒に記載してある使用方法、注意をあらかじめ確認しておいてください。
- 発炎筒には有効期限があります。期限が切れる前に日産販売会社でお買い求めください。



1. 助手席足元部のホルダーから発炎筒を外します。



2. 本体を回しながらケースから引き抜き、本体を逆さにして差し込みます。



3. 先端のふたを取り、ケースのすり薬で発炎筒の先端をこすって着火します。

けん引について

けん引が必要なときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに依頼してください。

やむをえずけん引されるときは、できる限り短距離の移動のみとしてください。

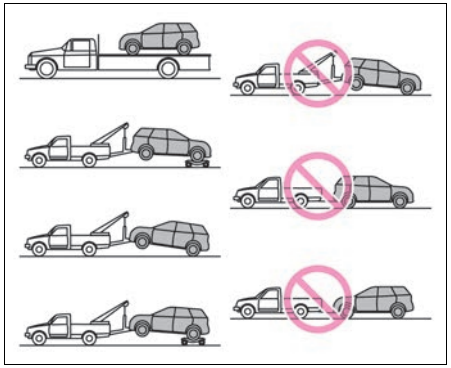
この車両で他車をけん引することはできません。

けん引時の注意事項

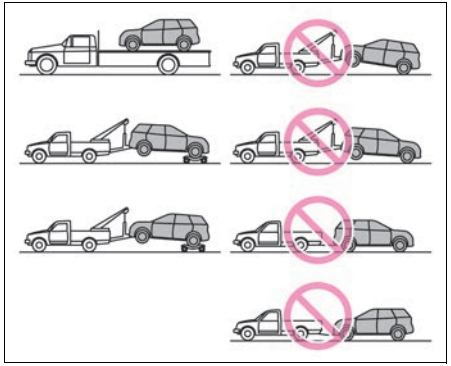
⚠ 注意

- **2WD車の前輪を持ち上げてけん引するときは、<パワースイッチ>をOFFにする。**
  VDCが作動し、ブレーキがかかることがあります。

2WD車

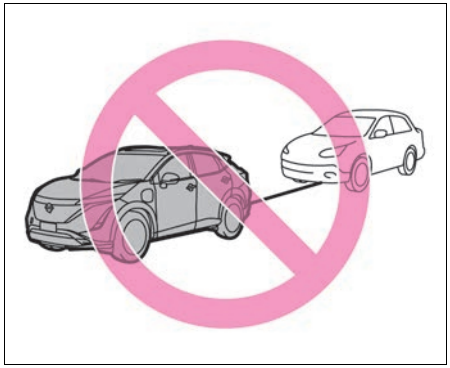


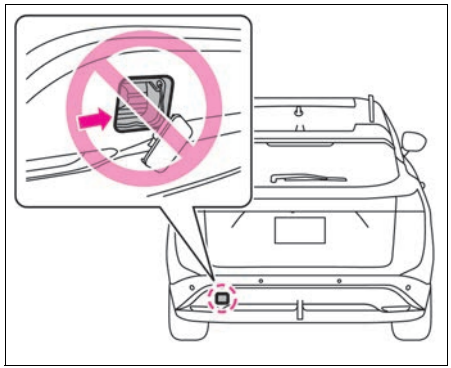
e-4ORCE（4WD）車



- 車両が動かなかったり、異常な音がしたりするときは、けん引せずに日産販売会社へご連絡ください。
- 車両を運搬するときは、2WD車は前輪または4輪を、e-4ORCE（4WD）車は4輪を持ち上げてください。
- やむをえず4輪接地の状態でけん引されるときは、（P.358）をお読みください。
- けん引ロープはできるだけソフトロープを使い、バンパーに傷付けないように注意してください。
- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。
- けん引中は、e-Pedal StepをOFFにしてください。
- けん引中は、プロパイロットをOFFにしてください。
- けん引中は、踏み間違い衝突防止アシストをOFFにしてください。

リヤフックについて





後ろ側についているフック取り付け穴は船舶輸送時の固定専用です。
けん引やトレーラー輸送時などの固定には絶対使用しないでください。

アドバイス

- けん引用として使うと、車両を損傷するおそれがあります。

やむをえず 4 輪接地でけん引されるときは

⚠ 警告

- **4輪接地でけん引されるときは、＜パワースイッチ＞をOFFにしない。**

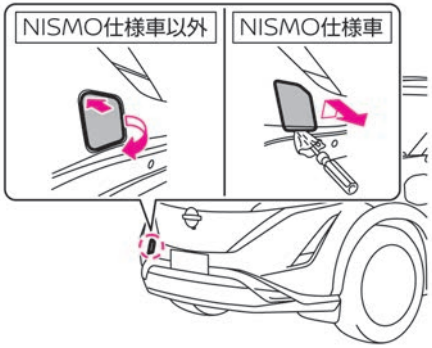
⚠ 警告

この車両は、オートP機能（➔P.188）により、<パワースイッチ>がOFFのときはシフトポジションをPからNに切り替えることができません。そのため、12Vバッテリーあがりなどで<パワースイッチ>がOFFから切り替えられないときは、4輪接地の状態でけん引できません。

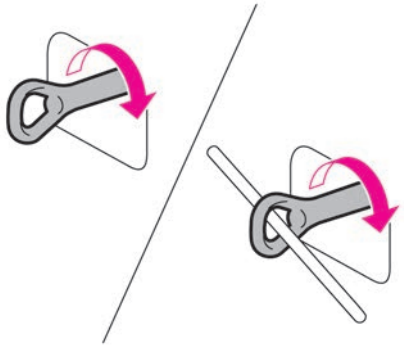
⚠ 注意

- **けん引フックに指定以外のフックは絶対に使用しない。**
  フック部が破損するおそれがあります。
- **長い下り坂ではけん引しない。**
  ブレーキが過熱して効かなくなり、事故につながるおそれがあります。このような場所でけん引するときは、レッカー車で引いてもらってください。

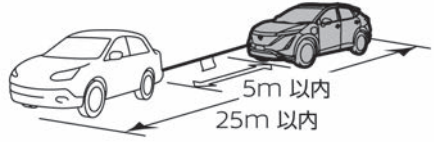
- やむをえず4輪接地の状態でけん引されるときは、シフトポジションNをにした状態で行ってください。
- 4輪接地でけん引してもらうときは、速度30km/h以下で路肩に寄せる程度の移動のみとしてください。



1. NISMO仕様車以外はフロントバンパーのカバーの左上を押して、右側から取り外します。取り外しにくい場合は先の細いお手持ちの工具を布などで覆い、右側に差し込んでカバーを取り外してください。
   NISMO仕様車は先の細いお手持ちの工具を布などで覆い、フロントバンパーのカバーの溝に差し込んでカバーを外します。



2. 金属の固い棒などを使用して、けん引フックを取り付けます。
   ➔工具、タイヤ応急修理キットの格納場所（P.421）



3. 自車および他車のけん引フックにロープを掛け、ロープ中央に30cm×30cm以上の白い布を取り付けます。

4. EVシステムを始動しシフトポジションを**N**にして、パーキングブレーキを解除します。
EVシステムが始動できないときは＜パワースイッチ＞をONにし、シフトポジション**N**にしてください。

アドバイス

- 4輪接地の状態でけん引されるときは、EVシステムを始動するか＜パワースイッチ＞をONにしてシフトポジションを**N**にした状態で行ってください。＜パワースイッチ＞がOFFのときは、オートP機能によりシフトポジションを**N**に切り替えられないため、けん引することができません。
- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。

知識

- けん引が終わったら、けん引フックを取り付けたときと逆の手順で取り外します。

パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤおよびジャッキが標準で搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤ応急修理キットで応急修理ができます。

応急修理する前に

アドバイス

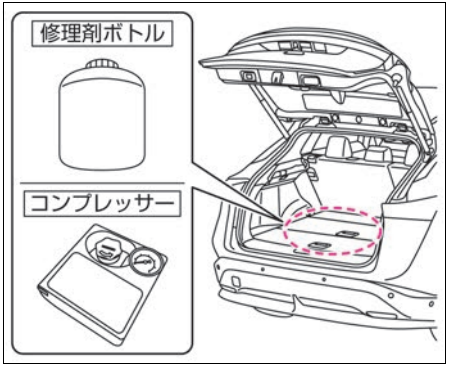
- タイヤに釘やネジが刺さっている場合は、抜いてしまうとパンク穴が大きくなり空気が漏れやすくなるため、抜かずにタイヤ応急修理キットで応急修理してください。

- タイヤ応急修理キットの修理剤を使用したタイヤは、新しいタイヤに交換されることをおすすめします。タイヤの交換については日産販売会社または専門の修理業者と相談し、損傷が激しい場合は交換、修理可能と判断された場合は修理を実施してください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できますが、タイヤのバルブは新しいものと取り替えてください。
- 修理剤とホースは再使用できません。使用後は新しい修理剤とホースをお求めください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

応急修理を行うときは、次の準備をしてください。

- 地面が固く平らな場所に車両を移動する。
- パーキングブレーキをかける。
- シフトポジションをPにする。
- <パワースイッチ>をOFFにする。
- 非常点滅表示灯を点滅させる。
- 次の場合はタイヤ応急修理キットでは応急修理ができません。日産販売会社またはJAFなどにご連絡ください。
  - 約5mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
  - タイヤサイド部が損傷を受けたとき
  - ほとんど空気の抜けた状態で走行したとき
  - タイヤがホイールから外れているとき
  - ホイールが破損しているとき
  - タイヤが2本以上パンクしているとき
  - 修理剤の有効期限が切れているとき

タイヤ応急修理キットについて

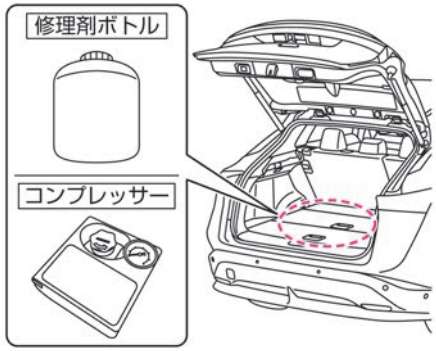


※：車種により、タイヤ応急修理キットの内容や部品形状が異なります。

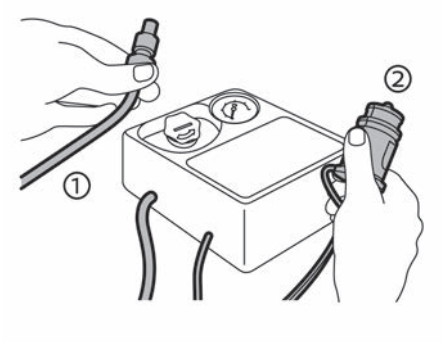
- タイヤトレッド部（接地面）の軽度なパンクは、タイヤ応急修理キットで応急修理できます。
- タイヤ応急修理キットは、ラゲッジルーム内のフロアカバー★またはラゲッジボードの下に格納されています。
  ➔工具、タイヤ応急修理キットの格納場所 (P.421)
- 応急修理を目的としているため、修理後に長期間の走行はできません。修理後はすみやかに日産販売会社または専門の修理業者で点検、恒久修理またはタイヤ交換を行ってください。

応急修理のしかた

■ コンプレッサーの準備



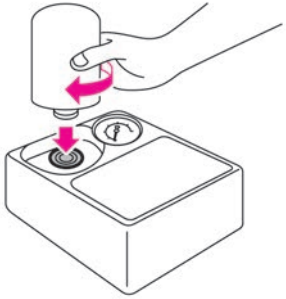
1. ラゲッジルームからタイヤ応急修理キットを取り出します。



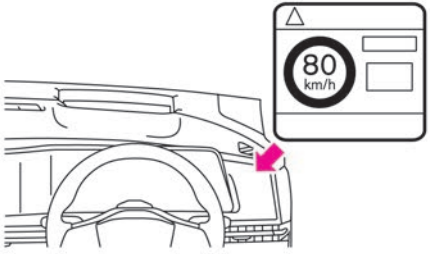
2. コンプレッサーからホース①、電源プラグ②を取り出します。



3. コンプレッサーから、ボトルホルダーのキャップを外します。



4. 修理剤ボトルのキャップを外し、内ぶたを付けたままボトルホルダーに取り付けます。
（ボトルホルダーにねじ込むと内ぶたが破れます。）

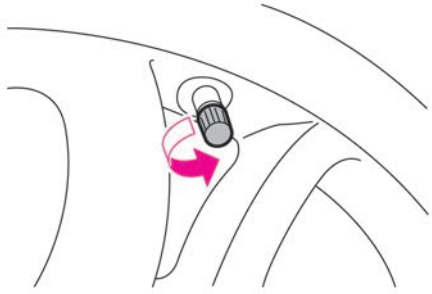


5. コンプレッサーの速度制限シールをはがし、運転者のよく見えるところに貼ります。

⚠ 注意

- **ハンドルのセンターパッド部には速度制限シールを貼らない。**
  SRSエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置にも貼らないでください。

■ エアの注入



1. パンクしたタイヤのバルブからキャップを外します。

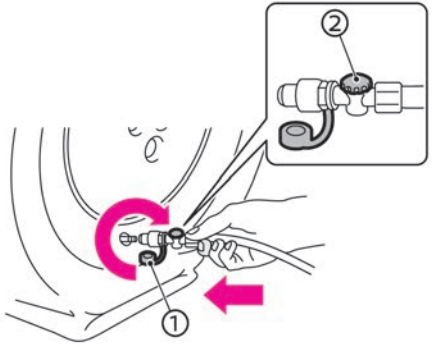
⚠ 注意

- **ホースとタイヤのバルブの接続をしっかりと行う。**
  接続が不十分な場合、空気が漏れたり、修理剤が飛び散ったりするおそれがあります。

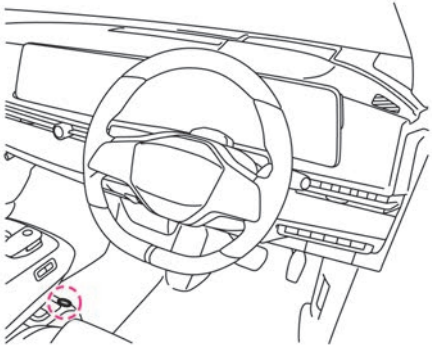
⚠ 注意

- **破裂の危険があるので応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れる。**
- **タイヤに亀裂や変形が生じている場合、ただちにコンプレッサーのスイッチをOFF（「○」の位置）にし、修理を中止する。**

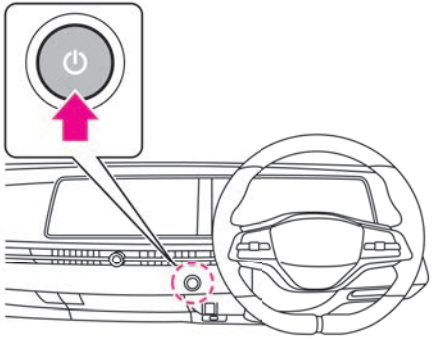
  バルブを介して修理剤を注入するため、圧力が600kPaに達することがありますが、異常ではありません。通常は、30秒ほどで下がります。
- **空気を入れたあとは、ホースの口金が熱くなることがあるため、やけどしないように注意する。**



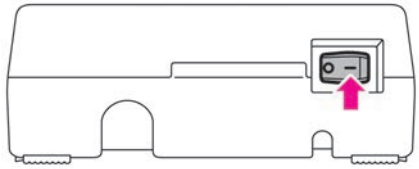
2. ホース先端の保護キャップ①を外し、ホースをパンクしたタイヤのバルブに確実にねじ込みます。
   このとき、排気バルブ②が閉まっていることを確認してください。



3. コンプレッサーのスイッチがOFF（「○」の位置）の状態で、電源プラグを車室内の電源ソケットに差し込みます。



4. ＜パワースイッチ＞をONにします。



5. コンプレッサーのスイッチをON（「｜」の位置）にし、タイヤを指定空気圧または180kPa以上になるまで空気を充てんします。この際、実際の空気圧が測れるようにコンプレッサーを一時停止して空気圧計で測定してください。
   ※タイヤの指定空気圧は、運転席ドア開口部に表示されています。
6. 指定空気圧または180kPa以上まで昇圧できたら、コンプレッサーのスイッチをOFF（「○」の位置）にし電源プラグを電源ソケットから抜きます。
7. ホースをタイヤのバルブからすばやく取り外し、タイヤのバルブにキャップを取り付けます。

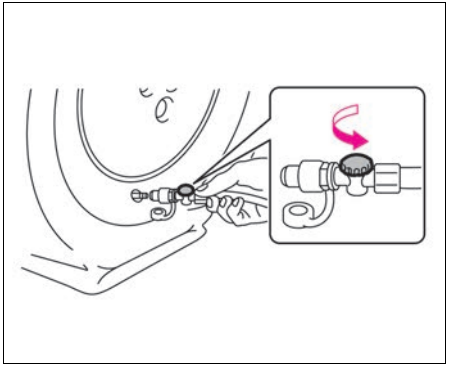
アドバイス

- コンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、10分以上連続して作動させないでください。タイヤ空気圧を昇圧できない場合は修理できません。
- 修理剤ボトルは、コンプレッサーのボトルホルダーから取り外さないでください。取り外すとボトル内に残った液剤がこぼれるおそれがあります。

10分以内に180kPaまで昇圧できない場合

10分以内に180kPaまで昇圧できない場合は、タイヤがひどい損傷を受けているおそれがあります。この場合は、本修理キットで応急修理をすることはできません。日産販売会社またはJAFなどに連絡してください。

空気を入れすぎてしまったとき



排気バルブを反時計回りに回して、空気を抜いてください。

■ 点検走行

⚠ 注意

- **走行するときは、低速で慎重に運転し、特にカーブや旋回時には注意する。**

アドバイス

- 応急修理後の恒久修理の際、パンク穴を発見できないために恒久修理できないことがあります。そのまま走行を続ける場合は、こまめに空気圧をチェックしてください。頻繁に空気圧の低下がみられるときは、日産販売会社または修理会社で点検を受けてください。
- 修理剤は再使用できません。使用後は新しい修理剤をお求めください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

1. ただちに走行を始め、10分間または3km程度走行してください。
   80km/h以下の速度で注意深く運転してください。
2. 走行後、再度タイヤ空気圧を測定します。コンプレッサーのスイッチがOFF（「○」の位置）であることを確認します。コンプレッサーからのホースをタイヤのバルブに取り付け、タイヤ空気圧を確認してください。

130kPa未満の場合

本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

130kPa以上指定空気圧未満の場合

コンプレッサーのスイッチをON（「｜」の位置）にして指定空気圧まで昇圧し、点検走行の作業を行います。上記作業を繰り返しても指定空気圧より低下する場合は、本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

JAFの営業所一覧…別冊のメンテナンスノートをお読みください。

指定空気圧の場合

応急修理は完了です。すみやかに日産販売会社または専門の修理業者まで慎重に運転してください。

タイヤ応急修理キットの注意事項

⚠ 注意

タイヤ応急修理キットについて

- **タイヤ応急修理キットは搭載車両専用のため、他の車には使用しない。**
- **タイヤ応急修理キットは自動車用タイヤの空気充てんや空気圧チェック以外で使用しない。**
- **タイヤ応急修理キットはDC12V専用のため、他の電源での使用はしない。**

⚠ 注意

- **分解、改造などは絶対にしない。**
- **コンプレッサーに衝撃を与えない。**
  故障の原因となります。
- **お子さまが誤って手を触れないように注意する。**

修理剤について

- **修理剤を口に入れない。**
  修理剤を飲み込むと健康に害があります。万一誤って飲んだ場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診療を受けてください。
- **万一、目や皮膚に付着したときは、水でよく洗い流す。**
  それでも異常を感じたときは、医師の診療を受けてください。

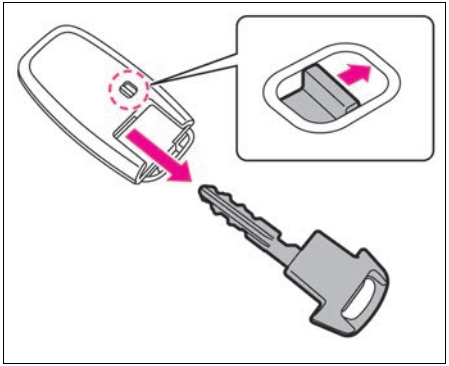
アドバイス

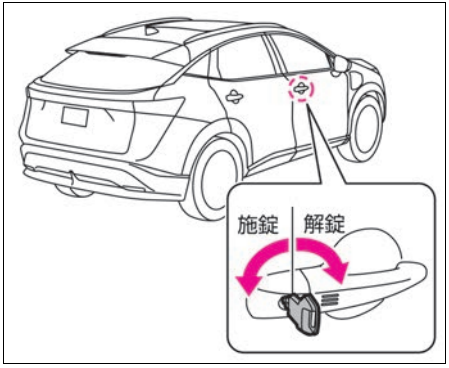
- タイヤ応急修理キットは、必ず日産純正品を使用してください。
- 水やほこりを避けて使用してください。

ドアが開かないときは

インテリジェントキーの電池が切れたときや、12Vバッテリーがあがったときなどドアが開かないときは、次の方法で施錠・解錠してください。

内蔵キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた





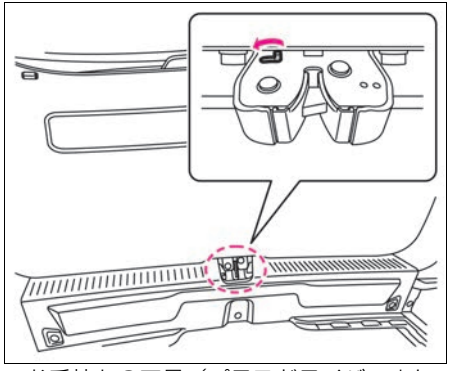
運転席ドアにある鍵穴に内蔵キーを差し込んで車両前方に内蔵キーを回すと解錠します。施錠するときは、車両後方に内蔵キーを回します。

緊急時のバックドアの開けかた

アドバイス

- 次の手順は、あくまで故障時の緊急手段です。故障の原因になるため、正常なときは使用しないでください。
- ＜バックドアオープナースイッチ＞などの故障につながるおそれがあるため、操作をしたときは日産販売会社で点検を受けてください。
- 操作後はなるべく早く日産販売会社で点検を受けてください。

12Vバッテリーあがりなどにより、バックドアを開けられなくなったときは、次の操作をしてください。

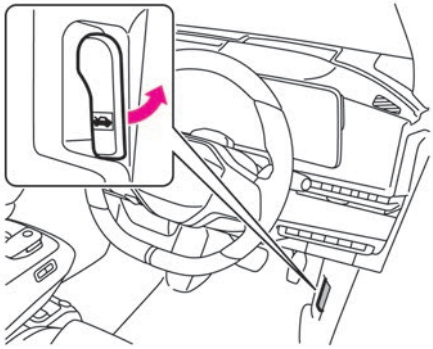


- お手持ちの工具（プラスドライバーまたはマイナスドライバーなどの細い工具）を使用して、バックドアの車室内側にあるロック機構のレバーを矢印の方向に動

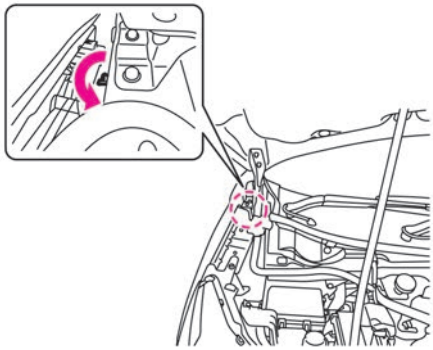
かして解錠し、バックドアを持ち上げます。

充電コネクタロックが解除できないときは

緊急時の充電コネクタロックの解除のしかた



1. ボンネットを開けます。
➔ボンネットの開けかた、閉めかた (P.425)
2. お手持ちの工具（プラスドライバーまたはマイナスドライバーなどの細い工具）を準備します。



3. 充電ポート上部にあるレバーを矢印の方向に約60度回すと、ロックが解除されます。

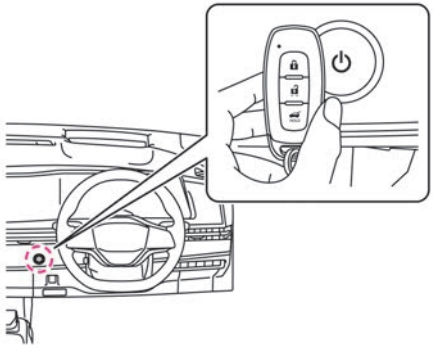
アドバイス

- この手順は、あくまで故障時の緊急手段です。故障の原因になるため、正常なときは行わないでください。
- 故障の原因になるため、矢印と逆方向には回さないでください。

EV システムを始動できないときは

キーの電池が切れたときや、使用環境によりキーと車両の通信が正常に行われていないときは、次の手順でEVシステムを始動してください。

始動のしかた



1. ＜パワースイッチ＞を押してから、キーのロゴの裏面を＜パワースイッチ＞に接触させます。
（ブザーが“ピピッ”と鳴ります）
2. ブザーが鳴ってから10秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、＜パワースイッチ＞を押します。

アドバイス

- 上記の手順でEVシステムを始動できない場合は、早めに日産販売会社に連絡してください。

● ドアの施錠・解錠は、内蔵キー（メカニカルキー）（➔P.365）をご使用ください。

●キーの電池が切れたときは、早めに電池を交換してください。
➔インテリジェントキーの電池交換(P.434)

停止のしかた

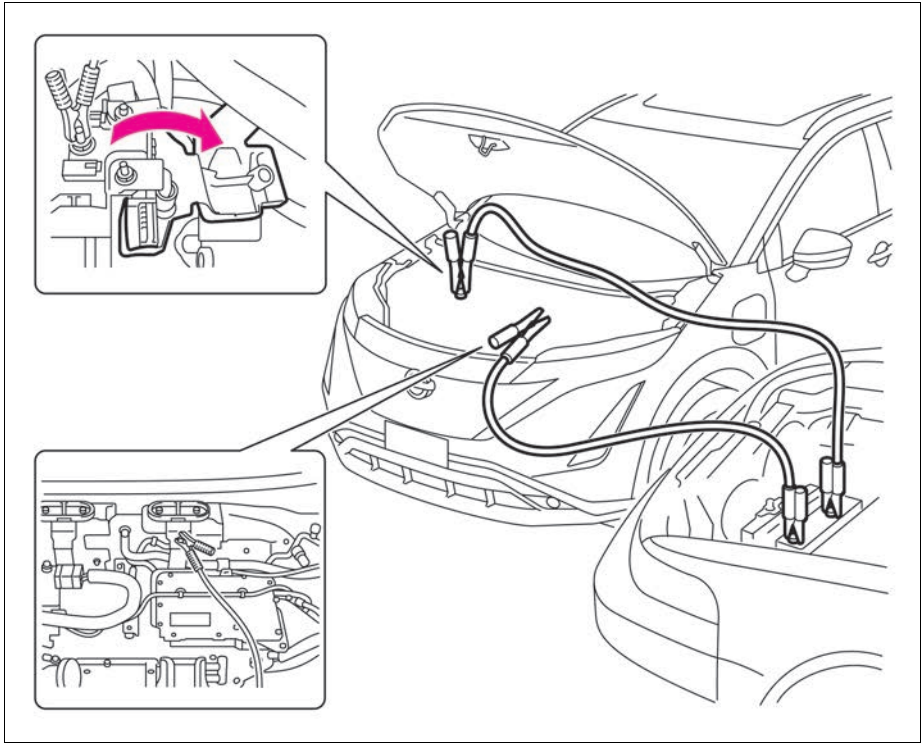
EVシステムを停止するときは、＜パワースイッチ＞を長押ししてください。

12V バッテリーがあがったときは

12Vバッテリーがあがり、EVシステムの始動ができなくなったときは救援車を依頼し、ブースターケーブル（別売り）をつないで始動してください。

⚠ 警告

- **ジャンプスタートを行うときは換気を十分に行い、火気は近づけない。**
  バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- **バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受ける。**
  バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。
- **ブースターケーブルを正しい順番と位置でつなぐ。**
- **ブースターケーブルを自車バッテリーの⊖端子に直接つながない。**
- **ブースターケーブルの⊕端子と⊖端子を接触させない。**
  火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- **バッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**
  接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、バッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。
- **バッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**
  しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。



ジャンプスタートのしかた

⚠ 注意

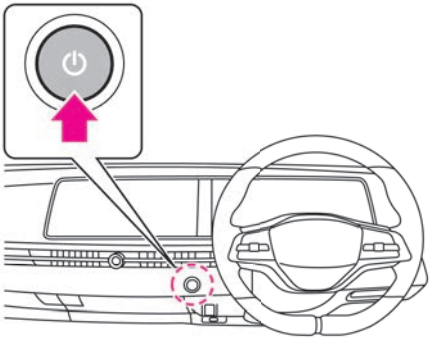
- **ブースターケーブルのワニグチクリップは、車体に触れたり、他のワニグチクリップと接触したりしないように注意する。**
- **ブースターケーブルは、確実に接続する。**

  救援車のエンジン始動時の振動で外れたりしないように確実につないでください。
- **冷却ファンやベルトに注意する。**

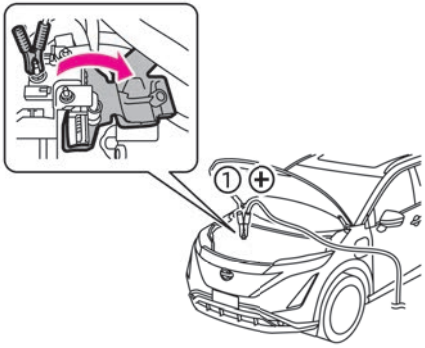
  ブースターケーブルをつなぐときや外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まないように注意してください。

アドバイス

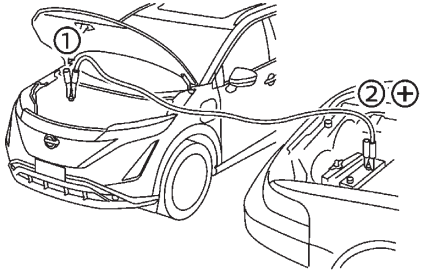
- 押しがけによる始動はできません。
- この車両を救援車として使用しないでください。
- 救援車には12Vバッテリー仕様の車両を使用してください。
- ジャンプスタートを行うときは、充電ケーブルを取り外してください。車両または充電機器を破損するおそれがあります。



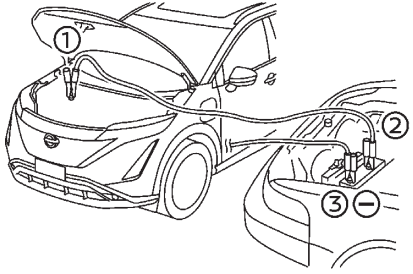
1. 自車と救援車の＜パワースイッチ＞をOFFにします。
➔パワースイッチ (P.184)



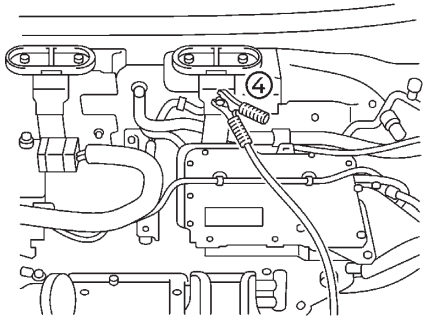
2. ブースターケーブルを自車のヒューズボックス横の⊕端子に接続します。



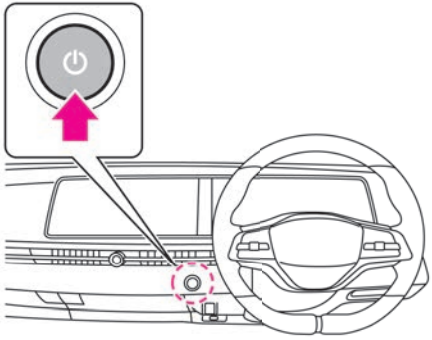
3. 手順2のケーブルの反対側②を救援車の12Vバッテリーの⊕端子に接続します。



4. もう1本のブースターケーブル③を救援車の12Vバッテリーの⊖端子に接続します。

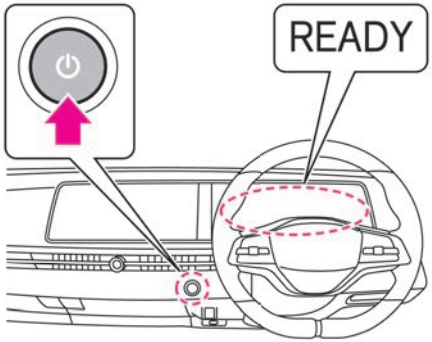


5. 手順4で接続したケーブルの反対側を自車の車体（2の手順で接続した⊕端子から離れたステーなど）に接続します。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。



7. 自車のブレーキペダルをしっかりと踏みながら、＜パワースイッチ＞を一回押します。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備



8. 走行可能表示灯が点灯したことを確認し、ブースターケーブルをつないだときと逆の手順で外します。

●ジャンプスタートを行ったあと、メーターに「ヘッドランプ警告」が表示された場合は、パワースイッチをOFFにして運転席ドアを一度開閉し、そのまま何も操作せず3分以上経過してから、もう一度パワースイッチをONにすると警告を消灯できます。

出力制限表示灯が点灯したときは

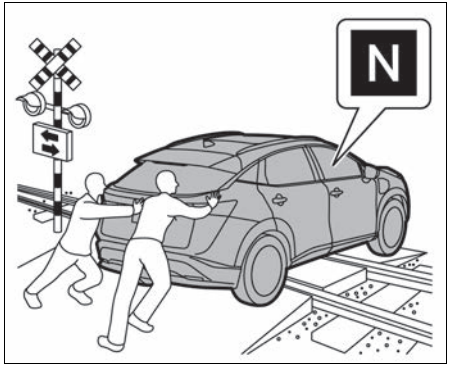
外気温が高いときや連続で高速走行や登坂走行をしたとき、また、急速充電を繰り返したときは、リチウムイオンバッテリーの温度が上がり、出力制限表示灯［ ］が点灯する場合があります。
出力制限表示灯が点灯したときは、加速性能や回生ブレーキ性能が制限されることがあるため、次の対処方法に従ってください。

点灯したときの状況	対処方法	注意事項
走行中に出力制限表示灯［ ］が点灯したとき	**高速道路を走行しているとき** 80km/h以下で走行してください。次のパーキングエリアまたはサービスエリアで車両を止め、出力制限表示灯［ ］が消灯するまで待ちます。 **一般道を走行しているとき** 安全な場所に停車し、出力制限表示灯［ ］が消灯するまで待ちます。	出力制限表示灯［ ］が消灯しないときは、日産EVカスタマーセンター（0120-230-834）にご連絡ください。
急速充電で出力制限表示灯［ ］が点灯したとき	リチウムイオンバッテリーを冷やすため、＜パワースイッチ＞をOFFにし、出力制限表示灯が消灯するまで待ちます。（可能な場合、日かげで照り返しのない場所に移動してから待ちます。）	

リチウムイオンバッテリーの残量がなくなったときは

リチウムイオンバッテリーの残量が完全になくなると、メーター内の走行可能表示灯［READY］が消灯し走行できなくなります。

バッテリーの残量が完全になくなったときの対処のしかた



リチウムイオンバッテリーの残量が完全になくなったときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産EVカスタマーセンター（0120-230-834）にご連絡ください。

万一、安全な場所に移動する前に走行できなくなったときは、付近の人に応援を求め、車両を手で押して安全な場所に移動してください。

このとき、シフトポジションはNにします。

アドバイス

- 救援を待つ間は、＜パワースイッチ＞をOFFにしてください。＜パワースイッチ＞をONのままにしておくと、12Vバッテリーがあがるおそれがあります。
- リチウムイオンバッテリーの残量が完全になくなると、メーター内の走行可能表示灯［READY］が消灯し、シフトポジションも自動的にNに切り替わるため、自力での走行ができなくなります。
- リチウムイオンバッテリーの残量が完全になくなり、車両が停止するときに振動が発生することがありますが、異常ではありません。
- リチウムイオンバッテリーの残量が完全になくなったときは、リチウムイオンバッテリー残量警告灯［ ］（黄色）が消灯（白色）するまで充電してください。

警告灯がついたときは

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。警告灯が点灯または点滅したときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	EVシステム警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、モーターや高電圧システムなどに異常が発生すると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。
	12V系充電警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● 走行可能表示灯［READY］が点灯しているとき、12Vバッテリーの充電系統に異常があると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。 ⚠ 注意 **●12V系充電警告灯が点灯したまま走行しない。** バッテリーが破損したり、エンジンが突然停止したりし、思わぬ事故につながるおそれがあります。
	ABS警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、ABSのシステムに異常があると点灯します。	● <パワースイッチ>をONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 アドバイス ●ABS警告灯が点灯したときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。この場合、滑りやすい路面でのブレーキ時や急ブレーキ時にタイヤがロックすることがあります。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	電動パーキングブレーキ警告灯	● 正常なときは、<パワースイッチ>がONのとき、電動パーキングブレーキがかかっていると点灯し、電動パーキングブレーキを解除すると消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき電動パーキングブレーキのシステムに異常があると点滅します。	● <パワースイッチ>がONで警告灯が点滅しているときに、電動パーキングブレーキを解除しても点滅が続くときは、すみやかに車両を安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。
	ブレーキ警告灯（赤色）	● 正常なときは、<パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、次の場合は点灯し続けます。 — ブレーキ液が不足しているとき — ブレーキシステムに異常があるとき	● 走行中にブレーキ警告灯（赤色）が点灯した場合は、車両を停止し、次の確認を行ってください。（ブレーキシステム警告灯（黄色）と同時にVDC警告灯［ ］も点灯します） — ブレーキ液の量が規定通りに入っていることを確認してください。ブレーキ液が不足している場合は、ブレーキ液を補充し日産販売会社で点検を受けてください。 — ブレーキ液の量が適正のときは、他に原因があることが考えられるため、日産販売会社で点検を受けてください。 ● ブレーキシステムの電源系統に異常があるときは、ブザーが鳴ります。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	ブレーキシステム警告灯（黄色）	● 正常なときは、＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● ＜パワースイッチ＞がONのとき、次の機能に異常があると点灯します。 — ブレーキシステム — 回生ブレーキ — ヒルスタートアシスト — 電動パーキングブレーキ	● パーキングブレーキを解除し、ブレーキ液量が正常でブレーキ警告灯（赤色）と同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車して、日産販売会社にご連絡ください。このときは、ブレーキの効きが極度に悪くなっているおそれがあります。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。 ● ブレーキ警告灯（赤色）と同時に点灯していないときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● ブレーキシステムの電源系統に異常があるときは、ブザーが鳴ります。 アドバイス ● ブレーキシステム警告灯（黄色）が点灯しているときは、回生ブレーキが作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	シートベルト警告灯	● <パワースイッチ>がONのとき、乗員がシートベルトを着用していないと点灯します。 ● シートベルトを着用していない状態で走行すると（約15km/h以上）、警告灯が点滅します。 **シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー）** ● シートベルトを着用していない状態で車速が一定以上になると、ブザーが一定時間鳴ります。	● シートベルトを着用してください。 ⚠ 警告 **● 走行中は全員がシートベルトを着用する。** 着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。 📖 知識 ● 助手席シートまたは後席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して、警告灯が点灯することがあります。 ● シートベルトの着用状態は、アドバンスドドライブアシストディスプレイにも表示されます。 警告メッセージ（➔P.386）
	SRSエアバッグ警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、約7秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯または点滅を続けます。	⚠ 警告 **● <パワースイッチ>をONにしても点灯しないとき、または点灯や点滅を続けるときは、放置したまま走行しない。** 万一のときSRSエアバッグ、プリテンショナーシートベルトが作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
	VDC警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、VDCが作動すると点滅します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、VDCシステムに異常があると点灯します。	● 点灯したときはVDCの作動は停止しますが、VDCシステムのない普通の車として走行できます。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ➔VDC（ビークルダイナミクスコントロール）（P.207）

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	EPS（電動パワーステアリング）警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、走行可能表示灯［READY］が点灯すると消灯します。 ● <パワースイッチ>がONのとき、電動パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● 点灯しているときは、電動パワーステアリングが作動しないことがあり、その場合はハンドル操作が重くなります。ハンドルをしっかりと握り、通常より強く操作してください。 アドバイス ●ハンドルに長時間力を掛けた状態が続いたり停車中に操作を繰り返すと、システムの過熱を防ぐためハンドル操作力が重くなりますが、異常ではありません。しばらくハンドル操作を控え、システムの温度が下がると、通常のハンドル操作力に戻ります。 知識 ●すばやいハンドル操作を行うと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえてくることがありますが、異常ではありません。
	リチウムイオンバッテリー残量警告灯	<パワースイッチ>がONのとき、リチウムイオンバッテリーの残量が低下すると黄色く点灯します。	すみやかに最寄りの充電施設で充電してください。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	出力制限表示灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● メーター内の走行可能表示灯［READY］が点灯しているとき、次の場合に点灯します。 — リチウムイオンバッテリーの残量が極端に低下しているとき — 真冬の屋外などで、リチウムイオンバッテリーの温度が極端に低いとき — 外気温が高いときや連続で高速走行や登坂走行をしたことにより、走行モーターやリチウムイオンバッテリーなどの温度が極端に上がったとき — 急速充電を繰り返し行い、リチウムイオンバッテリーの温度が極端に高いとき — 車両故障が発生しているとき	● 点灯中は出力が制限され、アクセルペダルを踏み込んでも速度が上がらなくなります。 ● アドバンスドドライブアシストディスプレイにメッセージが表示されたときは、それらの指示に従ってください。 ● リチウムイオンバッテリーの残量が極端に低下したときは、すみやかに充電するか、充電できる場所が近くにないときは、すみやかに安全な場所に停車し、EVカスタマーセンター（0120-230-834）にご連絡ください。 ● リチウムイオンバッテリーの温度が上がって点灯したときは、（➔P.371）をお読みください。
	電制シフト警告灯	● <パワースイッチ>がONのとき、電制シフトに異常があると点灯します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● アドバンスドドライブアシストディスプレイにメッセージが表示されたときは、表示されたメッセージに従ってください。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯	● ＜パワースイッチ＞をONにすると点灯し、走行可能表示灯［READY］が点灯すると消灯します。 ● 次の場合は点灯します。 — インテリジェント エマージェンシーブレーキをOFFにしているとき — VDCをOFFにしているとき — インテリジェント エマージェンシーブレーキまたはインテリジェント FCW（前方衝突予測警報）のシステムに異常が発生しているとき — フロントガラスの汚れなどにより、マルチセンシングフロントカメラの前方視界が遮蔽されていると判断したとき — 前方からの強い光により、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき — 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になったとき — 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき	インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしているときは、ONにすると消灯します。 VDCの設定をOFFにしているときは、ONにすると消灯します。 ➔VDCのON·OFFのしかた (P.208) ● 安全な場所に停車し、＜パワースイッチ＞をOFFにします。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、ナビゲーションシステム、オーディオ、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。 再始動後も警告灯が点灯するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
		● フロントガラスの結露やくもりなどにより、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき ● 次の場合にも点灯します。 — 周辺の電波源の影響を受けているとき — センサーの汚れなどで、インテリジェント エマージェンシーブレーキが一時的に作動できない状態になっているとき — 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき — 道路形状や周辺の建造物により、レーダーセンサーが先行車を正確に検知できないとき（例：長い橋、雪原、長い壁の横など） — 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯せず、真っ暗な状態が継続したとき — インテリジェント エマージェンシーブレーキのシステムチェックが正常に終了しなかったとき — けん引されているとき	● フロントガラスが汚れているときは、フロントガラスを清掃し、警告灯が消灯したことを確認してください。 ● 車室内の温度が高いときなどは、温度が下がると自動的に作動を復帰します。 各システムについては、インテリジェント エマージェンシーブレーキ（➔P.264）およびインテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（➔P.287）をお読みください。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	踏み間違い衝突防止アシスト警告灯	● <パワースイッチ>をONにすると点灯し、走行可能表示灯［READY］が点灯すると消灯します。 ● 次の場合は点灯します。 — 踏み間違い衝突防止アシストの設定をOFFにしているとき — VDCの設定をOFFにしているとき — 踏み間違い衝突防止アシストのシステムに異常が発生しているとき ● 次の場合はゆっくり点滅します。 — 踏み間違い衝突防止アシストのシステムが一時的に使用できない場合	● 踏み間違い衝突防止アシストの設定をOFFにしていることによって点灯しているときは、ONにすると消灯します。 ● VDCの設定をOFFにしていることによって点灯しているときは、ONにすると消灯します。 ➔VDCのON·OFFのしかた (P.208) ● 一度<パワースイッチ>をOFFにしてから再始動しても警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ● システムについては、踏み間違い衝突防止アシスト（➔P.269）をお読みください。
	マスターウォーニング	● メーターに警告メッセージが表示されると同時に点灯します。	● 同時に表示した警告メッセージを確認し、それぞれの対処方法に従ってください。 ➔警告メッセージ (P.385)
	車両接近通報システム警告灯	● 車両接近通報装置に異常があると点灯します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	手放し警告灯	● プロパイロットで車線維持機能（ハンドル支援）を行っているとき、ハンドルを持っていない、またはハンドル操作が検出されないと点灯します。 ● 手放し警告灯が点灯しているにもかかわらず、運転者のハンドル操作が検出されない場合は、警告音とともに手放し警告灯が点滅し、車線維持機能は解除されます。 ● プロパイロットのシステムに異常があると点灯します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。運転者のハンドル操作を検出すると警告灯は消灯し、車線維持機能（ハンドル支援）が復帰します。 ● EVシステム再始動後も警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	タイヤ空気圧警告灯	● 正常なときは、<パワースイッチ>をONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● タイヤ空気圧警報システムに異常があると、約１分間点滅したあと点灯します。 ● タイヤ空気圧が低下すると点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されます。 ● バースト（破裂）や急激な空気圧低下をした場合は、メーター内の警告表示がすぐに作動しない場合があります。	● 走行中に警告灯が点灯した場合は、急ハンドル・急ブレーキを避け、車速を下げて安全な場所に退避し、できるだけすみやかに停車してください。 ● タイヤ空気圧警報システムに異常があったときは、日産販売会社で点検を受けてください。 ● タイヤ空気圧が低下したときは、安全な場所に停車し、タイヤを確認してください。 ● パンクではなく、タイヤ空気圧が低下しているときは、指定の空気圧に調整してください。 ➔タイヤの点検項目 (P.428) ● タイヤがパンクしたときは、すみやかに日産販売店で点検を受けてください。 ● タイヤ空気圧の調整後は、必ずシステムのリセット操作をしてください。リセット操作後、タイヤ空気圧警告灯とアドバンスドドライブアシストディスプレイの警告表示が消灯します。 ➔タイヤ空気圧警報システム (P.430) ● <パワースイッチ>をONにしても警告灯が点灯しない場合は、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

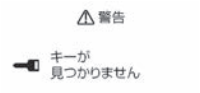
警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
			⚠ 警告 ● **タイヤの空気圧が不足したまま走行しない。** 気温や高度の変化により、タイヤの空気圧は変化します。タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。 📖 知識 ● 温度による空気圧の変化や自然に空気圧が減少したときにも点灯しますが、適切な空気圧に調整して消灯すれば故障ではありません。 ● 高速走行時はタイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあと点灯することがありますが、減速して消灯すれば故障ではありません。

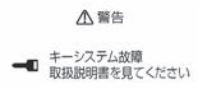
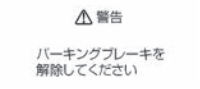
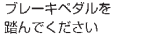
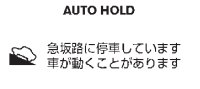
警告メッセージが表示されたときは

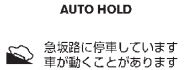
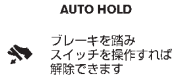
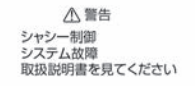
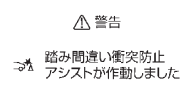
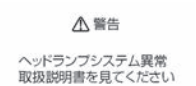
警告メッセージが表示されたときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告メッセージ

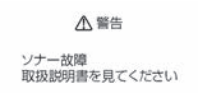
画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	EVシステム始動操作表示	● <パワースイッチ>がOFFのとき、インテリジェントキーが車室内にある状態で運転席ドアを閉めたときに表示します。 ● <パワースイッチ>がONでメーター内の走行可能表示灯［READY］が消灯しているときに表示します。	● ブレーキペダルを踏みながら<パワースイッチ>を押すと、走行可能表示灯［READY］が点灯し、走行できるようになります。 ● 次の場合、表示が消えます。 — 走行可能表示灯［READY］が点灯したとき — リモコン機能、ドアハンドルのセンサー、またはバックドアのスイッチでドアを施錠したとき
	インテリジェントキー非作動時EVシステム始動表示	● インテリジェントキーの電池が切れたときや、使用環境により、キーと車両の通信が正常に行われないときに表示します。	● ブレーキペダルを踏みながら、キーの裏面を<パワースイッチ>に接触させてください。 ➔EVシステムを始動できないときは (P.366)
	インテリジェントキー電池切れ表示	● インテリジェントキーの電池切れが近くなると電池の交換を知らせます。	● 新しい電池に交換してください。 ➔インテリジェントキーの電池交換 (P.434) ● 次の場合、インテリジェントキー電池切れ表示が消えます。 — 表示から約30秒経過したとき — <パワースイッチ>をON以外にしたとき

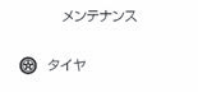
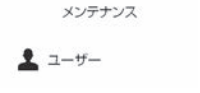
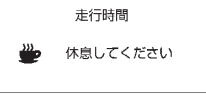
画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	インテリジェントキー持ち出し警告	● 次の場合に表示します。 — 走行可能表示灯［READY］が点灯している状態で、インテリジェントキーが車外に持ち出されたとき — キーを携帯していないとき — 携帯しているキーの電池が切れているとき — 登録されていないキーを携帯しているとき	● 次のように対処してください。 — キーが車外に持ち出されていないか確認してください。 — キーを携帯してください。 — 新しい電池に交換してください。 ➔インテリジェントキーの電池交換 (P.434) — 自車のキーであることを確認してください。 ● EVシステムを停止させるときは、次の操作を行ってください。 — ＜パワースイッチ＞を2秒以上押し続ける
	ドア開き警告	● ドアが確実に閉まっていないとき、開いている位置を表示します。	● ドアを確実に閉めてください。 **⚠ 注意** **●走行前に表示が消えていることを確認する。** ドアが完全に閉まっていない（半ドア）と走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
	シートベルト警告	● パワースイッチがONのとき、乗員がシートベルトを着用していないと、シートベルトを着用していない席を赤色で表示します。 ● シートベルトを着用している席は緑色で表示されます。 ● 空席は灰色で表示されます。	● シートベルトを着用してください。 **⚠ 警告** **●走行中は全員がシートベルトを着用する。** 着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。 **知識** ●助手席シートまたは後席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して、シートベルト警告が表示されることがあります。

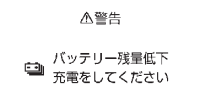
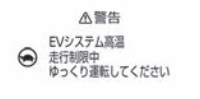
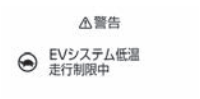
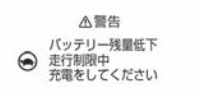
画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	キーシステム警告	● キーシステムに異常があると表示します。	● 日産販売会社にご連絡ください。<パワースイッチ>を切り替えられないことがあります。
	P戻し忘れ警告	● シフトポジションがP以外で運転席ドアが開いていると表示します。	● シフトポジションをPに入れてください。
	電動パーキングブレーキ戻し忘れ警告	● 電動パーキングブレーキを掛け、運転席ドアを閉めずにアクセルペダルを踏み、発進すると表示します。 ● 電動パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると表示します。	● すみやかに電動パーキングブレーキを解除してください。 ➔電動パーキングブレーキ (P.188)
	電動パーキングブレーキ警告	● 急な坂道などで電動パーキングブレーキがかかった状態で車両が動くと表示し、ブザーが鳴ります。 ● 電動パーキングブレーキがかかった状態で、ブレーキペダルを踏まずに<電動パーキングブレーキスイッチ>を押した場合に表示します。	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。 ● 解除する場合は、ブレーキペダルを踏んでから<電動パーキングブレーキスイッチ>を押してください。 ➔電動パーキングブレーキ (P.188)
	オートブレーキホールド警告	● オートブレーキホールド機能が作動中に車両が動いたときに表示し、ブザーが鳴ります。	● ブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。
	オートブレーキホールド急坂路注意表示	● 急な坂道などでオートブレーキホールド機能が作動したときに表示し、ブザーが鳴ります。	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。 ● 急な坂道や滑りやすい路面でオートブレーキホールド機能が作動していても、車両が動き出すおそれがあります。 ➔オートブレーキホールド (P.189)

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	オートブレーキホールド急坂路操作表示	● 急な坂道などでオートブレーキホールド機能が作動してから一定時間経過し、ブレーキが踏まれていなかった場合に表示し、ブザーが鳴ります。	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。 ● 急な坂道などでオートブレーキホールド機能が作動してから一定時間経過し、電動パーキングブレーキがかかるときに車両が動き出すおそれがあります。 ➔ オートブレーキホールド (P.189)
	オートブレーキホールドスイッチ解除操作表示	● オートブレーキホールド機能作動中、ブレーキペダルを踏まずにオートブレーキホールドスイッチを押したときに表示します。	● ブレーキペダルを踏んでから<オートブレーキホールドスイッチ>を押してください。 ➔ オートブレーキホールド (P.189)
	シャシー制御表示	● シャシー制御のシステムに異常があると表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
	踏み間違い衝突防止アシスト作動時表示	● 踏み間違い衝突防止アシストが作動すると表示します。	● 進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者などを検知している場合に、アクセルペダルがすばやく深く踏み込まれたとシステムが判断したときに作動します。 ➔ 踏み間違い衝突防止アシスト (P.269)
	ヘッドランプ警告	● LEDヘッドランプに異常があると表示します。	● 安全な場所に停車し、一度EVシステムを停止してからマルチセンシングフロントカメラの前の障害物を取り除き、汚れを清掃してEVシステムを再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
⚠警告 システム故障 取扱説明書を見てください ⚠警告 システム故障のため、 一部の運転支援を 使用できません	システム故障警告	● プロパイロット、インテリジェントエマージェンシーブレーキ、踏み間違い衝突防止アシスト、BSW（後側方車両検知警報）、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）、LDW（車線逸脱警報）、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）、RCTA（後退時車両検知警報）、インテリジェント DA（ふらつき警報）、標識検知機能が故障すると表示します。	● 安全な場所に停車し、＜パワースイッチ＞をOFFにします。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、ナビゲーションシステム、オーディオ、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。 ● 再始動後もメッセージが表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ➔プロパイロット (P.217) ➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.264) ➔踏み間違い衝突防止アシスト (P.269) ➔BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム） (P.275) ➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） (P.283) ➔インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.287) ➔RCTA（後退時車両検知警報） (P.290) ➔インテリジェント DA（ふらつき警報） (P.293) ➔標識検知機能 (P.294)

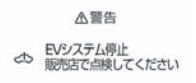
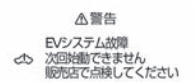
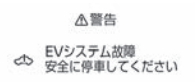
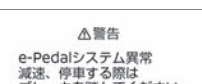
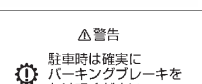
画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	ソナーシステム異常警告A	● ソナーが故障したときに表示します。	● 安全な場所に停車し、＜パワースイッチ＞をOFFにします。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、ナビゲーションシステム、オーディオ、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。 ➔ソナー表示 (P.121)
	ソナーシステム異常警告B	● ソナーが一時的に使用できない状態になっているときに表示します。	● 安全な場所に停車し、一度＜パワースイッチ＞をOFFにしてからソナーの汚れを取り除き、EVシステムを再始動してください。 ● 他車のソナーが付近に存在するときや周囲で大きな音が鳴っているときは、静かな場所に移動し、一度EVシステムをOFFにしてから再始動してください。
	インテリジェントDA（ふらつき警報）表示	● 運転者のハンドル操作から注意力が低下していると判断したときに表示します。	● 表示・非表示の設定ができます。 ➔インテリジェント DA（ふらつき警報） (P.293)
	進入禁止標識検知表示	● 前方の車両進入禁止標識を検知し、一方通行路へ進入する可能性がある場合に表示します。	● 表示・非表示の設定ができます。 ➔標識検知機能 (P.294)
	一時停止標識検知表示	● 前方の一時停止標識を検知した場合には、メーターに表示します。	● 表示・非表示の設定ができます。 ➔標識検知機能 (P.294)

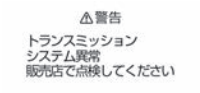
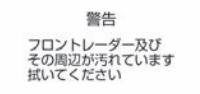
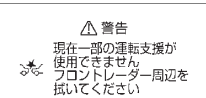
画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	ライト消し忘れ警告	● <パワースイッチ>がON以外の位置で運転席ドアを開けたとき、次の場合に表示し、ブザーが鳴ります。 — ライトスイッチが< ≡D >の位置にあるとき — ライトスイッチを<TAIL/OFF>の位置に回して、テールランプ表示灯［≡D≡］が点灯しているとき	● ライトスイッチを<AUTO>の位置にする、または<TAIL/OFF>の位置に回してテールランプ表示灯［≡D≡］を消灯してください。
	タイヤ交換表示	● 設定したタイヤ交換距離に達すると表示します。	● タイヤ交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 設定（➔P.117）
	メンテナンス距離表示	● タイヤ以外の整備項目の点検距離または交換距離に達すると表示します。	● その他の整備項目には、例えばタイヤのローテーションを行う距離の設定ができます。項目の点検／交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 設定（➔P.117）
	凍結注意アラーム表示	● 外気温が3℃以下になったことを知らせます。	● 表示・非表示の設定ができます。 設定（➔P.110）
	走行時間アラーム表示	● 設定した時間まで連続走行したことを知らせます。	● 表示・非表示の設定ができます。 設定（➔P.110）

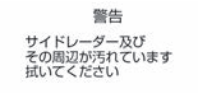
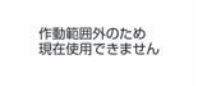
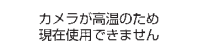
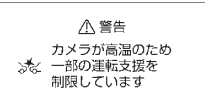
画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	自動電源OFF表示A	● EVシステムが停止している状態で、＜パワースイッチ＞をONにしたまましばらくすると表示することがあります。	● そのまま＜パワースイッチ＞を切り替えないと、省エネのため＜パワースイッチ＞がOFFになります。
	自動電源OFF表示B	● EVシステムが停止している状態で、＜パワースイッチ＞をONにしたまま時間が経過し、＜パワースイッチ＞が自動でOFFになったときに表示することがあります。	
	リチウムイオンバッテリー残量警告	● リチウムイオンバッテリーの残量が低下し、リチウムイオンバッテリー残量警告灯［ ］が黄色く点灯するのと同時に表示します。	● すみやかに最寄りの充電施設で充電してください。
	出力制限警告A	● 外気温が高いときや連続で高速走行や登坂走行をしたことにより、走行モーターやリチウムイオンバッテリーなどの温度が極端に上がったとき、出力制限表示灯［ ］が点灯すると同時に表示します。	● 表示すると出力が制限され、アクセルペダルを踏み込んでも速度が上がらなくなります。 ● リチウムイオンバッテリーの残量が極端に低下して点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、EVカスタマーセンター（0120-230-834）へご連絡ください。
	出力制限警告B	● 真冬の屋外などで、リチウムイオンバッテリーの温度が極端に低くなったとき、出力制限表示灯［ ］が点灯すると同時に表示します。	
	出力制限警告C	● リチウムイオンバッテリーの残量が極端に低下したとき、出力制限表示灯［ ］が点灯すると同時に表示します。	
	出力制限警告D	● 出力制限警告A、出力制限警告B、出力制限警告C以外の出力制限される原因があるとき、出力制限表示灯［ ］が点灯すると同時に表示します。	

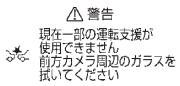
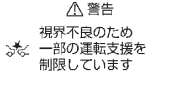
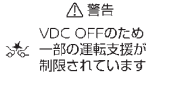
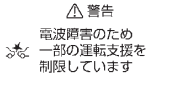
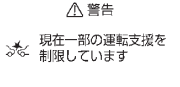
画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
走行できません 充電プラグが 接続されています	充電コネクタ取り外し警告	● 車両に充電コネクタが接続された状態で、EVシステムを始動しようとしたときに表示します。	● EVシステムを始動するときは、充電コネクタを取り外してから<パワースイッチ>を押してください。
⚠警告 12V電源 システム故障 点検してください	12V電源システム警告	● 12Vバッテリーに異常が発生していると表示します。	● 点灯し続けるときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
⚠警告 EVシステム停止 安全に停車し 安全な場所に退避してください	リチウムイオンバッテリー熱暴走警告A	● 走行中、リチウムイオンバッテリーに異常が発生し、熱暴走にいたる危険を検知したときに表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、車外に退避してから日産販売会社にご連絡ください。
⚠警告 EVシステム停止 安全な場所に退避してください	リチウムイオンバッテリー熱暴走警告B	● 停車中、リチウムイオンバッテリーに異常が発生し、熱暴走にいたる危険を検知したときに表示します。	● すみやかに車外に退避し、日産販売会社にご連絡ください。
⚠警告 EVシステム故障 走行制限中 販売店で点検してください	EVシステム警告A	● EVシステムに異常が発生し、出力が制限されていると表示します。	● すみやかに日産販売会社にご連絡ください。
⚠警告 EVシステム故障 走行制限中 安全に停車してください	EVシステム警告B	● 走行中、EVシステムに異常が発生し、出力が制限されていると表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。
⚠警告 EVシステム故障 販売店で点検してください	EVシステム警告C	● EVシステムに異常が発生し、EVシステムが停止せず、出力が制限されていないときに表示します。	● すみやかに日産販売会社にご連絡ください。
⚠警告 EVシステム停止 安全に停車してください	EVシステム警告D	● 走行中、EVシステムに異常が発生し、EVシステムが停止しているときに表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。
⚠警告 EVシステム停止 パーキングブレーキを かけてください	EVシステム警告E	● 停車中、EVシステムに異常が発生し、EVシステムが停止しているときに表示します。	● すみやかにパーキングブレーキを掛け、日産販売会社にご連絡ください。

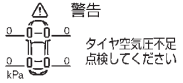
☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

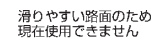
画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	EVシステム警告F	● 停車中、EVシステムに異常が発生し、EVシステムが停止しているときに表示します。	● すみやかに日産販売会社にご連絡ください。
	EVシステム警告G	● EVシステムに異常が発生し、EVシステムが再始動できないときに表示します。	● すみやかに日産販売会社にご連絡ください。
	EVシステム警告H	● 走行中、EVシステムに異常が発生し、EVシステムが停止せず、出力が制限されていないときに表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。
	e-Pedal Stepシステム異常警告	● e-Pedal Stepシステムに異常があると表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
	電制シフト警告A	● 電制シフトに異常が発生したときに表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● 駐車するときは、パーキングブレーキを確実に掛けてください。パーキングブレーキをかけていないと、＜パワースイッチ＞をOFFにできないことがあります。 ● ＜パワースイッチ＞をOFFにできないときは、次の操作を行ってください。 — ①停車してパーキングブレーキを掛けます — ②ブレーキペダルを踏み込みながら＜パワースイッチ＞を押して、＜パワースイッチ＞をONに切り替えます — シフトポジションを**P**に切り替えます — ④＜パワースイッチ＞を押して、＜パワースイッチ＞OFFに切り替えます

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	電制シフト警告B	● 電制シフトに異常が発生したときに表示します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● シフトポジションがすぐに切り替わらないことがあるため、目的のシフトポジションの位置でセレクトレバーを保持し、シフトポジションが切り替わったことを確認してから手を離してください。 ● オートP機能（➔P.188）が作動しないことがあるため、駐車するときはセレクトレバーにある<P>スイッチを押し、Pに切り替わったことを確認してください。
	シフトポジション警告	● セレクトレバーが中央の位置以外で保持され続けたときに表示します。	● セレクトレバーが中央の位置にあるか確認してください。 ● セレクトレバーが中央の位置にあるときに表示された場合は、日産販売会社で点検を受けてください。
 	フロントレーダーシステム停止警告	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。 — ➔プロパイロット（P.217） — ➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ（P.264） — ➔インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）（P.287） ● 次のような道路形状、または建造物がある場合は、レーダーが先行車を正確に検知できず、作動が停止します。 — 長い橋を走行しているとき — 砂地や雪原を走行しているとき — 長い壁の近くを走行しているとき	● 安全な場所に停車し、一度EVシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、EVシステムを再始動してください。 ● 停止したときの状態が改善、または変更されると、システムは作動を再開します。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	サイドレーダーシステム停止警告	● 車両後部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。 — BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（P.275） — RCTA（後退時車両検知警報）（P.290）	● レーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから、システムを一旦OFFにしたあと、再度ONにしてください。
	作動範囲外警告	● 次のシステムが停止すると表示します。停止する条件については、各システムをお読みください。 — インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（P.275） — インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（P.283） ● VDCをOFFにしたとき	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再度ONにしてください。
 	カメラ高温警告	● 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になり、次のシステムが停止すると表示します。 — インテリジェント エマージェンシーブレーキ（P.264） — インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（P.275） — LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（P.283）	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、マルチセンシングフロントカメラ周辺の温度が下がってから、再度ONにしてください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム 視界不良警告	● 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いときに表示します。 ● 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているときに表示します。	● 悪天候時にはインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムは作動しません。 ● 状況が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。
	カメラ視界不良警告	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラス凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったときに表示します。 ● 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯せず、真っ暗な状態が継続したときに表示します。	● 安全な場所に停車し、一度EVシステムを停止してからカメラ前方のフロントガラスの汚れなどを取り除き、EVシステムを再始動してください。 ● 停止したときの状態が改善されると、システムは作動を再開します。
	VDC OFF警告	● VDCをOFFにしたときに表示します。	● VDCをOFFにしたときに停止する機能については、（➔P.208）をお読みください。
	インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム 電波障害警告	● 放送局など周辺の電波源により影響を受けているときに表示します。	● 周辺の電波源による影響を受けているときはインテリジェント エマージェンシーブレーキは作動しません。 ● 状況が改善されると、システムは作動を再開します。
	インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム 作動制限警告	● インテリジェント エマージェンシーブレーキのシステムチェックが正常に終了しなかったとき表示します。 ➔インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が停止するとき(P.268) ● けん引されているときに表示します。	● 安全な場所に停車し、一度EVシステムを停止してから再始動してください。 ● けん引されているときはインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムは作動しません。 ● 状況が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	タイヤ空気圧不足表示A	● タイヤ空気圧が低下すると、表示します。	● 安全な場所に停車し、タイヤを確認してください。 ● パンクではなく、タイヤ空気圧が低下しているときには、指定の空気圧に調整してください。 ● 同時にタイヤ空気圧警告灯（➔P.383）が点灯します。 ● 温度による空気圧の変化や、自然に空気圧が減少したときにも点灯しますが、適切な空気圧に調整して消灯すれば故障ではありません。 ● 高速走行時はタイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあと点灯することがありますが、減速して消灯すれば故障ではありません。 ➔タイヤ空気圧警報システムについて(P.430) ● アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示されるタイヤ空気圧が、設定した目標空気圧より高くても、黄色で表示されているときは空気圧が不足しているおそれがあります。 走行中や走行直後は熱により空気圧が高くなるため、タイヤが冷えてから空気圧を確認してください。 車両情報（➔P.92）
タイヤ空気圧不足 点検してください 冷間時に空気圧を 確認してください	タイヤ空気圧不足表示B	● 走行中のタイヤ空気圧変化により、タイヤが冷えたときの空気圧が、指定空気圧より低くなる可能性がある場合に表示します。	

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
	スリップ警告	● 次のシステムが停止すると表示します。停止する条件については、各システムをお読みください。 — プロパイロット (P.217) — インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（P.275） — インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（P.283） ● ABSまたはVDC（トラクションコントロール機能（TCS）は含まない）が作動したとき	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再度ONにしてください。
	システムOFF表示	● RCTA（後退時車両検知警報）がOFFのとき、シフトポジションをRにすると表示します。 RCTA（後退時車両検知警報）(P.290)	● RCTA（後退時車両検知警報）をONにすると、シフトポジションをRにしても表示されません。

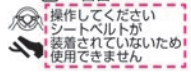
プロパイロット／プロパイロット 2.0 警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。メーター内の表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

画面表示	表示する条件	説明・対処方法
	● 運転者が前方の状況に注意していないと判断したとき	● 運転者は前を向き、常に前方の状況に注意して運転してください。 ● 運転者が前を向くと警告は消灯します。
	● ハンドルを持っていない、またはハンドルを操作していないとき ● 3D高精度地図データと実際の道路が異なっていると判断したとき ● 車線逸脱警報が作動したとき ● ハンドルを持たずにアクセルペダル操作をしたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
	● 運転者が前方の状況に注意していない状態が継続したとき ● 運転者にハンドル操作を要求するとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
	● 運転者のハンドル操作がないため、自車を減速、緊急停止させるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯し、プロパイロット2.0が解除されます。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
アドバンスドドライブアシストディスプレイ 	システム故障	● プロパイロット2.0に異常があるとき	● 安全な場所に停車して、EVシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	フロントレーダーおよびその周辺が汚れています 拭いてください	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき	● 安全な場所に停車し、一度EVシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、EVシステムを再始動してください。 ➔レーダーセンサーの取り扱い (P.442)
	シートベルトが解除されているため 使用できません	● 運転席のシートベルトを解除したとき	● 運転席のシートベルトが解除されている場合は、プロパイロット2.0は使用することができません。
	パーキングブレーキが作動しているため 使用できません	● 電動パーキングブレーキが作動したとき	● 電動パーキングブレーキが作動しているときは、プロパイロット2.0は使用することができません。
	滑りやすい路面のため 現在使用できません	● VDC（トラクションコントロールを含む）が作動したとき ● タイヤが空転したとき	● VDC／TCSが作動する、またはタイヤが空転するような状況では、プロパイロット2.0は使用できません。
	作動範囲外のため 現在使用できません	● VDCをOFFにしたとき	● VDCがOFFの場合は、プロパイロット2.0は使用できません。
アドバンスドドライブアシストディスプレイ 	システム故障	● 車線維持機能（ハンドル支援）に異常があるとき	● 安全な場所に停車して、EVシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	悪天候のため 現在使用できません	● ワイパーが高速で作動しているとき	● 状況が改善すると、車線維持機能（ハンドル支援）を使用することができます。 ● ワイパーの高速動作を解除してください。その後、プロパイロットを再度セット、もしくは＜ハンドル支援スイッチ＞を押してください。
	カメラが認識できないため 現在使用できません	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき ● 前方から強い光を受けたとき	
	カメラが高温のため 現在使用できません	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● 状況が改善すると、車線維持機能（ハンドル支援）を使用することができます。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
アドバンスドドライブアシストディスプレイ 	操作してください システム故障	● プロパイロット2.0に異常があるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 安全な場所に停車して、EVシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	操作してください フロントレーダーが 汚れているため 使用できません	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 安全な場所に停車し、一度EVシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、EVシステムを再始動してください。 ➔レーダーセンサーの取り扱い (P.442)
	レーンを認識できません ハンドル支援を解除します	● 走行車線内にレーンマーカーに見えるようなものがあるなど、レーンマーカーが正しく検出できない状態が長時間続いたとき（雪のわだち、雨の日の周辺の光の反射、消し忘れのレーンマーカーなど）	● 再び車線維持機能（ハンドル支援）を使用したいときは、レーンマーカーがはっきりと描かれている道路でプロパイロットを再セット、もしくは＜ハンドル支援スイッチ＞を押してください。
	操作してください シートベルトが 装着されていないため 使用できません	● 運転者のシートベルトを解除したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転席のシートベルトが解除されている場合はプロパイロット2.0は使用することができません。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
	操作してください パーキングブレーキが 作動しているため 使用できません	● 電動パーキングブレーキを掛けたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 電動パーキングブレーキが作動しているときはプロパイロット2.0は使用することができません。
	操作してください 作動範囲外のため 使用できません	● VDCをOFFにしたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● VDCがOFFの場合は、プロパイロット2.0は使用できません。
	操作してください	● 先行車を検出していないときに、車速が約25km/hを下回ったとき ● 運転席、助手席、後席シートのいずれかのドアを開けたとき ● 車速・車間制御機能により自車が停車後、約3分が経過したとき ● シフトポジションをD以外にしたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 状況が改善すると、プロパイロット2.0を使用することができます。
	操作してください レーンを認識できません	● レーンマーカーを検出できなくなったとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 状況が改善すると、車線維持機能（ハンドル支援）を使用することができます。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
	操作してください 悪天候のため 使用できません	● ワイパーが高速で作動しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 状況が改善すると、車線維持機能（ハンドル支援）を使用することができます。
	操作してください 視界不良のため 使用できません	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき ● 前方から強い光を受けたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 状況が改善すると、車線維持機能（ハンドル支援）を使用することができます。
	操作してください カメラが高温のため 使用できません	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 室内の温度が下がると車線維持機能（ハンドル支援）を使用することができます。
	操作してください この先、料金所です	● 前方に料金所があるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 料金所、出口、車線数が減少する地点、急カーブ、交差点などではプロパイロット2.0は使用できません。
	操作してください この先、急カーブです	● 前方に急なカーブがあるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 料金所、出口、車線数が減少する地点、急カーブ、交差点などではプロパイロット2.0は使用できません。
	操作してください	● 料金所のない高速道路、または自動車専用道路の出口があるとき ● 3D高精度地図データがない区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 料金所、出口、車線数が減少する地点、急カーブ、交差点などではプロパイロット2.0は使用できません。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
アドバンスドドライブアシストディスプレイ 	ハンドルを持ってください （車速 作動範囲外）	● 標識検知機能が検出している速度を超えて走行しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください （カーブ、分合流、道幅など）	● 急カーブに近づいたとき ● 分合流が続く区間を走行しているとき ● 車線幅の狭い道路を走行しているとき ● 制限速度50km/h以下を検出したとき ● システムが制御継続するのが難しいと判断した道路形状の区間に近づいたとき ● 道路区画線が存在しない区間に近づいたとき ● 車線幅が広い区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 車線減少します	● 車線数が減少する地点に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください （交通規制）	● 工事区間など交通規制のある区間を検出したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 高精度地図がありません	● 料金所のない高速道路、または自動車専用道路の出口に近づいたとき ● 3D高精度地図データのない区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 高精度地図メンテナンス区間	● 3D高精度地図を工事などに合わせてメンテナンス中のとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
	ハンドルを持ってください GPS信号を受信できません	● GPS信号を受信できなくなったとき ● トンネル内を走行しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 悪天候のため使用できません	● ワイパーが低速で作動しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 対面通行区間です	● 対面通行区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください ドライバーを認識できません	● 運転者を認識できなくなったとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● ドライバーモニターカメラと運転者の間に遮るものがある場合は、取り除いてください。
	ハンドルを持ってください	● 接近警報が作動したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 必要に応じてブレーキを操作し、車間距離を確保してください。
	一部のハンドル支援が 作動できません （システム故障）	● システムの一部に異常があり、車線維持機能（ハンドル支援）の一部が作動できないとき	● 安全な場所に停車して、EVシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	一部のハンドル支援が 作動できません （サイドレーダー汚れ）	● 車両前部と車両後部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しており、車線維持機能（ハンドル支援）の一部が作動できないとき	● レーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから、システムを再びONにしてください。 ➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.442)
	一部のハンドル支援が 作動できません ドライバーを認識できません	● 運転者を検出できないとき	● 運転者を検出できない場合は、一部の車線維持機能（ハンドル支援）は使用できません。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
	一部のハンドル支援が 作動できません 高精度地図が使用できません	● ナビゲーションからの情報がこないなど、車線維持機能（ハンドル支援）の一部が作動できないとき	● 安全な場所に停車して、EVシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。 ● 上記操作をしてもメッセージが表示される場合は、日産販売会社で点検を受けてください。
	一部のハンドル支援が 作動できません 高精度地図メンテナンス区間	● 3D高精度地図を工事などに合わせてメンテナンス中のとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	一部のハンドル支援が 作動できません 高精度地図がありません	● 料金所のない高速道路、または自動車専用道路の出口に近づいたとき ● 3D高精度地図データのない区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください この先、料金所	● 自動車専用道出口（料金所あり）	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください サイドレーダー 現在使用できません	● サイドレーダー異常を検知したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください 全周囲カメラ 使用できません	● インテリジェント アラウンド ビューモニターカメラ異常を検知したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	ハンドルを持ってください （低温）	● 気温が低いとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
	一部のハンドル支援が 作動できません （カーブ、分合流、道幅など）	● 急カーブに近づいたとき ● 分合流が続く区間を走行しているとき ● 車線幅の狭い道路を走行しているとき ● 制限速度50km/h以下を検出したとき ● システムが制御継続するのが難しいと判断した道路形状の区間に近づいたとき ● 道路区画線が存在しない区間に近づいたとき ● 車線幅が広い区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	一部のハンドル支援が 作動できません GPS信号を受信できません	● GPS信号を受信できなくなったとき ● トンネル内を走行しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	一部のハンドル支援が 作動できません この先、料金所	● 前方に料金所があるとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	一部のハンドル支援が 作動できません 対面通行区間です	● 対面通行区間に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	一部のハンドル支援が 作動できません 車線減少します	● 車線数が減少する地点に近づいたとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。

画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
	一部のハンドル支援が作動できません（交通規制）	● 工事区間など交通規制のある区間を検出したとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	一部のハンドル支援が作動できません（車速 作動範囲外）	● 標識検知機能が検出している速度を超えて走行しているとき	● すみやかにハンドルを持って操作してください。
	一部のハンドル支援が作動できません（高精度地図ライセンス切れ）	● 3D高精度地図データを利用するための契約がされていないとき	● 3D高精度地図データを利用するための契約については、日産販売会社にお問い合わせください。
	一部のハンドル支援が作動できません サイドレーダー現在使用できません	● サイドレーダー異常を検知したとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	一部のハンドル支援が作動できません 全周囲カメラ使用できません	● インテリジェント アラウンドビューモニターカメラ異常を検知したとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	一部のハンドル支援が作動できません（低温）	● 気温が低いとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。

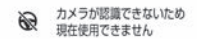
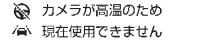
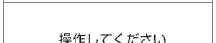
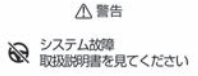
画面表示	表示メッセージ	表示する条件	説明・対処方法
	一部のハンドル支援が 作動できません 悪天候のため使用できません	● ワイパーが低速で作動しているとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	車線変更支援を中止しました 車速が低すぎます	● 車速が約60km/hを下回り、車線変更支援が中止したとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	車線変更支援を中止しました 車両を検知しました	● 目的の車線に車両を検出したため、車線変更支援機能が中止したとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	車線変更支援を中止しました （カーブ、分合流、道幅等）	● システムで車線変更支援を行うことが難しい道路形状の区間のとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	車線変更支援できません 分岐まで近すぎます	● 車線変更のスペースが検出できず、出口・分岐路近くになったとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。
	車線変更支援を中止しました	● 車線変更のスペースが検出できず、追い越し支援機能が中止したとき ● レーンマーカーが検出できなくなったとき ● 目的の車線の方向のレーンマーカーが白、または黄色の実線になったとき ● サイドレーダー部が汚れ、周辺車両との距離の測定が困難になったとき ● 車線変更支援機能に異常があるとき	● ハンドル操作をして車線変更をしてください。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
作動範囲外のため 現在使用できません	● VDCをOFFにしたとき ● プロパイロット パーキングが作動しているとき	● VDCがOFFの場合はプロパイロットを使用することができません。 ● プロパイロット パーキングが作動しているときは、プロパイロットを使用することができません。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
パーキングブレーキが 作動しているため 使用できません	● 電動パーキングブレーキが作動したとき	● 電動パーキングブレーキが作動しているときはプロパイロットを使用することができません。
シートベルトが 解除されているため 使用できません	● 運転席のシートベルトを解除したとき	● 運転席のシートベルトが解除されている場合はプロパイロットを使用することができません。
システム故障 取扱説明書を見てください	● システム故障	● 安全な場所に停車して、一度<パワースイッチ>をOFFにしてからEVシステムを再始動します。再始動後も警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
停車状態を維持できません ブレーキを踏んでください	● プロパイロットにより車両が停止中、運転席ドアが開いたが電動パーキングブレーキが正常に作動しなかったとき	● すみやかにブレーキを踏んでください。
フロントレーダーおよび その周辺が汚れています 拭いてください	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき	● 安全な場所に停車し、一度EVシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、EVシステムを再始動してください。 ➔ レーダーセンサーの取り扱い (P.442)
滑りやすい路面のため 現在使用できません	● VDC/TCSが作動したとき ● タイヤの空転を検出したとき	● VDC/TCSが作動する、または、タイヤが空転するような状況ではプロパイロットは使用できません。

プロパイロット（ハンドル支援）警告メッセージ

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
レーンを認識できません ハンドル支援を解除します	● 走行車線内にレーンマーカーに見えるようなものがあるなど、レーンマーカーが正しく検出できない状態が長時間続いたとき（雪のわだち、雨の日の周辺の光の反射、消し忘れのレーンマーカーなど）	● 再び車線維持機能を使用したいときは、レーンマーカーがはっきりと描かれている道路でプロパイロットを再セット、もしくは<ハンドル支援スイッチ>を押してください。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
	● ワイパーを高速で作動させたとき	● ワイパーの高速動作を解除してください。その後、プロパイロットを再度セット、もしくは＜ハンドル支援スイッチ＞を押してください。
	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき	● 状況が改善されたあと、プロパイロットを再セット、もしくは＜ハンドル支援スイッチ＞を押してください。 ● 警告表示が出続ける場合は、安全な場所に停車して、EVシステムを一旦停止してカメラ前方のフロントガラスの汚れなどを取り除いてください。
 	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● 車室内の温度が下がるとプロパイロットを使用することができます。
	● システム故障	● 安全な場所に停車して、EVシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	● ハンドルを持っていない、またはハンドルを操作していないときに点灯します。 — 表示（赤）により警告します。 ● 点灯後、運転者がハンドルを操作しないときに点滅します。 — 音、表示（赤）、および短時間のブレーキ制御で段階的に警告します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
	● 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続したときに表示します。 — 緊急警報音が鳴るとともに車両を減速、緊急停止します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯し、プロパイロットが解除されます。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
 ハンドルを操作してください	● 車両を緊急停止させたあと、運転者がハンドルを操作しないときに表示します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。 ● ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

ブザー（警報音）が鳴ったときは

車両盗難などを防ぐため、車内外でブザー（警報音）が鳴ることがあります。

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車外	ピピピピ…（数秒間）	ドアハンドルのセンサーに触れたとき	走行可能表示灯［READY］が点灯していないか キーを車室内に置き忘れていないか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前にドアハンドルのセンサーを触れていないか、またはバックドアのスイッチを押していないか
		バックドアのスイッチを押したとき	走行可能表示灯［READY］が点灯していないか キーを車室内に置き忘れていないか いずれかのドアが半ドアになっていないか
		キーの＜ドア施錠スイッチ＞を押したとき	走行可能表示灯［READY］が点灯していないか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前に＜ドア施錠スイッチ＞を押してはいないか
		ドアを閉めたとき	無意識にドアハンドルのセンサーを触れていないか、またはバックドアのスイッチを押していないか
	ピッピッピッ（3回）	ドアを閉めたとき	走行可能表示灯［READY］が点灯しているときに、キーが車外に持ち出されていないか
	ピッピッピッ…（約30秒）	充電コネクタを接続したとき	充電コネクタが正しく接続されているか
	ピピピピ…（数秒間）	大雨もしくは洗車で大量の水がドアハンドルにかかったとき	インテリジェントキーを車両から2m以上離すと鳴りやむか スリープモード（➔P.135）を作動させると鳴りやむか
	キー（金属音）	走行中にブレーキペダルを踏んだとき	ディスクブレーキのパッド（摩擦材）が摩耗していないか 金属音が発生したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。そのまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車室内	ポロポロポロ（3回）	ドアを閉めたとき	走行可能表示灯［READY］が点灯しているときに、キーが車外に持ち出されていないか
		＜パワースイッチ＞を押したとき	キーを携帯しているか キーを携帯してもブザーが鳴るときは、キーの電池を交換してください
	ポロポロポロ…（繰り返し）	運転席ドアを開けたとき	＜パワースイッチ＞がONのままになっていないか シフトポジションをPにしているか

窓ガラスがくもったときは

フロントガラスのくもりの取りかた

⚠ 注意

- **＜デフロスタースイッチ＞をONにしているときは、エアコンの設定温度を低くしない。**
  フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

アドバイス

- ＜デフロスタースイッチ＞をONにしているときは、内気循環にしないでください。くもりが取れにくくなります。
- ＜デフロスタースイッチ＞は、連続して長時間ONにしないでください。消費電力が多いため、航続可能距離が減少する原因になります。

●＜デフロスタースイッチ＞を押すとエアコンが作動し、外気導入に切り替わります。（＜デフロスタースイッチ＞がオレンジ色に点灯）

＜パワースイッチ＞がONのとき使えます。

●止めるときは、もう一度スイッチを押します。（＜デフロスタースイッチ＞が白色に点灯）

デフロスタースイッチ（➔P.167）

バックドアガラスのくもりの取りかた

アドバイス

- 連続して長時間使用しないでください。消費電力が多いため12Vバッテリーあがりの原因になります。
- ＜リヤデフォッガースイッチ＞を押すと、ドアミラーヒーターも同時に作動します。

●＜リヤデフォッガースイッチ＞を押すと約15分間作動し、バックドアガラスの熱線が暖まります。（＜リヤデフォッガースイッチ＞がオレンジ色に点灯）

＜パワースイッチ＞がONのとき使えます。

●止めるときは、もう一度スイッチを押します。（＜リヤデフォッガースイッチ＞が白色に点灯）

リヤデフォッガースイッチ（➔P.167）

■ ワイパーデアイサー★

アドバイス

- ガラスにたまった雪はこまめに取り除き、視界を確保してください。

●フロントガラスを温めて、ガラス下端にたまった雪を取り除きやすくします。＜リヤデフォッガースイッチ＞を押すと約15分間作動します。（＜リヤデフォッガースイッチ＞がオレンジ色に点灯）

●止めるときは、もう一度スイッチを押します。（＜リヤデフォッガースイッチ＞が白色に点灯）

雪道やぬかるみにはまったときは

雪道、砂地、ぬかるみなどでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったりしたときは、次の方法で脱出してください。

脱出のしかた

⚠ 警告

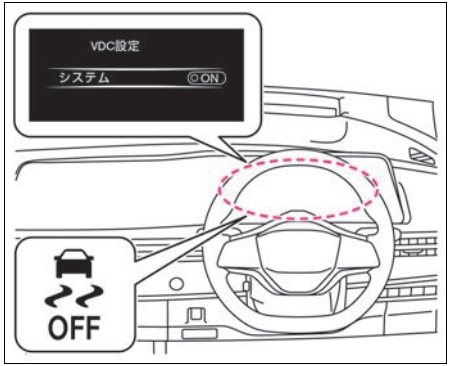
- **周囲の安全を必ず確認する。**
  周囲の人や物との衝突を避けるため、前進と後退を繰り返すときは、周囲に何もないことを確認してください。特に脱出の瞬間は、車両が前方または後方に飛び出すおそれがあります。
- **必要以上にアクセルペダルを踏み込まない。**
  急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **脱出するときは、過度にタイヤを空転させない。**
  タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品が異常過熱したりすることにより思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

- 数回試しても脱出できないときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスにご連絡ください。



1. メーターでVDCをOFFにします。
   VDCのON·OFFのしかた (P.208)
2. 車両の前後に障害物が無いことを確認し、ハンドルを左右に回して前輪の周囲をならします。
   必要に応じ、タイヤの下に木材などをそえてください。
3. ゆっくりとアクセルペダルを踏み、前進または後退します。
   周囲の安全を確認したうえで、前進と後退を繰り返してください。

水没したときは

水没したときの対処のしかた

⚠ 警告

- **水位が窓ガラスよりも高いとき、緊急脱出用ハンマーを使用した場合、割れたガラスが車室内に入り、ケガをするおそれがあります。**

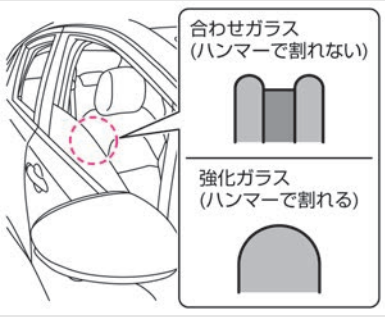
緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）について

- **フロントウインドーガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマーで割ることはできません。バックドアガラスを割って脱出してください。**
- **ドアガラスは車種によって、合わせガラスを使用しています。ただし、車両の仕様変更により合わせガラスの位置が異なる場合があります。合わせ、または強化ガラスの見分け方法については、ガラスの断面、もしくは刻印（マーク）を確認することで見分けることができます。**

ガラスの断面で合わせガラスを見分ける方法

- ドアガラスを半分ほど開け、断面を上から確認し、2枚のガラスが貼り合わせられている場合は合わせガラスとなります。

⚠ 警告



ガラスにある刻印（マーク）で合わせガラスを見分ける方法

- ドアガラスには次のような刻印（マーク）が表示されています。この表示によって、合わせガラスかどうかを見分けることができます。



※車両によっては、刻印（マーク）が表示されていない、またはガラスの種類を示す表示の位置が異なる場合があります。

水没したときは、次のような対処方法で車外に脱出してください。

- シートベルトを外して車外に脱出してください。
- ドアが開く水位が低いうちにドアを開けて、車外に脱出してください。
- ドアが開かなかった場合、窓ガラスを開け、窓から車外に脱出してください。
- <パワーウインドースイッチ>を押しても窓ガラスが開かない場合、次の方法で脱出してください。
  - 緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）がある場合、窓ガラスを割り窓から車外に脱出してください。
  - 緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）がない場合、または緊急脱出用ハンマーで窓ガラスが割れない場合には、車内外の水位が同じ高さくらいまで浸水するのを待ち、ドアを強く押し開けて車外に脱出してください。
    （車内外の水圧差がなくなると、ドアを開けることができます）
- 浸水・冠水被害に遭われた場合は、車両故障につながるおそれがあるため、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

外装ランプが点灯しないときは

外装ランプが点灯しないときは、日産販売会社にご相談ください。

- 外装ランプはすべてLEDです。LEDが一部でも点灯しない場合は日産販売会社で点検を受けてください。
- ヘッドランプ、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがあります。またヘッドランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは雨天時などに窓ガラスがくもるのと同様の現象で、機能上の問題ではありません。またレンズの構造上、レンズのふちに水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。ただし、ランプ内に水がたまっている場合やレンズ内面に大粒の水滴が付着している場合は、日産販売会社にご相談ください。

ヒューズが切れたときは

ランプがつかないときや電気系統の装置が作動しないときは、日産販売会社にご相談ください。

MEMO

メンテナンス

メンテナンスの前に

点検整備について P.420

工具・ジャッキ

工具・ジャッキ★について P.421

点検と整備

モータールーム P.425
ウォッシャー液の補給 P.426
寒冷時の取り扱い P.427
タイヤ P.428
タイヤ空気圧警報システム P.430
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.433
ワイパー P.433
インテリジェントキーの電池交換 P.434
12Vバッテリー P.436

清掃・お手入れ

外装のお手入れ P.438
内装のお手入れ P.444

サービスデータ

点検値 P.446
交換油脂類 P.446
車両仕様 P.448
イベントデータレコーダ（EDR） P.449
車両状態記録機能 P.450

点検整備について

道路運送車両法により、定期点検と日常点検が義務付けられています。正しい点検整備を行いお車を安全にお使いください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

点検整備の種類

●点検・整備および保証の内容は、別冊のメンテナンスノートに詳しく記載されていますので、必ずお読みください。

●日常点検

●走行距離や使用時の状態から判断し、適切な時期にお客さまご自身で行う点検です。
いつもと違うことに気がついたら日産販売会社で点検を受けてください。（音、振動、におい、水漏れ、油漏れなど）

●定期点検
1年ごとに実施する点検です。12か月点検および24 か月点検があります。

●その他の点検
新車時の無料点検や、厳しい使われかたをしたときに必要な点検があります。

⚠ 警告

- **充電インジケーターが点灯・点滅しているときは、整備作業を行わない。**
  高電圧システムが作動しているため、感電するおそれがあります。
  ➔充電インジケーター (P.33)

- **整備作業を行うときは、車両から充電コネクタを取り外す。**

アドバイス

- 充電インジケーターが消灯しない場合は、次の処置をしてください。
  — ＜パワースイッチ＞を2秒以上長押しして、充電インジケーターが消灯したことを確認する
  — 運転席ドアを開け、車外に出てから運転席ドアを閉め、5分以上待つ

  ※充電インジケーターが1秒間隔で緑色に点滅しているときは、12Vバッテリーが充電されています。
- 次の場合は、整備作業を行わないでください。
  — 充電ケーブルによるリチウムイオンバッテリー充電時
  — 12Vバッテリー補充電時
  — リモートエアコンまたはタイマーエアコン作動時
  — ソフトウェア自動更新作動時

車検、点検整備のとき

●車検、点検整備については、日産販売会社にご相談ください。

工具・ジャッキ★について

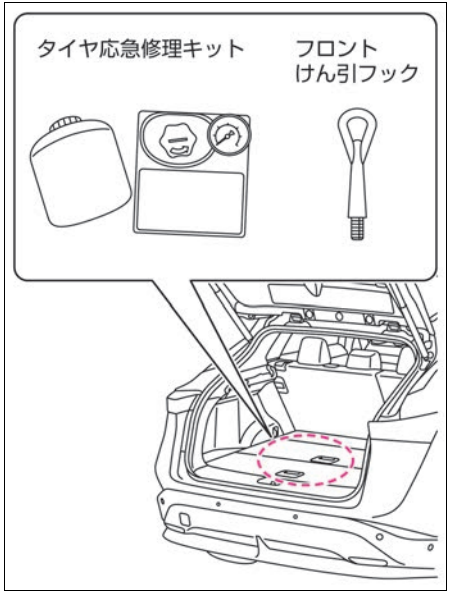
ジャッキアップをする場合は、この車両専用のジャッキを準備してください。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

車両の仕様変更または装備変更により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

工具、タイヤ応急修理キットの格納場所

⚠ 注意

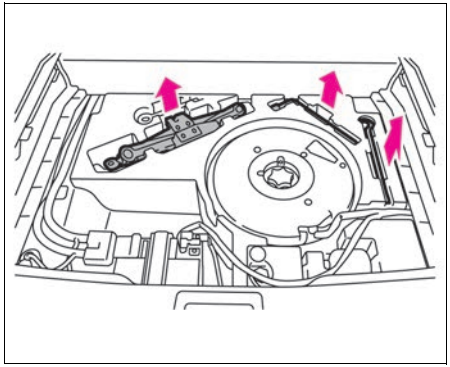
- **工具を使ったあとは、元の場所に収納する。**
  車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。



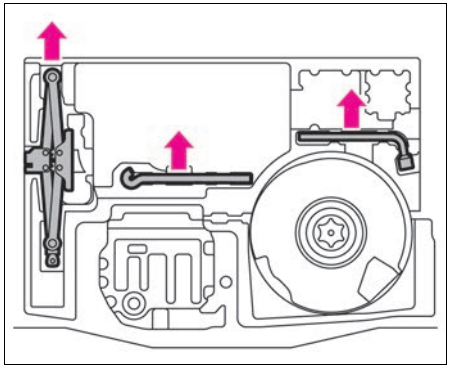
- 停止表示板（停止表示灯）、輪止めは標準で搭載されておりませんので必要に応じて準備してください。
- 工具の種類や発炎筒（➔P.357）などは、万一のときに困らないようにあらかじめ位置を確認しておいてください。
- 工具・タイヤ応急修理キットは、ラゲッジルーム内のフロアカバー★またはラゲッジボードの下に格納されています。
  ➔応急修理する前に (P.361)
  ➔タイヤ応急修理キットについて (P.361)

ジャッキ、ハンドル兼ホイールナットレンチ、ハンドルレバーの取り出しかた（ディーラーオプション）

2WD車



e-4ORCE（4WD）車



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

●ラゲッジルームのフロアカバー★またはラゲッジボードを持ち上げて取り出します。

⚠ 注意

- **ジャッキを取り出すときは、手をぶつけないように注意する。**
  金属部などに手をぶつけると、ケガをするおそれがあります。
- **ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使用しない。**

アドバイス

- ジャッキとフロアカバー★またはラゲッジボードが内装部品にぶつからないようにしてください。傷がつくおそれがあります。

●この車両には、ジャッキ、ハンドル兼ホイールナットレンチ、ハンドルレバーが標準で搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、この車両専用のジャッキを準備してください。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

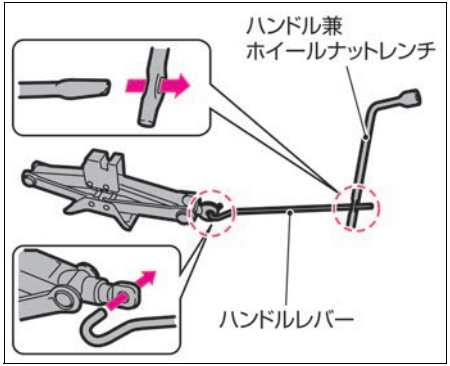
ジャッキの使いかた

⚠ 警告

- **ジャッキアップしたときは絶対に車両の下に入らない。**
  ジャッキが外れると、重大な傷害につながるおそれがあり非常に危険です。

⚠ 注意

- **工具、ジャッキを使ったあとは、元の場所に収納する。**
  車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ハンドル兼ホイールナットレンチを回すときは、ハンドルレバーをしっかり握って回す。**
  ハンドルレバーが回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ハンドルレバーは、確実にハンドル兼ホイールナットレンチの穴に差し込む。**
  ハンドルレバーが確実に差し込まれていないと、外れて思わぬケガをするおそれがあります。
- **ジャッキアップ中はEVシステムを始動しない。**
  車が発進し、重大な傷害につながるおそれがあります。



●ジャッキにハンドルレバーとハンドル兼ホイールナットレンチをセットします。

●ジャッキを使って車両を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを設置してください。

ジャッキアップポイント

⚠ 注意

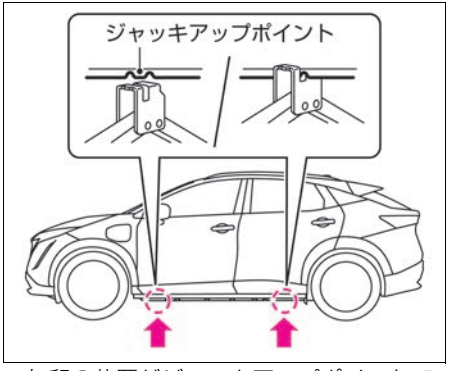
- **ジャッキを使うときは、次のことを必ず守る。**
  — ジャッキは必ずこの車両専用のものを使い、他車のジャッキは使用しないでください。また、この車両専用のジャッキは他車に使用しないでください。
  — ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使用しないでください。
  — 平坦で硬いところに駐車して作業してください。

⚠ 注意

- 使用前にパーキングブレーキを掛け、シフトポジションを**P**にしてください。
- 輪止めなどで車を固定してください。
- ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。
- 人や荷物は必ず車から降ろしてください。

アドバイス

- ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。



●矢印の位置がジャッキアップポイントです。

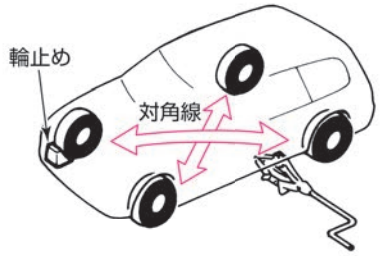
ジャッキアップのしかた

⚠ 注意

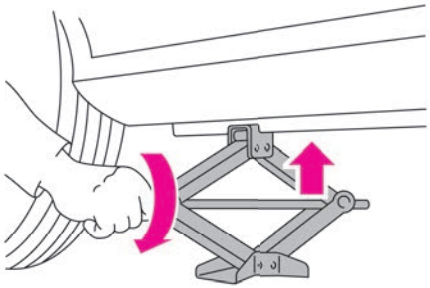
- **柔らかい地面の上ではジャッキアップしない。**
  ジャッキが倒れ、事故につながるおそれがあります。
- **やむをえず傾斜地で作業するときは、ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤの下り側に輪止めをし、車が動き出さないようにする。**

●輪止めは標準で搭載されていませんので必要に応じて準備してください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きさの石、木片などで代用できます。

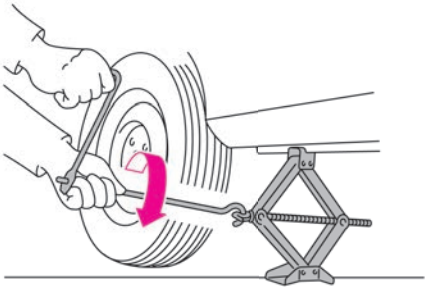
1. 交通の妨げにならず、安全に作業ができる地面（平坦な硬い場所）に停車し、人や荷物を車から降ろします。
   ➔停車・駐車のしかた (P.193)



2. ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤに輪止めをします。
   前輪をジャッキアップするとき：後輪の後ろ側
   後輪をジャッキアップするとき：前輪の前側



3. ジャッキの上部がジャッキアップポイントに接触するまで、ジャッキを矢印の方向に手で回します。

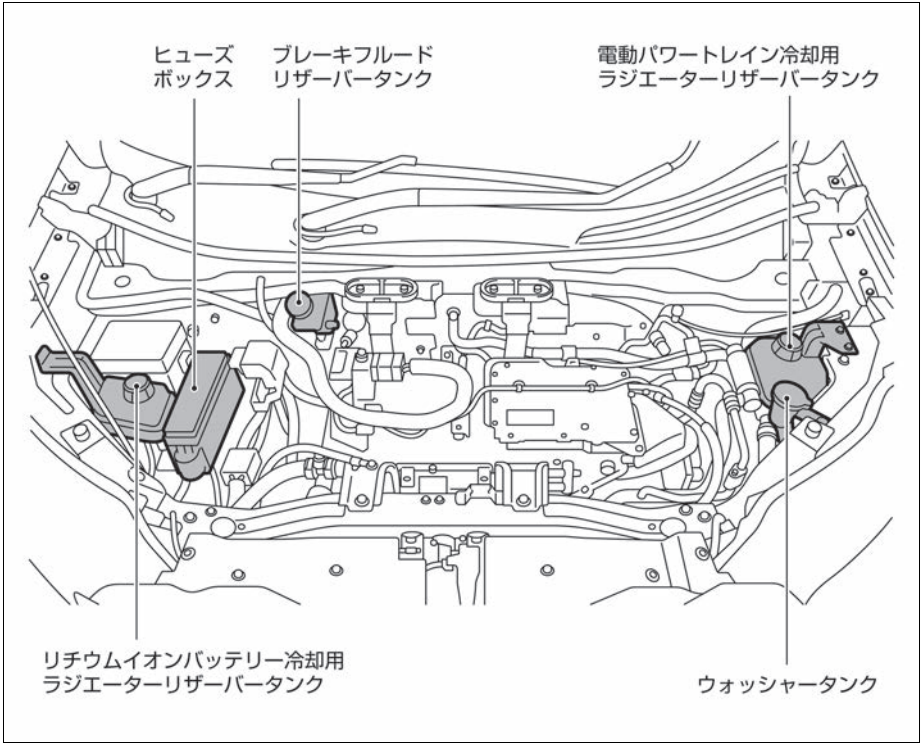


4. ハンドル兼ホイールナットレンチを回して、タイヤと地面が少し離れるまで、ジャッキアップします。

モータールーム

モータールーム内を点検するときは安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけた状態でボンネットを開けます。

モータールーム内の配置図



⚠ 警告

- **点検や整備に使用した工具や布などをモータールーム内に置き忘れない。**

  故障や車両火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **モータールーム内の作業をするときは、＜パワースイッチ＞をOFFにする。**

  EVシステム作動中に手、衣服、工具などを入れると思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- 点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

ボンネットの開けかた、閉めかた

⚠ 警告

- **走行前、ボンネットが確実に閉まっていることを、必ず確認する。**

  ロックされていないと、走行中にボンネットが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

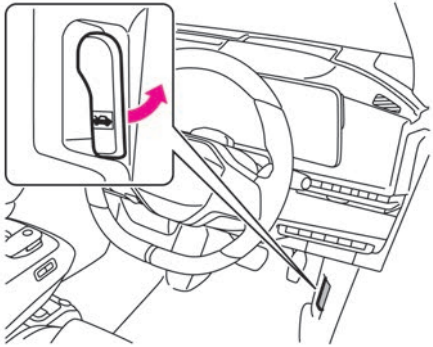
- **風が強いときは、ボンネットをしっかり持ってゆっくりと開ける。**

⚠ 注意

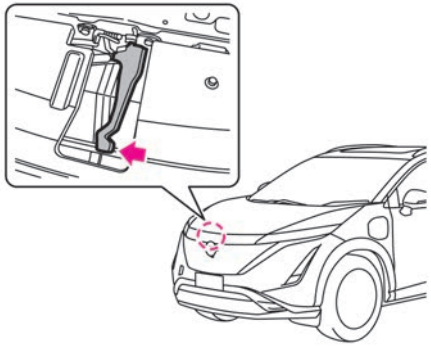
- **ボンネットを開けたときは、ボンネットに頭などをぶつけないよう注意する。**
- **ラジエーターなどの高温部には触れない。**
  やけどをするおそれがあります。
- **ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意して降ろす。**

アドバイス

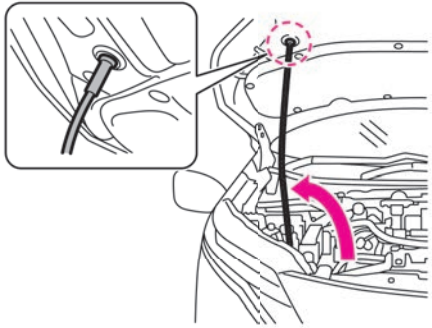
- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ボンネットやワイパーを損傷します。
- ボンネットを閉めるときに、ボンネットに体重をかけて強い力で押すと、ボンネットがへこむおそれがあります。



1. 運転席の右下にあるオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。



2. ボンネット先端のすき間に手を入れ、レバーを横に押しながらボンネットを持ち上げます。



3. ステーをフックから外し、ボンネット裏側の穴（ステー差し込み位置）に確実に差し込みます。

4. 閉めるときはステーをフックに戻し、ボンネットを20cm ～ 30cmの高さまでゆっくり降ろしてから、手を離して落としてロックします。ロックできなかったときは、レバーを操作してボンネットをもう一度持ち上げてから再度落としてください。ボンネットを上から押して閉めようとしないでください。

ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

補給のしかた

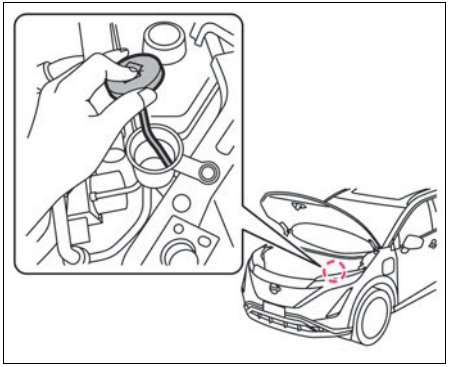
⚠ 注意

- **ウォッシャー液を補給するときは、液を高温部にかけない。**
  出火するおそれがあります。

アドバイス

- ウォッシャー液の代わりに石けん水などを入れないでください。塗装面がしみになるおそれがあります。

● フロントワイパーとリヤワイパーのウォッシャータンクは兼用です。



●ウォッシャータンクのふたの穴を押さえて引き抜くと、スポイト式にウォッシャー液の残量が確認できます。

●ウォッシャー液の残量を確認したとき、ウォッシャー液がチューブ下端にしか入らないと、ウォッシャータンクはほぼ空の状態です。

●日産純正ウインドウォッシャー液をおすすめします。
ウォッシャータンク容量（P.447）

●減っているときは、ウォッシャータンクのふたを外し、ウォッシャー液を補給してください。

●ウォッシャー液は、必要に応じ水で薄めてください。希釈割合はウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にします。

寒冷時の取り扱い

寒冷時に備えて、準備や点検などを正しく行ってください。

冬の前の準備

■ 冷却水の濃度点検

●冷却水の凍結を防ぐため、冷却水の濃度を点検してください。

冷却水の濃度	凍結温度
50%	約−35℃

●冷却水を補充・交換するときは、日産純正スーパーロングライフクーラント（50%希釈品）をお使いください。
サービスデータ（冷却水）
（P.447）

アドバイス

● 冷却水の点検・補充・交換は日産販売会社にご相談ください。

■ 冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

●冬用タイヤに交換するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。

●タイヤチェーンは、タイヤサイズにあった日産純正品をおすすめします。

●20インチタイヤ★にはチェーンを装着できません。冬用タイヤやその他タイヤ滑り止めについては、日産販売会社にご相談ください。

■ ウォッシャー液の濃度点検

●ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の容器に記載してある凍結温度を参考に外気温に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

運転する前に

⚠ 警告

● **ルーフに積もった雪は落とす。**
窓ガラスに雪が滑り落ちると視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

● ルーフから雪を落とすときは、アンテナに強い力をかけないようにしてください。アンテナが破損したり、車体がへこんだりするおそれがあります。

● ドアなどの開閉部分を無理に開けないでください。ゴムがはがれたり損傷したりするおそれがあります。

● ワイパー、ドアミラー、パワーウインドーなどを無理に動かさないでください。装置が損傷するおそれがあります。

● ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結するおそれがあります。

状況に応じて次のことを行ってください。

●ドアやワイパーなどが凍結したときは、無理に開けたり動かしたりせず、凍った部分にお湯をかけて氷を溶かしてください。溶けたらすぐに水分をふき取ってください。

●アンテナに雪が積もっている場合は、雪を落としてください。受信感度が低下し、雑音が入るおそれがあります。

●ガラスに雪や霜が積もっているときは、プラスチックの板などを使って、ガラスを傷付けないように雪を取り除いてください。
●足まわり（ブレーキ周辺、フェンダーの裏側など）が凍りついているときは、部品を破損しないように注意しながら、付着した氷塊を取り除いてください。
●車室内に乗り込むときは、靴についた雪を取り除いてください。

雪道の走行のしかた

■ 滑りやすい路面に注意

●滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離を取り、ゆとりある運転をしてください。
●雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。
➔タイヤチェーンについて (P.433)
➔タイヤ空気圧警報システムについて (P.430)

■ 走行中の雪の付着に注意

●ブレーキに付着した雪が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ときどきブレーキの効き具合を確認してください。効きが悪いときは、前後の車との距離を十分とり、低速走行で効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んでください。
●フェンダーの裏側に付いた雪が積もり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき確認して雪を取り除いてください。

■ 駐車するときの注意

●シフトポジションを**P**にし、パーキングブレーキを掛けずに輪止めをしてください。パーキングブレーキを掛けると、ブレーキが凍結して解除できなくなるおそれがあります。
●軒下や樹木の下には駐車しないでください。落雪で車が損傷するおそれがあります。
●雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ブレードと窓ガラスが凍結し、破損するおそれがあります。

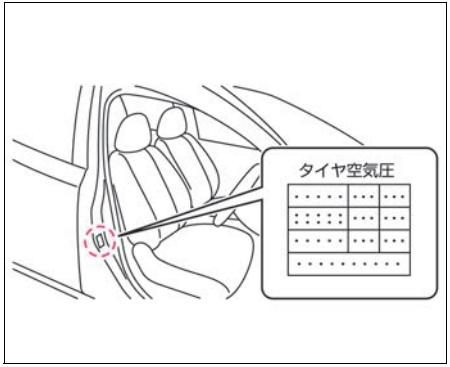
タイヤ

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができず乗り心地も損なわれます。
日常的に点検を行ってください。

タイヤの点検項目

安全な走行のため、タイヤの点検は次の項目を点検してください。
詳細は別冊のメンテナンスノートをお読みください。

タイヤ空気圧



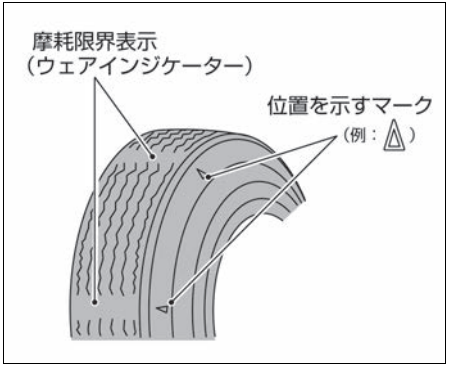
●すべてのタイヤの空気圧を点検してください。
●タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してあります。
●タイヤ空気圧の調整後は、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。リセット操作後、メーター内のタイヤ空気圧警告灯と警告表示が消灯します。
➔タイヤ空気圧警報システムについて (P.430)
●タイヤの空気は自然に少しずつ低下します。月に一度はタイヤエアゲージを使用して点検してください。
●タイヤ空気圧の点検は、走行前のタイヤが冷えているときに点検・調整してください。
●タイヤ側面の厚みが薄いタイヤは、空気圧が減っていることを目視で確認することが困難なため、必ずタイヤエアゲージを使用して点検してください。

●走行直後はタイヤ空気圧が約1割上がることがあります。

タイヤの亀裂・損傷の有無

●タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷および針などの異物が刺さっていないか点検してください。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗



●タイヤの溝の深さが十分であるか、ウェアインジケーター（摩耗限界表示）が表れていないか点検してください。

●タイヤが摩耗して接地面とウェアインジケーター（摩耗限界表示）が同じ高さになったらタイヤを交換してください。

タイヤ・ロードホイールを交換するときは

●タイヤ交換をするときは、日産販売会社にご相談ください。

●タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。

●タイヤサイズは運転席ドア開口部のタイヤ空気圧表示を参照してください。

●ロードホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のロードホイールを取り付けてください。
ロードホイールのサイズは巻末のサービスデータに記載してあります。

●タイヤまたはロードホイールを交換したときは、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。
➔タイヤ空気圧警報システムについて (P.430)

アドバイス

- ロードホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車のものは使えない場合があります。お手持ちのものをご使用になるときは、日産販売会社にご相談ください。
- アルミホイールには荷重制限があるため、交換するときは日産販売会社にご相談ください。
- タイヤやロードホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実に取ってください。
- バルブキャップは日産純正品を使用してください。日産純正品以外のバルブキャップを使用すると腐食して固着し、外れなくなる場合があります。
- バルブキャップは工具などを使用して締め付けると、破損するおそれがあります。
- ホイールナットの締め付けトルクは、108N·m（11kg·m）です。

タイヤ空気圧警報システムについて

- タイヤ空気圧センサーが付いていないロードホイールを装着すると、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅後、点灯します。元のタイヤ空気圧センサーが付いているロードホイールを取り付けたあとは、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。リセット操作後、タイヤ空気圧警告灯は消灯します。
- 新しいタイヤ空気圧センサーを取り付けた場合は、専用のIDコードを登録する必要があります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。
- タイヤ空気圧センサーのコア、キャップはセンサーの付け替えと一緒に交換してください。摩擦などで劣化すると、タイヤのエア漏れの原因となります。
- タイヤ空気圧の確認や調整をするときは、バルブを曲げないでください。バルブや空気圧センサーを破損するおそれがあります。
- バルブキャップを正しく取り付けてください。バルブキャップがないと、バルブや空気圧センサーを破損するおそれがあります。

アドバイス

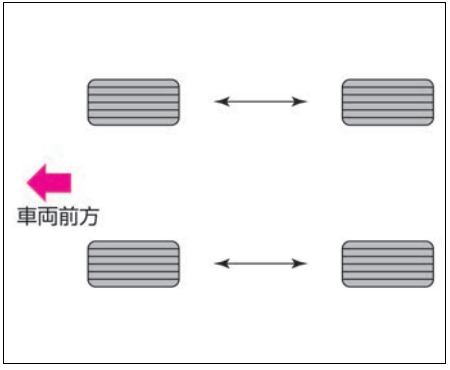
- ホイールを保管するときや、ホイールに別のタイヤを取り付けるときは、バルブや空気圧センサーを傷付けないように注意してください。

タイヤローテーションのしかた

アドバイス

- タイヤの位置交換と同時に空気圧も点検してください。
- タイヤの位置交換については、日産販売会社にご相談ください。
- タイヤの位置交換をしたときは、タイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。

タイヤ空気圧警報システムについて (P.430)



左右それぞれで、前後タイヤの交換を行ってください。タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を延ばすために、約5,000kmごとにタイヤのローテーション（位置交換）を行うことをおすすめします。

タイヤに関する注意事項

警告

- **タイヤの空気圧が不足したまま走行しない。**

  気温や高度の変化により、タイヤの空気圧は変化します。タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **タイヤ空気圧警報システムのリセット操作後も警告灯が点灯する場合は、日産販売会社で点検を受けてください。**

注意

- **5～7年を目安に必ず点検する。**

  タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。引き続き使用する場合は安全走行を確保するため、必ず点検を受けてください。点検については日産販売会社へご相談ください。
- **指定サイズ以外のタイヤ・ロードホイールは絶対に取り付けない。**

  不適合なタイヤ・ロードホイールを取り付けると、安全性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付ける。**

  特にe-4ORCE（4WD）車は、径が異なるタイヤを装着すると車の機構に無理がかかり、重大な故障につながります。また、VDCシステムが正常に作動しないことがあります。次のようなタイヤの装着はしないでください。回転差を吸収する機構に無理がかかり、過熱し火災につながるおそれがあります。

  — 摩耗差の大きいタイヤの装着

  — 前輪または後輪だけに冬用タイヤを装着

  — サイズや種類の異なるタイヤを個々に装着
- **著しく摩耗差のあるタイヤや空気圧が規定値と著しく異なるタイヤを装着しない。**

  車の性能が十分に発揮できなくなり、安全性を損なったり故障の原因になります。

タイヤ空気圧警報システム

タイヤ空気圧警報システムは、タイヤ空気圧が不足していることを知らせるシステムです。

タイヤ空気圧警報システムについて

- 25km/h以上で走行したときに、作動します。

- タイヤ空気圧が低下すると、メーター内のタイヤ空気圧警告灯が点灯し、警告を表示します。
- 4輪すべてのタイヤ空気圧を正しく調整したあと、必ずタイヤ空気圧警報システムのリセット操作をしてください。リセット操作後、タイヤ空気圧警告灯（➔P.383）と警告表示（➔P.398）が消灯します。
- 気温や高度の変化により、タイヤの空気圧が減少し、タイヤ空気圧警報システムが作動する場合があります。
- バースト（破裂）や急激な空気圧低下をした場合は、メーター内の警告表示がすぐに作動しないことがあります。
- システムに異常があるときは、タイヤ空気圧警告灯（➔P.383）が約1分間点滅したあとに点灯を続けます。なお適正な空気圧に設定しない限り、その後EVシステムを始動するたびにこの動作が繰り返されます。
- 走行中にタイヤ空気圧警告灯が点灯した場合は、急ハンドル・急ブレーキを避け、車速を下げて安全な場所に退避し、できるだけすみやかに停車してください。

⚠ 警告

- **タイヤ空気圧警告灯が点灯し、警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、タイヤを確認する。**

  放置して走行し続けると、タイヤがバースト（破裂）したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあとに点灯を続けたときは、日産販売会社で点検を受けてください。**
- **パンク修理剤を使用する場合は、必ず日産純正品を使用する。**

アドバイス

- タイヤ空気圧警報システムは、日常点検を補助するものです。必ず日常点検でタイヤの空気圧を点検してください。
- タイヤ空気圧が不足すると、電費悪化やタイヤ寿命の低下、ハンドル・ブレーキ性能に悪影響を与えることがあります。
- タイヤ空気圧センサーは、日本の電波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。
  - 日本国内のみで使用する。
  - 正しい使用方法以外では使用しない。
  - 分解や改造はしない。（分解や改造したものを使用することは法律で禁止されています。）
- タイヤ空気圧センサーにはお客さまの車に適合する固有のIDコードが登録されています。他の車のタイヤ空気圧センサーを使用すると、システムが作動しません。
- タイヤを修理・交換するときはタイヤ空気圧センサーの取り付けやIDコードの登録をする必要があるため、日産販売会社へご相談ください。
- 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しない場合があります。
  - タイヤ交換後や空気圧調整後に、タイヤ空気圧警報システムのリセットを行っていないとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - 日産純正品以外のロードホイールを使用したとき
  - 日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用したとき
  - 近くに同じような無線周波数を使っている施設や器具があるとき
  - 車両、特にロードホイールハウスの周りに多くの雪や氷などが付いたとき
  - タイヤ応急修理キットを使用したとき
  - タイヤ空気圧センサーのIDコードがシステムに登録されていないとき
  - この車両の指定の空気圧センサーが取り付けられていないとき
  - タイヤ空気圧センサーが装着されていないホイールを装着したとき

アドバイス

— タイヤ空気圧センサーの電池が消耗したとき

— 窓ガラスに金属性の部品を装着しているとき

● タイヤ空気圧センサーには、車両と通信するための電池が内蔵されています。走行中は、常時車両と通信しているため電池を消耗しており、電池が切れると、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅後、点灯します。電池が消耗したときは、日産販売会社にご相談ください。電池単品での交換はできません。

● 凹凸のある道路を走行するときは注意して走行してください。タイヤ空気圧センサーを破損させるおそれがあります。

● 次の場合は、電波の障害を受けるため正しく作動しない場合があります。

— 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備があるとき

— 無線機や携帯電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき

— 近くで電波式リモートコントロールエントリーを使用しているとき

— パソコン（または同様の装置）やDC/ACコンバータなどの電化製品が、車室内または車両の近くにあるとき

— 近くに本システムと同じような周波数を使っている施設、器具がある場合、または地域にいるとき

— 同じような周波数を使った無線機や器具を使用しているとき

— 電子情報機器を車室内で使用しているとき

●温度による空気圧の変化や自然に空気圧が減少したときにもタイヤ空気圧警告灯が点灯しますが、適切な空気圧に調整して消灯すれば故障ではありません。

タイヤの点検項目 (P.428)

●高速走行時はタイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあと点灯することがありますが、減速して消灯すれば故障ではありません。

●走行するとタイヤ空気圧は指定空気圧よりも上昇しますが、運転後にタイヤ空気圧を下げないでください。

●外気温が低いとタイヤ内部の空気温度が低下することで、タイヤの空気圧が指定空気圧よりも低下する可能性があります。

タイヤ空気圧警報システムのリセットのしかた

アドバイス

● 次の場合はタイヤ空気圧警報システムのリセット操作が必要となります。

— タイヤ空気圧を調整したとき

— タイヤまたはホイールを交換したとき

— タイヤの位置交換（ローテーション）をしたとき

● リセット操作後も警告灯が点灯する場合は、日産販売会社で点検を受けてください。

タイヤ空気圧警告灯（P.383）

1. 安全な場所に停車します。
2. パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを**P**にします。
3. 4輪すべてのタイヤを指定の空気圧に調整し、タイヤエアゲージを使用して確認します。
4. ブレーキペダルを踏まずに＜パワースイッチ＞を押して、ONにします。EVシステムは始動させないでください。
5. アドバンスドドライブアシストディスプレイで設定［ ⚙ ］⇒［TPMS設定］⇒［TPMSリセット］を選択し、ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すとリセット画面が表示されます。［はい］を選択し、再度ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すとタイヤ空気圧警報システムをリセットできます。
6. リセット操作後、タイヤ空気圧警告灯と警告表示が消灯します。その後、しばらく走行することでデータが更新されます。

冬用タイヤ・タイヤチェーン

雪道や凍結した道路を走行するときは、冬用タイヤやタイヤチェーンを装着してください。

冬用タイヤについて

⚠ 注意

- **タイヤチェーンを不適正に装着したり、タイヤサイズに合わないものを使用しない。**
  ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

●冬用タイヤを装着するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。

タイヤチェーンについて

アドバイス

- タイヤチェーンを装着すると、ホイールカバーやアルミホイールに傷をつけるおそれがあります。
- 雪のない舗装路ではチェーンを装着したまま走行しないでください。
  チェーンの摩耗を早め、寿命が短くなります。また、e-4ORCE（4WD）車は車の性能が十分に発揮できなくなる場合があります。
- タイヤチェーンを装着しているときは、突起しているところや穴の上を走行しないでください。また、急ハンドルやタイヤがロックするようなブレーキ操作をしないでください。

タイヤチェーンを装着するときは、次のことを守ってください。

●タイヤチェーンを装着するときは、安全に作業できる平坦な場所に停車し、＜パワースイッチ＞をOFFにして作業してください。
●タイヤチェーンは必ず前2輪に装着してください。e-4ORCE（4WD）車も前2輪に装着してください。
●タイヤサイズに適合したチェーンを装着してください。
●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従って装着してください。
●タイヤチェーンに付属の取扱説明書で指定された速度で走行してください。
●20インチタイヤ★にはチェーンを装着できません。冬用タイヤやその他タイヤ滑り止めについては、日産販売会社にご相談ください。

ワイパー

ワイパーゴムが傷んでいると、きれいにふき取れなかったり、窓ガラスを傷付けたりします。

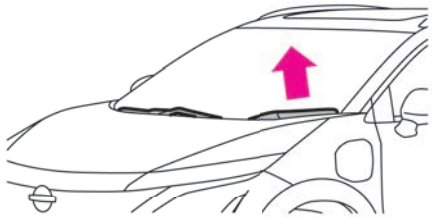
定期的に点検し、傷んでいるときは次の手順に従って交換してください。

ワイパーブレードの交換のしかた

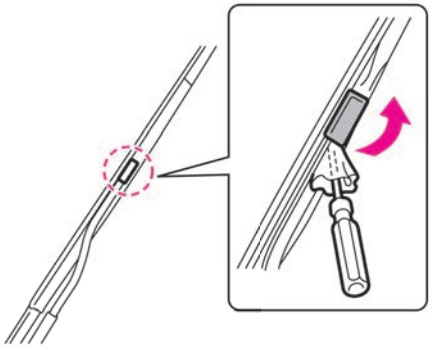
アドバイス

- 交換するときは、ワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないよう気を付けてください。ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。
- ワイパーブレードに大きな力を加えて変形させないでください。ふき取りにくくなったり、破損するおそれがあります。

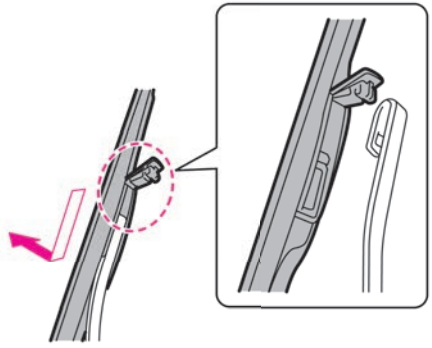
●リヤワイパーブレードの点検、交換が必要なときは、日産販売会社にご相談ください。



1. ワイパーアームを起こします。



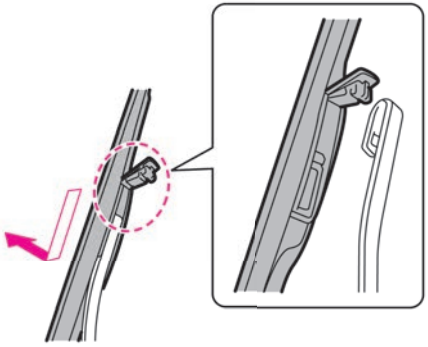
2. 先の細いお手持ちの工具を布などで覆い、ストッパーを起こします。



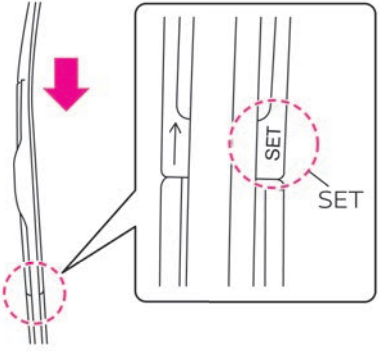
3. ワイパーブレードを矢印の方向に動かして取り外します。
4. 新しいワイパーブレードを取り付けます。取り付けは取り外したときと逆の手順で行い、ワイパーブレードが確実に固定されていることを確認します。

ワイパーゴムの交換のしかた

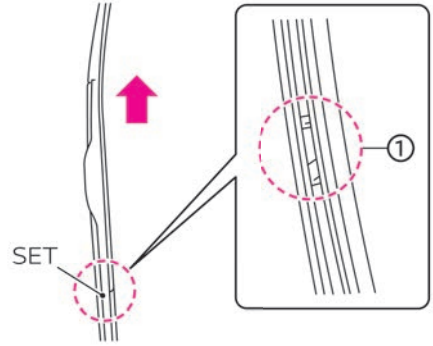
● ワイパーゴムに石けん水を塗ると脱着しやすくなります。



1. ワイパーアームからワイパーブレードを取り外します。



2. ワイパーゴムを矢印方向にスライドし、取り外します。



3. 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。
ワイパーゴムのストッパーがない方からブレードに沿って差し込みます。
ワイパーゴムのⒶ部をワイパーブレードの「SET」の位置で確実に押し込み、固定します。

インテリジェントキーの電池交換

キーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗が考えられます。
次の手順に沿って、電池を交換してください。

電池交換のしかた

⚠ 警告

- **電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。**

⚠ 警告

インテリジェントキーには、ボタン電池が使用されています。誤って電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

新しい電池および取り外した電池は、お子さまの手の届かない場所に保管してください。

- **電池を飲み込んだり、体内に入れてしまった場合は、直ちに医師の診察を受ける。**

⚠ 注意

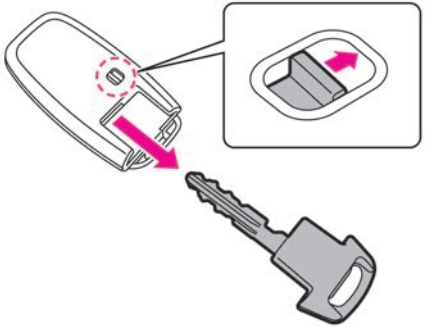
- **カバーがしっかりと閉まらない場合は、インテリジェントキーの使用を中止する。**

  インテリジェントキーをお子さまの手の届かない場所に保管し、すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

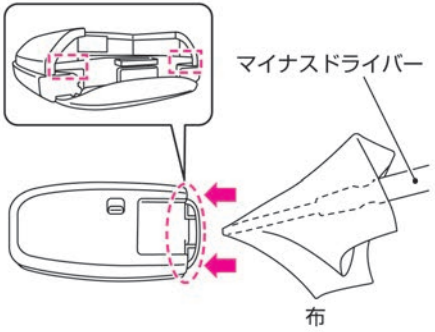
アドバイス

- 電池交換の際、キーを破損するおそれがあります。日産販売会社での交換をおすすめします。
- 内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。

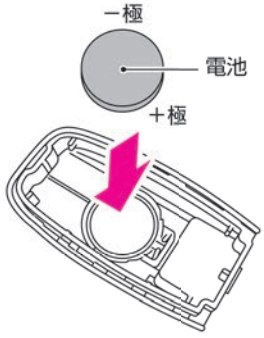
- 電池交換後は、キーシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。正常に作動しないときは故障が考えられますので、日産販売会社にご相談ください。



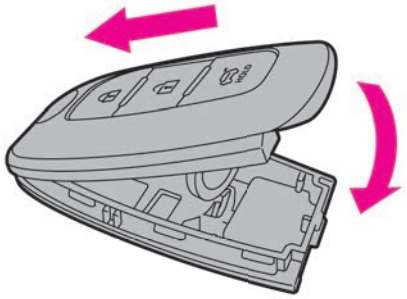
1. キー裏側のロックを外しながら、内蔵キー（メカニカルキー）を引き抜きます。



2. 左右のすき間にマイナスドライバーを差し込み、ひねってカバーを取り外します。（カバーが傷つかないように、マイナスドライバーに布を巻いてください）



3. 消耗した電池を取り外し、新しい電池をはめ込みます。（新しい電池は、＋極を下にして取り付けてください）
使用電池：CR2032



4. カバーの先端を合わせて上下のカバーを組み付けます。確実に取り付けられたことを確認してください。

12V バッテリー

12Vバッテリーのメンテナンスについては、メンテナンスノートをお読みください。
詳しくは日産販売会社にご相談ください。

12V バッテリーに関する注意事項

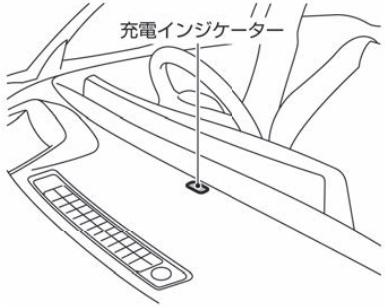
⚠ 警告

- **12Vバッテリーを充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけない。**
  12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- **バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診断を受ける。**
  バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **12Vバッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**
  接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、12Vバッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。
- **12Vバッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**
  しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス



- 12Vバッテリーを交換するときは、次のことを確認し、その後運転席ドアを閉めた状態で5分以上待ってから60分以内に実施してください。
  - ― <パワースイッチ>がOFFになっている
  - ― 充電コネクタが接続されていない
  - ― 充電インジケーターが消灯している
  - ― ソフトウェア自動更新が作動していない
- 充電インジケーターが消灯しない場合は、12Vバッテリーが充電されています。次の処置をしてください。
  - ― 一度<パワースイッチ>をONにし、その後<パワースイッチ>を2秒以上長押しする

アドバイス

上記処置後に、充電インジケーターが消灯していること、パワースイッチがOFFになっていることを確認してください。

外装のお手入れ

塗装面の変色や錆などを防止するために、適切なお手入れが大切です。

洗車のしかた

●塗装面に付着した汚れをそのままにすると、変色や錆の原因となります。次のような場合は、すぐに洗車してください。
- ― ばい煙、虫の死がいや鳥の糞、樹液、鉄粉、コールタールなどが付着したとき
- ― 海岸地区、凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ― ほこり、汚れがひどいとき

■ 水洗いするときは

●水をかけながら下回りの汚れを洗い流します。

●水をかけながら塗装面の高い位置から低い位置の順にセーム皮や柔らかいスポンジなどで汚れを落とします。汚れがひどいときは、ボディーシャンプーなどを使い、その後十分に水で洗い流します。

●はん点が残らないように水をふき取ります。

洗車時の注意

⚠ 注意

- **下回りを洗うときは、ケガをしないように注意する。**
- **洗車するときは、モータールーム内に水をかけない。**

電気部品の故障などの原因になるおそれがあります。

- **洗車、ワックス掛け、整備を行うとき、ボディーカバーを付け外しするとき、ハンズフリーセンサー周りに水を掛けるときなどは、アドバンスドドライブアシストディスプレイの設定で<パワーバックドア>をOFFにする。**

  ハンズフリーセンサーが反応してバックドアが突然開閉し、思わぬケガをするおそれがあります。

  ➔リモコンオートバックドア (P.141)

アドバイス

- ケミカル用品などは用途により使い分けが必要です。用途にあった物をお使いください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使用しないでください。変色やしみの原因となります。
- 硬いブラシや、たわしなどは使用しないでください。塗装面を傷付けるおそれがあります。
- 寒冷時に洗車をするときは、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置に水が入ると凍結し、走行できなくなるおそれがあります。
- 洗車をするときに、車体に体重を掛けるなどして、強い力で押したときに、場所によっては車体がへこむおそれがあります。

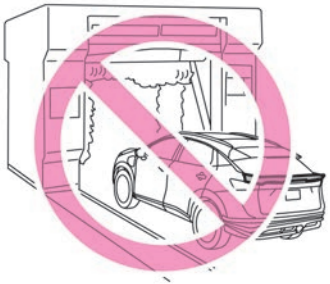
洗車機を使うときは

アドバイス

- 自動洗車機で洗車すると、ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり劣化を早めたりすることがあります。
- ドアガラスのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。車室内に水が漏れるおそれがあります。
- 自動洗車機で洗車すると、リヤワイパーを破損するおそれがあります。
- 洗車機の種類によってはスポイラーが引っ掛かり、洗車できないことがあります。
- アンダーカバーを外した状態で高圧洗浄機を使用しないでください。電気部品の故障などの原因になるおそれがあります。
- 高圧洗浄機を使用するときは、アンテナのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。シール部が変形、破損するおそれがあります。

  NISMO仕様車はフードステッカー★、ミラーステッカー、NISMOエンブレムのお手入れ（➔P.439）を参照してください。

アドバイス

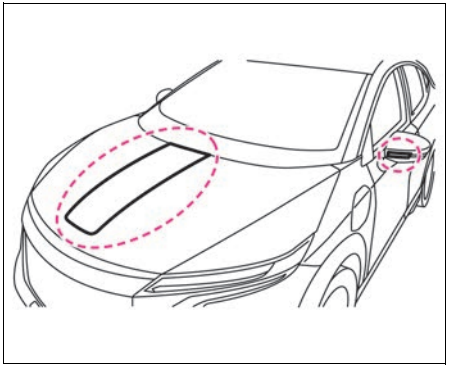


- NISMO仕様車は、自動洗車機を使用しないでください。洗車機を使用すると、リヤデッキスポイラーが破損するおそれがあります。

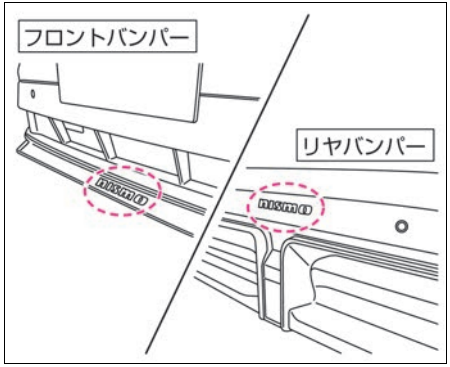
- ドアミラーを格納してください。
  ➔ドアミラーの格納のしかた (P.161)
- 充電ポートリッドを完全に閉めてください。
  ➔充電ポートリッドの開けかた、閉めかた (P.31)
- 高圧洗浄機を使用するときは、高圧ノズルと車体の距離を十分離して洗車してください。高圧ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、塗装の劣化を早めたりすることがあります。

フードステッカー★、ミラーステッカー、NISMO エンブレムのお手入れ（NISMO 仕様車）

- 表面の汚れをとるときは、水洗い後柔らかい布で拭き取ります。強くこすると、傷がつくことがあります。



- 高圧洗浄機を使用するときは、フードステッカーまたはミラーステッカーのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。ステッカーが剥がれるおそれがあります。



- 高圧洗浄機を使用するときは、NISMOエンブレムのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。NISMOエンブレムが剥がれるおそれがあります。

ワックスをかけるときは

アドバイス

- 塗装されていないバンパー、スポイラーなどの樹脂部品には、ワックスを使用しないでください。ムラになることがあります。
- コンパウンド（研磨剤）の入ったワックスを使うと、塗装面の光沢や水をはじく特性が失われることがあります。
- カメラのレンズ部にワックスを付けないでください。ワックスが付いた場合は、中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、ふき取ってください。

●ワックスがけは1か月に1回程度、または水はじきが悪くなったときに行ってください。かけかたは普通塗装車、メタリックおよびパール塗装車とも同じです。

ワックスのかけかた

①塗装面の汚れを洗車などで取り除きます。

②塗装面が冷えているとき（体温以下が目安）にワックスをかけます。かけかたはワックス容器に記載してある説明に従ってください。

ワックスの選びかた

●コンパウンド（研磨剤）の入っていない、塗装に適したワックスをご使用ください。
日産純正カーワックスをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アルミホイールのお手入れ

アドバイス

● 変色やしみの原因になったり、傷を付けたりするおそれがあるため、次のことをお守りください。

— 強酸性、強アルカリ性の洗剤は使用しない

— 洗剤はホイールの表面が冷えているときに使用する（体温以下が目安）

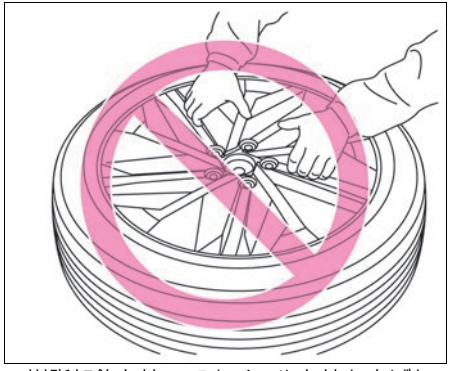
— 洗剤を使用したあとは、早めに十分洗い流す

— 硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使用しない

●中性洗剤を含ませたスポンジなどを使い、汚れを落としてください。日産純正クリーナーをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

樹脂加飾付ホイール★の取り扱いについて

●ホイールに装着されている樹脂加飾を取り外さないでください。ホイールや樹脂加飾を損傷するおそれがあります。樹脂加飾の取り外しが必要な場合は、日産販売会社にご相談ください。



●樹脂加飾を持ってホイールを持ち上げたり、持ち運んだりしないでください。

●ホイールの樹脂加飾にガタつきがあったり、走行中にホイール周辺から異音が聞こえたりするときは、日産販売会社で点検を受けてください。

軽い補修のしかた

●フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺以外は、塗装面の小さい傷はタッチアップペイントを使い、早めに傷部を補修してください。
サビの発生を防ぎ、塗装面を長持ちさせます。

●フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺はタッチアップペイント含め塗装修理はできません。塗装する場合は日産販売会社にご相談ください。
➔レーダーセンサーの取り扱い (P.442)

レーダーセンサー / カメラ類の取り扱い注意

⚠ 警告

● **センサー、カメラ部に強い衝撃を与えない。**

精密機器のため高圧洗車など、強い衝撃を与えないでください。故障、火災、または感電のおそれがあります。

⚠ 注意

● **フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺に誤った塗装修理を行うと、本来の機能を発揮できなくなる可能性があります。**

適切な修理を行うため、日産販売会社にご相談ください。

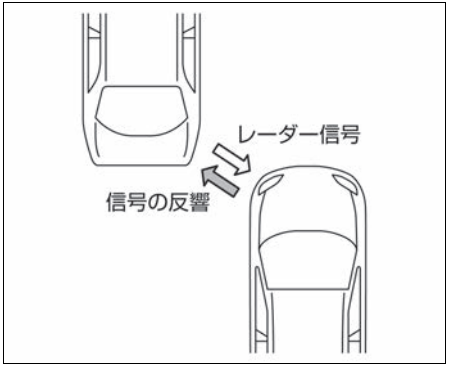
アドバイス

- カメラレンズ部に泥、雨滴、雪などが付着すると、モニター画像の映りが悪くなりますので、濡れた柔らかい布で汚れをふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- カメラ部には傷を付けないでください。映像へ影響が出ることがあります。
- カメラレンズをアルコール、ベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色などの原因になります。

バンパーの修理

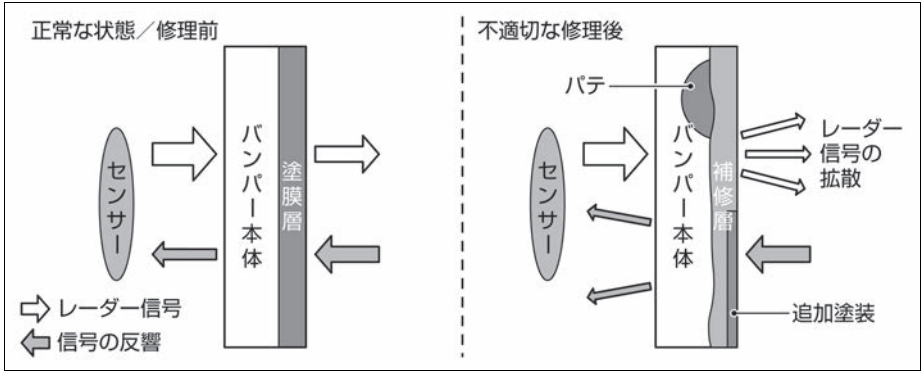
バンパーにはレーダーセンサーが内蔵されているため、修理には細心の注意が必要です。

■ レーダーセンサーの仕組み



レーダーセンサーからレーダー信号を発生させ、その信号の反響により障害物を検出します。

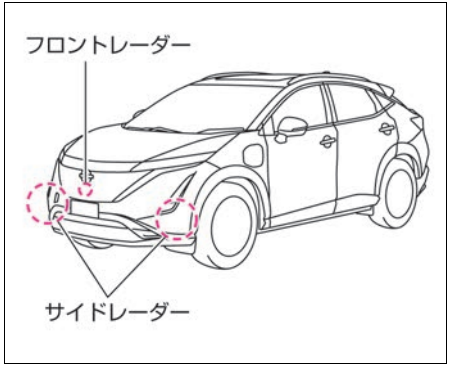
■ バンパーの修理

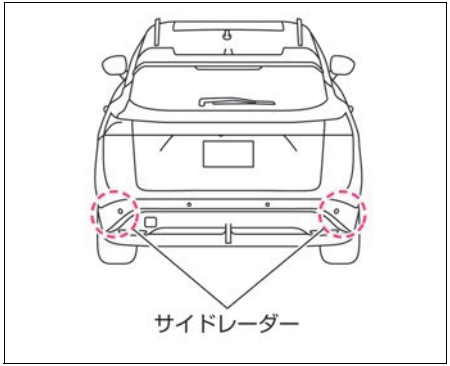


不適切なバンパー修理（異なる素材のパテ使用や追加塗装など）を行うと、レーダー信号が弱まったり、正しく発信できなかったりするため、障害物を正しく検出する事ができなくなります。

レーダーセンサーの取り扱い

システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

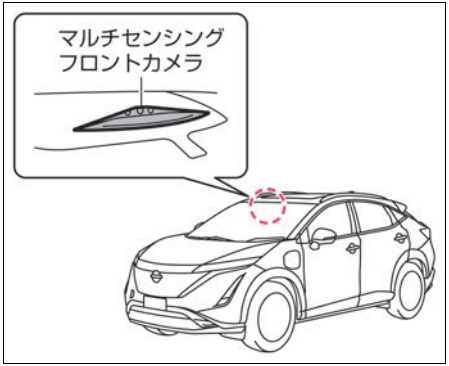




- レーダーセンサーの性能が発揮できない可能性があるため、以下は行わないでください。
  - レーダーセンサー周辺へのステッカー貼り付け、後付け部品の取り付け
  - お客さまの手による塗装、修理
  - フロントバンパー、リヤバンパーを改造、脱着
  - レーダーセンサー周辺の鳥糞、虫、泥などの付着の放置
  - 衝突などによるレーダーセンサー周辺の破損、傷つきの放置
- フロントバンパー、リヤバンパーを塗装、修理する場合は必ず日産販売会社にご相談ください。

マルチセンシングフロントカメラの取り扱い

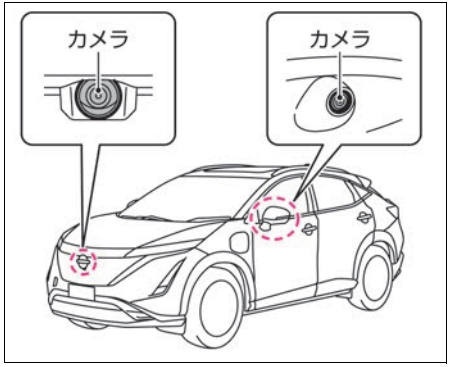
システムを正しく作動させるため、次のことをお守りください。



- カメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。
  中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- カメラ前方のフロントガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。
- インストルメントパネル上に鏡や白い紙などの光を反射しやすいものを置かないでください。太陽光が反射し、カメラの検知性能に影響が出るおそれがあります。
- カメラを取り外さないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでカメラ周辺部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。
- フロントガラスが汚れていたり、マルチセンシングフロントカメラの前が障害物でふさがれていたり、カメラが前方を撮像できないとき、アドバンスドドライブアシストディスプレイに［ヘッドランプ警告］の警告メッセージ（P.388）が表示されることがあります。カメラの前の障害物を取り除き、汚れを清掃してください。

フロントビュー／サイドビューカメラの取り扱い

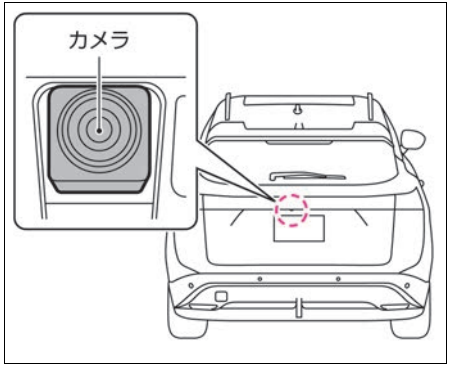
システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。



- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。
  アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふいてください。
- 衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。

リヤビューカメラの取り扱い

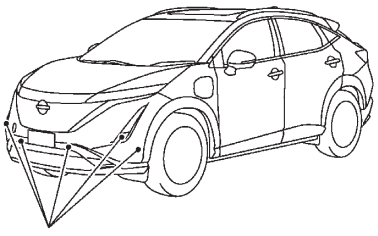
システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。



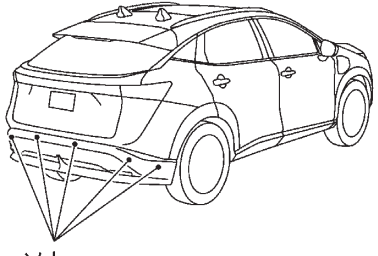
- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。
  アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふいてください。
- 光が反射するため、ナンバープレートにアクセサリーを取り付けないでください。
- 衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。

ソナーの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。



ソナー



ソナー

●ソナーはいつもきれいにしておいてください。
汚れているときは、柔らかい布で傷付けないように注意してふき取ってください。

●ソナーまたはその周辺に強い衝撃を与えないでください。またソナーの取り外し、分解などをしないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでソナーの取り付け部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。

●ソナーまたはその周辺にステッカー（透明なものを含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けないでください。故障、誤作動の原因になります。

内装のお手入れ

内装のお手入れについて

アドバイス

- 車室内に水をかけないでください。オーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶剤を使用しないでください。変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがあるため、確認してからご使用ください。
- オーディオやスイッチ類などの電装品、ブレーキペダル周りにシリコーン（シリコン）を含むケミカル用品（スプレー、グリース、オイルなど）を使用しないでください。電装品の故障につながるおそれがあります。
- 消臭剤・芳香剤、化粧品・日焼け止めなどは、容器からこぼしたりしないでください。また、吊り下げタイプの消臭剤・芳香剤などは、内装部品に接触しないようにしてください。含まれる成分によっては、内装部品に付着すると変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあるため、付着した場合は、すみやかに柔らかい布でふき取ってください。
- 塩素系（二酸化塩素や次亜塩素酸）の洗浄液を使用しないでください。塗装はがれやサビなどの原因となるおそれがあります。やむをえず洗浄（除菌）する場合は、エタノール75%以下をご使用ください。エタノールを乾いた布に含ませ、内装部品をふいてください。エタノールがなくなるまでふき取ってください。ふき残しがあると塗装はがれや色落ちなどの原因となるおそれがあります。エタノールは、引火性ですので、火気に注意してください。
- 内装部品を固いもので擦ったり引っかいたりしないでください。傷がつき、破損するおそれがあります。

カーペットの汚れ取り

●電気掃除機でほこりを取り除き、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。フロアカーペットを取り外したときは、敷き直すときにフロアカーペットがずれないように固定クリップで正しく確実に固定してください。
フロアカーペット (P.348)

布、ビニールレザーの汚れ取り

中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。さらに水に浸した布を固くしぼってふき取ります。汚れがひどいときは、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。

ナッパレザーシート★のお手入れ

●ナッパレザーシートのお手入れ用品（クリーナーなど）のご購入については、日産販売会社にご相談ください。

通常のお手入れ

●ガーゼなど柔らかい布でふきます。

水溶性の汚れを取るとき

●柔らかい布をぬるま湯に浸し、固くしぼってからふき取ります。次に乾いた柔らかい布でふきます。

油性の汚れを取るとき

① ぬるま湯に中性洗剤を溶かし（濃度2～3%）、柔らかい布に含ませ汚れを取ります。
② 真水に浸した布を固くしぼってふき取ります。
③ 乾いた柔らかい布でふき、風通しのよい日陰で乾燥させます。

アドバイス

- ナッパレザーシートは、直射日光により変色、変質することがあるため、日よけに心がけてください。
- ナッパレザーシートが水などで濡れたときは早めにふき取ってください。皮革が硬化、収縮する原因となります。

メーター表面やその他光沢のあるプラスチック部品の汚れ取り

アドバイス

- 乾いた布やウェットティッシュなどを使用しないでください。傷がついたり、変色したりする原因になります。
- ワックスやコーティング剤、油などが付着した布ではふかないでください。変色の原因になります。

●塵、ほこりを取り除き、柔らかい布を真水に浸して、固くしぼってから軽くふき取ります。
硬いブラシや布、ティッシュでこすると、傷がつくことがあります。

ガラスの汚れ取り

●バックドアガラスの内側を清掃するときは、熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で熱線にそって軽くふいてください。
●ガラスクリーナー、洗剤などは使用しないでください。
●ガラスの内側を清掃するときは、アンテナ線を切らないように、水を含ませた柔らかい布で軽くふいてください。

インテリジェント ルームミラーのお手入れ

●ミラーやカメラ部は常にきれいな状態にしておいてください。汚れなどが付いていると見えにくくなるおそれがあります。
●ミラーやカメラ部を清掃するときは、乾いた柔らかい布などでそっとふいてください。
●清掃するときはアルコール、ベンジン、シンナーなどの薬品でミラーやカメラ部をふかないでください。変色、劣化、故障の原因となります。汚れがひどいときは、まず濡れた柔らかい布でふいてから乾いた柔らかい布でふいてください。
●カメラ前面のバックドアガラスはいつもきれいにしておいてください。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた布でふき取ります。油膜が付いているときは、油膜取りを使用して清掃してください。
●カメラ前面のバックドアガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

サービスデータ

点検値

項目		点検値
ブレーキペダル※	床板とのすき間 走行可能表示灯［READY］が点灯時に約490N（50kg）で踏んだとき	95mm以上

※ブレーキが正常に作動しないときは、必ず日産販売会社で点検を受けてください。また、ブレーキペダルの高さの調節が必要なときも、日産販売会社にご相談ください。

交換油脂類

お車の性能を適正に保つため、弊社指定銘柄のご使用をおすすめします。
指定銘柄以外をお使いになる場合、指定銘柄に相当する品質のものをお使いください。
記載の規定量は目安です。実際の量とは異なることがあります。
交換時期についてはメンテナンスノートをお読みください。

減速機オイル

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	0.87	日産純正GEAR oil NFX 75W※

※： 必ず日産純正GEAR oil NFX 75Wを使用してください。日産純正GEAR oil NFX 75W以外のオイルを使用すると減速機が損傷するおそれがあります。

リヤファイナルドライブオイル

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
e-4ORCE（4WD）車	0.75	日産純正GEAR oil NFX 75W※

※： 必ず日産純正GEAR oil NFX 75Wを使用してください。日産純正GEAR oil NFX 75W以外のオイルを使用するとリヤファイナルドライブが損傷するおそれがあります。

ブレーキフルード

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	-	日産純正ブレーキフルードNo.2500（DOT3）

電動パワートレイン冷却水

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
2WD車	3.8※1	日産純正スーパーロングライフクーラント ※2
e-4ORCE（4WD）車	5.8※1	

※1：リザーバータンクのMAXレベル容量（0.7ℓ）を含みます。

※2： 走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水には、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。

リチウムイオンバッテリー冷却水

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	2.9※1	日産純正スーパーロングライフクーラント ※2

※1：リザーバータンクのMAXレベル容量（0.4ℓ）を含みます。

※2： 走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水には、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。

ウォッシャー液

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	2.0	日産純正ウインドウォッシャー液※

※：外気温に応じて濃度を調節してください。

車両仕様

6kW 普通充電器（車載用）／急速充電

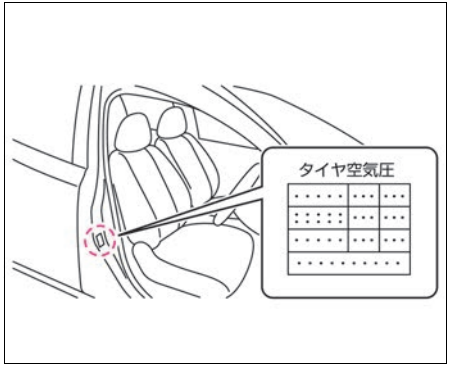
項目	内容
入力電圧	AC 100V ～ 200V
定格周波数	50Hz／60Hz
最大定格電流	30A（6kW普通充電器（車載用））
漏電遮断器の検知電流	建屋側のブレーカーや接続している充電ケーブルによって異なります。（日産純正品充電ケーブル：15mA）
EV充電モード／接続タイプ	Mode 2／Case B（普通充電、日産純正品充電ケーブルとの組み合わせ） Mode 3／Case B/C（3kW普通充電、6kW普通充電、公共充電スタンドなど） Mode 4／Case C（急速充電、V2H、V2L）
施工要求（短絡保護電流、保護機器の情報）	過電流、過電圧対策手段は、国内の法規、基準に従うことが必要です。家屋、ビルの配線に適切な過電流保護装置を必ず設置してください。
IP等級	IP44：充電中の充電ケーブル（コントロールボックス付）★と充電ポート結合部（日産純正品充電ケーブルとの組み合わせ）
動作温度	車両の動作温度
保管温度	車両の保管温度
適合規格	SAE J1772 / EN61851-1 / EN61000-6-1 / EN61851-21 / EN61000-6-3/ IEC61851-1/ IEC61851-21
アダプタ	充電ポート部にアダプタを使用しないでください。

外装ランプ

●次の外装ランプはすべてLEDです。
- 前照灯（ヘッドランプ）
- 前部霧灯（フォグランプ）
- 後部霧灯（リヤフォグランプ）★
- アクセントランプ
- イルミネーションエンブレム
- 車幅灯
- 番号灯
- 尾灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ
- 後退灯
- 方向指示器 兼 非常点滅表示灯

タイヤ・ロードホイールサイズ

タイヤサイズ	ロードホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D.	インセット
235/55R19 101V	19 × 7.5J	114.3mm（5穴）	40mm
255/45R20 101V	20 × 8J		45mm
255/45R20 105W XL	20 × 8.5J		42mm



タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してあるため、確認してください。

イベントデータレコーダ（EDR）

車両データの記録・蓄積について

●イベントデータレコーダは一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声は記録しません。
●氏名、性別、年齢などの個人情報は記録しません。

この車両に装備されている次のシステムの各コンピューターはイベントデータレコーダ機能を備えています。

次のシステムの各コンピューターは正常に作動しているかどうかを常に診断し、イベントデータレコーダで車両が衝突したときなどの車両データを記録・蓄積しています。

■ SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムが作動したとき、もしくは一定以上の衝突が発生した場合に次の車両データを記録・蓄積します。
●エアバッグシステムの作動に関する情報
●エアバッグシステムの故障診断情報
●アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
●車速などの車両情報

■ プロパイロット（ナビリンク機能付）システム★

プロパイロット（ナビリンク機能付）は下記車両データを記録・蓄積します。
●アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
●先行車やレーンマーカーなどの検知状況

- 車速などの車両情報
- プロパイロット（ナビリンク機能付）の作動に関する情報
- プロパイロット（ナビリンク機能付）の故障診断情報
- マルチセンシングフロントカメラの画像情報（SRSエアバッグ、インテリジェント エマージェンシーブレーキ作動時）

■ プロパイロット2.0システム★

プロパイロット2.0システムは車両データを記録・蓄積します。

➔車両データの記録・蓄積について（プロパイロット2.0付車） (P.260)

データの扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、イベントデータレコーダに記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することがあります。

なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

車両状態記録機能

車両状態の記録・蓄積について

車両状態記録機能は、次の車両データを記録・蓄積します。

- 車輪速などの車両走行情報

車両状態記録機能

- 車両状態記録機能は一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

車両状態記録機能は品質維持を目的として、車両の運行状態を記録・蓄積します。

車両状態記録機能から得られたデータを元に的確なサービスを提供することができます。

データの取り扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、車両状態記録機能に記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することがあります。

なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

1

12V系充電警告灯 P.81, P.82
12Vバッテリー P.436

3

3kW普通充電 P.39
3点式シートベルト P.54

A

A/C（エアコン）
　エアコンスイッチ P.167
　エアコンを使うときに注意すること P.177
　オートエアコン P.167
　設定 P.175
　タイマーエアコン P.179
　乗る前エアコン P.21
　吹き出し口 P.173, P.174
　プラズマクラスター技術搭載
　オートエアコン P.170
ABS
　ABS P.206
　ABS警告灯 P.81, P.82

B

BSW（後側方車両検知警報） P.275

E

e-4ORCE（4WD）
　e-4ORCE（4WD）車の扱いかた P.206
e-Pedal Step P.204
ECOモード P.205
EDR（イベントデータレコーダ） P.449
ELR（緊急固定）付シートベルト P.54
EPS（電動パワーステアリング）
警告灯 P.81, P.82
ETC N
EVシステム警告灯 P.81, P.82
EVシステムを始動できないときは P.366

I

i-Sizeチャイルドシート対応ISO FIXロア
アンカレッジ P.69

L

LDW（車線逸脱警報） P.283

N

NISMOエンブレム
　お手入れ P.439
NISMOモード P.205

R

RCTA（後退時車両検知警報） P.290

S

SNOWモード P.205
SOSコール P.339
SPORTモード P.205
SRSエアバッグ P.57
SRSエアバッグ警告灯 P.81, P.82
STANDARDモード P.205

U

USB電源ソケット P.346

V

V2H給電 P.38
V2H充電 P.38
V2L給電 P.39
VDC
　VDC P.207
　VDC OFF表示灯 P.83, P.84
　VDC警告灯 P.81, P.82

ア

アウターミラー（ドアミラー） P.160
アクセントランプ
　点灯しないとき P.417
アクティブ・サウンド・コントロール P.353
アシストグリップ P.350
アダプティブLEDヘッドライトシステム
　アダプティブLEDヘッドライト
　システム P.196
　アダプティブLEDヘッドライト
　表示灯 P.83, P.84
アドバンスド アンビエント
ライティング P.335

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。
N「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

索引

アドバンスドドライブアシストディスプレイ
　アドバンスドドライブアシストディスプレイ P.87
　アドバンスドドライブアシストディスプレイ（ショートカットメニュー） P.100
　各種設定画面 P.105
　警告メッセージ P.385
　車両情報画面 P.88
　ステアリングスイッチ P.87, P.100
　その他の表示機能 P.121
アラーム（インテリジェントキー） P.414
アルミホイールのお手入れ P.440
アンサーバック機能 P.133
安全にご利用いただくために P.15
行燈照明 P.335

イ

移動物 検知機能 P.105, P.305
イベントデータレコーダ（EDR） P.449
イモビライザー（盗難防止装置） P.71
イルミネーションエンブレム
　イルミネーションエンブレム P.194
　点灯しないとき P.417
イルミネーションコントロール P.129
インジケーター（表示灯） P.83, P.84
インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム） P.275
インテリジェント DA（ふらつき警報） P.293
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） P.287
インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） P.283
インテリジェント アラウンドビューモニター
　インテリジェント アラウンドビューモニター P.301
　インテリジェント アラウンドビューモニターに関する注意事項 P.308
インテリジェント エマージェンシーブレーキ
　インテリジェント エマージェンシーブレーキ P.264
　インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯 P.81, P.82
インテリジェント オートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付） P.195
インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム） P.209
インテリジェント ルームミラー P.157
インテリジェントキー
　インテリジェントキーが正常に作動しないとき P.365
　機能・使いかた P.132
　電池交換のしかた P.434
　ドアの施錠・解錠の作動範囲 P.133

ウ

ウィンカー（方向指示器） P.198
ウインドーガラス（パワーウインドー） P.162
ウォーニング（警告灯） P.81, P.82
ウォッシャー
　ウォッシャー液の補給 P.426
　ウォッシャースイッチ P.202
ウォッシャー液（規定量） P.447
ウォッシャーの噴霧状態点検 ..... M
動けなくなったときは P.356
運転するときに注意すること P.51
運転する前に P.50
運転席スイッチ（バックドア） P.142
運転前の準備 P.50

エ

エアコン
　エアコンスイッチ P.167
　エアコンを使うときに注意すること P.177
　オートエアコン P.167
　設定 P.175
　タイマーエアコン P.179
　乗る前エアコン P.21
　吹き出し口 P.173, P.174
　プラズマクラスター技術搭載オートエアコン P.170
エアバッグ
　SRSエアバッグ P.57
　SRSエアバッグ（前席） P.59
　SRSエアバッグ警告灯 P.81, P.82
　SRSカーテンエアバッグ P.62
　SRSサイドエアバッグ（前席） P.61
エコドライブレポート P.122
エマージェンシーストップシグナル P.206

オ

応急修理する前に P.361
オーディオ ..... N
オートACC機能 P.185
オートエアコンシステム P.167
オートクロージャー P.144
オートバックドア P.141
オートブレーキホールド
　オートブレーキホールド P.189
　オートブレーキホールド表示灯 P.83, P.84
オートレベライザー P.194
オートロック機能 P.133, P.138
オーバーヘッドコンソール P.338
お子さまの安全のために P.63
お子さまを乗せるときに注意すること P.63
オドメーター（積算距離計） P.76

音声操作表示 P.123

カ

カーアラーム P.71
回生ブレーキ P.14
外装のお手入れ P.438
外装ランプが点灯しないときは P.417
カギ（インテリジェントキー） P.132
各種設定画面 P.105
カップホルダー
　後席用カップホルダー P.337
　前席用カップホルダー P.337
カメラ
　フロントビュー／サイドビュー
　カメラ P.443
　マルチセンシングフロントカメラ P.442
　リヤビューカメラ P.443
ガラスのお手入れ（バックドアガラス） P.445
ガラスルーフ P.164
ガレージモード
　解除 P.145
　設定 P.145
ガレージモード P.145
寒冷時の取り扱い P.427

キ

キー
　インテリジェントキー P.132
　インテリジェントキーに関する注意事項 P.135
　インテリジェントキーの電池交換 P.434
　メカニカルキー P.132
キースイッチ（パワースイッチ） P.184
キー連動室内照明システム P.133
急速充電 P.37

ク

空気圧（タイヤ） P.428, P.449
くもり取り
　デフロスタースイッチ P.415
　リヤウインドーデフォッガースイッチ P.415
クラクション（ホーン） P.156
クリアランスランプ（車幅灯）
　スイッチ P.194
　点灯しないとき P.417
車のお手入れ P.438
グローブボックス P.336

ケ

警告灯 P.81, P.82
警告灯がついたときは P.373
警告メッセージ P.385
警告メッセージが表示されたときは P.385
警報ブザー音別一覧表（インテリジェントキー） P.414
けん引について P.357
減速機オイル（規定量） P.446

コ

交換油脂類 P.446
工具 P.421
後席シート P.153
航続可能距離表示 P.78
航続距離を延ばすためのポイント P.18
後退灯
　点灯しないとき P.417
高電圧部品について P.15
後部霧灯（リヤフォグランプ）
　スイッチ P.199
　点灯しないとき P.417
　リヤフォグランプ表示灯 P.83, P.84
コートハンガー P.350
故障したときは P.356
コンソールボックス
　電動センターコンソールボックス P.336

サ

サービスデータ P.446
最高速度標識検知 P.79
サイドミラー（ドアミラー） P.160
サイドレーダー P.442
サンシェード P.164
サンバイザー P.349
サンルーフ（パノラミックガラスルーフ） P.164

シ

シート
　お手入れ P.445
　後席シート P.153
　前席シート P.150
　前席ベンチレーションシート P.345
　チャイルドシート P.64
　パーソナルドライビングポジションメモリーシステム P.151
　ヒーターシート P.343
　フロントシート P.150
シートベルト
　シートベルトガイド（後席） P.55
　シートベルト警告灯 P.81, P.82
　シートベルトの着用のしかた P.54

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。
N「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

シートベルトの注意事項 P.55
事故が起きたときは P.16
室内灯 P.334
始動しない P.366
始動のしかた P.184
シフトレバー（セレクトレバー） P.187
シャシー制御 P.209
ジャッキ
ジャッキ P.421
ジャッキアップのしかた P.423
車幅灯
スイッチ P.194
点灯しないとき P.417
車両型式 S
車両重量 S
車両仕様 P.448
車両状態記録機能 P.450
車両情報画面 P.88
車両情報ディスプレイの見かた
タイマー設定状態確認画面 P.120
車両寸法 S
車両接近通報装置
車両接近通報システム警告灯 P.81, P.82
車両接近通報装置 P.14, P.210
ジャンプスタートのしかた P.368
充電
V2H充電 P.38
急速充電 P.37
充電インジケーター P.33
充電ができない P.46
充電ケーブル P.26
充電コネクタロック P.32
充電コネクタロックが解除できないときは P.366
充電に関する装備 P.25
充電に関する注意事項 P.22
充電ポート P.30
充電量の確認 P.33
普通充電 P.37, P.39
充電警告灯 P.81, P.82
充電ケーブル P.26
充電情報表示画面 P.120
収納装備 P.336
出力制限表示灯 P.81, P.82
出力制限表示灯が点灯したときは P.371
乗車定員 S
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項 P.52

ス

スイッチの操作
ODO TRIPスイッチ P.76
SOSコールスイッチ P.339
イルミネーションコントロールスイッチ P.129
ウォッシャースイッチ P.202
運転席スイッチ（バックドア） P.142
エアコンスイッチ P.167
オートブレーキホールドスイッチ P.189
ガラスルーフスイッチ P.164
後席ヒーターシートスイッチ P.344
ステアリングスイッチ（アドバンスドドライブアシストディスプレイ） P.87, P.100
前席ヒーターシートスイッチ P.343
前席ベンチレーションシートスイッチ P.345
即充電スイッチ P.30
デフロスタースイッチ P.415
電動パーキングブレーキスイッチ P.188
ドアミラースイッチ P.160
ドアロックスイッチ P.139
ドライブモードセレクター P.205
バックドアインナースイッチ P.144
バックドアオープナースイッチ P.143
バックドアスイッチ P.138
パワーウインドースイッチ P.162
パワーウインドーロックスイッチ P.162
パワースイッチ P.184
非常点滅表示灯スイッチ P.10
フォグランプスイッチ P.199
ヘッドアップディスプレイスイッチ P.127
ヘッドランプスイッチ P.194
方向指示器スイッチ P.198
ライトスイッチ P.194
リヤウインドーデフォッガースイッチ P.415
リヤフォグランプスイッチ P.199
ワイパースイッチ P.200
水没したときは P.416
ステアリング（ハンドル） P.155
ステアリングスイッチ
アドバンスドドライブアシストディスプレイ P.87, P.100
オーディオ N
音声操作 N
ショートカットメニュー P.100
ハンズフリーフォン N
プロパイロット P.224
ボイスアシスタント N
ステアリングヒーター P.342
スピードメーター（速度計） P.76
スペアタイヤ
パンクしたときは P.361
スマートフォンで利用できる機能 P.20
スモールランプ（車幅灯）
スイッチ P.194
点灯しないとき P.417

セ

制動灯
　点灯しないとき P.417
設定（メーター） P.105
セレクトレバー P.187
センサー（ハンズフリーセンサー） P.143
洗車のしかた P.438
前照灯（ヘッドランプ）
　スイッチ P.194
　点灯しないとき P.417
先進事故自動通報システム P.339
前席シート P.150
前席ベンチレーションシート P.345
センターボックス P.336
前部霧灯（フォグランプ）
　スイッチ P.199
　点灯しないとき P.417
　フォグランプ表示灯 P.83, P.84

ソ

走行 P.192
走行可能表示灯 P.83
走行支援機能画面 P.124
走行支援システム表示 P.126
走行時間アラーム（アドバンスドドライブ
アシストディスプレイ内の設定） P.105
即充電 P.39
即充電スイッチ P.30
速度計（スピードメーター） P.76
ソナー P.121
　ソナー設定（アドバンスドドライブ
　アシストディスプレイ内の設定） P.105
　ソナーの取り扱い P.443

タ

タイマーエアコン P.179
タイマーエアコンに関する注意事項 P.180
タイマー機能 P.20
タイマー充電 P.43
タイマー設定状態確認画面 P.120
タイヤ
　アルミホイールのお手入れ P.440
　応急修理のしかた P.361
　タイヤ・ホイールを交換するとき P.429
　タイヤ・ロードホイールサイズ P.449
　タイヤ応急修理キット P.361
　タイヤ空気圧警告灯 P.81, P.82
　タイヤ空気圧警報システム P.430
　タイヤチェーンについて P.433
　タイヤの位置交換
　（ローテーション） P.430
　タイヤの空気圧 P.428, P.449
　タイヤの点検項目 P.428
　パンク P.361
　冬用タイヤについて P.433
正しい運転姿勢について P.50
ダブルプリテンショナー機構 P.54

チ

チケットホルダー P.350
チャージランプ（12V系充電
警告灯） P.81, P.82
チャイルドシート P.64
チャイルドシート適合表 P.66
チャイルドセーフティドアロック P.140
着信表示 P.122
駐車支援システム P.301
駐車のしかた P.193
チルト・テレスコピックステアリング P.156
チルトアップ P.164

ツ

通話表示 P.122

テ

定期点検 ..... M
停止のしかた P.184
停車のしかた P.193
低速加速抑制機能 P.270
低速衝突軽減ブレーキ機能 P.271
テールランプ（尾灯）
　スイッチ P.194
　点灯しないとき P.417
テールランプ表示灯 P.83, P.84
手放し警告灯 P.81, P.82
デフロスタースイッチ P.415
電気自動車（EV）が事故にあったときの
注意事項 P.16
電気自動車（EV）ってどんな車？ P.14
電気自動車（EV）の取り扱いに関する
注意事項 P.16
電気自動車と上手に付き合うために P.18
電気自動車の特徴 P.14
点検整備について P.420
電源ソケット P.345
点検値 P.446
電制シフト警告灯 P.81, P.82
電池交換のしかた
（インテリジェントキー） P.434
電動格納式ドアミラー P.160
電動パーキングブレーキ
　電動パーキングブレーキ P.188

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。
N「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

電動パーキングブレーキ警告灯 P.81, P.82
電動パーキングブレーキ注意事項 P.189
電動パワートレイン冷却水（規定量） P.447
電費情報表示 P.89

ト

ドア
ドアが開かないときは P.365
ドアスイッチ P.138
ドアを室内から開けられないとき（チャイルドセーフティドアロック） P.140
バックドアスイッチ P.138
フロントドア P.138
リモコンオートバックドア P.141
ドアミラー P.160
ドアミラーヒーター P.161
ドアロックスイッチ P.139
灯火装置（ランプ）の点灯、点滅具合、汚れ、損傷点検 M
盗難防止装置
イモビライザー P.71
カーアラーム P.71
時計 P.76
トノカバー P.352
ドライバーモニターシステム P.298
ドライビングポジションメモリーシステム P.151
ドライブコンピュータ P.89
ドライブモードインジケーター P.79
ドライブモードセレクター
ドライブモードインジケーター P.79
ドライブモードセレクター P.205
トラブルがおきたときは
12Vバッテリーがあがったときは P.367
インテリジェントキーで始動できないときは P.366
外装ランプが点灯しないときは P.417
警告灯がついたときは P.373
警告メッセージが表示されたときは P.385
けん引について P.357
故障したときは P.356
充電コネクタロックが解除できないときは P.366
出力制限表示灯が点灯したときは P.371
水没したときは P.416
ドアが開かないときは P.365
発炎筒 P.357
パンクしたときは P.361
ヒューズが切れたときは P.417
ブザー（警報音）が鳴ったときは P.414
窓ガラスがくもったときは P.415
雪道やぬかるみにはまったときは P.416
トリップメーター（区間距離計） P.76

ナ

内装のお手入れ P.444
ナッパレザーシート P.445
ナビゲーションシステム N
ナンバー灯（番号灯）
スイッチ P.194
点灯しないとき P.417

ニ

日常点検 M

ノ

乗る前エアコン P.21

ハ

パーキングブレーキ
電動パーキングブレーキ P.188
パーソナルアシスタント機能（ユーザー情報） N
パーソナルディスプレイ P.80
パーソナルドライビングポジションメモリーシステム P.151
ハイマウントストップランプ
点灯しないとき P.417
ハザードスイッチ（非常点滅表示灯） P.10
挟み込み防止機構
パノラミックガラスルーフ P.165
パワーウインドー P.163
発炎筒 P.357
バックドア
オートクロージャー P.144
ガレージモードの解除 P.145
ガレージモードの設定 P.145
正常に作動しないとき P.146
バックドアインナースイッチ P.144
バックドアオープナースイッチ P.143
ハンズフリーセンサー P.143
バックドアガラスのくもりの取りかた P.415
発進 P.191
バッテリー
バッテリー液量の点検・補給 M
バッテリーがあがったときは P.367
バッテリー残量警告灯 P.81, P.82
バッテリーセーバー
ヘッドランプ P.194
マップランプ P.334
バッテリーを長持ちさせるためのポイント P.18
パノラミックガラスルーフ
ガラスルーフの開閉 P.164
サンシェード P.164
チルトアップ P.164
パワーウインドー P.162
パワーウインドーが正常に作動しないとき P.163

索引

パワースイッチ P.184
パワースイッチでのモードの切り替えかた P.185
パンクしたときは P.361
番号灯
スイッチ P.194
点灯しないとき P.417
ハンズフリーセンサー P.143
ハンドル P.155

ヒ

ヒーターシート P.343
ヒーター付ドアミラー P.161
非常停止のしかた P.185
非常点滅表示灯
スイッチ P.10
点灯しないとき P.417
尾灯
スイッチ P.194
点灯しないとき P.417
ヒューズ P.417
ヒューズが切れたときは P.417
標識検知機能
標識検知機能 P.294
表示灯 P.83, P.84
表示灯がついたときは P.85
ヒルスタートアシスト P.209, P.210

フ

ブースターケーブルのつなぎかた P.367
フード（ボンネット） P.425
フードステッカー
お手入れ P.439
フォグランプ
スイッチ P.199
点灯しないとき P.417
フォグランプ表示灯 P.83, P.84
吹き出し口 P.173, P.174
ブザー（警報音）が鳴ったときは P.414
普通充電 P.37, P.39
踏み間違い衝突防止アシスト
低速加速抑制機能 P.270
低速衝突軽減ブレーキ機能 P.271
踏み間違い衝突防止アシスト P.269
踏み間違い衝突防止アシスト警告灯 P.81, P.82
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.433
プラグイン表示灯 P.83, P.84
プラズマクラスター技術搭載オートエアコン P.170
ブレーキ（回生ブレーキ） P.14
ブレーキ液量の点検・補給 ..... M
ブレーキ警告灯（赤色） P.81, P.82
ブレーキシステム警告灯（黄色） P.81, P.82
ブレーキの効き点検 ..... M
ブレーキフルード（規定量） P.446
ブレーキペダルの踏みしろ ..... M
フレキシブルラゲッジ P.351
フロアカーペット P.348
プロパイロット パーキング P.313
プロパイロット リモート パーキング P.326
プロパイロット（ナビリンク機能付）
プロパイロット（ナビリンク機能付） P.217
プロパイロット2.0
3D高精度地図データ P.259
追い越し支援機能 P.247
車線変更支援機能 P.244
プロパイロット2.0 ..... P.217
プロパイロット2.0表示 P.126
ヘッドアップディスプレイ P.124
ルート走行支援機能 P.252
フロントガラスのくもりの取りかた P.415
フロントドア P.138

ヘ

ヘッドアップディスプレイ
ON・OFFのしかた P.127
警告メッセージ P.126
車速表示 P.124
走行支援システム表示 P.126
速度標識表示 P.125
ナビゲーションシステム表示 P.125
プロパイロット2.0 ..... P.126
ヘッドアップディスプレイスイッチ P.127
ヘッドアップディスプレイとは P.124
ヘッドアップディスプレイの注意事項 P.126
ヘッドアップディスプレイの調整のしかた P.128
メッセージ表示 P.125
ヘッドランプ
自動点灯ランプの消灯のしかた（車両停車時） P.195
スイッチ P.194
点灯しないとき P.417
ヘッドランプ上向き表示灯 P.83, P.84
ヘッドランプ下向き表示灯 P.83, P.84
ヘッドランプの点灯、点滅具合、汚れ、損傷点検 ..... M
ヘッドレスト
後席シート P.155
前席シート P.152

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。
N「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

フロントシート P.152
便利なサポート機能 P.20
便利な充電方法 P.43

ホ

ホイールサイズ P.449
ホイールナットレンチ P.421
方向指示器
スイッチ P.198
点灯しないとき P.417
方向指示表示灯 P.83, P.84
方向指示器の点灯、点滅具合、汚れ、損傷点検 ..... M
防犯装置
イモビライザー P.71
カーアラーム P.71
ホーム
ホーム P.88
ホーンの鳴らしかた P.156
ポジションインジケーター P.78
ポジションランプ（車幅灯）
スイッチ P.194
点灯しないとき P.417
ボトルホルダー P.337
ボンネット P.425

マ

マスターウォーニング P.81, P.82
マップランプ
キー連動室内照明システム P.334
マップランプ P.334
窓ガラスがくもったときは P.415
マルチセンシングフロントカメラ P.442

ミ

ミラー
インテリジェント ルームミラー P.157
ドアミラー P.160
ミラーステッカー
お手入れ P.439

メ

メーター
アドバンスドドライブアシストディスプレイ P.87
アドバンスドドライブアシストディスプレイ（ショートカットメニュー） P.100
オドメーター（積算距離計） P.76
各種設定画面 P.105
各部名称 P.74, P.75
警告灯 P.81, P.82
警告メッセージ P.385
航続可能距離表示 P.78
車両情報画面 P.88
スピードメーター（速度計） P.76
タイマー設定状態確認画面 P.120
時計 P.76
トリップメーター（区間距離計） P.76
表示灯 P.83, P.84
ヘッドアップディスプレイ P.124
メーターの明るさの調節のしかた P.129
リチウムイオンバッテリー残量計 P.77
メンテナンス設定（アドバンスドドライブアシストディスプレイ内の設定） P.105
メンテナンスデータ（サービスデータ） P.446

モ

モーター P.14
モータールーム P.425

ユ

雪道の走行のしかた P.428
雪道やぬかるみにはまったときは P.416

ラ

ライトスイッチ P.194
ラゲッジアンダーボックス P.350
ラゲッジフック P.352
ランプ（室内灯）
マップランプ P.334
ランプ消し忘れ警報 P.194

リ

リチウムイオンバッテリー
リチウムイオンバッテリー P.14
リチウムイオンバッテリークーラー P.35
リチウムイオンバッテリー残量計 P.77
リチウムイオンバッテリーヒーター P.35
リチウムイオンバッテリー冷却水（規定量） P.447
リモート充電 P.21
リモコンオートバックドア P.141
リヤウインドーデフォッガースイッチ P.415
リヤシート P.153
リヤセンターアームレスト P.155
リヤビューカメラ P.443
リヤファイナルドライブオイル（規定量） P.446
リヤフォグランプ
スイッチ P.199
点灯しないとき P.417
リヤフォグランプ表示灯 P.83, P.84
リヤワイパースイッチ P.201

レ

冷却水
寒冷時の取り扱い P.427
冷却水量の点検・補給 ..... M
レーダーセンサー P.442
レバー（セレクトレバー） P.187

ロ

ロードホイール
お手入れ P.440
交換 P.429
サイズ P.449
路上で故障したときは P.356
ロックノブ P.140

ワ

ワイパー
ワイパー・ウォッシャースイッチ P.200
ワイパーゴムの交換 P.434
ワイパーブレードの交換 P.433
ワイヤレス充電器 P.347
ワックスをかけるときは P.439

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。
N「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

MEMO

メーター内に警告灯や警告メッセージが表示されたときは、すみやかに適切に対処する必要があります。詳しくは、警告灯（➔P.373）、警告メッセージ（➔P.385）をお読みください。表示灯については、表示灯（➔P.85）をお読みください。



警告灯 例

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。警告灯が点灯または点滅したときは警告灯（➔P.373）に記載されている「説明・対処方法」に従ってください。



警告メッセージ 例

警告メッセージが表示されたときは、警告メッセージ（➔P.385）に記載されている「説明・対処方法」に従ってください。



表示灯 例

表示灯は、何らかのシステムが作動していることなどをお知らせするものです。点灯している理由は、表示灯（➔P.85）をお読みください。

MEMO

MEMO

MEMO